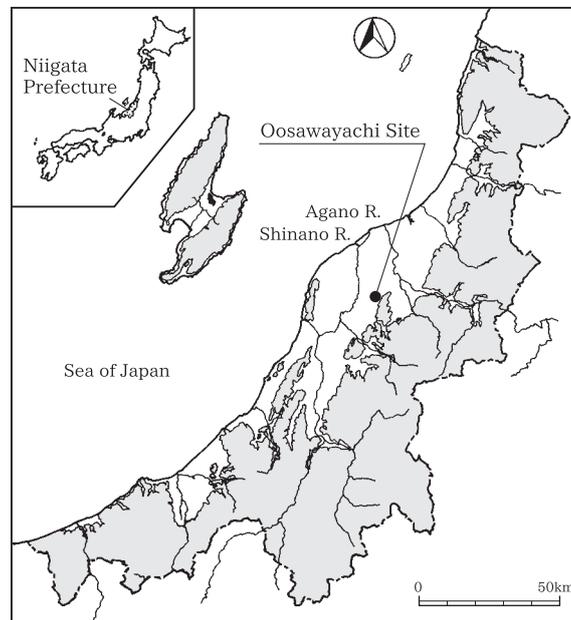


お お さ わ や ち  
大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査

— 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査 —



2015

新潟市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区横川浜 16 番地 1 号ほかに所在する大沢谷内遺跡の発掘調査報告書である。書名は、既刊の発掘調査報告書（川上 1989『大沢谷内遺跡発掘調査報告書』、細野・伊比ほか 2012『大沢谷内遺跡Ⅱ 第 7・9・11・12・14 次調査』、前山ほか 2012『大沢谷内遺跡Ⅲ 第 18 次調査』）に続く 4 冊目の報告書であるため、『大沢谷内遺跡Ⅳ 第 19・20・21 次調査』とした。
- 2 調査は一般国道 403 号小須戸田上バイパス（以下、「小須戸バイパス」）整備工事に伴い、新潟市教育委員会（以下、「市教委」）が調査主体となり、新潟市文化財センター（以下、「市文化財センター」）が補助執行した。
- 3 本書で報告する発掘調査は、第 19 次調査（平成 23 年度 8・9 区）、第 20 次調査（平成 24 年度 9 区）、第 21 次調査（平成 25 年度 8 区）である。
- 4 基礎整理作業は各調査年度ごとに行ったが、本書に係る本格的な整理作業は平成 25・26 年度に行った。発掘調査・整理作業の体制については第三章に記した。
- 5 出土遺物及び発掘・整理作業に係る記録類は、市文化財センターで収蔵・保管している。
- 6 本書の執筆・編集は相田泰臣・金田拓也・八藤後智人（市文化財センター）が行った。図版レイアウトは相田・金田が行った。執筆は、第二章、第五章第 1 節 A・B・D、第 2 節、第 3 節を八藤後が、第一章、第四章第 3 節 B、第五章第 1 節 C、第 4・5・6 節、第七章第 2 節 B を金田が、第四章第 3 節 C を相田・金田が、それ以外を相田が行った。
- 7 自然科学分析（第六章第 1～8 節）は焔火山灰考古学研究所に執筆を含めて委託した。文責は第 8 節が林 成多氏・早田 勉氏で、それ以外が早田 勉氏である。
- 8 骨の分析及び執筆を奈良貴史氏（新潟医療福祉大学）・澤田純明氏（聖マリアンナ医科大学）に依頼し、玉稿を賜った（第六章第 9 節）。
- 9 調査における遺構図面は㈱イビソクに委託して作成した。
- 10 遺跡写真は第 19・20 次調査は潮田憲幸・八藤後・牧野耕作（市文化財センター）、秋山泰利（㈱ノガミ）が、第 21 次調査は相田・金田、佐藤 俊（㈱ノガミ）が撮影した。空中写真撮影は㈱イビソクに委託した。
- 11 遺物写真撮影は、佐藤 俊、松永由佳氏（㈱マックス）が行った。
- 12 遺物実測図のデジタルトレース、各種図版の作成・編集に関しては㈱不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 13 耕作関連遺構について、鈴木俊成氏（（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団）、斎野裕彦氏・平間亮輔氏（仙台市教育委員会）から指導・教示を受けた。
- 14 土器については、春日真実氏（（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団）、笹澤正史氏（㈱吉田建設）、水澤幸一氏（胎内市教育委員会）、相澤裕子（市文化財センター）、墨書土器については相澤 央氏（帝京大学）、灰釉・緑釉陶器については井上喜久男氏（愛知県陶磁美術館）、北野博司氏（東北芸術工科大学）、石器・石製品については高澤栄一氏（新潟大学）、前山精明（市文化財センター）、金属製品については五十川伸矢氏（京都橘大学）、穴澤義功氏（たたら研究会）から指導・教示を受けた。
- 15 本書で報告する大沢谷内遺跡 8・9 区の調査成果の一部については、これまで現地説明会や『平成 23 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔市文化財センター 2012〕、『平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔市文化財センター 2013〕、『平成 25 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』〔市文化財センター 2014〕で公表されているが、本報告書と齟齬がある場合は、本書の記載内容をもって正とする。
- 16 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・諸機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

（所属・敬称略、五十音順）

相澤 央・穴澤義功・五十川伸矢・井上喜久男・岡村道雄・春日真実・北野博司・斎野裕彦・笹澤正史・澤田純明・鈴木俊成・高澤栄一・奈良貴史・橋本博文・平間亮輔・水澤幸一・三ツ井朋子  
アスファルト研究会・石油の世界館友の会・仙台市教育委員会・新津郷土地改良区・横川浜自治会

## 凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載した図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては、原図の製作者・製作年を示した。
- 3 第19～21次調査の測量は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震を起因とした地殻変動による測地成果改定後であるが、震災以前の測量成果との関連を持たせるため、震災前の測量座標で行った。本書掲載図も全て震災前の測量座標データによる。
- 4 引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構番号は発掘調査の際に付したものをを用いた。遺構番号は調査区（8区・9区）ごとに通し番号を付けている。
- 6 遺構図版は8区→9区の順に掲載した。
- 7 ピットについては、掘立柱建物を構成するもの及び遺構断面図・遺物実測図掲載のピットについてのみ、図面に遺構番号を示すとともに、観察表に掲載した。
- 8 遺構断面図において、土器は「P」、石・石器は「S」、木は「W」のアルファベットで示した。また、自然科学分析を行った土壌サンプル地点を「■」で示し、分析試料番号を表示した。
- 9 土層観察の色調は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局1967）2005年度版を用いた。
- 10 遺物図版は8区出土遺物→9区出土遺物の順とし、各調査区で種別ごとに掲載した。
- 11 遺物番号は、調査区・種別を問わず通し番号とした。
- 12 遺物図版において、包含層（Ⅲ層）及び排土出土遺物については遺構外出土遺物として掲載した。また、9区の耕作関連遺構B類の耕作土出土遺物についても遺構外出土遺物として掲載し、「耕作土」として表示した。
- 13 土器実測図において、おおむね全周の1/12以下の遺存率の低いものについては、中軸線の両側に空白を作って区別した。
- 14 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。
- 15 遺物図版で用いるスクリーントーンは、特に記載のある場合を除き以下のとおりとする。

土器	 黒色処理	 アスファルト			
石器・石製品	 タール状付着物	 磨面			
金属製品	 錆				
木製品	 赤漆	 黒漆	 アスファルト	 炭化	 木釘
- 16 遺構観察表中における（ ）付の数値は推定値を意味する。
- 17 遺構平面図で切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深く復元可能な場合は破線で示した。
- 18 遺構観察表において、切り合い関係にある遺構については、「AがBを切る」「BがAに切られる」のように表示した。この場合はAが新しく、Bが古い。
- 19 遺物観察表には別途凡例を付した。
- 20 本遺跡は上層（飛鳥時代～中世）と下層（縄文時代晩期中葉）からなるが、本書で報告する8・9区において下層は確認されなかった。よって、8・9区の本発掘調査は上層に限定される。文中で特にことわりの無い場合は上層についての記述である。

# 目 次

第I章 序 章 .....	1
第1節 遺跡概観 .....	1
第2節 発掘調査に至る経緯 .....	2
第II章 遺跡の位置と環境 .....	4
第1節 遺跡の位置と地理的環境 .....	4
第2節 周辺の遺跡 .....	7
第3節 歴史的環境 .....	11
第III章 調査の概要 .....	13
第1節 確認調査(第5・8次調査) .....	13
第2節 本発掘調査 .....	13
A 調査方法 .....	13
B 調査経過 .....	16
C 調査体制 .....	17
第3節 整理作業 .....	17
A 整理方法 .....	17
B 整理経過 .....	18
C 整理体制 .....	18
第IV章 遺 跡 .....	19
第1節 概 要 .....	19
第2節 層序と微地形 .....	19
A 層 序 .....	19
B 微 地 形 .....	20
第3節 遺 構 .....	21
A 遺構の概要 .....	21
B 8区の遺構(図版4～52) .....	22
C 9区の遺構(図版53～136) .....	42
第V章 遺 物 .....	67
第1節 土器・陶磁器 .....	67
A 古代の土器 .....	70
B 中世の土器・陶磁器 .....	75
C 8 区 .....	77
D 9 区 .....	86
第2節 土 製 品 .....	95
A 8 区 .....	95
B 9 区 .....	96

第3節	鍛冶関連遺物	96
A 8	区	96
B 9	区	96
第4節	石器・石製品	97
A 8	区	97
B 9	区	98
第5節	銭貨・金属製品	99
A 8	区	99
B 9	区	99
第6節	木製品	100
A 8	区	100
B 9	区	105
C	自然遺物	108
第7節	骨角製品	109
A 8	区	109
B 9	区	109
第8節	アスファルト塊	109
第VI章 自然科学分析		113
第1節	植物珪酸体分析	113
A 8	区	113
B 9	区	115
C 9	区 -2	118
第2節	花粉分析	120
A 8	区	120
B 9	区	124
第3節	種実同定	129
A 8・9	区	129
第4節	樹種同定	141
A 8	区	141
B 8・9	区	146
第5節	灰像分析	149
第6節	放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) 年代測定	149
第7節	大沢谷内遺跡における昆虫類分析	150
第8節	大沢谷内遺跡出土焼骨の肉眼観察および骨組織形態学的所見	154
第VII章 総括		159
第1節	遺構	159
A	掘立柱建物	159
B	耕作関連遺構	159
C	井戸	162

D 8区SX1306	165
E 道路状遺構	166
第2節 遺物	166
A 土器	166
B 木製品	171
第3節 古代・中世の古環境	172
第4節 遺跡の位置づけ	172
引用・参考文献	177
別表	183
報告書抄録・奥付	巻末

## 挿図目次

第1図 大沢谷内遺跡位置図	4	第26図 大沢谷内遺跡9区におけるプラント・オパール	118
第2図 大沢谷内遺跡周辺の地形分類図	5	第27図 植物珪酸体（プラント・オパール）の 顕微鏡写真	119
第3図 大沢谷内遺跡周辺の地形と層序	6	第28図 大沢谷内遺跡8区における 花粉ダイアグラム	121
第4図 周辺の遺跡分布図1（縄文・弥生・古墳）	8	第29図 大沢谷内遺跡8区の花粉・胞子・寄生虫卵	123
第5図 周辺の遺跡分布図2（古代・中世）	10	第30図 大沢谷内遺跡9区における 花粉ダイアグラム	125
第6図 大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図1	14	第31図 大沢谷内遺跡9区の花粉・胞子・寄生虫卵	127
第7図 大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図2	15	第32図 大沢谷内遺跡の種実	140
第8図 土層柱状図	15	第33図 大沢谷内遺跡の木製品（1）	142
第9図 耕作土模式図	20	第34図 大沢谷内遺跡の木製品（2）	143
第10図 遺構の平・断面形態の分類	21	第35図 大沢谷内遺跡の木材	147
第11図 遺構埋土の堆積形状の分類	21	第36図 灰像（植物珪酸体）の顕微鏡写真	149
第12図 8・9区包含層の小グリッド別古代土器 出土重量分布図	68	第37図 大沢谷内遺跡昆虫写真	153
第13図 8・9区包含層のグリッド別中世土器・陶磁器 出土重量分布図	69	第38図 大沢谷内遺跡8区SE1643、 9区SX2140出土焼骨	155
第14図 大沢谷内遺跡古代土器分類図1	73	第39図 大沢谷内遺跡9区SX1出土焼骨	156
第15図 大沢谷内遺跡古代土器分類図2	74	第40図 比較動物試料の骨組織像	156
第16図 大沢谷内遺跡中世土器分類図	76	第41図 9区SX1出土焼骨試料と比較動物の H.Ar・On.Ar	157
第17図 大沢谷内遺跡木製品分類図（1）	101	第42図 耕作関連遺構	160
第18図 大沢谷内遺跡木製品分類図（2）	102	第43図 井戸側分類系図 （北陸中世考古学研究会2001）	164
第19図 8・9区出土アスファルトの小グリッド別 重量分布図	110	第44図 大沢谷内遺跡8・9区における井戸の 長軸長・深度	164
第20図 アスファルト塊実測図	112	第45図 道路状遺構	166
第21図 アスファルト塊写真	112	第46図 大沢谷内遺跡における主な土器変遷図	167
第22図 大沢谷内遺跡8区における植物珪酸体分析結果	114	第47図 県内出土の越州窯系青磁	170
第23図 植物珪酸体（プラント・オパール）の 顕微鏡写真	115	第48図 大沢谷内遺跡1～4・8・9区平面図	175
第24図 大沢谷内遺跡9区におけるプラント・ オパール分析結果	116	第49図 8・9区における古代・中世の遺構平面図	176
第25図 植物珪酸体（プラント・オパール）の 顕微鏡写真	117		

## 表 目 次

第 1 表 大沢谷内遺跡調査履歴……………3	第 17 表 大沢谷内遺跡におけるモモ核計測値 (古代)…………… 137
第 2 表 大沢谷内遺跡周辺の縄文・弥生・古墳時代の 遺跡……………9	第 18 表 大沢谷内遺跡におけるモモ核計測値 (中世)…………… 137
第 3 表 大沢谷内遺跡周辺の古代・中世遺跡…………… 11	第 19 表 大沢谷内遺跡におけるモモ核 (古代)…………… 137
第 4 表 年次ごとの調査体制 (8・9 区)…………… 17	第 20 表 大沢谷内遺跡におけるモモ核 (中世)…………… 137
第 5 表 主な整理作業の内容 (8・9 区)…………… 18	第 21 表 大沢谷内遺跡 8 区における樹種同定結果…………… 141
第 6 表 整理作業体制…………… 18	第 22 表 大沢谷内遺跡における樹種同定試料と 同定結果…………… 146
第 7 表 大沢谷内遺跡 8・9 区出土アスファルト一覧…………… 111	第 23 表 放射性炭素年代測定の試料と方法…………… 149
第 8 表 大沢谷内遺跡 8 区における植物珪酸体分析結果 …………… 114	第 24 表 放射性炭素年代測定結果…………… 149
第 9 表 大沢谷内遺跡 9 区におけるプラント・ オパール分析結果…………… 116	第 25 表 大沢谷内遺跡から出土した昆虫の同定結果…………… 151
第 10 表 大沢谷内遺跡 9 区におけるプラント・ オパール分析結果…………… 119	第 26 表 出土焼骨の概要…………… 154
第 11 表 大沢谷内遺跡 8 区における花粉分析結果…………… 122	第 27 表 骨組織形態学的分析に用いた 9 区 SX1 出土焼骨試料…………… 156
第 12 表 大沢谷内遺跡 9 区における花粉分析結果…………… 126	第 28 表 9 区 SX1 出土焼骨試料の骨組織形態計測値…………… 157
第 13 表 大沢谷内遺跡における種実同定結果 (古代-遺構別)…………… 134	第 29 表 比較動物資料の骨組織形態計測値…………… 157
第 14 表-1 大沢谷内遺跡における種実同定結果 (中世-遺構別)…………… 134	第 30 表 凹地遺構一覧…………… 162
第 14 表-2 大沢谷内遺跡における種実同定結果 (中世-遺構別)…………… 135	第 31 表 8・9 区井戸一覧…………… 163
第 15 表 大沢谷内遺跡における種実同定結果 (時代別-古代)…………… 136	第 32 表 大沢谷内遺跡 1～4・8・9 区・ 市道関連調査における井戸一覧…………… 163
第 16 表 大沢谷内遺跡における種実同定結果 (時代別-中世)…………… 136	第 33 表 大沢谷内遺跡出土の古代・中世土器の 編年対応表…………… 168
	第 34 表 器種構成比率…………… 169
	第 35 表 大沢谷内遺跡 8・9 区分群別の樹種 (中世)…………… 171

## 別表目次

別表 1 遺構計測表…………… 183	別表 6 銭貨観察表…………… 230
別表 2 土器観察表…………… 221	別表 7 金属製品観察表…………… 230
別表 3 土製品観察表…………… 230	別表 8 木製品観察表…………… 231
別表 4 鍛冶関連遺物観察表…………… 230	別表 9 自然遺物観察表…………… 233
別表 5 石器・石製品観察表…………… 230	別表 10 大沢谷内遺跡 骨角製品観察表…………… 233

## 図版目次

図版 1 周辺の旧地形図 (1/50,000)	図版 8 8 区平面分割図 (1)
図版 2 グリッド設定図① (1/10,000)	図版 9 8 区平面分割図 (2)
図版 3 グリッド設定図② (1/1,250)	図版 10 8 区遺構個別図 SD (1)
図版 4 8 区遺構全体図	図版 11 8 区遺構個別図 SD (2)
図版 5 8 区基本層序 1 (SE、SK、SX、SD)	図版 12 8 区平面分割図 (3)
図版 6 8 区基本層序 2 (SK、SX、SD)	図版 13 8 区遺構個別図 SD (3)
図版 7 8 区基本層序 3 (SK、SX、SD)	図版 14 8 区遺構個別図 SD (4)

图版 15 8 区平面分割图 (4)  
图版 16 8 区遺構個別图 SD (5)  
图版 17 8 区平面分割图 (5)  
图版 18 8 区平面分割图 (6)  
图版 19 8 区遺構個別图 SD (6)  
图版 20 8 区遺構個別图 SB (1) SB4001  
图版 21 8 区遺構個別图 SB (2) SB4002  
图版 22 8 区遺構個別图 SB (3) SB4003 · 4004  
图版 23 8 区遺構個別图 SB (4) SB4005  
图版 24 8 区遺構個別图 SB (5) SB4006 · 4007  
图版 25 8 区遺構個別图 SB (6) SB4008 · 4009  
图版 26 8 区遺構個別图 SE (1)  
图版 27 8 区遺構個別图 SE (2)  
图版 28 8 区遺構個別图 SE (3)  
图版 29 8 区遺構個別图 SE (4)  
图版 30 8 区遺構個別图 SE (5)  
图版 31 8 区遺構個別图 SE (6)  
图版 32 8 区遺構個別图 SE (7)  
图版 33 8 区遺構個別图 SE (8)  
图版 34 8 区遺構個別图 SE (9)  
图版 35 8 区遺構個別图 SK (1)  
图版 36 8 区遺構個別图 SK (2)  
图版 37 8 区遺構個別图 SK (3)  
图版 38 8 区遺構個別图 SK (4)  
图版 39 8 区遺構個別图 SK (5)  
图版 40 8 区遺構個別图 SK (6)  
图版 41 8 区遺構個別图 SK (7)  
图版 42 8 区遺構個別图 SK (8)  
图版 43 8 区遺構個別图 SK (9)  
图版 44 8 区遺構個別图 SK (10)  
图版 45 8 区遺構個別图 SK (11) · SX (1)  
图版 46 8 区遺構個別图 SX (2)  
图版 47 8 区遺構個別图 SX (3)  
图版 48 8 区遺構個別图 SX (4)  
图版 49 8 区遺構個別图 SX (5)  
图版 50 8 区遺構個別图 SX (6)  
图版 51 8 区遺構個別图 SX (7)  
图版 52 8 区遺構個別图 SX (8)  
图版 53 9 区遺構全体图  
图版 54 9 区基本層序 1 (SK、SD)  
图版 55 9 区基本層序 2 (SX、SD)  
图版 56 9 区耕作土断面 1 (SK、SD)  
图版 57 9 区耕作土断面 2 (SD)  
图版 58 9 区耕作土断面 3 (SX、SD)  
图版 59 9 区平面分割图 (1)  
图版 60 9 区平面分割图 (2)  
图版 61 9 区平面分割图 (3)  
图版 62 9 区平面分割图 (4)  
图版 63 9 区遺構個別图 SD (1)  
图版 64 9 区遺構個別图 SD (2)  
图版 65 9 区平面分割图 (5)  
图版 66 9 区遺構個別图 SD (3)  
图版 67 9 区遺構個別图 SD (4)  
图版 68 9 区遺構個別图 SD (5)  
图版 69 9 区平面分割图 (6)  
图版 70 9 区遺構個別图 SD (6)  
图版 71 9 区遺構個別图 SD (7)  
图版 72 9 区平面分割图 (7)  
图版 73 9 区遺構個別图 SD (8)  
图版 74 9 区平面分割图 (8)  
图版 75 9 区遺構個別图 SD (9)  
图版 76 9 区遺構個別图 SB (1) SB1 · 2  
图版 77 9 区遺構個別图 SB (2) SB3  
图版 78 9 区遺構個別图 SB (3) SB4  
图版 79 9 区遺構個別图 SB (4) SB5 · 7  
图版 80 9 区遺構個別图 SB (5) SB6  
图版 81 9 区遺構個別图 SB (6) SB8  
图版 82 9 区遺構個別图 SB (7) SB8  
图版 83 9 区遺構個別图 SB (8) SB8 · 9  
图版 84 9 区遺構個別图 SB (9) SB10  
图版 85 9 区遺構個別图 SB (10) SB10 · 11  
图版 86 9 区遺構個別图 SB (11) SB12 · 13  
图版 87 9 区遺構個別图 SB (12) SB14  
图版 88 9 区遺構個別图 SB (13) SB15  
图版 89 9 区遺構個別图 SB (14) SB16  
图版 90 9 区遺構個別图 SB (15) SB17 · 18 · 19  
图版 91 9 区遺構個別图 SE (1)  
图版 92 9 区遺構個別图 SE (2)  
图版 93 9 区遺構個別图 SE (3)  
图版 94 9 区遺構個別图 SE (4)  
图版 95 9 区遺構個別图 SE (5)  
图版 96 9 区遺構個別图 SE (6)  
图版 97 9 区遺構個別图 SE (7)  
图版 98 9 区遺構個別图 SE (8)  
图版 99 9 区遺構個別图 SE (9)  
图版 100 9 区遺構個別图 SE (10)  
图版 101 9 区遺構個別图 SE (11)  
图版 102 9 区遺構個別图 SE (12)  
图版 103 9 区遺構個別图 SE (13)  
图版 104 9 区遺構個別图 SE (14)  
图版 105 9 区遺構個別图 SE (15)  
图版 106 9 区遺構個別图 SE (16)  
图版 107 9 区遺構個別图 SE (17)  
图版 108 9 区遺構個別图 SE (18)  
图版 109 9 区遺構個別图 SK (1)  
图版 110 9 区遺構個別图 SK (2)  
图版 111 9 区遺構個別图 SK (3)  
图版 112 9 区遺構個別图 SK (4)  
图版 113 9 区遺構個別图 SK (5)  
图版 114 9 区遺構個別图 SK (6)

- 図版 115 9 区遺構個別図 SK (7)
- 図版 116 9 区遺構個別図 SK (8)
- 図版 117 9 区遺構個別図 SK (9)
- 図版 118 9 区遺構個別図 SK (10)
- 図版 119 9 区遺構個別図 SK (11)
- 図版 120 9 区遺構個別図 SX (1)
- 図版 121 9 区遺構個別図 SX (2)
- 図版 122 9 区遺構個別図 SX (3)
- 図版 123 9 区遺構個別図 SX (4)
- 図版 124 9 区遺構個別図 SX (5)
- 図版 125 9 区遺構個別図 SX (6)
- 図版 126 9 区遺構個別図 SX (7)
- 図版 127 9 区遺構個別図 SX (8)
- 図版 128 9 区遺構個別図 SX (9)
- 図版 129 9 区遺構個別図 SX (10)
- 図版 130 9 区遺構個別図 SX (11)
- 図版 131 9 区遺構個別図 SX (12)
- 図版 132 9 区遺構個別図 SX (13)
- 図版 133 9 区遺構個別図 SX (14)
- 図版 134 9 区遺構個別図 SX (15)
- 図版 135 9 区遺構個別図 SX (16)
- 図版 136 9 区遺構個別図 SX (17)
- 図版 137 出土遺物 1 (8 区 遺構出土土器 1)
- 図版 138 出土遺物 2 (8 区 遺構出土土器 2)
- 図版 139 出土遺物 3 (8 区 遺構出土土器 3)
- 図版 140 出土遺物 4 (8 区 遺構出土土器 4)
- 図版 141 出土遺物 5 (8 区 遺構出土土器 5)
- 図版 142 出土遺物 6 (8 区 遺構出土土器 6)
- 図版 143 出土遺物 7 (8 区 遺構出土土器 7)
- 図版 144 出土遺物 8 (8 区 遺構外出土土器 1)
- 図版 145 出土遺物 9 (8 区 遺構外出土土器 2)
- 図版 146 出土遺物 10 (8 区 遺構出土土製品、  
鍛冶関連遺物、石器・石製品、遺構外出土土製品)
- 図版 147 出土遺物 11 (8 区 遺構出土銭貨・金属製品、  
遺構外出土石器・石製品、銭貨)
- 図版 148 出土遺物 12 (8 区 遺構出土木製品 1)
- 図版 149 出土遺物 13 (8 区 遺構出土木製品 2)
- 図版 150 出土遺物 14 (8 区 遺構出土木製品 3)
- 図版 151 出土遺物 15 (8 区 遺構出土木製品 4)
- 図版 152 出土遺物 16 (8 区 遺構出土木製品 5)
- 図版 153 出土遺物 17 (8 区 遺構出土木製品 6、骨角製品、  
自然遺物)
- 図版 154 出土遺物 18 (9 区 遺構出土土器 1)
- 図版 155 出土遺物 19 (9 区 遺構出土土器 2)
- 図版 156 出土遺物 20 (9 区 遺構出土土器 3)
- 図版 157 出土遺物 21 (9 区 遺構出土土器 4)
- 図版 158 出土遺物 22 (9 区 遺構出土土器 5)
- 図版 159 出土遺物 23 (9 区 遺構出土土器 6)
- 図版 160 出土遺物 24 (9 区 遺構出土土器 7)
- 図版 161 出土遺物 25 (9 区 遺構出土土器 8、  
遺構外出土土器 1)
- 図版 162 出土遺物 26 (9 区 遺構外出土土器 2)
- 図版 163 出土遺物 27 (9 区 遺構出土土製品、  
石器・石製品 1、遺構外出土土製品、鍛冶関連遺物)
- 図版 164 出土遺物 28 (9 区 遺構出土石器・石製品 2)
- 図版 165 出土遺物 29 (9 区 遺構出土石器・石製品 3、  
金属製品、遺構外出土石器・石製品、金属製品)
- 図版 166 出土遺物 30 (9 区 遺構出土木製品 1)
- 図版 167 出土遺物 31 (9 区 遺構出土木製品 2)
- 図版 168 出土遺物 32 (9 区 遺構出土木製品 3)
- 図版 169 出土遺物 33 (9 区 遺構出土木製品 4)
- 図版 170 出土遺物 34 (9 区 遺構出土木製品 5)
- 図版 171 出土遺物 35 (9 区 遺構出土木製品 6)
- 図版 172 出土遺物 36 (9 区 遺構出土木製品 7)
- 図版 173 出土遺物 37 (9 区 遺構出土木製品 8、骨角製品、  
自然遺物、遺構外出土木製品)

## 写真図版目次

- 写真図版 1 大沢谷内遺跡周辺空中写真
- 写真図版 2 調査地全景空中写真 1
- 写真図版 3 調査地全景空中写真 2 (6・8・9 区)
- 写真図版 4 調査地近景空中写真 (8 区・SB4001)
- 写真図版 5 調査地全景空中写真 3 (9 区)
- 写真図版 6 8 区基本層序 (基本層序 D・E・F・H・M・N・  
P・R 地点、SE1216・1563、SK54・918・  
919・1026・2344・2390・3007、SX46・  
1368・2378、SD164・2291、P2384・  
3008)
- 写真図版 7 8 区 SB (1) SB4001 (P284・412・418・  
531)
- 写真図版 8 8 区 SB (2) SB4001 (SD221・415、  
P531・535・545・550・554)
- 写真図版 9 8 区 SB (3) SB4002・4003 (P854・959・  
986・990・993)
- 写真図版 10 8 区 SB (4) SB4004・4005 (SX217・289、  
SD280・1771、P218・273・334・1525)
- 写真図版 11 8 区 SB (5) SB4006・4007 (P848・850・  
926・2220)
- 写真図版 12 8 区 SB (6) SB4008・4009 (SE1600、  
P346・383・405・507・1683)
- 写真図版 13 8 区 SE (1) SE84・107・112・119・120  
(SX46)

- 写真図版 14 8区 SE (2) SE131 · 155 · 201 · 411 · 768 · 780 · 783 (P136 · 779)
- 写真図版 15 8区 SE (3) SE834 · 845 · 865 · 920 · 929 · 945 · 994 (SD774)
- 写真図版 16 8区 SE (4) SE1020 · 1045 · 1068 · 1070 · 1080 · 1140 · 1145 · 1179 · 1211 (P1046)
- 写真図版 17 8区 SE (5) SE1211 · 1320 · 1421 · 1431 · 1590
- 写真図版 18 8区 SE (6) SE1643 · 1871 · 1886 · 2313 · 2375
- 写真図版 19 8区 SE (7) SE2383 · 2477 · 2529 · 2681 · 2686
- 写真図版 20 8区 SK (1) SK21 · 147 · 166 · 168 · 189 · 246 · 419 · 772 · 922 (P167 · 193 · 262)
- 写真図版 21 8区 SK (2) SK931 · 996 · 1042 · 1052 · 1073 · 1074 · 1103 · 1483 (SD1013、P1044 · 1479 · 1480)
- 写真図版 22 8区 SK (3) SK1570 · 1722 · 1837 · 2005 · 2006 · 2041 · 2344 · 2611 (SD2343)
- 写真図版 23 8区 SK (4) · SX (1) SK2858 · 2999、SX225 · 373 · 505 · 609 · 711 · 784 (SD774)
- 写真図版 24 8区 SX (2) SX923 · 1008 · 1089 · 1306 (SD1196)
- 写真図版 25 8区 SX (3) SX1599 · 1622 · 1746 · 1929 · 2113 · 2191 (P1596 · 1597 · 1598 · 1673)
- 写真図版 26 8区 SX (4) · SD (1) SX2300 · 2339 · 2378 · 2457 · 2768、SD22 · 25 · 75 (SK2390、P2310 · 3009)
- 写真図版 27 8区 SD (2) SD39 · 47 · 121 · 143 · 151 · 220 · 221 · 314 · 431 (P219)
- 写真図版 28 8区 SD (3) SD151 · 798 ~ 803 · 1023 · 1422 · 1517 · 1519 · 1591
- 写真図版 29 9区基本層序 (1) 基本層序 A ~ H 地点 (SK3711 · 3860、SD3708 · 3712)
- 写真図版 30 9区基本層序 (2) · 耕作土 (1) 基本層序 I ~ M 地点、区画 14 (SK3505、SX3 · 4、SD10 · 275 · 744 · 2313 · 3948、P3547)
- 写真図版 31 9区耕作土 (2) (区画 1 · 2 · 8 · 9 · 10 · 11 · 14 (SK3549、SX305 · 409、SD526 · 528 · 529 · 533 · 536 · 671 · 3548)
- 写真図版 32 9区 SB (1) SB1 · 3 · 4 (P1466 · 1495 · 1637 · 2100 · 2106 · 2129 · 2139 · 2879)
- 写真図版 33 9区 SB (2) SB4 (P1666 · 1670 · 1675 · 2124 · 2228 · 2331 · 2856)
- 写真図版 34 9区 SB (3) SB5 · 6 (SD1600、P1628 · 1704 · 1721 · 1809 · 1812 · 2064 · 2801 · 2802)
- 写真図版 35 9区 SB (4) SB6 · 7 · 8 (P1696 · 1847 · 1849 · 1884 · 2991 · 3021 · 3041 · 3120)
- 写真図版 36 9区 SB (5) SB8 (P2117 · 2221 · 2222 · 2250 · 2275 · 2285 · 2318)
- 写真図版 37 9区 SB (6) SB8 (SD2167 · P2318 · 2320 · 2386 · 3100 · 3110 · 3299)
- 写真図版 38 9区 SB (7) SB8 · 9 · 10 (P1871 · 1878 · 1879 · 1915 · 1925 · 1939 · 2159 · 3299 · 3522 · 3523)
- 写真図版 39 9区 SB (8) SB10 · 11 · 12 (SK1846、P1783 · 1794 · 1814 · 1819 · 1845 · 1895 · 2587 · 2680)
- 写真図版 40 9区 SB (9) SB13 · 14 · 15 (SD2092、P1444 · 1555 · 1596 · 1625 · 1642 · 1678 · 2481 · 2757)
- 写真図版 41 9区 SB (10) SB15 · 16 (SD1600、P1685 · 1735 · 1737 · 1781 · 2892 · 2955 · 2957 · 2962 · 2973)
- 写真図版 42 9区 SB (11) SB17 · 18 · 19 (SD1599、P1603 · 2000 · 2374 · 2447 · 2652 · 2766 · 3486)
- 写真図版 43 9区 SE (1) SE17 · 31 · 32 · 36 · 66 · 69
- 写真図版 44 9区 SE (2) SE208 · 251 · 289 · 304 · 382 · 460 · 468 · 513 (SD521)
- 写真図版 45 9区 SE (3) SE1031 · 1433 · 1514 · 1556 · 1590 · 1601 · 1639 · 1652 (SD1653、P2875)
- 写真図版 46 9区 SE (4) SE1676 · 1692 · 1791 · 1792 · 1826 · 1838 · 2967
- 写真図版 47 9区 SE (5) SE1890 · 1891 · 1911 · 1996 · 2027 · 2153 · 2220
- 写真図版 48 9区 SE (6) SE2226 · 2251 · 2274 · 2331 · 2355 · 2398 · 2811 (SK2232 · 2254、SD1622 · 2460、P2397 · 2935)
- 写真図版 49 9区 SE (7) SE2831 · 2836 · 2853 · 2868 · 2903 · 2936 (SD1661、P2865 · 2956)
- 写真図版 50 9区 SE (8) SE2953 · 2977 · 2978 · 3025 · 3172 · 3185 (SK3189、SD2092 · 2192 · 2526 · 3191)
- 写真図版 51 9区 SE (9) SE3188 · 3241 · 3315 · 3320 (SK3197、SD1661 · 3191、P3892)
- 写真図版 52 9区 SE (10) SE3329 · 3339 · 3372 · 3416
- 写真図版 53 9区 SE (11) SE3433 · 3530 · 3557 · 3571 · 3579
- 写真図版 54 9区 SE (12) SE3579 · 3587 · 3589 · 3600 · 3616 · 3617 · 3705
- 写真図版 55 9区 SK (1) SK22 · 83 · 99 · 158 · 167 · 173 · 187 · 202 (SD10 · 15 · 136 · 201 · 209)

- 写真図版 56 9区SK(2)SK327・407・449・450・514・544・564・616(SD537・538)
- 写真図版 57 9区SK(3)SK640・724・753・789・798・805(SD806)
- 写真図版 58 9区SK(4)SK917・964・1011・1032・1109・1135・1160・1166
- 写真図版 59 9区SK(5)SK1172・1230・1288・1289・1300・1301・1381・1394・3925
- 写真図版 60 9区SK(6)SK1429・1478・1522・1608・1651・1654(SD1653)
- 写真図版 61 9区SK(7)SK1868・1912・1937・1965・1974(SE1996)
- 写真図版 62 9区SK(8)SK2024・2025・2044・2188・2202・2279・2286
- 写真図版 63 9区SK(9)SK2290・2335・2365・2367・2375・2499・2502・2545(SX3878、SD2167・2172・2192・3296、P2544)
- 写真図版 64 9区SK(10)SK2607・2683・2796・2837・2897・3007・3177(SD1661・2838、P3217)
- 写真図版 65 9区SK(11)SK3197・3203・3205・3206・3225・3227・3264・3280・3281(SD1661・2092、P3137・3282)
- 写真図版 66 9区SK(12)・SX(1)SK3441・3449・3537・3921・3924、SX1・2・432(SD356・2400・3454、P3440)
- 写真図版 67 9区SX(2)SX29・146・172・213・247
- 写真図版 68 9区SX(3)SX248・337・345・354(SD339)
- 写真図版 69 9区SX(4)SX413・418・431・432・433・454・522(SD239・423・439・3928)
- 写真図版 70 9区SX(5)SX555・631・647・750・751・755・803
- 写真図版 71 9区SX(6)SX982・1097・1137・1146・1147・1153・1201・1218
- 写真図版 72 9区SX(7)SX1264・1266・1270・1384・1457・1539
- 写真図版 73 9区SX(8)SX1539・1755・1756・2066・2140(P2068・2789)
- 写真図版 74 9区SX(9)SX2140・2253・2348・2512・3054(SD2192・2205、P2635・2641)
- 写真図版 75 9区SX(10)SX3102・3200・3333・3349・3574(SD2194、P3211・3425)
- 写真図版 76 9区SX(11)SX3521・3584・3789・3803・3878(SD3719、P3554)
- 写真図版 77 8区SK923、9区SX3349出土土器集合写真
- 写真図版 78 出土遺物1(8区遺構出土土器1)
- 写真図版 79 出土遺物2(8区遺構出土土器2)
- 写真図版 80 出土遺物3(8区遺構出土土器3)
- 写真図版 81 出土遺物4(8区遺構出土土器4)
- 写真図版 82 出土遺物5(8区遺構出土土器5、8区遺構外出土土器1)
- 写真図版 83 出土遺物6(8区遺構出土土製品、鍛冶関連遺物、石器・石製品1、8区遺構外出土土器2、土製品)
- 写真図版 84 出土遺物7(8区遺構出土石器・石製品2、錢貨・金属製品、木製品1、8区遺構外出土石器・石製品、錢貨)
- 写真図版 85 出土遺物8(8区遺構出土木製品2)
- 写真図版 86 出土遺物9(8区遺構出土木製品3)
- 写真図版 87 出土遺物10(8区遺構出土木製品4、骨角製品、自然遺物)
- 写真図版 88 出土遺物11(9区遺構出土土器1)
- 写真図版 89 出土遺物12(9区遺構出土土器2)
- 写真図版 90 出土遺物13(9区遺構出土土器3)
- 写真図版 91 出土遺物14(9区遺構出土土器4)
- 写真図版 92 出土遺物15(9区遺構出土土器5、土製品、9区遺構外出土土器、土製品、鍛冶関連遺物)
- 写真図版 93 出土遺物16(9区遺構出土石器・石製品、金属製品1、9区遺構外出土石器・石製品)
- 写真図版 94 出土遺物17(9区遺構出土金属製品2、木製品1、9区遺構外出土金属製品)
- 写真図版 95 出土遺物18(9区遺構出土木製品2)
- 写真図版 96 出土遺物19(9区遺構出土木製品3)
- 写真図版 97 出土遺物20(9区遺構出土木製品4)
- 写真図版 98 出土遺物21(9区遺構出土木製品5)
- 写真図版 99 出土遺物22(9区遺構出土木製品6、骨角製品、自然遺物)

# 第 I 章 序 章

## 第 1 節 遺 跡 概 観

大沢谷内遺跡は、新潟市（平成 17 年の合併前は中蒲原郡小須戸町）秋葉区横川浜 16 番地 1 号ほかに所在する。新潟県の北部から中部にかけて南北に広がる越後平野の中央部より若干南部に位置し、平野中央部から南部を縦断して流れる信濃川と平野東部に連なる山脈の中央に舌状にせり出す新津丘陵に挟まれた沖積地である。地表面の海拔は 4m 前後を測り、現況は調査地を含めた周辺一帯に水田が広がる。

昭和 32（1957）年に行われた暗渠工事によって古代の土器が発見され明らかになった遺跡であり〔川上 1989〕、昭和 54（1979）年刊行の『新潟県遺跡地図 昭和 54 年度』に遺跡名と地点が初めて掲載され、「大沢谷内遺跡」の名称が周知された。『小須戸町史』には、「大沢谷内遺跡」、「丸山遺跡」、「三軒屋敷遺跡」から出土した須恵器が掲載され、8 世紀後半の年代観が示されている〔中島 1983〕。また、上記の 3 遺跡に加えて「丑ヶ島遺跡」を含めた 4 遺跡が、遺跡の立地上同一の集落跡の可能性が指摘された。その後、昭和 60（1985）年 8 月に行われた新潟県教育委員会（以下、県教委）主催の遺跡詳細分布調査の結果、4 遺跡を包括する形で、「大沢谷内遺跡」の範囲が再設定された〔川上 1989、細野・伊比ほか 2012〕。

昭和 63（1988）年から平成元（1989）年にかけて、小須戸町教育委員会（以下、小須戸町教委）により行われた大規模農道建設に伴う発掘調査（第 1～4 次）から本格的な調査が始まる〔川上 1989〕。その後、平成 16（2004）年から小須戸バイパス整備に伴う一連の調査が、長期間継続的に行われている（第 5・7～15・17・19～21 次）。この調査範囲は広範囲に及ぶため、現時点で 1～9 の各区に分けられている。また、小須戸バイパス建設に伴う調査と平行して、市道鎌倉横川 1 号線改良工事に伴う調査（第 6・16・18 次）が行われており、遺跡の範囲が拡大している〔前山 2012〕。その他にも、平成 19（2007）年に「大沢谷内遺跡」から北方約 100m に隣接する「大沢谷内北遺跡」の本発掘調査が行われ、縄文時代晩期ごろの遺構・遺物が確認されており、同時代では「大沢谷内遺跡」と一連の遺跡群として評価されている〔前山・伊比ほか 2010〕。

本遺跡は、東西 800m、南北 1,200m と広大な範囲に広がる。遺跡の形成は、縄文時代晩期中葉に遡り、以後鎌倉時代まで、居住域を変えながら断続的に生活が営まれていたと考えられる。縄文時代は、大規模な谷を挟んだ北東部（1～4 区）に晩期中葉の遺跡が中央部（5・6 区）に晩期終末の遺跡が営まれている。いずれも継続期間が短く、基本的な生活用具が完備されない点から、季節的居住地としての利用が考えられている（前山・伊比ほか 2010）。弥生・古墳時代は散発的に遺物が見つまっている。特に弥生時代では、後期の東北系、北陸系、八幡山式土器が確認され、新津丘陵に所在する古津八幡山遺跡との関係が指摘されている〔細野・伊比ほか 2012〕。飛鳥時代（7 世紀後半）には、北東部（1～4 区）で集落が営まれ、溝による区画や初現的な律令祭祀と考えられる痕跡が確認されることから、官衙的な要素が想定されている。北東部の集落はその後、奈良時代と平安時代前期まで確認される。一方、南西部（6～9 区）及び北西部（市道）では、奈良～平安時代、特に平安時代を中心とした集落が営まれていた。このことから、飛鳥時代から平安時代にかけての居住域が移っていることがわかる。その後、中世になると各調査地点で集落の痕跡が確認され、集落の範囲が拡大している。また、南部（9 区）を中心に古代以降の大規模な畑ないし水田の耕作域が確認されており、住居域と耕作域の関係でも注目される。その他にも、古代からの木製品製作、アスファルトなどの自然遺物の利用などの可能性も指摘されている〔前山・伊比ほか 2010〕。本遺跡は、近年の調査成果によって、集落の構成や空間・時間的な変遷を考える上で、良質な資料を提供する遺跡として注目される。

## 第 2 節 発掘調査に至る経緯

小須戸バイパスの整備工事計画に伴い、新潟市秋葉区（旧中蒲原郡小須戸町）横川浜地内から天ヶ沢地内に至る 2km におよぶ区間の用地取得が平成 13～15 年にかけて行われた。予定地は、新津丘陵から西に約 1km の沖積地に位置し、丘陵と並行する幅員約 50m の直線区間である。小須戸町教委（当時）と事業を所管する新潟県新津土木事務所（以下、新津土木）との協議の結果、埋蔵文化財包蔵地の有無及び内容を把握するため、試掘・確認調査実施が決定した。平成 16 年 11 月 29 日から翌 17 年 1 月 6 日にかけて、小須戸町教委は県教委の指導と人的支援の下、小須戸バイパス整備予定地全域を対象とした確認調査を実施した。幅員 50m、全長 2km 余、面積 2,136m<sup>2</sup> におよぶ調査対象範囲内に計 99 か所の試掘確認トレンチを設定し、遺跡の範囲や遺物包含層の深度などを確認した。調査の結果、24 か所のトレンチで遺構や遺物が確認された。以上を踏まえて新津土木と協議を重ねた結果、小須戸バイパス整備に先立ち、大沢谷内遺跡の本発掘調査が必要であるという合意がなされた。さらに、面積が広大であること、また遺物包含層・遺構確認面が複数あることから、本発掘調査は複数年度にわたるものとし、随時追加の確認調査を実施することによって調査範囲の精度を高めることとした（追加の確認調査は第 8 次及び第 10 次）。平成 17 年に実施した追加の確認調査（第 8 次）では、46 か所のトレンチのうち 26 か所で遺構や遺物が確認され、市道鎌倉横川 1 号線との取付道路部も含め、本発掘調査範囲が増加した。

平成 17 年度から平成 21 年度にかけて、1～4 区の本発掘調査が行われ（第 7・9・11・12・14 次）、報告が完了している〔細野・伊比<sup>ほか</sup> 2012〕。また、平成 21 年度から、1～4 区よりさらに国道本線部の南側に位置する 5・6 区の本発掘調査（第 15 次）が実施され、翌 22 年度には、6 区に加えて、東側取付道路部の 7 区の本発掘調査（第 17 次）が実施されている。なお、平成 17 年 3 月に小須戸町が新潟市に編入合併したため、平成 17 年度以降は市教委が調査主体となっている。また、平成 19 年度には、新潟市の政令指定都市移行に伴い、国道建設の一部について権限委譲がなされたため、工事の所管が新潟市土木部東部地域土木事務所（以下、東部土木）に移っている。

本報告の調査は、第 19～21 次調査のうち、8・9 区の範囲の調査である。小須戸バイパス整備に伴う調査としては、第 12～14 次調査にあたる。平成 23 年度は、すでに 1～4 区の本発掘調査時に一括して新潟市長（以下、市長）より文化財保護法（以下、法）第 94 条第 1 項の通知（平成 19 年 5 月 14 日付東土木第 200 号）が県教委教育長に提出され、県教委教育長から市長へ本発掘調査の指示（平成 19 年 5 月 23 日付教文第 224 号の 2）がなされた。平成 22 年度に引き続き 6 区の調査及び新たに東側取付道路部である 8 区の一部、5・6 区よりさらに南側の国道本線部である 9 区北側約 5,086m<sup>2</sup> を本発掘調査の対象とし、東部土木より市教委に調査依頼（平成 23 年 3 月 17 日付新東土木建第 552 号）が提出され、市教委教育長は法第 99 条による着手報告（平成 23 年 4 月 8 日付新歴 F 第 4 号）を県教委に提出し、新潟市埋蔵文化財センターが本発掘調査（第 19 次）を実施した。

平成 24 年度は、平成 23 年度の調査に引き続き、9 区南側約 2,526.9m<sup>2</sup> の本発掘調査が必要と判断され、市長より法第 94 条第 1 項の通知（平成 24 年 2 月 28 日付新東土木建第 476 号）が県教育長に提出され、県教委教育長から市長へ本発掘調査の指示（平成 24 年 3 月 21 日付教文第 1392 号の 2）がなされた。また、東部土木より市教委に調査依頼（平成 24 年 3 月 12 日付新東土木建第 491 号）が提出され、市教委教育長は着手報告（平成 24 年 4 月 9 日付新歴 F 第 4 号）を県教委教育長に提出し、市文化財センター（新潟市埋蔵文化財センターが平成 23 年 7 月より市文化財センターへ改組される）が本発掘調査を実施した（第 20 次）。

平成 25 年度は、8 区未調査部分約 3,055.8m<sup>2</sup> の本発掘調査が必要と判断され、市長より法第 94 条第 1 項の通知（平成 25 年 2 月 26 日付新東土木建第 656 号）が県教委教育長に提出され、県教委教育長から市長へ本発掘調査の指示（平成 25 年 3 月 28 日付教文第 1445 号の 2）がなされた。また、東部土木より市教委に調査依頼（平成 25 年 3 月 1 日付新東土木建第 663 号）が提出され、市教委教育長は着手報告（平成 25 年 4 月 11 日付新歴 F 第 5 号の 4）を県教委教育長に提出し、市文化財センターが本発掘調査を実施した（第 21 次）。

第1表 大沢谷内遺跡調査履歴

通算調査回数	一般国道403号小須戸上バイパスに伴う発掘調査回数	調査年	調査種別	主な成果	調査原因	調査主体	担当	調査区	調査面積	試掘・確認調査トレンチ番号	文献	旧遺跡名	備考
		S60年(1985) 8.4	分布調査		新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課 和田寿久					大沢谷内丸山 庄ヶ島三軒屋敷	4遺跡を統合して「大沢谷内遺跡」とする。
第1次		S63年(1988) 7.4~7.6	確認調査	平安時代の遺構・遺物を確認(本発掘調査範囲の確定)	農免道路建設	小須戸町	県文化行政課 鈴木俊成		76.84㎡	1~29T	〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図参照。
第2次		S63年(1988) 7.14~7.15	確認調査	本発掘調査範囲の北西側の確認を行う。遺構・遺物は出土していない。	農免道路建設	小須戸町	県文化行政課 鈴木俊成		31㎡	30~37T	〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図参照。
第3次		S63年(1988) 11.4~11.6	本調査	遺構はPitI基、遺物(平安時代土師器13点・須恵器22点)が少量出土した。	農免道路建設	小須戸町	川上貞雄	B地点	974.7㎡		〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図参照。
第4次		H1年(1989) 4.12~4.21	本調査	平安時代の遺構・遺物を検出した。主な遺構はPit群、井戸、土坑、溝などが確認されている。	農免道路建設	小須戸町	川上貞雄	A地点	940.5㎡		〔川上1989a〕		調査区位置図については第6図参照。
第5次	1次	H16年(2004) 11.29~12.10 H17年(2005) 1.6	確認調査	縄文・飛鳥・奈良・平安時代の遺構・遺物を確認した。特に縄文時代晩期の遺物の発見は当初予想されておらず、「大沢谷内北遺跡」として登録した。	一般国道403号小須戸上バイパス	小須戸町	県文化行政課 石川智紀 春日真実 白根市教育委員会 潮田憲幸		2,136㎡	1~99T			調査区位置図については第6図参照。
第6次		H17年(2005) 5.16~5.19	確認調査	奈良・平安時代の遺物を確認した。遺構の検出はない。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 課山えりか		36.4㎡	1~26T			調査区位置図については第6図参照。
第7次	2次	H17年(2005) 8.7~12.20	本調査	主に上層の調査。飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代の遺構が多数確認された。下層に当初確認されなかった縄文時代晩期の遺跡が新たに発見された。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 朝岡政康	1~3区	1,912㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図参照。
第8次	3次	H17年(2005) 10.19~12.2	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		771.4㎡	107~154T			調査区位置図については第6図参照。
第9次	4次	H18年(2006) 7.10~12.26	本調査	1区上下層と3区上面の調査および昨年度確認された縄文時代の調査を行い、1・3区の全面に縄文時代晩期中葉の包含層が分布していることを確認した。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	1・3区	4,479.07㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図参照。
第10次	5次	H18年(2006) 12.12	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明		22.5㎡	155~159T			調査区位置図については第6図参照。
第11次	6次	H19年(2007) 8.29~12.28	本調査	3区下層の調査。縄文時代の遺構確認を主にを行った。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 渡邊すすみ	3区	1,400㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図参照。
第12次	7次	H20年(2008) 4.14~12.17	本調査	3区下層では縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が検出された。4区上層では飛鳥時代・古代・中世の集落跡が検出された。調査区南の埋没谷からは大量の須恵器とともに祭祀木製品が出土し、県内では希少な飛鳥時代の集落跡と祭祀場の例として注目される。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3・4区	5,600㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図参照。
第13次	8次	H21年(2009) 2.23~2.25	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		200㎡	168T			調査区位置図については第6図参照。
第14次	9次	H21年(2009) 4.6~12.28	本調査	3・4区下層の調査を行い、縄文時代晩期中葉の集落跡の全容が明らかとなった。焼土遺構群・掘立柱建物・住居状遺構等が検出され、土坑群の中には石器のデブリも確認された。遺物では多量の板状・塊状アスファルトの出土が注目される。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3・4区	5,920㎡		〔細野・伊比ほか2012〕		調査区位置図については第6図参照。
第15次	10次	H21年(2009) 6.1~H22年(2010) 3.19	本調査	5区・6区ともに上層・下層の調査。上層では古墳時代から中世の遺構・遺物が確認された。下層では縄文時代晩期最終の遺構・遺物を検出した。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	5・6区	7,319㎡				調査区位置図については第6図参照。
第16次		H21年(2009) 11.10~H21年(2009) 11.17	確認調査	平安時代の集落跡が北西に延びることを確認。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市歴史文化課 廣野耕造			1~25T			調査区位置図については第6図参照。
第17次	11次	H22年(2010) 4.12~H22年(2010) 12.27	本調査	6区下層と7区の調査。6区下層では縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が確認された。竪穴住居2棟や焼土遺構などが確認された。7区では平安・鎌倉・室町時代の遺構が確認された。平安時代では排水施設が明確な小区画遺構が確認され、鎌倉・室町時代では溝・井戸などと畑の跡が検出された。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	6・7区	5,727㎡				調査区位置図については第6図参照。
第18次		H22年(2010) 9.24~H22年(2010) 12.6	本調査	平安時代および鎌倉・室町時代の集落跡および畑と考えられる畝状遺構が多数検出された。特筆される遺物として古代の天然アスファルトの塊が確認された。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明		823㎡		〔前山ほか2012〕		調査区位置図については第6図参照。
第19次	12次	H23年(2011) 4.11~H23年(2011) 12.14	本調査	6・8・9区の調査。第17次調査の継続である6区下層では縄文時代晩期後半の遺構・遺物が確認された。8・9区では奈良・平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。9区で確認された方形の溝や小溝は、畑に関連する遺構と考えられる。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市文化財センター 潮田憲幸	6・8・9区	5,330㎡		〔本書(6区除く)〕		
第20次	13次	H24年(2012) 4.11~H24年(2012) 10.18	本調査	9区の調査。第19次調査の北側にあたる。奈良・平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。掘立柱建物19棟や井戸71基などが確認された。生産遺構が中心の南側の第19次調査地に対し、居住域を中心とした場所である。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市文化財センター 潮田憲幸	9区	2,612㎡		〔本書〕		
第21次	14次	H25年(2013) 4.15~H25年(2013) 9.19	本調査	8区の調査。第19次調査8区の北側にあたる。奈良・平安・鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。掘立柱建物9棟や井戸51基などが確認された。微高地に位置し、居住域にあたる。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市文化財センター 相田泰臣	8区	2,130㎡		〔本書〕		
第22次		H26年(2014) 6.25~H26年(2014) 6.27 H26年(2014) 7.1	確認調査	奈良・平安時代の遺構・遺物が確認された。大沢谷内遺跡北西地域の広がりを確認。畑に関連した遺構の可能性のある格子状の小溝を確認。	農免道路建設	新潟市	新潟市歴史文化課 朝岡政康		113㎡	1~17T			調査区位置図については第6図参照。

※以上の調査履歴は2015年3月現在までのものである。

※160~167Tは欠番。

大沢谷内北遺跡調査履歴

通算調査回数	一般国道403号小須戸上バイパスに伴う発掘調査回数	調査年次	調査種別	主な成果	調査原因	調査主体	担当	調査区	調査面積	トレンチ番号	文献	旧遺跡名	備考
第2次	2次	H17年(2005) 10.17・18	確認調査	縄文時代晩期中葉の土器がまとめて出土した。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		160㎡	100~106T			大沢谷内遺跡第5次調査が1次調査を兼ねる。
第3次	3次	H19年(2007) 6.18~12.28	本調査	上層で中世の、下層で縄文時代の遺構・遺物が確認された。遺跡の中心は縄文時代で、晩期中葉後半の短期間に限定される。	一般国道403号小須戸上バイパス	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明		3,043㎡		〔前山・伊比ほか2010〕		

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

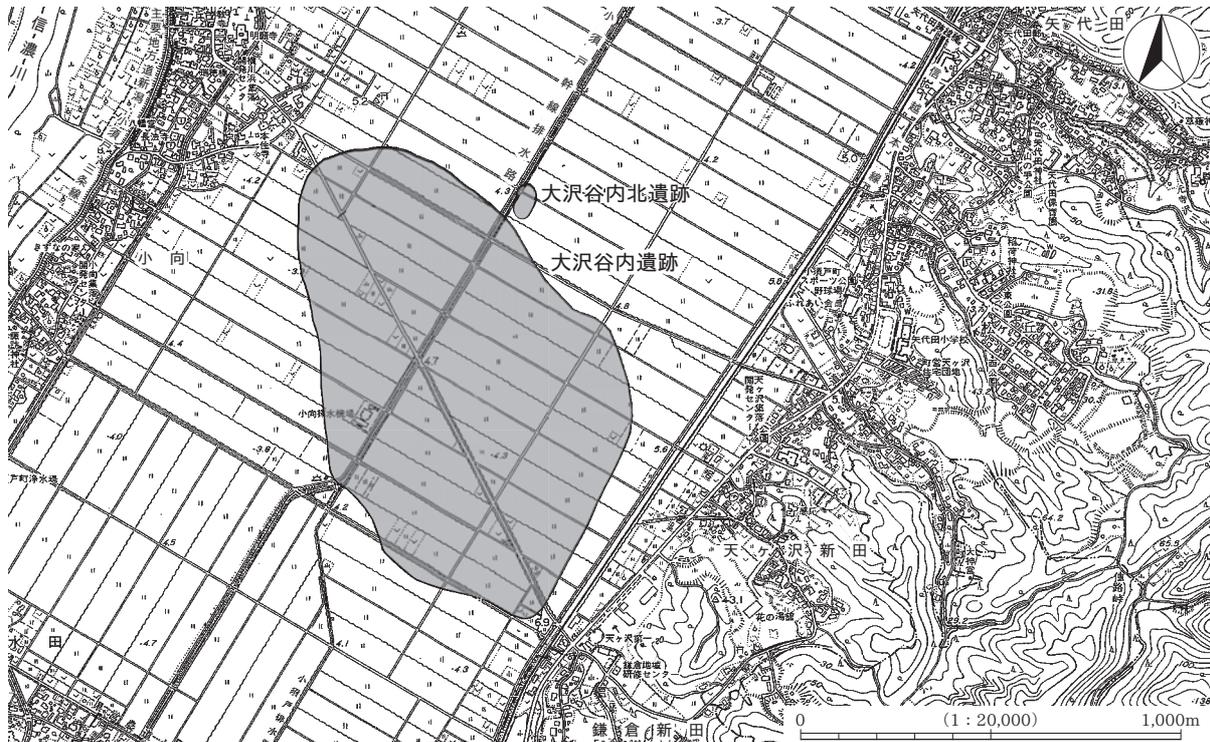
### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

大沢谷内遺跡は新潟市秋葉区に所在する。この秋葉区というのは、平成17年の合併前の旧新津市と旧中蒲原郡小須戸町（以下本章、旧小須戸町）にあたり、大沢谷内遺跡は旧小須戸町に位置することとなる。

旧小須戸町の隣接市町村は北に旧新津市、東に新津丘陵を挟んで五泉市と接し、南は南蒲原郡田上町（以下本章、田上町）と、西側は信濃川中央部を境に旧白根市（現新潟市南区）と接する。旧小須戸町は、南北に水田がひろがり、東が新津丘陵、西が信濃川という環境となる。その中で大沢谷内遺跡は、遺跡のほぼ中心からいずれも直線距離で東に1km程で新津丘陵、西に1.5km程で信濃川があり、北に23.5km程度で日本海に至る。このような地理的環境について、東側の丘陵から西側の信濃川に向かって順に記述していく（第2図）。

新津丘陵とは南南西から北北東に長くのび、南限は加茂川とされる山地・丘陵である〔鈴木1989、鈴木1993〕。狭義の新津丘陵を示す範囲も別にあるが、本書ではこの加茂川以北を指す名称として使用する。新津丘陵南西部には南側から護摩堂山（標高268m）・高立山（276m）・菩提寺山（248m）・金比羅山（134m）と山地があり、高立山から北側に向かって標高が低くなる。その山地の周囲に起伏の少ない丘陵がみられ、金比羅山寄りでは標高100mくらい、北端の秋葉山付近では標高70～80mと低下する。

この新津丘陵は「新津油田」という新潟県内でも代表的な油田があり、平成8年まで操業が行われていた。新津油田の幕開けは真柄仁兵衛の油井発見にはじまり、慶長18（1613）年に真柄仁兵衛が新発田藩へ草水採掘を願い出て、許可を受けている。この時の草水の出る所とした中には、旧小須戸町の天ヶ沢が含まれており〔佐藤1983、新潟市2008〕、現在でも大沢谷内遺跡北東の鎌倉新田地内では原油が湧出している〔前山ほか2012〕（図



（新潟市地形図2008年 1/10,000→1/20,000 一部改変）

第1図 大沢谷内遺跡位置図



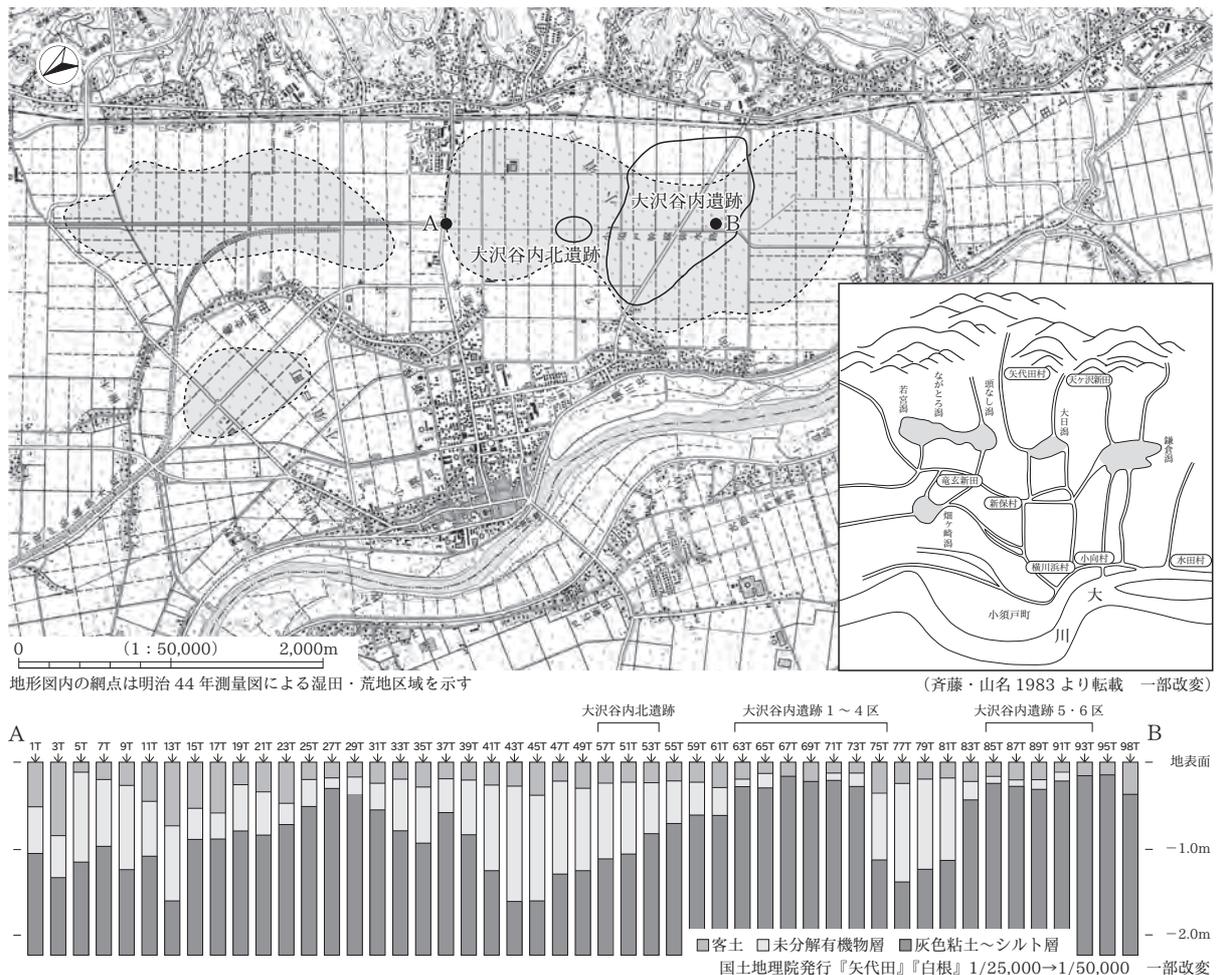
第2図 大沢谷内遺跡周辺の地形分類図

版2)。また、これまでの大沢谷内遺跡の発掘調査からもアスファルトの塊が多く見つかっており、古いものは縄文時代晩期にまで遡る〔細野・伊比ほか2012、前山ほか2012〕。

この丘陵の縁辺部には連続性のない段丘・台地が分布している。このような段丘面は平坦ではあるが、開析が進んでおり、樹枝状の谷が深くまで発達している。この樹枝状の谷を埋めているのが谷底平野であり、この谷底平野から西側へ沖積地がひろがっていく。現在は段丘・台地縁辺部の比較的平坦な場所にJR信越本線が敷設されており、旧小須戸町唯一の駅である矢代田駅が存在する。なお新発田市立図書館蔵の元禄年間（1688～1704年）作成とされる「新津組・小須戸組絵図」には、山側を通過し三国街道につながる街道が太い線で描かれており、また黒の細い線で村々を結ぶ道路が描かれている〔齊藤1983b〕。

一方、遺跡の立地する現在水田となっている沖積地には、かつて鎌倉潟や大日潟といった潟が存在していた。そのことは「新津組・小須戸組絵図」を略図化したものが『小須戸町史』に掲載されており〔齊藤・山名1983〕、これに加筆し、明治期の地図の湿田範囲と重ねてかつての潟の位置を概ね反映させたものが、既刊の大沢谷内遺跡報告書〔細野・伊比ほか2012、前山ほか2012〕、大沢谷内北遺跡報告書〔前山・伊比ほか2010〕に掲載されており、本書でも第3図として掲載している。大沢谷内遺跡では中世の遺構覆土に主として中世以降の堆積物である未分解有機物層が堆積しているものがあり、この未分解有機物層はかつての潟底堆積物の名残と考えられている〔細野・伊比ほか2012〕。つまり、ある段階で生成されたこれらの潟は、明治・大正の揚排水や昭和の耕地整理などにより乾田化され姿を消したと考えられる。さらに「新津組・小須戸組絵図」にはこれらの潟からの流路も見てとれる。

また、沖積地にはいくつかの自然堤防が形成されている。『小須戸町史』には、自然的な洪水のみではなく開発による流路の改変もふくめた歴史的にみた河道の変遷図が掲載されており、自然堤防を結ぶと横川浜―新保―



第3図 大沢谷内遺跡周辺の地形と層序（細野・伊比ほか2012より）

竜玄新田－浦興野－白井－笠巻－鷲ノ木などの集落沿いにかつての信濃川の1つの流れが推定されており〔斉藤・山名 1983〕、新保や竜玄新田周辺の自然堤防はこの流れにより形成されたと考えられる。

そして、旧小須戸町と旧白根市の境の位置には信濃川が流れている。この信濃川は、江戸時代には舟運が盛んであった河川であり、その河岸場町として栄えた旧小須戸町市街地は川沿いに発達している。そのことを示すように、旧小須戸町市街地にある茂林寺には南北朝期（1300年代）につくられたとされる国指定重要文化財、木造地藏菩薩半跏像がある。この像は、享保（1720年代）のころに小須戸組庄屋としての実力者であった坂井与次兵衛が御所納米積船支配として浪花の港へたびたび往復しており、ある時この像を浪花で譲り受け、海路で新潟、新潟から信濃川を上って小須戸に到着し、茂林寺に寄進したとされている〔溝口・山名 1983〕。

このような環境の中に大沢谷内遺跡はある。大沢谷内北遺跡を含めて考えても、櫂や井戸枿材に転用された舟の出土などから、水上交通をいかした遺跡であったことは明らかであろう。

## 第2節 周辺の遺跡

ここでは旧小須戸町を中心にした時代ごとの周辺の遺跡について触れる。必要に応じて平成17年の合併前または合併後の隣接市町村などの遺跡も紹介する（第4・5図、第2・3表）。

【旧石器時代の遺跡】 旧石器時代の遺跡は旧小須戸町では確認されていない。秋葉区では旧新津市の秋葉遺跡〔前山 2014〕、草水町2丁目竈跡〔新潟市 2007〕、古津八幡山遺跡〔渡邊・立木ほか 2001〕で旧石器時代の石器が確認されている。この3遺跡は新津丘陵上に立地している。

【縄文時代の遺跡】 旧小須戸町の範囲では6遺跡確認されている。立地としては沖積地・自然堤防上・丘陵上となる。時期の古い順に、段丘上に立地する三沢原遺跡が縄文時代前期〔中島 1983〕、信濃川沿いに位置する縄文時代中期前葉の土器が少量出土した横川浜堤外地遺跡〔中島 1983、前山ほか 2012〕があり、沖積地に晩期中葉前半の大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか 2012〕、晩期中葉後半の大沢谷内北遺跡〔前山・伊比ほか 2010〕が存在する。その他に江先遺跡・鎌倉新田居村遺跡が縄文時代の遺跡として存在する。

近隣での代表する遺跡は、旧新津市にある早期の愛宕澤遺跡〔立木・澤野ほか 2004〕、中期から後期では平遺跡〔川上・遠藤ほか 1983〕、秋葉遺跡〔新潟市 2007〕、また中・後期から晩期まで継続する原遺跡〔新潟市 2007〕がある。田上町にも中期の古屋敷遺跡〔中島ほか 1976b〕、後期後葉を中心とした川船河遺跡〔伊藤 1996〕、晩期の保明浦遺跡〔田畑 1993・1996・2003・2004〕がある。周辺の遺跡を含めてみても立地は丘陵や段丘部が中心となろう。

【弥生時代の遺跡】 大沢谷内遺跡から弥生時代後期の土器が少量確認されている〔川上 1989、細野・伊比ほか 2012〕。ほかに大沢谷内北遺跡も弥生時代の遺跡として登録されており、いずれも沖積地に立地している。この時代の代表的な遺跡をみると、旧新津市にある弥生時代後期から終末期の高地性環濠集落である古津八幡山遺跡〔渡邊・立木ほか 2001・2004、相田・渡邊ほか 2014〕や、田上町にある後期前葉の中店遺跡〔中島ほか 1976a〕があげられる。弥生時代も丘陵付近で遺跡数が多い。

【古墳時代の遺跡】 大沢谷内遺跡から古墳時代前期の遺物が少量出土している〔細野・伊比ほか 2012〕。近隣市町村では、墳墓は旧新津市にある古墳時代前期末から中期初頭に築造されたと考えられる古津八幡山古墳〔相田・渡邊ほか 2014〕、田上町に古墳時代前期と考えられるエゾ塚古墳〔川上 1994〕があり、丘陵上に造営されている。集落は古津八幡山古墳とほぼ同時期で、かつ近くの丘陵裾部に位置する舟戸遺跡〔川上 1995〕がある。沖積地では旧新津市の沖ノ羽遺跡〔星野・石川ほか 1996、立木・澤野ほか 2008、遠藤・澤野ほか 2014〕、中田遺跡〔笹澤〔諫山〕 2009〕などが見られる。

【古代の遺跡】 大沢谷内遺跡では飛鳥～平安時代の遺構・遺物が確認され、中でも飛鳥時代の7世紀後半の集落跡と祭祀場の代表例としてあげられる。溝によって区画され、また九九木簡や斉串や刀形などの木製品や土製の孔円盤などが出土した祭祀場からなり、一種の官的要素を担っていたと考えられ一般集落とは異なる面を



第4図 周辺の遺跡分布図1 (縄文・弥生・古墳)

持っている〔細野・伊比ほか2012〕。近隣でもこの7世紀代の遺跡は非常に少ないが、田上町に平成25年に調査された行屋崎遺跡〔春日・伊藤2014〕がある。飛鳥時代を中心とした遺跡であり、大沢谷内遺跡の中心付近から直線距離で約1.5kmの位置にあることから関連性が注目される。また、旧小須戸町の古代の遺跡で沖積地に分布する遺跡は大沢谷内北遺跡、東腰付遺跡が確認されており、横川浜堤外地遺跡でも平安時代の遺物が確認されている〔中島1983〕。ほかには浦興屋遺跡が立地している。

一方で、丘陵付近には浦ノ沢遺跡、三沢B遺跡、鎌倉新田居村遺跡、六兵衛沢窯跡などで遺物が確認されている。六兵衛沢窯跡は、旧小須戸町の新津丘陵西側でも8世紀代に須恵器生産が行われていたことを示唆するものと考えられる〔川上1989、細野・伊比ほか2012〕。ちなみに旧新津市の新津丘陵北東斜面には新津丘陵窯跡群が存在する。また旧新津市の新津丘陵北西側では金津丘陵製鉄遺跡群があり製鉄炉と木炭窯が確認されている〔川上1996、渡邊・小田ほか1997、渡邊・穴澤ほか1998〕。新津丘陵一帯は手工業生産の場となり、平野部に集落の遺跡数が飛躍的に増加する。

【中世の遺跡】 沖積地に大沢谷内遺跡と大沢谷内北遺跡、横川浜堤外地遺跡がある。丘陵には城館跡、寺院跡、石仏、製鉄跡、塚がある。城館跡は西紙屋山城跡、五本田館跡〔阿部・山名1983〕がある。寺院跡は専寺跡が、石仏は西善寺石仏が登録されている。製鉄跡は三沢A遺跡がある。『小須戸町史』には地名である三沢付近で鉄滓と考えられるものが出土することや、三沢地内の県道改良工事に伴ってタタラの跡もみられるとある〔阿部・山名1983〕。中世として登録されているが、古代の金津丘陵製鉄遺跡群の存在から、古代または中世という見解もある〔川上1989〕。塚は九つ塚が発掘調査されている〔川上・青木1987〕。明治26(1883)年ごろまでは塚が9基あったといわれており、昭和61(1986)年に3基確認されている。この3基確認された年に発掘調査された1号塚は、出土した鉦鼓の推定年代から14世紀後半以降に築かれたものと考えられ、他の2基は測量調査のみであるため築造年代などは不明である〔新潟市2007〕。

近隣の中世遺跡の代表的なものは、田上町の丘陵上に護摩堂城跡がある。集落遺跡は旧白根市にある13世紀後半から14世紀前半と集落と、15世紀から16世紀前半の集落である馬場屋敷遺跡〔川上・遠藤ほか1984〕がある。また、旧新津市の細池寺道上遺跡では中世の集落部の様子がしだいに判明してきており〔潮田2014、立木・相澤(高野)2014〕、旧新津市の細池遺跡〔小池・須藤ほか1994〕では中世の圃場跡と思われる凹地遺構がみつまっている。

【近世の遺跡】 旧小須戸町の範囲では近世の遺跡は確認されていない。近隣では、14世紀の集落の一部も明らかになった旧新津市の江内遺跡〔石山・春日ほか1996〕で17世紀前半の集落の一部が見つかっている。

【不明】 時代不明の遺跡として段丘上に三沢塚(円塚古墳)、沖積地に杉行塚、榎行塚がある。三沢塚(円塚古墳)は九つ塚の東側に立地しており、古墳の可能性があるとされている直径約19mの円形の塚状遺構であるが、未調査のため詳細は不明である〔新潟市2007〕。また、杉行塚は方形土壇(方10m)、榎行塚は方形土壇(方7m)と九つ塚報告書内の周辺遺跡一覧表に記載されている〔川上・青木1987〕が築造時期などは不明である。

第2表 大沢谷内遺跡周辺の縄文・弥生・古墳時代の遺跡

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	結	古墳	24	二百刈	縄文	45	糠吐	縄文	68	花立	縄文	91	中江橋	古墳
2	中田	古墳	25	江先	縄文	46	長沢	古墳	69	加茂市役所	縄文(中・後)	92	浦西	古墳
3	結七島	古墳	26	下谷地	縄文	47	三波	縄文	70	遊覧場	縄文	93	宮古	縄文(中)
4	内畑	古墳	27	鳥撃場	縄文(後)	48	古屋敷	縄文(前・中)	71	桜沢	縄文	94	八幡手	縄文(後)
5	中谷内	古墳	28	沖田	縄文	49	土居下	古墳	72	岩野原A・C・D	縄文(中・後・晩)	95	八幡	縄文
6	上浦B	古墳	29	古津八幡山古墳	古墳	50	新川	縄文	73	岩野原B	縄文(中)	96	南谷地西	縄文
7	沖ノ羽	古墳	30	古津八幡山	縄文(後)・弥生・古墳	51	塚野	縄文(中・後)	74	七谷忠魂碑	縄文(中・後)	97	住言田南	古墳
8	山谷北	古墳	31	高矢A	縄文(後)	52	川ノ下	縄文(後)	75	松ヶ沢	縄文(中)	98	五百地	縄文
9	大野中	縄文(中・後)	32	埋葬地	縄文	53	半ノ木	縄文	76	猿毛山	縄文(前・後)	99	大倉山	弥生
10	秋葉	縄文(中・晩)・弥生	33	居村E	縄文(中・後)	54	保明浦	縄文(晩)	77	下土倉	縄文(前・中)	100	四十九沢	縄文
11	味方排水機場	縄文(中)	34	居村C	縄文(中・後)	55	川船河	縄文(中・後・晩)	78	牧	縄文(中・後・晩)	101	赤坂	縄文(前・中・後)
12	山崎	縄文(後)	35	居村B	弥生	56	陣ヶ峰北	縄文(中・後)	79	大坪I・II	縄文	102	巳ノ明・新田	縄文(中・後)
13	城見山	縄文(後)	36	三沢原	縄文(前)	57	石川	古墳	80	岡屋敷	縄文(晩)	103	賀下	縄文(晩)
14	沢海	縄文(後)	37	十ヶ沢	縄文(後)・弥生	58	釜淵	古墳	81	野入I・II	縄文	104	下野山	縄文(後)
15	原	縄文(中・後・晩)	38	坪ヶ入	縄文	59	馬寄	古墳	82	一ノ沢	縄文	105	藏訪田	弥生
16	東島大道下	古墳	39	横川浜堤外地	縄文(中)	60	丸瀨	古墳	83	寺田	縄文(晩)	106	小実山	縄文(中・後・晩)・弥生
17	舟戸	弥生・古墳	40	大沢谷内北	縄文(晩)	61	白山A	古墳	84	寺田A	弥生	107	平	縄文(中・後)
18	塩辛	弥生・古墳	41	大沢谷内	縄文(後)・弥生・古墳	62	白山B	古墳	85	羽場山	縄文	108	居平	縄文(中)
19	山脇	古墳	42	五社神社	縄文(後)	63	割前	古墳	86	刈羽	縄文	109	愛宕澤	縄文(草)
20	平林	縄文	43	中店	弥生	64	吉津川	弥生・古墳	87	ガイ方沢	縄文	110	草水町2丁目	縄文(前)
21	山境	縄文(前・中)・弥生	44	向原敷	縄文	65	新田川	古墳	88	大沢洞穴	縄文(後)			
22	森田	弥生・古墳				66	石川	弥生・古墳	89	大沢峠	縄文(中)			
23	高矢C	古墳				67	福島甲	縄文	90	上ノ坪南	古墳			



第5図 周辺の遺跡分布図2 (古代・中世)

第3表 大沢谷内遺跡周辺の古代・中世遺跡

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	林業等の五輪塔	中世(室町)	61	城見山	古代・中世	127	御沢	古代	196	庄瀬跡	中世(室町)	262	川端南	古代(平安)
2	川原畑	中世	62	東島城跡	中世(室町)	128	舞臺	古代・中世	197	元屋敷	中世	263	中坪	古代(平安)
3	下等別当	古代・中世	63	大坪	古代(奈良・平安)	129	宮山貴船神社	古代・中世	198	大開館跡	中世	264	笹野A	古代(平安)
4	長沼	古代(飛鳥・平安)・中世(鎌倉)	64	東島大道下	古代・中世	130	青海神社	古代・中世	199	諏訪畑	古代(平安)	265	浦	古代(平安)
5	結	古代(奈良)	65	山脇	古代(平安)	131	板沢	古代	200	小突山	古代(平安)	266	夜明南	古代
6	結七島	古代	66	森田	古代(平安)・中世	132	小貫	古代	201	船越古銭出土地その1	中世	267	上ノ坪	古代(平安)
7	内畑	古代(平安)	67	塩辛	古代・中世	133	轟	古代				268	家の浦	中世
8	中谷内	古代(奈良・平安)・中世	68	舟戸	古代(奈良・平安)	134	神裏	古代	202	船越古銭出土地その2	中世	269	山ノ入	古代(平安)・中世
9	上浦A	古代(平安)	69	二戸	古代	135	芦ノ出	古代・中世				270	山ノ入南	古代(平安)・中世
10	上浦B	古代	70	吉津八幡山	古代(奈良・平安)	136	尼寺	古代・中世	203	山崎窯跡	古代(奈良・平安)	271	上江	古代
11	川口乙	古代(平安)	71	吉津初越AB	古代(奈良・平安)	137	天神口	古代・中世	204	寛下	古代(奈良・平安)	272	中江	古代(平安)
12	川口甲	古代(平安)	72	金津初越AB	古代(奈良・平安)	138	十二ノ木	古代(奈良・平安)	205	中野	古代(奈良・平安)	273	中江北	古代(奈良・平安)
13	江内	古代(平安)・中世	73	大入	古代(奈良・平安)	139	穴田	古代(奈良・平安)	206	村付	古代(奈良・平安)	274	笹野町B	古代(平安)
14	沖ノ羽	古代・中世	74	居村C	古代(奈良・平安)	140	ニッ山	古代(奈良・平安)	207	五泉城跡	中世(室町)	275	大田北	古代(平安)
15	内野	古代(平安)・中世	75	居村B	古代(奈良・平安)	141	六角田	古代(平安)	208	丸田石仏群	中世	276	城下西	古代(平安)
16	居屋敷跡	古代・中世(鎌倉～室)	76	居村A	古代(平安)	142	石川	古代	209	館之内宝篋印塔	中世	277	城下北	古代(平安)
17	寺島	古代(平安)・中世(鎌倉)	77	神田	古代(奈良・平安)	143	ヨモギ田	古代(平安)	210	堤	中世	278	城下東	古代(平安)
18	無頭	古代(平安)	78	三沢B	中世(室町)	144	第四中学校脇	古代(平安)・中世	211	丸田館跡	中世(室町)	279	城下	古代(平安)
19	山王浦	古代(平安)	79	三沢A	古代(平安)	145	坪ノ尾	古代(平安)	212	延命寺石仏群	中世(室町)	280	太田中	古代(平安)
20	大下	古代(平安)	80	了専寺館	中世	146	反田	古代(平安)・中世(室町)	213	金津城跡	中世(室町)	281	太田東	古代(平安)
21	久保	古代(平安)	81	西善寺石仏	中世	147	中谷地	古代(平安)	214	大倉山尼寺跡	中世	282	山ノ南	古代(平安)
22	大野中	古代(平安)	82	五本田館跡	中世(室町)	148	福島甲	古代	215	道金	古代(奈良・平安)	283	茨塚	古代(平安)
23	下久保	古代(平安)	83	東腰付	古代(平安)	149	花立	古代	216	丸田	古代(平安)	284	一本杉西	古代(平安)
24	道上	古代(平安)	84	横川浜堤外地	中世(室町)	150	山通	古代	217	榎表	古代(奈良・平安)・中世	285	一本杉北	古代(平安)
25	盛岩寺石仏	中世	85	大沢谷内北	古代(平安)	151	六反田	古代(平安)	218	榎表南	中世(鎌倉・室町)	286	一本杉	古代(平安)・中世
26	細池寺道上	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	86	大沢谷内	古代(飛鳥・奈良・平安)・中世(室町)	152	安曲	古代(平安)	219	福島	古代(奈良・平安)・中世	287	山ノ前	中世
27	西江浦	古代(平安)	87	六兵衛沢	古代(平安)	153	新堀	古代	220	ソブタ	古代(奈良・平安)	288	清水寺板碑	中世(室町)
28	尻地の塚	中世(室町)	88	西紙山館跡	中世	154	馬越	古代・中世	221	石ノ子	古代(奈良・平安)	289	正門寺板碑群	中世(鎌倉)
29	愛宕澤	古代(平安)・中世	89	浦ノ沢	古代	155	新田川	古代(平安)	222	段ノ越	古代(奈良・平安)	290	茨塚東	古代(平安)
30	草水町2丁目窯跡	古代(平安)	90	行屋崎	古代(飛鳥・奈良・平安)	156	水久保	古代(平安)	223	江中	古代	291	諏訪通	古代(平安)
31	草水町1丁目窯跡	古代(平安)	91	護摩堂城跡	中世(室町)	157	谷地	古代(平安)	224	新保北	古代(平安)	292	寺田B	古代(平安)
32	滝谷窯跡	古代(平安)	92	山田古銭出土地	中世(鎌倉)	158	川東	古代(平安)	225	新保	古代(奈良・平安)	293	反橋	古代(平安)
33	七本松窯跡群	古代(平安)	93	諏訪の前	古代(鎌倉)	161	来迎寺	古代(平安)・中世	226	橋田A	古代(奈良・平安)	294	寺田野田	古代
34	秋葉2丁目窯跡	古代(平安)	94	中橋	古代(平安)	162	井栗乙郷	古代(平安)	227	橋田B	古代(奈良・平安)	295	野田	古代(奈良・平安)
35	小手平	古代(平安)	95	下屋敷	古代(平安)	163	水久保	古代(平安)	228	橋田C	古代	296	寺田	古代(平安)
36	秋葉	古代(奈良・平安)	96	新川	古代(平安)	164	五郎田	古代(平安)	229	中目	古代(平安)	297	宮ノ前	古代
37	程島窯跡	中世(室町)	97	糖吐	古代(平安)・中世	165	梅田	古代(平安)	230	南谷地西	古代(平安)	298	大ハゲⅢ	古代(平安)・中世
38	本町石仏	中世	98	三波	古代(平安)	166	石田	古代(平安)	231	俣住城跡	中世(室町)	299	青橋浦南	古代
39	埋堀	中世	99	土居下	古代(平安)	167	藤ノ木	古代(平安)・中世	232	住吉田	古代(奈良)	300	菅ノ町	古代(平安)
40	萱免	古代	100	館外	古代(平安)	168	割前	古代(平安)	233	香形北Ⅰ・Ⅱ	古代(平安)	301	谷地	古代(奈良・平安)
41	新津城跡	古代(平安)・中世(室町)	101	田上館跡	中世(室町)	169	白山B	古代(平安)	234	香形西Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	古代(平安)	302	五郎一	古代(平安)・中世
42	諏訪神社石仏	中世	102	館内	古代(奈良・平安)	170	白山A	古代(平安)	235	香形中Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	古代(平安)	303	青橋浦西	古代
43	腰廻	中世(室町)	103	二段あげ	古代(平安)	171	西吉津	古代	236	三軒屋	古代(平安)	304	寺下	古代
44	浄楽	中世(室町)	104	ガンゴウ寺	古代(平安)	172	横土居	古代	237	香形東	古代(平安)	305	ハケツ下	古代
45	西沼	古代(平安)	105	上谷地	古代(奈良・平安)	173	稲荷浦	古代	238	香形免東	古代(平安)	306	八角	中世
46	小戸下組	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	106	中谷内	古代(奈良・平安)	174	掘割	古代	239	小新保東	古代(平安)	307	中丸北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	古代(平安)・中世
47	長左工門沼	古代(平安)	107	半ノ木	古代(奈良・平安)	175	境田	古代	240	小新保中	古代(平安)	308	中丸南	古代(平安)・中世
48	川根	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	108	八反田	古代(奈良・平安)	176	鬼倉	古代	241	番文免中	古代(平安)	309	中丸Ⅰ・Ⅱ	古代
49	下榎ノ木	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	109	竹ノ花	古代(奈良・平安)	177	中沢	古代・中世	242	小新保西	古代(平安)	310	中丸西	古代
50	曾根	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	110	保明浦	古代(奈良・平安)	178	八反田	古代・中世	243	本久	古代(平安)	311	出戸	古代
51	浦興野	古代	111	川成	古代(奈良・平安)	179	五反田	古代・中世	244	番文免西	古代(平安)	312	十二南Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	中世
52	味方用水路	古代(平安)	112	羽生田中谷地	古代(奈良・平安)	180	稲荷面	古代・中世	245	香形南	古代(平安)	313	十二北	中世
53	江向	中世(鎌倉)	113	向田	古代(奈良・平安)	181	釜淵	古代	246	坪子東	古代(平安)	314	牧城跡	中世(室町)
54	前	中世(鎌倉)	114	古江端	古代(奈良・平安)	182	長寄	古代	247	坪子西	古代(平安)	315	寺下	中世
55	裏廻	中世(鎌倉・室町)	115	村裏	古代(奈良・平安)	183	石川	古代・中世	248	町屋六条	古代・中世	316	諏訪下	中世
56	中郷	古代(平安)	116	吉田上谷地	古代(奈良・平安)	184	舟戸	古代・中世	249	下ノ坪北	古代(平安)	317	丸山西	古代
57	吉通	古代(平安)	117	羽生田城址	古代(平安)	185	丸瀧	古代・中世	250	下ノ坪南	古代(平安)	318	丸山東	中世
58	西島中谷内	古代(奈良・平安)	118	横手下	古代(奈良・平安)	186	大塚	古代(平安)	251	下ノ坪	古代・中世	319	向山	中世
59	榎大門	古代(平安)	119	大坪	古代(奈良・平安)	187	菅瀧	古代	252	下ノ坪Ⅱ	中世	320	大浦原庚塚	古代
60	西島館跡	中世	120	沼田	古代(奈良・平安)	188	鬼館跡	中世(室町)	253	中ノ坪	古代(平安)	321	原	古代
			121	大道上	古代(奈良・平安)	189	仲作	中世(室町)	254	中ノ坪東	古代	322	戸倉城跡	中世(室町)
			122	白地	古代(奈良・平安)	190	嵐瀧	中世(鎌倉)	255	坪子西	古代(平安)	323	勝泉寺	中世(鎌倉)
			123	道下	古代(奈良・平安)	191	下田保	中世	256	中ノ坪南Ⅲ	古代	A	榎行塚	
			124	陣ヶ峰北	古代	192	戸石基	中世(室町)	257	中ノ坪南	古代(平安)	B	杉行塚	
			125	陣ヶ峰	古代	193	馬場屋敷	中世(室町)	258	中名沢	古代(平安)	C	九つ塚	
			126	千刈北	古代	194	若宮様	中世(室町)	259	夜明	古代(平安)	D	三沢塚	
						195	興野	中世(室町)	260	千原	古代(平安)			
									261	川端北	古代(平安)			

### 第3節 歴史的環境

ここでは主に文献・文字資料などにに基づき旧小須戸町の歴史を簡単ではあるが記述する。なお、本報告の大沢谷内遺跡が古代・中世が主体であるため、ここでは古代・中世を中心に述べる。

大沢谷内遺跡の立地する旧小須戸町は古代では蒲原郡に属していたとされる。そもそも越後国は持統6(692)年ごろまでは阿賀野川周辺以北であった。その後、大宝2(702)年に越中国から頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡が越後国に編入された。持統6年ごろから大宝2年までの越中国であった時代の蒲原郡の管轄範囲は、平成17年の合併前の旧中蒲原郡・旧西蒲原郡・旧南蒲原郡の1帯と考えられている(小林1995)。さらに『東蒲原郡史』によれば、阿賀野川を越中国と越後国の国境や、その後の蒲原郡と沼垂郡の郡境にするよりは丘陵尾根で境にし

たほうが合理的な境界であるとして、平成17年合併前の旧東蒲原郡も古代の蒲原郡の範囲内と考えられている〔相澤2012a・2012b〕。以上の事を合わせて考えると、古代の蒲原郡の範囲は概ね南は三条市近辺から北は阿賀野川周辺までの範囲と考えられる。

では郡の下部の行政単位である原則50戸からなる郷というものでは旧小須戸町はどこにあたるのか。10世紀前半の『和名類聚抄』には蒲原郡に日置・桜井・勇礼・青海・小伏の5つの郷が記載されている。5つの郷は地名や式内社、古墳・古代の遺跡の存在などから所在地が推定されている。桜井郷が弥彦村、勇礼・小伏郷が三条市周辺、青梅郷が加茂市周辺と考えられており、残る日置郷がどのあたりかということになる。『新津市史』では中世の公領の1つである金津保が旧新津市・旧小須戸町・旧五泉市の一部にまたがっていたことから、日置郷は新津市周辺と考えられている〔木村1993〕。一方で、『和名類聚抄』に記されたこの郷名の記載順には郡内における命令伝達経路と関係する一定の規則性があることなどを踏まえうえて、日置郷は信濃川河口付近から海岸砂丘地を経て角田山東麓にかけての地域としている解釈もある〔相澤2012b〕。このように諸説があり日置郷の位置は不確定であるが、平成25年度に新潟市西蒲区（旧西蒲原郡中之口村）に所在する下新田遺跡という古代を中心とした遺跡の発掘調査で、須恵器杯蓋に「日置」と書かれた墨書土器が出土しており、下新田遺跡周辺が日置郷の範囲であった可能性が考えられている〔新潟市教育委員会（新潟市文化・スポーツ部歴史文化課）2014〕。

以上のように古代の旧小須戸町が何れの郷に含まれていたかは文字資料からは不明な点があるが、大沢谷内遺跡が647年に造営された沼垂柵との関係が指摘され〔細野・伊比ほか2012〕、古代では一群一窯体制で行われていた須恵器生産の新津丘陵窯跡群の一角をなす可能性のある六兵衛沢窯跡の存在から、旧小須戸町近辺（大沢谷内遺跡周辺）は官と何らかの関係を想定できる重要な地域であったと思われる。

中世になると先述のように旧小須戸町は金津保に含まれるものと考えられる。旧小須戸町横川浜の本住寺には古い棟札が伝えられており、それは天文年中（1530～1534）の兵乱により荒廃した本住寺を永禄元（1558）年に再興した時のものとされている。当時のものとみるか検討が必要だが、「北陸道越後国蒲原郡金津保横河間長光山本住寺御堂之棟札也」と記されている。この「横河間」は横川浜のことであり、金津保に含まれていることとなる〔阿部1983、小須戸町教育委員会1993〕。また、かつて新津市誌に収載されていたという、上杉景勝の臣である河村彦左衛門が新津丹波守に宛てた年不詳11月9日付け『知行所之一札』には、金津保に新津丹波守が領有していた所領として「屋代」、「水田村」が記載されており、「屋代」が矢代田、「水田」はそのまま水田と、旧小須戸町の地名がみえる〔阿部1983、木村・田村ほか1989、田村1993〕。以上のような事から中世の段階で横川浜、矢代田、水田が金津保の範囲に含まれていたことを示すとすれば、旧小須戸町の大半は金津保であったと考えてよいのではないだろうかとされている〔阿部1983〕。

そこで、金津保の範囲から見てみることにする。「金津保」として文献で初めて登場するのは南北朝期の建武3（1336）年11月18日の『羽黒義成軍忠状写』であり、足利方の羽黒義成が「金津保新津城」に引き籠り新田方の小国政光ら敵方と戦ったことが記されている。この新津城の南北朝期の所在地は確定できないが、東島城・程島館・新津城（いずれも旧新津市）が候補地と考えられる〔木村・田村ほか1989〕。他の資料をみると、15世紀末から16世紀初頭段階の金津保内の状況を示す内容で、同時代頃に作成されたと考えられる『蒲原郡段銭帳』というものがある。この中での金津保内の在地領主の名前は村落名と共通している場合がかなりあることから、金津保の領内は旧新津市・旧小須戸町・旧中蒲原郡横越町（現新潟市江南区）・旧五泉市（現五泉市）などが範囲と考えられる。また、天正5（1577）年の『三条同名同心家風衆給分御帳』には「金津保内之内遊川」とあり「遊川」が現在の田上町湯川と考えられることから湯川は金津保内となる〔田村1993、山上1994〕。

いずれにしても戦国期までの資料を含めてみた場合、金津保は旧新津市金津付近を中心に、範囲は現在の秋葉区、江南区の一部、田上町の一部、五泉市の一部と考えられる。したがって旧小須戸町は金津保の範囲内と考えることができるであろう。

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 第1節 確認調査(第5・8次調査)

大沢谷内遺跡については、これまで22次に及ぶ発掘調査が行われている(第1表)。本書で報告する第19～21次調査は、いずれも小須戸バイパス整備工事に伴い実施した本発掘調査である。

第19～21次調査範囲(8・9区)にかかる確認調査は、平成16年度に小須戸町教委が実施した第5次調査、平成17年度に新潟市埋蔵文化財センターが実施した第8次調査が該当する(第6～8図)。

**第5次調査**(確認調査・2,136m<sup>2</sup>) 平成16年11月29日から翌平成17年1月6日にかけて、小須戸町教委が県教委の指導のもと小須戸バイパス建設予定地全域を対象として実施した確認調査である。99か所のトレンチ(1～99T)のうち24か所で遺構や遺物が確認された。

**第8次調査**(確認調査・771.4m<sup>2</sup>) 平成17年10月19日から12月2日にかけて、新潟市埋蔵文化財センターが実施した追加の確認調査である。46か所のトレンチ(100～145T)のうち、26か所で遺構や遺物が確認された。

### 第2節 本発掘調査

#### A 調査方法

##### 1) 現況

調査地は近世以後水田(一部畑)として利用されており、道路用地として所得した後は荒地であった。

##### 2) グリッドの設定(図版2・3)

平成17年の大沢谷内遺跡発掘調査(第7次調査)において、大沢谷内北遺跡を含め両遺跡全域を網羅するグリッドが設定されており、本書で報告する調査でもそれを踏襲した。基点は「1A」杭で、X座標193700.000、Y座標50200.000(世界測地系平面直角座標第8系)、緯度37°44′39.2346″、経度139°04′10.6492″である。基点に対し100m方眼の大大グリッド、さらにその中を10m方眼の大グリッド、さらにその中を2m方眼の小グリッドに分割した。

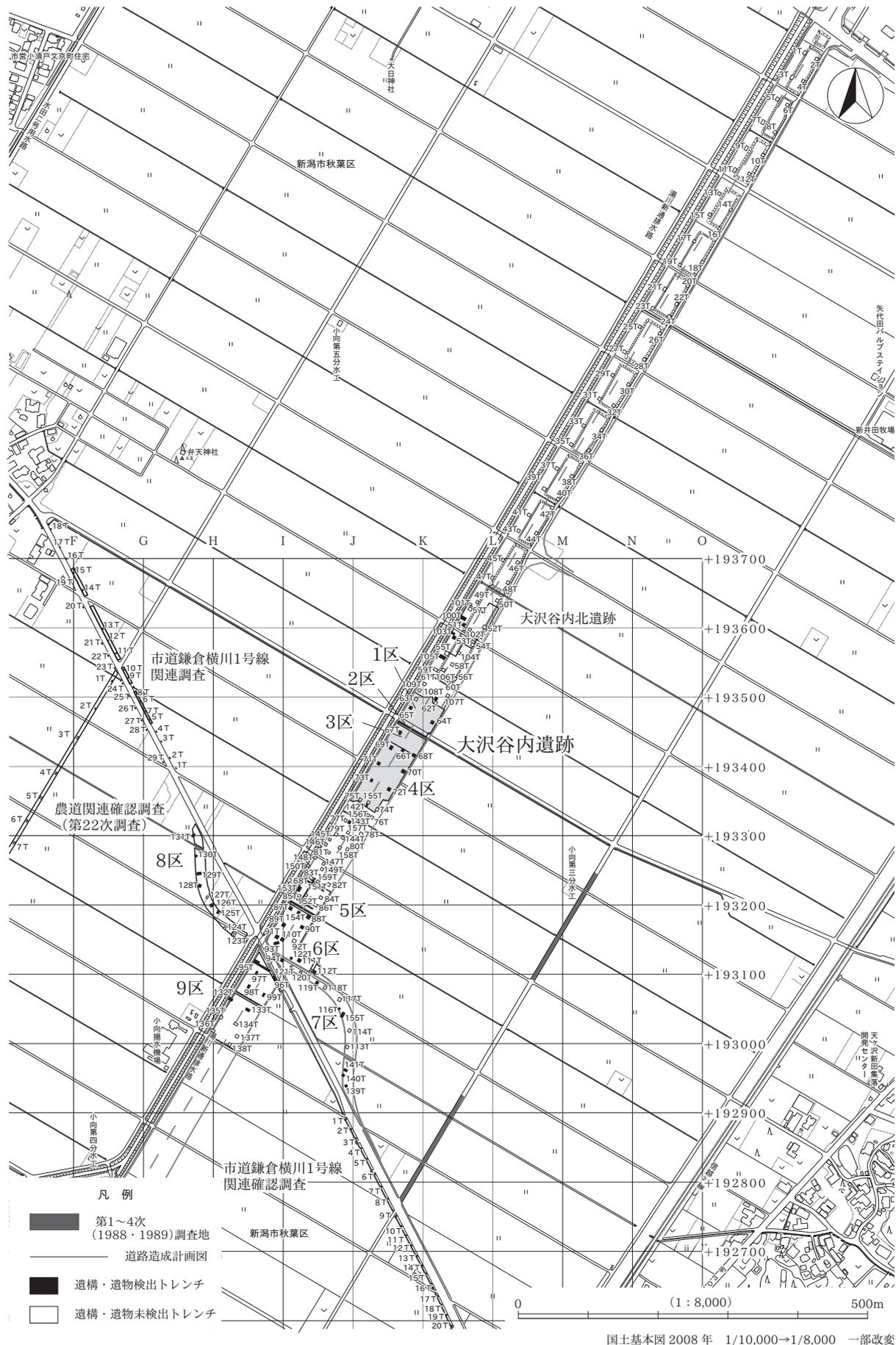
名称について、大大グリッドが1A杭を基点として東西方向をA～Oのアルファベット、南北方向を1～19のアラビア数字で示した。大グリッドは、大大グリッドの中を北西端を基点として東西方向にA～Jのアルファベット、南北方向を1～10のアラビア数字で示した。小グリッドは、大グリッド内を2m方眼で25のグリッドに分割し、1～25のアラビア数字を付けた(図版2・3)。表記は、「1A-1A1」、「15K-10J25」のように、「大大グリッドー大グリッド小グリッド」としている。

本書で掲載した8・9区内における任意のグリッド杭4点の座標は、6H-5D杭<第19次調査8区>(X座標:193160.000、Y座標:50930.000、経度37°44′21.5737″、経度139°04′40.3318″)、5G-6I杭<第21次調査8区>(X座標:193250.000、Y座標:50880.000、経度37°44′24.5030″、経度139°04′38.3123″)、7H-8D杭(第19次調査9区)(X座標:193030.000、Y座標:50930.000、経度37°44′17.570″、経度139°04′40.2991″)、7H-2G杭(第20次調査9区)(X座標:193090.000、Y座標:50960.000、経度37°44′19.2972″、経度139°04′41.5395″)であり、7H-2G杭の座標北は真北に対し0度21分15秒東偏し、磁北は真北に対し7度53分西偏する。

##### 3) 調査方法

本遺跡は上層(飛鳥時代～中世)と下層(縄文時代晩期中葉)からなる。弥生・古墳時代の遺物も出土しているが

第2節 本発掘調査

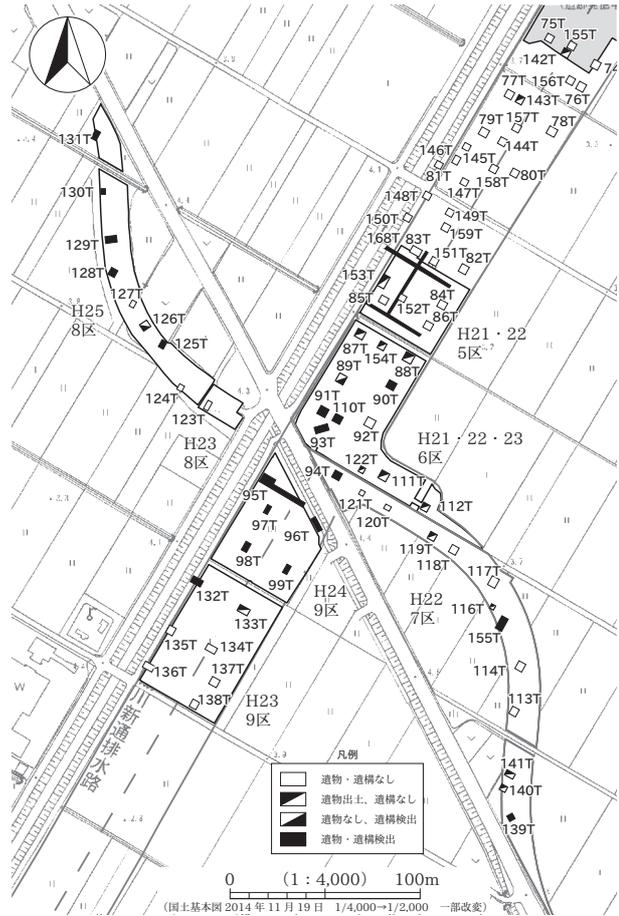


第6図 大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図1

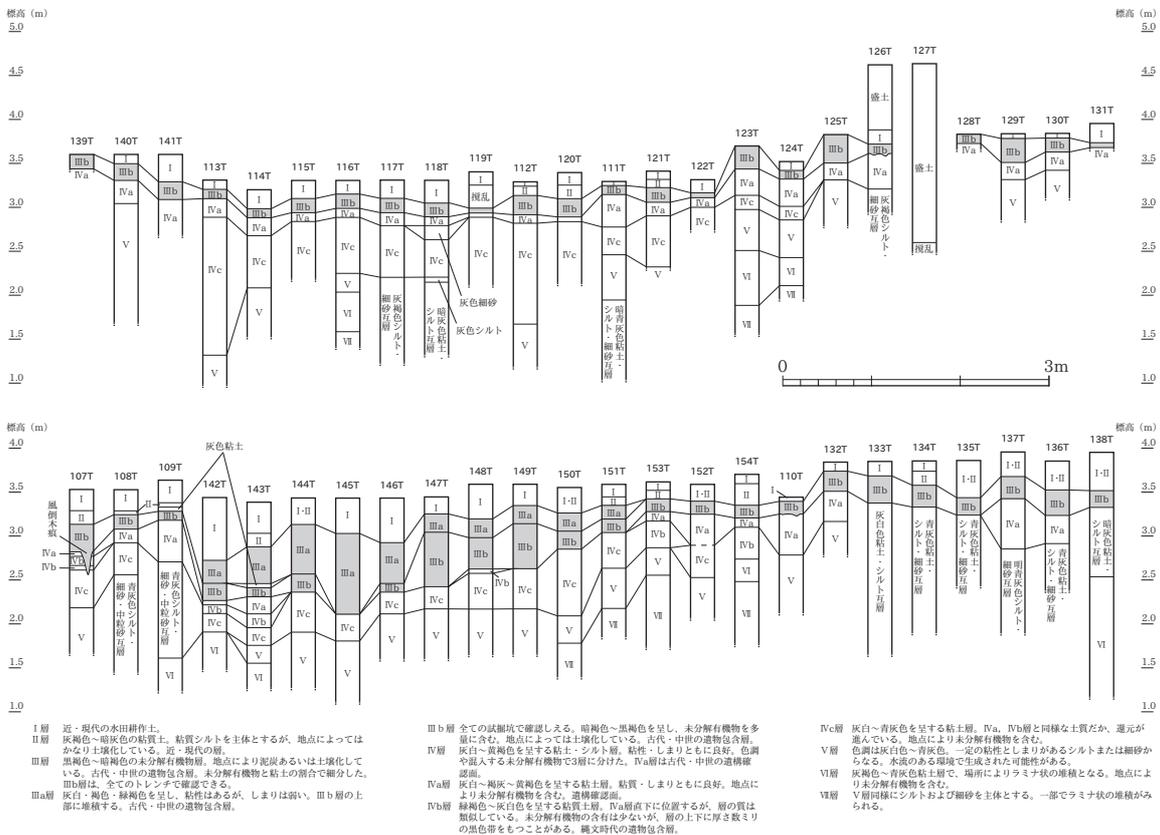
その量は少なく、また明確な遺構も確認されていないことから様相は不明である。

試掘・確認調査や本発掘調査の成果からは、下層の遺物や遺構は場所によって確認できない場合も多いことが分かっている。今回報告する8・9区の範囲において、確認調査（第5・8次調査）で縄文時代の遺物・遺構とも確認されていなかったが、いずれの調査においても上層の調査終了後に重機（バックホウ）によってトレンチ状に掘り下げを行い下層の有無の確認を行った。結果、8・9区とも下層の存在は確認されなかったため、8・9区の本発掘調査は上層に限定される。なお、8・9区では上層の遺物包含層や遺構から縄文土器が4点、石鏃が1点出土している。

① 表土除去 試掘・確認調査、既往の本遺跡上層の発掘調査成果によって遺物包含層（Ⅲ層）の標高がおおむね把握されていたため、Ⅰ層（表土・耕作土）・Ⅱ層（床土）を遺物の出土に注意しながら、Ⅲ層上面まで重機により除去した。法面は安全を考慮して一分の勾配をつけた。また、湛水防止のため、表土除去と並行して調査区の周囲に土側溝を掘り2



第7図 大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図2



第8図 土層柱状図

時のポンプで強制排水を行った。土側溝は幅40cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩落する恐れがあったため、壁面下場から50cmの間隔をあけたうえで、人力によりV字の溝を掘削した。また、9区では調査区内に幅約40cmの溝を約10mごとにグリッド状に掘り、排水・土層観察、下層の有無の確認を行った。

② 包含層調査・遺構検出・遺構調査 表土除去の後、ジョレン等を用いて人力で包含層の掘削・遺構の検出を行った。排土はクローラードンプ、人力で調査区外へ搬出した。遺構確認はIV層上面で行った。遺構調査中はベルトコンベアーにより排土を調査区外へ出した。なお、一部遺構については覆土を回収した後、土壌水洗によって微細遺物の抽出を行った。

③ 遺物の取り上げ 包含層出土遺物は基本的に小グリッド単位で取り上げた。遺構からの出土遺物は可能な限り層位・小グリッド単位で取り上げたほか、一部遺物についてはトータルステーションにより出土地点を記録した。

④ 遺構断面図・遺物微細図の作成 いずれも測量業者に委託して行い、調査員が現場で図面チェックを行った。遺構断面図は手取りにより1/20で作成し、平面図・各種測量点はトータルステーションを用いて取得したデータを基にCADで作成した。一部の遺物については微細図を作成した。遺物微細図は手取りまたは写真測量で作成した原図を調査員が修正・加筆した。

⑤ 写真撮影 層序・遺構・遺物出土状況などの写真撮影は、35mmリバーサルフィルム・モノクロフィルム、デジタルカメラを使用した。このうち特に重要と判断されるものについては6×7版リバーサルフィルム・モノクロフィルムを併用した。空撮は業者に委託して行った。

## B 調査経過

以下、本書報告分の8・9区の調査経過の概略について調査年度ごとに記す。

### 1) 第19次調査 (平成23年4月11日～平成23年12月14日 8・9区 調査面積：5,330m<sup>2</sup>)

第19次調査は、8・9区のほか6区下層の調査も行った。プレハブの設置・機材の搬入等は、平成23年4月11日～15日に行った。当初、文化財センターの調査担当1名、同調査員2名の計3名で開始したが、6月27日より民間調査員1名を増員した。6区下層については、平成23年4月15日から8月23日まで9区の調査と並行して現場作業を行った。

8区 10月17～20日に表土掘削を行った。10月21日より遺構精査及び遺構掘削を始める。11月9日、空撮を行った。

9区 4月18日から5月20日にかけて重機による表土掘削を行い、5月16日より表土掘削と並行して遺構精査及び遺構掘削を開始した。10月5日に空撮を行う。10月8日には9区の現地説明会を行った。10月19～21日に下層の有無の確認のためトレンチ調査を行った結果、遺構・遺物とも検出されず下層の調査は必要ないと判断された。なお、11月1日より、9区南端の発電機が設置してあった場所の発掘調査を行った。空撮は11月30日に行い、12月1日～5日にかけて下層の有無の確認のためトレンチ調査を行った結果、遺構・遺物とも検出されず下層の調査は必要ないと判断され、平成23年度9区の調査を終了した。

なお次年度調査の期間短縮のため、平成23年11月16日～12月14日の間、平成24年度の9区(第20次調査)調査予定範囲の表土掘削を重機により行い、その後全面に養生マットを敷設した。

### 2) 第20次調査 (平成24年4月11日～平成24年10月18日 9区 調査面積：2,612m<sup>2</sup>)

平成24年4月23日に機材の搬入を行い、4月24日より、調査区北側から人力による遺構精査・遺構掘削を始める。9月1日現地説明会を行う。9月3日、自然科学分析のための土壌サンプリングを行う。また、9月3日～9月7日にかけて、下層の有無の確認のためトレンチ調査を行った結果、遺構・遺物とも検出されず下層の調査は必要ないと判断し、現場作業を終了した。

### 3) 第21次調査 (平成25年4月15日～平成25年9月19日 8区 調査面積：2,130m<sup>2</sup>)

平成25年4月15日～4月18日に機材の搬入等の事前準備を行った。4月18日から5月10日にかけて表

土掘削を行い、5月13日から遺構精査・遺構掘削を開始した。9月11日に自然科学分析のための土壌サンプリング、9月13日空撮、9月14日に現地説明会を行った。9月18・19日に下層の有無についてトレンチによる確認を行った結果、遺構・遺物とも検出されず下層の調査は必要ないと判断され、9月19日に現場作業を終了した。

## C 調査体制

第4表 年次ごとの調査体制（8・9区）

【平成16年度：第5次調査（確認調査）】	
調査主体	小須戸町教育委員会（教育長：吉田恒夫）
事務局	小須戸町教育委員会教育課（課長：五十田美智子・係長：丸山 賢）
調査指導	新潟県教育庁文化行政課 埋蔵文化財係長 北村 亮
調査員	春日真実・石川智紀（新潟県教育庁文化行政課主任調査員）、潮田憲幸（白根市教育委員会生涯学習課主事）
【平成17年度：第8次調査（確認調査）】	
調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市総務局国際文化部歴史文化課（課長：渡邊ユキ子・課長補佐兼文化財係長：倉地一則）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：手島勇平）
調査担当	潮田憲幸（白根市教育委員会生涯学習課主事）
【平成23年度：第19次調査】	
調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：高橋 保・所長補佐：丸山徳幸・文化財センター主任：渡邊朋和）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター副主査）
調査員	八藤後智人・牧野耕作（新潟市文化財センター専門臨時職員）、秋山泰利（榎ノガミ）
整理補助員	熊野敦子・小柳和香・関根里江・土橋益美（新潟市文化財センター臨時職員）
【平成24年度：第20次調査】	
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：高橋 保・所長補佐：丸山徳幸・文化財センター主任：渡邊朋和）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター主査）
調査員	秋山泰利（榎ノガミ）
整理補助員	小柳和香・関根里江・土橋益美（新潟市文化財センター臨時職員）
【平成25年度：第21次調査】	
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：丸山徳幸・文化財センター主任：渡邊朋和）
調査担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）
調査員	金田拓也（新潟市文化財センター文化財専門員）、佐藤 俊（榎ノガミ）
整理補助員	小柳和香・関根里江・西郡大輔（新潟市文化財センター臨時職員）

## 第3節 整理作業

### A 整理方法

#### 1) 遺 構

遺構の整理については以下の手順で行った。

- ① 図面合せ 手取り断面図と測量平面図の校正。
- ② 掲載遺構の抽出・仮版下作成 報告書掲載遺構の平・断面図を抽出・レイアウトし、仮版下を作成する。
- ③ デジタル編集 仮版下をもとにデジタル編集を行う。

以上の作業のうち、①・②については調査担当・調査員が行った。③については業者に委託した。

#### 2) 遺 物

遺物量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）にして395.5箱のほか、大形の木製品（井戸側・曲物など）が水槽に保管されている。

### 第3節 整理作業

遺物は、縄文時代の土器・石器、古墳時代の石製品、飛鳥時代の土器、奈良・平安・鎌倉・室町時代の土器・江戸時代の土器・土製品・石器・石製品・木製品・金属製品・骨角製品・アスファルト・動植物遺体など各種に及ぶが、そのうち奈良・平安・鎌倉・室町時代の土器、木製品が主体をなす。

遺物の整理作業は次の手順で行った。

① 洗浄 2度の洗浄（予洗い、本洗い）を行った。

② 注記 遺跡名は「調査年度（下2桁）大沢谷内」とし、調査区名（8または9区）、グリッド、遺構名、出土層位等を注記した。

③ 接合、包含層出土遺物の重量計測・遺構出土遺物の口縁部残存率計測 包含層出土遺物については、小グリッド別に重量を計測した。遺構出土遺物については種別ごとに口縁部残存率計測法〔宇野1992〕を行った。

④ 報告書掲載遺物の抽出 遺構出土資料を中心に、時期決定の指標となるもの、希少なものの、残存率の高いものを等を基準に抽出した。

⑤ 実測図・仮版下・遺物観察表の作成 実測図は主に調査員・整理補助員が作成し、調査担当・調査員が確認・修正指示を行った。

⑥ トレース 遺物実測図をデジタルトレースした。

⑦ 版下作成 仮版下をもとにデジタル編集にて作成した。

以上の作業のうち、⑥・⑦については業者に委託した。

## B 整理経過

平成23・24年度は、発掘調査と平行して遺物の洗浄・注記、接合、記録類の基礎整理及び現場で採取した土壌水洗等を行った。

本報告書作成にかかる本格的な整理作業は平成25・26年度に行った。平成25年度は現場作業終了後に、8区を中心とした遺構図面・遺物の整理作業を行った。出土遺物の主な整理作業は委託業者である株式会社ノガミが行い、抽出遺物の実測図作成及びデジタルトレース、写真撮影を行った。

平成26年度は9区を中心とした遺構図面・遺物の整理作業を行った。遺構では図面校正及び仮レイアウトを、遺物では実測図作成・デジタルトレース、実測遺物の写真撮影、レイアウト等を行った。並行して報告書の原稿執筆、各種図面の版下作成や編集等を行い、報告書を刊行した。

なお、自然科学分析については株式会社火山灰考古学研究所に委託して行った。骨については奈良貴史氏（新潟医療福祉大学）に分析・執筆を依頼した。

## C 整理体制

第5表 主な整理作業の内容（8・9区）

年度	内容
平成25年度	第19次・20次・21次調査：遺物実測、遺物実測図デジタルトレース 第21次調査：遺物写真撮影
平成26年度	第19次・20次・21次調査：遺構図面・遺構写真図版デジタル編集、遺物実測、遺物実測図デジタルトレース、遺物写真撮影、遺物図面・遺物写真図版デジタル編集

第6表 整理作業体制

【平成25年度】		【平成26年度】	
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）	調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：丸山徳幸・文化財センター主任：渡邊朋和）	所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：福地康郎・文化財センター主任：渡邊朋和）
整理担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）	整理担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）
調査員	金田拓也（新潟市文化財センター文化財専門員）、佐藤 俊（櫛ノガミ）	調査員	金田拓也（新潟市文化財センター文化財専門員）・八藤後智人（新潟市文化財センター専門臨時職員）
整理補助員	小柳和香・関根里江・西郡大輔（新潟市文化財センター臨時職員）	整理補助員	北見順子・小柳和香・古山利美子・佐々木陽子・関根里江・森岡綾子（新潟市文化財センター臨時職員）

## 第Ⅳ章 遺 跡

### 第 1 節 概 要

大沢谷内遺跡は信濃川と新津丘陵に挟まれた沖積地に位置する。本書で報告する 8・9 区は、周知の遺跡範囲の中央やや北西側にあたる。現在の信濃川は 8・9 区から西約 1.1km に、新津丘陵は東約 1.0km にそれぞれ南北方向にのびている。8・9 区周辺における現地表面の標高は約 4.0m を測る。周辺には近世まで「鎌倉潟」と呼ばれる潟が存在していたが、現在では水田、一部で畑が広がっている。

8・9 区で確認された遺構・遺物は 8～10 世紀を中心とする古代と、12～14 世紀を中心とする中世からなる。平成 25 年度調査の 8 区北西側（第 21 次調査）及び平成 24 年度調査の 9 区北側（第 20 次調査）では、古代・中世の掘立柱建物や井戸などが多く確認された。これに対し、平成 23 年度調査の 8 区南東側・9 区南側（第 19 次調査）では明確な建物跡は確認されず、また井戸等も少ない一方、畑や水田に伴うと考えられる区画や各種溝が多数検出された。微地形については次節で触れるが、古代・中世ともに 8 区北西側から 9 区北側にかけて、大局的には北西－南東方向で蛇行しながらのびる微高地が存在し、そこを居住域として利用したものと考えられる。また、周辺のやや低い土地を生産域として利用していたと推測される。

### 第 2 節 層序と微地形

#### A 層 序

##### 1) 基本層序

基本層序については 8・9 区とも I～V 層に大別できる。以下、各層の特徴について記すが、色調や粘性・しまり等は地点によって若干異なる。

I 層：表土を一括した。基本的に水田ないしは畑の耕作土で、層厚は 0.2～0.4m 前後を基準とする。場所により水田・畑の耕作土である I a 層と近・現代の埋土である I b 層に細分した。

I a 層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト 粘性ややあり しまりあり。

I b 層：灰白色（10YR7/1）シルト 粘性ややあり しまりややあり。

II 層：水田床土で、層厚は 0.2～0.5m 前後を基本とする。

黄灰色（2.5Y5/1）シルト 粘性ややあり しまりややあり。

III 層：古代・中世の遺物包含層で、層厚は 0.3～0.5m 前後を基本とする。炭化物や未分解有機物の多寡により III a・b 層に細分したところもある。なお、古代・中世ともに遺構検出は IV 層上面の同一面で行っているが、壁面で中世の遺構の中にこの III 層を切るものが確認されており、中世には III 層が遺構確認面になる時期があったと考えられる。

黒褐色（10YR3/1）シルト 粘性弱い～ややあり しまりややあり。

III a 層：黒褐色（10YR3/1）シルト 粘性弱い～ややあり しまりややあり～あり 炭化物含む。

III b 層：黒褐色（10YR3/1）シルト 粘性弱い～ややあり しまりややあり～あり III a 層に比べ炭化物多く含む。

IV 層：基盤層で、IV a 層上面は古代・中世の遺構確認面である。色調などにより IV a・b 層に細分できる。

IV a 層：灰黄色（2.5Y6/2）シルト 粘性あり しまり弱い～ややあり。

IV b 層：黄褐色（10YR5/6）シルト 粘性あり しまり弱い～ややあり。

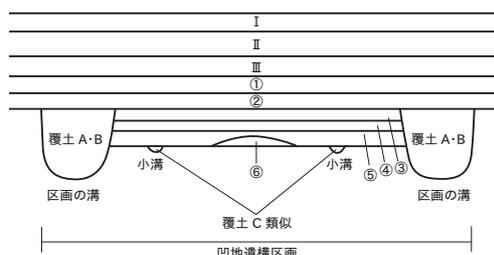
V 層：IV層下にある基盤層を一括した。色調は灰色～青灰色を基調とし、IV層に比べ砂質である。細分も可能で、1～4・5～7区においては場所によって下層（縄文時代）の遺物包含層・遺構確認面となる層である。

青灰色（5B6/1）シルト 粘性弱い～ややあり しまり弱い～ややあり。

## 2) 耕作土

9区では古代・中世の耕作土と考えられる層が確認されている。それら耕作土層については、確認面や色調などから6層に区分可能であり、以下丸数字（①～⑥）で示す。

①・②層は古代・中世の遺物包含層であるⅢ層下から③～⑥層の間で確認される土層で、一部で畦畔に伴うと考える高まりが確認されており（図版55）、水田耕作土の可能性が高い。③～⑤層は、畑または水田の可能性が推測される溝を伴う区画（後述の凹地遺構B・D類）で確認される耕作土である。⑥層は古代の畑の耕作痕と考える小溝状遺構群に伴う耕作土である。⑥層の多くは③～⑤層に削平されているが、一部で確認できる。



第9図 耕作土模式図

上記耕作土について模式図を第9図に示す。各耕作土の特徴は下記のとおりである。

耕作土①：黒色（5YR1.7/1）シルト 粘性あり しまりあり IV層ブロックを含む。古代・中世の遺物を含む。

②：灰白色（10YR8/2）シルト 粘性あり しまりあり 下面の層界乱れる。

③：黒褐色（7.5YR3/2）シルト 粘性あり しまりあり IV層ブロック混入。層界乱れる。

④：黒褐色（7.5YR3/2）シルト 粘性あり しまりあり IV層ブロック混入・炭化物含む。層界乱れる。

⑤：褐灰色（7.5YR5/1）シルト 粘性あり しまりあり IV層ブロック混入。層界乱れる。

⑥：灰白（10YR8/2）シルト 粘性あり しまりあり IV層ブロック混入。

## B 微地形

8・9区の基本層序については前項のとおりI～V層に大別される。古代・中世の遺物包含層はⅢ層で、主としてIV層上面で遺構を確認した。8・9区のIV層上面の標高をみると、8区北西端域で約3.3m、同南東端域で3.2m、9区北側（第20次調査）の北端域で約3.3m、同南端域で約3.1m、9区南側（第19次調査）の北端域で約3.0m、同南端域で約2.6mである。8区から9区北側北端域にかけて標高が最も高く、9区では南、とりわけ南西に向かって緩やかに傾斜しながら低くなる地形であることが分かる。

8・9区及び周辺における確認調査（第5次・8次調査）の各トレンチの土層柱状図を第8図に示した。7区から8区にかけての土層柱状図（第8図上 北西－南東方向）において、古代・中世の遺物包含層（Ⅲ層）及び遺構確認面（IV層上面）の標高をみると、南東側の114Tから北西方向に向かって緩やかに高くなり、123Tから北で最も標高が高くなる。

1区から9区の土層柱状図（第8図下 北東－南西方向）を北東方向から南西方向に見ていくと、1～4区周辺（107～109T）で標高が高く、4区の南側に位置する142Tで標高が低くなり、5区北側にある147Tで標高をやや高めたのち、南西方向に向かって緩やかに高くなる地形を復元できる。このうち4区南方に位置する標高が低いトレンチ（142T～146T）付近は、第12次調査時に4区南端で検出された深さ約3mの埋没谷に関連する低地帯にあたと推測される（第3・8図）。埋没谷が81T付近まで広がるとすれば、古代から中世時には100m近くの谷幅であった可能性がある。

本調査の成果も合わせ、9区北側（第20次調査）と8区北西側（第21次調査）は最も標高が高く、北西－南東方向に蛇行しながらのびる微高地の存在が推測される。上記調査範囲では、掘立柱建物や井戸が多く確認されて

おり、この微高地を居住空間として利用したものと考えられる。また、縄文時代・飛鳥時代～平安時代・鎌倉時代の居住域が確認された1～4区も北西－南東方向にのびる微高地に位置する〔細野・伊比 2012〕。

以上、1～4区と8区・9区北側では、北西－南東方向にのびる微高地がそれぞれ存在し、その間を4区南端で確認された埋没谷が分断する地形であったと考えられる。なお、9区南側（第19次調査）や5・6区では、建物跡が検出されていない一方、畑や水田に関連する遺構が確認されており、微高地周辺の低地部は生産域として利用されていたことがうかがえる。ただし、居住域と生産域の標高・地形は明確に異なるような状況にはなく、居住域縁辺から外へ向かって徐々に下がる緩斜面を生産域として利用したものと同判断される。

### 第3節 遺 構

#### A 遺 構 の 概 要

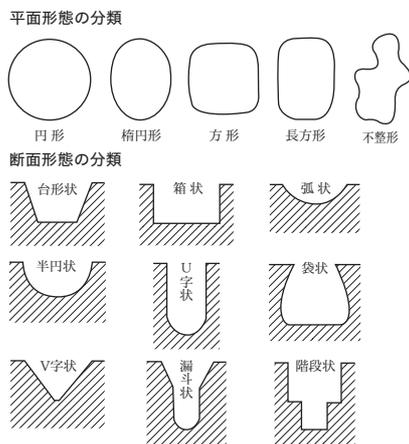
##### 1) 遺 構 の 概 要

遺構番号は調査区ごとに遺構の種別に関わらず通し番号を付している。遺構でないと同判断したものについては欠番とした。8・9区全体で検出された遺構数は、掘立柱建物（SB）28棟、井戸（SE）129基、土坑（SK）256基、性格不明遺構（SX）169基、溝（SD）967条である。

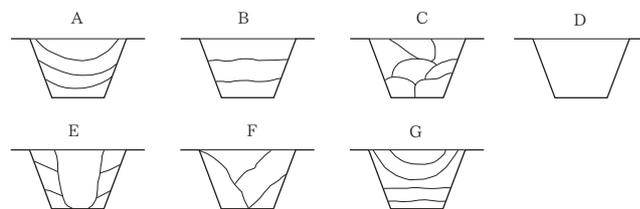
##### 2) 遺 構 の 記 述

遺構についての記述は調査区で分け、8区、9区の順に行う。さらに調査区ごとに、掘立柱建物（SB）、井戸（SE）、土坑（SK）、性格不明遺構（SX）、溝（SD）、小土坑（Pit、以下Pと略す）の順に記す。なお、掘立柱建物を構成する以外の小土坑については、掲載遺物が出土しているなどの主要なものに限り記述する。

遺構の平面形態及び断面形態、堆積形状の分類については、『和泉A遺跡』（加藤 1999）・『青田遺跡』（荒川 2004）で示された分類（第10・11図）によった。なお、別表1の遺構計測表において、平面形態や断面形状、規模や深度などが不明な場合は空欄とした。



第10図 遺構の平・断面形態の分類（加藤 1999）



A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B 水平	複数層が水平に堆積する。
C ブロック状	ブロック状に堆積する。
D 単層	覆土が単一層のもの。
E 柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F 斜位	斜めに堆積するもの。
G 水平・レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

第11図 遺構埋土の堆積形状の分類（荒川 2004 を一部改変）

##### 3) 耕作関連遺構の記述

平成23年度に発掘調査を行った9区南側（第19次調査）を中心に平面形態や断面形態、土層の特徴や層序などから、耕作に関連すると考える遺構が複数確認されている。耕作関連遺構は、大きく分けて①小溝状遺構群、②凹地遺構（第42図、第30表）、③畦畔をもつ耕作土層がある（第9図）。また、凹地遺構については平面形や区画溝の有無により下記のA～F類に分類した。なお、分類にあたっては類似した遺構が確認されている北東約1kmに位置する細池・寺道上遺跡での報告〔小池 1994、前山 2013〕を参考とした。

#### 凹地遺構

A類：方形・長方形を基調とした平面形のもの。

B類：方形・長方形を基調とした平面形で、縁に溝が巡るもの。

C類：不整形な平面形のもの。

D類：不整形な平面形で、縁に溝が巡るもの。

E類：細長い平面形で、深度が0.15mほどの浅い溝状のもの。

F類：細長い平面形で、深度が0.35mとE類に比べ深い溝状のもの。

基本層序で見ると、①の小溝状遺構群耕作土（⑥層）と、②の凹地遺構B・D類の耕作土（③～⑤層）直上に、③の耕作土層（①・②層）があり、その上に古代・中世の遺物包含層であるⅢ層が堆積する（本章第2節A）。耕作関連遺構については、上記分類についても記載した。

#### 4) 遺構覆土について

8・9区の遺構覆土については以下の4種類に大別される。

A類：黒色土（未分解有機物を多量に含む粘土～シルト層。いわゆるガツボ層）。

B類：黒色土（未分解有機物を多量に含む粘土～シルト層）とIV層（基盤層）の混合土。

C類：暗灰色～灰色土（砂質粘土～シルト層でIV層に近い色調をなす）。

C'類：茶褐色土（シルト層）。

A・B類（以下、類省略）を覆土とする遺構からは12～14世紀を中心とする中世の遺物が、Cを覆土とする遺構からは8・9世紀を中心とする古代の遺物が、C'を覆土とする遺構からは9・10世紀を中心とする古代の遺物が出土している。また、遺構の切り合い関係からAを覆土とする遺構はBを覆土とする遺構よりも新しく、Bを覆土とする遺構はCを覆土とする遺構よりも新しい。

以上、出土遺物及び切り合い関係から推定される遺構の時期は、古い順にC→C'→B→Aの順になると考えられる。各遺構における覆土の種別については別表1に示したが、C・C'については調査中に細分していなかったため一括でCとし、A～Cの3区分とした。なお、深度のある遺構の中には遺構底面付近の覆土がCで、遺構上部の覆土にAが確認される例も存在したが、その場合は遺構底面付近の覆土を重視しCと示した。遺構が形成された時期は古代で、その後中世に入って遺構が埋まりきらず解放されていたため覆土Aが遺構上部に堆積したものと推測した。

## B 8 区 の 遺 構 (図版4～52)

### 1) 8 区 の 概 要

8区で検出された遺構数は、SB9棟、SE53基、SK139基、SX87基、SD204条である。以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

#### 掘立柱建物 (SB)

**SB4001** (図版20・21、写真図版7・8) 5G-6I・7H・7Iに位置する。主軸はN-27°-Wである。3間×2間の梁間2間型であり、平面形状は方形を呈する。桁行6.4m、梁行6.0mの身舎面積37.9m<sup>2</sup>、平1間あたり1.8～2.4m、妻1間あたり2.8～3.1mを測る。柱穴は方形を基調とし、上端長軸0.49～1.05mと他のSBより大形である。また、SD161・221・422が、雨落ち溝と考えられる。雨落ち溝は、それぞれ北東・南西・北西の3面に身舎から約1.2m離れて各面に並行している。四隅はつながらず、南東のみ確認できなかった。そのため、南東に出入り口等の機能を有していたと考える。P284より土師器、P412より土師器(1)、P531より須恵器(2)が出土している。柱穴および雨落ち溝の覆土は、全てCであり、出土遺物も考慮し、古代と考える。

**SB4002** (図版21・24、写真図版9) 5G-8I・8Jに位置する。主軸はN-83°-Eである。2間×2間の梁間2間型であり、西側に妻庇が付く。平面形状は長方形を呈する。桁行5.2m、梁行3.1mの身舎面積16.1m<sup>2</sup>、庇を

含めた建物面積は23.3m<sup>2</sup>となる。平1間あたり2.3~2.8m、妻1間あたり1.3~1.7mを測る。柱穴は円形を基調とし、上端長軸0.23~0.36mである。P2074より土師器が出土している。柱穴の覆土はA及びBであり、中世と考える。

**SB4003** (図版22、写真図版9) 5G-9I・9Jに位置する。主軸はN-85°-Wである。2間×2間の総柱型であり、平面形状は方形を呈する。桁行4.0m、梁行3.2mの身舎面積12.5m<sup>2</sup>、平1間あたり1.8~2.2m、妻1間あたり1.4~1.8mを測る。柱穴は、方形を基調とし、上端長軸0.21~0.55mである。P917・1005より土師器が出土している。柱穴の覆土はA及びBであり、中世と考える。

**SB4004** (図版22・23、写真図版10) 5G-5H・5Iに位置する。主軸はN-89°-Eである。3間×3間の総柱型であり、平面形状は方形を呈する。カクラン及び他の遺構に切られるため、一部柱穴は確認できない。桁行4.5m、梁行4.4mの身舎面積19.9m<sup>2</sup>、平1間あたり1.4~1.6m、妻1間あたり1~2mを測る。柱穴は円形を基調とし、上端長軸0.25~0.49mである。P233・234・288・307より土師器、P345・460より須恵器が出土している。柱穴の覆土はA及びBであり、中世と考える。

**SB4005** (図版23・24、写真図版10) 4G-10H、5G-1H・1Iに位置する。主軸はN-11°-Wである。3間×2間の梁間2間型であり、北側に妻庇が付く。平面形状は長方形を呈する。桁行6.3m、梁行4.3mの身舎面積28.9m<sup>2</sup>、庇を含めた建物面積は39.0m<sup>2</sup>となる。平1間あたり2~2.2m、妻1間あたり2.2~2.4mを測る。柱穴は、円形を基調とし、上端長軸0.21~1.11mである。柱根はP1525より確認された。また、SD1771・1951が、雨落ち溝と考える。雨落ち溝は、身舎の西・南・北を囲むように確認でき、一部SX1306等により切られている。特に、SD1771は身舎に合わせて直角気味に屈曲している。また、東側は調査区外のため不明である。P1177より土師器・黒色土器、P1327より須恵器、P1525より土師器・須恵器、P1673より土師器、SD1771より土師器(3)・須恵器が出土している。柱穴および雨落ち溝の覆土は、全てCであり、出土遺物も考慮し、古代と考える。

**SB4006** (図版21・24、写真図版11) 5G-7I・7J・8I・8Jに位置する。主軸はN-84°-Eである。3間×2間の総柱型であり、平面形状は長方形を呈する。桁行7.6m、梁行3.2mの身舎面積24.5m<sup>2</sup>、平1間あたり2.2~2.8m、妻1間あたり1.5~1.6mを測る。柱穴は円形を基調とし、上端長軸0.24~0.51mである。P844より須恵器(4)、P849より土製品、P850・851・859より土師器が出土している。柱穴の覆土は、A及びBであり、中世と考える。

**SB4007** (図版24、写真図版11) 5G-9Iに位置する。主軸はN-79°-Eである。1間×1間の竪穴構造型であり、平面形状は方形を呈する。桁行2.4m、梁行1.8mの身舎面積4.3m<sup>2</sup>を測る。柱穴は円形を基調とし、上端長軸0.21~0.32mである。柱根はP926より確認された。柱穴の覆土は、全てCであり、古代と考える。

**SB4008** (図版25、写真図版12) 5G-4I・5Iに位置する。主軸はN-20°-Wである。2間×2間の総柱型であり、平面形状は方形を呈する。桁行2.8m、梁行2.8mの身舎面積7.8m<sup>2</sup>、平1間あたり1.4m、妻1間あたり1.2~1.6mを測る。柱穴は円形を基調とし、上端長軸0.20~0.53mである。柱根はP346・383・405(253)より確認された。P130・396・503より土師器、P507より土師器・須恵器が出土している。柱穴の覆土は、全てCであり、出土遺物も考慮し、古代と考える。

**SB4009** (図版25、写真図版12) 5G-2H・3Hに位置する。主軸はN-12°-Wである。1間×1間の竪穴構造型であり、平面形状は方形を呈する。桁行3.4m、梁行2.2mの身舎面積7.6m<sup>2</sup>を測る。柱穴は円形を基調とし、上端長軸0.34~0.40である。柱根はP1094・1114より確認された。P1114より土師器・須恵器、P1824より須恵器が出土している。柱穴の覆土は、全てCであり、出土遺物も考慮し、古代と考える。

#### 井 戸 (SE)

**SE84** (図版25、写真図版13) 6H-5D24に位置する。長軸0.61・短軸0.60mの平面円形であり、深さ0.97mを測る。断面形状は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。SX85を切り、SX46

に切られる。

SE107 (図版 26・46、写真図版 13) 5G-4H25、4I21、5H5、5I1 に位置する。長軸 1.61・短軸 1.45m の平面円形であり、深さ 1.7m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考えられる。土師器、須恵器、珠洲焼、瓷器系陶器、土製品、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。

SE112 (図版 26、写真図版 13) 5G-5H19 に位置する。長軸 1.31・短軸 1.29m の平面楕円形であり、底面未検出である。断面形は不明で、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考えられる。土師器、須恵器、奈良三彩 (5)、珠洲焼 (6)、木製品が出土している。

SE119 (図版 26、写真図版 13) 5G-5I23、6I3 に位置する。長軸 1.51・短軸 1.48m の平面円形であり、深さ 1.10m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品 (254) が出土している。

SE120 (図版 26、写真図版 13) 5G-5I17・18・22・23 に位置する。長軸 2.14・短軸 1.76m の平面楕円形であり、深さ 1.21m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、青磁、珠洲焼 (7)、石製品、木製品が出土している。

SE131 (図版 27、写真図版 14) 5G-4I18 に位置する。長軸 0.74・短軸 0.71m の平面円形であり、深さ 1.05m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品が出土している。

SE134 (図版 27・35) 5G-5I7 に位置する。長軸 1.48・短軸 1.20m の平面円形であり、底面未検出である。断面形は不明で、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、中世土師器 (8)、木製品が出土している。

SE155 (図版 27、写真図版 14) 5G-6H19 に位置する。長軸 0.93・短軸 0.82m の平面円形であり、深さ 1.16m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器 (9)、木製品 (255・256) が出土している。

SE201 (図版 27、写真図版 14) 5G-4H13・14 に位置する。長軸 0.91・短軸 0.77m の平面円形であり、深さ 1.23m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (10)、須恵器、木製品が出土している。

SE411 (図版 27、写真図版 14) 5G-7I18・19・23・24 に位置する。長軸 2.09・短軸 1.81m の平面楕円形であり、深さ 1.24m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器 (11・12)、須恵器、中世土師器、石製品、木製品が出土している。

SE768 (図版 28、写真図版 14) 5G-8J21・22、9J1・2 に位置する。長軸 2.09・短軸 1.17m の平面方形であり、深さ 0.98m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器 (13)、珠洲焼 (15)、中世土師器 (14)、土製品、金属製品、木製品 (257) が出土している。

SE780 (図版 28、写真図版 14) 5G-8I14・15 に位置する。長軸不明・短軸 0.90m の平面円形であり、深さ 0.68m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。須恵器が出土している。P779 に切られる。

SE783 (図版 28、写真図版 14) 5G-8H15・20、8I11・16 に位置する。長軸 2.06・短軸 1.84m の平面円形であり、底面未検出である。断面形は不明で、ブロック状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。縄文土器、土師器、須恵器、白磁、土製品、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。

SE834 (図版 28、写真図版 15) 5G-9J1・6・7 に位置する。長軸 1.39・短軸 1.29m の平面円形であり、深さ 1.20m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、石製品、金属製品 (241)、木製品が出土している。

SE845 (図版 22・28、写真図版 15) 5G-9I9 に位置する。長軸 1.16・短軸 1.05m の平面円形であり、深さ 1.31m

を測る。断面形は底部に向かい急激に窄まる台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、銭貨(243)、木製品が出土している。

SE865 (図版 28、写真図版 15) 5G-9J21・22、10J1・2 に位置する。長軸 0.88・短軸 0.77m の平面楕円形であり、深さ 1.28m を測る。断面形は箱状を呈し、下位が水平に、上位がレンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、木製品(258)が出土している。

SE920 (図版 28、写真図版 15) 5G-10I5・10、10J1・6 に位置する。長軸 1.23・短軸 1.18m の平面円形であり、深さ 1.14m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品(259)が出土している。

SE929 (図版 29、写真図版 15) 5G-10J2・3 に位置する。長軸 0.97・短軸 0.93m の平面円形であり、深さ 1.19m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器(16)、珠洲焼、中世土師器(17)、木製品(260)が出土している。

SE945 (図版 29、写真図版 15) 5G-4H24・25 に位置する。長軸 1.18・短軸 0.99m の平面円形であり、深さ 1.26m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼(18)、木製品が出土している。

SE951 (図版 29) 5G-8H10、8I6・11 に位置する。長軸 1.79・短軸 1.60m の平面円形であり、底部未検出である。断面形は不明で、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。

SE994 (図版 29、写真図版 15) 5G-5H24・25 に位置する。長軸 1.01・短軸 0.97m の平面円形であり、深さ 0.75m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SE1020 (図版 29、写真図版 16) 5G-4H8・13 に位置する。トレンチ際で確認されたため、全体の形状は不明である。深さ 1.15m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品(261)が出土している。

SE1045 (図版 29、写真図版 16) 5G-4I16・17 に位置する。長軸 0.88・短軸 0.86m の平面円形であり、深さ 1.23m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、木製品(262~264)が出土している。

SE1068 (図版 30、写真図版 16) 4G-10H12・13・17・18 に位置する。長軸 1.83・短軸 1.76m の平面円形であり、深さ 1.48m を測る。断面形は上位が広がる箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、土製品、鍛冶関連遺物、木製品(265・266)、自然遺物(324)、骨角製品(326)が出土している。

SE1070 (図版 30、写真図版 16) 4G-10H14・19 に位置する。長軸 1.16・短軸 1.15m の平面円形であり、深さ 1.08m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器(19)、鍛冶関連遺物が出土している。

SE1080 (図版 30、写真図版 16) 4G-10H1・2・6・7 に位置する。長軸 1.61・短軸 1.09m の平面楕円形であり、深さ 0.84m を測る。断面形は上辺が広がる箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SE1140 (図版 30、写真図版 16) 5G-3I23 に位置する。SE1145 に切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.92m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、白磁、木製品(267)が出土している。

SE1145 (図版 30、写真図版 16) 5G-3I18・23 に位置する。長軸 1.34・短軸 1.22m の平面方形であり、深さ 1.55m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、中世土師器(20)、木製品(268)が出土している。SE1140 を切る。

SE1179 (図版 30、写真図版 16) 4G-10H14・15 に位置する。長軸 0.73・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.85m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、鍛冶関連遺物が出土している。

SE1211 (図版 31、写真図版 16・17) 5G-4I3・4 に位置する。長軸 1.68・短軸 1.46m の平面円形であり、深さ 1.13m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (22~25)、須恵器 (26~29)、木製品が出土している。SK1213・SD1422 に切られる。

SE1216 (図版 5、写真図版 6) 5G-4I9・10 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.99m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、中世土師器 (21)、木製品 (269) が出土している。

SE1320 (図版 31、写真図版 17) 5G-1I7 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.88m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、土製品 (222)、木製品 (270) が出土している。

SE1400 (図版 30) 5G-2I7・12 に位置する。カクランのため、全体の形状は不明である。深さ 0.71m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SE1421 (図版 31、写真図版 17) 5G-4H5・10、4I1・6 に位置する。長軸 1.94・短軸 1.82m の平面円形であり、深さ 1.44m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器 (30・31)、黒色土器、須恵器 (32~36)、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。

SE1431 (図版 23・32・40、写真図版 17) 4G-10H24・25、5G-1H4・5 に位置する。長軸 2.91・短軸 2.45m の平面不整形であり、深さ 1.82m を測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (37・38)、黒色土器、須恵器、木製品が出土している。

SE1563 (図版 5、写真図版 6) 5G-4I4・9・10 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 1.19m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SE1216 に切られる。

SE1586 (図版 5) 5G-2I11 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.59m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。木製品 (271) が出土している。SD1178 に切られる。

SE1590 (図版 31、写真図版 17) 5G-3I19・24 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.88m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SE1600 (図版 25、写真図版 12) 5G-3H9・10・14・15 に位置する。長軸 1.09・短軸 0.83m の平面楕円形であり、深さ 0.72m を測る。断面形は箱状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、鍛冶関連遺物、石製品が出土している。

SE1643 (図版 31、写真図版 18) 5G-2I12・13 に位置する。カクランのため、全体の形状及び断面形状は不明である。曲物を 3 つ重ねた井戸側 (272~274) が確認された。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器、金属製品 (242)、銭貨 (244)、木製品 (275) が出土している。

SE1871 (図版 32、写真図版 18) 5G-5H24・25、6H4・5 に位置する。長軸 1.76・短軸 1.46m の平面円形であり、底面未検出である。断面形は不明であり、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼、木製品 (276~284)、アスファルト塊 (第 21 図 2) が出土している。SD164 に切られる。

SE1886 (図版 32、写真図版 18) 5G-3I6 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.74m を測る。断面形は V 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SE2127 (図版 32) 5G-7H8・9 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 1.10m を測る。

断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。  
**SE2313** (図版 33、写真図版 18) 6H-1A22・23、2A2・3 に位置する。長軸 1.84・短軸 1.63m の平面円形であり、深さ 1.54m を測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼 (39)、石製品 (228)、木製品 (285) が出土している。

**SE2326** (図版 33) 6H-2A9・10 に位置する。長軸 0.75・短軸 0.64m の平面円形であり、深さ 0.74m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、石製品、木製品 (286) が出土している。

**SE2372** (図版 33) 6H-2A19・20 に位置する。長軸 1.28・短軸 1.20m の平面円形であり、深さ 1.25m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器、石製品、木製品が出土している。

**SE2373** (図版 33) 6H-2A14・15 に位置する。長軸 0.97・短軸 0.74m の平面楕円形であり、深さ 1.25m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。須恵器、石製品 (229)、木製品 (287・288) が出土している。

**SE2375** (図版 33、写真図版 18) 6G-1J17・18・23 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 1.43m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、土製品、金属製品、木製品 (289~293) が出土している。

**SE2383** (図版 34、写真図版 19) 5G-10I21、6G-1J1 に位置する。長軸 1.66・短軸 1.36m の平面楕円形であり、深さ 1.58m を測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。丸木舟を転用した井戸側 (294~297) が確認された。土師器、須恵器 (40・41)、木製品が出土している。

**SE2477** (図版 33、写真図版 19) 6H-3B4・9 に位置する。長軸 0.90・短軸 0.85m の平面円形であり、深さ 1.23m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品 (298) が出土している。

**SE2529** (図版 34、写真図版 19) 6H-4C1・2 に位置する。長軸 1.14・短軸 1.04m の平面方形であり、深さ 0.72m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

**SE2681** (図版 34、写真図版 19) 6H-2B18・19 に位置する。土側溝のため、全体の形状は不明である。深さ 0.69m を測る。断面形は不明であり、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

**SE2686** (図版 34、写真図版 19) 6H-4C19 に位置する。カクランのため、全体の形状及び断面の形状は不明である。レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

#### 土 坑 (SK)

**SK21** (図版 35、写真図版 20) 6H-5D18・23 に位置する。長軸 0.92・短軸 0.70m の平面長方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

**SK40** (図版 35) 6H-5D23 に位置する。長軸 0.43・短軸 0.34m の平面不整形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈する。時期は不明である。

**SK45** (図版 35) 6H-5D19 に位置する。長軸 0.48・短軸 0.36m の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。

**SK50** (図版 35) 6H-5E21 に位置する。長軸 0.66・短軸 0.37m の平面長方形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土はCであり、古代と考える。土師器が出土している。

**SK54** (図版 7、写真図版 6) 6H-6D4・5 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。SX46 に切られる。

**SK55** (図版 35) 6H-6E1・6 に位置する。長軸 0.65・短軸 0.58m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断

面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK71 (図版35) 6H-5C10に位置する。長軸0.54・短軸0.49mの平面円形であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈する。時期は不明である。

SK83 (図版25) 6H-6D5に位置する。長軸0.41・短軸0.40mの平面円形であり、深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK115 (図版35) 5G-3I11に位置する。カクラン切られるため、全体の形状は不明である。深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK122 (図版35) 5G-5H10に位置する。長軸0.53・短軸0.49mの平面円形であり、深さ0.36mを測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK144 (図版35) 5G-6I19・20・24・25に位置する。長軸0.71m・短軸不明の平面円形であり、深さ0.09mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK147 (図版36、写真図版20) 5G-6I24・25、7I4・5に位置する。長軸0.96・短軸0.75mの平面楕円形であり、深さ0.24mを測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。アスファルトが出土している。

SK166 (図版36、写真図版20) 5G-7I4・5に位置する。長軸0.82・短軸0.61mの平面長方形であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK168 (図版36、写真図版20) 5G-7I5に位置する。長軸1.15・短軸0.82mの平面長方形であり、深さ0.27mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK189 (図版35、写真図版20) 5G-6I24に位置する。長軸0.80・短軸0.42mの平面楕円形であり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK194 (図版35) 5G-5I1・2・6・7に位置する。長軸不明・短軸0.87mの平面不明であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、須恵器、アスファルト塊が出土している。

SK210 (図版35) 5G-6I24・25に位置する。長軸0.81・短軸0.52mの平面楕円形であり、深さ0.23mを測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK215 (図版35) 5G-4I18・19・23・24に位置する。長軸0.82・短軸0.42mの平面楕円形であり、深さ0.16mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK223 (図版35) 5G-5I18・19・23・24に位置する。長軸不明・短軸0.51mの平面形不明であり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。須恵器が出土している。SD164に切られる。

SK224 (図版35) 5G-4H15、4I11に位置する。長軸0.73・短軸0.68mの平面円形であり、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK242 (図版7・36) 5G-5H13・14・18・19に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK243 (図版10・36) 5G-5H14・19に位置する。長軸0.58・短軸0.40mの平面楕円形であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK246 (図版20・36、写真図版20) 5G-7I13に位置する。長軸1.17・短軸0.62mの平面楕円形であり、深さ0.30mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

- SK270 (図版 36) 5G-6I24・25 に位置する。長軸不明・短軸 0.80m の平面形不明であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。P146 に切られる。
- SK275 (図版 37) 5G-6I17・18・22・23 に位置する。長軸 0.96・短軸 0.91m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈する。堆積状況は不明である。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。
- SK276 (図版 20・36) 5G-7I4 に位置する。長軸不明・短軸 0.69m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。須恵器が出土している。
- SK321 (図版 37) 5G-7I9 に位置する。長軸 0.83・短軸 0.49m の平面楕円形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。
- SK327 (図版 37) 5G-7H4・9・10 に位置する。長軸 0.76・短軸 0.52m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。
- SK351 (図版 37) 5G-6I4・9 に位置する。SD121 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。
- SK361 (図版 37) 5G-6I4・9 に位置する。長軸 0.93・短軸 0.47m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。
- SK395 (図版 22・37) 5G-5I12 に位置する。長軸 0.57・短軸 0.40m の平面楕円形であり、深さ 0.35m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。
- SK413 (図版 37) 5G-6I15 に位置する。長軸 0.89・短軸 0.57m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。
- SK419 (図版 37、写真図版 20) 5G-7I17 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。
- SK467 (図版 10・37) 5G-5H3 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.39m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器 (42) が出土している。
- SK578 (図版 37) 5G-5H4 に位置する。長軸 1.03・短軸不明 m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。
- SK623 (図版 37) 5G-5I12・13 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.49m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。須恵器が出土している。
- SK630 (図版 37) 5G-4I17 に位置する。長軸 0.75・短軸 0.40m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器 (43) が出土している。
- SK648 (図版 37) 5G-4I6・7・11・12 に位置する。長軸 0.45・短軸 0.35m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。
- SK649 (図版 37) 5G-4I12・13 に位置する。長軸 0.57・短軸 0.26m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。
- SK652 (図版 38) 5G-6H10・15 に位置する。長軸 0.58・短軸 0.48m の平面円形であり、深さ 0.37m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は A であり、中世と考えられる。SD164 に切られる。
- SK670 (図版 37) 5G-6H8・13 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。
- SK676 (図版 38) 5G-7I14・19 に位置する。長軸 0.57・短軸 0.42m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。
- SK754 (図版 7) 5G-5H13 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.30m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。鍛冶関連遺物 (227) が出土している。

SK767 (図版 38) 5G-8H10 に位置する。長軸 0.66・短軸 0.37m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。

SK772 (図版 38、写真図版 20) 5G-8I25 に位置する。長軸 1.35・短軸 0.87m の平面楕円形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品が出土している。

SK775 (図版 38) 5G-8I1 に位置する。長軸 0.68・短軸 0.66m の平面円形であり、深さ 0.36m を測る。断面形は V 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、木製品が出土している。

SK781 (図版 38) 5G-7I22・23 に位置する。長軸 0.73・短軸 0.55m の平面楕円形であり、深さ 0.43m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK785 (図版 38) 5G-9I4 に位置する。長軸不明・短軸 0.72m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。

SK786 (図版 38) 5G-9I4 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK789 (図版 38) 5G-8I1 に位置する。長軸 0.55・短軸 0.51m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。

SK813 (図版 36) 5G-7I12・13 に位置する。P554・796・797 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK818 (図版 36) 5G-7I12・13 に位置する。SK246・813、P554 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK833 (図版 38) 5G-8I25、9I5 に位置する。SD774 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK839 (図版 38) 5G-8I23 に位置する。長軸 0.56・短軸 0.53m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK843 (図版 38) 5G-5I7 に位置する。長軸 0.72・短軸 0.61m の平面円形であり、深さ 0.73m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK858 (図版 38) 5G-9J11・16 に位置する。長軸 0.95・短軸 0.93m の平面円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK863 (図版 38) 5G-9I12・13・17・18 に位置する。長軸 1.17・短軸 0.79m の平面楕円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK864 (図版 38) 5G-8I24 に位置する。長軸 0.49・短軸 0.38m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK891 (図版 39) 5G-8I16・17・21・22 に位置する。長軸 0.73・短軸 0.43m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK905 (図版 39) 5G-9J7 に位置する。長軸 0.70・短軸 0.45m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK918 (図版 5、写真図版 6) 5G-9J23 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.40m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK919 (図版 5、写真図版 6) 5G-9J23 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.39m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK921 (図版 38) 5G-9I13 に位置する。長軸 0.78・短軸不明 m の平面形不明であり、深さ 0.12m を測る。断

面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK922 (図版 39、写真図版 20) 5G-9I12・17 に位置する。長軸 1.02・短軸 0.64m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK931 (図版 39、写真図版 21) 5G-10J9・14 に位置する。長軸 1.48・短軸 0.96m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK933 (図版 39) 5G-5H9 に位置する。長軸 0.77・短軸 0.63m の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土はAであり、中世と考える。須恵器が出土している。

SK981 (図版 39) 5G-9I10 に位置する。全体の形状は不明である。深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK989 (図版 39) 5G-5H14・19 に位置する。長軸 0.67・短軸 0.66m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK996 (図版 39、写真図版 21) 5G-9I18・23 に位置する。長軸 0.83・短軸 0.67m の平面円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器(44)が出土している。

SK1004 (図版 22) 5G-9I19 に位置する。P1005 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1006 (図版 22) 5G-9I19 に位置する。長軸 0.49・短軸 0.39m の平面円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。P1005 を切る。

SK1026 (図版 7、写真図版 6) 5G-9I11 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.47m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK1042 (図版 39、写真図版 21) 5G-9I16・17 に位置する。長軸 1.03・短軸 0.74m の平面楕円形あり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK1052 (図版 39、写真図版 21) 5G-9I16・17 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.35m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK1067 (図版 39) 4G-9H17・18・23 に位置する。長軸 1.01・短軸 0.99m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SK1071 (図版 39) 4G-10H12・13 に位置する。SE1068 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.23m を測る。断面形は浅い階段状を呈し、水平に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1072 (図版 39) 4G-10H8・13 に位置する。長軸 0.75・短軸 0.62m の平面円形であり、深さ 0.90m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1073 (図版 40、写真図版 21) 5G-2H5・10、2I1・6 に位置する。長軸 1.56・短軸 1.20m の平面楕円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1074 (図版 40、写真図版 21) 5G-2I1・6 に位置する。長軸不明・短軸 0.57m の平面楕円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器(45)、須恵器が出土している。

SK1075 (図版 39) 4G-10H3・8 に位置する。長軸 1.04m・短軸不明の平面楕円形であり、深さ 0.90m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK1103 (図版 35・40、写真図版 21) 5G-3I6・7・11・12 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は

不明である。深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考えられる。土師器、須恵器、中世土師器 (46) が出土している。

SK1161 (図版 40) 5G-3I17・22 に位置する。SD1160 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK1180 (図版 40) 5G-1I11 に位置する。長軸 0.52・短軸 0.44m の平面円形であり、深さ 0.30m を測る。断面形は V 字状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK1210 (図版 40) 5G-4I3 に位置する。長軸 0.72・短軸 0.70m の平面円形であり、深さ 0.53m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK1213 (図版 31・40) 5G-4I4・9 に位置する。長軸 0.70・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK1230 (図版 40) 5G-3I21・22、4I2 に位置する。長軸 0.71・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼が出土している。

SK1287 (図版 40) 5G-1H4 に位置する。長軸 0.60・短軸 0.53m の平面円形であり、深さ 0.36m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1344 (図版 40) 5G-1H25、1I21 に位置する。長軸 0.71・短軸 0.68m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1353 (図版 8・40) 5G-2H10・15、2I6・11 に位置する。長軸 1.44・短軸 1.20m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼、瀬戸・美濃焼 (47) が出土している。

SK1411 (図版 41) 5G-3H24 に位置する。長軸 0.83・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.29m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼が出土している。

SK1440 (図版 40) 5G-1I6 に位置する。長軸 0.67・短軸 0.57m の平面円形であり、深さ 0.48m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK1445 (図版 41) 5G-1I16・21 に位置する。長軸 0.55・短軸 0.49m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。

SK1483 (図版 41、写真図版 21) 5G-2I6・7 に位置する。長軸 1.65・短軸 1.37m の平面方形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1498 (図版 41) 5G-3H17・18・22・23 に位置する。SX1402・土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.90m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK1500 (図版 41) 5G-2H9・10・15 に位置する。長軸 0.96・短軸 0.90m の平面円形であり、深さ 0.41m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SK1501 に切られる。

SK1501 (図版 41) 5G-2H9・10 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.34m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SK1500 を切る。

SK1516 (図版 41) 5G-3H24 に位置する。長軸不明・短軸 0.73m の平面円形であり、深さ 0.53m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、中世土師器、鍛冶関連遺物が出土している。

SK1551 (図版 41) 5G-2H15 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.48m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SK1564 (図版 41) 4G-10H3 に位置する。長軸 0.50・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK1570 (図版 42、写真図版 22) 5G-1H7・8・12・13 に位置する。長軸 2.31・短軸 1.70m の平面楕円形であり、深さ 1.13m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器 (48)、青磁 (49)、白磁 (50)、中世土師器 (51)、珠洲焼、土製品 (223)、石製品 (230)、木製品 (299～301)、自然遺物 (325)、鍛冶関連遺物が出土している。SX1306 を切る。

SK1717 (図版 41) 5G-3I21 に位置する。長軸 0.55・短軸 0.49m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK1722 (図版 41、写真図版 22) 5G-3I12・13・17・18 に位置する。カクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.21m を測る。断面形は台形状を呈し、水平に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器 (52) が出土している。

SK1735 (図版 43) 5G-3I23・24 に位置する。SD1422・1724 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK1837 (図版 43、写真図版 22) 5G-1I16・21 に位置する。SD1326 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (53) が出土している。

SK1841 (図版 42) 5G-1H17・22 に位置する。SX1306 に切られ、トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.33m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK1900 (図版 43) 5G-1H15・20 に位置する。長軸 0.43m・短軸不明の平面円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK1914 (図版 43) 5G-1H9 に位置する。長軸 0.42・短軸 0.30m の平面円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は半円状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。須恵器が出土している。

SK1923 (図版 43) 4G-10H13・14 に位置する。長軸 0.70・短軸 0.49m の平面楕円形であり、深さ 0.51m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK1999 (図版 43) 5G-8I21、9I1 に位置する。長軸 0.84・短軸 0.59m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK2005 (図版 43、写真図版 22) 5G-9I1 に位置する。長軸 0.86・短軸 0.65m の平面楕円形であり、深さ 0.34m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。SD915 に切られる。

SK2006 (図版 43、写真図版 22) 5G-9I2・3 に位置する。長軸 0.80・短軸 0.68m の平面円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK2017 (図版 43) 5G-9I24 に位置する。長軸 0.74・短軸 0.50m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。

SK2035 (図版 43) 5G-10J2・7 に位置する。長軸 0.72・短軸 0.35m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。

SK2041 (図版 43、写真図版 22) 5G-9I18・19 に位置する。長軸 1.02・短軸 0.65m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK2051 (図版 43) 5G-10J7・12 に位置する。長軸 0.58・短軸 0.49m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK2197 (図版 43) 5G-7H14・15 に位置する。長軸 0.53・短軸 0.37m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK2256 (図版 6) 5G-8J6・7 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2290 (図版 43) 5G-9I18 に位置する。SK996、SX1048 に切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2344 (図版 6・44、写真図版 6・22) 6G-1J17 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK2371 (図版 44) 6H-2A9 に位置する。長軸 0.79・短軸 0.55m の平面楕円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器・須恵器が出土している。

SK2382 (図版 44) 6H-2A19・24 に位置する。長軸 0.52・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。

SK2390 (図版 6、写真図版 6・26) 5G-10I25 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。

SK2442 (図版 43) 6H-2B11・16 に位置する。長軸 0.51・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK2455 (図版 44) 6H-2B18 に位置する。長軸 0.68・短軸 0.62m の平面円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2462 (図版 44) 6H-3B3 に位置する。長軸 0.77・短軸 0.73m の平面円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。須恵器が出土している。

SK2509 (図版 44) 6H-3B19 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.38m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。

SK2582 (図版 44) 6H-1A11・16 に位置する。長軸 0.93・短軸 0.58m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。須恵器が出土している。

SK2611 (図版 44、写真図版 22) 6G-1J8・9・13・14 に位置する。長軸不明・短軸 0.92m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2645 (図版 44) 6H-3B8・9・13 に位置する。長軸 0.65・短軸 0.36m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK2848 (図版 44) 6H-3A4・5・9・10 に位置する。長軸 0.69・短軸 0.48m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2858 (図版 44、写真図版 23) 6H-3A4・9 に位置する。長軸 1.20・短軸 0.86m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK2865 (図版 44) 6H-2A16 に位置する。長軸 0.58・短軸 0.49m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK2928 (図版 6) 6H-4B14 に位置する。トレンチ際及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK2952 (図版 6) 6H-4C15 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.30m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK2964 (図版 45) 6H-4C22・23、5C2・3 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。

深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2965 (図版 6) 6H-4D11 に位置する。トレンチ際及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK2990 (図版 45) 5G-8I22・23 に位置する。長軸 0.97・短軸 0.50m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK2999 (図版 45、写真図版 23) 5G-9I6 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK3007 (図版 5、写真図版 6) 5G-5I15 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

#### 性格不明遺構 (SX)

SX46 (図版 7・25、写真図版 6・13) 6H-5D24・25、6D4・5 に位置する。長軸 2.97・短軸 2.00m の平面不整形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器・須恵器が出土している。

SX94 (図版 45) 6H-5D3 に位置する。長軸 1.11・短軸 0.67m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX217 (図版 23、写真図版 10) 5G-5I2 に位置する。長軸 0.78・短軸 0.54m の平面楕円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX225 (図版 45、写真図版 23) 5G-4I13・14・18・19・23・24 に位置する。土側溝及びカクランのため、全体の形状は不明である。深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は上層が A だが、下層は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器、須恵器 (54) が出土している。

SX247 (図版 45) 5G-5H15 に位置する。長軸 0.48・短軸 0.38m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。須恵器が出土している。

SX260 (図版 45) 5G-5H10・15 に位置する。長軸 0.78・短軸 0.56m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX289 (図版 23、写真図版 10) 5G-5I11 に位置する。長軸不明・短軸 1.31m の平面不整形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX291 (図版 45) 5G-5I14 に位置する。長軸 0.63・短軸 0.38m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SX305 (図版 45) 5G-5I7 に位置する。SK843 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。

SX322 (図版 45) 5G-5H15・20 に位置する。長軸不明・短軸 0.41m の平面不明であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX354 (図版 45) 5G-5H20、5I16 に位置する。P353 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX373 (図版 45、写真図版 23) 5G-5I11・12 に位置する。カクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。

SX391 (図版 46) 5G-5H15・20 に位置する。SK247、SX322 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX468 (図版 46) 5G-4I17 に位置する。長軸不明・短軸 0.38m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX505 (図版 46、写真図版 23) 5G-4H24・25、4I21、5H4・5・10、5I1・6 に位置する。長軸不明・短軸 3.60m の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX540 (図版 46) 5G-7I20 に位置する。長軸 0.72・短軸 0.46m の平面楕円形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX600 (図版 46) 5G-4I11・16 に位置する。SE1045 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。須恵器が出土している。

SX609 (図版 46、写真図版 23) 5G-5H14・15・19・20・25 に位置する。長軸不明・短軸 1.29m の平面不整形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物が出土している。

SX612 (図版 46) 5G-5H25 に位置する。長軸 0.63・短軸 0.34m の平面楕円形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SX621 (図版 46) 5G-4I13・14 に位置する。長軸 0.92・短軸 0.73m の平面方形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX637 (図版 46) 5G-5H18・23 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX640 (図版 46) 5G-5H19・20 に位置する。長軸不明・短軸 0.39m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX711 (図版 47、写真図版 23) 5G-7I6・11 に位置する。長軸 1.74・短軸 1.07m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX745 (図版 7) 5G-5H18 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.30m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX784 (図版 47、写真図版 23) 5G-8I13・14・18・19 に位置する。長軸 1.05・短軸 0.91m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX874 (図版 47) 5G-6H15・20、6I11・16 に位置する。カクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SX876 (図版 47) 5G-6I11・12 に位置する。長軸不明・短軸 0.75m の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX890 (図版 47) 5G-7H14 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。須恵器が出土している。

SX904 (図版 47) 5G-9I10 に位置する。長軸 1.07m・短軸不明の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX913 (図版 47) 5G-7H14・15 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX923 (図版 47、写真図版 24) 5G-10I3 に位置する。長軸 2.08・短軸 1.17m の平面楕円形であり、深さ 0.40m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (55~60)、須恵器 (61~70) が出土している。

SX930 (図版 47) 5G-9J22・23、10J3 に位置する。SE929 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SX955 (図版 47) 5G-7H20 に位置する。長軸 0.47m・短軸不明の平面楕円形であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX971 (図版 48) 5G-8I5 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1008 (図版 48、写真図版 24) 5G-6H9・14 に位置する。長軸 1.01・短軸 0.82m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1025 (図版 48) 5G-10J1・2 に位置する。カクランに切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1048 (図版 48) 5G-9I17・18 に位置する。SK1042 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SK2290 を切る。

SX1089 (図版 48、写真図版 24) 4G-10H7・12 に位置する。SD1196 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B に若干類似しているが、他の遺構との切り合い関係や遺物などから C と同様と考えられ、古代と考える。土師器 (71~73)、須恵器 (74・75) が出土している。

SX1099 (図版 25・48) 5G-3H3・4 に位置する。長軸 1.53・短軸 0.78m の平面不整形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX1101 (図版 48) 5G-3H4・5・9・10・14・15 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SX1111 (図版 49) 5G-3H4・9 に位置する。長軸 2.22・短軸 0.76m の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX1195 (図版 49) 4G-10H17・22 に位置する。SX1306 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1306 (図版 42、写真図版 24) 4G-10H22・23、5G-1H2~4・7~9・12~14・17~19・22・23 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.95m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。縄文土器 (101)、土師器 (76~78)、黒色土器 (79)、須恵器 (80~83)、緑釉陶器 (84)、青磁 (85・86)、白磁 (87・88)、珠洲焼 (89~91)、中世土師器 (92~100)、土製品、鍛冶関連遺物、石製品 (231~233)、金属製品、銭貨 (245)、木製品 (306~318)、アスファルト塊 (第 21 図 4) が出土している。SK1570 に切られる。

SX1321 (図版 49) 5G-1I6・7・12 に位置する。SE1320 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1368 (図版 5、写真図版 6) 5G-2H3・4・8・9 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.64m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、白磁 (102)、土製品、石器、金属製品、銭貨 (246) が出土している。

SX1402 (図版 41) 5G-3H18・23 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.40m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、中世土師器 (103) が出土している。

SX1506 (図版 5・49) 4G-9H21・22 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SX1507 (図版 49) 4G-9H22 に位置する。カクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.1m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SX1510 (図版 49) 4G-9H21・22 に位置する。カクランに切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.27m を測る。断面形は台形状を呈する。時期は不明である。土師器が出土している。

SX1540 (図版 49) 4G-10H1・6 に位置する。長軸不明・短軸 0.58m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX1542 (図版 49) 4G-10H1・2 に位置する。SD1196、P1082 及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SX1561 (図版 49) 4G-10H20 に位置する。カクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.20m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX1568 (図版 49) 4G-10H9・10・14・15 に位置する。カクランに切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1577 (図版 49) 4G-10H14 に位置する。長軸 0.88・短軸 0.35m の平面不整形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は箱状を呈し、斜位に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1588 (図版 49) 4G-10H14 に位置する。長軸 0.65・短軸 0.32m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX1592 (図版 49) 5G-1H20、1I16 に位置する。長軸 0.84・短軸 0.77m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1599 (図版 23・49、写真図版 25) 5G-1H5・10、1I1・6 に位置する。長軸 1.25・短軸 0.89m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器 (104)、須恵器が出土している。

SX1605 (図版 50) 5G-1I12 に位置する。カクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.46m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX1622 (図版 50、写真図版 25) 5G-3H20・25、3I16・21 に位置する。長軸 2.82・短軸 1.83m の平面楕円形であり、深さ 1.12m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (105~109)、須恵器 (110~113)、土製品、石製品、木製品が出土している。

SX1624 (図版 50) 5G-1H3 に位置する。長軸 0.72・短軸 0.30m の平面不整形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1690 (図版 50) 5G-1H10・15、1I6・11 に位置する。長軸 0.77・短軸 0.68m の平面不整形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SX1746 (図版 50、写真図版 25) 5G-3H23・24、4H3・4 に位置する。SD1422 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器 (114) が出土している。

SX1752 (図版 50) 5G-1H14 に位置する。長軸 0.88・短軸 0.64m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SX1763 (図版 50) 5G-1H12 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX1772 (図版 5) 4G-9H12 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1855 (図版 48) 5G-6H9・14 に位置する。SX1008 及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。

深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

**SX1856** (図版 48) 5G-6H8・9・14 に位置する。SX1008・1885 及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

**SX1861** (図版 50) 5G-2H4 に位置する。長軸 0.87・短軸 0.43m の平面楕円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

**SX1873** (図版 50) 5G-1I22, 2I2 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

**SX1874** (図版 27) 5G-5I7・8・12 に位置する。SE134 及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.33m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

**SX1877** (図版 23・43) 5G-1H15・20 に位置する。長軸 1.03・短軸 0.49m の平面不整形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

**SX1893** (図版 51) 5G-4H10 に位置する。長軸 0.64m・短軸不明の平面不明であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

**SX1929** (図版 51、写真図版 25) 5G-2I2・7 に位置する。トレンチ際及びカクランに切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.79m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

**SX2001** (図版 51) 5G-7H25 に位置する。長軸 0.52・短軸 0.43m の平面円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

**SX2113** (図版 51、写真図版 25) 5G-8I17・18・22・23 に位置する。長軸 2.25・短軸 1.10m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

**SX2173** (図版 51) 5G-8I8・9 に位置する。長軸 1.32・短軸 0.92m の平面長方形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

**SX2191** (図版 51、写真図版 25) 5G-7H15・19・20・24・25、8H4・5 に位置する。SX955・2001、SD366、及び土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

**SX2273** (図版 51) 5G-7H19 に位置する。土側溝に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

**SX2300** (図版 51、写真図版 26) 6G-1J19・20・24・25 に位置する。長軸 2.19・短軸 1.38m の平面楕円形であり、深さ 0.29m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

**SX2339** (図版 52、写真図版 26) 5G-10I2 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.30m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器 (115・116) が出土している。

**SX2354** (図版 52) 5G-9I22, 10I2 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.34m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

**SX2378** (図版 6、写真図版 6・26) 5G-10I20・25, 10J16・21, 6G-1I5 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.40m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古

代と考える。土師器 (117)、須恵器 (118~121) が出土している。

SX2457 (図版 52、写真図版 26) 6H-2B16~18・21~23 に位置する。長軸 3.26・短軸 2.56m の平面楕円形であり、深さ 0.68m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼、石製品、木製品 (319) が出土している。

SX2476 (図版 52) 6H-3B6・7・11・12 に位置する。長軸 2.27・短軸 1.12m の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX2644 (図版 44) 6H-3B7~9・12・13 に位置する。長軸 2.64・短軸 0.98m の平面楕円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SX2768 (図版 52、写真図版 26) 6H-4C14・15 に位置する。カクランに切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX2958 (図版 6) 6H-4C15・20 に位置する。トレンチ際及びカクランのため、全体の形状は不明である。深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

#### 溝 (SD)

8 区で確認された溝は 204 条である。溝は平・断面の形状や規模などで異なる状況が認められ、その違いは溝の性格や機能を反映することが推測される。ここでは主な溝を取り上げる。

SD22 (図版 18・19、写真図版 26) 6H-5C8~10・14・15、6H-5D3~11・15、6H-5E6・11・16・21・22、6H-6E1・2・6 に位置する。短軸 1.4m であり、深さ 0.32m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼 (122) が出土している。

SD25 (図版 19、写真図版 26) 6H-4D17~19・21~23、6H-5D1・2・7・12・13・17・18・23 に位置する。短軸 0.78m であり、深さ 0.36m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器 (123) が出土している。

SD121 (図版 13・20・37、写真図版 27) 5G-6H・6I・7H・7I・7J に位置する。短軸 1.78m であり、平面形状が 4 方向に延びる。深さ 0.72m を測る。断面形は階段状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼 (124~127)、白磁 (128・129)、盗器系陶器 (130)、鍛冶関連遺物、石製品 (234)、金属製品、木製品 (302~305) が出土している。中世の用排水路の可能性が考えられる。

SD151 (図版 10、写真図版 27・28) 5G-4I・5I・6H・6I に位置する。短軸 2.41m であり、深さ 0.80m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考えるが上層は中世に埋まったと考えられる。土師器 (131~136)、黒色土器 (137)、須恵器 (138~145)、中世土師器、土製品 (224)、石製品が出土している。幅が広く深さもある溝である。自然の流路と考えられる。

SD164 (図版 5・10・35・45、写真図版 6) 5G-5H・5I・6H・6I に位置する。短軸 1.10m であり、長方形状に巡るような形状をしている。深さ 0.43m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器 (146・147)、珠洲焼が出土している。SD151 を切る。SD388・SX1874 と一連の可能性もあるが、カクランに切られるため詳細不明である。

SD211 (図版 9) 5G-4I に位置する。短軸 1.00m であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、鍛冶関連遺物が出土している。

SD366 (図版 12・51) 5G-7H・7I・8H に位置する。短軸 0.39m であり、深さ 0.08m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、白磁が出土している。

SD388 (図版 10) 5G-5I に位置する。短軸 2.03m であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SD164・SX1874 と一連の可能性もある。

SD470 (図版 10) 5G-4H に位置する。短軸 0.28m であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ

状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器が出土している。畑の耕作痕の可能性のある小溝群である。  
SD487 (図版10) 5G-4Hに位置する。短軸0.26mであり、深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土はCであり、古代と考える。土師器が出土している。畑の耕作痕の可能性のある小溝群である。

SD774 (図版14・21・28・47、写真図版15・23) 5G-8I・9Iに位置する。短軸0.73mであり、平面形状が楕円形に巡るような形である。深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器・木製品が出土している。

SD915 (図版14・43) 5G-8H・8I・9Iに位置する。短軸0.43mであり、深さ0.14mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SD934 (図版14) 5G-9I6・11に位置する。短軸0.25mであり、深さ0.13mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SD980 (図版14) 5G-9I25・9J21に位置する。短軸0.32mであり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。

SD1013 (図版14・39、写真図版21) 5G-9Iに位置する。短軸0.35mであり、深さ0.47mを測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。縄文土器、土師器、珠洲焼が出土している。

SD1023 (図版10、写真図版28) 5G-4H・4Iに位置する。短軸1.80mであり、深さ0.23mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器(148)、黒色土器、須恵器(149)が出土している。

SD1043 (図版11) 5G-4Iに位置する。短軸0.30mであり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SD1092 (図版8) 4G-10Hに位置する。短軸0.89mであり、深さ0.28mを測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器(150)、黒色土器、須恵器(151)が出土している。

SD1126 (図版10) 5G-3H・3Iに位置する。短軸0.4mであり、深さ0.12mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、青磁が出土している。

SD1160 (図版10・40) 5G-3H・3I・4Iに位置する。短軸0.81mであり、深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、瀬戸・美濃焼が出土している。

SD1196 (図版48、写真図版24) 4G-10H、5G-1Hに位置する。短軸0.73mの平面であり、深さ0.29mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、黒色土器(152)、須恵器(153)が出土している。SX1089を切る。

SD1200 (図版8) 4G-10Hに位置する。短軸0.31mであり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SD1305 (図版32・40) 4G-10H23~25、5G-1H4・5に位置する。短軸0.86mであり、深さ0.27mを測る。断面形は半円状を呈し、単層である。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器(154)が出土している。SE1431を切る。

SD1380 (図版8・40) 5G-2H・2Iに位置する。短軸1.34mであり、深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器(156)、須恵器、緑釉陶器(157)、瀬戸・美濃焼が出土している。

SD1420 (図版11・51) 5G-4Hに位置する。短軸0.83mであり、深さ0.22mを測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、白磁が出土している。

SD1422 (図版10・31、写真図版28) 5G-3I・4H・4Iに位置する。短軸0.86mであり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、土製品が出土している。

SD1478 (図版 11) 5G-4I に位置する。短軸 0.45m であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SD1517 (図版 11、写真図版 28) 5G-3H18・19 に位置する。短軸 0.33m であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器が出土している。畑の耕作痕の可能性のある小溝群である。

SD1518 (図版 11) 5G-3H18・19 に位置する。短軸 0.27m であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。畑の耕作痕の可能性のある小溝群である。

SD1519 (図版 11、写真図版 28) 5G-3H19 に位置する。短軸 0.25m であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。畑の耕作紺の可能性のある小溝群である。

SD1535 (図版 10・50) 5G-3H・3I に位置する。長軸 5.68・短軸 1.71m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SX1622 を切る。

SD1817 (図版 11) 5G-4H4 に位置する。長軸 1.04・短軸 0.49m であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器 (158) が出土している。

SD1890 (図版 10) 5G-4H・4I に位置する。短軸 1.35m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SD1953 (図版 8) 4G-10H に位置する。短軸 0.68m であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SD2275 (図版 14) 5G-7H・8H・8I に位置する。短軸 0.38m であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SD2291 (図版 6、写真図版 6) 6G-1J に位置する。短軸 0.48m であり、深さ 0.47m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、珠洲焼 (159~161) が出土している。

SD2501 (図版 17) 6H-3B・4B に位置する。短軸 0.43m であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SD3006 (図版 11) 5G-4I に位置する。短軸 0.48m であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

#### 8 区南側の区画溝

8 区の南側では 9 区の南側で確認されるよな区画溝と同様の溝 (SD22) が確認される。SD22 は 6H-5C・5D・5E・6E に位置する。調査区外まで広がるため、全体の形状は不明である。短軸 1.40m であり、深さ 0.32m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考えられる。SD22 の周辺特に区画内と考えられる範囲には小溝状遺構と考えられる溝が確認される。この溝は 9 区で確認される C に分類される覆土以外の A・B の覆土も確認できる。このため、A・B の覆土の小溝状遺構については、区画溝に伴う可能性がある。

### C 9 区 の 遺 構 (図版 53~136)

9 区で検出された遺構数は、SB 19 棟、SE 76 基、SK 117 基、SX 82 基、SD 763 条である。以下、種別ごとに遺構の概要について記す。

#### 掘立柱建物 (SB)

9 区では 19 棟の掘立柱建物を確認した (SB1~19)。いずれも平成 24 年度に発掘調査を行った 9 区北側に位

置し、9区南側では確認されていない。出土遺物や覆土から、古代9棟・中世10棟と考える。

**SB1** (図版76、写真図版32) 6H-9G14・15・19・20・25、9H11・12・16・17・21・22、10G5・10、10H1・2に位置する。主軸はN-12°-Wである。3間×2間の梁間2間型であり、平面形状は長方形を呈する。桁行6.30m、梁行4.90mの身舎面積31.2m<sup>2</sup>。柱間の距離は平1間あたり1.7~2.6m、妻1間あたり1.16~2.60mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで、古代に属すと考える。

**SB2** (図版76) 6H-10F6~8・11~13・16に位置する。主軸はN-87°-Eである。2間以上×1間の梁間1間型である。梁行は3.16m。柱間の距離は平1間あたり1.80~1.92m、妻1間あたり3.16mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はAで、中世に属すと考える。SB2を構成するP1662から土師器が出土している。

**SB3** (図版77、写真図版32) 6H-10E24・25、10F21・22、7H-1E4・5・9・10、1F1・2・6・7に位置する。主軸はN-88°-Eである。2間以上×1間の梁間1間型である。梁行は4.0m。柱間の距離は平1間あたり2.60~3.24m、妻1間あたり4.0mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB3を構成するP2129から土師器、須恵器(327)が出土しているほか、P2100・2106・2139から土師器が出土している。

**SB4** (図版78、写真図版32・33) 7H-1F4・5・9・10、1G1・2・6・7に位置する。主軸はN-90°である。3間×1間の梁間1間型である。平面形は長方形を呈し、桁行6.20m、梁行3.34mで身舎面積20.7m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり1.86~2.40m、妻1間あたり3.30mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。SB4を構成するP2124・2155・2228から土師器が出土している。

**SB5** (図版79、写真図版34) 7H-1G1~4・6~9・11~14に位置する。主軸はN-87°-Eである。3間×1間の梁間1間型である。平面形は長方形を呈し、桁行6.20m、梁行3.34mで身舎面積23.6m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり1.80~2.40m、妻1間あたり3.76~3.80mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。

**SB6** (図版80、写真図版34・35) 7H-2H12~14・17~19・22~24、3H2~4に位置する。主軸はN-3°-Wである。4間×2間の梁間2間型である。平面形は長方形を呈し、桁行6.26m、梁行3.34mで身舎面積10.5m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり1.50~1.70m、妻1間あたり1.60~1.74mを測る。P1817・1847は梁中央の軸に位置し、中柱と考えられる。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。SB6を構成するP1847から土師器が、P1812・1849から木製品が出土している。

**SB7** (図版79、写真図版35) 7H-1F22~24、2F1~9・11~13に位置する。主軸はN-10°-Wである。2間×2間の総柱型である。平面形は方形を呈し、桁行5.68m、梁行4.50mで身舎面積25.6m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり2.30~3.16m、妻1間あたり2.00~2.50mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。SB7を構成するP2321・3148・3170から土師器が出土している。

**SB8** (図版81~83、写真図版35~38) 7H-2E2~10・12~15・17~20・22~25、2F16・21、3E2~5・8~10に位置する。主軸はN-15°-Wである。5間×2間の梁間2間型で東側に庇が付く。平面形は長方形を呈し、桁行11.90m、梁行5.70mで身舎面積67.8m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり2.06~2.40m、妻1間あたり2.80~2.90mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで、SB8を構成するP2117・2221・2222・2275・2320・3100・3110から出土した土師器・黒色土器(328~343)も含め古代(春日編年Ⅶ期)に属すと考えられる。

**SB9** (図版83、写真図版38) 7H-2D5・10・14・15・19・20・24・25、2E6・11・16・21、3D4・5に位置する。主軸はN-14°-Wである。2間以上×2間の梁間2間型である。梁行は4.84m。柱間の距離は平1間あたり2.70~2.78m、妻1間あたり1.18~2.36mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。SB9を構成するP3522から、春日編年Ⅵ・Ⅶ期の土器(344)が出土している。他にP2159・3297から土師器が出土している。

**SB10** (図版84・85、写真図版38・39) 7H-1H8~10・13~15・18~20、1I1・2・6・7・11・12に位置する。

主軸はN-72°-Eである。4間以上×2間の梁間2間型である。梁行は3.60m。柱間の距離は平1間あたり1.96～2.35m、妻1間あたり1.66～1.94mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB10を構成するP2647から須恵器が出土している。

SB11 (図版85、写真図版39) 7H-2H17～19、3H2～4に位置する。主軸はN-3°-Wである。2間×1間の梁間1間型である。桁行4.20m、梁行2.96mで身舎面積12.4m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり2.08～2.24m、妻1間あたり2.80～2.84mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。

SB12 (図版86、写真図版39) 7H-3H17～19・23・24、4H3・4に位置する。主軸はN-5°-Wである。1間×1間の竪穴構造型で、身舎面積8.2m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は1間あたり3.00～3.08mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。

SB13 (図版86、写真図版40) 6H-8F20、8G16～18・21～24、9G1～4・6～9・11～14・16～19に位置する。主軸はN-10°-Wである。4間×2間の梁間2間型で、東側と南側の2面に庇が付く。桁行9.60m、梁行4.52mで身舎面積43.4m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり2.20～3.64m、妻1間あたり2.00～2.30mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB13を構成するP1443・1444・1459から土師器が、P1444・1531・2481から木製品が出土している。

SB14 (図版87、写真図版40) 6H-10G6～20に位置する。主軸はN-88°-Eである。3間×1間の梁間1間型。桁行7.68m、梁行3.88mで身舎面積29.8m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり2.40～2.60m、妻1間あたり3.72～3.88mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB14を構成するP2757から木製品が出土している。

SB15 (図版88、写真図版40・41) 7H1E5・10・15、1F1～24に位置する。主軸はN-85°-Eである。4間×2間の梁間2間型で、南北2面に庇が付く。桁行9.28m、梁行3.84mで身舎面積35.6m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり1.94～2.54m、妻1間あたり3.48～3.84mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB15を構成するP1407・2103・2181・2930から土師器が出土している。

SB16 (図版89、写真図版41) 7H-3H15・20・25、3I11・12・16・17・21～23、4H5、4I1～3に位置する。主軸はN-5°-Wである。2間×1間の梁間1間型で、西側1面に庇が付く。桁行7.20m、梁行4.58mで身舎面積33.0m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり3.56～3.64m、妻1間あたり4.58mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はCで古代に属すと考える。SB16を構成するP2892から土師器が、P2973から木製品が出土している。

SB17 (図版90、写真図版42) 7H2F21～23、3F1～3・6～8・11～13に位置する。主軸はN-3°-Eである。2間×1間の梁間1間型。桁行4.84m、梁行4.00mで身舎面積19.4m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり2.20～2.52m、妻1間あたり3.90～4.00mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はAで中世に属すと考える。SB17を構成するP2374・2389・2447から土師器が、P3421から土師器・須恵器が出土している。

SB18 (図版90、写真図版42) 6H-10G24・25、10H21・22、7H-1G4・5・9・10、1H1・2・6・7に位置する。主軸はN-89°-Eである。3間×1間の梁間1間型。桁行6.48m、梁行3.20mで身舎面積20.7m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は平1間あたり1.88～2.40m、妻1間あたり3.16～3.20mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB18を構成するP1603から須恵器が、P2799から土師器が出土している。

SB19 (図版90、写真図版42) 7H-1I12・13・17・18に位置する。主軸はN-77°-Wである。1間×1間の竪穴構造型。桁行1.64m、梁行1.52mで身舎面積2.49m<sup>2</sup>を測る。柱間の距離は1間あたり1.72mを測る。柱穴は円形を基調とする。柱穴覆土はBで中世に属すと考える。SB19を構成するP2652から須恵器が出土している。

#### 井戸 (SE)

9区の井戸は76基確認されている。そのうち60基が平成24年度調査区の9区北側に存在する。

SE17 (図版91、写真図版43) 7H-5F13に位置する。長軸0.96・短軸0.80mの平面円形であり、深さ0.78m

を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考えられる。土師器、須恵器(345)が出土している。

SE31 (図版 91、写真図版 43) 7H-5F6・7 に位置する。長軸 0.95・短軸 0.64m の平面楕円形であり、深さ 0.82m を測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、石製品 (553)、木製品 (577) が出土している。

SE32 (図版 91、写真図版 43) 7H-5F6 に位置する。長軸 1.05・短軸 0.94m の平面円形であり、深さ 1.51m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器 (346)、須恵器、中世土師器 (347)、木製品 (578) が出土している。

SE36 (図版 91、写真図版 43) 7H-5G17・22 に位置する。長軸 1.12・短軸 0.99m の平面方形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。

SE66 (図版 91、写真図版 43) 7H-4D4・9 に位置する。長軸 0.77・短軸 0.64m の平面円形であり、深さ 0.40m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SE69 (図版 91、写真図版 43) 7H-4D4・5・9・10 に位置する。長軸 0.91・短軸 0.87m の平面円形であり、深さ 0.55m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。

SE208 (図版 92、写真図版 44) 7H-3D21・22、4D1・2 に位置する。長軸 1.32・短軸 1.04m の平面長方形であり、深さ 0.79m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、黒色土器が出土している。SD75 に切られる。

SE251 (図版 92、写真図版 44) 7H-7E24 に位置する。長軸 1.04・短軸 0.96m の平面円形であり、深さ 1.02m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土製品、金属製品 (570)、木製品 (579) が出土している。

SE289 (図版 92、写真図版 44) 7H-7E14・19 に位置する。長軸 0.74・短軸 0.72m の平面円形であり、深さ 0.52m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。

SE304 (図版 92、写真図版 44) 7H-4E16・17・21 に位置する。長軸 1.91・短軸 1.86m の平面方形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。

SE382 (図版 92、写真図版 44) 7H-6C24 に位置する。長軸 1.28・短軸 1.04m の平面円形であり、深さ 0.48m を測る。断面形はU字状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、木製品が出土している。

SE460 (図版 93、写真図版 44) 7H-8F7 に位置する。長軸 1.10・短軸 1.04m の平面方形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。

SE468 (図版 93、写真図版 44) 7H-7E15、7F11 に位置する。長軸 0.92・短軸 0.90m の平面円形であり、深さ 1.26m を測る。断面形は袋状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、木製品 (580) が出土している。

SE513 (図版 93、写真図版 44) 7H-10C2・3・7・8 に位置する。長軸 1.26・短軸 1.20m の平面円形であり、深さ 0.42m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。

SE1031 (図版 93、写真図版 45) 7H-10E3・8 に位置する。トレンチ際のため全体の形状は不明である。深さ 1.30m を測る。断面形はU字状を呈し、単一層である。覆土はBであり、中世と考える。

SE1433 (図版 94、写真図版 45) 6H-8G13~15・18~20 に位置する。長軸 3.50・短軸 2.87m の平面不整形

であり、深さ 1.16m を測る。断面形は漏斗状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、小玉 (554)、木製品 (581) が出土している。

SE1514 (図版 93、写真図版 45) 6H-10G10・15、10H6・11 に位置する。長軸 2.43・短軸 2.01m の平面円形で、深さ 1.4m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、青磁 (348)、砥石 (555)、木製品が出土している。

SE1556 (図版 94、写真図版 45) 6H-10G12 に位置する。長軸 1.03・短軸 0.85m の平面楕円形で、深さ 1.08m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器と木製品 (582) が出土している。

SE1590 (図版 95、写真図版 45) 6H-10G20、10H16 に位置する。長軸 0.98・短軸 0.89m の平面円形で、深さ 0.81m を測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。木製品が出土している。

SE1601 (図版 95、写真図版 45) 7H-1G5、1H1・6 に位置する。長軸 2.00・短軸 1.55m の平面楕円形で、深さ 1.10m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、土製品、砥石 (556・557)、木製品 (583) が出土している。

SE1639 (図版 95、写真図版 45) 6H-10G21 に位置する。長軸 1.05・短軸 0.97m の平面円形で、深さ 0.92m を測る。断面形は U 字状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、土製品、木製品が出土している。

SE1652 (図版 95、写真図版 45) 6H-10F18・19 に位置する。長軸 0.91・短軸 0.77m の平面円形で、深さ 0.83m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SE1676 (図版 96、写真図版 46) 7H-2G6・7・11・12 に位置する。長軸 2.03・短軸 1.53m の不整形で、深さ 1.19m を測る。断面形は箱状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A で中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼 (349)、木製品 (584~586) が出土している。

SE1692 (図版 96、写真図版 46) 7H-2I21・22 に位置する。長軸 1.20・短軸 1.07m の円形で、深さ 1.52m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、白磁(350)、鍛冶関連遺物、木製品 (587・588) が出土している。黒色土器が出土している。

SE1769 (図版 96) 7H-1H12・13 に位置する。長軸 1.37・短軸 0.83m の楕円形で、深さ 1.21m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。SE2967 に切られる。土師器、須恵器、木製品が出土している。

SE1791 (図版 97、写真図版 46) 7H-3H16・17・21・22 に位置する。長軸 2.85・短軸 2.20m の不整形で、深さ 1.22m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品 (589・590) が出土している。

SE1792 (図版 97、写真図版 46) 7H-1G18・19 に位置する。長軸 0.79・短軸 0.71m の円形で、深さ 0.85m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品 (591) が出土している。

SE1826 (図版 97、写真図版 46) 7H-2H7・8 に位置する。長軸 0.78・短軸 0.75m の円形で、深さ 1.27m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器・須恵器が出土している。

SE1838 (図版 97、写真図版 46) 7H-2G19・24 に位置する。長軸 0.79・短軸 0.75m の円形で、深さ 0.99m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、木製品が出土している。

SE1890 (図版 98、写真図版 47) 6H-10H24、7H-1H4 に位置する。長軸 2.15・短軸 1.85m の円形で、深さ 1.11m を測る。断面形は V 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器、

銭貨、木製品（592～596）が出土している。

SE1891（図版 98、写真図版 47） 7H-II12・13・17・18 に位置する。長軸 1.38・短軸 1.35m の円形で、深さ 1.67m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、木製品が出土している。

SE1911（図版 98、写真図版 47） 7H-1H8・9・13・14 に位置する。長軸 1.30・短軸 1.15m の楕円形で、深さ 0.99m を測る。断面形は U 字状を呈し、斜位に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SE1996（図版 99・114、写真図版 47・61） 6H-10H18・19 に位置する。長軸 1.64・短軸 1.45m の長方形で、深さ 1.46m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SE2027（図版 99、写真図版 47） 7H-2I2・3・8 に位置する。長軸 1.86・短軸 1.45m の楕円形で、深さ 1.29m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、鍛冶関連遺物、石器・石製品（558）、木製品（597）が出土している。

SE2153（図版 99、写真図版 47） 7H-1F8・9・13・14 に位置する。長軸 2.23・短軸 1.74m の楕円形で、深さ 1.46m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、砥石（559）、木製品（598・599）が出土している。SD1661 に切られる。

SE2220（図版 100、写真図版 47） 7H-3E2・3 に位置する。長軸 1.17・短軸 0.89m の楕円形で、深さ 1.39m を測る。断面形は U 字状を呈し、ブロック状の堆積をなす。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、軽石（560）、木製品（600～603）が出土している。

SE2226（図版 100、写真図版 48） 7H-2E13 に位置する。長軸 1.48・短軸 1.22m の円形で、深さ 1.23m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、金属製品（571・572）、木製品（604～606）が出土している。

SE2251（図版 100、写真図版 48） 7H-1G16 に位置する。長軸 0.95・短軸 0.85m の円形で、深さ 1.06m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、木製品が出土している。

SE2274（図版 100、写真図版 48） 7H-1G23、2G3・4 に位置する。長軸 1.68・短軸 1.08m の楕円形で、深さ 1.06m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。

SE2277 7H-2G2・3 に位置する。長軸 1.18・短軸 1.03m の楕円形で、深さ 1.07m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、木製品が出土している。

SE2331（図版 101、写真図版 48） 7H-2E22 に位置する。長軸 1.00・短軸 0.92m の円形で、深さ 1.28m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、金属製品（573）、木製品が出土している。

SE2355（図版 101、写真図版 48） 7H-3E5 に位置する。長軸 0.90・短軸 0.73m の円形で、深さ 0.89m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品が出土している。

SE2398（図版 101、写真図版 48） 7H-3F2・3 に位置する。長軸 1.01・短軸 0.87m の楕円形で、深さ 1.22m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器（351）、黒色土器、須恵器、木製品（607）が出土している。

SE2811（図版 101、写真図版 48） 7H-2I17 に位置する。長軸 0.57・短軸 0.56m の円形で、深さ 0.92m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SE2831（図版 101、写真図版 49） 7H-4H5・10、4I1・6 に位置する。長軸 0.78・短軸 0.73m の円形で、深さ

0.56mを測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、石器・石製品が出土している。

SE2836 (図版 101、写真図版 49) 7H-3G20 に位置する。長軸 0.69・短軸 0.62m の円形で、深さ 0.85m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器が出土している。

SE2853 (図版 102、写真図版 49) 7H-1H6・11 に位置する。長軸 1.34・短軸 0.97m の楕円形で、深さ 0.92m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、砥石(561)、木製品(608~614)が出土している。

SE2868 (図版 102、写真図版 49) 6H-10F22、7H-1F2 に位置する。長軸 0.98・短軸 0.67m の楕円形で、深さ 1.05m を測る。断面形はU字状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品が出土している。

SE2903 (図版 102、写真図版 49) 7H-1H2・3・7・8 に位置する。長軸不明・短軸 1.26m の方形または長方形で、深さ 1.08m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品の曲物(615)が出土している。

SE2936 (図版 102、写真図版 49) 7H-1F18・19 に位置する。長軸 0.88m・短軸 0.81m の円形で、深さ 0.93m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。

SE2953 (図版 103、写真図版 50) 7H-1G24 に位置する。長軸 1.04m・短軸 0.93m の円形で、深さ 1.06m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品が出土している。

SE2967 (図版 96、写真図版 46) 7H-1H12 に位置する。長軸 1.47m・短軸 1.11m の楕円形で、深さ 0.92m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品(616・617)が出土している。SE1769、SX1770を切る。

SE2977 (図版 103、写真図版 50) 7H-1H11・16 に位置する。長軸 1.33m・短軸 1.33m の方形で、深さ 1.05m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。木製品(618)が出土している。SE2978に切られる。

SE2978 (図版 103、写真図版 50) 7H-1H16・17 に位置する。長軸 0.76m・短軸 0.70m の楕円形で、深さ 0.75m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品が出土している。SE2977を切る。

SE3025 (図版 103、写真図版 50) 7H-3I22、4I1・2 に位置する。長軸不明・短軸 1.40m で、平面は方形または長方形と推測される。深さは 1.10m を測る。断面形はV字状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SE3172 (図版 104、写真図版 50) 7H-2F8・9・13・14 に位置する。長軸 1.03m・短軸 0.93m の円形で、深さ 0.95m を測る。断面形は箱状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器(352)、木製品が出土している。

SE3185 (図版 104、写真図版 50) 7H-2G11・12・16・17 に位置する。長軸 1.30m・短軸 1.15m の長方形で、深さ 0.92m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器(353~355)、黒色土器、須恵器が出土している。

SE3188 (図版 104、写真図版 51) 7H-2G11・12 に位置する。長軸 1.05m・短軸 1.03m の円形で、深さ 1.39m を測る。断面形はU字状で下端はオーバーハングする。堆積はレンズ状。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、中世土師器(356)、鍛冶関連遺物、木製品(619)が出土している。

SE3241 (図版 105、写真図版 51) 7H-3H1・2・6・7 に位置する。長軸 1.06m・短軸 0.84m の楕円形で、深さ 0.95m を測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SE3315 (図版 63・105、写真図版 51) 7H-3G18 に位置する。長軸 0.92m・短軸 0.68m の楕円形で、深さ 0.65m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、砥石 (562)、木製品 (620・621) が出土している。

SE3320 (図版 105、写真図版 51) 7H-4G4 に位置する。長軸 0.68m・短軸 0.66m の円形で、深さ 1.16m を測る。断面形は U 字状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、木製品 (622・623) が出土している。

SE3329 (図版 105、写真図版 52) 7H-4G2・3・7・8 に位置する。長軸 1.36m・短軸 1.23m の楕円形で、深さ 1.35m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、木製品 (624) が出土している。

SE3339 (図版 106、写真図版 52) 7H-4G13 に位置する。長軸 1.14m・短軸 1.02m の円形で、深さ 0.73m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品が出土している。

SE3372 (図版 106、写真図版 52) 7H-2F15, 2G11 に位置する。長軸 0.93m・短軸 0.72m の楕円形で、深さ 0.73m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器 (357)、須恵器が出土している。

SE3416 (図版 106、写真図版 52) 7H-4G9・10 に位置する。長軸 1.38m・短軸 1.21m の円形で、深さ 1.92m を測る。断面形は底が平らな U 字状で、レンズ状の堆積をなす。舟を転用した井戸側 (625・626) が設置される。覆土は C であり、古代と考える。他に土師器・黒色土器 (358~363)、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器無台椀 (358) は井戸底から正位の状態出土した。

SE3433 (図版 106、写真図版 53) 7H-3G1・6 に位置する。長軸 1.10m・短軸 1.02m の円形と推測され、深さ 1.16m を測る。断面形は U 字状で、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。

SE3530 (図版 106、写真図版 53) 7H-4F1・2 に位置する。長軸 1.09m・短軸 0.97m の楕円形で、深さ 1.21m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品 (627) が出土している。

SE3557 (図版 107、写真図版 53) 7H-4E5, 4F1 に位置する。長軸 1.01m・短軸 0.78m の楕円形で、深さ 1.02m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SE3571 (図版 107、写真図版 53) 7H-5G10・15 に位置する。長軸 1.53m・短軸 1.44m の楕円形で、深さ 0.39m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器、木製品 (628) が出土している。

SE3579 (図版 107、写真図版 53・54) 7H-4G1・2・7 に位置する。長軸 1.53m・短軸 1.25m の楕円形で、深さ 1.91m を測る。下部には自然木や木製品 (631・632) などによって井桁状に組まれた方形の井戸側が設置される。また、井戸側の設置に伴う方形で箱状の掘り方が確認されている。井戸の断面形は U 字状を呈し、覆土はブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器、須恵器、木製品 (629~632) が出土している。なお、井桁に組まれた自然木について放射性炭素年代測定を行っている (第VI章第VII節)。

SE3587 (図版 107、写真図版 54) 7H-4G11・12・16・17 に位置する。長軸 0.91m・短軸 0.79m の楕円形で、深さ 0.69m を測る。断面形は箱状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品が出土している。

SE3589 (図版 108、写真図版 54) 7H-4F3・4・8・9 に位置する。長軸 1.85m・短軸 1.71m の円形と推測され、深さ 0.55m を測る。断面形は台形状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器が出土している。

SE3600 (図版 108、写真図版 54) 7H-4F19 に位置する。長軸 1.08m・短軸 1.02m の円形で、深さ 1.12m を測る。断面形は底が平らな U 字状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、木製品 (633) が出土している。

SE3616 (図版 108、写真図版 54) 7H-4E4・5・9 に位置する。長軸 1.29m・短軸 1.02m の楕円形で、深さ 1.37m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品 (563)、木製品 (634~637) が出土している。

SE3617 (図版 108、写真図版 54) 7H-4E5・10 に位置する。長軸 1.62m・短軸 1.25m の楕円形で、深さ 1.52m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器 (364)、木製品、骨角製の栗形 (679) が出土している。

SE3705 (図版 108、写真図版 54) 7H-4I1・6 に位置する。長軸不明・短軸 0.71m の楕円形と推測され、深さ 0.78m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

#### 土 坑 (SK)

SK22 (図版 109、写真図版 55) 7H-5E15 に位置する。長軸 0.60・短軸 0.34m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。SD15 を切る。

SK83 (図版 109、写真図版 55) 7H-4D6・11 に位置する。長軸 0.49・短軸 0.30m の平面長方形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK99 (図版 109、写真図版 55) 7H-4C20 に位置する。長軸 0.74・短軸 0.70m の平面円形であり、深さ 0.25m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK158 (図版 109、写真図版 55) 7H-4C20・25、4D16・21 に位置する。長軸 0.73・短軸 0.45m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK167 (図版 109、写真図版 55) 7H-5E7・8・12・13 に位置する。長軸 0.86・短軸 0.64m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK173 (図版 109、写真図版 55) 7H-4E11 に位置する。長軸 0.55・短軸 0.54m の平面方形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK187 (図版 109、写真図版 55) 7H-4E18・23 に位置する。長軸 0.57・短軸 0.54m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK202 (図版 109、写真図版 55) 7H-5E4・5 に位置する。長軸 0.87・短軸 0.85m の平面不整形であり、深さ 0.36m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SD136 に切られる。

SK299 7H-7E19 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.44m の平面楕円形である。堆積状況・覆土・時期は不明である。

SK325 (図版 109) 7H-4D11 に位置する。長軸 0.69・短軸 0.30m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土・時期は不明である。

SK326 (図版 109) 7H-4D11 に位置する。長軸 0.61・短軸 0.38m の平面長方形であり、深さ 0.35m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土・時期は不明である。

SK327 (図版 109、写真図版 56) 7H-4C15 に位置する。長軸 0.83・短軸 0.41m の平面楕円形であり、深さ 0.36m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土・時期は不明である。

SK407 (図版 110、写真図版 56) 7H-5E2 に位置する。長軸 0.63・短軸 0.60m の平面円形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器、鍛冶関連遺物が出土している。

SK449 (図版 110、写真図版 56) 7H-7F3 に位置する。長軸 0.66・短軸 0.64m の平面方形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。

SK450 (図版 110、写真図版 56) 7H-5G16 に位置する。長軸 0.60・短軸 0.55m の平面円形であり、深さ 0.37m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。SD239 に切られる。

SK514 (図版 110、写真図版 56) 7H-7E19 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.32m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。

SK539 (図版 110) 7H-5D18・19 に位置する。長軸 0.72・短軸 0.56m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK542 (図版 110) 7H-9E13・14 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK544 (図版 110、写真図版 56) 7H-5C20、5D16・21 に位置する。長軸 1.32・短軸 1.18m の平面円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器(365)、黒色土器(366)、須恵器が出土している。

SK564 (図版 110、写真図版 56) 7H-5C15・19・20 に位置する。長軸 1.06・短軸 0.58m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK616 (図版 110、写真図版 56) 7H-6B20 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.46m の平面円形であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。

SK632 (図版 110) 7H-8C13 に位置する。長軸 0.56・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は U 字状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK640 (図版 111、写真図版 57) 7H-7C8・9 に位置する。長軸 1.02・短軸 0.76m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK724 (図版 111、写真図版 57) 7H-7E1・6 に位置する。長軸 0.66・短軸 0.32m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK753 (図版 111、写真図版 57) 7H-8A5、8B1・6 に位置する。長軸 1.12・短軸 0.72m の平面長方形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK789 (図版 111、写真図版 57) 7H-8B10、8C6 に位置する。長軸 0.78・短軸 0.66m の平面楕円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK798 (図版 111、写真図版 57) 7H-8B11 に位置する。長軸 0.76・短軸 0.44m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK805 (図版 111、写真図版 57) 7H-8B25、9B5 に位置する。長軸 1.06・短軸 0.42m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。

SK823 (図版 111) 7H-8B12 に位置する。長軸 0.64・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK917 (図版 111、写真図版 58) 7H-9B8 に位置する。長軸 0.66・短軸 0.50m の平面円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK964 (図版 111、写真図版 58) 7H-10D16 に位置する。長軸 0.52・短軸 0.46m の平面不整形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SK1011 (図版 111、写真図版 58) 7H-6C24 に位置する。長軸 0.66・短軸 0.40m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK1032 (図版 112、写真図版 58) 7H-10D1・2 に位置する。長軸 0.70・短軸 0.34m の平面楕円形であり、深

さ0.22mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK1109 (図版112、写真図版58) 7H-10E12に位置する。トレンチ際のため詳細な形状は不明である。深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK1135 (図版112、写真図版58) 7H-9C10・15、9D6・11に位置する。長軸0.78・短軸0.70mの平面円形であり、深さ0.14mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK1160 (図版112、写真図版58) 7H-9D13に位置する。長軸1.50・短軸0.80mの平面楕円形であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK1166 (図版112、写真図版58) 7H-9E19に位置する。長軸1.00・短軸0.64mの平面長方形であり、深さ0.06mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1172 (図版112、写真図版59) 7H-10D11・12に位置する。長軸0.70・短軸0.64mの平面不整形であり、深さ0.37mを測る。断面形はU字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK1186 (図版112) 7H-9E10・15に位置する。長軸0.66m・短軸不明の平面円形であり、深さ0.12mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1230 (図版112、写真図版59) 7H-5D23、6D3に位置する。長軸0.92・短軸0.70mの平面不整形であり、深さ0.08mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1239 (図版112) 7H-6D10、6E6に位置する。長軸0.44・短軸0.42mの平面円形であり、深さ0.04mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1288 (図版112、写真図版59) 7H-7F4・5に位置する。長軸0.94・短軸0.52mの平面楕円形であり、深さ0.06mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1289 (図版112、写真図版59) 7H-6F24・25、7F4・5に位置する。長軸0.83・短軸0.45mの平面楕円形であり、深さ0.08mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1300 (図版113、写真図版59) 7H-6G12・17に位置する。長軸0.77・短軸0.53mの平面楕円形であり、深さ0.08mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK1301 (図版113、写真図版59) 7H-9A20・25に位置する。長軸1.42・短軸1.24mの平面方形であり、深さ0.30mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土はBであり、中世と考える。SX1364を切る。

SK1381 (図版113、写真図版59) 8H-1D2・7に位置する。長軸1.08・短軸0.78mの平面楕円形であり、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。

SK1394 (図版113、写真図版59) 7H-9A6、9J10に位置する。長軸0.54・短軸0.52mの平面円形であり、深さ0.09mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。SK3925を切る。SD1390に切られる。

SK1429 (図版113、写真図版60) 7H-1F17に位置する。長軸0.56・短軸0.47mの平面楕円形であり、深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。砥石(564)が出土している。

SK1464 (図版86) 6H-9G14に位置する。長軸0.76・短軸0.68mの平面不整形であり、深さ0.13mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK1478 (図版113、写真図版60) 6H-2G8・13に位置する。長軸1.42・短軸1.12mの平面不整形であり、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器が出土している。

SK1522 (図版113、写真図版60) 7H-1E14に位置する。長軸0.52・短軸0.32mの平面楕円形であり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK1608 (図版113、写真図版60) 7H-1H2に位置する。長軸0.79・短軸0.54mの平面楕円形であり、深さ0.10m

- を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。
- SK1651(図版113、写真図版60) 6H-10F19に位置する。長軸0.81・短軸0.73mの平面円形であり、深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器が出土している。
- SK1654(図版113、写真図版60) 6H-10F19・20・24・25に位置する。長軸1.06・短軸0.78mの平面楕円形であり、深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。
- SK1846(図版85、写真図版39) 7H-2H22・23、3H2・3に位置する。長軸0.45m・短軸0.41mの平面円形であり、深さ0.05mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はAであり、中世と考える。黒色土器が出土している。SB11を構成するP1845を切る。
- SK1868(図版114、写真図版61) 6H-10H19・20に位置する。長軸1.24・短軸0.93mの平面楕円形であり、深さ0.25mを測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。須恵器が出土している。
- SK1886 7H-1H3・4に位置する。長軸0.58・短軸0.54mの平面円形である。深さは不明。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はBであり、中世と考える。
- SK1912(図版114、写真図版61) 7H-1H14・15に位置する。長軸0.50・短軸0.48mの平面円形であり、深さ0.18mを測る。断面形は半円状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。
- SK1937(図版114、写真図版61) 7H-1H19に位置する。長軸1.20・短軸1.06mの平面不整形であり、深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土はBであり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器が出土している。
- SK1965(図版114、写真図版61) 7H-1H22に位置する。長軸1.27・短軸0.74mの平面楕円形であり、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。
- SK1968(図版114) 7H-1H17・18・22・23に位置する。長軸0.70・短軸0.51mの平面楕円形であり、深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器が出土している。
- SK1974(図版114、写真図版61) 7H-1H23, 2H3に位置する。長軸0.50・短軸0.44mの平面楕円形であり、深さ0.06mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はBで、中世と考える。土師器が出土している。
- SK2014 7H-2I14に位置する。長軸0.55・短軸0.50mの平面円形である。深さは不明。断面形は半球状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。
- SK2023 7H-2I1に位置する。長軸0.45・短軸0.42mの平面円形である。深さは不明。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はAであり、中世と考える。
- SK2024(図版114、写真図版62) 7H-2I1に位置する。長軸0.52・短軸0.46mの平面円形であり、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。
- SK2025(図版114、写真図版62) 7H-2I1・6に位置する。長軸0.49・短軸0.35mの平面楕円形であり、深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。
- SK2031 7H-2I13に位置する。長軸0.73・短軸0.59mの平面楕円形である。深さは不明。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。
- SK2044(図版114、写真図版62) 7H-2G20に位置する。長軸1.37・短軸1.14mの平面不整形であり、深さ0.07mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。
- SK2188(図版114、写真図版62) 7H-1F21に位置する。長軸0.79・短軸0.53mの平面楕円形であり、深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、石器・石製品が出土している。

SK2202 (図版 114、写真図版 62) 7H-2E3・4 に位置する。長軸 0.51・短軸 0.45m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK2232 (図版 100、写真図版 48) 7H-2E13 に位置する。長軸不明・短軸 0.77m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SE2226 に切られる。

SK2254 (図版 100、写真図版 48) 7H-1G16・17 に位置する。長軸 0.70・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。SX2253 を切る。

SK2279 (図版 115、写真図版 62) 7H-2E14 に位置する。長軸 0.68・短軸 0.49m の平面楕円形であり、深さ 0.42m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器無台椀 (367~372)、黒色土器、製塩土器が出土している。

SK2286 (図版 115、写真図版 62) 7H-2G16・17・21 に位置する。長軸 1.03・短軸 0.62m の平面楕円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2290 (図版 115、写真図版 63) 7H-1F25、1G21 に位置する。長軸 1.74・短軸 1.23m の平面円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器無台椀 (373~375) が出土している。

SK2306 7H-2F5 に位置する。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2335 (図版 115、写真図版 63) 7H-2F16 に位置する。長軸 0.91・短軸 0.62m の平面楕円形であり、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器、鍛冶関連遺物が出土している。

SK2352 (図版 115) 7H-2E2 に位置する。長軸 0.62・短軸 0.43m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK2365 (図版 115、写真図版 63) 7H-2E6 に位置する。長軸 0.73・短軸 0.63m の平面円形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK2367 (図版 115、写真図版 63) 7H-2E6・7・11・12 に位置する。長軸 1.00・短軸 0.87m の平面円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK2375 (図版 115、写真図版 63) 7H-2F7・12 に位置する。長軸 0.68・短軸 0.51m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK2499 (図版 116、写真図版 63) 6H-8G16 に位置する。長軸 0.77・短軸 0.49m の平面楕円形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK2502 (図版 116、写真図版 63) 6H-8F25, 9F5 に位置する。長軸 0.47・短軸 0.37m の平面円形であり、深さ 0.33m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK2545 (図版 116、写真図版 63) 6H-9H11・16 に位置する。長軸 1.41・短軸 0.62m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK2607 (図版 116、写真図版 64) 7H-4H6・7 に位置する。長軸 0.52・短軸 0.36m の平面楕円形であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK2664 (図版 116) 7H-1H18 に位置する。長軸 1.03・短軸 0.53m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK2667 (図版 116) 6H-10H14・15 に位置する。長軸 0.51・短軸 0.45m の平面円形と推測され、深さ 0.05m

を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はBであり、中世と考える。

SK2683 (図版 116、写真図版 64) 7H-1H23 に位置する。長軸不明・短軸 0.36m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。

SK2796 (図版 116、写真図版 64) 6H-10G25・10H21、7H-1G5・1H1 に位置する。長軸 0.67・短軸 0.39m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK2837 (図版 116、写真図版 64) 7H-3I6 に位置する。長軸 0.58・短軸 0.48m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK2897 (図版 117、写真図版 64) 6H-10H23 に位置する。長軸 0.84・短軸 0.54m の平面楕円形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。土師器が出土している。

SK3007 (図版 117、写真図版 64) 7H-2G10 に位置する。長軸 0.70・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SK3173 (図版 117) 7H-2E10 に位置する。長軸 0.60・短軸 0.43m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAで、中世と考える。土師器無台椀 (376) が出土している。

SK3177 (図版 117、写真図版 64) 7H-2F4 に位置する。長軸 1.32・短軸 1.24m の平面楕円形であり、深さ 0.37m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器・須恵器 (377~379)、黒色土器が出土している。

SK3189 (図版 104、写真図版 50) 7H-2G12 に位置する。長軸 0.43・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.30m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、黒色土器が出土している。SE3185、SD2526 に切られる。

SK3197 (図版 104、写真図版 51・65) 7H-2F15、2G11 に位置する。長軸 1.60・短軸 1.58m の平面楕円形であり、深さ 0.35m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器・須恵器 (380~387) が定量出土している。SE3188・3372、SD1661・3191 に切られる。

SK3203 (図版 117、写真図版 65) 7H-2F25、2G21 に位置する。長軸 1.05・短軸 0.63m の平面楕円形であり、深さ 0.40m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、黒色土器が出土している。

SK3205 (図版 117、写真図版 65) 7H-2E10 に位置する。長軸 0.48・短軸 0.40m の平面円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCで、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK3206 (図版 118、写真図版 65) 7H-2F7・8 に位置する。長軸 0.53・短軸 0.25m の平面楕円形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK3225 (図版 118、写真図版 65) 7H-1F22 に位置する。長軸 0.67・短軸 0.51m の平面楕円形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器無台椀・黒色土器 (388~393) が出土している。

SK3227 (図版 118、写真図版 65) 7H-3G4・5・9・10 に位置する。長軸 1.60・短軸 1.46m の平面円形であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器無台椀 (394・395) が出土している。

SK3264 (図版 118、写真図版 65) 7H-2G25、3G5 に位置する。長軸 1.24・短軸 1.20m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はCであり、古代と考える。

SK3280 (図版 118、写真図版 65) 7H-2G16・17 に位置する。長軸 0.71・短軸 0.51m の平面楕円形であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。土師器、須

恵器が出土している。

SK3281 (図版 117、写真図版 65) 7H-2G21 に位置する。長軸 0.85・短軸 0.56m の平面楕円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK3435 (図版 118) 7H-3F7 に位置する。長軸 0.54・短軸 0.42m の平面楕円形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK3437 (図版 118) 7H-3F5 に位置する。長軸不明・短軸 0.65m の平面楕円形と推測され、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SK3441 (図版 119、写真図版 66) 7H-3F2・7 に位置する。長軸 0.90・短軸 0.46m の平面楕円形で、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK3449 (図版 119、写真図版 66) 7H-3D14・15 に位置する。長軸 0.98・短軸 0.70m の平面楕円形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。

SK3505 (図版 56、写真図版 30) 7H-3D5・3E11 に位置する。長軸 1.05・短軸 1.00m の平面楕円形であり、深さ 0.33m を測る。断面形は半球状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。耕作土に覆われている。土師器が出土している。

SK3537 (図版 119、写真図版 66) 7H-4F3・8 に位置する。長軸 0.71・短軸 0.65m の平面円形であり、深さ 0.40m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK3549 (図版 56、写真図版 31) 7H-3E12・13 に位置する。長軸 0.88・短軸 0.72m の平面楕円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。

SK3711 (図版 54、写真図版 29) 7H-4F25 に位置する。調査区外へ広がるため長軸不明・短軸 0.72m の平面楕円形と推測され、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器が出土している。

SK3860 (図版 54、写真図版 29) 7H-2D23, 3D3 に位置する。長軸 0.91・短軸 0.87m の平面楕円形と推測され、深さ 0.36m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、須恵器が出土している。

SK3882 6H-10E15・20 に位置する。調査区外へ広がるため長軸不明・短軸 0.94m の平面楕円形と推測され、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK3921 (図版 119、写真図版 66) 7H-6E16 に位置する。長軸 0.86・短軸 0.58m の平面楕円形であり、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は A であり、中世と考える。SD356 を切る。

SK3924 (図版 119、写真図版 66) 7H-7C21, 8C1・2 に位置する。長軸 2.88・短軸 0.95m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は U 字状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SK3925 (図版 113、写真図版 59) 7G-9J10・15 に位置する。長軸 0.86・短軸 0.48m の平面楕円形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層。覆土は C であり、古代と考える。SK1394・SD1390 に切られる。

#### 性格不明遺構 (SX)

SX1 (図版 120、写真図版 66) 7H-5D3・4・8・9 に位置する。長軸 2.68・短軸 1.74m の平面不整形であり、深さ 0.27m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SX2 (図版 120、写真図版 66) 7H-5G17 に位置する。長軸 0.55・短軸 0.43m の平面不整形であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は A であり、中世と考える。

SX3 (図版 55、写真図版 30) 7H-5F15, 5G11 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。SX4 に切られる。

- SX4 (図版 55、写真図版 30) 7H-5F10・15 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.22m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。SX3 を切る。
- SX11 7H-5F8・9 に位置する。長軸 0.50・短軸 0.28m の平面不整形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は A であり、中世と考える。
- SX29 (図版 120、写真図版 67) 7H-4E25、4F21、5F1 に位置する。長軸 1.94・短軸 0.28m の平面楕円形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。
- SX134 (図版 120) 7H-4E25 に位置する。長軸 1.02・短軸 0.76m の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。
- SX146 (図版 120、写真図版 67) 7H-5D1・2 に位置する。長軸 1.80・短軸 0.80m の平面不整形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (396～398・400・401)、黒色土器 (399) が出土している。SX247 を切る。
- SX172 (図版 120、写真図版 67) 7H-5D7・8・12・13 に位置する。長軸 2.43・短軸 0.80m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器 (402～409)、黒色土器 (410) が出土している。
- SX213 (図版 120、写真図版 67) 7H-5D6 に位置する。長軸 1.07・短軸 0.80m の平面楕円形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。
- SX247 (図版 120、写真図版 67) 7H-5D1・2 に位置する。長軸 1.82・短軸 0.68m の平面楕円形であり、深さ 0.34m を測る。断面形は箱状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX146 に切られる。
- SX248 (図版 121、写真図版 68) 7H-4D7・11～13・17・18 に位置する。長軸 3.18・短軸 2.11m の平面長方形であり、深さ 0.44m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。木製品が出土している。
- SX305 (図版 58、写真図版 31) 7H-4D20・25、4E16・21 に位置する。SX409 に切られるため全体の形状は不明である。深さ 0.58m を測る。断面形は箱状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器 (411)、須恵器 (412)、鍛冶関連遺物、木製品が出土している。
- SX337 (図版 121、写真図版 68) 7H-5D5・10・15、5E6・11 に位置する。長軸 3.66・短軸 1.95m の平面楕円形であり、深さ 0.35m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。
- SX345 (図版 121、写真図版 68) 7H-4D13・14・18・19 に位置する。長軸 1.87・短軸 1.38m の平面楕円形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。鍛冶関連遺物が出土している。
- SX354 (図版 122、写真図版 68) 7H-6C17・18・22・23、7C2・3 に位置する。長軸 3.14・短軸 2.24m の平面不整形であり、深さ 0.26m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土 C はであり、古代と考える。
- SX409 (図版 58、写真図版 31) 7H-4D14・19・20・24・25 に位置する。長軸 3.81・短軸 1.94m の平面長方形であり、深さ 0.60m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。鍛冶関連遺物が出土している。
- SX413 (図版 122、写真図版 69) 7H-5C15、5D11 に位置する。長軸 1.52・短軸 1.16m の平面長方形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。
- SX418 (図版 122、写真図版 69) 7H-5F18～20・25、5G16・21 に位置する。SD239・423 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。
- SX431 (図版 123、写真図版 69) 7H-7C16・17・22・23、8C2・3 に位置する。長軸 4.46・短軸 1.34m の平

面不整形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。  
**SX432** (図版 119・123、写真図版 66・69) 7H-7B20・25、7C16・21・22、8B5、8C1・2・6 に位置する。長軸 5.76・短軸 3.88m の平面不整形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

**SX433** (図版 122、写真図版 69) 7H-9B21~23、10B1~3・7・8 に位置する。長軸 4.24・短軸 2.76m の平面長方形であり、深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、単層である。覆土は C であり、古代と考える。SD438・726 と切り合いがなく、SD985・990・990 に切られる。

**SX454** (図版 124、写真図版 69) 7H-6F6・7・11・12・16~18・22・23 に位置する。長軸 7.02・短軸 2.24m の平面不整形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

**SX465** 7H-5F23・24、6F3・4 に位置する。長軸 1.90・短軸 1.00m の平面不整形である。断面形状は不明。覆土は C であり、古代と考える。土師器、鍛冶関連遺物が出土している。

**SX522** (図版 124、写真図版 69) 7H-6C6・7・11・12 に位置する。長軸 2.28・短軸 2.23m の平面不整形であり、深さ 0.29m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

**SX555** (図版 125、写真図版 70) 7H-9E11~13・16~18・21~23 に位置する。SD529・743 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.11m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。凹地遺構 C 類。

**SX615** (図版 124) 7H-6B15・20、6C11・16 に位置する。長軸不明・短軸 0.45m の平面不整形であり、深さ 0.02m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。

**SX631** (図版 124、写真図版 70) 7H-6C16・17・21・22、7C1・2 に位置する。長軸 2.94・短軸 1.32m の平面不整形であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

**SX647** (図版 126、写真図版 70) 7H-6B24・25、7B2~5・7~10・12~15・18・19、7C6・11 に位置する。長軸 8.66・短軸 6.76m の平面方形であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。凹地遺構 A 類。

**SX746** 7H-10D20・25、10E16・17・21 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。断面形は不明。覆土は不明であるが SD743 を切るため、中世と考える。

**SX750** (図版 126、写真図版 70) 7H-7B10・15 に位置する。長軸 2.14・短軸 1.58m の平面長方形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SX647 に切られる。

**SX751** (図版 126、写真図版 70) 7H-6B24・25、7B4・5 に位置する。長軸 2.12・短軸 1.96m の平面円形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX647 に切られる。

**SX755** (図版 125、写真図版 70) 7H-9D19・20・24・25、10D4 に位置する。長軸 3.86・短軸 1.66m の平面楕円形であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考えるが、上層は中世に埋められたと考えられる。

**SX761** (図版 125) 7H-9D23・24 に位置する。SX755、SD702 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

**SX803** (図版 127、写真図版 70) 7H-10D2・3・7・8・11~14・17~19・23 に位置する。SD744 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。凹地遺構 C 類。

**SX925** (図版 126) 7H-10D16・21・22、8H-1D1・2 に位置する。SD455 に切られるため、全体の形状は不明である。深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

**SX982** (図版 125、写真図版 71) 7H-7C4・5・9・10 に位置する。長軸 1.58・短軸 0.58m の平面楕円形であり、

深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX1097 (図版 127、写真図版 71) 7H-6C7・8 に位置する。長軸 1.12・短軸 1.02m の平面不整形であり、深さ 0.46m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1104 (図版 127) 7H-6C1・2 に位置する。長軸 0.80・短軸 0.66m の平面不整形であり、深さ 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SD1093 に切られる。

SX1133 7H-8A10 に位置する。長軸不明・短軸 0.36m の平面不整形である。断面形は不明である。覆土は C であり、古代と考える。SD810 に切られる。

SX1137 (図版 127、写真図版 71) 7H-5C17 に位置する。長軸 1.06・短軸 0.44m の平面不整形であり、深さ 0.17m を測る。断面形は U 字状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX1146 (図版 128、写真図版 71) 7H-5C23・24 に位置する。長軸 1.06・短軸 0.86m の平面円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SD521 に切られる。

SX1147 (図版 128、写真図版 71) 7H-5C23・24 に位置する。長軸 1.16・短軸 0.86m の平面不整形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SD521 に切られる。

SX1153 (図版 128、写真図版 71) 7H-6D9・10・14・15、6E6・11 に位置する。長軸 3.92・短軸 2.14m の平面不整形であり、深さ 0.38m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1158 7H-10D7・8 に位置する。長軸 1.00・短軸 0.90m の平面不整形である。断面形は不明。覆土・時期についても不明である。SX803 に切られる。

SX1201 (図版 128、写真図版 71) 7H-5D22・23 に位置する。SD237・238 に切られているため、全体の形状は不明である。深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX1218 (図版 128、写真図版 71) 7H-5D22・23 に位置する。長軸 1.46・短軸 0.92m の平面不整形であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1264 (図版 129、写真図版 72) 7H-4E22・23、5E2~4・7~9・12~13 に位置する。長軸 5.04・短軸 4.90m の平面方形であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SK167・SD136・SD301・SD1244 に切られる。凹地遺構 A 類。

SX1266 (図版 128、写真図版 72) 7H-4D22~24 に位置する。長軸 2.26・短軸 0.78m の平面楕円形であり、深さ 0.24m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1270 (図版 128、写真図版 72) 7H-4D22、5D2・3 に位置する。長軸 1.56・短軸 0.78m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は U 字状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX1302 7H-9A12~14・17~19 に位置する。長軸不明・短軸 3.76m の平面方形であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SX4・SX1364 と切り合いなし。凹地遺構 A 類。

SX1364 (図版 130) 7H9A23~25, 10A3~5・8~10・13~15, 10B1・6・7・11・12 に位置する。長軸 7.46・短軸 7.22m の平面方形であり、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SK1301 に切られる。SX433・SX1302 と切り合いなし。凹地遺構 A 類。

SX1380 7H-10C11・12・16・17 に位置する。長軸 2.08・短軸 1.14m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は不明である。覆土は C であり、古代と考える。

SX1384 (図版 131、写真図版 72) 7G-9J19・20・24・25, 9A16・17・21・22, 10A1・2・6・7 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。凹地遺構 A 類。

SX1457 (図版 132、写真図版 72) 6H-9G7・8 に位置する。長軸 0.85・短軸 0.47m の平面楕円形であり、深さ

0.08mを測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土はBであり、中世と考える。

**SX1539** (図版 132、写真図版 72・73) 6H-9G17・18に位置する。長軸 1.73・短軸 1.35mの平面長方形であり、深さ 0.32mを測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。金属製品(574)、アスファルト塊(第21図3)が出土しており、金属製品は底面直上の出土である。

**SX1755** (図版 132、写真図版 73) 7H-3H5・10・15・20・25、3I1・6・7・11・12・16・17・21・22、4H5・10、4I1・2・6に位置する。調査区外へ広がるため全容は不明であるが、長軸は10.00m以上、短軸 3.61mの平面長方形で、断面形は弧状を呈し、深さは0.22mを測る。主軸はN-10°-W。覆土はBであり、中世と考える。鍛冶関連遺物が出土している。SD2830を切る。SE2831・3025・3705、SX1756などに切られる。平面形態はSX1756と類似する。凹地遺構E類。性格については不明であるが、耕作あるいは建物に関連する可能性が推測される。

**SX1756** (図版 103・132、写真図版 73) 7H-3I21・22、4H1・2に位置する。調査区外へ広がるため全容は不明であるが、長軸 3.40m以上、短軸 2.03mの平面長方形であり、深さ 0.36mを測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。主軸はN-88°-E。覆土はAであり、中世と考える。凹地遺構F類。SX1755を切る。SE3025に切られる。

**SX1770** 7H-1H7・12に位置する。平面不整形であり、深さ 0.22mを測る。長軸・短軸は不明。覆土はCであり、古代と考える。

**SX2066** (図版 132、写真図版 73) 7H-1G14・15に位置する。長軸 1.38・短軸 1.10mの平面楕円形であり、深さ 0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はBであり、中世と考える。

**SX2140** (図版 133、写真図版 73・74) 7H-1E3・4・8・9・14に位置する。調査区外へ広がるため長軸は不明、短軸 3.40mの平面方形または長方形であり、深さ 1.04mを測る。断面形は台形状を呈し、斜位に堆積する。覆土はAであり、中世と考える。縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器(413)、珠洲焼(414・415)、中世土師器(416)、土製品、鍛冶関連遺物、砥石(565)、木製品(638~665)のほか、ブナ科の木の枝(680・681)が大量に出土した。また、覆土中位(図版 133の9~13・16~20層)では、植物を格子目状に組んだ層が観察された(写真図版 73)。植物についてはイネと同定されている(第VI章第6節)。同様の状況は、第18次調査のSE418で確認されており(木羽板層と報告)、敷物の可能性が想定されている〔前山2012〕。

**SX2253** (図版 133、写真図版 74) 7H-1G16・17・21・22に位置する。長軸 1.61・短軸 1.42mの平面円形であり、深さ 0.25mを測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器(417~422)、黒色土器(423)、灰釉陶器(424)、金属製品(575)が出土している。

**SX2348** (図版 134、写真図版 74) 7H-2F12・16・17・21・22、3F2に位置する。長軸 4.90・短軸 2.00mの平面不整形であり、深さ 0.22mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。土師器(425・426)、黒色土器(427)、鍛冶関連遺物が出土している。

**SX2512** (図版 134、写真図版 74) 7H-3E4・9に位置する。長軸 1.90・短軸 1.47mの平面長方形であり、深さ 0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

**SX2894** (図版 80) 7H-2H24、3H4に位置する。長軸 2.15・短軸 1.18mの平面不整形であり、深さ 0.28mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

**SX3054** (図版 134、写真図版 74) 7H-1H21・22に位置する。長軸・短軸長とも不明であるが、平面楕円形と推測され、深さは0.27mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

**SX3102** (図版 134、写真図版 75) 7H-2G3・8に位置する。長軸 1.49・短軸 1.34mの平面円形であり、深さ 0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

**SX3200** (図版 135、写真図版 75) 7H-2G12・13・17・18に位置する。長軸 1.38・短軸 1.30mの平面円形であり、深さ 0.24mを測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土はCであり、古代と考える。

SX3333 (図版 135、写真図版 75) 7H-3F25、3G21 に位置する。長軸 1.60・短軸 1.26m の平面不整形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器が出土している。SX3574 に切られる。

SX3349 (図版 135、写真図版 75) 7H-2F21・22、3F1・2 に位置する。長軸 2.60・短軸 1.46m の平面楕円形であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器無台椀 (428~448)、土師器小甕 (449)、黒色土器 (450~454)、須恵器 (455・456)・灰釉陶器 (457)、鍛冶関連遺物など、土器がまとまって出土した。

SX3521 (図版 136、写真図版 76) 7H-3E13・14・18~20・23~25、3F16、4E4・5 に位置する。長軸 5.03・短軸 4.77m の平面方形であり、深さ 0.82m を測る。断面形は台形状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。SX2140 や 8 区の SX2457 と類似した平断面の形状である。土師器、黒色土器、須恵器 (458)、緑釉陶器 (459)、白磁 (460)、土錐 (545)、銭貨、木製品 (666・667) が出土している。

SX3574 (図版 135、写真図版 75) 7H-3F20・25、3G16・21 に位置する。SD3384 に切られるため長軸不明・短軸 0.86m の平面不整形であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SX3333 を切る。

SX3584 (図版 135、写真図版 76) 7H-4G24、5G4 に位置する。長軸 1.48・短軸 0.63m の平面楕円形であり、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SX3604 7H-4G21・22 に位置する。長軸 1.17・短軸 0.89m の平面楕円形である。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX3789 (図版 135、写真図版 76) 7H-2G15 に位置する。長軸 1.37・短軸 1.06m の平面円形であり、深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。須恵器が出土している。

SX3803 (図版 136、写真図版 76) 7H-2F15・20 に位置する。長軸 1.78・短軸 1.02m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。

SX3827 (図版 135) 6H-9F17・18・23 に位置する。調査区外へ広がるため長軸不明、短軸 0.71m の平面不整形と推測され、深さ 0.30m を測る。断面形は弧状を呈し、ブロック状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX3878 (図版 116・136、写真図版 63・76) 6H-9F4・5 に位置する。調査区外へ広がるため全体の様相は不明である。長軸不明・短軸 1.60m の平面不整形であり、深さ 0.35m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SK2502 に切られる。

SX3879 (図版 136) 7H-2D9・10・14・15 に位置する。長軸 1.32・短軸 0.62m の平面楕円形であり、深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SX3922 7H-6F16 に位置する。長軸 1.46・短軸 0.36m の平面楕円形である。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。

SX3952 7H-9A2・3 に位置する。長軸 2.04・短軸 1.00m の平面楕円形である。その他の詳細については不明。

SX3953 (図版 131) 7G-9J15・18~20 に位置する。トレンチ際のため、全体の形状は不明である。深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、水平に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

#### 溝 (SD)

9 区で確認された溝は計 763 条である。溝は平・断面の形状や規模などで異なる状況が認められ、その違いは溝の性格や機能を反映することが推測される。以下では、①区画溝 (凹地遺構 B・D 類)、②小溝状遺構群、③道路状遺構、④その他、の 4 項目に大別したうえで、主なものについて記載する。

#### ①区画溝 (凹地遺構 B・D 類)

主に平成 23 年度調査区 (9 区南側) で覆土の特徴などから類似する溝が、方形ないし長形状を基調とする

平面形に巡ることが確認された。この溝群は平面形から何らかの区画をしていたと考えられ、平成24年度調査区(9区北側)でその可能性があるものを含めると15の区画に分けることができる(第42図、第30表)。区画ごととは単体の溝のみで構成されておらず、切り合いの存在や区画の1辺が確認できないものなどもある。これは、区画自体の特長とも考えられるが上層の耕作土の影響を受けているため詳細は不明である。また、区画には同時期の可能性が高い区画とつながったり、並行する、あるいは区画ごとをつなげるような溝も確認されている。区画溝及び関連する溝の覆土はAないしBであるため、中世の遺構と考えられる。区画溝の性格としては、耕作土との関係から畑を区画した溝の可能性が高い。以下、区画ごとに記載する。

区画1(図版58、写真図版31 SD98・210・239・332) 7H-4C・D、5C・Dに位置する。長軸約10.8・短軸約10mを測り、主軸はN-5°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.06mである。耕作土②に切られる。区画溝2と隣接しており、SD332は区画溝2との境の溝である。SD237はSD98と並行しSD239につながる。SD239は区画溝2・4・5・6・7に並行するように延びる。SD238は区画溝1・3をつなげる。SD116・209が区画溝1に伴う小溝群の可能性もある。凹地遺構B類。

区画2(図版58、写真図版31 SD188・301・302・332・339) 7H-4D・E、5D・Eに位置する。長軸約10・短軸約8mを測り、主軸はN-11°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.26mである。耕作土①に切られる。区画溝1と隣接している。SD10・136・201を切っているが、関係については不明である。凹地遺構B類。

区画3(SD518・519・520・521・523・525) 7H-5B・C、6B・Cに位置する。トレンチ際のため規模不明である。主軸はN-20°-Wである。区画溝内側の最大深度は0.06mである。耕作土③が認められる。他の区画と異なり、方形ないし長方形状ではない不整形である。SD521は区画溝4・8と並行する。SD524がSD525と並行する。凹地遺構B類。

区画4(図版58 SD356・508・509・512・534・537・538・543・554・561・562・563) 7H-5C~E、6C~E・7Dに位置する。長軸約14.4・短軸約14.2mを測り、主軸はN-1°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.10mである。耕作土①・②に切られる。区画溝5と隣接し、SD356が区画溝5との境の溝である。凹地遺構B類。

区画5(SD356・417・421・498・506・507・508・509・511・512) 7H-5E、6D・E、7Eに位置する。長軸約13.2・短軸約9.6mを測り、主軸はN-1°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.14mである。耕作土①・②に切られる。区画溝4・6と隣接し、SD421が区画溝6との境の溝である。SD285は区画溝5・10につながり、区画溝8・9と並行している。凹地遺構B類。

区画6(SD421・423・429・448・464) 5E~G、6E~G、6E・Fに位置する。長軸約12.6・短軸約12.2mを測り、主軸はN-1°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.10mである。耕作土①に切られる。区画溝5と隣接する。凹地遺構B類。

区画7(SD105・445・452) 5G、6G、7Gに位置する。トレンチ際のため規模不明である。主軸はN-10°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.05mである。耕作土①が認められる。SD105は区画溝6・9と並行する。凹地遺構B類。

区画8(図版57、写真図版31 SD656・669・670・714・740) 7H-7C~E、8C~Eに位置する。長軸約17・短軸約11mを測り、主軸はN-0°-Eである。区画溝内側の最大深度は0.06mである。耕作土③が認められる。SD625・754は区画溝8・10をつなぐ。凹地遺構B類。

区画9(写真図版31 SD298・503・504) 7H-7E・F、8E・Fに位置する。長軸約10.8・短軸約8.2mを測り、主軸はN-5°-Wである。区画溝内側の最大深度は0.06mである。耕作土①に切られる。SD275は区画溝9につながり、区画溝10・11に並行する。凹地遺構B類。

区画10(図版57、写真図版31 SD526・527・528・529・530・532・533・536) 7H-8D・E、9D・Eに位置する。長軸約16・短軸約12mを測り、主軸はN-4°-Wである。耕作土⑥を切る。凹地遺構B類。

区画11(写真図版31 SD495・501・502・3923) 7H-8E・F、9E・Fに位置する。トレンチ際のため規模不明

である。主軸はN-4°-Wである。区画溝内側の最大深度は0.05mである。耕作土①に切られる。凹地遺構B類。区画12 (SD743) 7H-9D・E、10D・Eに位置する。トレンチ際のため規模不明である。主軸はN-7°-Wである。SD702は区画溝12につながり、区画溝10と並行し、カーブを描いてSD521と一連の可能性があるSD720・721と並行する。凹地遺構B類。

区画13 (SD3381・3384) 7H-3G14~25、3H11・16・21、4G1~10・12~15、4H1・2・6・7・11・12に位置する。SD3381・3384で区画されるが、西から南西側にかけては区画が不明瞭である。主軸はN-5°-Wである。区画溝内側の最大深度は0.20mである。道路状遺構と考えられるSD1661・3384に切られる。SD3384からは土師器、須恵器(489)、青磁(490)が出土している。凹地遺構D類。

区画14 (図版56・写真図版30・31 SD2313・3539) SD2313・3599で区画された不整形の区画で、7H-3D15、3E6~20・24・25、3F6・11~13・16~18・21~25、4E5、4F1~9に位置する。区画溝より内側の最大深度は0.36mで、耕作土③・④が認められる。凹地遺構D類。

区画15 (SD3360・3719) 7H-4G3・4・8~10・14・15、5H6~8・11・12・16・17に位置する。東・南側は調査区外へのびるため全体の形状等は不明である。主軸はN-20°-Eである。区画溝より内側の最大深度は0.36mで、耕作土③~⑤が認めらる。凹地遺構B類の可能性はある。

## ② 小溝状遺構群

平成23年度調査区の9区南側で小溝が多く確認されている。おおむね幅0.27m、深さ0.07mで、覆土から基本的に古代の遺構と考える。格子目状のものが多く、本来は切り合いが存在し、数条並走した小溝群同士が方向を交えて形成されたものと推測する。これら小溝群の性格としては、畑に伴う耕作痕の可能性が高い。小溝群はその主軸方向からいくつかのグループに分けられる。

小溝群1 7H-4D・E、5D~G、6D~G、7D~G、8D~F、9D~F、10Eを中心に分布する。平成23年度調査区の半分ほどにまたがり、区画溝の範囲を類似する。主軸はN-2°-Eを中心としており、この点についても区画溝と類似している。北側が希薄であり南側に行くほど多数確認され、規則的な格子状となる。

小溝群2 7H-5C、6C、7Cを中心に分布する。区画溝3の範囲が含まれ、主軸はN-18°-Wを中心としており、区画溝3と類似する。耕作土の影響により遺構形状が乱れ、格子状ではなく不整形が目立つ。

小溝群3 7H-7A・B、8A・Bを中心に分布する。主軸はN-1°-Eを中心とする。小溝群4に切られる可能性が高い。

小溝群4 7H-8B・C、9B~D、10C~Dを中心に分布する。主軸はN-17°-Wを中心とする。

## ③ 道路状遺構

道路状遺構は平成24年度調査区の9区北側において可能性があるものも含め2条確認されている。該当する溝はSD1661とSD2092、SD1661とSD2224である。

SD1661-SD2092 側溝を含む最大幅4.0m、路面最大幅2.7m(側溝最大幅1.21m・側溝最大深度0.38m)である。方位はN-20°-Wを測り、両端とも調査区外へのびる。同種の遺構は8区で確認されないことから、北西-南東方向で8区東側を通ると推測される。

SD1661-SD2224 SD2224の軸長は約15mと短いものの、SD1661-SD2092と並走しており、道路状遺構に関連する可能性がある。道路状遺構とすれば、路面最大幅3.9m(側溝最大幅1.21m・側溝最大深度0.38m)である。方位はN-20°-Wである。

遺構の時期については、SD1661から吉岡編年〔吉岡1994〕のIV期に位置づけられる珠洲播鉢(470~473)が出土している。またSD2092は、古代・中世の遺物包含層であるⅢ層を切ることが確認されている(図版63)。出土遺物、切り合い関係から、SD1600・SD2092は中世の遺構と判断されるとともに、調査区内の中で最も新しい時期の遺構といえる。

④ その他

以下では、上記以外の主な溝について記載する。

**SD10** (図版 55・66・109、写真図版 30・55) 7H-4E、5E、5F に位置する。短軸 0.53m であり、深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物が出土している。SD30・SD136 を切る。SD201・301 に切られる。

**SD15** (図版 66・109、写真図版 55) 7H-5E、5F に位置する。短軸 0.54m であり、深さ 0.08m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SE17 に切られる。

**SD18** 7H-6G13・14 に位置する。短軸 0.66m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。SD19 と切りあいなし。

**SD19** (図版 71) 7H-6G8・9・13 に位置する。短軸 0.55m であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。SD18 と切りあいなし。

**SD30** (図版 66) 7H-4F、5F に位置する。短軸 0.42m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SX29 を切る。SD10 に切られる。

**SD75** (図版 92) 7H-3D、4C、4D に位置する。短軸 1.52m であり、深さ 0.32m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器・須恵器が出土している。SE208、SD190 を切る。

**SD136** (図版 66) 7H-4E22~24、5E3~5、5F1 に位置する。短軸 0.75m であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。須恵器が出土している。SK202・SX1264 を切り、SD10・301 に切られる。

**SD186** (図版 66) 7H-4D・4E に位置する。短軸 0.55m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SD191 と切りあいがなく、SD188 に切られる。

**SD190** (図版 66) 7H-4C・4D・4E に位置する。短軸 0.42m であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器が出土している。SD191・195 を切り、SD75 に切られる。

**SD191** (図版 66) 7H-4D に位置する。短軸 0.40m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は B であり、中世と考える。土師器が出土している。SD190 に切られる。

**SD195** (図版 66) 7H-3D、4D に位置する。短軸 0.93m であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。SD190 に切られる。

**SD201** (図版 66・109、写真図版 55) 7H-4E、5E に位置する。短軸 0.92m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。SD10 を切り、SX134、SD301 に切られる。

**SD241** 7H-5C に位置する。短軸 0.88m であり、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は A であり、中世と考える。土師器が出土している。SD238 を切る。

**SD301** (図版 58・66・67) 7H-4E、5E に位置する。短軸 0.85m であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は A であり、中世と考える。鍛冶関連遺物が出土している。SX1264、SD10・136・201 を切る。

**SD455** (図版 75) 7H-8A、9A・B、10B・C・D、8H-1C、1D に位置する。短軸 2.10m であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であるが、近世陶磁器が出土していることから近世と考える。白磁 (463)、近世陶磁器、金属製品、木製品 (668~670) が出土している。周辺の遺構を切る。

SD725 (図版 73) 7H-7C、8B・8C に位置する。短軸 0.72m であり、深さ 0.19m を測る。平面形状はコ状に巡る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。

SD726 (図版 73) 7H-7B・7C に位置する。短軸 0.58m であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX432・647 と切りあいなし。

SD731 (図版 68) 7H-6B に位置する。短軸 0.36m であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX647 と切りあいなし。

SD736 (図版 68) 7H-6B に位置する。短軸 0.40m であり、深さ 0.03m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX647 と切りあいなし。

SD744 (図版 55・73・75・127、写真図版 30) 7H8B、9B、9C、10C、10D、8H-1D に位置する。短軸 1.70m であり、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。珠洲焼 (468)、木製品 (672) が出土している。周辺の遺構を切る。

SD1231 (図版 69) 7H-5E、5F に位置する。短軸 0.34m であり、深さ 0.08m を測る。平面形状が丸く巡る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SD1232 を切り、SE31 に切られる。

SD1232 (図版 69) 7H-5E、5F に位置する。短軸 0.42m であり、深さ 0.04m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SE31・32、SD1231 に切られる。

SD1244 (図版 69・129) 7H-5E に位置する。短軸 0.40m であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX1264 を切り、SD1263 と切りあいなし。

SD1284 (図版 69) 7H-4E19・24 に位置する。短軸 0.37m であり、深さ 0.14m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。

SD1342 (図版 73) 7H-10B、8H-1B に位置する。短軸 0.98m であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。SX433 と切りあいなし。

SD1390 (図版 73) 7G-9J、7H-9A に位置する。短軸 1.40m であり、深さ 0.06m を測る。断面形は弧状を呈し、斜位に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。SX1384 と切りあいなし。

SD1600 (図版 59・63・79・88、写真図版 34・41) 6H-10E24、7H-1E4・5・9・10、1F1・2・6~10、1G1~10・14・15 に位置する。短軸 0.88m であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。縄文土器 (469)、土師器、黒色土器、須恵器が出土している。

SD2141 (図版 82・115・133) 6H-10E24・25、7H-1E4・5・9・10・14・15・19・24・25、2E4・9・14・19 に位置する。西側を SD1600 に切られているため短軸長は不明である。深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器 (476)、鍛冶関連遺物、木製品 (673) が出土している。

SD2171 7H-2D10・15・20、2E16 に位置する。短軸 0.45m であり、深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (477) が出土している。

SD2192 (図版 63・82・103・115・118・133、写真図版 50・63・74) 7H-1E22~25、1F21~25、1G16・21~25、1H12・16・17・21、2E1~5、2D5、2F1 に位置する。短軸 1.40m であり、深さ 0.37m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼 (478・479)、中世土師器 (480)、軽石 (567)、アスファルト (第 21 図 1) が出土している。

SD2205 (図版 63・134、写真図版 74) 7H-2E5、2F1・6・11・16・17・22、3F2・3・8 に位置する。短軸 0.90m であり、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (481~483)、須恵器が出土している。

SD3012 (図版 64) 7H-2G10 に位置する。短軸 0.25m であり、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。中世土師器 (484) が出土している。

SD3288 (図版 64) 7H-1E17・18・21～23 に位置する。短軸 0.70m であり、深さ 0.36m を測る。断面形は半球状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は A であり、中世と考える。土師器、須恵器 (485)、灰釉陶器、珠洲焼 (486) が出土している。

SD3296 (図版 82・115・118・136、写真図版 63) 7H-2D10・15、2E6・11・12・13・17～19・24・25、3E5、3F1・6～8・13～15・20、3G16 に位置する。短軸 0.80m であり、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、レンズ状に堆積する。覆土は C であり、古代と考える。土師器 (487)、黒色土器 (488)、須恵器が出土している。

SD3472 (図版 64) 7H-3E1・6・7 に位置する。短軸 0.60m であり、深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、単一層である。覆土は C であり、古代と考える。土師器、黒色土器 (491)、須恵器、砥石 (568) が出土している。SD2313 に切られる。

## 第V章 遺 物

今回報告する大沢谷内遺跡 8・9 区からは縄文、古代、中世の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内径 54.5×33.6×10.0cm）に換算すると 395.5 箱と大形水槽 2 箱出土した。遺構出土遺物と遺構外出土遺物のコンテナ数量を比較すると遺構出土遺物が概ね全体の 2/3 を占める。

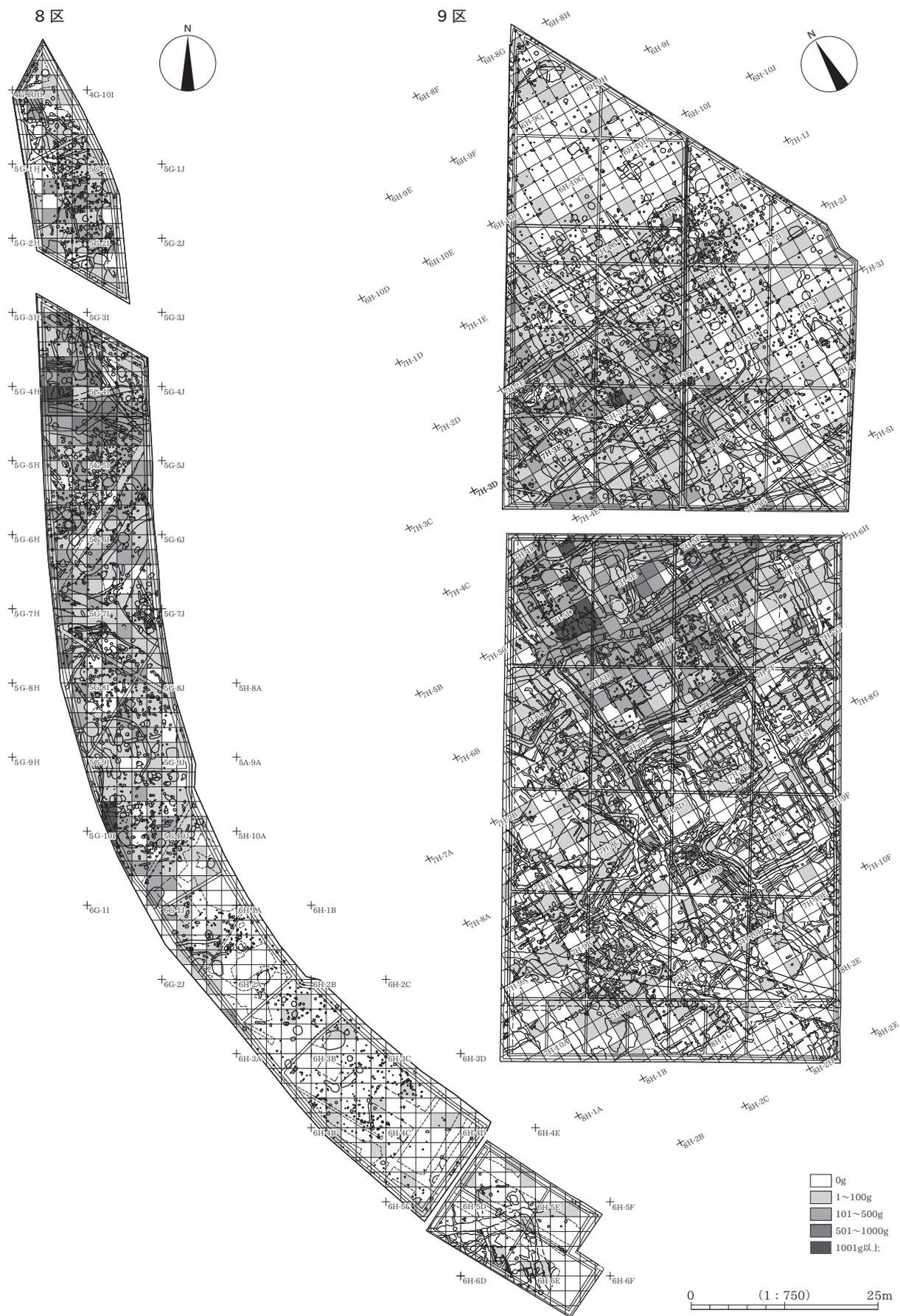
調査区別にみると 8 区出土の遺物総量が 115.5 箱と大形水槽 1 箱となり、その内容は土器が 69 箱、土製品 1.5 箱、鍛冶関連遺物 1 箱、石器・石製品 3 箱、銭貨・金属製品 2 箱、木製品 31.5 箱と大形水槽 1 箱、骨角製品 0.5 箱、アスファルト塊 7 箱である。9 区での出土遺物総量は 280 箱と大形水槽 1 箱となり、内容は土器が 205 箱、土製品 1 箱、鍛冶関連遺物 5.5 箱、石器・石製品 3 箱、銭貨・金属製品 2 箱、木製品 58 箱と大形水槽 1 箱、骨角製品 0.5 箱、アスファルト塊 5 箱である。土器については大半が古代であり、次いで中世となり、縄文土器については 1 箱程度の出土量である。なお、遺構外出土の古代の土器と中世の土器・陶磁器については調査区ごとに、かつ古代と中世というように時代で分けた小グリッドごとの重量分布図を作成した（第 12・13 図）。これを見ると古代の遺物出土傾向は、8 区は遺構数の多い範囲に遺物が多く、9 区に関しては掘立柱建物などからなる居住域ならびにそのやや南側で出土量が多い事が見てとれる。

本章の記述については、まず節として土器・陶磁器、土製品、鍛冶関連遺物、石器・石製品、銭貨・金属製品、木製品、アスファルト塊というように遺物種別ごとになっている。次に各節の項は 8 区・9 区といった調査区ごとの記述を基準としている。続いて調査区ごとの出土遺物の記述については、遺構種別出土遺物、遺構外出土遺物の順で行なうことを基準とした。遺構種別の順は、SB、SE、SK、SX、SD、P で行う。各遺構種別の記載順は番号の小さいものから進めており、遺構の時代ごとの記述ではない。この遺構種別の記載の後に遺構外出土遺物について耕作土出土遺物（耕作土については第 IV 章第 2 節 A2）・第 3 節 A3）参照）、包含層および排土出土遺物の順で記載する。なお、基準としては上記のようにしているが、第 1 節「土器・陶磁器」については「A 古代の土器」「B 中世の土器・陶磁器」が区ごとの記述の前に入り、第 6 節「木製品」での節の中には自然遺物の項が追加されていたり、また第 7 節「アスファルト塊」は調査区ごとの記述ではないなどしているため、記述の詳細については各節の概要部分などを参照していただきたい。遺物図面図版は区ごとに作成しているため、8 区出土遺物、9 区出土遺物の順で、さらに調査区ごとに遺物種別順で掲載している。また遺物の図面図版・観察表についても記載順は同じであるが、図面図版はレイアウトの都合などにより本文との記載順と前後する部分もある。なお、遺構の時代については第 IV 章第 3 節 B・C と遺構計測表（別表 1）で掲載している。

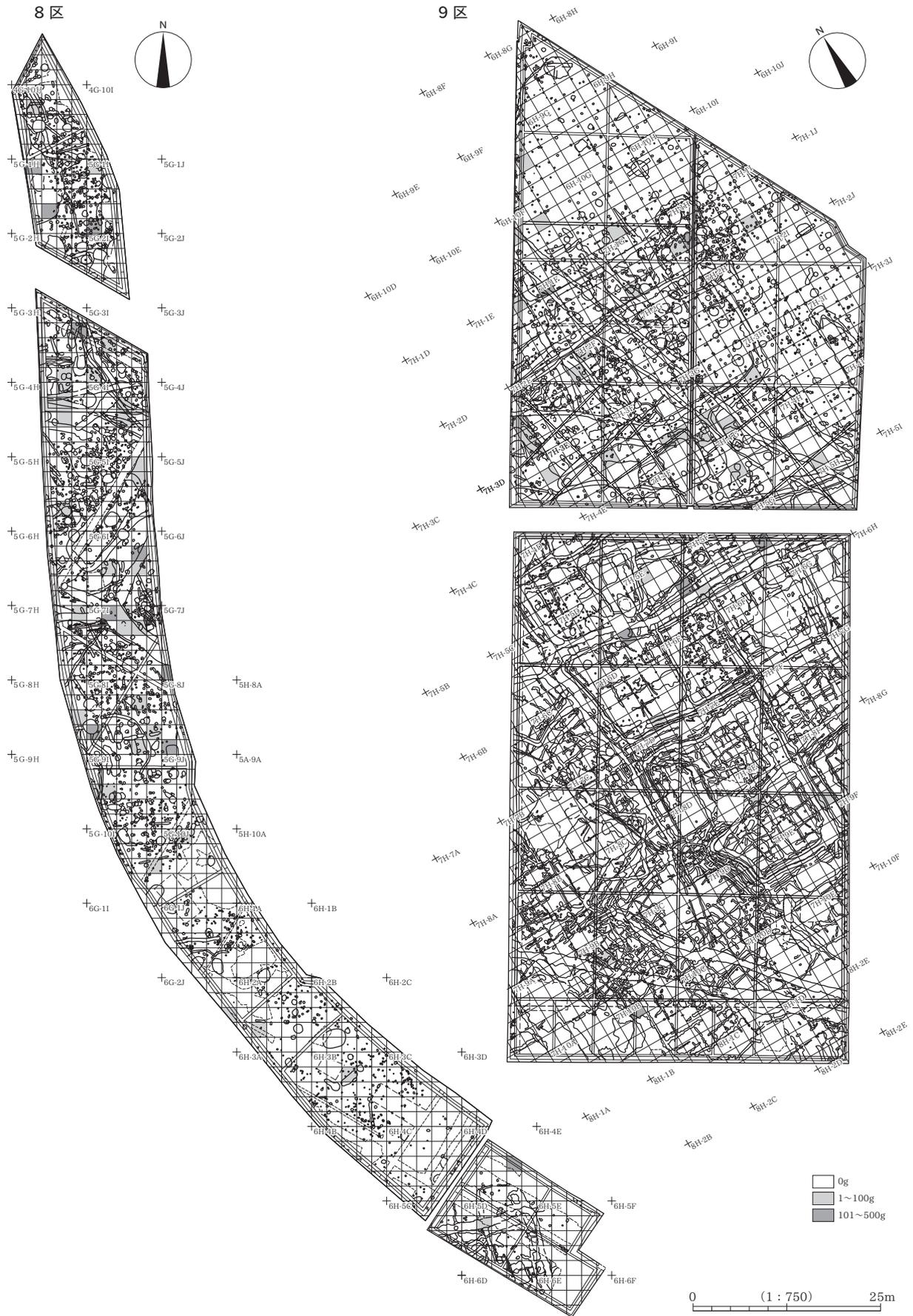
### 第 1 節 土器・陶磁器

第 1 節の「土器・陶磁器」では「A 古代の土器」「B 中世の土器・陶磁器」の記述が入り、その後に調査区ごとの記述となる。なお、縄文土器は少量の出土であるため、項としては特に設けていない。

調査区ごとの記述である「C 8 区」「D 9 区」では、繰り返しになるが遺構種別（SB、SE、SK、SX、SD、P）の順で記載し、その後に遺構外出土の土器を記載する。遺構出土遺物、遺構外出土遺物での内容の記載順については縄文、古代、中世という順で記述した。つまり遺構出土遺物の場合は中世の遺構であっても古代の土器、中世の土器・陶磁器というような順で記述した。また、遺構・遺構外出土遺物の記載は「A 古代の土器」「B 中世の土器・陶磁器」で行なった分類での記述順に進めている。なお、8・9 区の土器・陶磁器全般について春日真実氏に時期や生産地についてご教示いただいた。



第12図 8・9区包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図



第13図 8・9区包含層のグリッド別中世土器・陶磁器出土重量分布図

## A 古代の土器

### 1) 概要

今回報告する大沢谷内遺跡 8・9 区の調査区から古代の土器（飛鳥・奈良・平安時代）は 259 箱出土しており、土師器、黒色土器、須恵器、奈良三彩、緑釉陶器、灰釉陶器、越州窯系青磁、製塩土器が確認されている。出土遺物の大半は概ね 8 世紀中頃から 10 世紀の中頃が中心となると考える（編年的位置づけについては総括第 VII 章第 2 節 A に記載）。

### 2) 土器の分類と記述

まず使用する用語や須恵器胎土の説明、続いて土器の分類を土師器、黒色土器、須恵器、奈良三彩、緑釉陶器、灰釉陶器、越州窯系青磁、製塩土器の順に記述する。その後に「C 8 区」「D 9 区」の項で調査区ごとの遺構種別（SB、SE、SK、SX、SD、P）の順に記載し、遺構外出土の土器は遺構出土土器のあとに記載する。なお、以下本文中での古代の土師器・須恵器についての時期区分表現は春日真実氏の編年〔春日 1999〕を基本とし、春日〇期と記述した。円面硯の部位名称や分類については関雅之氏の研究〔関 2014〕、奈良三彩は榑崎彰一氏の研究〔榑崎 1998〕、緑釉陶器の年代や編年、特徴については高橋照彦氏の研究〔高橋 1995a・b〕、灰釉陶器の年代や編年、特徴については齊藤孝正氏の研究〔齊藤 1994〕や山下峰司氏の研究〔山下 1995〕を参考とした。さらに越州窯系青磁について年代や編年、分類などは山本信夫氏の研究〔山本 2000〕を基本とし、分類は山本〇類または山本分類の〇類と記述した。

#### ① 用語

成形・調整の表現・名称は山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか 1989〕や駒首渦遺跡〔渡邊ほか 2009〕などの記載を参考に以下の通りとした。

ロクロナデ：ロクロ・回転台使用、ナデ：ロクロ・回転台未使用。

ロクロケズリ：ロクロ・回転台使用、ケズリ：ロクロ・回転台未使用。

カキメ：ロクロ・回転台使用、ハケメ：ロクロ・回転台未使用。

ミガキ：ロクロ・回転台未使用。

ヘラ切り・糸切り：底部切り離し技法についてであるが、両者ともロクロ回転を利用したものである。ヘラ切りはヘラ状工具を用いたもので、糸切りは糸を用いたものである。

タタキメ・当て具痕：土師器長甕や鍋、須恵器甕などに見られる。外面をタタキメ、内面を当て具痕とした。

#### ② 須恵器の胎土について

山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか 1989〕や『越後阿賀北地域の古代土器様相』〔春日ほか 2004〕、『吉田町史』の考古編でのまとめ〔春日 2000〕などを基に以下のように分類した。

A：胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しがみられるものが多い。器種によって胎土が異なり、無台杯と小型の有台杯は胎土が特に精良で器面は滑らかであるが、その他の器種は砂っぽいややざらついた胎土である。9 世紀後半以降急速に多くなるもので、佐渡の小泊窯跡群で生産されたと考えられるもの。

B：石英・長石含む砂質の強い胎土である。西古志窯跡群などを含む信濃川左岸地域で生産されたと推定されるもの。

C：胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、含まれる鉱物の粒子は金雲母を除くと比較的大きい。笹神・真木山窯跡群を中心とした阿賀北地域の須恵器に見られることから、この地域で生産されたと推定されるもの。

D：胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。海面骨針を含むものもある。新津丘陵窯跡群で生産されたと推定されるもの。

E : A ~ D 群以外のものを一括した。また産地不明も含む。

### ③ 分類

器種分類を行ない、器種ごとの説明を行なう。上述のように土師器、黒色土器、須恵器、施釉陶器、越州窯系青磁、製塩土器の順に記述する。なお、形態や手法による分類はアルファベットの大文字と小文字 (A・B…、a・b…) で表記し、法量による分類はローマ数字 (I・II…) で表した (第14・15図)。

#### 土師器

食膳具と貯蔵具、煮炊具がある。食膳具には無台碗・有台碗・有台皿・蓋がある。貯蔵具には鉢、煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。なお、鍋か甑の把手と考えたものもある。

**無台碗** : 碗のうち高台を持たないもの。全体が分かるものを中心に法量により分類を行なった。口径が12cm前後を中心とした12.5cm以下のものをI、13cm前後を中心とした12.6～14.4cmのものをII、15cm台を中心とした14.5cm以上のものをIIIとした。また、身の深さについては実測図上で判断し、浅いものをA (器高指数28.1以下)、深いもの (器高指数36.1以上) をC、その中間のものをBとした。

**有台碗** : 碗に高台が付くもの。全体形が分かるものは無いため一括した。高台の形状が輪状と円盤のような形のものがある。

**有台皿** : 貼り付けた高台が付き、浅い皿形を呈すると考えたもの。全体の形が分かるものは無い。

**蓋** : 土師器の碗類に伴うものとする。1点のみの出土であり、赤彩されている。

**鉢** : 口縁端部が内湾するものがある。全体の形は不明だが、仏具である金属器の鉢を模倣したのと考えたため鉢として器種分類を行なった。

**長甕** : ロクロ・回転台の使用と未使用で大きく分類する。その後、全体の形が分かるものが少ないため口縁端部や口縁部の形態で細分を行なった。ロクロ成形をA、非ロクロ成形をBとした。ただし、Bについては口縁部・口縁端部形態がわかるものは1点のみであるため細分は行なっていない。次にAの細分であるが、

口縁部が直線的に外傾し、端部が面となるようなものをa、

口縁部が直線的に外傾し、端部をつまみあげる、または軽くつまみあげたような形態となるものをb、

口縁部が直線的に外傾してのび、その後内側に内傾させるものをc、

口縁部が内湾気味で、軽く受け口状を呈するものをd

口縁部が内湾し、口縁端部は面をなすが、外側につまみだしたような形のものe、

とした。なお、底部がわかる資料からは丸底が多いが、平底のもの (59) もある。

**小甕** : 分類の基本は長甕と同様にロクロ・回転台使用と未使用で考え、さらに全体の形が分かる資料がないことから口縁部形態で細分を行なった。出土しているものはAのロクロ成形のもののみである。口縁部形態では、

端部がやや面をなすものをa、

端部を上につまみあげているものをb、

口縁部を強く内傾させてから端部を上につまみあげているものをc、

端部をやや外方向上部につまみあげているものをd、

口縁部が内湾し、口縁端部中央がくぼみ、端部内側が張り出しているものをe

口縁部が受け口状で、端部を丸くおさめているものをf、

口縁部に段をもつような形のものg、

とした。

**鍋** : 全体の形が分かるものは無く、底部の形態を示す資料もない。分類の手順は長甕・小甕と同様で行なう。出土しているものはロクロ成形のAのみであり、口縁部の形態で5つに分けた。

口縁部がやや長く、口縁端部が面をなすものをa、

口縁端部を上につまみあげるものをb、

口縁部が外反し、口縁端部を丸くおさめるものを c、  
口縁部が受け口状を呈するものを d、  
口縁端部付近の外表面を強くくぼませ、口縁端部が屈曲するものを e

とした。なお、e のくぼませ方には棒状あるいは板状の工具によって引かれた沈線のものも含めた。

把 手：甑か鍋の把手部分と考えたものである。本来なら器種としての名称ではないためふさわしくないが、甑か鍋のいずれの土師器につくものか判断できなかったため把手とした。1点のみの出土である。

#### 黒色土器

食膳具の杯と無台椀、有台椀がある。

杯：7・8世紀頃のものと思われる。高杯の可能性もあるが杯とした。

無台椀：分類の手順は土師器食膳具の無台椀と同様とした。口径は12.5cm以下のものをⅠ、13cm台を中心とした12.6～14.4cmをⅡ、14.5cm以上をⅢとした。身の深さについては2つにわけ、浅いもの（器高指数33.6以下の範囲）をA、深いもの（器高指数34.9以上の範囲）をBとした。なお、この器高指数33.7～34.8までの間の資料は無い。調整技法をみると土師器無台椀ロクロナデの後にミガキやロクロケズリを施すものが多い。ちなみに9区で暗文土器（454）が出土しているである。

有台椀：全体が分かるものがなく、また数量が少ないことから法量による分類は避け、一括した。

#### 須恵器

食膳具と貯蔵具などがある。食膳具には無台杯・有台杯・無台椀・杯蓋がある。貯蔵具には鉢・壺・瓶類の短頸壺・長頸壺（瓶）・広口壺・長胴瓶・壺蓋・横瓶・提瓶と、甕がある。なお、壺・瓶類は部分的な破片資料が多いため、分類にあてはめることが困難なものもある。このような破片資料は本文中で、壺あるいは瓶といったような表現や壺・瓶類といった記載をしている。食膳具、貯蔵具以外では円面硯が出土している。

無台杯：杯のうち高台をもたないもの。土師器無台椀の分類方法と同様の手順である。まず、口径10.0cm台の小形のをⅠ、11cm台後半から13cmをⅡ、13cm以上をⅢとした。身の深さについては浅いものをA（器高指数19.9～22.3）、深いものをC（器高指数29.5以上）、中間のものをBとした。なお、Ⅰ類は138の1点のみで、ⅠB類とした。全体形は不明だが身が深いと推定されるものの中には体部外面に沈線を巡らせるもの（185）がある。また191は口縁端部付近の内面に沈線を巡らせていると考えたものもある。

有台杯：杯のうち高台をもつもの。土師器無台椀や須恵器無台杯の分類方法と同様の手順である。口径10cm前後の小ぶりなものをⅠ、11cm台後半から12cmをⅡ、14cm台のものも含めて13cm前後が中心となるものをⅢとした。身の深さでは2つにわけ、浅いものをA（器高指数28.2～38.0）、深いものをB（器高指数42.5以上）とした。なお、分類ⅢA中には体部中ほどに稜をもつもの（158）があり、ほかと明らかに形態が異なることからⅢAaと更に細分をした。また、無台杯でもあったように体部外面に沈線を巡らせるもの（194）がある。

無台椀：須恵器であるが底部切り離し技法が糸切りのもの。出土点数は少ないため一括した。

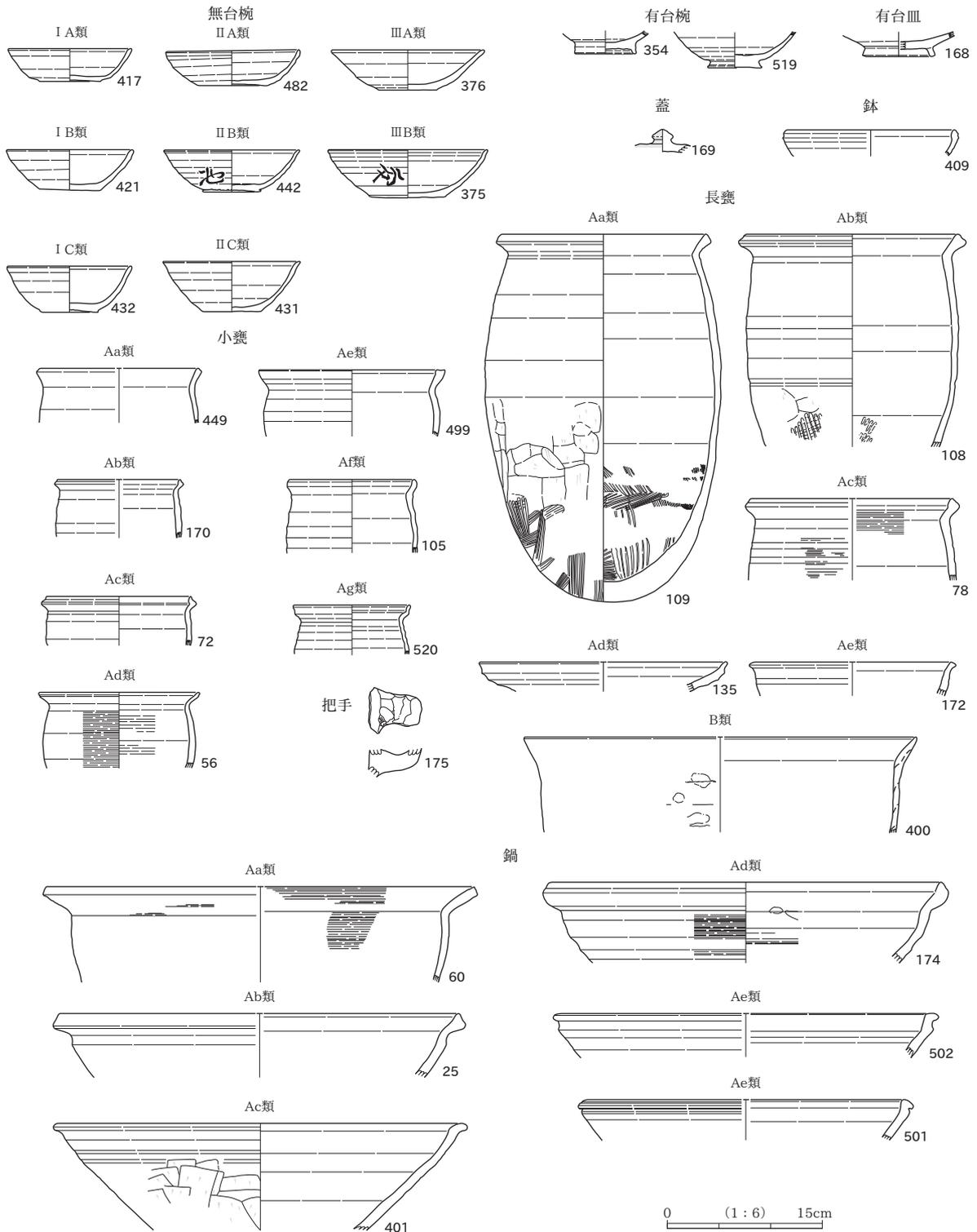
杯 蓋：有台杯の蓋と考える。分類の仕方は有台杯に伴うものという考えから、法量のうち口径の大ききで分類した。13cm台をⅠ、14cm台以上をⅡとした。また、Ⅱの中には口縁部内面に「かえり」をもつもの（467）があり、これのみⅡAとして細分を行なった。このⅡAとした467は飛鳥時代で、これ以外は奈良・平安時代のものとする。なお、つまみの形態による細分は行っていない。

鉢：鍋形になると考える。口径が20cmを超える。出土点数は少ないため一括した。

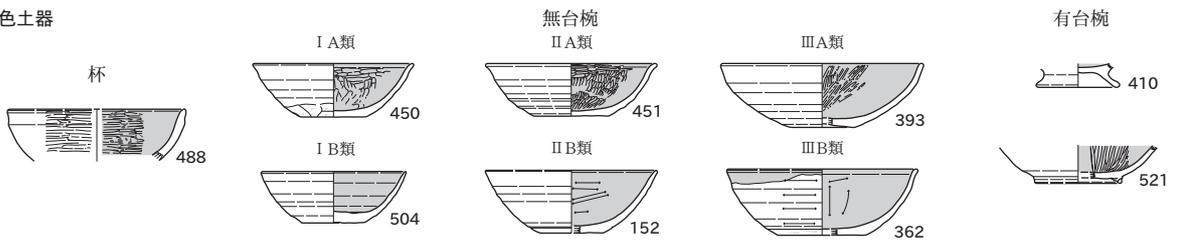
短頸壺：体部は球形で口縁部が短く直立する壺である。破片資料のため全体像は不明であるが、短く直立する口縁部や体部の形状から判断した。口径の大ききで大・小と分類できそうであるが、数量が少ないため細分は行っていない。また、全体の形は不明のため他器種の可能性もあるが口縁部の短い383は短頸壺として分類した。

長頸壺（瓶）：長い頸部となる壺・瓶である。全体像が分かるものは無く、いずれも頸部や体部の破片である。口縁部が残存しているもので口径をみると大ききが大・中・小とあるようだが細分は行っていない。

土師器

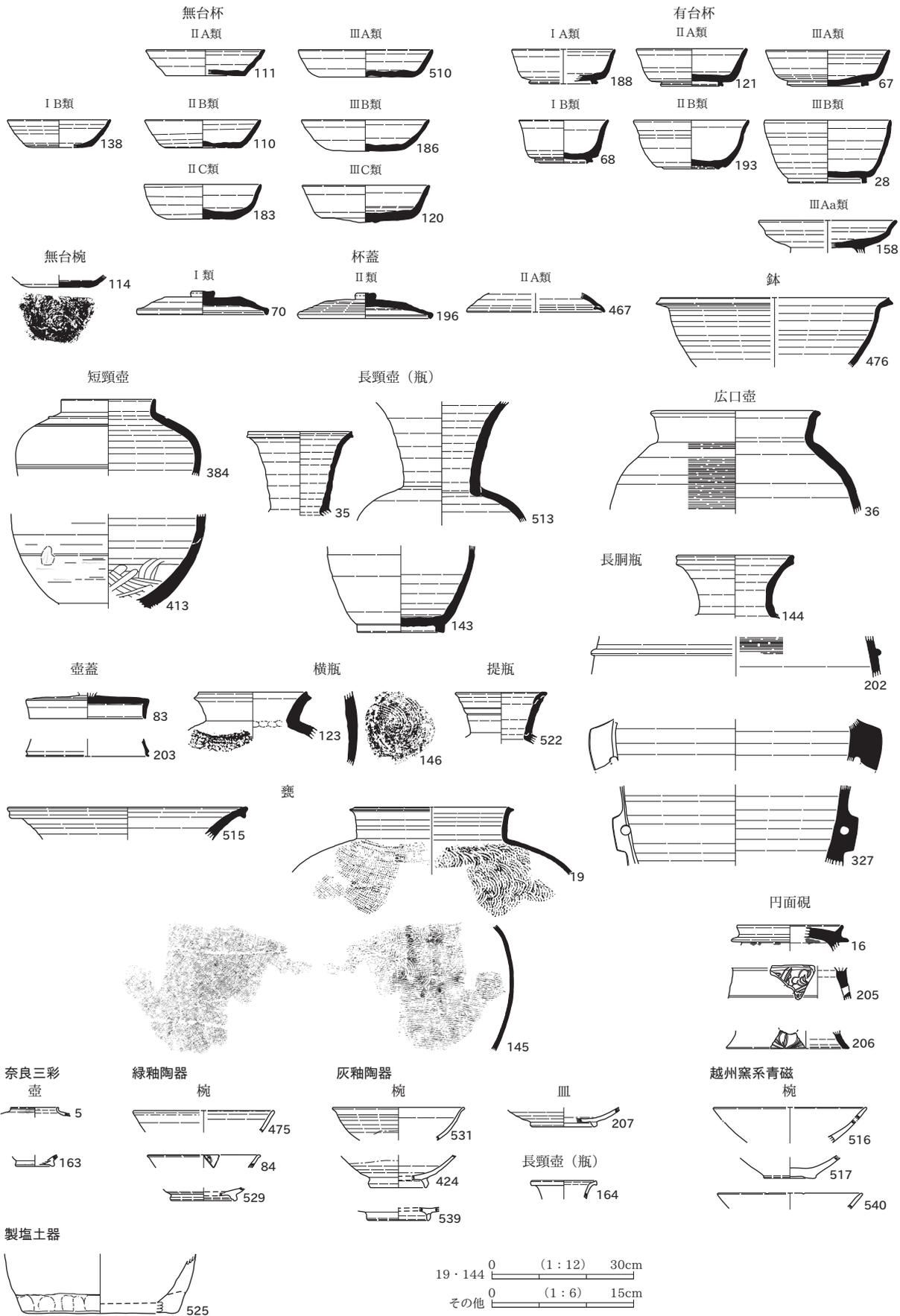


黑色土器



第14图 大沢谷内遺跡古代土器分類図1

須恵器



第15図 大沢谷内遺跡古代土器分類図2

広口壺：やや短めの口縁部で口の大きさが広く、肩部の張り具合が弱くてなで肩となるもの。

長胴瓶：体部が長めの胴体であり、広く大きく開く口縁部を有するものと考えたもの。体部に双耳や突帯が付くものもある。また、口縁部のみのももあり明確な判断はできないが、長胴瓶としたもの(144)もある。

壺蓋：壺の蓋と考えたものである。点数が少ないため細分は行っていない。口縁端部が小さく外反するものとはほぼ垂直に曲がるものがある。

横瓶：俵形の体部に広く大きく開く口縁部を有するもの。細分は行っていない。

提瓶：口縁部のみのため、確実性には欠けるが提瓶の口縁部と考えたもの。細分は行っていない。

甕：大形の甕を一括した。

円面硯：3点出土している。全体が分かるものがないため細分は行っていない。

#### 奈良三彩

小壺：小形の壺である。破片資料が8区で出土している。

#### 緑釉陶器

椀：破片資料であるがいずれも椀と判断した。底部の資料は高台付近の529のみである。ほかは体部破片である。有文・無文がある。

#### 灰釉陶器

椀：体部の破片資料が多い。そのため椀か皿か区別しがたいものもあるが、皿と判断したものの以外は椀とした。

皿：椀と異なり底部から体部への立ち上がりが緩いものを皿とした。

長頸壺(瓶)：1点のみ8区で確認された。

#### 越州窯系青磁

椀：総点数は5点でいずれも図示した。破片資料のみで全体が分かるものは無い。なお、破片資料であるため点数は同一個体の可能性があると考え。図示したものはいずれも9区の出土である。

#### 製塩土器

バケツ型のものが出土している。

## B 中世の土器・陶磁器

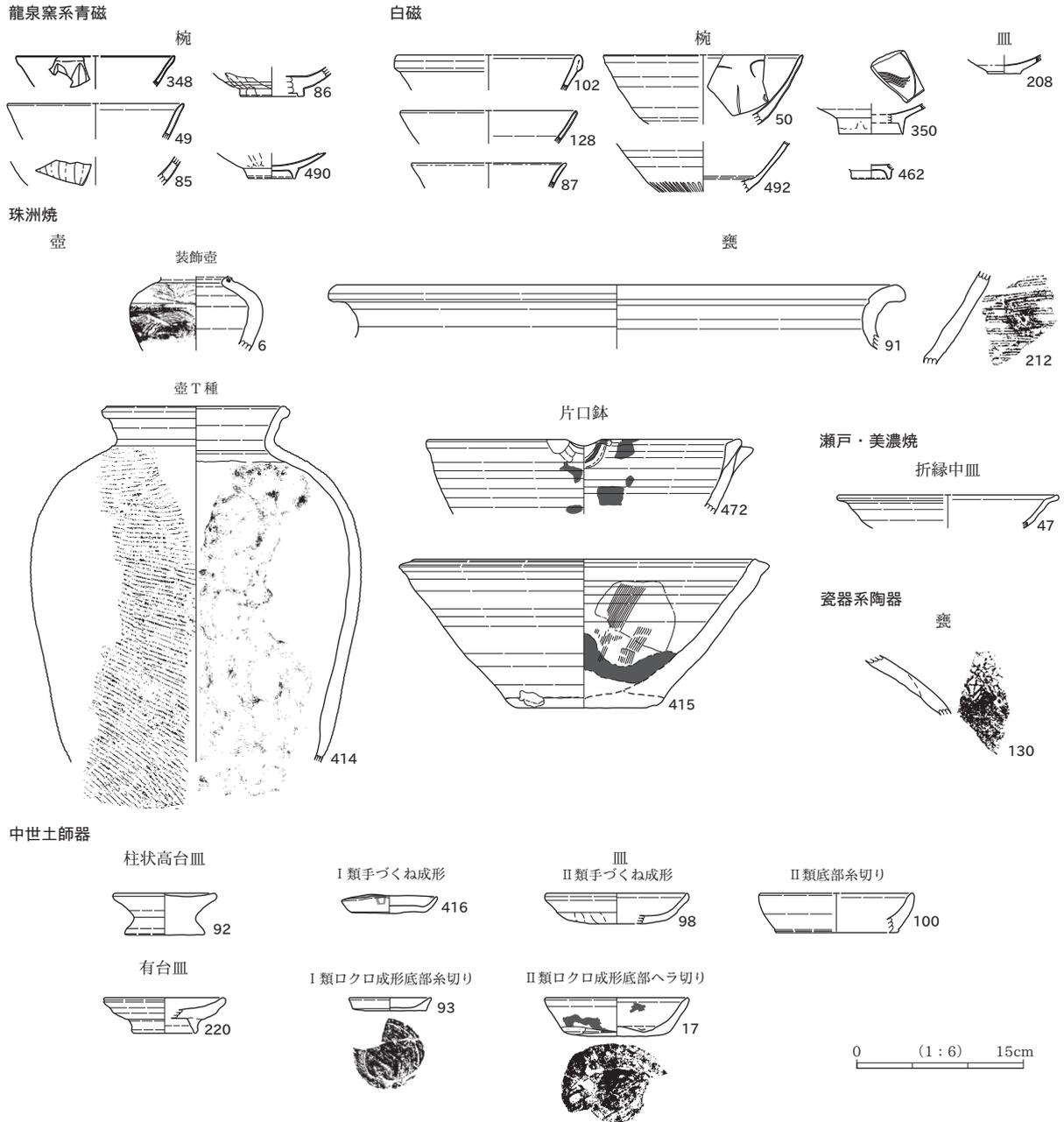
### 1) 概要

今回報告する大沢谷内遺跡8・9区の調査区からは中世の土器・陶磁器は14箱出土している。中世の土器・陶磁器には龍泉窯系青磁、白磁、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、瓷器系陶器、中世土師器がある。出土遺物の大半は概ね12世紀～14世紀が中心となると考える。

### 2) 土器の分類と記述

土器・陶磁器の分類を行ない、龍泉窯系青磁、白磁、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、瓷器系陶器、中世土師器の順に記述する。なお、器種分類図は第16図に示した。調査区ごとの記述の手順は「A 古代の土器」で記したものと同様である。ただし繰り返しになるが、中世の遺構出土遺物には古代の遺物も混入しているため中世遺構からの出土遺物であっても、古代、中世の順で記述する。遺構外出土の中世の土器・陶磁器は各区の遺構出土遺物の後に、かつ古代の遺構外出土遺物の次に記述を進めた。

分類や名称、年代、編年については青磁・白磁を山本信夫氏の研究〔山本2000〕、珠洲焼を吉岡康暢氏の研究〔吉岡1994〕、瀬戸・美濃焼を藤澤良祐氏の研究〔藤澤2008〕、中世土師器を水澤幸一氏の研究〔水澤2005〕などを主に参考とした。なお青磁・白磁の細分類の表現は山本〇類や山本分類の〇類、珠洲焼の時期については吉岡〇期と記述した。また、用語については古代の遺物とほぼ同様な解釈のものが多いため項目としては省略し、分類の本文中で記述した。



第16図 大沢谷内遺跡中世土器分類図

龍泉窯系青磁

破片資料のみで全体が分かるものは無い。

碗：有文のものと無文のものがある。

白磁

全体の形が分かるものは無い。

碗：いずれも破片資料である。有文のものと無文のものがある。口禿げも確認できる。

皿：1点のみ皿とした。底部の破片資料である。

珠洲焼

いずれも全体形が分かるものは無い。なお、壺や甕に見られるタタキメ・当て具痕については外面をタタキメ、内面を当て具痕とした。また、壺と片口鉢の底部切り離し技法は、ロクロ回転を利用せずに糸で切り離しているものがあり、これについては静止糸切りとした。

壺：T種、装飾壺などを図示した。なお、底部、口縁部破片資料のなかにはT種・R種の区別がつけられないものもある。装飾壺には櫛状工具による施文がある。

甕：口縁部破片資料と体部破片資料を7点を図示した。

片口鉢：24点を図示した。卸し目のあるものとないものがある。

#### 瀬戸・美濃焼

折縁中皿：破片資料であるが、推定口径が20cm近くのものである。

#### 瓷器系陶器

甕：いずれも体部破片である。215は研磨を目的として二次的に使用されている。

#### 中世土師器

柱状高台皿：1点図示した。分類は行なっていない。

有台皿：3点図示した。全体が推定できるものは1点のみであるため分類は行なっていない。

皿：25点図示した。口径でみると大小があることから、口径が9cm以下のものをⅠ、11cm以上のものをⅡとした。この分類をさらに成形・技法の違いにより、手づくね成形、ロクロ成形底部糸切り、ロクロ成形底部ヘラ切り、ロクロを使用して成形したものかどうか判断しかねるが底部切り離しが糸切りのもの(100)として、4つに細分類した。

## C 8 区

8区出土の土器・陶磁器の総量は69箱となり、内訳は縄文時代の土器0.5箱程度、古代の土器61箱、中世の土器・陶磁器7.5箱である。以下、8区出土遺物について記載するが、手順については本章の概要の部分で記したとおりである。

#### 掘立柱建物 (SB)

SB4001 (P412) (図版137) 土師器長甕(1)を図示した。口縁部の破片資料。外面調整はロクロナデののち体部でカキメが施されている。内面調整はロクロナデののち口縁部でカキメが施されている。Aa類とした。春日Ⅳ・Ⅴ期と考える。

SB4001 (P531) (図版137) 須恵器無台杯(2)を図示した。底部の破片資料。全体像は不明である。底部切り離しはヘラ切りである。信濃川左岸産。春日Ⅳ・Ⅴ期と考える

SB4005 (SD1771) (図版137) 土師器無台碗(3)を図示した。体部下半から底部の破片資料。底部切り離しは糸切りである。古代の土師器としているが12世紀代の中世土師器の可能性もある。

SD4006(P844) (図版137) 須恵器短頸壺(4)を図示した。口縁部から体部上半の破片資料。全体像は不明である。外面に自然釉がある。新津丘陵産。春日Ⅲ～Ⅴ期と考える。

#### 井戸 (SE)

SE112 (図版137) 奈良三彩小壺(5)と珠洲焼壺(6)を図示した。5は口縁部の破片資料。全体像は不明。緑白二彩である。外面に緑色釉・黄白色釉、内面に緑色釉が残っている。8世紀後半の可能性が高い。6は体部の破片資料。小形の装飾壺である。櫛目波状文が体部の肩部付近と中央部の2列施されている。肩部付近は連続した3つの波状文、中央部は切り合いのある2つの波状文を1つの単位としている。R種E類と考えることから、吉岡Ⅰ・Ⅱ期の可能性が高い。

SE120 (図版137) 珠洲焼片口鉢(7)を図示した。底部から体部下半の破片資料。底部切り離しは静止糸切りである。外面調整はロクロナデののち体部中央部にタタキメが施されている。

SE134 (図版137) 中世土師器皿(8)を図示した。底部から体部下半の破片資料。ロクロ成形底部ヘラ切りである。内外面にアスファルトが付着しており、破面にも確認できることから土器が割れた跡に付着したものである。13世紀後半～14世紀と考える。

SE155 (図版 137) 須恵器長頸壺(瓶) (9) を図示した。体部の破片資料。外面に自然釉がある。小泊窯跡群産。春日V・VI期と考える。

SE201 (図版 137) 土師器無台椀 (10) を図示した。完形資料。底部切り離しは糸切りである。II B 類とした。春日VII期と考える。

SE411 (図版 137) 土師器無台椀 (11・12) を図示した。11 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しは糸切りである。底部外面に十字のヘラ記号がある。II A 類とした。春日VII期と考える。12 は口縁端部から体部の破片資料。外面調整はロクロナデを施し。体部下半に指頭圧痕が確認できる。内面口縁部にススが付着している。春日VII期と考える。

SE768 (図版 137) 須恵器甕(13)と中世土師器皿(14)と珠洲焼片口鉢(15)を図示した。13 は口縁部の破片資料。全体像は不明である。小泊窯跡産の可能性が高い。V・VI期と考える。14 は底部の破片資料。ロクロ成形底部ヘラ切りである。底部ヘラ切りののち底部端にナデを施している。13 世紀後半～14 世紀と考える。15 は口縁部の破片資料。全体像は不明である。

SE929 (図版 137) 須恵器円面硯 (16) と中世土師器皿 (17) を図示した。16 は硯部の破片資料である。内堤が存在せず、陸と海が一連となっている。三角凸帯が発達している。各面にアスファルトが付着している。新津丘陵窯跡群産の可能性が高い。17 は口縁端部から底部までわかる資料。II 類とした。ロクロ成形底部ヘラ切りである。外面底部端には一部ケズリが施されている。内外面・破面にアスファルトが付着している。13 世紀後半～14 世紀と考える。

SE945 (図版 137) 珠洲焼片口鉢 (18) を図示した。底部から体部下半の破片資料である。底部切り離しは静止糸切り。内面には1単位8目の卸し目がある。内面底部は使用による磨耗が激しい。吉岡III・IV期と考える。

SE1070 (図版 137) 須恵器甕 (19) を図示した。口縁部から体部上半の破片資料。外面調整は体部に格子状のタタキメ、口縁部にロクロナデが施される。内面調整は体部に同心円状の当て具痕、口縁部にロクロナデが施される。小泊窯跡群産。春日V・VI期と考える。

SE1145 (図版 137) 中世土師器皿 (20) を図示した。口縁部から底部がわかる破片資料。I 類で手づくね成形である。13～14 世紀のものと考えられる。

SE1211 (図版 138) 土師器無台椀 (22)、土師器小甕 (23・24)、土師器鍋 (25)、須恵器無台杯 (26・27)、須恵器有台杯 (28)、須恵器杯蓋 (29) を図示した。22 はほぼ完形資料。底部切り離しは糸切りである。III B 類とした。23 は口縁部の破片資料。Ab 類とした。外面にスス、内面にコゲが付着している。24 は底部の破片資料。底部切り離しは糸切りである。外面にスス、内面にコゲが付着している。23 と同一固体の可能性が高い。25 は口縁部から体部上半の破片資料。全体像は不明である。Ab 類とした。26 は口縁部から底部がわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B 類とした。小泊窯跡群産。27 は一部欠損した資料。底部切り離しはヘラ切りである。II A 類とした。小泊窯跡群産。28 は一部欠損した資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。III B 類とした。内面に漆膜と考えられるものが付着している。小泊窯跡群産。外面底部に「田」の墨書がある。29 は口縁部から天井部までわかる資料。つまみの形態はボタン状である。外面調整はロクロナデののち一部ロクロケズリが施されている。II 類である。22～29 は春日V期と考える。

SE1216 (図版 137) 中世土師器皿 (21) を図示した。口縁部から底部がわかる資料。I 類で手づくね成形である。内面にススが付着している。灯明皿として使用されていたと考える。13～14 世紀のものと考えられる。

SE1421 (図版 138) 土師器小甕 (30)、土師器長甕 (31)、須恵器無台杯 (32、33)、須恵器有台杯 (34)、須恵器長頸壺(瓶) (35)、須恵器広口壺 (36) を図示した。30 は口縁部から体部上半の破片資料。Ab 類とした。春日V期と考える。31 は口縁部から体部上半の破片資料。外面調整はロクロナデののちカキメが施される。Ab 類とした。春日V期と考える。32 は口縁部から底部がわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B 類とした。内面口縁端部が若干厚くなる。小泊窯跡群産。外面体部に杯の正位置とは逆向きに「赤」の墨書がある。

春日V期と考える。33は一部欠損した資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡB類とした。小泊窯跡群産。外面底部に「土」の墨書がある。春日V期と考える。34は底部の破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後に高台がつく。外面底部には高台取付時の痕跡が残る。小泊窯跡群産。春日V期と考える。35は口縁部から頸部の破片資料。全体像は不明である。信濃川左岸産。春日V期の可能性が高い。36は口縁部から体部上半の破片資料。外面調整はロクロナデののち体部でカキメが施される。内外面に自然釉がある。信濃川左岸産。春日Ⅳ・V期の可能性が高い。

SE1431(図版138) 土師器無台椀(37・38)を図示した。37は完形資料。底部切り離しは糸切りである。ⅡB類とした。38は口縁部から底部の破片資料。内外面調整ともにロクロナデののちミガキが施されている。体部から口縁部にかけて直線的にのび、口縁部が若干外傾する。Ⅲ類とした。37・38は春日Ⅵ期と考える。

SE2313(図版138) 珠洲焼片口鉢(39)を図示した。底部から体部下半の破片資料。底部切り離しは静止糸切りである。内面には1単位9目の卸し目がある。内外面・破面にアスファルトが付着している。吉岡Ⅲ・Ⅳ期と考える。

SE2383(図版138) 須恵器無台杯(40)と須恵器有台杯(41)を図示した。40はほぼ完形資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡC類とした。底部から体部にかけて比較的屈曲せず立ち上がり、口縁部に向かってゆるく内湾する。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。41は完形資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後に高台がつく。ⅡA類とした。外面に自然釉がある。新津丘陵窯跡群産。外面底部に不明墨書がある。春日Ⅳ期と考える。40・41はSE2383の底面に41が正位置、42が逆位置で若干互いの縁が合うような状態で出土した。

#### 土 坑

SK467(図版139) 須恵器無台杯(42)を図示した。口縁部から底部がわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡB類とした。小泊窯跡群産。春日V期と考える。

SK630(図版139) 須恵器無台杯(43)を図示した。底部から体部下端の破片資料。全体像は不明である。小泊窯跡群産。春日V期の可能性が高い。

SK996(図版139) 須恵器無台杯(44)を図示した。底部の破片資料。全体像は不明である。底部切り離しはヘラ切り。阿賀北産。春日Ⅳ期の可能性が高い。

SK1074(図版139) 黒色土器無台椀(45)を図示した。口縁部から底部までわかる資料。ⅡB類とした。底部切り離し後ロクロナデ。内面調整はロクロナデののちミガキが施されている。内面黒色処理。春日Ⅵと考える。

SK1103(図版139) 中世土師器皿(46)を図示した。底部の破片資料。全体像は不明である。ロクロナデヘラ切りである。体部を意図的に打ち欠いている。13世紀後半～14世紀と考える。

SK1353(図版139) 瀬戸・美濃焼折縁中皿(47)を図示した。口縁部の破片資料。全体像は不明。口縁部が外折し、端部が若干丸く膨らむ。内外面に釉を施す。中期様式Ⅱ期と考える。

SK1570(図版139) 須恵器無台杯(48)、龍泉窯系青磁椀(49)、白磁椀(50)、中世土師器皿(51)を図示した。48は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りであり、若干ナデ調整により消されている。ⅡB類とした。小泊窯跡群産。春日V期と考える。49は口縁部の破片資料。全体像不明である。龍泉窯系と考える。山本Ⅰ-Ⅰ類とした。50は口縁部から体部の破片資料。直口縁で内湾する。口縁部形態は山本Ⅱ類に類似する。内面に篋描き文が施される。12世紀の可能性が高い。51は口縁部から体部の破片資料。手づくね成形のⅡ類である。内外面にススが付着している。灯明皿として使用された可能性が高い。12世紀後半～13世紀初頭と考える

SK1722(図版139) 土師器無台椀(52)を図示した。口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しは糸切りである。ⅡA類とした。春日Ⅳ・V期と考える。

SK1837(図版139) 土師器無台椀(53)を図示した。ほぼ完形資料。底部切り離しは糸切りである。ⅡB類とした。

全体の器形は歪んでおり、胎土が粗い。外面にススが付着している。春日VI期と考える。

性格不明遺構 (SX)

**SX225** (図版 139) 須恵器無台杯 (54) を図示した。底部の破片資料。全体像は不明である。底部切り離しはヘラ切り。外面底部に「中」の可能性のある墨書がある。信濃川左岸産。春日V期の可能性が高い。

**SX923** (図版 139) 土師器小甕 (55～57)、土師器長甕 (58・59)、土師器鍋 (60)、須恵器無台杯 (61～64)、須恵器有台杯 (65～68)、須恵器杯蓋 (69・70) を図示した。55 は口縁部から体部の破片資料。Ab 類とした。外面及び内面口縁部にススが付着している。56 は口縁部から体部の破片資料。Ad 類とした。内外面調整ともにロクロナデののち体部にカキメを施している。外面及び内面口縁部にススが付着している。57 は口縁部から体部の破片資料。Ab 類とした。内面口縁部にススが付着している。58 は底部から体部下半の破片資料。A 類である。内面調整はハケメを施し、外面調整はハケメののち底部にケズリを施す。59 は底部破片資料。全体像は不明。A 類である。60 は口縁部から体部の破片資料。Aa 類とした。内外面調整ともにロクロナデののちカキメを施している。61 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。III B 類とした。62 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。III B 類とした。63 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II C 類とした。64 は一部欠損した資料。底部切り離しはヘラ切りである。III B 類とした。65 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。II 類とした。66 は口縁部から底部までわかる資料。II A 類とした。67 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。III A 類とした。68 は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。I B 類とした。69 は口縁部から天井部までわかる資料。つまみの形態は擬宝珠状である。体部の口縁部近くは一度平坦になり、口縁部から体部にかけて屈曲している。外面調整はロクロナデののちに一部ロクロケズリが施されている。I 類である。70 は口縁部から天井部までわかる資料。つまみの形態は擬宝珠状である。天井部が平坦である。外面調整はロクロナデののちに一部ロクロケズリが施されている。I 類である。61～70 は新津丘陵窯跡群産。55～70 は春日IVと考える。

**SX1089** (図版 139・140) 土師器無台椀 (71)、土師器小甕 (72)、土師器鍋 (73)、須恵器杯蓋 (74, 75) を図示した。71 は口縁部から体部の破片資料。全体像は不明である。I 類とした。外面にススが付着している。72 は口縁部から体部上半の破片資料。Ac 類とした。外面及び内面口縁部付近にススが付着している。71・72 は春日VI期と考える。73 は口縁部から体部の破片資料。全体像は不明。Ab 類とした。外面調整はロクロナデののち体部にカキメを施し、さらに一部でケズリを施している。外面にススが付着している。春日V・VI期と考える。74 は口縁部から天井部までわかる資料。つまみの形態はボタン状を呈し、中央部が極端に窪む。天井部は平坦である。II 類とした。内面に一部磨耗が見られることから、硯として使用した可能性がある。小泊窯跡群産。春日VI期と考える。75 は口縁部から天井部までわかる資料。天井部は平坦である。I 類とした。小泊窯跡群産。春日VI期と考える。

**SX1306** (図版 140) 縄文土器深鉢 (101)、土師器無台椀 (76)、土師器長甕 (77・78)、黒色土器有台椀 (79)、須恵器無台杯 (80・81)、須恵器有台杯 (82)、須恵器壺蓋 (83)、緑釉陶器椀 (84)、龍泉窯系青磁椀 (85・86)、白磁椀 (87・88)、珠洲焼片口鉢 (89・90)、珠洲焼甕 (91)、中世土師器柱状高台皿 (92)、中世土師器皿 (93～100) を図示した。

101 は体部の破片資料。全体像は不明。外面に沈線が1条巡る。アスファルトによる補修が行われている。縄文時代晩期後葉と考える。

76 は口縁部から体部の破片資料。全体像は不明。II 類とした。春日VIと考える。77 は体部の破片資料。全体像は不明。外面に沈線が2条巡っている。春日V・VI期の可能性が高い。78 は口縁部から体部上半の破片資料。Ac 類とした。内外面調整ともにロクロナデののちカキメを施している。春日V・VI期の可能性が高い。79 は底部の破片資料。全体像は不明。内面調整はロクロナデののちミガキを施している。内面黒色処理。春日VII期の可

能性もあるがVI期と考える。80は底部の破片資料。全体像は不明。底部切り離しはヘラ切りである。外面底部に「寺」の墨書がある。内面は磨面を呈し、墨痕が確認できることから、硯として転用した可能性がある。小泊窯跡群産。春日VI期と考える。81は口縁部から体部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B類とした。内面に漆の可能性のある付着物がある。小泊窯跡群産。春日VI期と考える。82は底部の破片資料。全体像は不明。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。高台が比較的高い。小泊窯跡群産。春日VI期と考える。83は口縁部から天井部までわかる資料。口縁部が垂直に屈曲する。新津丘陵窯跡群産。春日III～V期と考える。84は口縁部の破片資料。全体像は不明。口縁部形態は山本A類に類似している。内面に花文の可能性のある文様がある。京都産の可能性が高い。

85は体部の破片資料。全体像は不明。龍泉窯系である。外面に鎬蓮弁文がある。山本II b類と考える。13世紀初頭～前半。86は底部から体部下半の破片資料。全体像は不明。龍泉窯系である。外面体部に片彫蓮弁文がある。山本II a類と考える。13世紀初頭～前半。87は口縁部の破片資料。全体像は不明。口禿げが確認できる。山本IX類であり、12世紀中ごろ～14世紀初頭と考える。88は底部の破片資料。全体像は不明。内面に櫛目文が確認できる。山本V-4bの可能性もある。12世紀代。89は口縁部から体部の破片資料。全体像は不明。90は口縁部から体部の破片資料。全体像は不明。1単位6目以上の卸し目がある。91は口縁部の破片資料。全体像は不明。内面頸部に沈線が1条巡る。吉岡I・II期の可能性がある。92は約1/2ほど欠損した資料。底部切り離しは糸切りである。皿の内面が浅い。13世紀第1四半期と考える。93は一部欠損した資料。I類のロクロ成形底部糸切りである。内面調整はロクロナデののち底部にナデを施している。外面底部に板状圧痕が確認できる。13～14世紀と考える。94は完形資料。I類の手づくね成形である。外面底部に指頭圧痕が確認できる。13～14世紀と考える。95は口縁部から底部までわかる資料。I類の手づくね成形である。13～14世紀と考える。96は口縁部から底部までわかる資料。I類の手づくね成形である。外面底部に指頭圧痕が確認できる。13～14世紀と考える。97は口縁部から体部の破片資料。II類の手づくね成形である。外面底部に指頭圧痕が確認できる。外面にスズが付着している。13～14世紀と考える。98は口縁部から体部の破片資料。II類の手づくね成形である。外面底部に指頭圧痕が確認できる。13～14世紀と考える。99は口縁部から体部の破片資料。II類の手づくね成形である。外面底部に指頭圧痕が確認できる。外面にスズが付着している。13～14世紀と考える。100は口縁部から底部までわかる資料。II類とした。底部切り離しは糸切りであるが、底部が一部のためロクロ成形か不明である。13～14世紀と考える。

**SX1368** (図版141) 白磁碗(102)を図示した。口縁部の破片資料。口縁部が肉厚な玉縁である。山本IV類と考える。11世紀後半～12世紀前半。

**SX1402** (図版141) 中世土師器皿(103)を図示した。口縁部から体部の資料。II類のロクロ成形ヘラ切りである。外面底部に指頭圧痕が確認できる。13世紀初頭～前半と考える。

**SX1599** (図版141) 黒色土器碗(104)を図示した。口縁部から体部の破片資料。全体像は不明である。II類とした。内外面ともにロクロナデののちミガキを施している。内面黒色処理。春日VI・VII期と考える。

**SX1622** (図版141) 土師器小甕(105、106)、土師器長甕(107～109)、須恵器無台杯(110～112)、須恵器甕(113)を図示した。105は口縁部から体部の破片資料。Af類とした。内面にコゲ、外面にスズが付着している。106は底部から体部の破片資料。底部切り離しは糸切りである。内面にコゲ、外面にスズが付着している。105と106は同一固体の可能性が高い。107は底部から体部の破片資料である。内面調整はハケメ、外面調整はタタキメののち底部付近で一部ハケメを施す。108は口縁部から体部までの破片資料である。Ab類とした。外面調整はロクロナデののち体部上半にカキメ、体部下半にケズリ・タタキメを施す。109は口縁部から底部までわかる資料。Aa類とした。内面調整はハケメののちに口縁部から体部にかけてロクロナデを施し、外面調整は口縁部から体部上半にロクロナデ、体部下半から底部にかけてタタキメののちハケメ、体部中ほどにケズリを施す。105～109は春日V期の可能性が高い。110は一部欠損した資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B類と

した。内外面にススが付着している。111は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡA類とした。外面底部に「田」の可能性のある墨書がある。112は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡB類とした。内外面・破面にアスファルトが付着している。110～112は小泊窯跡群産であり、春日Ⅴ期と考える。113は体部の破片資料。外面調整は平行タタキメ、内面調整は同心円当て具痕が施される。外面に自然釉がある。信濃川左岸産。春日Ⅴ期の可能性が高い。

**SX1746** (図版141) 須恵器無台椀(114)を図示した。底部の破片資料。底部切り離しは糸切りである。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅴ期と考えられる。

**SX2339** (図版141) 須恵器無台杯(115)と須恵器有台杯(116)を図示した。115は口縁部から底部がわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡC類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。116は一部欠損した資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。ⅢA類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。

**SX2378** (図版142) 土師器小甕(117)、須恵器無台杯(118～120)、須恵器有台杯(121)を図示した。117は底部から体部の破片資料。全体像は不明。外面にススが付着している。春日Ⅳ期と考える。118は一部欠損資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡB類とした。120とともに比較的器壁が厚い。阿賀北産。春日Ⅳ期と考える。119は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅡB類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。120は一部欠損資料。底部切り離しはヘラ切りである。ⅢC類とした。器形が歪んでいる。阿賀北産。春日Ⅳ期と考える。121は口縁部から底部がわかる資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。ⅡA類とした。内外面に自然釉がある。内面一部剥離している。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。

#### 溝(SD)

**SD22** (図版142) 珠洲焼壺(122)を図示した。底部から体部下半の破片資料。全体像は不明。底部切り離しは静止糸切りである。壺T種の可能性がある。

**SD25** (図版142) 須恵器横瓶(123)を図示した。口縁部の破片資料。全体像は不明。内面調整は口縁部にロクロナデ、体部に当て具痕を施し、外面調整は口縁部にロクロナデ、体部にタタキメを施す。信濃川左岸産。春日Ⅲ～Ⅴ期と考える。

**SD121** (図版142) 珠洲焼甕(124)、珠洲焼片口鉢(125～127)、白磁椀(128、129)、瓷器系陶器甕(130)を図示した。124は口縁部の破片資料。全体像は不明。内面に砥面を形成していることから、割れたのちに研磨具として用いたと考える。吉岡Ⅰ～Ⅱ期と考える。125は口縁部から体部の破片資料。内面が磨耗し、赤色の付着物があることから、赤色の物体を磨るのに用いたと考える。吉岡Ⅰ期と考える。126は口縁部から体部上半の破片資料。1単位4目以上の卸し目がある。内外面にススが付着している。吉岡Ⅳ期と考える。127は口縁部から体部上半の破片資料。1単位13目の卸し目がある。外面に一部砥面を形成していることから、割れたのちに研磨具として用いたと考える。吉岡Ⅳ期と考える。128は口縁部の破片資料。内面に凸線が1条巡る。山本Ⅴa類と考える。11世紀後半～12世紀前半。129は体部の破片資料。内面に沈線が1条巡る。外面体部下半無釉である。128と胎土・釉・器形が類似している。山本Ⅴa類と考える。11世紀～12世紀前半。130は体部の破片資料。全体像は不明。外面に菱形の押印がある。

**SD151** (図版142・143) 土師器無台椀(131～134)、土師器長甕(135)、土師器鍋(136)、黒色土器無台椀(137)、須恵器無台杯(138～140)、須恵器杯蓋(141)、須恵器長頸壺(瓶)(142・143)、須恵器長胴瓶(144)、須恵器甕(145)を図示した。131は口縁部から体部がわかる資料。底部切り離しは糸切りである。ⅠB類とした。内外面にススが付着している。132は口縁部から体部がわかる資料。底部切り離しは糸切りである。ⅡA類とした。133は底部から体部の破片資料。全体像は不明。底部切り離しは糸切りである。134は一部欠損の資料。底部切り離しは糸切りである。比較的口径が大きくⅢA類とした。器形が若干歪んでいる。131～134は春日Ⅳ期と考える。135は口縁部の破片資料。全体像は不明である。外面に複数の段を持ち、Ad類とした。136は口縁部の

破片資料。Ad類とした。内面調整はロクロナデののち口縁部にカキメを施し、外面調整はロクロナデののち体部にカキメを施している。外面にススが付着している。春日VI期と考える。137は口縁部から体部の破片資料。内面調整はロクロナデののちミガキを施し、外面調整はロクロナデののち口縁部から体部上半にミガキ、体部下半にケズリを施す。内面黒色処理。春日VI期と考える。138は口縁部から体部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。I B類とした。春日V・VI期と考える。139は口縁部から体部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B類とした。外面体部に墨書の可能性がある痕跡がある。春日VI期と考える。140は口縁部から体部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B類とした。外面体部に「有」の墨書がある。春日VI期と考える。141は口縁部から天井部までわかる破片資料。II類とした。春日V・VI期と考える。142は口縁部の破片資料。全体像は不明。小形である。春日V・VI期と考える。143は底部から体部下半の破片資料。底部切り離しはヘラ切りで、その後高台がつく。春日V・VI期と考える。144は口縁部の破片資料である。全体像は不明。口縁部の形状から長胴瓶と考える。春日V・VI期と考える。145は体部の破片資料。内面調整は同心円当て具痕ののち平行当て具痕を施し、外面調整は格子状タタキメののちに一部装飾的にロクロナデを施す。春日V・VI期と考える。138～145は小泊窯跡群産。

SD164 (図版143) 須恵器横瓶(146)、須恵器甕(147)を図示した。146は閉塞円板である。全体像は不明。内面調整はナデ、外面調整はカキメを施す。外面に自然釉がつく。新津丘陵窯跡群産。春日IV期以降と考える。147は口縁部の破片資料。全体像は不明。新津丘陵窯跡群産。

SD1023 (図版143) 土師器無台椀(148)と須恵器無台杯(149)を図示した。148は口縁部から体部の破片資料。II類とした。春日VI期の可能性が高い。149は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B類とした。小泊窯跡群産。春日V期と考える。

SD1092 (図版143) 土師器無台椀(150)と須恵器無台杯(151)を図示した。150は口縁部から体部の破片資料。II類とした。外面にススが付着している。春日V・VI期の可能性が高い。151は口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りである。II B類とした。新津丘陵窯跡群産。春日V期と考える。

SD1196 (図版143) 黒色土器無台椀(152)、須恵器甕(153)を図示した。152は口縁部から底部までわかる資料。II B類とした。内面調整はロクロナデののちミガキを施す。内面黒色処理。春日VI期と考える。153は体部の破片資料。全体像は不明。内面調整は同心円当て具痕を施し、外面調整は格子状タタキメを施す。外面にアスファルトが付着している。小泊窯跡群産。春日V・VI期と考える。

SD1305 (図版143) 須恵器無台杯(154)を図示した。底部の破片資料。底部切り離しはヘラ切りである、外面底部にヘラ記号がある。信濃川左岸産と考える。春日IV期の可能性が高い。

SD1307 (図版143) 縄文土器深鉢(155)を図示した。体部上部の破片資料。全体像は不明。外面調整に結節回転文を施す。晩期後葉と考える。

SD1380 (図版143) 黒色土器無台椀(156)と緑釉陶器椀(157)を図示した。156は口縁部の破片資料。II類とした。内外面調整ともにロクロナデののちミガキを施す。内外面黒色処理。春日VI・VII期と考える。157は体部の破片資料。全体像は不明。内面に三弁脈花文がある。猿投窯産。9C前半と考える。

SD1817 (図版) 須恵器有台杯(158)を図示した。口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台が付く。身が浅く、体部なかばで稜をもち、口縁部は外反する。III Aa類とした。類似の器形が福島県会津若松市大戸古窯跡群上雨屋12号窯跡より盤として報告されている〔石田1994〕。新津丘陵窯跡群産の可能性が高い。春日V期と考える。

SD2291 (図版143) 珠洲焼壺(159・160)と珠洲焼片口鉢(161)を図示した。159は口縁部の破片資料。全体像は不明。吉岡II期と考える。160は口縁部から体部の破片資料。T種の可能性がある。内面調整は口縁部にロクロナデ、体部に無文の当て具痕を施し、外面調整に口縁部ロクロナデ、体部に平行タタキメを施す。内外面・破面にアスファルトが付着している。吉岡II期と考える。161は底部の破片資料。全体像は不明。底部切り離

しは静止糸切り。内面は剥離しているが若干卸し目の痕跡が確認できる。吉岡Ⅱ期と考える。

#### 小土坑 (P)

P173 (図版 143) 土師器無台椀 (162) を図示した。口縁部から底部までわかる資料。底部切り離しは糸切りであり、その後ロクロケズリを施す。Ⅲ B 類とした。内面調整はロクロナデののち体部下半にロクロケズリを施す。春日Ⅵ期と考える。

P329 (図版 143) 奈良三彩小壺 (163) を図示した。底部の破片資料。全体像は不明。高台がつく。高台外面に緑色釉が残っている。胎土及び器形、釉の類似から 5 と同一固体の可能性が高い。

P342 (図版 143) 灰釉陶器長頸壺 (瓶) (164) を図示した。口縁部の破片資料。全体像は不明。内外面に施釉されており、胎土は緻密であるが若干砂が混じる。9 世紀後半と考える。

P603 (図版 143) 珠洲焼片口鉢 (165) を図示した。口縁部の破片資料。全体像は不明。内面に 1 単位 3 目以上の卸し目がある。吉岡Ⅱ期と考える。

P862 (図版 143) 中世土師器有台皿 (166) を図示した。底部の破片資料。全体像は不明。器形や胎土が 220・221 と類似している。

P1044 (図版 143) 須恵器無台杯 (167) を図示した。口縁部から底部までわかる資料。Ⅱ B 類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期の可能性が高い。

#### 遺構外出土遺物

土師器 (図版 144) 有台皿 (168)、蓋 (169)、小甕 (170)、長甕 (171・172・176)、鍋 (173・174)、把手 (175) を図示した。168 は底部から体部下半の破片資料。全体像は不明。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。春日Ⅵ期と考える。169 は天井部の破片資料。全体像は不明。つまみの形態は擬宝珠状である。外面に赤彩を施す。春日Ⅲ・Ⅳ期と考える。170 は口縁部から体部上半の破片資料。Ab 類とした。内外面口縁部にススが付着している。春日Ⅴ・Ⅵ期と考える。171 は口縁部の破片資料。全体像は不明。Aa 類とした。172 は口縁部の破片資料。全体像は不明。Ae 類とした。信州系と考える。173 は口縁部から体部の破片資料。Ab 類とした。外面にススが付着している。春日Ⅴ・Ⅵ期と考える。174 は口縁部から体部の破片資料。Ad 類とした。内面調整はロクロナデののち体部にカキメ、段を形成する部分にケズリを施す。外面調整はロクロナデののち体部にカキメを施す。外面にススが付着している。春日Ⅴ・Ⅵ期と考える。175 は把手部の破片資料。甌又は鍋に付属していたと考える。外面調整はナデを施す。176 は口縁部から体部上半の破片資料。全体像は不明。Ab 類とした。外面調整はロクロナデののちカキメを施す。

須恵器 (図版 144・145) 無台杯 (177～187)、有台杯 (188～195)、杯蓋 (196～198)、短頸壺 (199)、長頸壺 (瓶) (200、201)、長胴瓶 (202)、壺蓋 (203)、壺・瓶類 (204)、円面碗 (205、206) を図示した。177 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りである。Ⅱ B 類とした。小泊窯跡群産。春日Ⅵ期と考える。178～180 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りである。Ⅱ B 類とした。181 は一部欠損の資料。底部切り離しはヘラ切りである。Ⅱ B 類とした。外面底部に十字のヘラ記号がある。182 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りである。Ⅱ C 類とした。183 は一部欠損の資料。底部切り離しはヘラ切りである。Ⅱ C 類とした。184 は口縁部から底部までわかる破片資料。Ⅱ C 類とした。185 は口縁部から体部の破片資料。底部切り離しはヘラ切りである。外面体部に沈線が 2 条巡る。胎土が 184 と類似する。178～185 は新津丘陵窯跡群産であり、春日Ⅳ期と考える。186 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りである。Ⅲ B 類とした。187 は口縁部の破片資料。全体像は不明。Ⅱ 類とした。内面に沈線が 1 条巡る。186・187 は小泊窯跡群産であり、春日Ⅵ期と考える。188 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。Ⅰ A 類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。189 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。Ⅱ A 類とした。信濃川左岸産。春日Ⅳ期と考える。190 は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り

離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。ⅡA類とした。内面色調は赤みがかり、焼成が甘い。191は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。ⅢA類とした。190・191は新津丘陵窯跡群産であり、春日Ⅳ期と考える。192は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。ⅡA類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ・Ⅴ期と考える。193は口縁部から底部までわかる破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。器高が高く、高台は低い。ⅡB類とした。小泊窯跡群産。春日Ⅵ期と考える。194は底部から体部の破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。外面体部に沈線が2条巡る。195は底部の破片資料。全体像は不明。194・195は新津丘陵窯跡群産であり、春日Ⅳ期と考える。196は一部欠損の資料。つまみの形態はボタン状を呈し、小形である。Ⅱ類とした。内面天井部に直線のヘラ記号がある。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅴ期の可能性が高い。197は口縁部から天井部までわかる資料。つまみの形態は擬宝珠状である。Ⅰ類とした。外面調整はロクロナデののち一部ロクロケズリを施す。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。198は口縁部から天井部までわかる資料。つまみの形態はボタン状である。口径が大きく、Ⅱ類とした。外面調整はロクロナデののち一部ロクロケズリを施す。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。199は口縁部から体部上半の破片資料。全体像は不明。口縁部が短く直立する。本報告中では比較的大形である。内面調整はロクロナデののち体部にカキメを施す。外面に自然釉が見られる。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅲ～Ⅴ期と考える。200は口縁部の破片資料。全体像は不明。小形である。小泊窯跡群産。春日Ⅴ・Ⅵ期の可能性が高い。201は底部から体部下半の破片資料。底部切り離しはヘラ切りであり、その後高台がつく。9と類似する。小泊窯跡群産。春日Ⅴ・Ⅵ期と考える。202は体部の破片資料。全体像は不明。外面に突帯が付く。内面調整はロクロナデののちカキメを施す。新津丘陵窯跡群産。203は口縁部の破片資料。全体像は不明。口縁端部が小さく外反する。204は底部の破片資料。全体像は不明のため、詳細な器種は不明である。底部形成後に高台を取り付ける。小泊窯跡群産。春日Ⅴ期の可能性が高い。205は台脚部の破片資料。円形の窓がある。外面に花の文様が刻まれている。新津丘陵窯跡群産の可能性が高い。206は台脚部から脚端部の破片資料。円形の窓がある。外面に花の文様が刻まれている。新津丘陵窯跡群産の可能性が高い。

**灰釉陶器** (図版145) Ⅲ(207)を図示した。底部の破片資料。全体像は不明。底部から体部へ緩く立ち上がる。全体的に薄手に作られ、高台は方形状を呈する。内面底部は無釉。高台はK14窯式的であるが、胎土や釉の特徴から美濃産の可能性が高く、時期は光ヶ丘1号様式の可能性が高い。

**白磁** (図版145) Ⅲ(208)を図示した。底部の破片資料。全体像は不明。底部はわずかに突き出している。底部から体部へ緩く立ち上がる。体部下半から底部にかけて無釉。山本Ⅵ類の可能性が高い。12世紀と考える。

**珠洲焼** (図版145) 壺(209)、甕(210～212)、片口鉢(213、214)を図示した。209は口縁部の破片資料。全体像は不明。壺T種の可能性が高い。吉岡Ⅱ～Ⅲ期と考える。210は口縁部の破片資料。全体像は不明。外面調整は口縁部にロクロナデ、体部に平行タタキメを施す。吉岡Ⅳ期。211は体部の破片資料。全体像は不明。外面調整に特徴的な平行タタキメを施す。このタタキメは大畠2号窯出土の甕に確認されている「装飾叩打紋」と類似している〔宇野・前川ほか1993〕。このタタキメが大畠2号窯特有の技法の場合、大畠2号窯産で吉岡Ⅳ期と考える。212は体部の破片資料。全体像は不明。外面調整に211と類似の特徴的な平行タタキメを施すことから、同一個体の可能性が高い。213は口縁部から体部の破片資料。内面に1単位9目の卸し目がある。吉岡Ⅳ期と考える。214は口縁部の破片資料。全体像は不明。吉岡Ⅳ期と考える。

**瓷器系陶器** (図版145) 甕(215)を図示した。体部の破片資料。外面調整は平行タタキメののち、ロクロナデを施し、内面調整は無文の当て具痕ののちロクロナデを施す。内面に自然釉がある。外面及び破面に砥面が形成されており、破碎後に二次使用されている。14世紀頃と考える。

**中世土師器** (図版145) 有台皿(220、221)、Ⅲ(216～219)を図示した。216は底部の破片資料。全体像は不明。ロクロ成形底部ヘラ切りである。12世紀末～13世紀初頭と考える。217は口縁部から底部までわかる資料。

I類のロクロ成形底部糸切りである。内外面にススが付着している。13世紀前半と考える。218は口縁部から底部までわかる資料。I類のロクロ成形底部糸切りである。13世紀前半と考える。219は口縁部から底部までわかる資料。II類のロクロ成形底部ヘラ切りである。12世紀末～13世紀初頭と考える。220は口縁部から底部までわかる資料。皿部は中世土師器皿の手づくね成形と同様の成形・技法である。その後、高台をロクロ又は回転台を用いて接合していると考え。221は底部の破片資料。全体像は不明。220と類似した器形の可能性が高い。

## D 9 区

9区出土の土器・陶磁器の総量は205箱となり、内訳は縄文時代の土器0.5箱程度、古代の土器198箱、中世の土器・陶磁器6.5箱である。以下、9区出土遺物について記載するが、手順については本章の概要並びに第1節A・B部分で記したとおりである。

### 掘立柱建物 (SB)

**SB3** (P2129) (図版154) 双耳が付く須恵器長胴壺(瓶)(327)を図示した。破片資料のため全体形は不明である。耳の厚さは場所により異なるが概ね8～12mmとなる。外面に自然釉がかかる。胎土等を見ても産地は特定できなかった。9世紀の終わり頃のものかと考える。

**SB8** (P2117) (図版154) 土師器無台椀(328)を図示した。口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部内面のロクロナデが面をなすようになっているため、口縁端部の形態には鋭さがある。なお、器壁は厚い。口径の分類のみであるがII類とした。春日VII期と考える。

**SB8** (P2221) (図版154) 土師器無台椀(329・330)と黒色土器無台椀(331)を図示した。329は口縁端部から体部の破片資料。口縁端部は外反する。口径の分類のみであるがII類とした。春日VII期と考える。330は口縁端部から底部にかけての破片資料で、底部切り離しは糸切りである。II B類とした。春日VI・VII期と考える。331は、内面黒色の無台椀で口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部付近のロクロナデが強く体部外面に緩い稜をなすような形態となり、口縁端部は外反する。内面調整はロクロナデののちミガキが施されている。口径の分類のみであるがIII類とした。春日VII期と考える。

**SB8** (P2222) (図版154) 黒色土器無台椀(332)を図示した。内面黒色の底部付近の破片資料である。調整は体部外面にロクロナデののちロクロケズリが、内面にロクロナデののちミガキが施されている。底部切り離しは糸切りであるが、その後にはロクロケズリによる再調整が行われている。春日VII期と考える。

**SB8** (P2275) (図版154) 土師器無台椀(333～336)を図示した。333は口縁部端部から体部上半の破片資料。体部は中ほどでロクロナデが強くなり、外面に緩い稜をなすような形となり口縁端部へのびる。口縁端部内面にタール状の付着物がある。口径の分類のみであるがII類とした。334～336は体部下半から底部にかけての破片資料で、いずれも底部切り離しは糸切りである。なお、334は内面にヘラ記号状のものがあるが、意図的に施したものかどうか疑わしいため、図化していない。333～336は春日VII期と考える。

**SB8** (P2320) (図版154) 土師器無台椀(337)を図示した。体部下半から底部にかけての資料で底部の遺存率が高い。器壁は比較的薄い。底部切り離しは糸切りである。春日VII期と考える。

**SB8** (P3100) (図版154) 黒色土器無台椀(338・339)を図示した。両者とも内面黒色の無台椀である。338は口縁部付近の破片資料である。口縁端部は丸くおさめている。内面にはロクロナデの後にミガキ調整がなされている。なお、器壁は厚い。遺存率が低いため推定口径であるがIII類とした。春日VII期と考える。339は底部付近の破片資料。外面調整にはロクロナデののちロクロケズリが、内面調整はロクロナデの後にミガキが施されている。底部切り離しは糸切りで、その後にはロクロケズリによる再調整が行われている。春日VI・VII期と考える。

**SB8** (P3110) (図版154) 土師器無台椀(340～343)を図示した。340は口縁端部から底部にかけての破片資料。口縁端部はやや外反する。底部切り離しは糸切りである。II C類とした。春日VI期か。341は口縁端部から体

部にかけての破片資料。口縁端部は外反する。口径の分類のみであるがⅡ類とした。342は口縁端部から底部にかけての破片資料。底部の遺存率が高い。全体的に器壁が薄い。口縁端部付近がやや厚くなっている。底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。343は口縁端部から体部上半にかけての破片資料。口縁端部付近のロクロナデが強いため端部は外反する。器壁は比較的薄い。口径の分類のみであるがⅢ類とした。341～343は春日Ⅶ期と考える。

SB9 (P3522) (図版154) 土師器無台椀(344)を図示した。口縁端部から体部上半にかけての破片資料。体部から口縁端部にかけて丸みをもつ形態となる。口径の分類のみであるがⅡ類とした。春日Ⅵ・Ⅶ期と考える。

#### 井戸(SE)

SE17 (図版154) 須恵器無台杯(345)を図示した。口縁端部から底部にかけての破片資料。口縁端部内面に自然釉がかかる。ⅢA類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅲ・Ⅳ期と考える。

SE32 (図版154) 土師器無台椀(346)と中世土師器皿(347)を図示した。346は底部付近の破片資料で、底部の切り離しは糸切り。春日Ⅴ期以降。347は完形品。底部外面に指頭圧痕がある。Ⅰ類で手づくね成形である。13世紀くらいのものであると考える。

SE1514 (図版154) 龍泉窯系青磁の椀(348)を図示した。口縁端部から体部上半にかけての破片資料である。形態や外面に鎬蓮弁文が施されていることから山本分類の龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類と考える。E期(XⅥ～XⅦ期、13世紀前後～前半)に相当する。

SE1676 (図版154) 珠洲焼片口鉢(349)を図示した。注口部付近の破片資料で、卸し目の有無は不明である。吉岡Ⅳ期のものであると考える。

SE1692 (図版154) 白磁の椀(350)を図示した。底部付近の破片資料である。高台の形態は細くて高く、高台の中ほどまで外面に施釉されている。内面には櫛目文が施されている。全体の形は不明だが、山本Ⅴ-4類のいずれかと考える。時期はD期(12世紀中頃)から出土開始し、後半まで量を占める〔山本2000〕とあることから、12世紀のものであると考える。

SE2398 (図版154) 土師器無台椀(351)を図示した。口縁端部から底部の破片資料。底部の遺存率が高い。底部切り離しは糸切りである。ⅠB類とした。春日Ⅶ期頃と考える。

SE3172 (図版154) 須恵器有台杯(352)を図示した。口縁端部から底部にかけての破片資料。体部は口縁端部に向けて直線的に立ち上がる。ⅠB類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ・Ⅴ期と考える。

SE3185 (図版154) 土師器無台椀(353)、土師器有台椀(354)、土師器小甕(355)を図示した。353は口縁端部から体部上半付近の破片資料。推定口径が14cmでⅡ類とした。354は底部付近の破片資料。底部の遺存率が高い。底部の切り離しはへら切りと思われるが、器面が摩耗して不明である。輪状の高台が付く。353・354は春日Ⅶ期と考える。355は底部破片資料で、切り離しは糸切りである。A類とした。

SE3188 (図版154) 中世土師器皿(356)を図示した。口縁端部から底部にかけての破片資料である。Ⅱ類でロクロ成形底部へら切りである。13世紀後半から14世紀のものであると考える。

SE3372 (図版154) 黒色土器無台椀(357)を図示した。口縁端部から体部上半の破片資料。内面黒色で、内外面ともにロクロナデののちミガキ調整。特に外面は細かくミガキが施されている。なお、内面は欠損のため一部しかミガキが見えない。口縁端部付近の外面には1条の沈線が巡っており、金属器を模倣したものであろうか。口径の分類のみであるがⅢ類とした。春日Ⅵ期と考える。

SE3416 (図版155) 土師器無台椀(358～360)、土師器小甕(361)、黒色土器無台椀(362・363)を図示した。358は遺存率が高い資料であるが歪みがある。底部切り離しは糸切りである。ⅠB類とした。春日Ⅶ期と考える。359は口縁端部から体部上半の破片資料である。口径の分類のみであるがⅡ類とした。360は体部下半から底部にかけての破片資料。底部の残存率が高い。底部切り離しは糸切りである。361は底部付近の破片資料。A類とした。底部切り離しは糸切りである。362は口縁端部外面付近から内面が黒色の無台椀である。口縁端

部から底部の破片資料。口縁端部付近から外反して端部に至る。調整は内外面にロクロナデの後に細かくミガキが施され、さらに外面の体部下方にはロクロケズリが施されている。底部切り離しはロクロケズリによる再調整が行われており不明であるが、おそらく糸切り後にロクロケズリと推定する。ⅢB類とした。363は内面黒色の底部付近の破片資料である。調整は内外面ロクロナデの後に外面体部下方にロクロケズリが、内面にはミガキが施されている。底部外面にススが付着している。底部切り離しは糸切り後にロクロケズリによる再調整が行われていると考えた。359～363は春日Ⅵ期と考える。

SE3617(図版155) 灰釉陶器碗を図示した(364)。高台付近の破片資料である。その高台は内湾する形態で、貼り付けている。底部内面に施釉されている。美濃産で、時期は光ヶ丘1号窯式に比定されると考える。

#### 土 坑 (SK)

SK544(図版155) 土師器無台碗(365)、黒色土器無台碗(366)を図示した。365は口縁端部から体部上半の破片資料。口径の分類のみであるがⅠ類とした。366は内面黒色の無台碗で、口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部付近から軽く外反して端部に至る。内面調整はロクロナデの後、体部に縦方向のミガキが、口縁端部付近に横方向のミガキが施されている。口径の分類のみであるがⅢ類とした。365・366ともに春日Ⅵ期と考える。

SK2279(図版155) 土師器無台碗(367～372)を図示した。367～371は口縁端部から体部の破片資料である。器高が不明であるためいずれも口径のみの分類とした。367は口縁端部付近から外反し、端部の形態はやや鋭さがある。Ⅰ類とした。368も口縁端部付近はやや外反する。Ⅱ類とした。369は口縁端部がやや鋭い形態である。Ⅲ類とした。370は口縁端部が外反する。Ⅲ類とした。371は外傾する体部であるが、口縁端部付近でやや上方に角度を変えている。Ⅲ類とした。372は体部下半から底部の破片資料である。底部切り離しは糸切り。時期はいずれも春日Ⅶ期と考える。

SK2290(図版155) 土師器無台碗(373～375)を図示した。373は口縁端部から底部の破片資料。底部切り離しは糸切りである。ⅡB類とした。374はほぼ完形の資料。373・375に比べ器壁に厚みがある。底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。375は口縁端部から底部の資料で、全体の遺存率は概ね1/3程度である。口縁端部は外反し、やや鋭い形態となっている。外面調整はロクロナデのちロクロケズリが体部下方に施されている。底部切り離しは糸切り。なお、体部外面に墨書があるが判読できない。ⅢB類とした。373～375は春日Ⅶ期におさまるものと考えた。

SK3173(図版155) 土師器無台碗(376)を図示した。口縁端部から底部の破片資料。全体の1/2程度の遺存率である。底部切り離しは糸切り。ⅢA類とした。春日Ⅶ期と考える。

SK3177(図版155) 土師器無台碗(377・378)、須恵器無台杯(379)を図示した。377・378は口縁端部から体部の破片資料。377は口縁端部付近で軽く外反して端部に至る。器壁は薄い。口径の分類のみであるがⅡ類とした。春日Ⅶ期と考える。378は丸みのある体部となる。口径の分類のみであるがⅠ類とした。春日Ⅴ・Ⅵ期と考える。379は体部下半から底部の破片資料。底部切り離しはヘラ切り。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。

SK3197(図版155) 土師器無台碗(380)、須恵器杯蓋(381・382)、須恵器短頸壺(383・384)、須恵器壺・瓶類の体部下半資料と考えたもの(385・386)、須恵器壺・瓶類の高台付近の資料(387)を図示した。380は口縁端部から底部にかけての破片資料である。口縁端部は緩く外反する。ⅡB類とした。春日Ⅶ期と考える。381は天井部から口縁端部にかけての破片資料。つまみの形態は欠損しているため不明。口縁端部は下方に屈折する。外面に自然釉がかかっている。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅲ・Ⅳ期と考える。382は天井部を中心とした破片資料。つまみの形態はボタン状である。天井部外面にはロクロケズリがみられ、内面にはロクロナデの後にナデが施されている。外面に自然釉がかかっている。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。383は須恵器短頸壺と考えた口縁部の破片資料。全体像は不明である。信濃川左岸産。384は口縁端部から体部上半の破片資料。2条の沈線が肩の辺りと体部中ほどに巡る。外面に自然釉がかかっている。また、口縁部よりも一回り大きい壺蓋が重ね

焼きされていたと考えられる痕跡が肩の辺りの沈線より上でかつ口縁部より下に認められる。新津丘陵窯跡群産。385・386は壺・瓶類の体部下半から高台のつく底部の破片資料。385は内端接地の高台がつく。外面調整にはロクロナデの後に体部下半にロクロケズリが施されている。底部切り離しはヘラ切りと考えた。底部の内面には数本の工具痕が確認できる。新津丘陵窯跡群産。386も外面調整にはロクロナデののち体部下半にロクロケズリが施されている。底部切り離しはヘラ切りと考えた。底部外面にヘラ記号が1本確認できる。内面と外面の一部に自然釉がかかっている。なお、破面にアスファルトが薄く付着している。新津丘陵窯跡群産。387は壺・瓶類の内端が接地する高台付近の破片資料。底部内面は欠損のため破面となる。高台外面の一部に自然釉がかかっている。新津丘陵窯跡群産。383～387は春日Ⅲ～Ⅴ期と考える。

SK3225 (図版156) 土師器無台椀(388～392)、黒色土器無台椀(393)を図化した。388～391は口縁端部から体部上半の破片資料。いずれも口径のみの分類とした。388は口縁端部で短く外反する形態となる。Ⅰ類とした。389は口縁端部付近で緩く内湾する形態となる。Ⅱ類とした。390・391は口縁端部が緩く外反する。390・391ともにⅢ類。392は全体の2/3程度遺存しているが、多少の歪みがある資料。口縁端部は緩く外反する。底部切り離しは糸切り。ⅡA類とした。393は内面黒色の椀で口縁端部から底部にかけての破片資料。調整はロクロナデの後に外面にはロクロケズリが、内面にはミガキが施されている。底部切り離しは糸切りでその後ロクロケズリによる再調整が行われている。ⅢA類とした。388～393は春日Ⅶ期と考える。

SK3227 (図版156) 土師器無台椀(394・395)を図示した。394は口縁端部から底部にかけての資料で底部の遺存率が高い。口縁端部付近から緩く外反して端部に至る。底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。395は多少の歪みがあるが、口縁端部から底部までの資料。底部の遺存率は高くない。口縁端部付近のロクロナデが強く、端部にかけて外反する。底部切り離しは糸切り。ⅢB類とした。394・395ともに春日Ⅶ期と考える。

#### 性格不明遺構 (SX)

SX146 (図版156) 土師器無台椀(396～398)、土師器長甕(400)、土師器鍋(401)、黒色土器無台椀(399)を図示した。396～398は遺存率の高い資料である。396は口縁端部付近がやや上方にのびる形態である。底部切り離しは糸切り。ⅠB類とした。397・398も底部切り離しは糸切り。両資料ともススが付着している。397はⅠB類、398はⅡA類とした。400は土師器長甕の口縁部から体部の肩付近までの破片資料。肩の張らない長い胴部となると推定する。内外面ともナデ調整で体部外面には指頭圧痕がある。B類で、7世紀末から8世紀くらいのものである。401は鍋の口縁端部から体部の破片資料である。体部はやや内湾気味にのび、口縁端部付近で外反する。口縁端部の形態を丸くおさめていることからAc類とした。体部外面にケズリ、内面にはナデ調整がみえる。399は底部が欠損しているが口縁部から体部の遺存率の高い内面黒色の椀である。口縁端部は外反してのびる。内面はロクロナデののちミガキが施されている。口径のみの分類であるがⅢ類とした。396～399・401はおおむね春日Ⅶ期におさまるものとする。

SX172 (図版156・157) 土師器無台椀(402～408)、土師器鉢(409)、黒色土器有台椀(410)を図示した。402・403は口縁端部から底部の破片資料であり、底部の遺存率が高い。402は底部から体部の立ち上がりは急となり、直線的に口縁端部へと伸びる。底部切り離しは糸切り。ⅠC類とした。403も底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。404は底部の遺存率は高くないが、体部遺存率は半分程度ある口縁端部から底部にかけての資料である。底部切り離しは糸切り。ⅠB類とした。405は口縁端部から底部の破片資料である。口縁端部は鋭くなる。底部切り離しは糸切り。ⅡA類とした。406は体部下半から底部の破片資料。底部切り離しは糸切り。407は口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部付近で緩く外反する。器壁は薄い。口径のみの分類であるがⅡ類とした。408は体部下半から底部の破片資料。底部切り離しは糸切り。409は鉢の口縁端部付近の破片資料である。口縁端部が強く内湾することから、仏具である金属器の鉢を模倣したものと考えた。410は内面黒色の有台椀の底部破片資料。底部の遺存率が高い。底部内面にはミガキ調整がみえる。底部切り離しは糸切りでその後高台が貼り付けられている。高台はハの字状に開き、他の黒色土器有台椀と比べ長い。402～410

はおおむね春日Ⅶ期におさまるものと考える。

**SX305** (図版 157) 土師器無台椀 (411)、須恵器無台椀 (412) を図示した。411 は底部付近の破片資料。底部切り離しは糸切り。春日Ⅶ期と考える。412 は体部下半から底部の破片資料。信濃川左岸産。春日Ⅴ期と考える。

**SX2140** (図版 157) 須恵器短頸壺 (413)、珠洲焼壺 (414)、珠洲焼片口鉢 (415)、中世土師器皿 (416) を図示した。413 は体部下半資料である。底部ならびに高台はほぼ欠損している。外面調整はロクロナデののちロクロケズリとケズリが、内面調整はロクロナデののちナデが施されている。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅲ～Ⅴ期くらいか。414 は珠洲焼壺 T 種の口縁部から体部の破片資料。底部が欠損しているため全容はわからない。外面に平行タタキメ、内面に当て具痕がある。415 は片口鉢の口縁部から底部にかけての破片資料である。体部は直線的に口縁部に向かい、口縁端部は面をなす。底部切り離しは静止糸切り。内面には 1 単位 14 目の卸し目がある。体部内面、口縁端部外面にアスファルトが付着している。414・415 は吉岡Ⅳ期くらいか。416 は完形の中世土師器皿。底部外面に指頭圧痕がある。Ⅰ類で手づくね成形である。内外面にスス・タールが付着している。灯明皿として使用されていたと考える。13 世紀後半～14 世紀初頭ごろのものと考える。

**SX2253** (図版 157・158) 土師器無台椀 (417～422)、黒色土器無台椀 (423)、灰釉陶器椀 (424) を図示した。417 は口縁端部から底部の比較的遺存率の高い資料。底部切り離しは糸切り。Ⅰ A 類とした。418 は口縁端部から底部にかけての破片資料。底部切り離しは糸切り。Ⅰ B 類とした。419～421 は口縁端部から底部の比較的遺存率の高い資料である。419 は口縁端部付近から外反して端部に至る形態である。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。420 も底部切り離しは糸切り。Ⅰ B 類とした。421 は同一遺構出土の土師器無台椀と比べると器壁は厚みがある。底部切り離しは糸切り。口縁端部外面にススが付着している。Ⅰ B 類とした。422 は口縁端部から体部上半にかけての破片資料。Ⅱ類とした。423 は内面黒色の無台椀。底部破片資料で、内面調整にはロクロナデののちミガキが施されている。底部切り離しは摩耗により不明である。417～423 は春日Ⅶ期と考える。424 は灰釉陶器の椀である。体部下半から底部にかけての破片資料。高台は三日月形を呈する。施釉部位は体部上半の内外面である。尾張産で、黒笹 90 号窯式に比定されると考える。

**SX2348** (図版 158) 土師器無台椀 (425・426)、黒色土器無台椀 (427) を図示した。425 は完形品である。底部切り離しは糸切り。口縁端部の内面側にタールが付着している。Ⅰ B 類とした。426 は口縁端部から底部にかけての破片資料。口縁端部付近から外反して端部に至る。底部切り離しは糸切り。Ⅰ B 類とした。427 は内面を黒色処理した椀と考えた。口縁端部から体部の破片資料である。口縁端部は外反し、身については深くなるものと推定する。調整はロクロナデののち内外面にミガキが施されている。なお、口縁端部内面側や破面にタールが付着している。口径のみの分類であるがⅡ類とした。425～427 は春日Ⅶ期と考える。

**SX3349** (図版 158・159) 土師器無台椀 (428～448)、土師器小甕 (449)、黒色土器無台椀 (450～454)、須恵器無台杯 (455)、須恵器有台杯 (456)、灰釉陶器椀 (457) を図示した。428～448 は土師器無台椀である。428 は口縁端部から底部にかけての破片資料。底部切り離しは糸切り。Ⅱ A 類とした。429 は比較的遺存率の高い口縁端部から底部にかけての資料。底部切り離しは糸切り。Ⅰ C 類とした。430 は口縁端部から底部にかけての資料。全体のうち半分程度遺存する。底部切り離しは糸切り。Ⅰ C 類とした。431・432 は口縁端部から底部にかけての破片資料。431 は口縁端部付近で外反し、端部はやや鋭い形態となる。底部切り離しは糸切りである。Ⅱ C 類とした。432 は底部の遺存率が高い。口縁端部は外反する。底部切り離しは糸切りである。Ⅰ C 類とした。433 は遺存率の高い資料。口縁部は外反し、口縁端部はやや鋭くなっている。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。434 は口縁端部から底部にかけての破片資料。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。435 は全体の半分ほどの遺存率で、口縁端部から底部にかけての破片資料。口縁端部は外反する。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。436 は口縁端部から底部にかけての破片資料。底部の遺存率が高い。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。437・438 も口縁端部から底部にかけての破片資料。437 は口縁端部付近から外反して端部に至る形態となる。底部切り離しは糸切り。Ⅲ B 類とした。438 は底部から体部にかけて丸み

をもつ形態である。底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。439は口縁端部から底部にかけての破片資料で遺存率はあまり高くはない。同一遺構出土の土師器無台椀と比較すると器壁はやや厚めである。底部切り離しは糸切り。ⅠC類とした。440・441は口縁端部から底部にかけての破片資料。440は口縁端部がやや鋭い形態となる。底部切り離しは糸切り。ⅡA類とした。441は全体の半分程度の遺存率である。底部切り離しは糸切り。ⅢB類とした。442も口縁端部から底部にかけての破片資料である。底部の遺存率が高い。口縁端部は外反する。体部外面に墨書「池」が記されている。底部内面にはタール状の付着物がある。底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。443はほぼ完形品である。底部切り離しは糸切り。ⅠB類とした。444・445は口縁端部から底部にかけての破片資料。444は全体の遺存率は高くはない。器壁は同一遺構から出土した土師器無台椀と比較すると厚めである。底部切り離しは糸切り。ⅡB類とした。445は遺存率が高い。底部切り離しは糸切り。ⅠB類とした。446は口縁端部から底部にかけての資料で、全体の半分程度の遺存率である。底部切り離しは糸切り。ⅡB類である。447も口縁端部から底部にかけての破片資料。口縁端部は緩く外反する。底部切り離しについては摩耗しているため不明。ⅠB類とした。448は底部のみの資料。底部切り離しは糸切りである。428～448の時期はおおむね春日Ⅶ期におさまるものとする。449は小甕の口縁端部から体部上半にかけての破片資料。遺存率は低く、推定口径は15.3cmとなる。体部から口縁部にかけては緩やかに外傾し、口縁端部の中央にややくぼみがあるが、面を形成するAa類とした。なお、Aa類としたものはこの資料のみである。春日Ⅳ期と考える。

450～454は内面黒色の無台椀である。450～453は口縁端部から底部にかけての破片資料。450は底部の遺存率が高い。調整は外面にロクロナデののちロクロケズリとケズリが、内面はロクロナデののちミガキが施されている。底部の切り離しは糸切りで、その後ロクロケズリにより再調整が行われている。ⅠA類とした。451は口縁端部が外反する。調整は外面ロクロナデののち体部下半にロクロケズリが、内面はロクロナデののちミガキが施されている。底部について切り離し技法は不明だが、切り離した後にロクロケズリにより再調整が行われている。ⅡA類とした。452は口縁端部のロクロナデが強めで外反する形態となる。外面調整はロクロナデののちロクロケズリ、内面調整はロクロナデののちミガキが施されている。底部の切り離し技法は不明であるが、切り離しの後に何らかの再調整が行なわれていると考える。ⅡA類とした。453は外面調整にロクロナデののちケズリが、内面はロクロナデののちミガキが施されている。底部の切り離しは不明であるが、ロクロケズリによる再調整が行われていると考える。ⅡA類とした。454は底部資料。調整は内外面ともにロクロナデののちミガキ。なお、内面には渦巻き状の暗文が施されている。底部の切り離しは糸切りののちミガキにより再調整されている。450～454は春日Ⅶ期と考える。

455は須恵器無台杯の口縁端部から底部にかけての破片資料。底部切り離しはヘラ切り。ⅡB類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。456は須恵器有台杯の口縁端部から底部にかけての資料。全体の遺存率は半分程度である。体部から口縁端部にかけて直線的に外傾する。高台は底部と体部の境界付近に接合されている。ⅢA類とした。小泊窯跡群産。春日Ⅶ期と考える。457は灰釉陶器椀の体部破片資料。体部内面と外面上半に施釉されている。尾張産と考える。

**SX3521** (図版159) 須恵器甕(458)、緑釉陶器椀(459)、白磁椀(460)を図示した。458は須恵器甕の口縁部付近の破片資料。調整は内面に同心円当て具痕がある。なお、内外面と破面にタール状の付着物がある。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅲ・Ⅳ期と考える。459は緑釉陶器椀の体部破片資料。外面は部分的に剥離している。京都系で9世紀中葉のものとする。460は白磁椀の体部破片資料。内外面に施釉されているが、体部外面下半には施釉されていない。なお、内面には目跡(砂目跡)がある。山本Ⅳ類のいずれかと考えるが細分までは判断できなかった。C期(Ⅺ～Ⅻ期、11世紀後半～12世紀前半)に相当する。

#### 溝(SD)

**SD417** (図版159) 土師器鍋(461)、黒色土器無台椀(462)を図示した。461は鍋と考えた口縁部付近の破片

資料。外面を強くくぼませ、口縁端部が屈曲する Ae 類とした。春日 VI・VII 期くらいであろうか。462 は内面黒色の無台椀である。口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部はやや鋭くなる。推定口径であるが皿類とした。春日 VI 期くらいか。

SD455 (図版 159) 白磁の椀 (463) を図示した。底部の破片資料で、畳付部分は釉を剥ぎ取っている。時期は 16 世紀以降のものかと考える。

SD498 (図版 159) 土師器無台椀 (464)、土師器鍋 (466)、黒色土器無台椀 (465) を図示した。464 は体部下半から底部にかけての破片資料。底部切り離しは糸切り。春日 VI 期と考える。466 は鍋の口縁部付近の破片資料。内面調整にはロクロナデの後にハケメが施されている。断面をみると口縁端部を少し上につまみあげたような形態であることから Ab 類とした。春日 IV・V 期であろうか。465 は内面黒色の椀で口縁端部付近の破片資料。内面調整にはロクロナデの後にミガキが施されている。推定口径ではあるが II 類とした。春日 VI 期と考える。

SD669 (図版 159) 須恵器杯蓋 (467) を図示した。口縁部の破片資料でかえりのある II A 類である。信濃川左岸産。春日 II 期と考える。

SD744 (図版 159) 珠洲焼片口鉢 (468) を図示した。口縁部から体部上半の破片資料である。体部は内湾気味に口縁部に向かい、口縁端部は丸みをもつ。内面には卸し目があるが具体的な目数などは欠損のため不明。破面にアスファルトが付着している。吉岡 I・II 期と考える。

SD1600 (図版 160) 縄文土器の甕 (469) を図示した。体部の破片資料で肩部付近のものと考えた。外面には浮線文が施されている。縄文時代晩期末のものと考える。

SD1661 (図版 160) 珠洲焼片口鉢 (470～472)、珠洲焼壺 (473) を図示した。470 は口縁部付近の破片資料。口縁端部は面をなすが、口縁端部付近の外面がやや強くロクロナデが施され、外方向に引き出されるような形態となる。卸し目の有無は不明。471 は口縁部から体部上半の破片資料である。体部は直線的に口縁部に向かい、口縁端部は面をなす。内面に卸し目があるが欠損のため 1 単位の具体的な目数は不明である。体部内外面にアスファルトが付着している。472 も口縁部から体部上半にかけての破片資料。体部は内湾気味に口縁部に向かい、口縁端部は面をなす。内面には 1 単位 9 目の卸し目がある。注口部や体部内外面、破面にアスファルトが付着している。470～472 は吉岡 IV 期と考える。473 は壺の底部付近の破片資料である。底部付近のため T 種・R 種の区別はつけていない。底部切り離しは静止糸切りである。吉岡 IV 期であろうか。

SD2092 (図版 160) 縄文土器の甕 (474)、緑釉陶器椀 (475) を図示した。474 は口縁部の破片資料である。外面には浮線文、内面には沈線が施されている。縄文時代晩期末のものと考える。475 は緑釉陶器椀の口縁端部から体部上半の破片資料。口縁端部付近には釉が確認できない。産地・時期は不明である。

SD2141 (図版 160) 須恵器鉢 (476) を図示した。口縁端部から体部上半の破片資料である。口縁端部はつまみ上げられている。小泊窯跡群産。春日 V・VI 期と考える。

SD2171 (図版 160) 土師器無台椀 (477) を図示した。遺存率は比較的高い資料である。底部切り離しは糸切り。I B 類とした。春日 VII 期と考える。

SD2192 (図版 160) 珠洲焼片口鉢 (478・479)、中世土師器皿 (480) を図示した。478 は底部の破片資料。内面には卸し目があるが欠損しているため 1 単位の具体的な目数などは不明である。底部切り離しは静止糸切り。底部内外面、破面にアスファルトが付着している。479 は口縁部から体部上半の破片資料。口縁端部の外側は丸みを持つが全体的には面をなす。内面には 1 単位 9 目の卸し目がある。なお、口縁部の外面には工具が触れたか、もしくは擦れた痕がある。478・479 は吉岡 IV 期と考える。480 は中世土師器皿で口縁部端部から底部にかけての破片資料。I 類で手づくね成形である。13 世紀くらいのものと考えた。

SD2205 (図版 160) 土師器無台椀 (481～483) を図示した。481～483 は口縁端部から底部にかけての破片資料。481 は口縁端部が外反する。底部切り離しは糸切り。II B 類とした。春日 VI 期と考える。482 は遺存率のやや高い資料である。体部は内湾気味に口縁端部に向い、丸みのある形態となる。底部切り離しは糸切り。

Ⅱ A 類とした。春日Ⅵ・Ⅶ期と考える。483 は底部切り離しは糸切り。Ⅲ A 類とした。春日Ⅵ期と考える。

SD3012 (図版 160) 中世土師器皿 (484) を図示した。口縁端部から底部にかけての破片資料。Ⅱ類でロクロ成形底部ヘラ切り。13 世紀後半から 14 世紀のものと考え。

SD3288 (図版 161) 須恵器長頸壺 (瓶) あるいは広口瓶か広口壺の体部と考えたもの (485) と珠洲焼片口鉢 (486) を図示した。485 は体部の破片資料である。肩部外面に沈線が巡り、その付近に自然釉がかかる。また、体部下半の外面調整にはロクロナデののち、ロクロケズリとケズリが施されている。阿賀北産。春日Ⅲ・Ⅳ期と考える。486 は珠洲焼片口鉢の底部付近の破片資料。内面には 1 単位 15 目の卸し目がある。なお、底部外面から体部外面には工具が触れた痕がみられる。底部切り離しは静止糸切り。外面にタール状の付着物がある。吉岡Ⅲ・Ⅳ期と考える。

SD3296 (図版 161) 土師器無台椀 (487)、黒色土器の杯 (488) を図示した。487 は口縁端部から底部にかけての破片資料。遺存率は高くはない。口縁端部は鋭くなっている。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。春日Ⅵ期と考える。488 は内面黒色の杯と考えたものである。調整は内外面にミガキが施されている。なお、内面にはアスファルトが付着している。7・8 世紀頃のものと考え。

SD3384 (図版 161) 須恵器有台杯 (489)、龍泉窯系青磁の椀 (490) を図示した。489 は底部の破片資料である。底部切り離しはヘラ切りで、外端接地の高台が付く。底部外面には墨痕があることから硯として転用されたと考え。小泊窯跡群産。春日Ⅶ期と考える。490 は青磁の椀の体部下半から底部にかけての破片資料である。高台径が小さめで、断面は尖り気味であり、全面施釉後に高台端部周辺の釉を剥ぎ取り、露胎部分と施釉部分の境目は赤く発色しているといった特徴〔山本 2000〕と、外面に鎬蓮弁文が施されていることから山本分類の龍泉窯系青磁の椀Ⅲ-2C 類と考える。F 期 (ⅦⅦ~ⅨⅨ期、13 世紀中頃~14 世紀初頭前後) に相当する。

SD3472 (図版 161) 黒色土器無台椀 (491) を図示した。内面黒色の椀で、口縁端部から体部上半にかけての破片資料である。器壁は厚みがある。内面にはロクロナデののちミガキ調整が施されている。なお、主に外面にアスファルトが付着している。口径のみの分類ではあるがⅢ類とした。春日Ⅵ期と考える。

#### 小土坑 (P)

P1771 (図版 161) 白磁の椀 (492) の体部破片資料を図示した。内面の底部付近には沈線が施され、外面には型押し文様と考えるものが体部下半に施されている。なお、体部外面下半には施釉されていない。形態などからは山本Ⅳ類のいずれかと推定するが、この分類中に外面に型押し文様を持つものが含まれるのかどうか定かではない。山本Ⅳ類であれば C 期 (ⅩⅡ~ⅩⅢ期、11 世紀後半~12 世紀前半) に相当する資料であろうが確定できない。

P2464 (図版 161) 土師器無台椀 (493・494) を図示した。493・494 は口縁端部から底部にかけての破片資料。どちらも底部切り離しは糸切りで分類もともにⅡ B 類とした。時期も両資料とも春日Ⅵ期と考える。

P3356 (図版 161) 土師器無台椀 (495) を図示した。口縁端部から底部にかけての比較的遺存率の高い資料。底部内面中央部にくぼみがみられる。底部切り離しは糸切り。Ⅱ B 類とした。春日Ⅶ期と考える。

#### 遺構外出土遺物

##### 耕作土出土遺物

土師器 (図版 161) 無台椀 (496~498)、小甕 (499)、長甕 (500)、鍋 (501~503) を図示した。496 は口縁端部から体部上半にかけての破片資料。口径のみの分類ではあるがⅢ類とした。497 は口縁端部から体部の破片資料。丸みのある体部となる。口径のみの分類ではあるがⅡ類とした。498 は口縁端部付近の破片資料である。口縁端部は外反する。推定の口径であるがⅢ類とした。496~498 は春日Ⅶ期と考える。499 は小甕の口縁端部から体部上半の破片資料である。口縁部が内湾し、口縁端部中央がくぼみ、端部内側が張り出す口縁形態であることから Ae 類とした。なお、Ae 類としたものはこの 1 点のみである。春日Ⅶ期と考える。500 は長甕の口縁部破片資料。口縁部が内湾気味で受け口状を呈する Ad 類とした。春日Ⅵ・Ⅶ期と考える。501~503 は鍋の口縁部付近の破片資料。501・502 は口縁端部付近の外面をくぼませることから Ae 類とした。501 は棒状あ

るいは板状の工具によって引かれた沈線によるくぼみが施されており、この沈線より上の口縁端部を外側に屈曲させている。春日Ⅶ期と考える。502は外面を強くくぼませ、そこから端部を屈曲させている。春日Ⅵ・Ⅶ期くらいであろうか。503は口縁端部を丸くしていることからAc類とした。春日Ⅶ期くらいであろう。

**黒色土器** (図版162) 無台椀(504～508)、有台椀(509)を図示した。504は内面黒色の口縁端部から底部にかけての資料。底部の遺存率が高い。内面調整は摩耗しているがロクロナデののちミガキが施されているのが確認できる。底部切り離しは糸切り。体部にはアスファルトあるいはタールのような付着物がある。I B類とした。春日Ⅶ期。505・506は内外面黒色の口縁部から体部上半にかけての破片資料である。505・506ともに調整はロクロナデののちミガキが施されている。505は口径の分類のみであるがI類とした。春日Ⅶ期か。506は推定口径であるがII類とした。507は内面黒色の口縁端部から体部上半の破片資料。体部から内湾気味に口縁端部に向かう形態である。口径のみの分類であるがII類とした。508は内面黒色の体部下半から底部にかけての破片資料。内面調整は摩耗しているがロクロナデののちミガキが施されているのがわかる。底部切り離しは摩耗しているため判然としないが、糸切り後に何らかの再調整が行われていると考える。509は内面黒色の有台椀。底部付近の破片資料である。ハの字状に開く高台がつく。506～509は春日Ⅶ期と考える。

**須恵器** (図版162) 無台杯(510)、有台杯(511・512)、長頸壺(瓶)(513・514)、甕(515)を図示した。510は遺存率の高い資料である。III A類とした。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期のものとする。511は有台杯の体部下半から底部にかけての破片資料。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期。512は有台杯の底部付近の破片資料。高台も端部は欠損している。新津丘陵窯跡群産。春日Ⅳ期と考える。513は長頸壺(瓶)の頸部から体部にかけての破片資料。小泊窯跡群産。外面の一部に自然釉がかかる。春日Ⅵ期と考える。514は長頸壺(瓶)の口縁部と考えたもの。口縁端部は上方につまみ上げられている。内面に自然釉がかかる。おそらく小泊窯跡群産と考える。春日Ⅵ期であろうか。515は須恵器甕の口縁部破片資料。口径は25cmである。内面に自然釉がかかる。小泊窯跡群産。春日Ⅵ期と考える。

**越州窯系青磁** (図版162) 椀(516・517)を図示した。516は口縁端部付近の破片と体部の破片資料である。無文である。形態などから山本分類の越州窯系青磁椀I類ないしはII類となろう。I類あるいはII類であればA期(V～IX期、8世紀末～10世紀中頃)に相当する。なお、517とは体部下半の器壁の厚みが多少異なるため同一個体とは考えにくいと思われる。517は体部下半から底部にかけての破片資料である。全体の形は不明であるが高台は蛇の目高台である。文様は施されていない。なお、限られた資料であるが全面に施釉されており畳付にある目跡は取られている。また、底部内面に目跡は認められない。山本分類の越州窯系青磁椀I類のうちI-1類かI-3類と推定するか判断がつけられない。よって山本I類にとどめておき、いずれにせよA期(V～IX期、8世紀末～10世紀中頃)に相当するものとする。

#### 包含層出土遺物

**縄文土器** (図版162) 深鉢(518)を図示した。体部の破片資料で外面に網目状撚糸文を施している。縄文時代晩期中葉のものとする。

**土師器** (図版162) 有台椀(519)、小甕(520)を図示した。519は有台椀と考えた体部下半から底部にかけての破片資料。高台は円盤状に貼り付けられたものである。緑釉陶器の模倣であろうか。高台の切り離しは不明だが、ナデで再調整が施されている。520は小甕の口縁端部から体部上半にかけての破片資料。段のような口縁部形態のAg類とした。春日Ⅵ・Ⅶ期と考える。

**黒色土器** (図版162) 有台椀(521)を図示した。内面黒色の高台のつく椀。体部下半から底部にかけての破片資料。底部切り離しは糸切りで、その後に高台がつく。内面にはロクロナデののちミガキが施されている。春日Ⅶ期と考える。

**須恵器** (図版162) 鉢(523)、提瓶(522)を図示した。523は鉢の口縁端部から体部上半にかけての破片資料。口縁端部は上方につまみ上げるような形態である。小泊窯跡群産。春日Ⅴ・Ⅵ期と考える。522は提瓶と考え

た口縁部の破片資料。口縁端部は外反する。口縁部の中位外面には沈線が2本巡る。信濃川左岸産で7世紀代のものとする。

緑釉陶器(図版162) 椀(526～529)を図示した。526は口縁部の破片資料。産地、時期ともに不明。527は口縁部付近の破片資料。東海方面(ただし近江を含む)系と考える。528は体部の破片資料。529と胎土などが似ることから同一個体の可能性がある。529は底部付近の破片資料。高台は有段輪高台と考える。底部内面には施釉されていない。近江系のもので、10世紀以降の資料と考える。

灰釉陶器(図版162) 椀(530～539)を図示した。530～533は口縁端部から体部上半付近の破片資料である。530は口縁端部が外反する。産地・時期不明。531も口縁端部は外反する。美濃産であるが時期は不明。532はおそらく美濃産で光ヶ丘1号窯式より新しいものとする。533は美濃産で、時期は光ヶ丘1号窯式以降のものとする。534～538は体部の破片資料。534は美濃産と考える。534は539と胎土などが似ることから同一個体であろうか。535・536は尾張産であるが、時期は不明。537は美濃産と考える。537は534・539と胎土などが似ている。538は美濃産と考えるが時期は不明。539は底部付近の破片資料で、高台は三日月状と考える。美濃産で、時期は光ヶ丘1号窯式に比定される。なお、531・533～538は体部の外面下半に釉が確認できない。また、539は底部内面に施釉されている。

製塩土器(図版162) バケツ型の製塩土器(524・525)を図示した。524は体部破片資料で525は底部付近の破片資料。両資料とも輪積み痕が残る。525は外面に指頭圧痕がみえる。2点とも10世紀代のものかとする。

越州窯系青磁・龍泉窯系青磁(図版162) 椀(540～544)を図示した。540～542が越州窯系で、543・544が龍泉窯系である。540は口縁部付近の破片資料。輪花椀である。身は浅くなるものと推定した。山本I-2b類、II類などが考えられようが確定できない。よって山本分類の越州窯系青磁椀I類かII類と推定するにとどめるが、いずれにせよA期(V～IX期、8世紀末～10世紀中頃)に相当するものとする。なお、同一個体の可能性については、同じ越州窯系青磁である516と比較すると、どちらも小破片で場所による違いなのかもしれないが、口縁端部の厚みが多少異なる。また517とは蛇の目高台であるため、輪花椀となる形態は考えにくい。よって、遺跡全体で越州窯系青磁の椀は少なくとも2個体は存在し、3個体分の可能性も考えられる。541・542は体部の破片資料で他の越州窯系青磁と同一個体の可能性が高い資料と推定する。

543は口縁部付近の破片資料。形態や外面に鎬蓮弁文を施す椀であることから、山本分類の龍泉窯系青磁椀II-b類と考えた。E期(XVI～XVII期、13世紀前後～前半)に相当する。544も口縁部付近の破片資料。外面の破面付近に文様の一部が確認できるが、文様自体の全体像は不明である。ここでは蓮弁文となるものと推定し、深身になりそういため山本分類の龍泉窯系青磁椀III-2C類と考えた。F期(XVII～XIX期、13世紀中頃～14世紀初頭前後)に相当する。

## 第2節 土製品

8・9区出土の土製品の出土総量は2.5箱となり、このうち10点を図示した。内訳は土錘7点、粘土塊1点、研磨具(土器片の二次使用)1点、用途・種別不明品1点である。以下、区ごとに遺構出土、遺構外出土土製品の順で記載する。

### A 8 区

SE1320(図版146) 222は土錘である。形状は細く、管状である。片端は欠損している。残存長4.4cm、外径は1.2cm、孔径0.4cmである。

SK1570(図版146) 223は全体の形状・用途などが不明であるが、焼成された粘土塊と考えたものである。実測図でいうと上下部分は欠損しているとする。また外面は遺存しているが、内面は窪んでいる部分以外は欠損

していると考え。外面には指跡が見え、内面は粘土の皺が寄っているのが観察できる。この皺は粘土を丸めた際に、中が空間となることに伴ってできたものであろうか。

SD151 (図版 146) 224 は土錘である。222 と同様な形状で、細い管状である。両端は欠損している。残存長 4.05cm、外径は 0.95cm、孔径 0.4cm である。

P271 (図版 146) 225 は二次使用で研磨具として使われた土師器片である。体部下半から底部にかけての破片資料と推定する。器壁は厚みがあり、平底の底部で体部への立ち上がりが緩やかであることから器種としては平底の鍋と推定する。本来の調整については砥面として使用されているため外面は不明であるが、内面にはハケメが施されているのが確認できる。

遺構外出土遺物 (図版 146) 226 は完形品の土錘である。形状は太形で、管状である。長さは 2.85cm、外径は 1.6cm、孔径 0.4cm である。

## B 9 区

SX3521 (図版 163) 545 は土錘である。形状は細く管状であるが、他の土錘よりも中位が膨らむ形となる。ほぼ完形であるが両端が少し欠けている。残存長 4.9cm、外径は 1.45cm、孔径 0.3cm である。

SD3447 (図版 163) 546 は完形品の土錘である。形状は太形で、管状を呈する。長さは 4.9cm、外径は 2.75cm、孔径 0.9cm である。

遺構外出土遺物 (図版 163) 土錘 (547・548) と全体の形状・用途などが不明のもの (549) を図示した。547・548 の形状は、細く管状である。547 は片端が少し欠けている。残存長 4.3cm、外径は断面図の位置で 1.25cm、孔径 0.4cm である。548 は両端が欠損している。残存長 3.6cm、外径は断面図の位置で 1.4cm、孔径 0.5cm である。

549 は用途・種別不明の土製品である。孔があることから、全体の形は輪状あるいは筒状を呈するものであろうか。輪状の外形と孔の部分並びに実測図正面部分が遺存しているのみで他は欠損している。

## 第3節 鍛冶関連遺物

8・9区出土の鍛冶関連遺物の出土総量は 6.5 箱となる。総点数は 340 点ほどとなり、内訳は木炭痕やスサが観察できるような椀形鍛冶滓や、気泡を多く含む軽量の鉄滓資料などといったものを合わせて、鉄滓の可能性があると考えた破片資料が約 5 割を占め、粘土がガラス質になった粘土質溶解物が約 4 割を占める。このほかは韃の羽口の破片資料 (可能性のあるものを含む) 数が多くなり、次いで炉壁の可能性があると考えた破片資料 9 点、不明資料数点といった順となる。なお、科学分析は行っていない。図示した鍛冶関連遺物は韃の羽口の破片資料 4 点である。以下に 8 区遺構出土、9 区遺構外出土の順で記載する。

## A 8 区

SD754 (図版 146) 227 は全周する先端部分の破片資料。先端がガラス質に溶解し暗緑色となっている。また、先端部の片側には椀型鍛冶滓が付着している。外径 6.1cm、孔径 (内径) 2.8cm である。

## B 9 区

遺構外出土遺物 (図版 163) 550・552 は体部の破片資料、551 は先端部付近の破片資料。550 は全周のうち 1/4 周程度の遺存する体部の資料である。胎土は他の羽口と違い、やや粗めの長石や石英が目立つ。推定外径 4.9cm、推定孔径 (内径) 2.3cm である。552 は孔部分も半分程度欠損した体部の破片資料である。

551 は先端部付近がガラス質に溶解した破片資料である。溶解部は気泡が目立つ。法量は破片のため計測し

ていないが227と比較すると外形・孔径（内径）が同規模、ないしは少し大きいものと推測する。

## 第4節 石器・石製品

8・9区出土の石製品の出土総量は6箱となり、このうち29点を図示した。内訳は浮子2点、小玉1点、磨石類3点、石帯1点、台石1点、砥石20点、勾玉1点である。以下、区ごとに遺構出土、遺構外出土石製品の順で記載する。石器は1点が出土しており、図示した。石鎌及び研石の分類はこれまでの調査報告の分類〔前山ほか2012〕による。また、磨石類及び台石についても縄文時代の製品ではないが同様の分類を用いている。石帯に関する用語・名称は平尾政幸氏を参考にしている〔平尾2001〕。また、石材については基本的に肉眼観察により同定したが、230・234は高澤栄一氏のご協力により、ごく簡易的な方法ではあるが成分分析を行っていただいている。

### A 8 区

#### 井戸 (SE)

SE2313 (図版146) 砥石(228)を図示した。凝灰岩製。B2-Ⅲ類。不整形の直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。1面がよく使われており、側面から見ると三角形に近い形状となる。細長く湾曲するものが半ばで欠損したと考える。

SE2373 (図版146) 砥石(229)を図示した。凝灰岩製。B2-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面及び短側面1面に砥面が残る。細長いものが欠損したと考える。長側面はよく使用されているが、短側面はあまり使用されていない。

#### 土坑 (SK)

SK1570 (図版146) 砥石(230)を図示した。砂岩製。B2-Ⅰ類。不整形の直方体状を呈し、長側面2面に砥面が残る。側面から見ると三角形に近い形状である。

#### 性格不明遺構 (SX)

SX1306 (図版146) 石帯(231)と砥石(232、233)を図示した。231は丸鞆の上部の資料であり、下部は欠損している。斜め方向に2つ並んだ潜り穴が1か所ある。残存部の下側の側面は端の一部しか欠損していないことから、垂孔が存在していた。光沢が出るほど丁寧に磨かれているが、潜り穴がある面は一部しか光沢部が確認できず、使用により面が粗くなったと考えられる。垂孔部には垂孔の端と中央の地点に未貫通の穿孔痕跡が互い違いに存在する。このことから、四隅を穿孔して垂孔を作る平尾氏の分類の技法Aに近いと考えられるが、230は四隅と長辺中央部に未貫通の孔を四隅と長辺中央部に互い違いであけ、その孔を基に長方形の垂孔をあけたと考える。蛇紋石製である。蛇紋石の中でもリザルダイトの可能性もある。232は凝灰岩製。B1-Ⅲ類。不整形の直方体状を呈し、6面全に砥面が残る。比較的小型である。233は流紋岩製。B2-Ⅱ類。比較的扁平な不整形を呈し、4面に砥面が残る。

#### 溝 (SD)

SD121 (図版146) 砥石(234)を図示した。凝灰岩製。C1-Ⅱ類。隅丸の直方体状を呈し、6面全に砥面が残る。全体的にあまり使用されておらず、長側面の面が広い一方の中央が丸くでており、この範囲が黒ずんでよく使われていることから、手に持って何かを磨り潰すなどの使用方法も考えられる。

#### 小土坑 (P)

P724 (図版146) 勾玉(235)を図示した。上下が左右対称のC字形を呈し、厚く立体感がある。穿孔は片側の径が大きく反対側にすぼまることから片側穿孔と考える。翡翠輝石製である。

#### 遺構外出土遺物 (図版147)

砥石(236～239)と石器の石鎌(240)を図示した。236は安山岩製。B1類。不整形の直方体状を呈し、長

側面3面に砥面が残る。237は凝灰岩製。B1-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面及び短側面1面に砥面が残る。細長いものが欠損したと考える。長側面2面と短側面1面に深い溝状の痕跡がある。238は凝灰岩製。B1-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面及び短側面1面に砥面が残る。一部欠損。長側面はよく使用されているが、短側面はあまり使用されていない。239は安山岩製。B1類。不整形を呈し、1面に砥面が残る。240は完形資料。チャート製。D類。

## B 9 区

### 井戸 (SE)

- SE31 (図版163) 磨石類(553)を図示した。一部欠損。安山岩製。C1類。広い範囲でタールが付着している。
- SE1433 (図版163) 小玉(554)を図示した。完形資料。チャート製。基石などの可能性がある。
- SE1514 (図版163) 砥石(555)を図示した。凝灰岩製。B1-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。一部欠損。
- SE1601 (図版163) 砥石(556、557)を図示した。556は凝灰岩製。B2-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。細長いものが欠損したと考える。557は凝灰岩製。B2-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。細長いものが欠損したと考える。556と石材や形状など類似している。
- SE2027 (図版163) 磨石類(558)を図示した。一部欠損。砂岩製。C1類。
- SE2153 (図版164) 砥石(559)を図示した。凝灰岩製。A-Ⅲ類。扁平な直方体状を呈し、長側面4面及び短側面1面に砥面が残る。一部欠損。長側面の面積が狭い2面及び短側面1面にはチョウナ叩き痕が確認でき、砥石成形時の痕跡と考える。
- SE2220 (図版164) 浮子(560)を図示した。軽石製。扁平な楕円形を呈する。十字状に縄の痕跡が確認でき、浮子として利用したと考える。
- SE2853 (図版164) 砥石(561)を図示した。砂岩製。B1-I類。短側面がすぼまる直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。
- SE3315 (図版164) 砥石(562)を図示した。凝灰岩製。B1-Ⅲ類。直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。細長いものが欠損したと考える。長側面1面に深い溝状の痕跡がある。
- SE3616 (図版164) 台石(563)を図示した。完形資料。A3a類。全面にタールが付着しており、特に扁平な面にタールが厚く付着している。

### 土坑 (SK)

- SK1429 (図版164) 砥石(564)を図示した。凝灰岩製。B2-Ⅲ類。不整形の直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。面積が広い2面がよく使われており、側面から見ると三角形に近い形状となる。細長く湾曲するものが半ばで欠損したと考える。一部にススが付着している。

### 性格不明遺構 (SX)

- SX2140 (図版164) 砥石(565)を図示した。流紋岩製。B2-II類。不整形の直方体状を呈し、長側面4面に砥面が残る。比較的大形。

### 溝 (SD)

- SD1661 (図版165) 磨石類(566)を図示した。砂岩製。A類。磨痕を中心にタールが付着している。台石として使用した可能性もある。
- SD2192 (図版165) 浮子(567)を図示した。軽石製。一部欠損。若干縄の痕跡があることから浮子とした。
- SD3472 (図版165) 砥石(568)を図示した。凝灰岩製。B2-Ⅲ類。比較的扁平な直方体状を呈し、長側面4面及び短側面1面に砥面が残る。細長いものが欠損したと考える。長側面はよく使用されているが、短側面はあまり使用されていない。

## 遺構外出土遺物（図版 165）

砥石（569）を図示した。凝灰岩製。A-Ⅲ類。扁平な直方体状を呈し、6面全てに砥面が残る。ほぼ完形資料。長側面の面積が狭い2面及び短側面2面にはチョウナ叩き痕が確認でき、砥石成形時の痕跡と考える。

## 第5節 銭貨・金属製品

8・9区出土の金属製品及び銭貨の出土総量は4箱となる。金属製品総点数12点のうち9点を図示した。内訳は方形状鉄製品1点、釣針1点、刀子1点、鉄鏝1点、釘2点、蓋状鉄製品1点、鉄斧1点、円環状鉄製品1点である。銭貨総点数18点内10点を図示した。以下、区ごとに遺構出土、遺構外出土品の順で記載する。なお、先に金属製品について記載し、その後銭貨について記載する。そのため、金属製品の遺構出土、遺構外出土品、銭貨の遺構出土、遺構外出土品の順となる。

## A 8 区

## 金属製品

SE834（図版 147） 方形状鉄製品（241）を図示した。完形資料。正形状の輪である。鎌の刃と柄を固定するなどの固定具と考える。

SE1643（図版 147） 釣針（242）を図示した。一部欠損資料。先が上に曲がるL字状を呈する。針の根元には段がある。針先は歪み、欠損していると考え。

## 銭貨

SE845（図版 147） 皇□□寶（243）を図示した。欠損しているため、2字不明。皇宋通寶の可能性が高い。

SE1643（図版 147） 祥符元寶（244）を図示した。井戸側曲物（274）中より出土。篆書である。初鑄年1008年。

SX1306（図版 147） 紹聖元寶（245）を図示した。篆書である。初鑄年1094年。

SX1368（図版 147） 至和元寶（246）を図示した。篆書である。初鑄年1054年。

P1636（図版 147） 元豊通寶（247）を図示した。篆書である。初鑄年1078年。

P2019（図版 147） 開禧通寶（248）を図示した。裏文字に三がある。初鑄年1205年。

遺構外出土（図版 147） 開元通寶（249）、景德元寶（250）、□□通寶（251）、元祐通寶（252）を図示した。249は隸書である。初鑄年960年。250は初鑄年1004年。錆によって2枚付着している。出土時は251も付着していた。251は付着による影響で2字不明。252は行書である。初鑄年1086年。

## B 9 区

SE251（図版 165） 刀子（570）を図示した。刃先と柄先が欠損した資料。目釘孔が確認できる。

SE2226（図版 165） 鉄鏝（571）、釘（572）を図示した。571は両端欠損した資料。断面方形状を呈し、中央部が膨らみ両端に向かい細まる。572はほぼ完形資料。先端が尖る。上部形状は錆のため詳細不明。

SE2331（図版 165） 釘（573）を図示した。両端欠損した資料。屈曲している。

SX1539（図版 165） 蓋状鉄製品（574）を図示した。一部欠損した資料。蓋状を呈するが、何の蓋かなど詳細不明。蓋と想定した時の口縁部から体部にかけて、12条程の沈線が巡っている。天井部には突起があるが、詳細不明である。鑄造の痕跡などの可能性が考えられるが、その場合は未製品ということになる。

SX2253（図版 165） 鉄斧（575）を図示した。ほぼ完形資料。袋状鉄斧である。錆で詳細不明だが、袋部内に木製の柄が残存している可能性がある。

遺構外出土（図版 165） 円環状鉄製品（576）を図示した。完形資料。断面長方形の円環状を呈する。円環にさらに2本の環がまきつく。刀などの柄に装着された固定具または装飾の可能性はある。

## 第6節 木製品

大沢谷内遺跡8・9区の調査区から木製品は89.5箱と大型水槽1箱出土しており、豊富な種類が確認されている。総点数約1400点内、比較的残りがよく器種分類が可能なものを中心に173点図示した。

木製品の分類については海青社刊行『木の考古学』〔伊東・山田ほか2012〕の分類・名称を用いた。奈良国立文化財研究所の『木器集成図録近畿古代編』〔奈良国立文化財研究所1985〕や各報告書等を参考に、『木の考古学』で示されている分類に当てはめている。大沢谷内遺跡の分類は以下の通りである（第17・18図）。

工 具：刀子、発火具、杓子形・篋状品

農 耕 土 木 具：鋤、田下駄

編み具・紡績具：編台、紡錘車、糸巻具

運 搬 具：櫓

漁 労 具：浮子

服 飾 具：履物、絵扇、櫛

容 器：椀、皿、盤、槽、側板、釣瓶、底板（蓋板）、付属品、その他・不明

調 理 加 工 具：篋杓子、柄杓、俎、鬼卸

食 事 具：箸、匙、膳、折敷

調 度：机、その他・不明

祭 祀 具：齋串、形代、呪符

遊戯具・日用品：羽子板、栓

建 築 部 材：柱

施設材・器具材：井戸、板、棒

土 木 材：杭

そ の 他：炭化材（その他）

16の分類群（工具、農耕土木具など）とそのなかで43の器種（刀子、発火具など）に分かれる。さらに、器種の中には細分されるものがある。不明品は施設材・器具材の板および棒に加えている。『木の考古学』の分類に当てはまらないため、新たに農耕土木具鋤の一木鋤と調理加工具鬼卸を加えている。

また、各遺構から種実や自然木等の自然遺物も多数出土しており、種実については抽出し分析を行っている（第VI章第3節）。自然遺物のなかでも特徴的なものを4点図示した。数量が少ないためこの節で併せて報告する。

### A 8 区

8区からは約670点出土している。

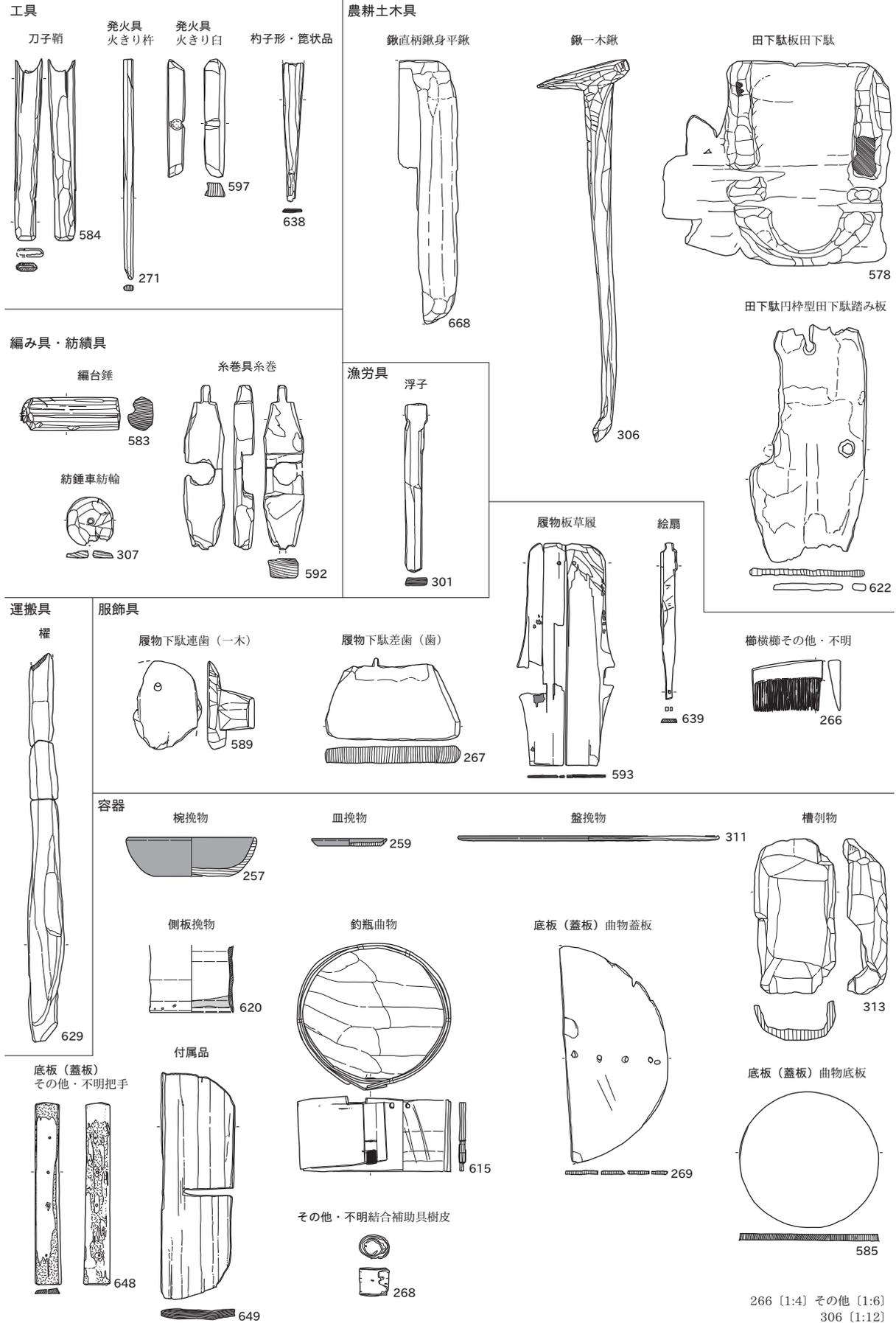
#### 掘立柱建物（SB）

SB4008（図版148） SB4008を構成するP405から出土した柱の掘立柱建物（253）を図示した。上部欠損資料。底部は尖る。

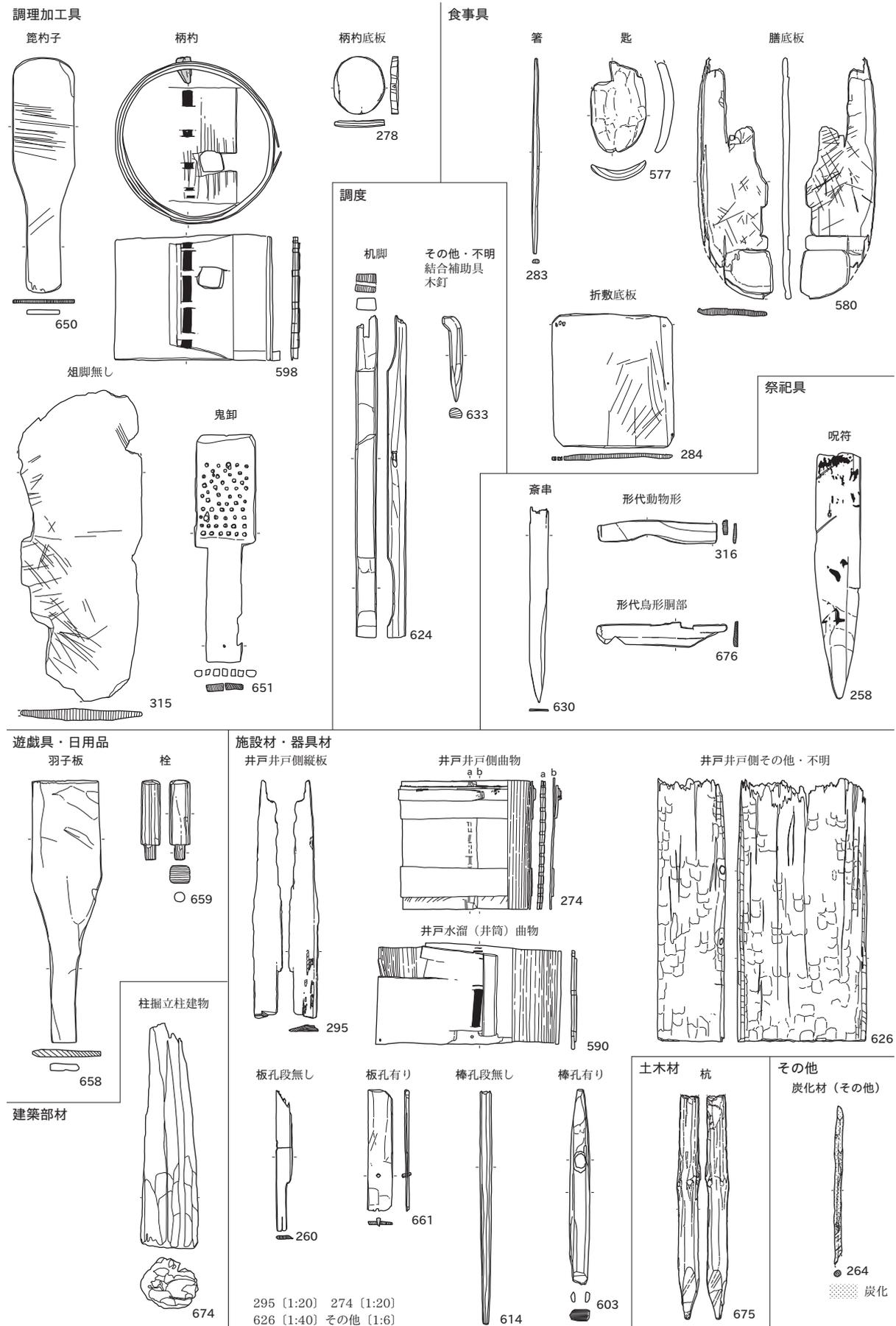
#### 井 戸（SE）

SE119（図版148） 底板（蓋板）の曲物把手（254）を図示した。完形資料。孔が2か所あり、1か所には木釘が残存している。

SE155（図版148） 皿の挽物（255）と履物の下駄差歯（歯）（256）を図示した。255は半分欠損資料。外面底部立ち上がりにより一部削り痕が確認でき、内外面に黒漆が塗られている。256は半分欠損資料。現状で柄が1か所確認できるが、配置から柄は2か所だったと考えられる。また、底部には砂利が付着している。



第17図 大沢谷内遺跡木製品分類図(1)



第18図 大沢谷内遺跡木製品分類図(2)

- SE768 (図版 148) 椀の挽物 (257) を図示した。半分欠損資料。内外面に黒漆が塗られている。
- SE865 (図版 148) 呪符 (258) を図示した。完形資料。呪符木簡である。劣化が激しく、内容はほぼ判読できないが、末尾に五芒星がある。線状痕が確認できる。
- SE920 (図版 148) 皿の挽物 (259) を図示した。2/3 欠損資料。内外面に黒漆が塗られている。
- SE929 (図版 148) 板の孔段無し (260) を図示した。大部分欠損資料。破片のため詳細は不明である。墨痕がかすかに確認できる。
- SE1020 (図版 148) 履物の下駄差歯 (歯) (261) を図示した。半分欠損資料。柄の有無は不明である。
- SE1045 (図版 148) 箸 (262・263)、炭化材 (その他) (264) を図示した。262～264 は全て下端欠損資料。264 は全体が炭化しており、樹皮が残存している。
- SE1068 (図版 148) 履物の下駄差歯 (歯) (265)、櫛の横櫛その他・不明 (266) を図示した。265 は半分欠損資料。柄が欠損した痕跡が 1 か所ある。底部に砂利が付着している。266 は半分欠損資料。歯は現存で少なくとも 35 本あり、実際の本数は倍近くあったと考える。木取りは不明である。
- SE1140 (図版 148) 履物の下駄差歯 (歯) (267) を図示した。ほぼ完形資料。現状で柄が 1 か所確認できるが、配置から柄は 2 か所だったと考えられる。
- SE1145 (図版 148) その他・不明の結合補助具樹皮 (268) を図示した。完形資料。帯状を呈し、3 重に丸まった状態である。長辺は刃物などで断ち切られている。本遺跡では曲物の結合補助具として確認されており、曲物作成のためと考える。皮目による識別からサクラ属と考える。
- SE1216 (図版 148) 底板 (蓋板) の曲物蓋板 (269) を図示した。半分欠損資料。端から中央に向けて一列に孔が 5 か所あり、把手を取り付けた痕跡と考えられる。全体が炭化している。
- SE1320 (図版 148) 履物の下駄差歯 (歯) (270) を図示した。半分欠損資料。劣化が激しく、詳細は不明である。
- SE1586 (図版 148) 発火具の火きり臼 (271) を図示した。完形資料。下端部は炭化しており、モミキリによる痕跡と考えられるが、断面が楕円形を呈しており、モミキリとして使用に適していない。
- SE1643 (図版 148・149) 井戸の井戸側曲物 (272～274)、箸 (275) を図示した。272～274 は上から 272・273・274 の順に積み重なった状態で出土した。272 は一番上にあつたため、特に上部の劣化が激しい。結合補助具樹皮が残存しており、側板が閉じられている。273 は劣化しているが、大体の形状を留める。位置は不明だが帯が 1 つ残っている。外面に斜位、内面に縦位のケビキが施されている。274 はほぼ完形資料。上下の帯が確認でき一番下のためか頑丈な作りである。272～273 は下に行くほど、規模が小さくなっており、上部を支えるため頑丈な作りになっている。底板を取り付けた痕跡がないため、井戸側用に作られたと考える。275 は完形資料。273 中より出土した。
- SE1871 (図版 149) 田下駄の板田下駄 (276)、紡錘車の紡錘 (277)、柄杓の底板 (278)、箸 (279～283)、折敷の底板 (284) を図示した。276 は大部分欠損資料。板田下駄でもナンバと呼ばれる田下駄の足を固定する U 字枠と考える。側面には紐通し孔の痕跡が確認できる。277 は完形資料。両側から穿孔しようとしているが、つながっておらず貫通していない。そのため、未成品又は失敗品と考える。278 は完形資料。側面に窪みが確認でき、側板との結合の痕跡の可能性はある。279・281 は下端欠損資料。280・282～284 は完形資料。284 は本報告の折敷底板中では比較的小型である。角に穿孔があり、側板との結合の痕跡の可能性はある。
- SE2313 (図版 150) 椀の挽物 (285) を図示した。1/4 欠損資料。底の低い高台がある。内外面に黒漆が塗られ、赤漆の絵付けがある。
- SE2326 (図版 150) 皿の挽物 (286) を図示した。2/3 欠損資料。内外面に黒漆が塗られている。
- SE2373 (図版 150) 折敷の底板 (287)、板の孔段無し (288) を図示した。287 は半分欠損資料。縁に沿って 3 か所に孔があり、うち 2 か所に木釘が残存している。側板との結合の痕跡の可能性はある。288 は完形資料。不明品である。線状痕が確認できる。

SE2375 (図版 150) 椀の挽物 (289)、底板 (蓋板) の曲物底板 (290)、箸 (291・292)、栓 (293) を図示した。289 は 1/3 欠損資料。底の低い高台がある。内外面に黒漆が塗られる。290 は大部分欠損資料。291・292 は完形資料。293 は半分欠損資料。下部が柄状を呈しており、この部分を差し込んだと考えられる。

SE2383 (図版 150・151) 井戸の井戸側縦板 (294・295) と井戸の井戸側その他・不明 (296・297) を図示した。294～297 は上部欠損資料。295・296 は半裁した丸太を削り貫いた形状である。両者が合わせり円柱状を呈する状態で出土した。296 は側面に 2 つのホゾ穴が両側面のほぼ同じ位置にある。また、内面には不明確だが何かを設置した可能性がある痕跡が確認できる。296 は縦方向の断面が端に向かって弧状を描き、端部で平坦になる。そのため、296・297 は丸木舟を転用した可能性がある。294・295 は 296・297 の合わせ目を塞ぐような状態で出土している。294・295 とともに長い板状を呈しており、295 は樹皮が残存している。

SE2477 (図版 151) 皿の挽物 (298) を図示した。轆轤挽きする前の未成品である。樹種はケヤキである。別の器種の可能性もあるが、本報告木製品の中で、挽物の樹種にケヤキが複数確認できることから、挽物としている。また、轆轤挽き前の大きさから皿の未成品と推定している。

#### 土 坑 (SK)

SK1570 (図版 151) 籠杓子 (299・300)、浮木 (301) を図示した。299 は下端欠損資料。300 は下部欠損資料。299・300 は大 (300)・小 (299) の 2 つの大きさに分かれる。301 は完形資料。上部に抉りがあり、この部分に糸をくくりつけたと考えられる。しかし、このような形態は類例がないため、人形などの別の器種の可能性もある。

#### 性格不明遺構 (SX)

SX1306 (図版 152) 鍬の一本鍬 (306)、紡錘車の紡錘 (307)、履物の下駄連歯 (一木) (314)、椀の挽物 (308～310)、盤の挽物 (311・312)、槽の削物 (313)、俎の脚無し (315)、形代の動物形 (316)、羽子板 (317)、板の孔有り (318) のを図示した。306 はほぼ完形資料。柄の先は滑り止めとしてのカエシがある。一般的な鍬は柄と身が別々になっているが、この鍬は柄と身が一体となっているような形態である。また、身と考えられる部分の先には、刃先などを装着した痕跡も見受けられない。そのため、実際に使用すると仮定したときの頸部の強度等も視野に入ると、実用品ではなく祭祀具としての用途も考えられる。また、身と考えられる部分がさらに加工されて身と装着する部分になる可能性も考えられ、その場合は未成品ということになるが可能性は低い。木取りは、幹から枝にかけての部分が利用されており、柄の部分が柄、身の部分が幹となっている。307 は一部欠損資料。扁平な形態である。314 は未製品である。歯を作り出している形態から下駄と推測している。しかし、台部の中央部だけが削られており、脚がつく削物の可能性もある。下駄の場合は大きさが比較的小形のため、子供用と考えられる。308～310 は 2/3 欠損資料。308～312 は全て内外面に黒漆が塗られている。さらに、308～310 は高台がつくことも共通している。308 の内面に不明の白色付着物がある。311 の外底に円形の文様が施されている。313 は全体の形態が整っていないため、未製品又は失敗品と考えられる。315 は一部欠損と考えられる資料。多くの線状痕が確認できる。表面が炭化している。316 は完形資料。馬の動物形の可能性が高いが、別器種の可能性もある。317 は完形資料。上端部の断面が斜めになっており、工具の籠状品の可能性もある。318 は完形資料。不明品である。上部中央に孔がある。

SX2457 (図版 153) 俎の脚無し (319) を図示した。半分欠損資料。多くの線状痕が確認できる。

#### 溝 (SD)

SD121 (図版 151) 発火具の火きり杵 (305)、履物の下駄差歯 (歯) (302・303)、栓 (304) を図示した。305 は完形資料。下先端部が炭化している。炭化部以外の劣化が激しい。302・303 はほぼ完形資料だが、303 は柄が欠損している。それぞれ形態が大きく異なる。大形で台形状のもの (303) と小形で長方形のもの (302) となる。302 には柄が 2 か所確認できる。304 は完形資料。断頭円錐状を呈しており、径の小さい方を差し込んだと考えられる。側面下半部に圧迫ないし擦れたような痕跡が若干見受けられることから、その部分まで差し

込んだと考えられる。

#### 小土坑 (P)

P942 (図版 153) 柱の掘立柱建物 (320) を図示した。上部欠損資料。底部は平坦である。

P1434 (図版 153) 柱の掘立柱建物 (321) を図示した。上部欠損資料。底部は尖る。

P2480 (図版 153) 柱の掘立柱建物 (322) を図示した。上部欠損資料。底部は平坦である。途中から若干屈曲している。

P2009 (図版 153) 田下駄の円枠型田下駄踏み板 (323) を図示した。一部欠損資料。全体や孔の大きさが大きいことから、服飾具の下駄ではなく、田下駄とした。しかし、劣化が激しいため円枠型田下駄ではなく、他の可能性も十分ある。

## B 9 区

9区からは約730点出土している。

#### 井戸 (SE)

SE31 (図版 166) 匙 (577) を図示した。把手部欠損資料。内面にチョウナ状工具によるケズリ痕が明瞭に残る。

SE32 (図版 166) 田下駄の板田下駄 (578) を図示した。2/3 欠損資料。板田下駄でもナンバと呼ばれるものである。表側に足を固定する U 字枠があり、U 字枠には緒孔が穿孔されている。裏側には突起が 4 つあり、劣化により 1 つはほぼ痕跡がない。

SE251 (図版 166) 箸 (579) を図示した。完形資料。比較的径が大きい。

SE468 (図版 166) 膳の底板 (580) を図示した。大部分欠損資料。表面には縁が作り出されており、裏面には脚を結合したと考えられる凹みがある。

SE1433 (図版 166) 皿の挽物 (581) を図示した。1/4 欠損資料。内外面に黒漆が塗られている。高台がつく。

SE1556 (図版 166) 底板 (蓋板) の曲物底板 (582) を図示した。大部分欠損資料。一部分のため詳細不明だが、残存部だけでも 7 か所の穿孔されている。このことから、甑として用いた曲物の底板の可能性がある。

SE1601 (図版 166) 編み台の錘 (583) を図示した。半分欠損資料。欠損部に挟りがあることから、ここに糸をかけていたと考えられる。

SE1676 (図版 166) 刀子の鞘 (584)、底板 (蓋板) の曲物底板 (585)、板の孔有り (586) を図示した。584 はほぼ完形資料。2 枚の同形状のものを合わせている。内側の加工から刀子の刃渡りは 18cm 程度の可能性がある。585 は完形資料。断面が台形状である。586 は大部分欠損資料。不明品である。孔が 2 か所穿孔させており、1 か所挟りがある。

SE1692 (図版 166) 籠杓子 (587)、底板 (蓋板) の曲物底板 (588) を図示した。587 は把手部欠損資料。他の出土した籠杓子とは形態が異なり、杓子状を呈している。588 は半分欠損資料。比較的大形である。中央が厚く、縁に向かって薄くなる。縁に 1 か所穿孔されており、側板との結合痕跡と考える。孔を塞いだ補修の可能性のある痕跡が確認できる。

SE1791 (図版 166・167) 履物の下駄連歯 (一木) (589)、井戸の水溜 (井筒) 曲物 (590) を図示した。589 は 2/3 欠損資料だが、前方の歯及び鼻緒孔それぞれ 1 か所確認できる。590 は一部欠損資料だが、大部分が残存しており、結合補助具樹皮による結合が確認できる。下端には底板と結合した痕跡である孔が確認できるが、底板が確認できないことから、容器としての曲物底板を外して井戸側に転用したと考える。

SE1792 (図版 167) 折敷の底板 (591) を図示した。大部分欠損資料のため、詳細は不明。

SE1890 (図版 167) 糸巻具の糸巻 (592)、履物の板草履 (593)、板の孔段無し (594)、棒の孔段無し (596)、杭 (595) を図示した。592 は一部欠損資料。2 つ組み合わせることで十字になるものの片側である。593 は一部欠損資料だがほぼ全体の形状がわかる。左右対称の板により構成されている。上部の孔のうち右側については木釘が確

認できることから、何かに固定したと考える。また、葉状の痕跡も確認できる。594 は完形と考える資料。不明品である。596 は下部欠損資料。不明品である。595 は上部欠損と考える資料。上端部が炭化しており、先端部が尖る。

SE2027 (図版 167) 発火具の火きり白 (597) を図示した。完形資料。炭化した円形の窪みとそれに伴う V 字状の切れ込みが 1 か所確認できる。

SE2153 (図版 167) 柄杓 (598)、棒の孔段無し (599) を図示した。598 は把手部欠損資料。側板・底板がほぼ完形に近い形で残り、結合補助具樹皮も残存している。さらに側板を貫く 2 つの孔が確認でき、片側には柄の小片がある。599 は完形と考える資料。不明品である。

SE2220 (図版 167) 椀の挽物 (600)、底板 (蓋板) の曲物把手 (601)、折敷の底板 (602)、棒の孔有り (603) を図示した。600 は半分欠損資料。内外面に黒漆が塗られている。601 はほぼ完形資料。孔が 2 か所確認でき、蓋板との結合痕跡と考えられる。602 は 3/4 欠損資料。603 は下端欠損と考える資料。不明品だが、中央部に径 1 ~ 1.5cm 程の孔が 1 か所あることから、この部分に棒状のものを差し込んだと考えられる。

SE2226 (図版 168) 田下駄の板田下駄 (604)、紡錘車の紡錘 (605)、栓 (606) を図示した。604 は半分欠損資料。578 などと同様にナンバである。U 字枠や緒孔が確認できる。しかし、形状はかなり長辺が長い長形状を呈し、裏面に突起は確認できない。突起に関しては欠損の可能性もある。605 は半分欠損資料。扁平な形状である。606 は完形資料。長軸が比較的長い逆台形状を呈する。

SE2398 (図版 168) 箸 (607) を図示した。上端欠損資料。

SE2853 (図版 168) 椀の挽物 (608)、皿の挽物 (609)、箸 (610・611)、折敷の底板 (612)、板の孔段無し (613)、棒の孔段無し (614) を図示した。608 は半分欠損資料。内外面に黒漆が塗られ、高台がつく。609 は 1/4 欠損資料。漆が塗られておらず、外面底部中央部に未貫通の孔があり、内外面底部が平滑ではなくズリ痕が明瞭に確認できることから未成品の可能性はある。610・611 は完形及びほぼ完形資料。612 は大部分欠損資料。孔が 2 か所あり側板との結合痕跡と考えられる。613 は完形と考える資料。不明品。線状痕がある。614 は上部欠損資料。不明品だが下方向にすぼまる形状を呈することから、杭の可能性はある。

SE2903 (図版 168) 釣瓶の曲物 (615) を図示した。完形資料。側板の結合では結合補助具樹皮が残存し、底板が結合した状態である。底板は内面を平滑にするための削り調整が明瞭に確認できる。側板上部には孔が 5 か所確認でき、釣り手の痕跡の可能性はある。また、斜位のケビキが確認できる。

SE2967 (図版 168) 履物の下駄差歯(歯) (616)、底板(蓋板)曲物底板(617)を図示した。616 は大部分欠損資料。柄が 2 か所確認できる。617 は完形資料。全体に 19 か所の穿孔がある。そのため、甌として使用した曲物底板の可能性はある。

SE2977 (図版 168) 箸 (618) を図示した。完形資料。

SE3188 (図版 168) 箸 (619) を図示した。完形資料。

SE3315 (図版 168・169) 側板の挽物 (620)、その他・不明の曲物 (621) を図示した。620 は 2/3 欠損資料。轆轤挽きの可能性のある容器の側板である。大きさからコップ状のものが想定できる。下端部は外傾しており、ここに底板がはまっていた可能性が高い。下端部付近には 5 か所の孔があり底板との結合痕跡と考える。全面が炭化している。内面下部、容器とすると内面底部付近に紙の繊維が確認できる。621 は側板が半分欠損資料。側板・底板の内面が炭化しており、劣化が著しい。側板は 2 重である。側板下端付近には 3 か所の孔があり、底板との結合痕跡と考える。

SE3320 (図版 169) 田下駄の円枠型田下駄踏み板 (622)・折敷の底板 (623) を図示した。622 は上・下部欠損資料であり、この欠損部がのびて他の部位との取り付け部になったと考える。そのため、構造上角枠型田下駄の可能性もある。鼻緒孔が 3 か所確認できる。623 は半分欠損資料。角に 3 か所の孔があり側板との結合痕跡と考える。

SE3329 (図版 169) 机の脚 (624) を図示した。ほぼ完形資料。中央部に孔があり、脚同士を固定した痕跡と考えられる。上部には凹み状の加工があり、机の天板との結合痕跡と考えられる。また、上部と下部の浅い弧状の加工は装飾的なものと考えられる。類似の形態が新潟市南区小坂居付遺跡から出土している〔鈴木ほか 2012〕。

SE3416 (図版 169・170) 井戸の井戸側その他・不明 (625・626) を図示した。625・626 は上部欠損資料。どちらも半裁した丸太を刳り貫いた形状である。両者が合わさり円柱状を呈する状態で出土した。どちらにも側面にホゾ穴がある。625 は片側にホゾ穴が 3 か所確認でき、反対側に抉り状の痕跡が確認できることから、本来は片側に対応するホゾ穴があったが再加工されていると考える。626 は左右対称のホゾ穴が 2 地点の計 4 か所確認できる。また、ホゾ穴と対応した位置の内面底部には不明確だが何かを設置した可能性がある痕跡が確認できる。そのため、625・626 は丸木舟を転用した可能性がある。同様に丸木舟を転用した井戸側と考える 296・297 よりも大形である。

SE3530 (図版 170) その他・不明の結合補助具木釘 (627) を図示した。完形資料。上部には装飾的な加工が施されている。そのため、調度と考えたが他の分類群の可能性も十分にある。

SE3571 (図版 170) 田下駄の板田下駄 (628) を図示した。ナンバの未製品の可能性がある。表側の凹みが U 字枠、裏側の 2 列の段が突起の加工途中と考える。しかし、加工が進んでいる状態ではないため、別の器種の可能性もある。

SE3579 (図版 170・171) 櫂 (629)、斎串 (630)、井戸の井戸側その他・不明 (631・632) を図示した。629 は上・下部欠損資料。その形態と大きさから櫂推測したが、別の器種の可能性もある。630 は上部欠損資料。631・632 は横板組井桁組の部材の一部として使用されていたものである。631 は完形と考える資料。比較的平坦であるが、中央に向かって窪み弧状を描く。また片側は角があるのに対して、反対側は角が丸く加工されている。そのため、隅丸長形状の槽が半分に割れている状態を井戸側に転用したと考える。632 は一部欠損資料。631 と形状が全く異なり、丸太を底部が長い凹状に刳り貫いている。そのため、形態が異なるが 631 と同様に槽の転用とも考えられるが、長辺側の縁が立ち上るとは考えづらいため、井戸側用に丸太を加工したと考える。

SE3600 (図版 171) その他・不明の結合補助具木釘 (633) を図示した。完形資料。627 と類似の形態であり、上部には装飾的な加工が施されている。

SE3616 (図版 171) 皿の挽物 (634)、底板 (蓋板) の曲物蓋板 (635)、箸 (636)、その他・不明の曲物 (637) を図示した。634 は 2/3 欠損資料。内外面に黒漆が塗られている。635 も 2/3 欠損資料。孔が 4 か所あり、把手との接合痕跡と考えられる。636 は完形資料。屈曲しているが、二次的な要因によるものと考えられる。637 は上部欠損資料。側板のみである。

#### 性格不明遺構 (SX)

SX2140 (図版 171・172) 杓子形・籠状品 (638)、桧扇 (639)、椀の挽物 (640・641)、盤の挽物 (642)、盤の刳物 (643)、底板 (蓋板) の曲物蓋板 (644・645)、底板 (蓋板) のその他・不明把手 (646・647・648)、付属品 (649)、籠杓子 (650)、鬼卸 (651)、箸 (652・653・654・655・656)、折敷の底板 (657)、羽子板 (658)、栓 (659)、板の孔有り (660・661)、棒の孔段無し (662)、杭 (663・664・665) を図示した。638 は上・下部欠損資料。下部が棒状で断面円形状に対して上部にいくほど幅が広がり断面扁平になる。639 は完形と考える資料。断面扁平で下部が細くなり、上端部には装飾的な突起状になっている。下端部に 1 か所孔があり、これが扇を繋げる紐通し孔と考える。640 は口縁部破片資料のため詳細不明。漆が塗られていないため、未成品の可能性もある。641 は 3/4 欠損資料。642 は一部欠損資料。641・642 は内外面に黒漆が塗られている。643 は 1/3 欠損資料。円形を呈し、縁がある。内外面に線状痕が確認できる。全面が炭化し、歪んでいる。644 は一部欠損資料。若干楕円形を呈する。方形の抉りが 1 か所ある。全面が炭化している。645 は半分欠損資料。中央に 1 か所孔がある。栓をする孔と考える。646 はほぼ完形資料。孔が 2 か所あり、うち 1 か所に木釘が残る。蓋との結合痕跡と考える。裏面に溝がある。647 もほぼ完形資料。孔が 2 か所あり、どちらも木釘が残る。蓋との結合痕

跡と考える。648は完形資料。孔が4か所あり、蓋との結合痕跡と考える。両面に赤漆が塗られている。649は完形と考える資料。中央部に切れ込みがある。類似の形態が、新潟市南区馬場屋敷遺跡から出土しており〔川上・遠藤ほか1984〕、その出土状況は同形状のものが切れ込みを合わせて十字状になるものであった。650は完形資料。杓子状を呈する。651はほぼ完形と考える資料。〔伊東・山田ほか2012〕分類では存在しないため、新たに設けた。鎌倉市のほうで類似の形態が出土している〔山口2014〕。652は上端欠損資料。653～656は完形資料。657は一部欠損資料。孔が5か所ある。上部が炭化している。658は完形資料。317と類似の形態。上端部が断面三角形状を呈する。659も完形資料。293と類似の形態。660は完形と考える資料。小さい薄片。抉りのような孔が1か所ある。661は半分欠損と考える資料。不明品。孔が1か所あり、木釘が残る。662は完形と考える資料。不明品。663は上部欠損資料。664は完形と考える資料。665は上部欠損と考える資料。663～665は下端部が尖る。

SX3521 (図版173) 籠杓子(667)、板の孔有り(666)を図示した。667は把手部欠損資料。650と類似の形態。炭化している。666は半分欠損資料。不明品である。孔が5か所あり、うち3か所に木釘が残る。角に切れ込みがある。

#### 溝(SD)

SD455 (図版173) 鍬の直柄鍬身平鍬(668・669)、折敷の底板(670)を図示した。668・669はともに半分欠損資料だが、柄と結合するための孔が確認できる。668は両端が丸く楕円形を呈するのに対して、669は角が立つ長方形を呈する。670は大部分欠損資料。内面の縁以外に赤漆が塗られている。縁には孔が3か所確認でき、一部木釘が残存しており、側板との結合痕跡と考えられる。

SD455 (図版173) 板の孔有り(671)を図示した。ほぼ完形資料。片面に墨痕が確認できるが、詳細は不明である。上部に孔が1か所確認できる。

SD744 (図版173) 籠杓子(672)を図示した。一部欠損資料。劣化が激しい。

SD2141 (図版173) 箸(673)を図示した。完形資料。

#### 小土坑(P)

P1913 (図版173) 柱の掘立柱建物(674)を図示した。上部欠損資料。底部は平坦である。

P3508 (図版173) 杭(675)を図示した。上部欠損資料。樹皮が残存している。

#### 遺物包含層

形代の鳥形胴部(676・677・678)を図示した。全て完形と考える資料。676・677は扁平であり、切り込みによる頭部と三角形状の尾部が表現されている。676はさらに方形の切り込みがあり、翼部との結合痕跡の可能性がある。一方678は立体的であり、頭部の表現などがある。しかし、類例が不明のため別の器種の可能性もある。

## C 自然遺物

### 1) 8 区

SE1068 (図版153) 枝(324)を図示した。イヌガヤの枝を伐採したものである。伐採した痕跡以外に、人為的な痕跡は存在しない。井戸の最下層から出土しており、廃棄または祭祀目的と考える。

SK1570 (図版153) ひょうたん(325)を図示した。ひょうたんの実である。

### 2) 9 区

SX2140 (図版173) 枝(680・681)を図示した。ブナ科の枝である。両端を切りそろえているが、表面は樹皮が残り加工は行われていない。最下層から多量にまとまって出土した。

## 第7節 骨角製品

8・9区出土の骨角製品の出土総数は2点となる。全て図示した。内訳は筭・栗形である。

### A 8 区

SE1068 (図版 153) 筭 (326) を図示した。上端は方形で下部がゆるく尖る。断面は片側が平坦で、もう一方が弧状を描く。上端部に凹みがある。片面は上端から下部にかけてゆるく窪み、もう一方は上部のみより浅く窪む。

### B 9 区

SE3617 (図版 173) 栗形 (679) を図示した。短辺が弧状を描く長方形の板の上に円環が付く形状。円環状の部分はねじりのように見える細い溝による細かい加工がある。

## 第8節 アスファルト塊

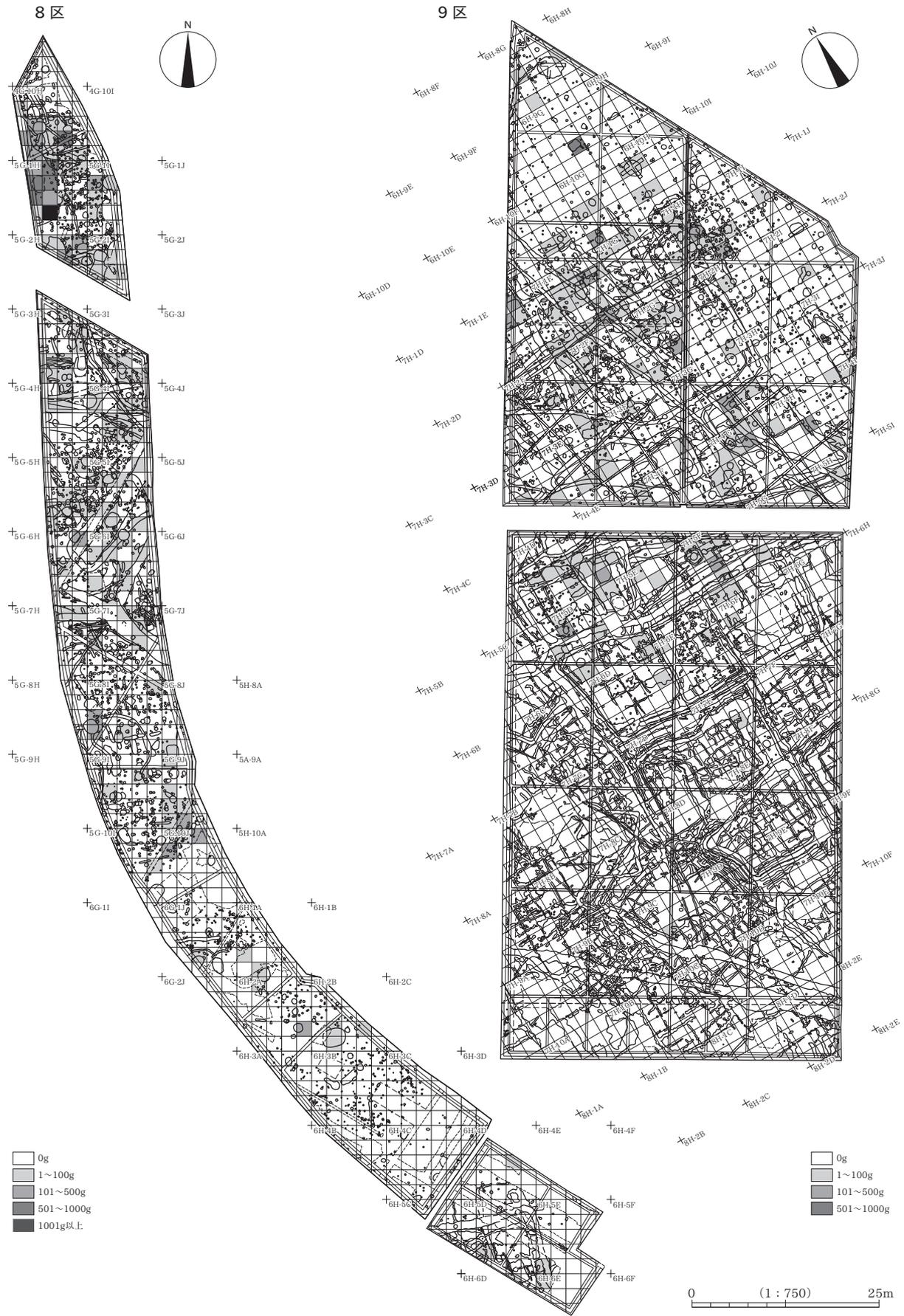
大沢谷内遺跡では、1～4区 (第7・9・11・12・14次調査：調査面積 7684.4m<sup>2</sup>) において、下層 (縄文時代晩期) からアスファルト塊・アスファルト付着遺物が多数出土した。単体のアスファルト塊は87点を数え、総重量は3,000gほどと推定された。時期は伴出土器から、縄文時代晩期中葉前半と考えられた。また、出土量は少ないものの、飛鳥時代から奈良時代を中心とする上層においてもアスファルト塊が出土しており、該期においても生業の一つとされていた可能性が考えられている [伊比 2012]。

また、市道鎌倉横川1号線関連の調査 (第18次調査：調査面積 823m<sup>2</sup>) では、上層遺跡 (古代・中世) から3,761gのアスファルト塊が出土した。伴出遺物から、9世紀前半～10世紀初頭及び13世紀代を中心とする時期に位置づけられた。調査区の広い範囲で微細なアスファルト塊が出土したことから、近辺に原油が湧出し、自然生成したアスファルトが各所に放置または廃棄された可能性が推測された。また、SE418は、湧出した原油の採取を行う「油井」として機能した可能性も指摘されている [前山 2012]。

本書で報告する8・9区 (調査面積 8,293m<sup>2</sup>、8区：2,430m<sup>2</sup>・9区：5,863m<sup>2</sup>) でも847点、18,006.5g (8区：415点・11,571.5g、9区：432点・6,435g) と大量のアスファルト塊が出土した (第19図・第7表)。また、アスファルトが付着した土器や木製品も定量出土している。時期は伴出土器などから奈良・平安時代 (8世紀後半から10世紀) と鎌倉時代 (12世紀～14世紀) と考えられる。小グリッド別の重量分布図 (第19図) をみると、8区北西側で多く、9区北側 (第19次調査) でも定量出土しているのに対し、8区南東側や9区南側 (第20次調査) で少ない傾向にある。この分布傾向は掘立柱建物や井戸の分布と一致しており、居住空間に多い傾向がうかがえる。遺構を見ると、8区ではSX1306 (101点・4,938g) で特に多く、次いでSX1306を切るSK1570 (8点・1,060.5g) も多い。9区では、SX1539 (62点・862.5g) で多い。

8・9区出土アスファルト塊について、大沢谷内遺跡1～4区下層 (縄文時代晩期) 出土のアスファルト塊の報告 [伊比 2012] を参考にして分類を行った。分類については、形状が塊状 (第20図4) と板状 (第20図1～3) と不明の3種類、性状は1類：全体的に均質で、非常にきめが細かく緻密なもの、2類：均質性を欠き、部分的に黒色の粘質部や空洞部が認められる場合もあるもの、の2種類である。また性状について、a：不純物を含まないもの、b：未分解有機物などの不純物を含むもので細分した (第7表)。なお、不純物を含むとしたものは断面観察によって確認できたものに限っており、遺存状況や割れ面の有無などによって異なる分類になる可能性もあるが、ある程度の傾向は把握できると考える。

ルーペを用いた肉眼観察の結果、形状については、塊状329点、板状406点、不明112点である。性状別



第19図 8・9区出土アスファルトの小グリッド別重量分布図

第7表 大沢谷内遺跡8・9区出土アスファルト一覧

8区		9区									
調査回数	調査年度	遺構名		重量 (g)	点数	形状分類			性状分類		
		種別	番号			塊状	板状	不明	2a	2b	
21次	2013年度	SE	107	7.0	1		1			1	
21次	2013年度	SE	112	60.0	2		2		2		
21次	2013年度	SE	119	50.0	2	2				2	
21次	2013年度	SE	120	88.5	5	2	3		3	2	
21次	2013年度	SE	131	7.5	1		1			1	
21次	2013年度	SE	134	1.5	1			1		1	
21次	2013年度	SE	768	10.0	2		1	1		2	
21次	2013年度	SE	783	166.5	8	1	4	3	1	7	
21次	2013年度	SE	845	95.0	4	1	1	2		4	
21次	2013年度	SE	865	24.0	1		1			1	
21次	2013年度	SE	929	164.5	3	3			1	2	
21次	2013年度	SE	1045	15.5	1		1			1	
21次	2013年度	SE	1068	19.5	4	1		3		4	
21次	2013年度	SE	1070	503.0	40	10	23	7	2	38	
21次	2013年度	SE	1080	20.0	1		1			1	
21次	2013年度	SE	1140	27.0	1		1		1		
21次	2013年度	SE	1145	4.5	1	1				1	
21次	2013年度	SE	1179	28.0	1	1				1	
21次	2013年度	SE	1216	11.5	1		1			1	
21次	2013年度	SE	1320	94.0	4	4				4	
21次	2013年度	SE	1400	26.0	1	1				1	
21次	2013年度	SE	1421	19.0	1	1				1	
21次	2013年度	SE	1431	33.0	1	1				1	
21次	2013年度	SE	1590	21.0	2	2				2	
21次	2013年度	SE	1600	6.5	1			1		1	
21次	2013年度	SE	1643	81.5	4	1		3		4	
21次	2013年度	SE	1871	372.0	18	6	12		9	9	
21次	2013年度	SE	2313	43.0	4		3	1	3	1	
21次	2013年度	SE	2372	154.0	4	1	3		2	2	
21次	2013年度	SE	2375	11.5	1		1			1	
21次	2013年度	SE	2457	2.5	2			2		2	
21次	2013年度	SE	2681	14.5	1		1		1		
21次	2013年度	SK	147	12.5	1		1			1	
21次	2013年度	SK	194	9.0	2		1	1		2	
21次	2013年度	SK	242	31.0	1		1			1	
21次	2013年度	SK	858	3.0	1	1			1		
21次	2013年度	SK	1073	244.0	6	5	1			6	
21次	2013年度	SK	1177	9.0	2			2		2	
21次	2013年度	SK	1180	7.5	1			1		1	
21次	2013年度	SK	1353	5.0	1			1		1	
21次	2013年度	SK	1440	54.0	1		1		1		
21次	2013年度	SK	1516	3.5	1	1				1	
21次	2013年度	SK	1570	1060.5	8	7	1		6	2	
21次	2013年度	SK	2582	6.0	1			1		1	
21次	2013年度	SX	1306	4938.0	101	51	29	21	38	63	
21次	2013年度	SX	1855	27.5	1	1				1	
21次	2013年度	SX	225	1.0	1			1		1	
21次	2013年度	SX	1101	10.0	1		1			1	
21次	2013年度	SX	1368	211.0	20	3	17		8	12	
21次	2013年度	SX	1402	3.5	1			1		1	
21次	2013年度	SX	1599	9.0	1		1			1	
21次	2013年度	SX	2457	10.0	2		2			2	
21次	2013年度	SD	121	62.5	8	2	6		6	2	
21次	2013年度	SD	151	13.0	1	1				1	
21次	2013年度	SD	164	67.5	7	4	3		3	4	
21次	2013年度	SD	366	21.5	1	1				1	
21次	2013年度	SD	1013	4.0	1			1		1	
21次	2013年度	SD	1043	20.5	3	3			3		
21次	2013年度	SD	1160	53.5	8	3	5		7	1	
21次	2013年度	SD	1178	170.0	9	5	4		5	4	
21次	2013年度	SD	1305	40.5	3	1	2		2	1	
21次	2013年度	SD	1307	359.0	3	1	2		3		
21次	2013年度	SD	1420	5.5	2	2			2		
21次	2013年度	SD	1422	8.0	1		1			1	
21次	2013年度	SD	1478	53.5	2	1	1		2		
21次	2013年度	SD	1535	18.5	3	1		2	1	2	
21次	2013年度	P	181	3.5	1		1			1	
21次	2013年度	P	241	29.5	2		2		2		
21次	2013年度	P	257	9.0	1	1			1		
21次	2013年度	P	307	15.5	1	1				1	
21次	2013年度	P	935	19.0	2	1		1	2		
21次	2013年度	P	940	58.5	1	1			1		
21次	2013年度	P	998	17.5	3	1		2	1	2	
21次	2013年度	P	1090	149.5	1	1			1		
21次	2013年度	P	1201	1.5	1			1		1	
21次	2013年度	P	1433	27.5	2	2			1	1	
21次	2013年度	P	1453	31.0	2	1	1			2	
21次	2013年度	P	1608	6.5	1	1				1	
21次	2013年度	P	2030	19.5	1	1				1	
21次	2013年度	P	2036	45.5	2	1		1	1	1	
21次	2013年度	P	2140	243.0	1	1				1	
21次	2013年度	P	2149	110.0	1	1				1	
21次	2013年度	P	2253	77.5	2	1		1		2	
21次	2013年度	P	2996	13.5	1	1				1	
21次	2013年度	遺構外		959.5	59	27	16	16	9	50	
合計				11571.5	415	176	161	78	134	281	

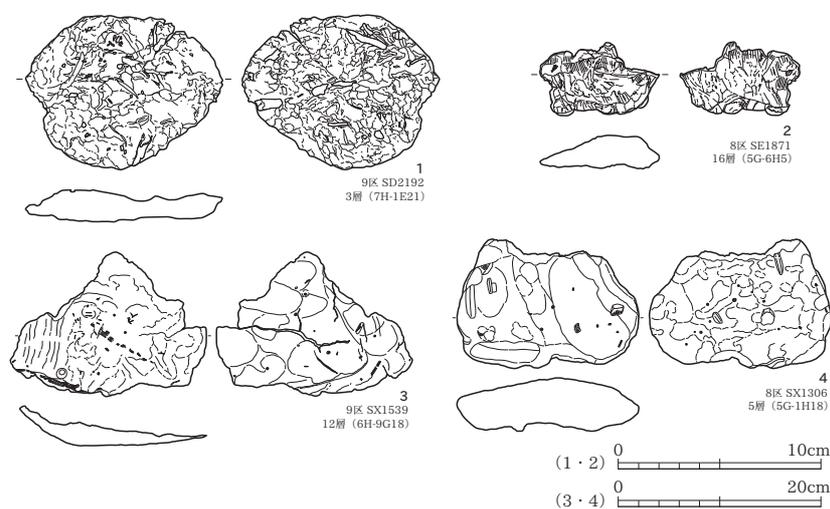
9区		8区									
調査回数	調査年度	遺構名		重量 (g)	点数	形状分類			性状分類		
		種別	番号			塊状	板状	不明	2a	2b	
19次	2011年度	SE	32	34.0	2		2			2	
19次	2011年度	SE	304	110.0	11	5	4		2	11	
20次	2012年度	SE	1433	6.5	1		1			1	
20次	2012年度	SE	1514	16.0	3		3			1 2	
20次	2012年度	SE	1556	82.0	1		1			1	
20次	2012年度	SE	1590	104.0	4		4			4	
20次	2012年度	SE	1601	78.0	8	7	1			8	
20次	2012年度	SE	1639	56.5	8	1	7			5 3	
20次	2012年度	SE	1639	189.0	9	8	1			9	
20次	2012年度	SE	1652	1.0	2		2			2	
20次	2012年度	SE	1676	41.0	5	3	1	1	1	4	
20次	2012年度	SE	1826	3.5	1	1				1	
20次	2012年度	SE	1891	3.5	1	1				1	
20次	2012年度	SE	2153	405.5	10	5	5			3 7	
20次	2012年度	SE	2226	15.5	1	1				1	
20次	2012年度	SE	2251	17.5	1	1				1	
20次	2012年度	SE	2277	16.0	1		1			1	
20次	2012年度	SE	2398	2.0	1	1				1	
20次	2012年度	SE	2836	64.0	3	1	2			3	
20次	2012年度	SE	2853	82.0	2	2				2	
20次	2012年度	SE	2967	356.0	21	4	15	2	8	13	
20次	2012年度	SE	3025	10.0	2	1	1			2	
20次	2012年度	SE	3315	3.5	1		1			1	
20次	2012年度	SE	3329	36.5	5	1	4			2 3	
20次	2012年度	SE	3616	26.5	2	2				1 1	
20次	2012年度	SE	3705	9.0	1	1				1	
20次	2011年度	SK	407	13.5	3	2	1			3	
20次	2012年度	SK	1478	13.5	3		1	2	3		
20次	2012年度	SK	1641	1.0	1		1			1	
20次	2012年度	SK	1937	18.0	1	1				1	
20次	2012年度	SK	2188	9.0	9		9			9	
20次	2012年度	SK	2254	3.0	1		1			1	
20次	2012年度	SK	2366	22.0	1		1			1	
20次	2012年度	SK	2683	115.0	2	2				2	
20次	2012年度	SK	3203	66.0	1	1				1	
20次	2011年度	SX	146	3.0	1	1				1	
20次	2011年度	SX	213	94.0	5	4	1			5	
20次	2011年度	SX	248	29.5	4		4			1 3	
20次	2011年度	SX	248	5.5	1	1				1	
20次	2011年度	SX	305	265.0	20	4	16			2 18	
20次	2011年度	SX	345	6.5	1		1			1	
20次	2011年度	SX	418	20.5	1		1			1	
20次	2012年度	SX	1539	862.5	62		54	8	36	26	
20次	2012年度	SX	1756	33.0	4	2		2	2	2	
20次	2012年度	SX	2140	393.0	8	1	7			1 7	
20次	2012年度	SX	3200	199.5	1		1			1	
19次	2011年度	SD	10	27.5	3	3				2 1	
19次	2011年度	SD	239	9.5	2		2			2	
19次	2011年度	SD	543	12.0	8		8			8	
19次	2011年度	SD	1084	3.0	1	1				1	
20次	2012年度	SD	1600	3.5	1		1			1	
20次	2012年度	SD	1653	73.0	4		4			4	
20次	2012年度	SD	1655	8.0	1	1				1	
20次	2012年度	SD	1661	186.0	14	5	8	1	4	10	
20次	2012年度	SD	2092	51.5	2	1	1			2	
20次	2012年度	SD	2192	231.0	16	3	11	2	11	5	
20次	2012年度	SD	2205	11.5	1		1			1	
20次	2012年度	SD	3308	91.0	5	3	2			2 3	
20次	2012年度	SD	3309	170.0	3	3				3	
19次	2011年度	P	38	3.0	1	1				1	
20次	2012年度	P	1416	2.5	1	1				1	
20次	2012年度	P	1480	16.0	1	1				1	
20次	2012年度	P	1557	2.0	1		1			1	
20次	2012年度	P	1587	4.0	1	1				1	
20次	2012年度	P	1631	26.5	1	1				1	
20次	2012年度	P	1751	24.0	1						

では1類が確認されず、2a類が286点、2b類が561点である。縄文時代晩期の1～4区下層では1類が定量確認されているが〔伊比2012〕、8・9区では確認できない。また、不純物を含む2b類が多い傾向にある。

前述のとおり、8・9区の古代・中世のアスファルト塊の分布には多寡があり、また特定の遺構に集中して出土する状況も認められる。この点において人為的な関与のあった可能性が示唆される。アスファルトの精製や加工についての研究〔岡村2014a・b〕を参考にすれば、8・9区の2a類や2b類のアスファルト塊の中には、保管もしくは運搬用に塊状にされたものや、精製滓が廃棄され固まったものが含まれる可能性がある。

一方、多寡を別にすれば8・9区のアスファルト塊の分布は広域に及び、出土遺構の数も多い。このことは、8・9区出土アスファルト塊の中に自然生成されたものが一定量含まれる可能性を示唆する。

大沢谷内遺跡では、これまでに古代・中世において精製過程を示すアスファルト塊の出土は無いが、多量のアスファルト塊の出土状況からは、石油資源の利用が活発に行われていたものと推測される。大沢谷内遺跡も含め、古代・中世の石油の利用実態については不明な点が多い。近年では実験を通じた多角的な視点での研究・検討も行われており〔岡村2014a・b、前山2013など〕、今後はそれらの成果も取り入れながら、大沢谷内遺跡における石油資源の利用実態について実証的に検討していく必要がある。



第20図 アスファルト塊実測図



第21図 アスファルト塊写真  
(番号は第20図に対応)

## 第VI章 自然科学分析

### 第1節 植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、機動細胞をおもな対象としてこの微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡 (稲作跡) の検証や探査が可能である [藤原・杉山 1984, 杉山 2000]。一方、細粒の植物珪酸体を同定対象に含め、畑 (畠) 作物の同定、過去の植生復原、さらには土器胎土に含まれる植物珪酸体同定などを行う分析を植物珪酸体分析と呼んでいる。

#### A 8 区

##### 1) 試料

分析試料は、基本層序北 (図版 42)、SX1306 (図版 42)、SD470 (図版 10)、SD151 (図版 10)、SD121 (図版 13)、基本層序南 (図版 6) の 6 地点から採取された 7 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

##### 2) 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 [藤原 1976] を用いて次の手順で行った。① 試料を  $105^\circ\text{C}$  で 24 時間乾燥 (絶乾)。② 試料約 1g に対し直径約  $40\ \mu\text{m}$  のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)。③ 電気炉灰化法 ( $550^\circ\text{C}\cdot 6$  時間) による脱有機物処理。④ 超音波水中照射 ( $300\text{W}\cdot 42\text{KHz}\cdot 10$  分間) による分散。⑤ 沈底法による  $20\ \mu\text{m}$  以下の微粒子除去。⑥ 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。⑦ 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で厚層 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる [杉山 2000]。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

##### 3) 分析結果

###### (1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 8 表および第 22 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真 (第 23 図) を示す。

[イネ科] イネ、イネ (穎の表皮細胞由来)、ムギ類 (穎の表皮細胞)、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族 A (チガヤ属など)、ウシクサ族 B (大型)

[イネ科-タケ亜科] チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他] 表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

[樹木] その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

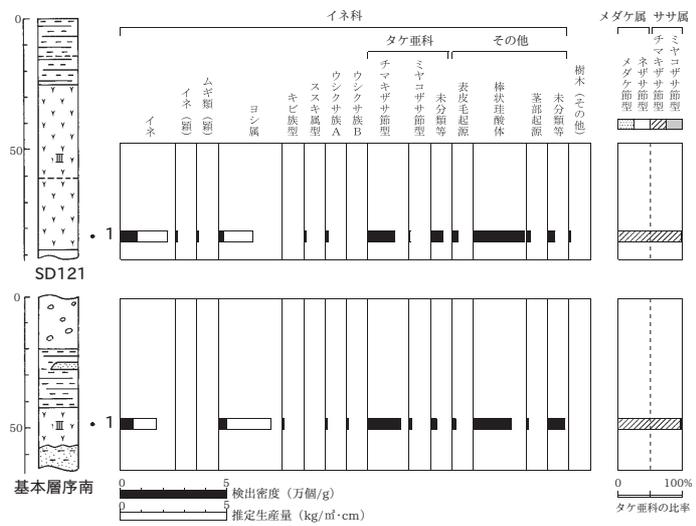
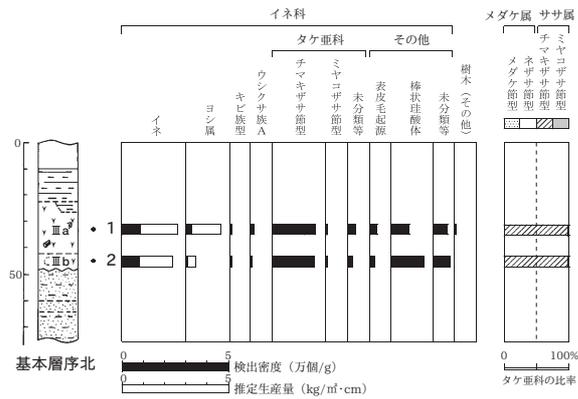
① 基本層序北 下位のⅢb層(試料2)では、イネ、チマキザサ節型が多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族A、ミヤコザサ節型なども認められた。Ⅲa層(試料1)では、ヨシ属が増加し、樹木(その他)が出現している。イネの密度は、Ⅲb層(試料2)では8,300個/g、Ⅲa層(試料1)では9,100個/gと高い値で、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを上回っている。おもな分類群の推定生産量によると、各層ともイネおよびチマキザサ節型が優勢であり、Ⅲa層ではヨシ属も多くなっている。

② SX1306 試料1ではヨシ属、チマキザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

③ SD470 試料1ではチマキザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

④ SD151 試料1ではチマキザサ節型、樹木(その他)などが検出されたが、いずれも少量である。

⑤ SD121 試料1では、イネ、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヨシ属、ススキ属型、樹木(その他)

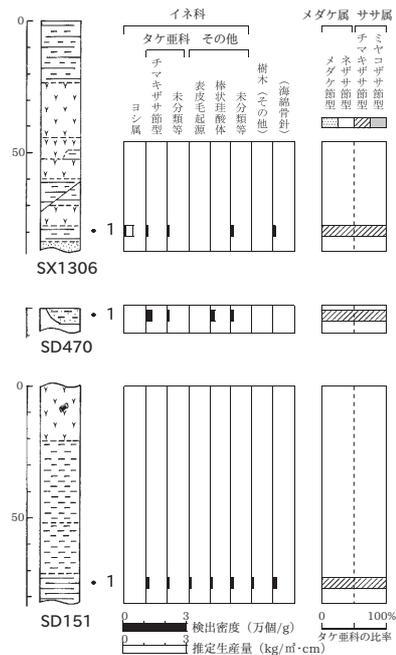


第8表 大沢谷内遺跡8区における植物珪酸体分析結果

分類群	学名	検出密度(単位: ×100個/g)					
		地点・試料		基本層序北		基本層序南	
		SX1306	SD470	SD151	SD121	SD121	
イネ科	Gramineae						
イネ	<i>Oryza sativa</i>	91	83		77	59	
イネ籾殻(穎の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)				6	6	
ムギ類(穎の表皮細胞)	<i>Triticum-Hordeum</i> (husk Phytolith)				6	6	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	26	7	7	26	40	
キビ族型	Panicaceae type	6	7			7	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type				6		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	13	7		13	7	
ウシクサ族B	Andropogoneae B type					7	
タケ亜科	Bambusoideae						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	207	201	7	27	14	134
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	6	7				6
未分類等	Others	32	21	7	7	7	58
その他のイネ科	Others						
表皮毛起源	Husk hair origin	32	21		7	26	13
棒状珪酸体	Rodshaped	84	152		20	7	237
茎部起源	Stem origin						13
未分類等	Others	65	76	13	13	14	32
樹木起源	Arboreal						
その他	Others				6		6
(海綿骨針)	Sponge spicules			7			14
植物珪酸体総数	Total	569	582	33	67	55	646

おもな分類群の推定生産量(単位: kg/m²·cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出						
イネ	<i>Oryza sativa</i>	2.66	2.44			2.26
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.63	0.44	0.41		1.61
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type					0.08
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	1.55	1.51	0.05	0.20	1.01
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.02	0.02			0.02

タケ亜科の比率(%)						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	99	99	100	100	98
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	1	1			2
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0



第22図 大沢谷内遺跡8区における植物珪酸体分析結果

なども認められた。イネの密度は7,700個/gと高い値である。ムギ類（穎の表皮細胞）の密度は600個/gと低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。おもな分類群の推定生産量によると、イネが優勢で、ヨシ属、チマキザサ節型も比較的多くなっている。

⑥基本層序南 III層（試料1）では、イネ、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族Aなども認められた。イネの密度は5,900個/gと高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネ、ヨシ属、チマキザサ節型が優勢となっている。

#### 4) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

①基本層序北 III b層とIII a層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節・チシマザサ節）をはじめ、キビ族、ウシクサ族などが生育していたと考えられる。

②SX1306 試料1では、植物珪酸体があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であった可能性が考えられる。

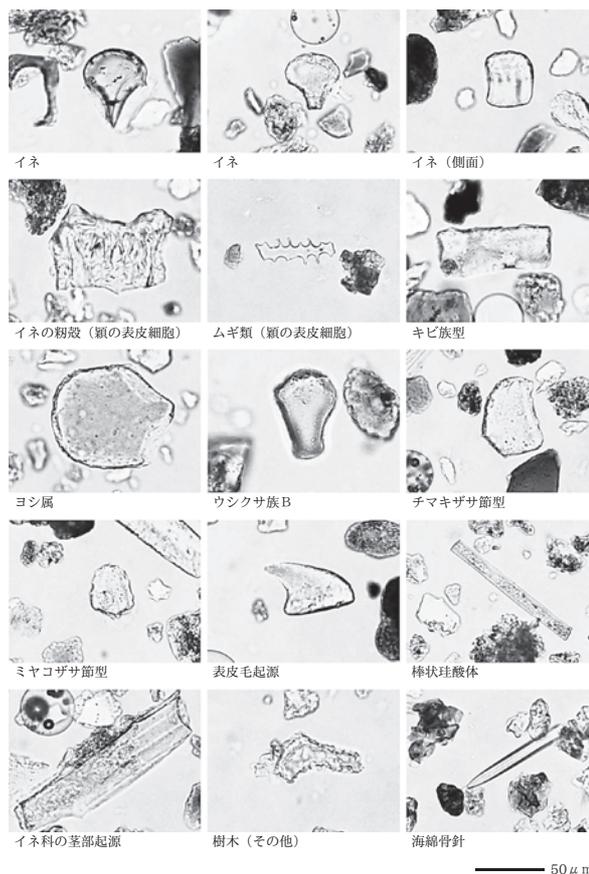
植物珪酸体が検出されない原因としては、①植物珪酸体を形成する植物群（イネ科、カヤツリグサ科、ブナ科、マツ科など）の生育に適さない環境であったこと、②土層の堆積速度が速かったこと、③水流の影響で粒径による淘汰・選別を受けたこと、④風化作用などによって植物珪酸体が分解・消失したことなどが考えられるが、ここでの原因は不明である。

③SD470 試料1では、植物珪酸体があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

④SD151 試料1では、植物珪酸体があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

⑤SD121 試料1の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して用水路の周辺で水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節・チシマザサ節）をはじめ、ススキ属、ウシクサ族などのイネ科草本類が生育していたと考えられ、部分的にムギ類の栽培も行われていたと推定される。

⑥基本層序南 III層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節・チシマザサ節）をはじめ、キビ族、ウシクサ族などのイネ科草本類が生育していたと考えられる。



第23図 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

## B 9 区

### 1) 試料

分析試料は、基本土層 C（図版 54）、基本土層 I（図版 55）、基本土層 L（図版 55）、基本土層 M（図版 55）から採取された計 14 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

2) 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて次の手順で行った。

- ① 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)。
- ② 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)。
- ③ 電気炉灰化法 (550℃・6 時間) による脱有機物処理。
- ④ 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散。
- ⑤ 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- ⑥ 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。
- ⑦ 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10<sup>-5</sup>g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

3) 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類 (穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科 (チマキザサ節型、ミヤコザサ節型) の主要な 7 分類群に限定した。分析結果を第 9 表および第 24 図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第 25 図に示す。

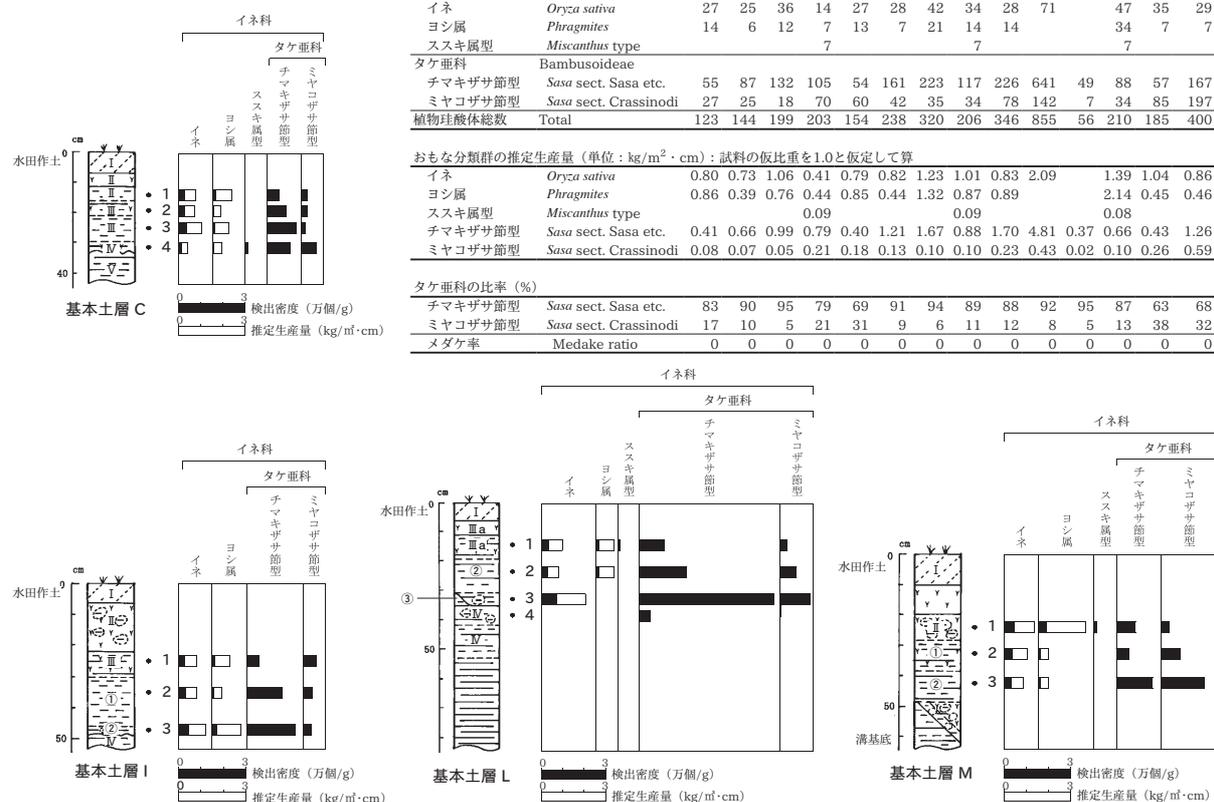
4) 考察

(1) 水田跡 (稲作跡) の検討

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上

第 9 表 大沢谷内遺跡 9 区におけるプラント・オパール分析結果

分類群	学名	検出密度 (単位: ×100個/g)															
		基本土層 C				基本土層 I				基本土層 L				基本土層 M			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
イネ科	Gramineae																
イネ	<i>Oryza sativa</i>	27	25	36	14	27	28	42	34	28	71			47	35	29	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	14	6	12	7	13	7	21	14	14				34	7	7	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type				7				7								7
タケ亜科	Bambusoideae																
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	55	87	132	105	54	161	223	117	226	641	49	88	57	167		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	27	25	18	70	60	42	35	34	78	142	7	34	85	197		
植物珪酸体総数	Total	123	144	199	203	154	238	320	206	346	855	56	210	185	400		
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm): 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算																	
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.80	0.73	1.06	0.41	0.79	0.82	1.23	1.01	0.83	2.09			1.39	1.04	0.86	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.86	0.39	0.76	0.44	0.85	0.44	1.32	0.87	0.89				2.14	0.45	0.46	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type				0.09				0.09					0.08			
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.41	0.66	0.99	0.79	0.40	1.21	1.67	0.88	1.70	4.81	0.37	0.66	0.43	1.26		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.08	0.07	0.05	0.21	0.18	0.13	0.10	0.10	0.23	0.43	0.02	0.10	0.26	0.59		
タケ亜科の比率 (%)																	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	83	90	95	79	69	91	94	89	88	92	95	87	63	68		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	17	10	5	21	31	9	6	11	12	8	5	13	38	32		
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		



第 24 図 大沢谷内遺跡 9 区におけるプラント・オパール分析結果

と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山2000〕。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

① 基本土層C II層（試料1）からIV層（試料4）までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、III層（試料3）では密度が3,600個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

II層（試料1）とIII層（試料2）では、密度が2,700個/gおよび2,500個/gと比較的低い値であり、IV層（試料4）では1,400個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

② 基本土層I III層（試料1）から②層（試料3）までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、②層（試料3）

では密度が4,200個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。III層（試料1）と①層（試料2）では、密度が2,700個/gおよび2,800個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

③ 基本土層L III a層（試料1）からIV層（試料4）までの層準について分析を行った。その結果、III a層（試料1）から③層（試料3）までの各層からイネが検出された。このうち、③層（試料3）では密度が7,100個/gと高い値であり、III a層（試料1）でも3,400個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

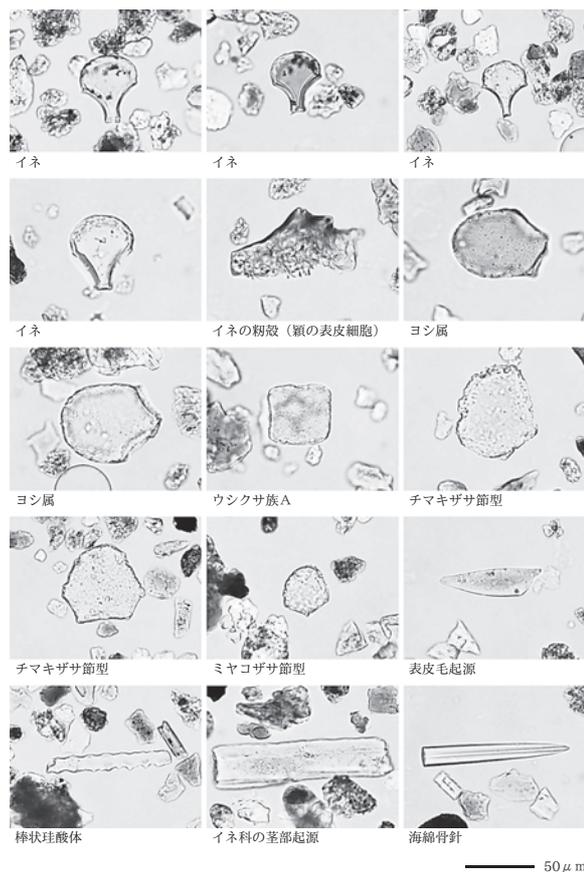
②層（試料2）では密度が2,800個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

④ 基本土層M II層（試料1）から②層（試料3）までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、II層（試料1）と①層（試料2）では密度が4,700個/gおよび3,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

②層（試料3）では、密度が2,900個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

## (2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類やヒエ属型（ヒエが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。



第25図 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

## C 9 区 - 2

### 1) 試料

分析試料は、SX1755 覆土 (図版 132)、SX1756 覆土 (図版 132)、SX3762 覆土から採取された計 9 点で、前三者の 6 点についてプラント・オパール分析を実施した。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

### 2) 分析法

植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析の処理・検出・同定は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

① 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)。② 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)。③ 電気炉灰化法 (550℃・6 時間) による脱有機物処理。④ 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散。⑤ 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。⑥ 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。⑦ 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

### 3) 分析結果

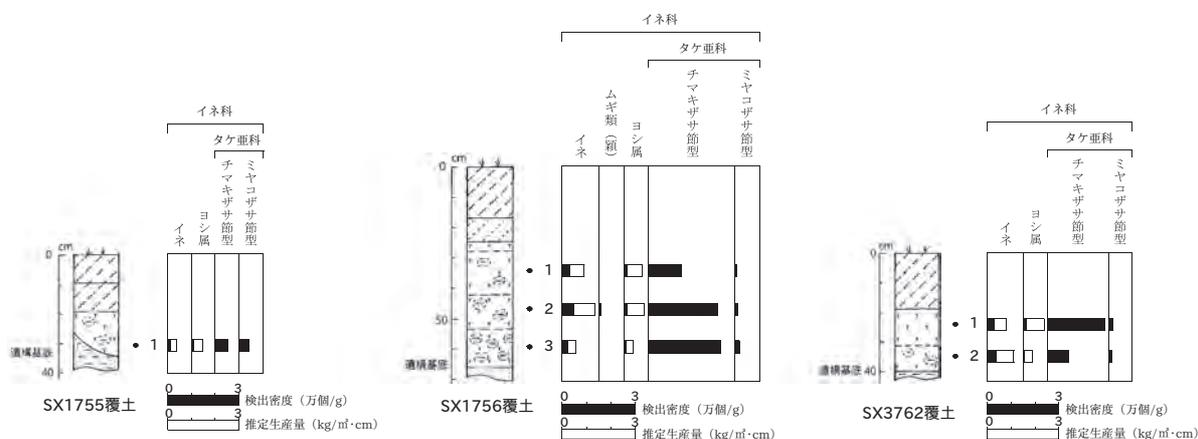
#### (1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。なお、SX1755 覆土、SX1756 覆土、SX3762 覆土については水田跡 (稲作跡) の検討が主目的のプラント・オパール分析であることから、同定はイネ、ムギ類 (穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科 (チマキザサ節型、ミヤコザサ節型) の主要な 7 分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 10 表および第 26 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真 (第 27 図) を示す。

〔イネ科〕 イネ、ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族 A (チガヤ属など)

〔イネ科-タケ亜科〕 チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

〔イネ科-その他〕 表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、未分類等



第 26 図 大沢谷内遺跡 9 区におけるプラント・オパール

4) 考 察

(1) 水田跡（稲作跡）の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

① SX1755 遺構覆土（試料 1）について分析を行った。その結果、イネが検出されたが、密度は 1,300 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔や溝など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

② SX1756 遺構覆土（試料 1～3）について分析を実施した。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、試料 1 と試料 2 では密度が 3,100 個 /g および 4,600 個 /g と比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。試料 3 では密度が 1,900 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述の

③ SX3762 遺構覆土（試料 1 および試料 2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、試料 2 では密度が 3,800 個 /g と比較的高い値である。したがって、同層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。試料 1 では密度が 2,700 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体（プラント・オパール）分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類やヒエ属型（ヒエが含まれる）、ジユズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。このうち、本遺跡の試料からはムギ類が検出された。

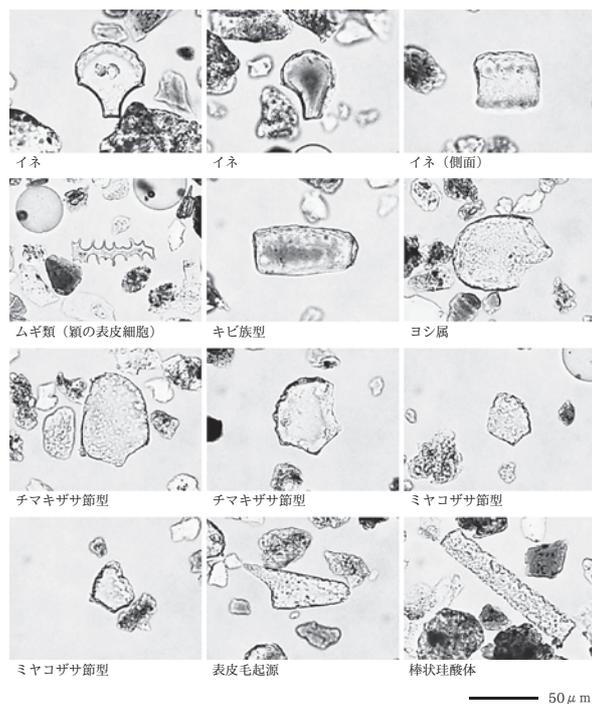
ムギ類（穎の表皮細胞）は、SX1756 の覆土（試料 2）から検出された。密度は 700 個 /g と低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ほとんどの試料でチマキザサ節型が多く検出され、ヨシ属やミヤコザサ節型なども認められた。おもな分類群の推定生産

第 10 表 大沢谷内遺跡 9 区におけるプラント・オパール分析結果

分類群	学名	検出密度 (単位: ×100個/g)					
		SX1755		SX1756		SX3762	
		1	2	3	1	2	
イネ科	Gramineae						
イネ	<i>Oryza sativa</i>	13	31	46	19	27	38
ムギ類 (穎の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i> (husk Phytolith)			7			
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	7	12	13	6	14	6
タケ亜科	Bambusoideae						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	53	136	289	302	245	88
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	40	6	13	19	20	13
植物珪酸体総数	Total	112	186	368	347	306	145
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm): 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出							
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.39	0.91	1.35	0.57	0.80	1.11
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.42	0.78	0.83	0.41	0.86	0.40
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.40	1.02	2.17	2.26	1.84	0.66
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.12	0.02	0.04	0.06	0.06	0.04
タケ亜科の比率 (%)							
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	77	98	98	98	97	95
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	23	2	2	2	3	5
メダケ率	Medake ratio	0	0	0	0	0	0



第 27 図 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

量によると、おおむねチマキザサ節型が優勢となっている。

以上のことから、各遺構の覆土の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節・チシマザサ節）などの笹類が分布していたと考えられる。

ササ属のうち、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ないところに分布しており冬季の乾燥に適応しているが、チシマザサ節やチマキザサ節は日本海側の多雪地帯に分布しており冬季の乾燥に弱い〔室井1960、鈴木1978〕。ここでは、後者が優勢であることから、当時は比較的積雪（降水量）の多い気候環境であったと推定される。

#### 5) ま と め

プラント・オパール分析および植物珪酸体分析の結果、各遺構の覆土ではイネが比較的多く検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。また、SX1756の覆土では少量ながらムギ類（穎の表皮細胞）が検出され、調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が認められた。各遺構の覆土の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（おもにチマキザサ節・チシマザサ節）などの笹類が分布していたと推定される。

## 第2節 花粉分析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### A 8 区

#### 1) 試 料

分析試料は、基本層序北、SX1306、SD470、SD151、SD121、基本層序南の6地点から採取された7点で、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

#### 2) 方 法

花粉の分離抽出は中村〔1967〕の方法をもとに、次の手順で行った。

① 試料から1cm<sup>3</sup>を秤量。② 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎。③ 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。④ 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。⑤ 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。⑥ 再び氷酢酸を加えて水洗処理。⑦ 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。⑧ 検鏡・計数。検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村〔1974、1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

#### 3) 結 果

##### (1) 分 類 群

検出された分類群は、樹木花粉24、樹木花粉と草本花粉を含むもの5、草本花粉23、シダ植物胞子2形態の計54である。また、寄生虫卵6分類群が認められた。分析結果を第11表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した（第28図）。主要な分類群について顕微鏡写真（第29図）を示す。次に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕 マキ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、サンショウ属、モチノキ属、ニシキギ科、トチノキ、ノブドウ、グミ属、カキ属、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕 クワ科-イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属-ガマズミ属

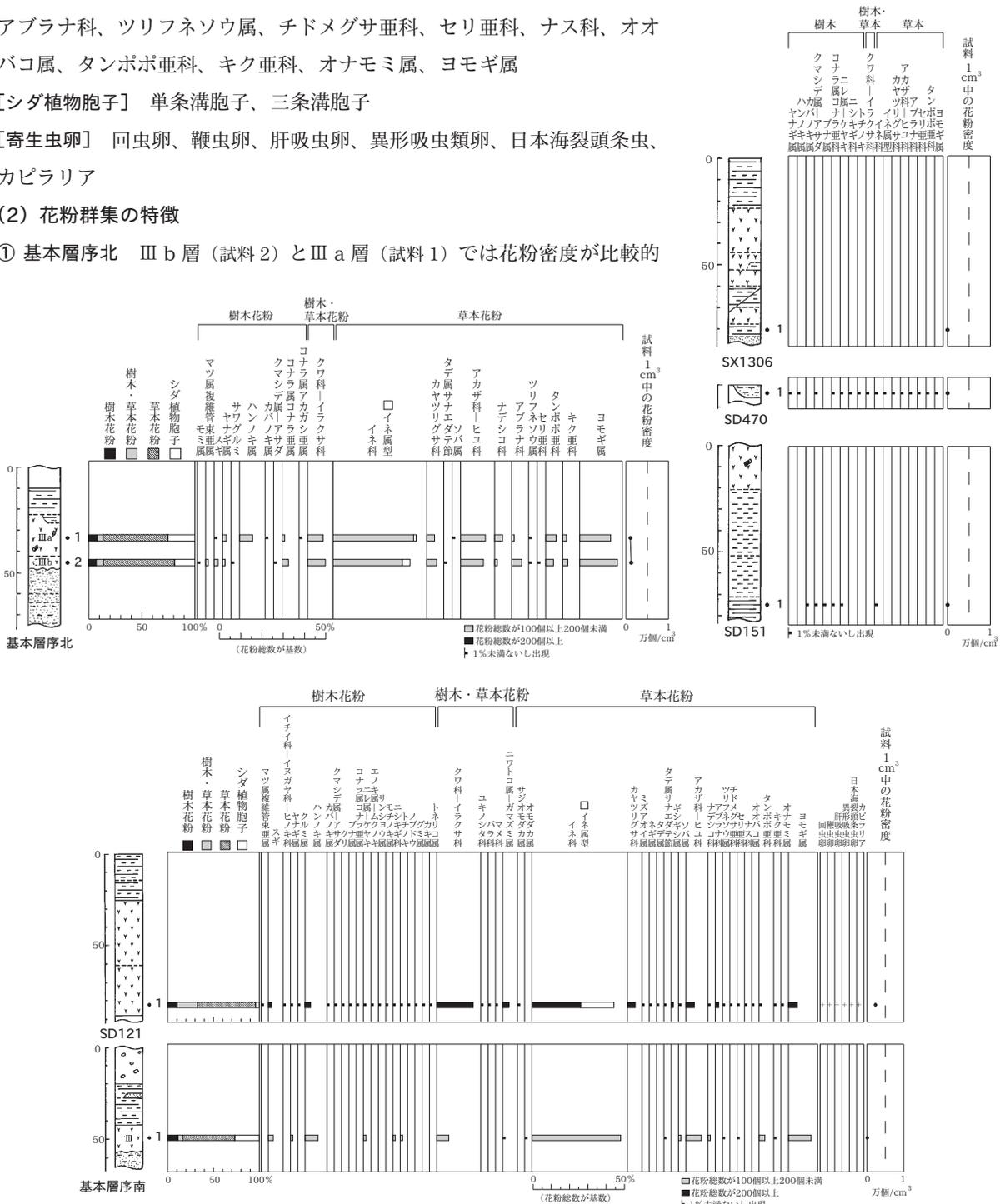
〔草本花粉〕 サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ツリフネソウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、ナス科、オオバコ属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕 単条溝孢子、三条溝孢子

〔寄生虫卵〕 回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵、日本海裂頭条虫、カピラリア

(2) 花粉群集の特徴

① 基本層序北 III b 層 (試料 2) と III a 層 (試料 1) では花粉密度が比較的



第 28 図 大沢谷内遺跡 8 区における花粉ダイアグラム

低く、草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科、カヤツリグサ科、ナデシコ科、アブラナ科などが伴われる。また、Ⅲ a 層(試料3)ではソバ属も認められた。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、ヤナギ属、スギなどが低率に検出され、Ⅲ a 層(試料1)ではハンノキ属も認められた。また、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科(カナムグラ等)も検出された。

② SX1306 試料1で花粉・胞子は検出されなかった。

③ SD470 試料1では、樹木花粉のハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科、草本花粉のイネ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。

④ SD151 試料1では、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、イネ科などが検出されたが、いずれも少量である。

⑤ SD121 試料1では草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、アカザ科-ヒユ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、アブラナ科、ソバ属、ミズアオイ属、オモダカ属などが伴われる。

また、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も比較的多い。樹木花粉では、ハンノキ属、スギなどが認められた。また、寄生虫卵の回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵、日本海裂頭条虫卵、カピラリアが少量検出された。

⑥ 基本層序南 Ⅲ層(試料1)では、花粉密度が比較的低く、草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科が優勢で、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科、ナデシコ科、ソバ属などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、ヤナギ属、スギなどが認められ、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も検出された。

第11表 大沢谷内遺跡8区における花粉分析結果

学名	分類群	和名	基本層序北						基本南
			SX1306	SD470	SD151	SD121	基本南		
Arboreal pollen		樹木花粉	1	2	1	1	1	1	
<i>Abies</i>		モミ属		1					
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属		2				4	
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	1	3				11 4	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科						3	
<i>Salix</i>		ヤナギ属	3	2	1			1 2	
<i>Juglans</i>		クルミ属						1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ		1					
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	10			5		19 11	
<i>Betula</i>		カバノキ属	1					2	
<i>CarPinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ		1		1	1	1	
<i>Castanea crenata</i>		クリ						3	
<i>Fagus</i>		ブナ属					2	1	
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	2	5		2	2	2	
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	1						
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ			1	1		4 2	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ						1	
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属						3	
<i>Ilex</i>		モチノキ属						1	
Celastraceae		ニシキギ科			1			2 2	
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ			1			1 2	
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>		ノブドウ						1	
<i>Elaeagnus</i>		グミ属						1	
<i>Diospyros</i>		カキ属						1	
<i>Fraxinus</i>		トネリコ属						1	
Arboreal - Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	12	14		2		124 10	
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科						1	
Saxifragaceae		ユキノシタ科						1	
Rosaceae		バラ科						1	
Leguminosae		マメ科						1	
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属						20 1	
Nonarboreal pollen		草本花粉						1	
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属						1	
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属						1	
Gramineae		イネ科	62	55		6	3	165 75	
<i>Oryza type</i>		イネ属型	2	6		1		114	
Cyperaceae		カヤツリグサ科	6	8		1		27	
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属						1	
<i>Allium</i>		ネギ属						4	
<i>Polygonum</i>		タデ属						1	
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節		1				3 1	
<i>Rumex</i>		ギンギン属						6	
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1					3 2	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	19	18		5		28 13	
Caryophyllaceae		ナデシコ科	6	2				4 2	
Cruciferae		アブラナ科	2	8		1		12	
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属	1	1				1 1	
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科						1	
Apiodeae		セリ亜科		1		1		2 1	
Solanaceae		ナス科						1	
<i>Plantago</i>		オオバコ属						1	
Lactucoideae		タンポポ亜科	8	6		1		3 5	
Asteroidae		キク亜科	3	4				2 1	
<i>Xanthium</i>		オナモミ属						1	
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	24	30		8		30 19	
Fern spore		シダ植物胞子							
Monolate type spore		単条溝胞子	47	38		2	3	21 50	
Trilate type spore		三条溝胞子	9	2		1		6 7	
Arboreal pollen		樹木花粉	18	15		12	7	64 23	
Arboreal - Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	12	14		2	0	147 11	
Nonarboreal pollen		草本花粉	134	140		24	3	411 121	
Total pollen		花粉総数	164	169	0	38	10	622 155	
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	1.0	1.2		2.3	8.4	2.3 1.1	
			×10 <sup>3</sup>	×10 <sup>3</sup>		×10 <sup>2</sup>	×10	×10 <sup>1</sup> ×10 <sup>3</sup>	
Unknown pollen		未同定花粉	2	1		1	2	7 7	
Fern spore		シダ植物胞子	56	40		3	3	27 57	
Helminth eggs		寄生虫卵							
<i>Ascaris (lumbricoides)</i>		回虫卵						15	
<i>Trichuris (trichiura)</i>		鞭虫卵						10	
<i>Clonorchis sinensis</i>		肝吸虫卵						13	
<i>Metagonimus-Heterophyes</i>		異形吸虫類卵						4	
<i>Diphyllobothrium Latum (nihonkaiense)</i>		日本海裂頭条虫卵						5	
<i>Capillaria sp.</i>		カピラリア						1	
Total		計	0	0	0	0	0	48 0	
Helminth eggs frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料1cm <sup>3</sup> 中の寄生虫卵密度						3.8 ×10 <sup>2</sup>	
Stone cell		石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Charcoal · woods fragments		微細炭化物・微細木片	(++)	(++)	(<+)	(+)	(<+)	(+)	

4) 花粉分析から推定される植生と環境

① 基本層序北 III b 層から III a 層にかけては、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと考えられ、III a 層ではソバの栽培が行われていた可能性も認められた。各層の堆積当時は、イネ科をはじめ、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科、ナデシコ科、アブラナ科、クワ科-イラクサ科 (カナムグラ等) などが生育する日当たりの良い環境であったと考えられる。また、遺跡周辺の湿地や河辺にはハンノキやヤナギ属が生育し、周辺地域にはコナラ属コナラ亜属、スギなどが分布していたと推定される。

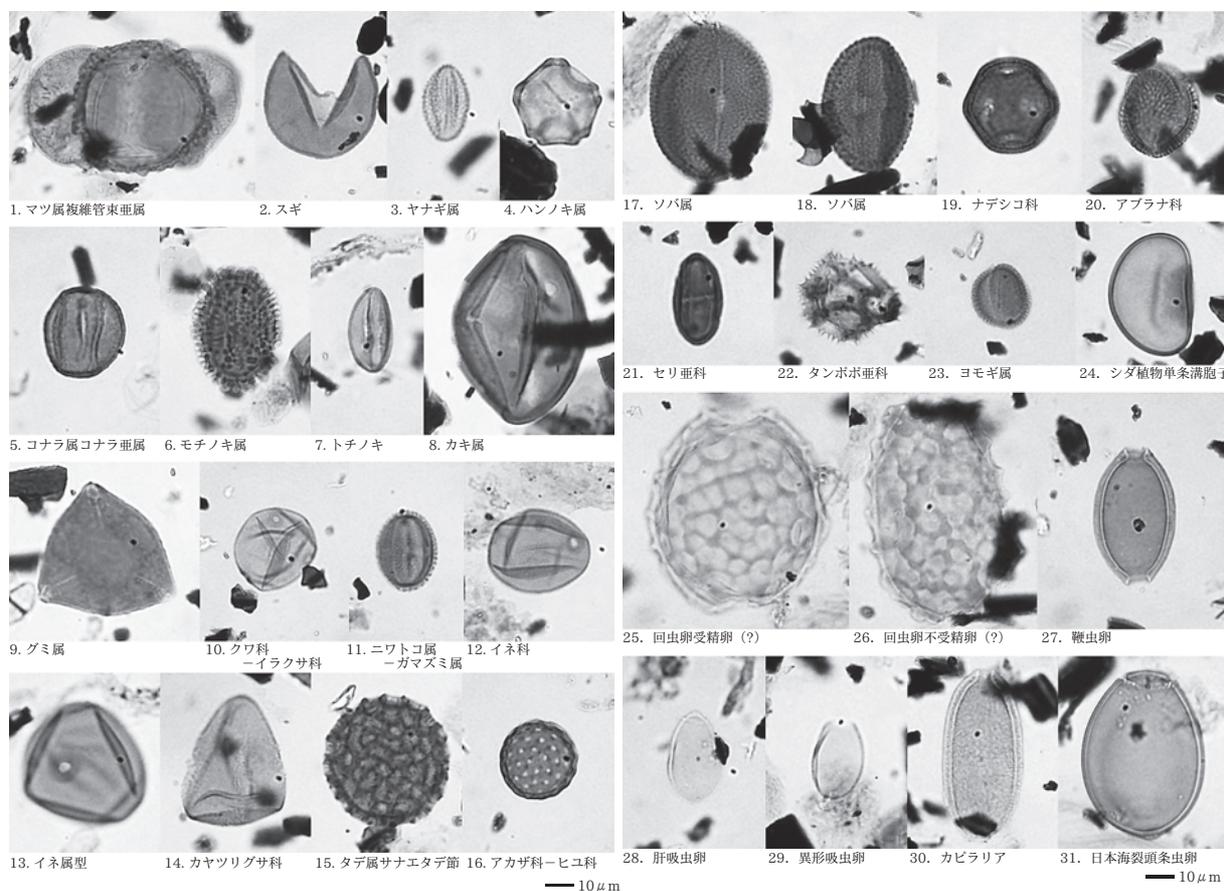
② SX1306 試料 1 では、花粉がまったく検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、1) 乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、2) 土層の堆積速度が速かったこと、3) 水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

③ SD470 試料 1 では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、当時は周囲にイネ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属などが生育し、遺跡周辺にはハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などが分布していた可能性が考えられる。

④ SD151 試料 1 では、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

⑤ SD121 試料 1 の堆積当時は、周辺で水田稲作が行われており、その周囲には水田雑草のサジオモダカ属、ミズアオイ属などが生育していたと考えられる。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属やアカザ科-ヒユ科、アブラナ科、クワ科-イラクサ科 (カナムグラ等) などの草本類が生育していたと考えられ、ソバの栽培が行われていた可能性も認められた。遺跡周辺の湿地や河辺にはハンノキなどが生育し、周辺地域にはコナラ属コナラ亜属、スギなどが分布していたと推定される。

試料 1 では、寄生虫卵の回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫卵、日本海裂頭条虫卵、カピラリアが検出



第 29 図 大沢谷内遺跡 8 区の花粉・胞子・寄生虫卵

されたが、低密度であることから集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。回虫や鞭虫は中間宿主を必要とせず、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。肝吸虫はコイ科を主に淡水魚を中間宿主として感染する。異形吸虫類（横川吸虫を含む）は、沿岸性の魚類やコイ科の魚を補食することによって感染する。日本海裂頭条虫卵はサケなどのサケ科の魚を中間宿主とするため、その摂食から感染する。カピラリアは、ネズミ類や鶏、羊の肝臓や小腸に寄生する毛体虫で、ヒトにも侵入して肝臓、腸、気道に寄生する。

⑥ 基本層序南 III層（試料1）の堆積当時は、イネ科をはじめ、ヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、タンポポ亜科、ナデシコ科、クワ科－イラクサ科（カナムグラ等）などが生育する日当たりの良い環境であったと考えられ、ソバの栽培が行われていた可能性も認められた。また、遺跡周辺の湿地や河辺にはハンノキやヤナギ属が生育し、周辺地域にはコナラ属コナラ亜属、スギなどが分布していたと推定される。

## B 9 区

### 1) 試料

分析試料は、基本土層 C、基本土層 I、基本土層 L、基本土層 M から採取された計 14 点で、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

### 2) 方法

花粉の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに次の手順で行った。

① 試料から 1cm<sup>3</sup> を秤量。② 0.5% リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加えて 15 分間湯煎。③ 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。④ 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。⑤ 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す。⑥ 再び氷酢酸を加えて水洗処理。⑦ 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。⑧ 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村〔1974、1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

### 4) 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 37、樹木花粉と草本花粉を含むもの 7、草本花粉 34、シダ植物孢子 2 形態の計 80 である。また、寄生虫卵 3 分類群が認められた。分析結果を第 12 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した（第 30 図）。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（第 31 図）。以下に出現した分類群を記載する。

【樹木花粉】 モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、アカメガシワ、サンショウ属、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、グミ属、ミズキ属、ツツジ科、トネリコ属、マンサク科

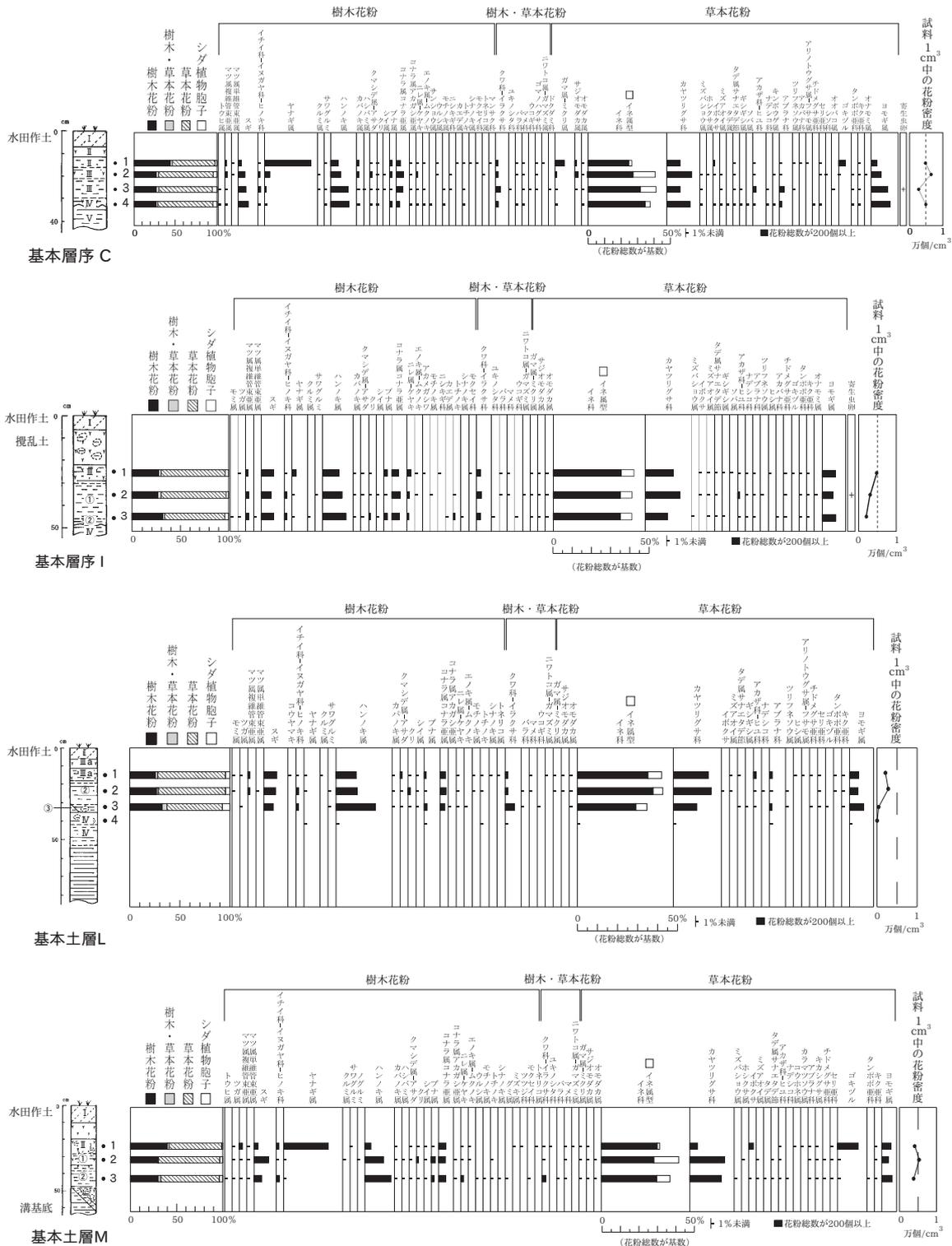
【樹木花粉と草本花粉を含むもの】 クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属－ガマズミ属

【草本花粉】 ドクダミ科、ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ

科、ミズバショウ属、ホシクサ属、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、キンポウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、キカシグサ属、アカバナ科、アリノトウグサ属-フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物孢子] 単条溝孢子、三条溝孢子

[寄生虫卵] 回虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵



第 30 図 大沢谷内遺跡 9区における花粉ダイアグラム

第2節 花粉分析

第12表 大沢谷内遺跡9区における花粉分析結果

学名	分類群	和名	基本層序C				基本層序I			基本層序L				基本層序M		
			1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3
Arboreal pollen		樹木花粉														
<i>Abies</i>		モミ属						1	1	1						
<i>Picea</i>		トウヒ属			1	1										1
<i>Tsuga</i>		ツガ属					1	1	1		1				1	1
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	8	11	1	6	6	10	9	5	6			11	7	2
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylo</i>		マツ属単管束亜属	1	1					1		1			1	1	1
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	14	32	24	44	40	36	38	31	35	16		14	68	27
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ								1						
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3	10	9	5	3	10	8	2	8	4		9	8	11
<i>Salix</i>		ヤナギ属	202	25	5	1	14	1	2	3	3		1	159	3	1
<i>Juglans</i>		クルミ属		1	1				1	1						3
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	1		1	2		3			2	3		1		
<i>Platycarya strobilacea</i>		ノグルミ														1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	34	48	53	79	52	70	73	49	63	67	6	22	88	93
<i>Betula</i>		カバノキ属	7	10	4	5	1	2	1	2	5	1		6	5	4
<i>Corylus</i>		ハシバミ属			1											1
<i>CarPinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	2	10	2	2	4	1	2	5	4	1		1	6	6
<i>Castanea crenata</i>		クリ	4	7	3	6	4	3	6	2	7	1		4	9	4
<i>Castanopsis</i>		シイ属		2	1				2	1	3	2		1	2	1
<i>Fagus</i>		ブナ属	11	11	4	11	11	4	11	5	4	5	1	6	19	9
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	18	32	20	14	21	30	23	13	18	8		26	31	25
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	1	3	1	2						2				1
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	4	8	2	3	12	8	6	2	4	3		2	5	10
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ	2		1	1	1	2				3		1	2	
<i>Mallotus japonicus</i>		アカメガシワ					1									
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属				1										
<i>Rhus</i>		ウルシ属	1	1												1
<i>Ilex</i>		モチノキ属			3	6		1		1	2					1
Celastraceae		ニシキギ科		1	1		2									
<i>Acer</i>		カエデ属	2						1							
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ	1	2		6		1	6	3		3	5		4	2
<i>Tilia</i>		シナノキ属	1						1	1						1
<i>Elaeagnus</i>		グミ属														1
<i>Cornus</i>		ミズキ属														1
Ericaceae		ツツジ科														1
Oleaceae		モクセイ科	1				1									1
<i>Fraxinus</i>		トネリコ属		1							1					1
Hamameridaceae		マンサク科	1													
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉														
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	11	13	16	13	14	19	13	6	8	16	1	5	4	13
Saxifragaceae		ユキノシタ科			1				1							1
Rosaceae		バラ科	4	2		1	1	2			1	1				2
Leguminosae		マメ科	2	3	1	3	2	2		4	1			1	2	4
Araliaceae		ウコギ科			2				1			1				
Scrophulariaceae		ゴマノハグサ科	1	1	1											
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属	2					1		1						6
Nonarboreal pollen		草本花粉														
Saururaceae		ドクダミ科			2											
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属	42	9	2	2	2	4	3	2				4	6	5
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属	8	8	1		2	2	2	1	1			1	1	1
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	1	7	1	3	5	1	2	2	1	2			4	5
Gramineae		イネ科	178	211	158	246	216	241	207	171	224	100	3	200	247	199
<i>Oryza type</i>		イネ属型	13	103	47	23	41	41	36	33	29	19		9	117	47
Cyperaceae		カヤツリグサ科	58	116	40	101	89	125	69	85	112	40	5	28	163	113
<i>Lysichiton</i>		ミスバショウ属		1	2	3			2							1
<i>Eriocaulon</i>		ホシクサ属		1												1
<i>Aneilema Keisak</i>		イボクサ	7	3		2	2	1			1			16		1
<i>Monochoria</i>		ミスアオイ属		4	1	1	2	5	1	2	2				7	5
<i>Polygonum</i>		タデ属			1											1
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	1	2	1	2	1	2	1	1		2			2	3
<i>Rumex</i>		ギンギン属			2	1	1	1		1		1				
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属			1	1										
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒコ科	4	2	10	1	2	8	3	7	3	1		1	3	1
Caryophyllaceae		ナデシコ科			1	1	1	1	1		1					2
<i>Nuphar</i>		コウホネ属													2	
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属			1	1										
<i>Thalictrum</i>		カラマツソウ属														1
Cruciferae		アブラナ科	1	3	15	12	2	3	5	7	4	4	1	1	2	5
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属	1		1			1			1	1				
<i>Rotala</i>		キカシグサ属													1	2
<i>Trapa</i>		ヒシ属					1			1						
Onagraceae		アカバナ科	1						1							
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属	1								3					
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科				4	1	3	3	1		3			3	1
Apioidae		セリ亜科	6	5		4	4	1	2	1	4	2		4	4	2
Labiatae		シソ科		1												
<i>Plantago</i>		オオバコ属			1											
<i>Actinostemma Lobatum</i>		ゴキツル	30	1			1							74	3	2
Lactucoideae		タンポポ科		3	1	5	1	2	2	2	1					1
Asteroidae		キク亜科	1	4	2	6	3	2	3	2	5	3		5	2	2
<i>Xanthium</i>		オナモミ属		1					1							
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	24	46	48	80	42	39	43	22	25	24	4	33	30	37
Fern spore		シダ植物胞子														
Monolate type spore		単条溝胞子	11	23	24	22	17	13	14	12	17	26	2	5	20	21
Trilate type spore		三条溝胞子	5	13	5	12	6	7	9	10	10	2		3	9	5
Arboreal pollen		樹木花粉	319	216	138	195	174	184	192	130	166	120	13	268	265	206
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	20	19	21	17	17	24	15	11	10	18	1	13	6	19
Nonarboreal pollen		草本花粉	377	532	336	500	420	481	388	344	416	204	13	380	597	436
Total pollen		花粉総数	716	767	495	712	611	689	595	485	592	342	27	661	868	661
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	4.9	6.6	2.8	5.0	4.8	3.1	2.1	2.1	2.8	4.0	1.9	4.1	5.3	3.8
			×10 <sup>4</sup>													
Unknown pollen		未同定花粉	7	11	7	12	6	12	4	8	9	11	3	5	9	12
Fern spore		シダ植物胞子	16	36	29	34	23	20	23	22	27	28	2	8	29	26
Helminth eggs		寄生虫卵														
<i>Ascaris (lumbricoides)</i>		回虫卵			1			1								
<i>Clonorchis sinensis</i>		肝吸虫卵			1											
<i>Metagonimus Heterophyes</i>		異形吸虫類卵			1											
Total		計			3			1								
Helminth eggs frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料1cm <sup>3</sup> 中の寄生虫卵密度			21.0			0.6								
					×10			×10								
Stone cell		石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments		微細炭化物	(-)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

(2) 花粉群集の特徴

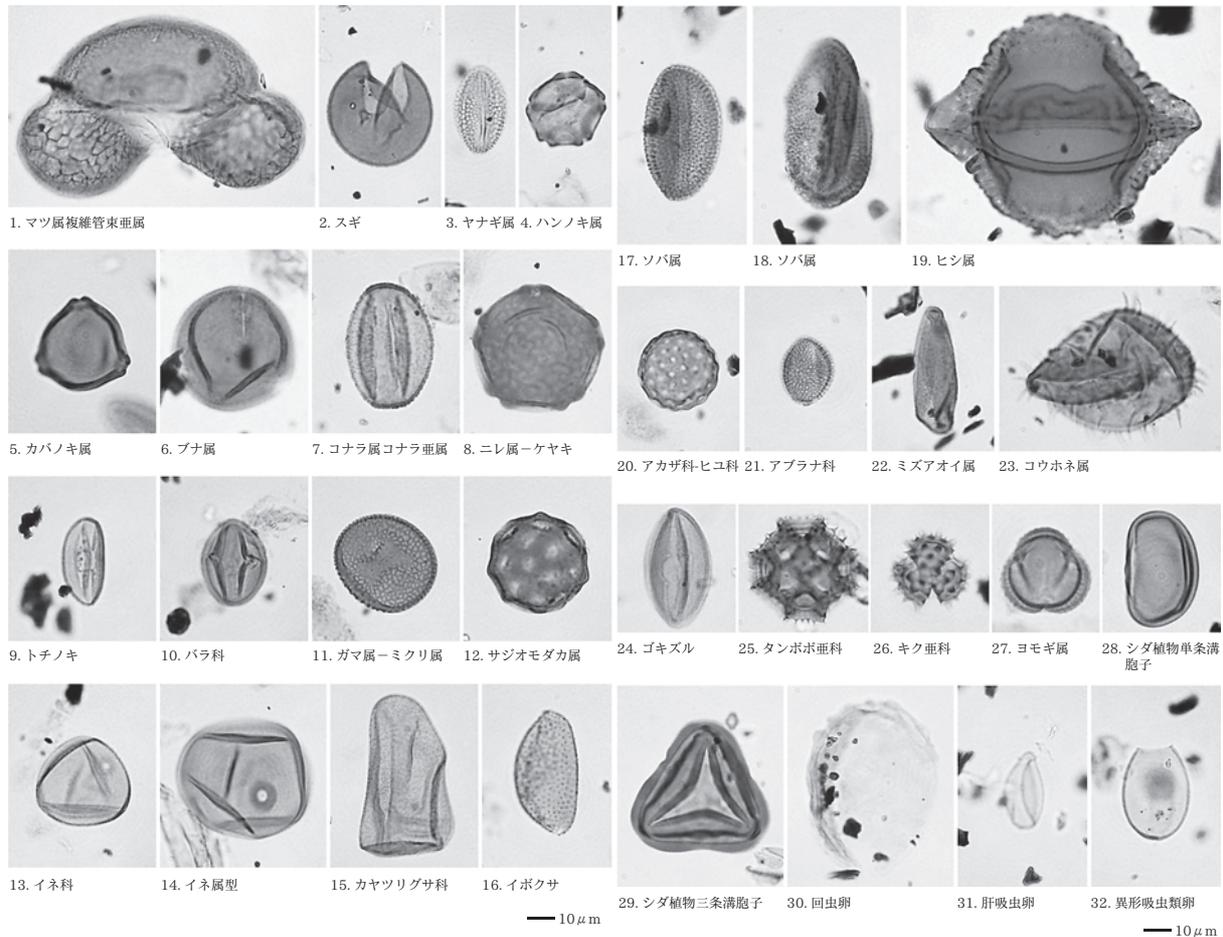
① 基本土層 C IV層 (試料4) からIII層 (試料2) にかけては、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属をはじめガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズバショウ属、ミズアオイ属、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、タンポポ亜科、キク亜科などが伴われる。また、III層ではソバ属が認められた。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。なお、III層では寄生虫卵の回虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵が検出された。

II層 (試料1) では、草本花粉ではイネ属型が減少し、ガマ属-ミクリ属、ゴキヅルが増加している。樹木花粉ではヤナギ属が大幅に増加している。

② 基本土層 I ②層 (試料3) からIII層 (試料1) にかけては、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属をはじめガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ、ミズアオイ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科、キク亜科などが伴われる。また、III層ではソバ属が認められた。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。なお、①層では寄生虫卵の回虫卵が検出された。

③ 基本層序 L 下位の V a 層 (試料4) では、花粉があまり検出されなかった。②層 (試料3) からII層 (試料1) にかけては、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属をはじめオモダカ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ亜科、キク亜科などが伴われる。また、部分的にガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、イボクサ、ミズアオイ属、チドメグサ亜科、タンポポ亜科も認められた。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。

④ 基本層序 M ②層 (試料3) と①層 (試料2) では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、



第 31 図 大沢谷内遺跡 9 区の花粉・孢子・寄生虫卵

イネ科（イネ属型を含む）が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属をはじめガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、キク亜科などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが伴われる。Ⅲ a 層（試料1）では、草本花粉ではイネ属型やカヤツリグサ科が減少し、ゴキヅルが増加している。樹木花粉ではヤナギ属が大幅に増加し、ハンノキ属は減少している。

#### 5) 花粉分析から推定される植生と環境

① 基本土層 C Ⅳ層からⅡ層にかけては、イネ科（イネ属型を含む）が優勢で、水田雑草のサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属が検出されることから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられ、その周囲は水生植物のカヤツリグサ科、ガマ属－ミクリ属、ミズバショウ属などが生育する湿原に近い環境であったと推定される。また、周囲の比較的乾燥したところには、ヨモギ属やアカザ科－ヒユ科、アブラナ科、タンポポ亜科、キク亜科などの草本類が生育していたと考えられ、Ⅳ層の時期にはソバなどの畑作も行われていたと推定される。周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹やスギ林が分布していたと考えられる。Ⅱ層の時期には、何らかの原因でヤナギ属の湿地林やゴキヅルの生育する放棄地が拡大し、水田は減少したと推定される。Ⅲ層では寄生虫卵の回虫卵などが検出された。人糞施肥の影響も示唆されるが、低密度であることから集落周辺などの人為環境における通常的生活汚染に由来するものと考えられる。回虫は中間宿主を必要とせず、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。

② 基本土層 I ②層からⅢ層にかけては、イネ科（イネ属型を含む）が優勢で、水田雑草のサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ、ミズアオイ属が検出されることから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられ、その周囲は水生植物のカヤツリグサ科、ガマ属－ミクリ属などが生育する湿原に近い環境であったと推定される。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属やアカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科、キク亜科などの草本類が生育していたと考えられ、Ⅲ層の時期にはソバなどの畑作も行われていたと推定される。周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹やスギ林が分布していたと考えられる。①層では寄生虫卵の回虫卵が検出された。人糞施肥の影響も示唆されるが、低密度であることから集落周辺などの人為環境における通常的生活汚染に由来するものと考えられる。回虫は中間宿主を必要とせず、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。

③ 基本土層 L ②層からⅡ層にかけては、イネ科（イネ属型を含む）が優勢で、水田雑草のオモダカ属などが検出されることから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられる。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属やアカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ亜科、キク亜科などの草本類が生育していたと推定される。周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹やスギ林が分布していたと考えられる。

④ 基本土層 M ②層からⅡ層にかけては、イネ科（イネ属型を含む）が優勢で、水田雑草のサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属が検出されることから、堆積地ないし周辺には水田が分布していたと考えられる。また、周囲の比較的乾燥したところにはヨモギ属やアカザ科－ヒユ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、キク亜科などの草本類が生育していたと推定される。周辺の湿地や河辺にはハンノキが生育し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹やスギ林が分布していたと考えられる。Ⅱ層の時期には、何らかの原因でヤナギ属の湿地林やゴキヅルの生育する放棄地が拡大し、水田は減少したと推定される。

## 第3節 種実同定

### A 8・9 区

#### 1) はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べることで、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

#### 2) 分析試料

分析の対象は、大沢谷内遺跡において採取され、水洗選別が行われた 81 試料の 72,373 個である。

#### 3) 方法

試料に次の物理的な処理を施して、抽出および同定を行った。試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって、科、属、種の階級で示す。

#### 4) 結果

##### (1) 分類群

樹木 28、草本 52 の計 80 分類群が同定される。各時代の遺構別の学名、和名および粒数を第 13・14 表に示し、時代別内訳とモモの計測値を第 15～20 表に示す。また、主要な分類群を写真に示す(第 32 図)。検出された種実の形態的特徴は次のとおりである。

##### [樹木]

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核(完形・半形・破片) クルミ科 茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。

ハンノキ属 *Alnus* 種子 カバノキ科 種子は広卵形や卵形、倒卵形を呈し、扁平である。暗褐色で平滑となる。

ヤマグワ *Morus australis* Poir. 種子(完形・破片) クワ科 茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。

ホオノキ *Magnolia obovata* Thunb. 種子 モクレン科 黒褐色で倒卵形を呈し、下端にへそがある。表面には縦方向の微細な模様がある。

コブシ *Magnolia borealis* Kubo 種子(破片) モクレン科 種子は黒褐色で広卵形を呈す。断面は腎形。下端にへそがある。種皮は薄く堅い。

ウメ *Prunus mume* S. et Z. 核(完形・破片) バラ科 茶褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が走る。表面には小孔が散在する。

モモ *Prunus persica* Batsch 核(完形・半形・破片) バラ科 黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。モモの計測を行ったが、平安時代より鎌倉時代のモモ核は長さはやや大きくなるが、幅と厚さはやや小さくなる。

スモモ *Prunus salicina* Lindley 核(破片) バラ科 淡褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が走る。表面には不明瞭で微細な凸凹がある。断面は扁平である。

キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. 種子(破片) ミカン科 黒色で半円形を呈し、一側面に細長いへそがある。表面には微細な網目模様がある。

イヌザンショウ *Zanthoxylum schinifolium* S. et Z. 種子(完形・破片) ミカン科 種子は黒褐色で楕円状球形を呈す。側面に長く深いへそがある。表面にやや大きな網目模様がある。

カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* S. et Z. 種子(破片) ミカン科 黒色で楕円形を呈し、側面に長く深いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

サンショウ属 *Zanthoxylum* 種子(破片) ミカン科 黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。この分類群はへそが欠落し破片のため、属レベルの同定までである。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子(完形・破片) トウダイグサ科 黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 種子(完形・破片) トチノキ科 楕円形を呈し、黒色と茶褐色の部分とに分かれ、黒色の部分に光沢がある。

クマヤナギ属 *Berchemia* 核(完形・破片) クロウメモドキ科 淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、下端に大きなへそがある。両面に1本の縦溝が走る。断面は楕円形である。

ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* var. *heterophylla* Hara 種子(完形・破片) ブドウ科 茶褐色で広卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面のカラザは長く伸びる。

ブドウ属 *Vitis* 種子(完形・破片) ブドウ科 茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

ブドウ科 Vitaceae 種子(破片) ブドウ科 この分類群は破片でカラザの部分が欠損しているものである。

マタタビ *Actinidia polygama* Planch. ex Maxim. 種子(完形・破片) マタタビ科 暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。

サカキ *Cleyara japonica* Thunb. 種子(完形・破片) ツバキ科 広卵状円形、円形、楕円形などを呈する。へその一端近くは嘴状。側面は狭倒卵形、倒卵形、長楕円形(やや両凸レンズ状)である。種皮は平滑で表皮下に楕円状の網目模様が見られる。

ミズキ *Cornus controversa* Hemsl. 核 ミズキ科 黒褐色で横長の楕円形を呈す。表面には縦方向に深い筋が走る。

クマノミズキ *Cornus brachypoda* C. A. Mey. 核(完形・破片) ミズキ科 淡褐色で球形を呈す。表面に一本の広い溝がめぐり、数本の細い縦筋が走る。

カキノキ属 *Diospyros* 種子(完形・破片) カキノキ科 黒褐色で非対称的広倒卵形を呈し、扁平である。直線状の腹面は稜をなす。炭化しているものも観察できた。

エゴノキ *Styrax japonica* S. et Z. 核(破片) エゴノキ科 黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に3本の溝が走る。

クサギ *Clerodendrum trichotomum* Thunb. 核 クマツヅラ科 暗褐色で倒卵形を呈す。断面は三日月形。腹部の一端には発芽口があり、背面の表面には大きな網目状の模様がある。

ニワトコ *Sambucus sieboldiana* Blume ex graedn 核(完形・破片) スイカズラ科 黄褐色～茶褐色で楕円形を呈す。一端にへそがある。表面には横方向の隆起がある。

ガマズミ *Viburnum dilatatum* 核 スイカズラ科 茶褐色で楕円形を呈す。腹面に1本と背面に2本の溝が走り、下端に小さなへそがある。

ガマズミ属 *Viburnum* 核(完形・破片) スイカズラ科 茶褐色で広卵形を呈す。それぞれ1個の浅い縦溝と深い縦溝があり、斑紋がある。

#### [草本]

ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouche 果実 オモダカ科 黄褐色で倒卵形を呈す。背部には縦方向に1本の深い溝がある。

イネ *Oryza sativa* L. 炭化集塊・穎(完形・破片)・炭化果実(完形・破片) イネ科 穎は茶褐色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状突起がある。破片が多い。炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。発泡しているものも多い。

エノコログサ属 *Setaria* 穎(完形・破片) イネ科 穎は茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起

がある。

アワ *Setaria italica* Beauv. 炭化穎・炭化果実 イネ科 穎は茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。炭化しているため黒色で楕円形を呈す。胚の部分がくぼむ。穎が付着しているものも多い。

イヌビエ属 *Echinochloa* 炭化集塊・穎・炭化果実 イネ科 炭化しているため黒色で楕円形を呈す。胚の部分がくぼむ。穎が付着しているものも多い。また穎は炭化しているものといないものがあり、楕円形を呈し、表面には微細な縦方向の模様がある。発砲による変形があり、またヒエの形態からイヌビエの形態までの変異を示し区分できなかつたため、イヌビエ属とした。栽培とみなされる。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化果実 イネ科 炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。発泡しているものも多い。

コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化果実 イネ科 炭化しているため黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。発泡しているものも多い。

ムギ類(オオムギ-コムギ) *Hordeum-Triticum* 炭化果実(完形・破片) イネ科 オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡しているため破片で同定面が観察できないのでムギ類とした。

ウキヤガラ *Scirpus fluviatilis* A. Gray 果実 カヤツリグサ科 黒灰色で倒卵形を呈す。表面は粗く、断面は三角形である。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実(完形・破片) カヤツリグサ科 黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に4~8本の針状の付属物を持つ。

スゲ属 *Carex* 果実(完形・破片) カヤツリグサ科 黒褐色で倒卵形、扁平である。

カヤツリグサ科 Cyperaceae 果実 黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

イボクサ *Aneilema Keisak* Hassk. 種子 ツユクサ科 黒褐色~黒色で楕円形を呈す。腹部に一文字状のへそがあり、側面にくぼんだ発芽孔がある。

アサ *Cannabis sativa* L. 種子(完形・破片) クワ科 茶褐色で広卵形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子(完形・破片) クワ科 茶褐色で円形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

アサ-カナムグラ *Cannabis sativa* L.-*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子(破片) クワ科 アサ、カナムグラと思われるが、破片で形態が不明のためハイフン(-)で結んで示した。

ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実(完形・破片) タデ科 黒褐色で卵形を呈す。表面には縞状の模様がある。断面は三角形である。

タデ属 *Polygonum* 果実(完形・破片) タデ科 黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。炭化し発泡しているものもあった。黒褐色で頂端の尖る広卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。

タデ属サナエタデ節 *Polygonum* sect. *Persicaria* 果実(完形・破片) タデ科 黒褐色で頂端が尖る広卵形を呈す。表面は滑らかで光沢があり、断面は扁平で中央がややくぼむ。

ギンギン属 *Rumex* 果実 タデ科 茶褐色で頂端が尖る卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。翼状の花被の残るものもある。

アカザ属 *Chenopodium* 種子(完形・破片) アカザ科 黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

ヒユ属 *Amaranthus* 種子(完形・破片) ヒユ科 黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、へそがある。断面は両凸レンズ形である。

アカザ属-ヒユ属 *Chenopodium-Amaranthus* 種子(破片) アカザ科-ヒユ科 黒色で光沢がある。円形を呈す

る。破片のためヘソ部分が欠落しており同定面が観察できないのでハイフン(-)で結んで示した。

ナデシコ科 *Caryophyllaceae* 種子 黒色で円形を呈し、側面にヘソがある。表面全体に突起がある。

オニバス *Euryale ferox* Salisb. 種子(完形・破片) スイレン科 茶褐色で楕円形を呈す。断面は円形で一カ所がやや膨らむ。下端に基部、基部の隣にヘソがあり、ヘソから上端まで帯状に隆起する。

キンボウゲ属 *Ranunculus* 果実(完形・破片) キンボウゲ科 淡褐色で楕円形を呈す。表面はやや粗く、コルク質である。

ゲンゲ属 *Astragalus* 種子・炭化子葉 マメ科 暗黄褐色から黒色で腎臓形を呈す。背面は広線形でヘソは腹面の中央にあり半円状に湾入した奥にある。ヘソに接する一端は嘴状で側面の形はハイヒール状である。

ササゲ属 *Vigna* 炭化子葉(完形・半形・破片) マメ科 黒色で楕円形を呈す。ヘソは縦に細長い。ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれる。

ダイズ *Glycine max* Merri. 炭化子葉 マメ科 扁平な楕円形で炭化しているため黒色である。

マメ科 *Leguminosae* 炭化子葉 マメ科 マメ科ではあるが炭化しているため黒色で発泡しており全て破片で形態が不明のため、科レベルの同定までである。

ツリフネソウ *Impatiens textori* Miq. 種子(完形・破片) ツリフネソウ科 黒褐色でやや光沢がある。倒卵形を呈し、一端にやや突出したヘソがある。表面には隆起が不規則に走る。

ヤブジラミ属 *Torilis* 果実(完形・破片) セリ科 狭卵形を呈し、先端が尖る。背面には隆条が並び、それらの間と両側に鉤状の剛毛が密集している。

セリ亜科 *Apioideae* 果実(完形・破片) 淡褐色～黄褐色で楕円形を呈す。果皮はコルク質で厚く弾力があり、片面に3本の肥厚した隆起が見られる。断面は半円形である。

エゴマ *Perilla frutescens* var. *japonica* Hara 果実(完形・破片) シソ科 黒褐色～灰褐色で球形を呈し、下端はわずかに突出する。表面に大きい網目模様がある。径2.2～2.4mm。径2.2mm以上をエゴマとし、2.0mm以下をシソ属とした。炭化しているものもあった。

シソ属 *Perilla* 果実(完形・破片) シソ科 茶褐色で球形を呈し、下端にヘソがある。表面には大きい網目模様がある。

イヌコウジュ属 *Mosla* 果実 シソ科 茶褐色で球形を呈し、下端にヘソがある。表面には網目模様がある。

シソ科 *Lamiaceae* 果実(完形・破片) 倒卵状3稜形を呈し、先端は切形で扇形。着点は扇形で斜切形である。

イヌホウズキ *Solanum nigrum* L. 種子 ナス科 黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には網目模様がある。

ナス *Solanum melongera* L. 種子(完形・破片) ナス科 黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には網目模様がある。

トウガン *Benincasa hispida* Cogn. 種子(破片) ウリ科 卵倒形を呈し、扁平。周辺部の縁は平行に一段高くなる。

ズメウリ *Melothria japonica* Maxim. 種子(完形・破片) ウリ科 黄褐色で卵形を呈す。表面はやや粗い。

キカラスウリ *Trichosanthes kirilowii* Maxim. var. *japonica* Kitam 種子(完形・破片) ウリ科 淡褐色で扁平楕円形を呈す。中央部がやや膨らみ、周辺はざらつく。

ゴキヅル *Actinostemma lobatum* Maxim. 種子(破片) ウリ科 黄褐色で卵形を呈し、断面は扁平である。表面は粗い。破片の状態であった。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子(完形・破片) ウリ科 淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。藤下によると小粒種子(雑草メロン型)、中粒種子(マクワウリ・シロウリ型)、大粒種子(モモルディカ型)がある。

ヒョウタン類 *Lagenaria siceraria* Standl. 種子(完形・破片) ウリ科 淡褐色で楕円形を呈す。上端にはヘソ

と発芽孔があり、下端は波うつ切形を呈す。表面には縦に2本の低い稜が走る。藤下がヒョウタン仲間とするものには、ヒョウタン・フクベ・カンピョウが含まれ、このうちフクベ・カンピョウは食用になる。

オナモミ *Xanthium strumarium* L. 果実(完形・破片) キク科 黒褐色で長楕円形を呈し、先端は2本の突起が伸びる。表面にかぎ状の突起が全体に分布する。

メナモミ *Siegesbeckia pubescens* Makino 果実 キク科 黒色で倒卵形を呈し、上端は切形で、下端は細く曲る。表面は粗く、断面はひし形である。

タカサブロウ *Eclipta prostrata* L. 果実 キク科 淡褐色～茶褐色で長楕円形を呈す。上端は円形に突出し、下端は切形となる。表面中央部にいぼ状の突起がある。断面はひし形である。

キク亜科 Asteroideae 果実 キク科 茶褐色で楕円形を呈し、両端は切形となる。表面には縦方向に8本程度の筋が走る。

なお、不明種実(完形・破片)は、種実ではあるが炭化していたり、破片であるものを指す。また、

不明(完形・破片)とは、種実かどうか不明なものとする。

## (2) 種実群集の特徴

### ① 古代：種実総数 2,987 個

・SE201 草本種実のホタルイ属 494 が多く、次にタデ属 200、タデ属サナエタデ節 125、スゲ属 95 が多く、カナムグラ 63、オニバス 44、マメ科 42、ナス 37、シソ属 25、ウリ類 15、アカザ属 8、ウキアガラ 4、ヒョウタン類 3、イネ 2、エノコログサ属 1 と続き、樹木種実のトチノキ 46、ヤマグワ 16、ブドウ属 8、モモ 5、アカメガシワ 3、コブシ 1、サカキ 1 が検出された。

・SE2383 草本種実のタデ属サナエタデ節 240、タデ属 213 が多く、次にカナムグラ 112 と続き、ウリ類 50、ツボクサ 47、ヒョウタン類 34、ヤブジラミ属 30、スゲ属 21、シソ属 12、オナモミ 10、アカザ属－ヒユ科 9、ナス 7、イネ 2、エノコログサ属 1、ナデシコ科 1、ササゲ属 1、スズメウリ 1、メナモミ 1 と続き、樹木種実のアカメガシワ 32、ノブドウ 21、ガマズミ属 13、ニワトコ 10、ブドウ属 8、クマヤナギ属 7、ヤマグワ 6、キハダ 4、ミズキ 2、サンショウ属 1、エゴノキ 1 が検出された。

・SE2457 草本種実のナス 20、イネ 6、タデ属 3、ウリ類 3、カナムグラ 1、タデ属サナエタデ節 1 と続き、樹木種実のイヌザンショウ 1 が検出された。

・SE3416 樹木種実のイヌザンショウ 1 が検出された。

・SE3579 草本種実のカナムグラ 181、タデ属 180 が多く、次にツリフネソウ 85 と続き、エゴマ 27、オナモミ 20、ヒユ属 10、シソ属 10、ウリ類 9、イネ 7、シソ科 7、アワ 3、ナス 3、キク亜科 3、アカザ属 2、キンポウゲ属 1、イヌホウズキ 1、スズメウリ 1、キカラスウリ 1、不明種実 1 と続き、樹木種実のノブドウ 83 が多く、ガマズミ 49、ブドウ属 31、ガマズミ属 11、ミズキ 7、クマヤナギ属 5、アカメガシワ 4、コブシ 1、ホオノキ 1、マタタビ 1 が検出された。

・SK3227 草本種実のイネ 47、アカザ属 5、シソ属 3、イヌビエ属 2、タデ属 1、ササゲ属 1、エゴマ 1 と続き、樹木種実のトチノキ 1 が検出された。

### ② 中世：種実総数 69,386 個

・SE845 草本種実のアサ 81、イネ 11、ウキアガラ 7、ウリ類 6、ホタルイ属 4、タデ属 3、ムギ類 2、セリ亜科 2、ナス 2、不明 2、ギシギシ属 1、キンポウゲ属 1、ゲンゲ属 1、ササゲ属 1、エゴマ 1 と続き、樹木種実のモモ 4、ヤマグワ 2、カラスザンショウ 2、サカキ 1 が検出された。

・SE1068 全て樹木種実のモモ 5、トチノキ 1 が検出された。

・SE1643 草本種実のイネ 3359 が最も多く、次にササゲ属 86 と続き、ウキアガラ 69、アサ 60、イヌビエ属 48、ホタルイ属 47、マメ科 22、スゲ属 19、オオムギ 17、タデ属 16、ムギ類 15、エゴマ 12、アカザ属 9、アワ 5、タデ属サナエタデ節 5、コムギ 4、シソ属 3、ウリ類 3、アサーカナムグラ 2、ギシギシ属 2、ヒョ

第3節 種実同定

第13表 大沢谷内遺跡における種実同定結果（古代—遺構別）

時代：古代						時代：古代													
調査回数	調査区	出土位置	分類群		部位	個数	調査回数	調査区	出土位置	分類群		部位	個数						
			学名	和名						学名	和名								
21次	8区	SE201	<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ	種子	16	21次	8区	SE2383	<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.	ヒヨウタン類	種子(破片)	1						
			<i>Magnolia borealis</i> Kudo	コブシ	種子(破片)	1				<i>Siegesbeckia pubescens</i> Makino	メナモミ	果実	33						
			<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核	1				<i>Xanthium strumarium</i> L.	オナモミ	果実	1						
			<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.	アカメガシワ	種子	2						(破片)	5						
			<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ	種子	14				SE2457	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.	イヌザンショウ	種子	1					
			<i>Vitis</i>	ブドウ属	種子	32					<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	炭化果実(破片)	6					
			<i>Cleyera japonica</i> Thunb.	サカキ	種子(破片)	3					<i>Humulus scandens</i> Merr.	カナムグラ	種子(破片)	1					
			<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	炭化果実	5					<i>Polygonum</i>	タデ属	果実(破片)	3					
			<i>Setaria</i> Beauv.	エノコログサ属	穎	1					<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ属	果実	1					
			<i>Scirpus fluviatilis</i> A. Gray	ウキヤガラ	果実	2					<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子	18					
			<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実	4							(破片)	2					
					(破片)	455					<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子(破片)	3					
			<i>Carex</i>	スゲ属	果実	39					20次	9区	SE3416	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.	イヌザンショウ	種子	1		
			<i>Humulus scandens</i> Merr.	カナムグラ	種子	67								<i>Magnolia borealis</i> Kudo	コブシ	種子(破片)	1		
			<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	28								<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核	1		
			<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ属	果実	59								<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.	アカメガシワ	種子	4		
			<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	4								<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ	種子	4		
			<i>Euryale ferox</i> Salisb.	オニバス	種子(破片)	15										(破片)	2		
			<i>Leguminosae</i>	マメ科	種子	89								<i>Berchemia</i> Necker	クマヤナギ属	核	5		
			<i>Perilla</i>	シソ属	果実	110				<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara				ノブドウ	種子	39			
			<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子	15									(破片)	44			
			<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.	ヒヨウタン類	種子	6				<i>Vitis</i>				ブドウ属	種子	22			
			<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子	3				<i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.				マタタビ	種子(破片)	9			
					(破片)	37				<i>Swida controversa</i> Hemsl.				ミズキ	核	1			
			SE2383			<i>Morus australis</i> Poir.				ヤマグワ				種子	6	<i>Viburnum dilatatum</i>		核	37
						<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.				キハダ				種子	4			(破片)	12
						<i>Zanthoxylum</i>				サンショウ属				種子(破片)	1	<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	核	11
						<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.				アカメガシワ	種子	20	<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	穎(破片)	1			
											(破片)	12			炭化果実	5			
						<i>Berchemia</i> Necker				クマヤナギ属	核	7	<i>Setaria italica</i> Beauv.	アワ	炭化果実	3			
						<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara				ノブドウ	種子	17	<i>Humulus scandens</i> Merr.	カナムグラ	種子	101			
											(破片)	4			(破片)	80			
						<i>Vitis</i>				ブドウ属	種子	8	<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	93			
						<i>Swida controversa</i> Hemsl.				ミズキ	核	2	<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2			
						<i>Styrax japonica</i> S. et Z.				エゴノキ	核(破片)	1	<i>Amaranthus</i>	ヒコ属	種子	9			
						<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex graedn				ニワトコ	核	10	<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属	果実(破片)	1			
						<i>Viburnum</i>				ガマズミ属	核	13	<i>Impatiens textori</i> Miq.	ツリフネソウ	種子	53			
						<i>Oryza sativa</i> L.				イネ	炭化果実	2			(破片)	32			
						<i>Setaria</i> Beauv.				エノコログサ属	穎	1	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i> Hara	エゴマ	果実	25			
						<i>Carex</i>				スゲ属	果実	21			(破片)	2			
						<i>Humulus scandens</i> Merr.				カナムグラ	種子	59	<i>Perilla</i>	シソ属	果実	7			
											(破片)	43	<i>Labiatae</i>	シソ科	果実	6			
						<i>Polygonum</i>				タデ属	果実	200			(破片)	1			
						<i>Polygonum sect. Persicaria</i>				タデ属サナエタデ属	果実	13	<i>Solanum nigrum</i> L.	イヌホウズキ	種子	1			
						<i>Chenopodium-Amaranthus</i>				アカザ属-ヒコ属	種子(破片)	9	<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子	3			
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子				1	<i>Melothria japonica</i> Maxim.	スズメウリ	種子	1									
<i>Vigna</i>	ササゲ属	炭化子葉				1	<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> Kitam	キカラスウリ	種子(破片)	1									
<i>Impatiens textori</i> Miq.	ツリフネソウ	種子				11	<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子	3									
		(破片)				3			(破片)	6									
<i>Centella asiatica</i> L.	ツボクサ	果実				35	<i>Xanthium strumarium</i> L.	オナモミ	果実(破片)	20									
		(破片)				12	<i>Asteroidae</i>	キノコ科	果実	3									
<i>Torilis Adans.</i>	ヤブジラミ属	果実				27	<i>Unknown seeds</i>	不明種実	核	1									
		(破片)				3	SK3227	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ	種子(破片)	1								
<i>Perilla</i>	シソ属	果実				12		<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	炭化果実	22								
<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子				7				(破片)	25								
<i>Melothria japonica</i> Maxim.	スズメウリ	種子				1		<i>Echinocloa</i> Beauv.	イヌビエ属	炭化果実	2								
<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子				30		<i>Polygonum</i>	タデ属	果実(破片)	1								
		(破片)				20		<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	5								
								<i>Vigna</i>	ササゲ属	炭化子葉	1								
								<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i> Hara	エゴマ	果実	1								
								<i>Perilla</i>	シソ属	果実(破片)	3								
										種実総数	2987								

第14表-1 大沢谷内遺跡における種実同定結果（中世—遺構別）

時代：中世						時代：中世										
調査回数	調査区	出土位置	分類群		部位	個数	調査回数	調査区	出土位置	分類群		部位	個数			
			学名	和名						学名	和名					
21次	8区	SE845	<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ	種子(破片)	2	21次	8区	SE1643	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ	種子(破片)	5			
			<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核(半形)	1				<i>Cleyera japonica</i> Thunb.	サカキ	種子	1			
					(破片)	3				<i>Cornus brachypoda</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	核	1			
			<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> S. et Z.	カラスザンショウ	種子(破片)	2						(破片)	1			
			<i>Cleyera japonica</i> Thunb.	サカキ	種子(破片)	1				<i>Diospyros</i>	カキノキ属	種子	15			
			<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	穎	2						(破片)	15			
					炭化果実	4				<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	核	5			
			<i>Hordeum-Triticum</i>	ムギ類	炭化果実	1				<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	炭化果実	2,263			
			<i>Scirpus fluviatilis</i> A. Gray	ウキヤガラ	果実	1						(破片)	1,096			
			<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実	7				<i>Setaria</i> Beauv.	エノコログサ属	果実	1			
			<i>Cannabis sativa</i> L.	アサ	種子(破片)	81				<i>Setaria italica</i> Beauv.	アワ	穎	3			
			<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	1						炭化果実	2			
					(破片)	2				<i>Echinocloa</i> Beauv.	イヌビエ属	穎	40			
			<i>Rumex</i>	ギンギン属	果実	1				<i>Hordeum vulgare</i> L.	オオムギ	炭化果実	8			
			<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属	果実	1				<i>Triticum aestivum</i> L.	コムギ	炭化果実	17			
			<i>Astragalus</i>	ゲンゲ属	子葉	1				<i>Hordeum-Triticum</i>	ムギ類	炭化果実(破片)	4			
			<i>Vigna</i>	ササゲ属	炭化子葉(破片)	1				<i>Scirpus fluviatilis</i> A. Gray	ウキヤガラ	果実	69			
			<i>Apioidae</i>	セリ亜科	果実(破片)	2				<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実	46			
			<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子	2						(破片)	1			
			<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i> Hara	エゴマ	果実	1				<i>Carex</i>	スゲ属	果実	19			
			<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子(破片)	6				<i>Cannabis sativa</i> L.	アサ	種子	9			
			<i>Unknown</i>	不明		2						(破片)	51			
					核	3				<i>Cannabis sativa</i> L. <i>Humulus scandens</i> Merr.	アサー-カナムグラ	種子(破片)	2			
					(破片)	2				<i>Fagopyrum esculentum</i> Moench	ソバ	果実	1			
			SE1068			<i>Prunus persica</i> Batsch				モモ	核	3	<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	16
											(破片)	2	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ属	果実	3
						<i>Aesculus turbinata</i> Blume				トチノキ	種子	1			(破片)	2
						<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr				オニグルミ	核(破片)	1	<i>Rumex</i>	ギンギン属	果実	2
						<i>Morus australis</i> Poir.				ヤマグワ	種子	3	<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2
											(破片)	1			種子(破片)	7
						<i>Prunus persica</i> Batsch				モモ	核	25	<i>Vigna</i>	ササゲ属	炭化子葉	43
						<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.				イヌザンショウ	種子	5			(半形)	3
											(破片)	1			(破片)	40
						<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> S. et Z.				カラスザンショウ	種子(破片)	1	<i>Leguminosae</i>	マメ科	子葉	7
						<i>Zanthoxylum</i>				サンショウ属	種子(破片)	3			子葉(破片)	15
						<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.				アカメガシワ	種子(破片)	1				



第3節 種実同定

第15表 大沢谷内遺跡における種実同定結果（時代別—古代）

時代：古代			
学名	分類群	和名	部位
Arbor		樹木	
<i>Morus australis</i> Poir.		ヤマグワ	種子
<i>Magnolia borealis</i> Kudo		コブシ	種子(破片)
<i>Prunus persica</i> Batsch		モモ	核
<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.		キハダ	種子
<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.		イヌザンショウ	種子
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	種子(破片)
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子
<i>Aesculus turbinata</i> Blume		トチノキ	種子
<i>Berberia</i> Necker		クマヤナギ属	核
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara		ノブドウ	種子
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子
<i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.		マタタビ	種子(破片)
<i>Cleyera japonica</i> Thunb.		サカキ	種子(破片)
<i>Swida controversa</i> Hemsl.		ミズキ	核
<i>Stryax japonica</i> S. et Z.		エゴノキ	核(破片)
<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex graedn		ニワトコ	核
<i>Viburnum dilatatum</i>		ガマズミ	核
<i>Viburnum</i>		ガマズミ属	核
Herb		草本	
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	炭化果実
			炭化果実(破片)
<i>Setaria Beauv.</i>		エノコログサ属	穎
<i>Setaria italica</i> Beauv.		アワ	炭化果実
<i>Echinochloa</i> Beauv.		イヌビエ属	炭化果実
<i>Scirpus fluvialis</i> A. Gray		ウキヤガラ	果実
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実
<i>Carex</i>		スゲ属	果実
<i>Humulus scandens</i> Merr.		カナムグラ	種子
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実
			(破片)
			193

時代：古代			
学名	分類群	和名	部位
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	果実
			(破片)
<i>Chenopodium</i>		アカザ属	(破片)
<i>Amaranthus</i>		ヒコ属	種子
<i>Chenopodium-Amaranthus</i>		アカザ属-ヒコ属	(破片)
Caryophyllaceae		ナデシコ科	種子
<i>Euryale ferox</i> Salisb.		オニバス	種子(破片)
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属	果実(破片)
<i>Vigna</i>		ササゲ属	炭化子葉
Leguminosae		マメ科	種子
<i>Impatiens textori</i> Miq.		ツリフネソウ	種子
			(破片)
<i>Centella asiatica</i> L.		ツボクサ	果実
			(破片)
<i>Torilis Adans.</i>		ヤブジラミ属	果実
			果実(破片)
<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i> Hara		エゴマ	果実
			(破片)
<i>Perilla</i>		シソ属	果実
			(破片)
Labiatae		シソ科	果実
			(破片)
<i>Solanum nigrum</i> L.		イヌホウズキ	種子
<i>Solanum melongena</i> L.		ナス	(破片)
<i>melothria japonica</i> Maxim.		スズメウリ	種子
<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> Kitam		キカラスウリ	種子(破片)
<i>Cucumis melo</i> L.		ウリ類	種子
			(破片)
<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.		ヒョウタン類	種子
			(破片)
<i>Siegesbeckia pubescens</i> Makino		メナモミ	果実
<i>Xanthium Strumarium</i> L.		オナモミ	果実
			(破片)
Asteroidae		キク亜科	果実
Unknown seeds		不明種実	核(破片)
			種実総数
			2,987

第16表 大沢谷内遺跡における種実同定結果（時代別—中世）

時代：中世			
学名	分類群	和名	部位
Arbor		樹木	
<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr		オニグルミ	核
			核(半形)
			核(破片)
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	果実
<i>Morus australis</i> Poir.		ヤマグワ	種子
			(破片)
<i>Magnolia obovata</i> Thunb.		ホウノキ	種子
<i>Magnolia borealis</i> Kudo		コブシ	種子(破片)
<i>Prunus persica</i> Batsch		モモ	核
			核(半形)
<i>Prunus salicina</i> Lindley		スモモ	核
<i>Prunus mume</i> S. et Z.		ウメ	核
			炭化核(破片)
<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.		キハダ	種子(破片)
<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.		イヌザンショウ	種子
			(破片)
<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> S. et Z.		カラスザンショウ	種子(破片)
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	種子
			種子(破片)
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子
			(破片)
<i>Aesculus turbinata</i> Blume		トチノキ	種子
			種子(破片)
<i>Berberia</i> Necker		クマヤナギ属	核
			(破片)
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara		ノブドウ	種子(破片)
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子
			(破片)
Vitaceae		ブドウ科	種子(破片)
<i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.		マタタビ	種子
			種子(破片)
<i>Cleyera japonica</i> Thunb.		サカキ	種子
			(破片)
<i>Cornus brachyoda</i> C.A. Mey.		クマノミズキ	核
			(破片)
<i>Diospyros</i>		カキノキ属	種子
			(破片)
<i>Clerodendrum trichotomum</i> Thunb.		クサギ	核
<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex graedn		ニワトコ	核
			(破片)
<i>Viburnum dilatatum</i>		ガマズミ	核
<i>Viburnum</i>		ガマズミ属	核
			(破片)
Herb		草本	
<i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouche		ヘラオモダカ	果実
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	集塊
			穎
			穎(破片)
			炭化果実
<i>Setaria Beauv.</i>		エノコログサ属	穎
			(破片)
<i>Setaria italica</i> Beauv.		アワ	穎
			炭化果実
<i>Echinochloa</i> Beauv.		イヌビエ属	穎
			集塊
			穎
			炭化果実
<i>Hordeum vulgare</i> L.		オオムギ	炭化果実
<i>Triticum aestivum</i> L.		コムギ	炭化果実
<i>Hordeum-Triticum</i>		ムギ類	炭化果実
			(破片)

時代：中世			
学名	分類群	和名	部位
<i>Scirpus fluvialis</i> A. Gray		ウキヤガラ	果実
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実
			(破片)
<i>Carex</i>		スゲ属	果実
			(破片)
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実
<i>Anetium Keisak</i> Hassk.		イボクサ	種子
<i>Cannabis sativa</i> L.		アサ	種子
			(破片)
<i>Humulus scandens</i> Merr.		カナムグラ	種子
			(破片)
<i>Cannabis sativa</i> L.- <i>Humulus scandens</i> Merr.		アサ-カナムグラ	種子(破片)
<i>Fagopyrum esculentum</i> Moench		ソバ	果実
			果実(破片)
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実
			(破片)
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	果実
			(破片)
<i>Rumex</i>		ギンギン属	果実
<i>Chenopodium</i>		アカザ属	種子
			(破片)
<i>Euryale ferox</i> Salisb.		オニバス	種子
			種子(破片)
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属	果実
<i>Astragalus</i>		ゲンゲ属	種子
			子葉
<i>Vigna</i>		ササゲ属	炭化子葉
			(半形)
<i>Glycine max</i>		ダイズ	子葉
Leguminosae		マメ科	集塊
			種子
			種子
			(破片)
<i>Impatiens textori</i> Miq.		ツリフネソウ	種子
<i>Centella asiatica</i> L.		ツボクサ	果実
<i>Torilis Adans.</i>		ヤブジラミ属	果実
Apioidae		セリ亜科	果実
			果実(破片)
<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i> Hara		エゴマ	果実
			(破片)
<i>Ajuga</i>		キランソウ属	果実
			(破片)
<i>Perilla</i>		シソ属	果実
			(破片)
<i>Moxla</i>		イヌコウジュ属	果実
<i>Solanum nigrum</i> L.		イヌホウズキ	種子
<i>Solanum melongena</i> L.		ナス	種子
			(破片)
<i>Actinostemma Lobatum</i>		ゴキツル	種子(破片)
<i>Benincasa hispida</i> Cogn.		トウガン	種子(破片)
<i>Melothria japonica</i> Maxim.		スズメウリ	種子(破片)
<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> Kitam		キカラスウリ	種子
			種子(破片)
<i>Cucumis melo</i> L.		ウリ類	種子
			(破片)
<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.		ヒョウタン類	種子
			(破片)
<i>Eclipta prostrata</i> L.		タカサブロウ	果実
Unknown seeds		不明種実	核
			(破片)
Unknown		不明	(破片)
			種実総数
			69,386

第 17 表 大沢谷内遺跡におけるモモ核計測値 (古代)

時代：古代								
調査回数	調査区	出土位置		試料番号	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
		遺構	グリット					
21次	8区	SE201	5G-4H13	1	4層	26.99	18.51	13.26
						26.59	19.73	13.60
						29.63	21.84	15.66
						28.48	20.69	14.05
						25.33	17.75	12.64
20次	9区	SE3579		38		22.05	21.38	15.18

第 18 表 大沢谷内遺跡におけるモモ核計測値 (中世)

時代：中世								
調査回数	調査区	出土位置		試料番号	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
		遺構	グリット					
21次	8区	SE845	5G-9I9	41	5層	28.60	18.90	-
						20.24	13.59	11.53
		SE1068	4G-10H12	42	1層	18.21	14.08	11.96
						21.67	15.08	11.75
		SE1643	5G-2I12・13	46	4層	25.55	19.06	14.01
						27.38	19.55	15.71
						27.08	20.60	15.37
						25.51	18.00	12.53
						28.33	20.48	14.69
						24.25	17.95	13.63
						27.37	18.86	15.27
						25.36	17.00	12.67
						25.53	19.01	13.41
						26.22	20.28	15.84
						26.74	19.24	14.54
						30.19	22.08	15.70
						28.02	19.02	14.53
		25.45	19.57	13.82				
		30.12	22.29	15.68				
		23.52	16.27	14.02				
		SE2375	5G-2I12・13	48	4層	28.09	20.94	15.22
						27.61	19.31	13.57
						28.22	21.20	14.48
						22.31	16.03	11.53
						26.06	21.35	16.51
						24.02	15.11	11.67
						24.83	17.65	14.27
						26.60	18.08	13.41
						24.26	18.08	12.69
						28.06	19.24	-
						26.81	19.95	15.02
						27.05	20.44	15.05
						27.68	19.35	14.63
		27.17	21.21	15.37				
		28.73	20.36	13.87				
		SK1570	5G-1H12	52	3層	28.41	19.65	14.11
						29.80	19.60	14.24
						25.89	18.25	13.83
						25.82	18.38	13.04
						27.79	18.77	12.74
						23.77	18.60	15.10
						28.25	20.05	14.41
						24.66	18.22	13.79
						25.54	17.70	12.96
						25.81	19.16	14.37
						25.32	20.65	14.84
						29.45	21.59	16.25
						23.66	17.53	14.35
		24.66	16.77	11.71				
		24.24	15.60	12.95				
		21.40	15.21	12.44				
		26.14	17.02	11.77				
26.15	18.84	13.44						
SX1306	4G-10H22	9	5層	26.44	19.18	14.47		
				29.37	21.17	16.14		
				25.48	18.06	13.37		
				23.25	17.56	14.04		
				21.32	16.63	11.54		
				29.36	20.86	13.97		
				27.04	24.68	17.77		
				26.60	18.25	12.01		
				25.03	17.87	13.73		
				24.68	16.86	12.06		
				26.62	19.70	14.13		
				27.18	21.15	14.47		
				27.33	20.28	15.78		
5G-1H7	17	5層	25.53	18.09	12.63			
			25.68	19.69	15.03			
			25.44	18.57	15.06			
			28.50	20.57	14.50			
			25.54	19.59	14.52			
			25.94	18.69	13.93			
			24.50	18.60	13.76			
			24.28	18.92	13.23			
			25.06	17.65	12.75			
			24.99	18.20	-			
			25.97	21.78	16.14			
			27.09	19.16	15.54			
			24.85	19.11	-			
25.93	16.93	-						
26.87	18.26	13.22						
25.95	17.75	13.62						
24.96	18.04	13.57						
5G-1H8	19	5層	27.22	19.71	15.16			
			27.29	19.92	16.03			
			25.43	18.65	13.32			
			24.88	18.53	13.68			
			26.65	19.20	13.83			
			27.07	18.89	15.35			
			28.98	18.45	14.07			
			28.30	18.27	14.17			
			27.55	20.68	15.20			
			27.01	20.92	15.34			
			27.69	21.28	15.95			
			26.40	20.04	15.88			
			28.69	22.70	17.29			
26.81	19.95	15.02						
27.05	20.44	15.05						
27.68	19.35	14.63						
27.17	21.21	15.37						
28.73	20.36	13.87						
27.39	18.80	13.81						
25.58	19.03	14.95						
26.49	17.79	13.11						
25.75	17.82	-						
5G-1H12	21	8層	27.05	19.76	13.82			
			27.50	20.36	14.60			
			27.44	20.03	14.33			
			26.19	19.07	12.90			
			26.75	21.90	17.15			
			30.40	22.54	15.46			
			25.36	19.95	14.83			
			23.08	18.30	14.27			
			21.45	15.78	-			
			21.77	15.30	-			
			27.59	20.95	14.30			
			26.56	20.90	13.99			
			25.07	18.74	13.11			
25.91	20.17	13.78						
26.56	20.79	13.80						
25.56	19.60	15.33						
25.17	16.63	13.07						
25.81	19.64	14.84						
26.76	20.19	13.84						
24.49	16.85	12.20						

時代：中世														
調査回数	調査区	出土位置		試料番号	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)						
		遺構	グリット											
21次	8区	SX1306	5G-1H13	25	8層	23.57	18.23	13.61						
						28.96	17.77	11.98						
						25.66	16.89	13.29						
						25.27	18.71	13.06						
						25.10	16.63	12.91						
						32.78	20.10	16.25						
						25.40	18.14	13.29						
						26.18	20.77	15.79						
						5G-1H17	27	5層	26.57	19.72	13.59			
									25.46	17.89	13.56			
									26.78	17.58	13.60			
									24.14	18.07	13.27			
									26.01	16.96	13.33			
									23.04	17.20	12.44			
									25.71	19.44	13.44			
									27.23	19.06	13.56			
									25.66	18.57	13.52			
									26.80	19.42	13.91			
									5G-1H18	29	2層	26.08	21.98	-
												32.18	24.82	18.84
									5G-1H18	30	5層	26.90	22.25	15.01
												27.32	22.02	18.57
												30.12	-	17.60
												24.58	-	15.41
												22.52	16.09	-
												23.70	18.08	-
						26.12	18.92	14.20						
						24.76	17.38	13.30						
						29.06	21.13	15.91						
						25.34	15.34	13.85						
						27.11	20.27	15.02						
						25.87	17.94	13.89						
						25.63	18.56	13.83						
						24.36	17.68	12.74						
						22.01	16.98	13.06						
						26.82	18.55	13.96						
						24.49	19.15	14.57						
						26.65	18.74	14.08						
						24.02	19.91	14.62						
						21.55	18.97	15.46						
						25.67	17.77	14.02						
						26.22	22.10	16.47						
23.91	18.04	-												
5G-1H18	31	8層	25.60	16.38	12.56									
			26.47	20.07	16.34									
			31.05	20.45	14.91									
			23.65	16.42	11.99									
			25.38	20.06	15.81									
			25.51	18.37	-									
			28.95	23.60	16.36									
			22.60	17.01	12.12									
			25.56	17.20	12.36									
			25.60	16.38	12.56									
			26.47	20.07	16.34									
			31.05	20.45	14.91									
SD121	5G-6I18	60	8層	28.29	17.81	12.80								
				31.05	20.45	14.91								
				23.65	16.42	11.99								
				25.38	20.06	15.81								
				25.51	18.37	-								
				28.95	23.60	16.36								
				22.60	17.01	12.12								
				25.56	17.20	12.36								
				25.60	16.38	12.56								
				26.47	20.07	16.34								
				31.05	20.45	14.91								
				23.65	16.42	11.99								
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37	-												
28.95	23.60	16.36												
22.60	17.01	12.12												
25.56	17.20	12.36												
25.60	16.38	12.56												
26.47	20.07	16.34												
31.05	20.45	14.91												
23.65	16.42	11.99												
25.38	20.06	15.81												
25.51	18.37													

648、アカザ属 161、マメ科 135、アサ 114、シソ属 104、ホタルイ属 85、タデ属サナエタデ節 77、不明種実 47、タデ属 42、スゲ属 39、ナス 39、エゴマ 34、ムギ類 31、ササゲ属 25、ウリ類 25、カナムグラ 24、ヒョウタン類 23、エノコログサ属 9、オオムギ 9、カヤツリグサ科 6、ヤブジラミ属 5、不明 5、ツボクサ 4、ゲンゲ属 3、イヌコウジュ属 3、アサーカナムグラ 2、ギシギシ属 2、オニバス 2、キカラスウリ 2、ヘラオモダカ 1、コムギ 1、ソバ 1、ダイズ 1、ツリフネソウ 1、イヌホウズキ 1、ゴキヅル 1、イボクサ 1、タカサブロウ 1 が検出された。

・SX3521 草本種実のアサ 33、イネ 30、ホタルイ属 13、シソ属 13、スゲ属 12、タデ属 10、ウリ類 10、ゲンゲ属 7、アカザ属 6、タカサブロウ 6、キランソウ属 3、エノコログサ属 2、ムギ類 2、オニバス 2、イヌビエ属 1、タデ属サナエタデ節 1、セリ亜科 1、エゴマ 1、ナス 1 と続き、樹木種実のイヌザンショウ 4、カラスザンショウ 1、ノブドウ 1 が検出された。

## 5) 考 察

### (1) 古 代

① 検出傾向 SE201 では、多い順にホタルイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、スゲ属、カナムグラ、SE2383 ではタデ属サナエタデ節、タデ属、カナムグラ、SE3579 ではカナムグラ、タデ属、ツリフネソウ、オナモミが多く、これらの種実の検出数の多い井戸では、雑草類が多く出現する。一方、SK3227 ではイネが主で、比較的検出総数の少ない SE2457 ではナス、イネ、ウリ類がやや多く、土坑および検出数の少ない井戸は栽培植物および利用された種実が多い。このことは、土坑には残滓が廃棄されたが、井戸には周囲で利用された栽培植物が落ち込んだためと推定される。

② 栽培植物 栽培植物としては、SE201 では多いものからナス、ウリ類、ヒョウタン類、イネ、モモ、SE2383 ではウリ類、ヒョウタン類、ナス、イネ、ササゲ属、SE2457 ではナス、イネ、ウリ類、SE3579 ではエゴマ、ウリ類、イネ、アワ、ナス、SE3579 ではエゴマ、ウリ類、イネ、アワ、ナスが検出される。遺構により出現傾向は異なるが、全体として、イネ、ウリ類、ヒョウタン類、ナス、エゴマが多く、アワ、イヌビエ属、ムギ類、ササゲ属は少ない。果樹ではモモが多く、スモモが検出された。

③ 採集植物 食用として採集された種実は、SE201 では多いものからオニバス、シソ属、トチノキ、ヤマグワ、ブドウ属、SE2383 ではガマズミ属、ヤマグワ、ブドウ属、SE3579 ではガマズミ、ブドウ属、ガマズミ属、マタタビ、SK3227 ではトチノキが検出されている。以上から、採集され食用に利用された種実には樹木が多く、オニグルミ、ヤマグワ、ブドウ属、マタタビ、カキノキ属、ガマズミ、ガマズミ属が同定された。また、SE201、SE2383、SE3579、SK3227 ではシソ属が検出され、栽培である可能性も高い。

④ 周辺環境 SE201 では、ホタルイ属、タデ属サナエタデ節、スゲ属、ウキアガラの水生植物ないし水田雑草が多く、タデ属、カナムグラ、マメ科、アカザ属、エノコログサ属の畑作雑草ないし人里に多い植物が出現する。SE2383 では、タデ属サナエタデ節、スゲ属の水生植物ないし水田雑草、タデ属、カナムグラ、ツボクサ、ヤブジラミ属、オナモミ、アカザ属-ヒユ属、エノコログサ属、ナデシコ科、スズメウリ、メナモミの畑作雑草ないし人里に多い植物が出現する。SE2457 では、タデ属、カナムグラの畑作雑草ないし人里に多い植物、タデ属サナエタデ節の水生植物が出現する。

SE3579 では、カナムグラ、タデ属、オナモミ、ヒユ属、シソ科、キク亜科、アカザ属、キンボウゲ属、イヌホウズキ、スズメウリ、キカラスウリの畑作雑草ないし人里に生育する植物が多い。また SE3579 ではツリフネソウが多く、ツリフネソウは人里の縁辺の谷際などの多い。SK3227 でもアカザ属、イヌビエ属、タデ属の畑作雑草ないし人里に多い植物ばかりである。以上から、草本が多く、水田雑草にもなる水生植物、畑作雑草ないし人里に多い植物が多いのが特徴で、周辺にこれらが生育し水田ないし畑地が分布していたとみなされる。また、SE201 では水生植物がとくに多く、周囲が低湿な環境であったと推定される。SE2383 では、タデ属サナエタデ節がとくに多く、周囲に流れをもつ環境の存在が推定される。その他は畑作雑草ないし人里に多い植物

が多く、周囲が畑地から集落の環境であったと示唆される。

樹木は少ないものの、SE201ではアカメガシワ、コブシ、サカキ、SE2383ではアカメガシワ、ノブドウ、ニワトコ、クマヤナギ属、キハダ、ミズキ、サンショウ属、エゴノキ、SE2457ではイヌザンショウ、SE3416ではイヌザンショウ、SE3579ではノブドウ、ミズキ、クマヤナギ属、アカメガシワが検出され、いずれも二次林を形成する樹木ないし人里に生育する樹木が多い。

## (2) 中 世

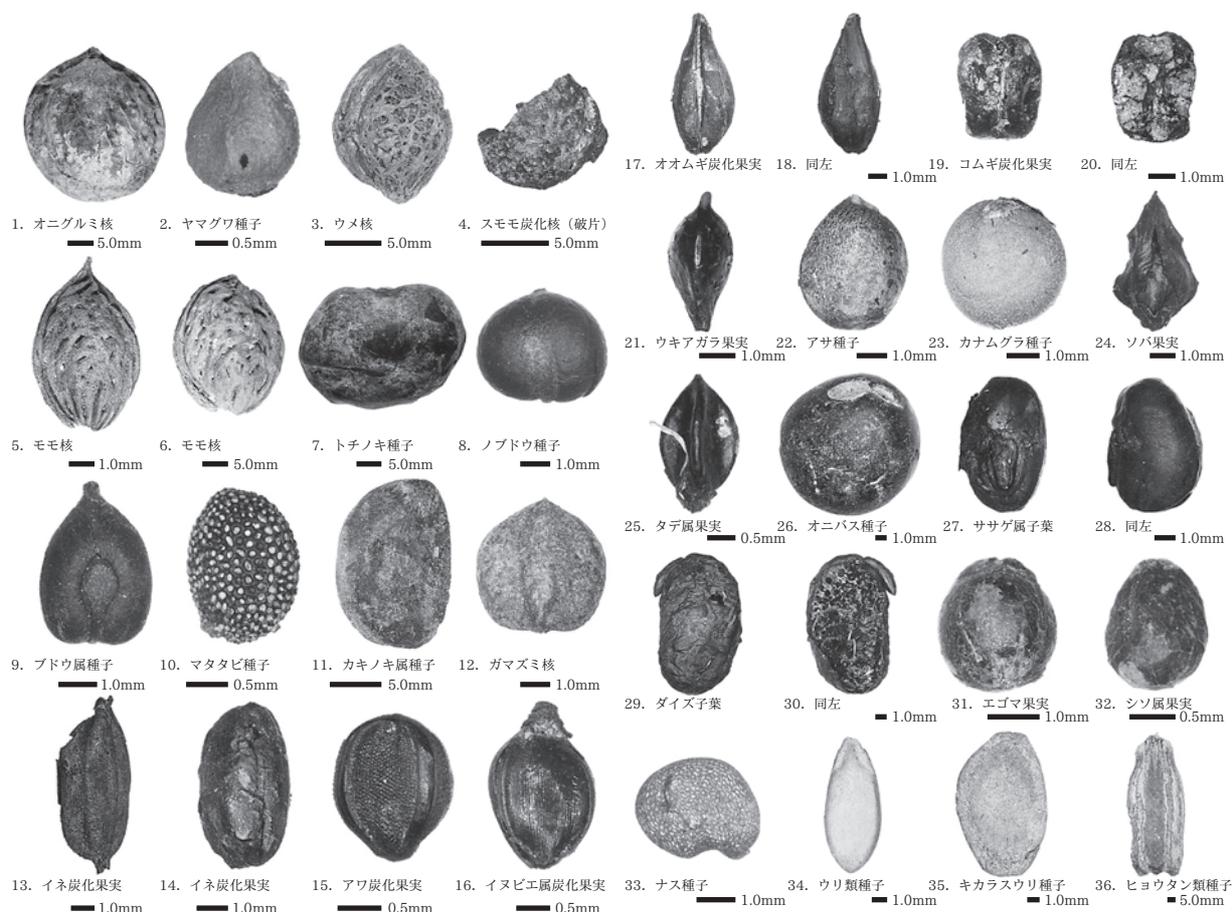
① 検出傾向 SE845ではアサ、イネ、ウキアガラ、ウリ類、SE1643ではイネ、ササゲ属、ウキアガラ、アサ、イヌビエ属、ホタルイ属、マメ科、スゲ属、オオムギ、タデ属、ムギ類、エゴマ、SE2375ではイネ、アサ、ナス、ウリ類、オオムギ、コムギが多く、SD121ではキカラスウリが多い。SX1306ではモモ、トチノキ、オニグルミ、スモモ、ヒョウタン類、アサなど、SX2140ではイヌビエ属（栽培）、イネ、アワ、ウキアガラ、アカザ属、マメ科、アサ、シソ属、ホタルイ属、タデ属サナエタデ節、タデ属、スゲ属、ナス、エゴマ、ムギ類、ササゲ属、ウリ類、カナムグラ、ヒョウタン類、SX3521ではアサ、イネ、ウリ類が多い。このことから栽培植物が極めて多い傾向が示唆され、前時期より集約性が高くなったと推定される。

② 栽培植物 SE845では、多いものからアサ、イネ、ウリ類、ムギ類、ナス、ササゲ属、エゴマ、モモ、SE1068からモモ、SE1643ではイネが多く、ササゲ属、アサ、イヌビエ属、スゲ属、オオムギ、ムギ類、エゴマ、アワ、コムギ、ウリ類、ヒョウタン類、ソバが検出される。SE2375ではイネが多く、アサ、ナス、ウリ類、オオムギ、コムギ、エゴマ、ササゲ属、ムギ類、ヒョウタン類、SK1570ではモモ、SD121ではトウガン、オオムギ、ムギ類、モモ、SX1306ではモモ、スモモ、ヒョウタン類、アサ、イネ、ナス、ウリ類、SX2140ではイヌビエ属（栽培）が極めて多く、アワ、アサ、ナス、エゴマ、ムギ類、ササゲ属、ウリ類、ヒョウタン類、オオムギ、コムギ、ソバ、ダイズ、SX3521ではアサ、イネ、ウリ類、ムギ類、イヌビエ属、エゴマ、ナスが同定された。栽培植物の種類も多いが、イネやイヌビエ属（栽培）が極めて多い特徴があり、主要作物であったとみなされる。なお、果樹ではモモが検出された。

③ 採集植物 SE845ではヤマグワ、SE1068ではトチノキ、SK1570ではトチノキ、SD121ではオニグルミ、SX1306ではトチノキ、オニグルミ、カキノキ属、SX2140ではオニバス、SX3521ではオニバスが検出がされ、果樹が多いが全体に少ない。そのため食用における採集の比率が前時期より低くなった可能性が示唆される。なお、SE1643とSX2140からシソ属が検出されるが、栽培の可能性もある。

④ 周辺環境 草本が多く、SE845ではウキアガラ、ホタルイ属、タデ属、セリ亜科、ギンギシ属、キンポウゲ属の水生植物ないし水田雑草、SE2375ではホタルイ属、ウキアガラ、スゲ属、ギンギシ属の水生植物ないし水田雑草、ゴキヅル、キカラスウリ、ゲンゲ属、タカサブロウの畑作雑草ないし人里に多い草本が検出された。SE1643ではウキアガラ、ホタルイ属、スゲ属、タデ属サナエタデ節、ギンギシ属の水生植物ないし水田雑草、マメ科、タデ属、アカザ属、エノコログサ属、スズメウリ、タカサブロウの畑作雑草ないし人里に生育する草本が検出された。

SX1306では、キカラスウリを主として、ほかにアカザ属、タデ属、マメ科の畑作雑草ないし人里に多い植物が出現する。SX2140では、ウキアガラ、ホタルイ属、スゲ属、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ギンギシ属、ヘラオモダカ、イボクサの水生植物ないし水田雑草、アカザ属、マメ科、タデ属、カナムグラ、エノコログサ属、ヤブジラミ属、ツボクサ、ゲンゲ属、イヌコウジュ属、キカラスウリ、イヌホウズキ、ゴキヅル、タカサブロウの人里植物ないし畑作雑草が検出される。ほかに、谷際などに生育するツリフネソウが検出される。SX3521では、ホタルイ属、スゲ属、タデ属サナエタデ節、セリ亜科の水生植物ないし水田雑草、タデ属、ゲンゲ属、アカザ属、タカサブロウ、キランソウ属、エノコログサ属の畑作雑草や人里に多い植物が出現する。SD121ではキカラスウリが多く、溝の周辺に生育していたと推定される。以上のことから、草本が多く、水田雑草にもなる水生植物、畑作雑草ないし人里に多い植物が大部分を占め、周辺にこれらが生育し水田ないし畑地



第 32 図 大沢谷内遺跡の種実

が分布していたとみなされる。

樹木は極めて少なく、SE845 ではカラスザンショウ、サカキ、SX1306 ではホオノキ、コブシ、SX3521 ではイヌザンショウ、カラスザンショウ、ノブドウ、SD121 ではニワトコ、クサギが検出された。イヌザンショウ、カラスザンショウ、ホオノキ、コブシ、ノブドウ、ニワトコ、クサギは二次林を形成するか人里に多い樹木である。前時期より樹木が減少している。

#### 6) ま と め

大沢谷内遺跡における古代から中世にかけての井戸および土坑から検出された種実類には、栽培植物が多いことが最大の特徴である。古代ではイネ、ヒョウタン類、ナス、エゴマが多く、中世では遺構によって集中し、イネ、イヌビエ属（栽培）が極めて多く、アワもやや多い。このことから、古代では主要作物がイネであるのに対し、中世になるとイヌビエ属（栽培）やアワの畑作の雑穀類も多くなり、主要作物の変化がみられ、畑作の比重が高くなったことが考えられる。また、オオムギ、コムギのムギ類やソバ、ササゲ属は、両時代を通じてやや少ないことも特徴である。なお、栽培植物は前記以外にもアサやダイズが検出された。栽培植物以外で検出される草本は水田雑草でもある水生植物と畑作雑草ないし人里に多い植物がほとんどで、周辺には水田ないし畑地が広がっていたことが示唆された。

中世の遺構からは樹木の種実がほとんど検出されず、農耕地がより拡大したと推定される。なおモモの計測から、古代より中世のモモ核は、幅と厚さがやや小さくなる。これは古代から中世にみられる傾向〔金原 1996〕と一致する。

## 第4節 樹種同定

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体で、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### A 8 区

#### 1) 試料

試料は、実測遺物から選択した木製品 45 点である (第 21 表)。

#### 2) 同定方法

次の手順で樹種同定を実施した。

① 試料を洗浄して付着した異物を除去。② カミソリで木材の基本的三断面 (横断面: 木口, 放射断面: 柾目, 接線断面: 板目) の切片を作成。③ 生物顕微鏡 (40 ~ 1000 倍) で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定。

#### 3) 結果

第 21 表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す (第 33・34 図)。以下に同定根拠となった特徴を記す。

① イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* K. Koch イヌガヤ科 写真 1 仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面: 早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は非常に狭く、樹脂細胞が散在する。放射断面: 放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型で 1 分野に 1 ~ 2 個存在する。仮道管の内壁にらせん肥厚が存在する。樹脂細胞が散在する。接線断面: 放射組織は単列の同性放射組織型で 1 ~ 10 細胞高ぐらいである。仮道管の内壁にらせん肥厚が存在する。樹脂細胞が多く見られる。以上の形質よりイヌガヤに同定される。イヌガヤは、岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の低木または小高木で、高さ 10 ~ 15m、径 20 ~ 30cm である。材は、やや堅硬で木理は緻密であるが不整でしばしば波状を呈する。建築、器具、土木、ろくろ細工、薪炭などに用いられる。

② マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 写真 2 仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面: 早材から晩材への移行は急で垂直樹脂道が見られる。放射断面: 放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面: 放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。以上の形質よりマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属には、クロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。材は水湿によく耐え、

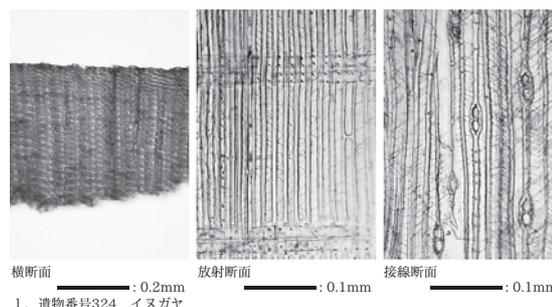
第 21 表 大沢谷地遺跡 8 区における樹種同定結果

遺物番号	調査区	調査回数	遺構	結果 (学名/和名)
254	8区	21次	SE119	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
255	8区	21次	SE155	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
257	8区	21次	SE768	ring-porous wood 環孔材
258	8区	21次	SE865	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
259	8区	21次	SE920	<i>Phellodendron</i> キハダ属
261	8区	21次	SE1020	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
264	8区	21次	SE1045	broad-leaved tree 広葉樹
265	8区	21次	SE1068	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
266	8区	21次	SE1068	<i>Distylium racemosum</i> Sieb. et Zucc. イスノキ
267	8区	21次	SE1140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
269	8区	21次	SE1216	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
270	8区	21次	SE1320	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
271	8区	21次	SE1586	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
275	8区	21次	SE1643	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
277	8区	21次	SE1871	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
278	8区	21次	SE1871	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
284	8区	21次	SE1871	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
285	8区	21次	SE2313	<i>Kalopanax pictus</i> Nakai ハリギリ
286	8区	21次	SE2326	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
289	8区	21次	SE2375	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
290	8区	21次	SE2375	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
293	8区	21次	SE2375	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
296・297	8区	21次	SE2383	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
299	8区	21次	SK1570	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
300	8区	21次	SK1570	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
301	8区	21次	SK1570	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
303	8区	21次	SD121	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
304	8区	21次	SD121	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
305	8区	21次	SD121	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複維管束亜属
306	8区	21次	SX1306	<i>Pterocarya rhoilii</i> Sieb. et Zucc. サワグルミ
307	8区	21次	SX1306	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
308	8区	21次	SX1306	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
309	8区	21次	SX1306	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
310	8区	21次	SX1306	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
311	8区	21次	SX1306	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
312	8区	21次	SX1306	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
313	8区	21次	SX1306	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrsus</i> ハンノキ属ハンノキ節
316	8区	21次	SX1306	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
317	8区	21次	SX1306	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
318	8区	21次	SX1306	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
320	8区	21次	P942	<i>Ostrya japonica</i> Sarg. アサダ
321	8区	21次	P1434	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
322	8区	21次	P2480	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
323	8区	21次	P2009	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc. カツラ
324	8区	21次	SE1068	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K. Koch イヌガヤ

広く用いられる。

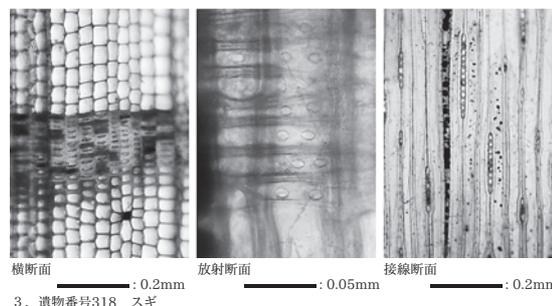
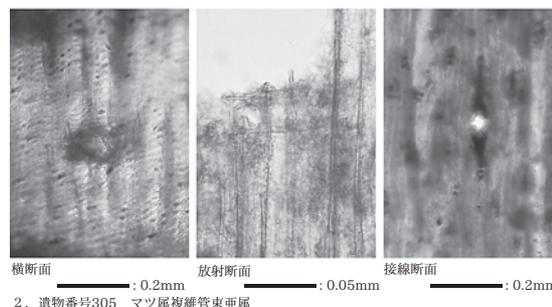
③ スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科 写真3・4

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。



④ ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 写真5

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で1～15細胞高である。以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱、耐朽性、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。



第33図 大沢谷内遺跡の木製品(1)

⑤ サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc クルミ科 写真6

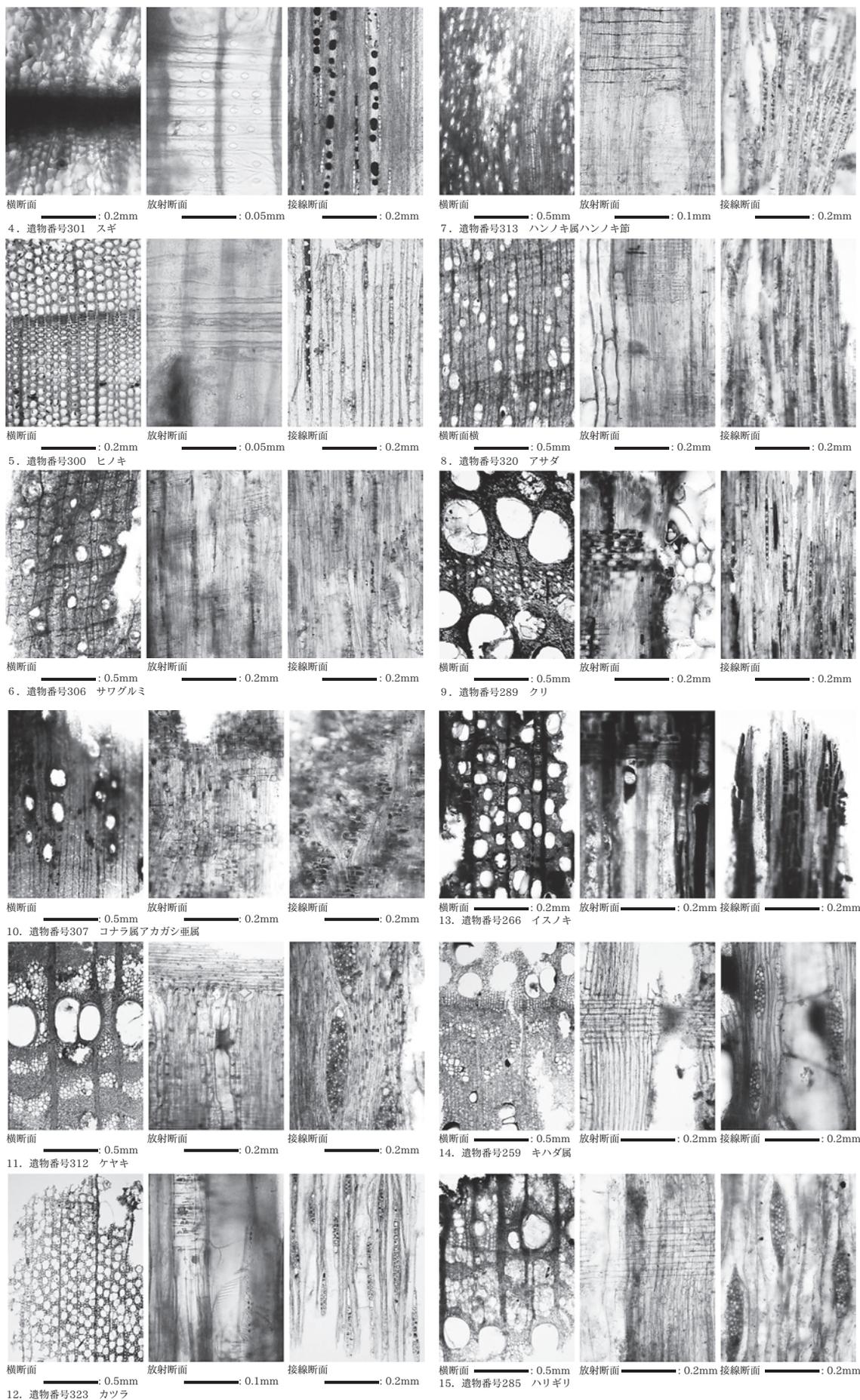
横断面：大型で丸い道管が単独あるいは2～4個放射方向に複合し、全体としてやや放射方向に配列する傾向を示して、まばらに散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。軸方向柔細胞が接線状に配列し波状を示す。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～2細胞幅で細い。以上の形質よりサワグルミに同定される。サワグルミは、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ30m、径1mに達する。材は耐朽性、保存性は低いが、下駄、マッチの軸、器具、家具などに用いられる。

⑥ ハンノキ属ハンノキ節 *Alnus* sect. *Gymnothyrsus* カバノキ科 写真7

横断面：小型で丸い道管が放射方向に連なる傾向をみせて散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～30本ぐらいである。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の集合状のものからなる。以上の形質よりハンノキ属ハンノキ節に同定される。ハンノキ属ハンノキ節は落葉の高木である。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

⑦ アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 写真8

横断面：小型で丸い道管が単独あるいは2～4個放射方向に複合してややまばらに散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁には微細ならせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが上下の縁辺部には方形細胞が見られる。接線断面：放射組織は上下の縁辺部が方形細胞からなる異性放射組織型で1～3細胞幅である。以上の形質よりアサダに同定される。アサダは、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は耐朽性および保存性は中庸で、建築、家具、器具、土木、船舶、車両などに用いられる。



第 34 図 大沢谷内遺跡の木製品 (2)

⑧ クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真9 横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

⑨ コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真10 横断面：中型から大型の道管が年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

⑩ ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科 写真11 横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径3mに達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

⑪ カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科 写真12 横断面：小型で薄壁の角張った道管が単独ないし2～3個複合してかなり密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40本ほどである。放射組織は異性である。道管内にチロースが多数存在する。接線断面：放射組織は異性放射組織型で2細胞幅である。以上の形質よりカツラに同定される。カツラは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmであるが、大きいものは高さ35m、径2mに達する。材は軽軟で靱性であり加工しやすく、建築材などに用いられる。

⑫ イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc. マンサク科 写真13 横断面：小型でやや角張った道管がほぼ単独に散在する散孔材である。軸方向柔細胞が接線方向に向かって黒い線状に並んで見られ、ほぼ一定の間隔で規則的に配列する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく10本程度である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、ほとんどが1～3細胞幅である。以上の形質よりイスノキに同定される。イスノキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1mに達する。耐朽性および保存性の高い材で、建築、器具、楽器、ろくろ細工、櫛、薪炭などに用いられる。

⑬ キハダ属 *Phellodendron* ミカン科 写真14 横断面：年輪のはじめに大型でやや厚壁の丸い道管が単独あるいは2個複合して2～3列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で方形の小道管が多数集合して斜め方向および接線方向に帯状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は同性である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。接線断面：放射組織は多列の同性放射組織型で、紡錘形を呈する。幅は1～3細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。以上の形質よりキハダ属に同定される。キハダ属には、キハダ、ヒロハノキハダなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1mに達する。

⑭ ハリギリ *Kalopanax pictus* Nakai ウコギ科 写真 15 横断面：年輪のはじめに大型の道管が1列配列する環孔材である。孔圏部外では小型の道管が多数複合して接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織はほとんど平伏細胞であるが、上下の縁辺部には方形細胞が見られる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～5細胞幅である。以上の形質よりハリギリに同定される。ハリギリは、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木である。

⑮ 環孔材 ring-porous wood 横断面：道管が存在する。放射断面：放射組織は異性である。大きな道管とらせん肥厚を有する小道管が見られる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で5細胞幅ぐらいまでである。以上の形質より環孔材に同定される。本試料はキハダ属の樹種に類似するが、不明瞭な点も多いことから環孔材の同定にとどめた。

⑯ 広葉樹 broad-leaved tree 横断面：道管が存在する。放射断面：道管と異性の放射組織が存在する。接線断面：道管と多列幅の放射組織が存在する。以上の形質より広葉樹に同定される。試料が小片で広範囲の観察が困難なため、広葉樹の同定にとどめた。

#### 4) 考 察

樹種同定の結果、スギ20点、ケヤキ7点、クリ4点、ヒノキ2点、イヌガヤ1点、マツ属複雑管束亜属1点、サワグルミ1点、アサダ1点、ハンノキ属ハンノキ節1点、コナラ属アカガシ亜属1点、カツラ1点、イスノキ1点、キハダ属1点、ハリギリ1点、環孔材1点、広葉樹1点が同定された。

樹種ではスギが最も多く、発火具、浮子、履物、底板（蓋板）、籠杓子、折敷、呪符、羽子板、栓、井戸など広く使用されている。木材は木理通直で肌目は粗く、加工工作が容易で、大きな材がとれる良材である。ケヤキは紡錘車、椀、皿、盤に使用されており、概して強く強靱、従曲性に富み、耐朽性、保存性は高く水湿にもよく耐える材である。クリは皿、椀、柱に使用されており、重硬で保存性が良い材である。ヒノキは籠杓子、栓に使用されており、木理通直で肌目緻密、大きな材が取れる良材でとくに保存性が高い。イヌガヤは自然遺物の枝であり、やや硬硬で緻密な材である。マツ属複雑管束亜属は発火具に使用されており、木理は概ね通直で、肌目は粗く、水湿に良く耐える材である。サワグルミは鋏に使用されており、強い材ではなく、保存性は低く変色腐朽しやすい。

アサダは柱に使用されており、概してやや強い材で、耐朽性および保存性は中庸で、切削、加工がやや困難な材である。ハンノキ属ハンノキ節は槽に使用されており、概ね強さ中庸の材である。コナラ属アカガシ亜属は紡錘車に使用されており、硬質な材である。カツラは田下駄に使用されており、軽軟均質で、耐朽性および保存性は低く、切削、加工が極めて容易な材である。イスノキは櫛に使用されており、重硬で耐朽性が高い材である。キハダ属は皿に使用されており、概してやや軽軟な材である。ハリギリは椀に使用されており、耐朽性および保存性は高くなく、切削、加工が容易な材である。環孔材は椀、広葉樹は炭化材（その他）であった。

漆器類11点のうち、椀6点はケヤキ3点、クリ1点、ハリギリ1点、環孔材1点、皿3点はクリ1点、ケヤキ1点、キハダ属1点、盤2点はケヤキである。履物の下駄差歯（歯）5点は全てスギ、柱根3点はクリ2点、アサダ1点である。

スギ、マツ属複雑管束亜属、ヒノキ、イヌガヤは温帯に広く分布する針葉常緑高木である。広葉樹のうち、ケヤキ、クリ、サワグルミ、アサダ、ハンノキ属ハンノキ節、コナラ属アカガシ亜属、カツラ、キハダ属、ハリギリは温帯に広く分布する落葉高木である。コナラ属アカガシ亜属、イスノキは常緑樹であり、温帯下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木である。

大沢谷内遺跡の発掘調査で検出された木製品にはスギが多用される特徴があるものの、照葉樹を含む多様な樹種が利用されており、流通によって遠方からもたらされたものも含まれていると考えられる。

## B 8 ・ 9 区

### 1) 同定試料

試料は、実測遺物から選択した木製品 52 点である (第 22 表)。

### 2) 方法

次の手順で樹種同定を実施した。

① 試料を洗浄して付着した異物を除去。② カミソリで木材の基本的三断面 (横断面: 木口, 放射断面: 柾目, 接線断面: 板目) の切片を作成。③ 生物顕微鏡 (40 ~ 1000 倍) で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定。

### 3) 結果

第 22 表に同定結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す (第 35 図)。次に同定の根拠となった特徴を記す。

#### ① マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状を呈し、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。以上の特徴から、マツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属には、クロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木である。材は水湿によく耐え、広く用いられる。

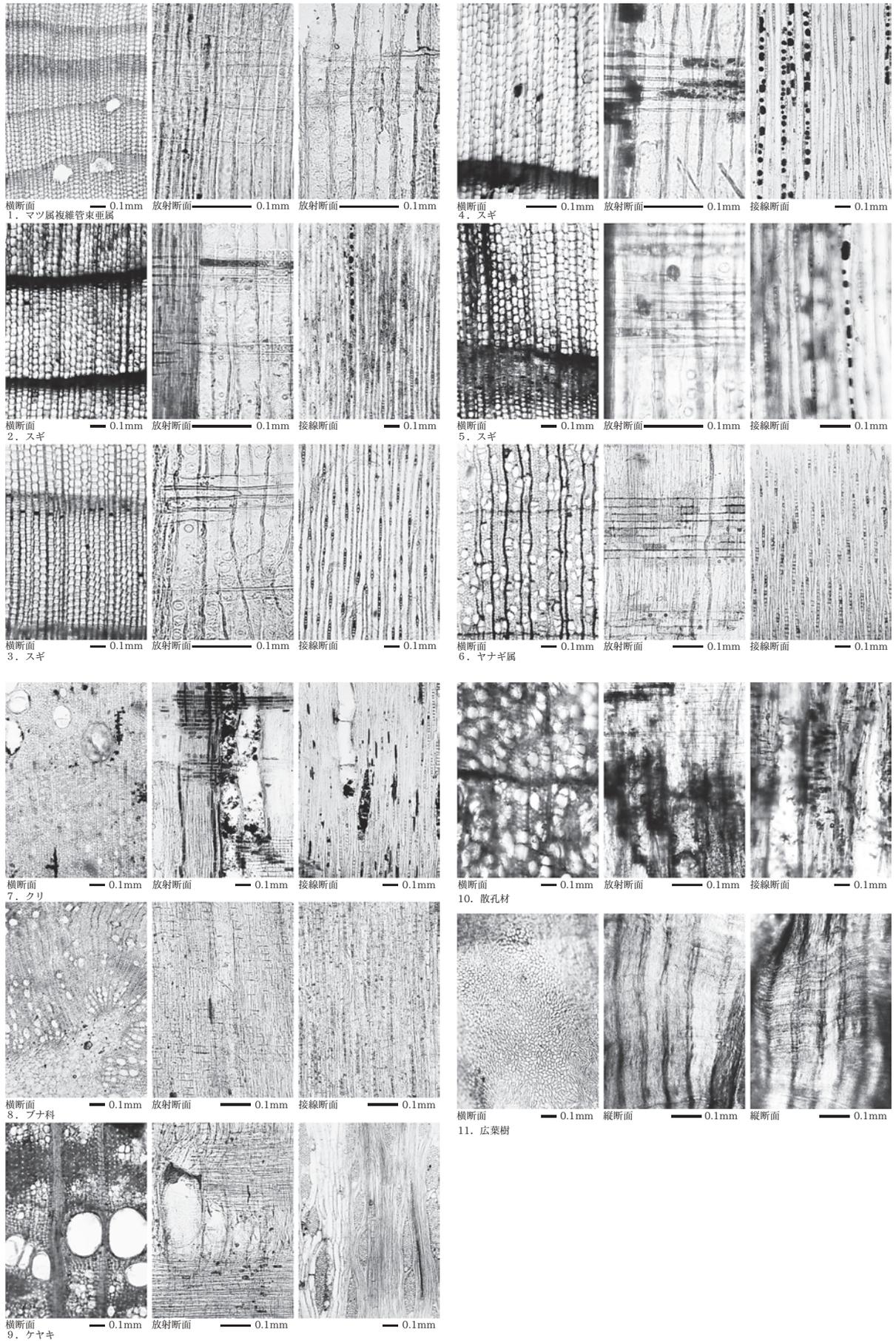
② スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科 仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1 分野に 2 個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で、10 細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。本試料では、分野壁孔が鮮明に残るものから、腐朽で不鮮明なものまでがあった。腐朽の著しいものは仮導管にもらせん状の腐朽痕が入っている。また、試料 7 枚もじや試料 19 しゃもじは、放射柔細胞などの細胞内に内容物が観察される。以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ 40m、径 2m に達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

③ ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 小型で丸い、放射方向にややのびた道管が、単独あるいは 2 ~ 3 個放射方向に複合し、散在する散孔材である。放射断面では道管の穿孔が単穿孔で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は上下端の細胞がやや長形になる程度の単列の異性放射組織型である。以上の特徴からヤナギ属に同定される。ヤナギ属は落葉の高木または低木で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

④ クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材で、晩材部では小道管が、火災状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞から単列の同性放射組織型である。以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20m、径 40cm ぐらいであるが、大き

第 22 表 大沢谷内遺跡における樹種同定試料と同定結果

遺物番号	調査回数	調査区	遺構	結果 (学名/和名)
253	21次	8区	P405	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
256	21次	8区	SE155	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
260	21次	8区	SE929	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
268	21次	8区	SE1145	broad-leaved tree 広葉樹
287	21次	8区	SE2373	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
288	21次	8区	SE2373	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
298	21次	8区	SE2477	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
302	21次	8区	SD121	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
579	19次	9区	SE251	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
580	19次	9区	SE468	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
587	20次	9区	SE1692	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
592	20次	9区	SE1890	diffuse-porous wood 散孔材
593	20次	9区	SE1890	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
594	20次	9区	SE1890	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
595	20次	9区	SE1890	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
596	20次	9区	SE1890	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
601	20次	9区	SE2220	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
602	20次	9区	SE2220	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
613	20次	9区	SE2853	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
624	20次	9区	SE3329	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
631	20次	9区	SE3579	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
632	20次	9区	SE3579	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
635	20次	9区	SE3616	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
638	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
646	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
647	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
649	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
659	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
661	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
662	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
663	20次	9区	SX2140	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
668	19次	9区	SD455	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
669	19次	9区	SD455	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複維管束亜属
670	19次	9区	SD455	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複維管束亜属
671	19次	9区		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
672	19次	9区	SD744	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
674	20次	9区	P1913	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
675	20次	9区	P3508	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複維管束亜属
676	19次	9区		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
677	19次	9区	遺構外	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
681	20次	9区	SX2140	Fagaceae ブナ科



第 35 図 大沢谷内遺跡の木材

いものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

⑤ ブナ科 *Fagaceae* 芯材であり、放射状に配列する道管が見られる。放射組織は平伏細胞から単列の同性放射組織型である。以上の特徴からブナ科の幼木ないし細枝材および根材の特徴を示し、ブナ科の同定に留まる。

⑥ ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科 年輪のはじめに大型の道管がほぼ1列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらむ。幅は1～7細胞幅の異性放射組織型である。以上の特徴からケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径3mに達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

⑦ 散孔材 *diffuse-porous wood* 小型の道管が散在する散孔材で、放射組織は多列の異性放射組織型である。腐朽が著しく他に詳細な特徴が観察できなかった。以上の特徴から散孔材に同定される。

⑧ 広葉樹(樹皮) *broad-leaved tree (bark)* 横断面では鱗片状の組織が見られ、縦断面では、師部柔細胞、師部放射柔細胞が見られる。以上の特徴から、広葉樹の樹皮と考えられるが、樹種の同定には至らなかった。

#### 4) 所 見

樹種同定の結果、大沢谷内遺跡の木製品は、スギ30点、マツ属複維管束亜属3点、ケヤキ3点、クリ2点、ブナ科1点、散孔材1点、広葉樹(樹皮)1点であった。

最も多いスギは杓子形・籠状品、鋏、履物、底板(蓋板)、付属品、籠杓子、箸、膳、折敷、形代、栓、板、棒、杭などの木製品に利用されている。スギは加工工作が容易で大きな材がとれる良材であり、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。マツ属複維管束亜属は鋏、折敷、杭に利用されている。マツ属複維管束亜属は温帯を中心に広く分布する常緑針葉樹である。マツ属複維管束亜属にはアカマツとクロマツとがあり、水湿によく耐え、建築部材、農具、容器などに広く利用される。ケヤキは皿と井戸に利用されている。ケヤキは概して強く強靱で、従曲性に富んでおり、耐朽性、保存性は高く水湿にもよく耐え、高木になり大きな材がとれる。井戸の用材としてはスギやヒノキなどの針葉樹が多いが、水湿によく耐えるためケヤキも利用される。クリは柱に利用されている。材は重硬で保存性が良く、古くから柱材などの建築材として比較的によく使われる樹木である。ブナ科は自然遺物の枝である。散孔材は糸巻具に利用されている。糸巻具の報告例はまだ少なく、古代より以前では広葉樹も利用されてきたが、7世紀頃からヒノキなどの針葉樹が多用されるようになる。なお、広葉樹に同定された糸巻具のほとんどは散孔材である。広葉樹(樹皮)は結合補助具に利用されている。

分布としては、スギは温帯に広く分布し、特に中間域の積雪地帯で純林を形成する針葉樹である。マツ属複維管束亜属は温帯を中心に広く分布する常緑針葉樹で海岸林を形成する。クリは温帯に広く分布し、暖温帯と冷温帯と温帯の中間域では純林を形成することもあり、乾燥した台地や丘陵地に分布し、また二次林としての性格を持つ。ケヤキ、ブナ科は温帯に主に分布し、ケヤキは河辺周辺の適潤地に生育する。

いずれも温帯に分布する樹種であり、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。なお、井戸、糸巻具などは一般にスギやヒノキなどの針葉樹が利用されるが、本遺跡ではスギが採取できたにもかかわらずケヤキなどの広葉樹を利用しているため、用材の選定を恣意的に行ったか、転用材または間伐材を利用した可能性が考えられる。

## 第5節 灰像分析

### 1) 試料

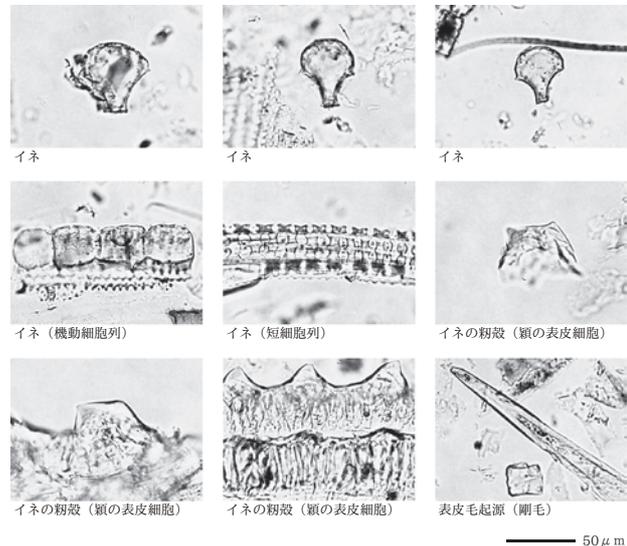
試料は、SX2140 から検出された植物遺体（葉部）である（図版 133 の 9 ~ 13・16 ~ 20 層、写真図版 73）。

### 2) 分析法

電気炉灰化法（550℃・6時間）によって灰化し、オイキッドで封入してプレパラートを作成した。検鏡は偏光顕微鏡を用いて、100 ~ 400 倍の倍率で行った。なお、灰化物の内部を調べるために、灰像組織の一部を破壊して観察を行った。

### 3) 結果および考察

灰像分析の結果、イネの葉部に由来する組織片（機動細胞列、短細胞列）や植物珪酸体、およびイネの粉殻（穎の表皮細胞）に由来する組織片や植物珪酸体が確認された（第 36 図）。したがって、遺構から検出された植物遺体には、稲藁や粉殻が含まれていると考えられる。



第 36 図 灰像（植物珪酸体）の顕微鏡写真

## 第6節 放射性炭素（<sup>14</sup>C）年代測定

### 1) 測定試料と測定方法

大沢谷内遺跡の SX2140 から出土した草本類の可能性のある試料（TNH-19144・図版 133 の 16 ~ 20 層）と、SE3579 から出土した井戸側に使用されていた木材樹皮（TNH-1945）の 2 試料を対象に、酸-アルカリ-酸洗浄の後に、加速器質量分析（AMS）法により放射性炭素（<sup>14</sup>C）年代測定を行った。試料および測定方法の詳細を第 23 表に示す。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. で実施され、測定には 3MV HVEE タンデトロン加速器が使用された。

第 23 表 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	試料採取地点	重量*	前処理	測定方法
TNH-19144	SX2140	4.53g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析（AMS）法
TNH-19145	SE3579	4.52g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析（AMS）法

\*: 腐植質土壌乾燥前の重量。

### 2) 測定結果

測定結果および暦年較正年代を第 24 表に示す。SX2140 の試料（TNH-19144）と、SE3579 の試料（TNH-1945）の補正 <sup>14</sup>C 年代は、順に 590 ± 30 y.BP（Beta-393436）と 1340 ± 30 y.BP（Beta-393437）である。各用語の意味は次の通りである。

第 24 表 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 <sup>14</sup> C年代 (yBP)	δ <sup>13</sup> C	補正 <sup>14</sup> C年代 (yBP)	暦年較正年代 (Cal BC/AD)	測定番号
TNH-19144	630 ± 30	-27.2	590 ± 30	2σ : AD1295 ~ 1370 (CalBP655 ~ 580), AD1380 ~ 1415 (CalBP570 ~ 535), 1σ : AD1310 ~ 1360 (CalBP640 ~ 590), AD1385 ~ 1405 (CalBP565 ~ 545) 交点 : AD1325 (CalBP625), AD1345 (CalBP605), AD1395 (CalBP555)	Beta-393436
TNH-19145	1370 ± 30	-26.7	1340 ± 30	2σ : AD650 ~ 690 (CalBP1300 ~ 1260), AD750 ~ 760 (CalBP1200 ~ 1190) 1σ : AD655 ~ 675 (CalBP1295 ~ 1275) 交点 : AD665 (CalBP1285)	Beta-393437

① 未補正 <sup>14</sup>C 年代値 (measured radiocarbon age) 試料の <sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C 比から、単純に現在

(AD1950 年) から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>C の半減期は、国際的慣例によりリビー(Libby)の 5,568 年を用いた。

② δ<sup>13</sup>C 測定値 試料の測定 <sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C 比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

③ 補正 <sup>14</sup>C 年代値 (conventional radiocarbon age) δ<sup>13</sup>C 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C

の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の  $\delta^{13}\text{C}$  値を  $-25$  (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

④ 暦年代 過去の宇宙線強度の変動による大気中  $^{14}\text{C}$  濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の  $^{14}\text{C}$  の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と  $^{14}\text{C}$  年代の比較により作成された較正曲線を使用した。使用したデータセットは次のとおりである。

#### INTCAL13

Reimer, et al., 2013, Radiocarbon 55 (4) : 1869-1887. (海洋性試料については Marine09 を使用)

また、構成曲線のスムーズ化には下記の理論を用いた。

Talma, A.S. and Vogel, J.C., 1993, Radiocarbon, 35 (2), : 317-322.

なお、暦年代の交点とは、補正  $^{14}\text{C}$  年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 $\sigma$  (68% 確率)・2 $\sigma$  (95% 確率) は、補正  $^{14}\text{C}$  年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

## 第7節 大沢谷内遺跡における昆虫類分析

### 1) はじめに

新潟市大沢谷内遺跡の遺構からは、甲虫類を主体とする昆虫の遺骸がまとまって出土した。昆虫の同定により、遺構の堆積環境や周辺の高環境を復元できる可能性があることから、分析を実施することになった。

### 2) 分析方法

今回、昆虫類の検討に用いた分析方法は、次の通りである。

#### (1) 遺構と選別

昆虫遺骸は、古代と中世の遺構 (井戸、溝、水溜状遺構) から出土した。古代の遺構は、8 区の SE201、SE2383、および 9 区の SE3579、SK3227 である。中世の遺構は、8 区の SE845、SE1643、SE2375、SX1306、SD121、および 9 区の SX2140、SX3521 である。昆虫は、各遺構から植物の種子などとともに、シャーレ中に保存された。分析時には試料が乾燥していたが、同定にあたって保存状態に問題はなく、表面の色彩の変化も認められなかった。

#### (2) 同定とカウント

同定に際して、まず同定可能と判断された体節を分別した。次に各種資料と比較しながら種名を決定した。点数のカウントにあたっては、同一個体に由来する体節を複数の個体として数えないよう、頭部や前胸背板など体の中で 1 つしかない部位を中心にカウントを行った。そのために、各種同定結果に示した点数は最小個体数を示している。

#### (3) 古環境推定

同定結果から、現生の生態に基づいて、「水中・水面生活型」・「地表性型」・「植物食型」に分類した。水中・水面生活型は、ガムシ科の水生種やミズスマシ科などのいわゆる水生昆虫である。地表性型は、地面を主に歩行によって移動する昆虫や、飛翔による移動は行うが主たる生息場所が地表である昆虫で、オサムシ科やシテムシ科、コガネムシ科の食糞性種などが含まれる。植物食型は植物の葉や茎などを食べる昆虫で、特定の種類の植物のみを食べる種と多様な種類の植物を食べる種がいる。前者が確認された場合には、遺構やその周辺に生えていた植物を推定することができる。コガネムシ科の食葉性種やハムシ科、ゾウムシ科などが含まれている。各種の示す古環境や食草に関する情報および出土した種の組み合わせにより、古環境の推定を行った。

### 3) 分析結果 (第 25 表)

#### (1) 概要

同定された昆虫はすべて甲虫類で、オサムシ科、ミズスマシ科、ガムシ科、エンマムシ科、ハネカクシ科、コ

ガネムシ科、ハムシ科、ゾウムシ科を含む。とくに地表徘徊性の種が多いオサムシ科が多く出土したものの、体の一部での同定が困難なグループで、種まで同定できたものはわずかである。

(2) 主な昆虫

種または属まで同定された昆虫について、次に生態的な特徴について述べる。

- ① アカガネオサムシ (オサムシ科) 9区 SX2140 7H-1E9 -50 ~ 60cm 層準より出土した。ヨシなどの生えた低湿地に生息する地表性甲虫。現在、本州では局地的に分布しており、新潟県内では絶滅が危惧される昆虫である。大沢谷内遺跡から出土したことから、かつての新潟平野にも本種が生息していたことを示している。遺跡の立地からみて、周辺の湿地帯に生息していたと考えられる。
- ② アオオサムシ (オサムシ科) 8区 SE201 5G-4H13 4層および、8区 SX1306 5G-1H2 9層より出土した。森林や疎林に生息する非湿地性の地表性甲虫。遺跡の周辺に森林または疎林的な環境が存在していたと考えられる。
- ③ ナガヒョウタンゴミムシ (オサムシ科) 8区 SE845 5G-9I9 5層より出土した。乾いた地表に生息する非森林性・非湿地性の地表性甲虫。遺跡内の乾燥した地表に生息していたと考えられる。
- ④ キンナガゴミムシ (オサムシ科) 8区 SE2383 6G-1J1 6層 -95cm、同 6層底面、8区 SE1643 5G-2I12・13、8区 SE2375 6G-1J18 10層、9区 SX2140 7H-1E9 -80cm より出土した。裸地や草地に生息する非湿地性の地表性甲虫。
- ⑤ ヨツボシゴミムシ (オサムシ科) 8区 SE2383 6G-1J1 6層 -95cm、9区 SE3579 7H-4G9 23層底面より出土した。森林や草地に生息する地表性甲虫。
- ⑥ アオゴミムシ属 (オサムシ科) 8区 SE201 5G-4H13 4層、同 6層 -154cm、同 6層底面、8区 SX1306 5G-1H2 9層、9区 SX3521 7H3E19 -70cm、9区 SE3579 7H4G9 23層、同 23層底面、8区 SE845 5G-9I9 5層、8区 SE2375 6G-1J18 10層、9区 SX2140 7H-1E9 -50 ~ 60cm、同

第 25 表 大沢谷内遺跡から出土した昆虫の同定結果

時代	試料番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	昆虫 (カッコ内は個体数)							
				遺構	グリット		水中・水面生活型	地表性型	植物食型					
古代	1	21次	8区	SE201	5G-4H13	4層	セマルガムシ (1)、ヒメセマルガムシ (1)	アカオサムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (3)、アオゴミムシ属 (1)、マゴソコガネ属 (1)、エンマコガネ属 (1)						
古代	2	21次	8区	SE2383	6G-1J1	6層 -95cm		キンナガゴミムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (3)、ヨツボシゴミムシ (1)、オオヒラタシデムシ (1)、ハネカクシ科 (3)、エンマコガネ属 (1)	ゾウムシ科 (5)					
	6層 -154cm						ナガゴミムシ亜科 (5)、アオゴミムシ属 (1)、エンマコガネ属 (1)	ゾウムシ科 (4)						
	6層底面					ヒメセマルガムシ (1)	アカガネオオゴミムシ (1)、キンナガゴミムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (10)、アオゴミムシ属 (1)、オオヒラタシデムシ (1)、ハネカクシ科 (1)、マゴソコガネ属 (1)、エンマコガネ属 (1)	コガネムシ科食葉群 (1)、ゾウムシ科 (7)						
古代	35	20次	9区	SE3579	7H-4G9	7H-4G9	ヒメセマルガムシ (1)	オサムシ科 (1)	クビボソハムシ亜科 (1)					
	7H-4G9					23層	ナガゴミムシ亜科 (5)、アオゴミムシ属 (1)、オオヒラタシデムシ (1)	サクラコガネ属 (1)						
	7H-4G9					23層底面	オサムシ属 (1)、ナガゴミムシ亜科 (5)、アオゴミムシ属 (2)、ヨツボシゴミムシ (1)、エンマコガネ属 (1)、ハネカクシ科 (1)	ミズクサハムシ属 (1)、アカガネサルハムシ (1)、ゾウムシ科 (1)						
古代	39	20次	9区	SK3227	7H-3G10	3層								
中世	41	21次	8区	SE845	5G-9I9	5層		ナガヒョウタンゴミムシ (2)、ナガゴミムシ亜科 (5)、アオゴミムシ属 (1)、マゴソコガネ属 (1)						
	46					21次	8区	SE1643	5G-2I12・13	井戸側曲物 (272) 中		ヨモギハムシ (1)		
	47								5G-2I12・13	井戸側曲物 (273) 中				
48	5G-2I12・13	井戸側曲物 (274) 中	ヒメセマルガムシ (1)	キンナガゴミムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (1)	コガブトムシ (1)、ゾウムシ科 (1)									
中世	49	21次	8区	SE2375	6G-1J18	10層	ガムシ科 (1)	キンナガゴミムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (5)、アオゴミムシ属 (3)、エンマコガネ属 (1)	マメコガネ (1)					
中世	11	21次	8区	SX1306	4G-10H22	9層			サクラコガネ属 (1)					
	15					5G-1H2	9層	アカオサムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (3)、アオゴミムシ属 (1)、オオヒラタシデムシ (2)、マゴソコガネ属 (1)、エンマコガネ属 (2)						
中世	57	21次	8区	SD121	5G-6I10	4層			コガネムシ科食葉群 (1)					
	58					5G-6I14	6層		サクラコガネ属 (1)					
	59					5G-6I14	8層							
	62					5G-6I23	4層		コガネムシ科食葉群 (1)					
	63					5G-6I23	5層		コガネムシ科食葉群 (1)					
中世	75	20次	9区	SX2140	7H-1E9	-40 ~ 50cm		ナガゴミムシ亜科 (1)、マゴソコガネ属 (1)	ホソネクイハムシ (1)					
	76					7H-1E9	-50 ~ 60cm	ヒメセマルガムシ (1)	アカガネオサムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (5)、アオゴミムシ属 (4)、エンマコガネ属 (1)、オオヒラタシデムシ (1)、ハネカクシ科 (1)、エンマコガネ属 (2)	コメツキムシ科 (1)、ゾウムシ科 (1)				
	77					7H-1E9	-60 ~ 70cm	セマルガムシ属 (1)	ナガゴミムシ亜科 (1)、ゴモクムシ亜科 (2)、アオゴミムシ属 (1)、マゴソコガネ属 (1)					
	78					7H-1E9	-70 ~ 80cm	セマルガムシ属 (1)、ガムシ科 (1)	ナガゴミムシ亜科 (1)、マゴソコガネ属 (1)					
	79					7H-1E9	-80cm	ミズスマシ属 (1)、ヒメセマルガムシ (1)、コガムシ属 (1)、ガムシ科 (2)	キンナガゴミムシ (1)、ナガゴミムシ亜科 (4)、アオゴミムシ属 (3)、オオヒラタシデムシ (1)、マゴソコガネ属 (8)、エンマコガネ属 (1)	マメコガネ (1)				
	80					7H-1E9		セマルガムシ属 (1)	ナガゴミムシ亜科 (1)					
	中世					33	20次	9区	SX3521	7H-3E19	-70cm	ガムシ科 (2)	ナガゴミムシ亜科 (3)、アオゴミムシ属 (1)、エンマコガネ属 (1)、エンマコガネ属 (1)	
						34					7H-3E19他	-50cm	ガムシ科 (1)	ナガゴミムシ亜科 (1)、エンマコガネ属 (1)、ハネカクシ科 (1)

7H-1E9 -60～70cm、同 7H-1E9 -80cm より出土した。地表性の甲虫で、湿った地表に生息する種が多い。

⑦ ミズスマシ属 (ミズスマシ科) 9区 SX2140 7H-1E9 -80cm 層準より出土した。池や流れの緩い水路などの水面に生息する。水域に一時的に生息していた可能性がある。

⑧ ヒメセマルガムシ (ガムシ科) 8区 SE201 5G-4H13 4層、8区 SE2383 6G-1J1 6層底面、9区 SE3579 7H-4G9、8区 SE1643 5G-2I12・13、9区 SX 2140 7H-1E9 -50～60cm 層準、同 -80cm 層準より出土した。池や湿地、水田などの浅い水域に生息する水生甲虫。水生種の中で最も多く出土した。遺跡内の小規模な水域にも生息が可能であったと考えられる。

⑨ オオヒラタシテムシ (シテムシ科) 8区 SE2383 6G-1J1 6層-95cm、同 6層底面、8区 SX1306 5G-1H2 9層、9区 SE3579 7H-4G9 23層、9区 SX2140 7H-1E9 -50～60cm、9区 SX2140 7H-1E9 -80cm より出土した。森林や草地に生息する地表性甲虫で、様々な動物の死体を食べる。

⑩ マグソコガネ属 (コガネムシ科) 8区 SE201 5G-4H13 4層、8区 SE2383 6G-1J1 6層底面、8区 SX1306 5G-1H2 9層、8区 SE845 5G-9I9 5層、9区 SX2140 7H-1E9 -40～50cm、同 -60～70cm、同 -70～80cm、同 -80cm 層準より出土した。複数種が含まれているが、いずれも体長 10 mm 前後の種で、人を含めた動物の糞を食べる甲虫である。

⑪ エンマコガネ属 (コガネムシ科) 8区 SE201 5G-4H13 4層、8区 SE2383 6G-1J1 6層-95cm、8区 SE2383 6G-1J1 6層底面、8区 SX1306 5G-1H2 9層、9区 SX3521 7H-3E19 -70cm、同 7H-3E19 他 -50cm、9区 SX2140 7H-1E9 -50～60cm 層準、同 7H-1E9 -80cm 層準から出土した。マグソコガネ属と同様に人を含めた動物の糞を食べる甲虫である。

⑫ マメコガネ (コガネムシ科) 8区 SE2375 6G-1J18 10層、9区 SX 2140 7H-1E9 -80cm 層準から出土した。マメ科を始め広範な植物を食べ、畑作物の害虫でもある。

⑬ コカブトムシ (コガネムシ科) 8区 SE1643 5G-2I12・13 より出土した。幼虫は土壤中で生育する。

⑭ ホソネクイハムシ (ハムシ科) 9区 SX2140 7H-1E9 -40～50cm より出土した。ミクリ科のミクリ属とガマ科のガマ属が食草である。本種を含むネクイハムシ亜科は、オサムシ科と並んで低湿地の堆積物から豊富に出土する昆虫である。しかし、今回の調査では、9区 SE3579 7H-4G9 23層底面から出土したミズクサハムシ属の一種を含めて2点のみしか確認されていない。このことは、遺跡内にネクイハムシ亜科が食草とする水生植物が繁茂するような水辺が無かった可能性を示唆している。

⑮ アカガネサルハムシ (ハムシ科) 9区 SE3579 7H-4G9 23層底面より出土した。おもにノブドウを食草とする植食性甲虫である。

⑯ ヨモギハムシ (ハムシ科) 8区 SE1643 5G-2I12・13 より出土した。ヨモギを食草とする植食性甲虫である。

#### 4) 考 察

##### (1) 生態と堆積の条件

ここでは、出土した昆虫から各遺構の古環境の推定を行う。出土した昆虫を生態に基づいて「水中・水面生活型」・「地表性型」・「植物食型」に分類した。井戸や溝などの遺構から出土する昆虫の遺骸群集は、水辺や水中に生息していた昆虫と、周辺に生息していた昆虫の死骸が風や水などによって運ばれたもの、生きている個体が水に落ちて死亡した昆虫によって構成されている。従って、水中・水面生活型の昆虫は、井戸など閉鎖的な水域であれば外から飛来するなどして移動し、生息していた可能性がある。一方、水路は、別の場所から水流によって運ばれてきた可能性もある。地表性甲虫の内、湿地などの水辺に適応していない種は、地表を徘徊していた個体または地表付近を低く飛翔していた個体が井戸や溝などに落ちて死亡したものも含まれていると考えられる。大沢谷内遺跡の遺構より出土した地表性種には、このような条件で遺骸が堆積した個体が多いとみられる。

##### (2) 古環境の推定

昆虫が出土した各遺構について、推定される古環境について述べる。

① 8区 SE201 5G-4H13 4層から昆虫が出土した。水中・水面生活型のセマルガムシとヒメセマルガムシが出土したが、水生甲虫類の出土は限定的であることから、水生植物が繁茂するような状態ではなかったと推定される。アオオサムシは森林または林縁的な環境が周辺に存在したことを示している。マグソコガネ属とエンマコガネ属の出土は人も含めた動物の糞の供給があったことを示している。

② 8区 SE2383 6G-1J1の6層(-95cm, -154cm, 底面)より昆虫が出土した。水中・水面生活型のヒメセマルガムシが出土したが、水生甲虫類の出土は限定的であることから、水生植物が繁茂するような状態ではなかったと推定される。地表性型のうちアカガネオサムシは周辺に低湿地があったことを示している。キンナガゴミムシは井戸周辺が裸地または草が生えていた地表環境であることを示している。マグソコガネ属とエンマコガネ属の出土は人も含めた動物の糞の供給があったことを示している。昆虫は3つの層準から出土したが、同定された種からみて大きな変化は認められない。

③ 8区 SX1306 5G-1H2 9層より昆虫が出土した。地表性型のアオオサムシは、森林または林縁的な環境が周辺に存在したことを示している。マグソコガネ属とエンマコガネ属の出土は人も含めた動物の糞の供給があったことを示している。水溜状の遺構とされるが、水生種は確認されなかった。

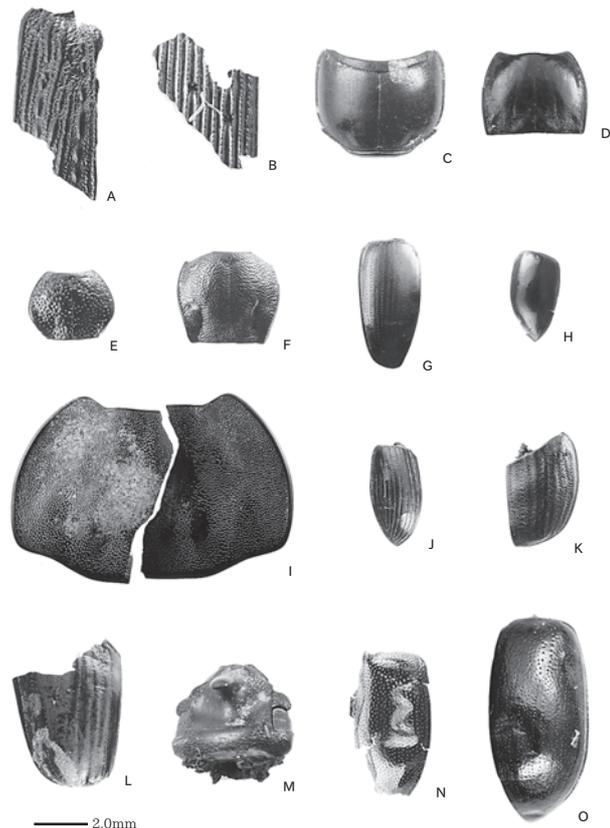
④ 9区 SE3521 7H-3E19 -70cm および 7H-3E19 他 -50cm より昆虫が出土した。水中・水面生活型のガムシ科が出土し、水生甲虫類の出土は限定的であることから、水生植物が繁茂するような状態ではなかったと推定される。エンマコガネ属の出土は人も含めた動物の糞の供給があったことを示している。

⑤ 9区 SE3579 7H-4G9 より昆虫が出土した。水中・水面生活型のヒメセマルガムシが出土したが、水生甲虫類の出土は限定的であることから、水生植物が繁茂するような状態ではなかったと推定される。エンマコガネ属の出土は人も含めた動物の糞の供給があったことを示している。

⑥ 8区 SE845 5G-9I9 5層より昆虫が出土した。地表性型のホソヒョウタンゴミムシは、乾燥した地表環境があったことを示している。

⑦ 8区 SE1643 5G-2I12・13 より昆虫が出土した。水中・水面生活型のヒメセマルガムシが出土したが、水生甲虫類の出土は限定的であることから、水生植物が繁茂するような状態ではなかったと推定される。地表性型のキンナガゴミムシは井戸周辺が裸地または草が生えていた地表環境であることを示している。植物食型のヨモギハムシはヨモギが生えていたことを示している。マメコガネは広範な植物を食べるが、畑作が行われていた場合には畑作物の害虫となっていた可能性がある。

⑧ 8区 SE2375 6G-1J18 10層より昆虫が出土した。水中・水面生活型のガムシ科が出土したが、水生甲虫類の出土は限定的であることから、水生植物が繁茂するような状態ではなかったと推定される。地表性型のキンナガゴミムシは井戸周辺が裸地または草が生えていた地表環境であることを示している。植物食型のマメコガネは広範な植物を食べるが、畑作が行われていた場合には畑作物の害虫となっていた可能性がある。



第 37 図 大沢谷内遺跡昆虫写真

⑨ 8 区 SD121 植物食型のコガネムシ科が出土しているが、出土点数が少ないために環境の推定は困難である。  
 ⑩ 9 区 SX2140 7H-1E9 (-40 ~ 50cm, -50 ~ 60cm, -60 ~ 70cm, -70 ~ 80cm, -80cm) より昆虫が出土した。  
 -80cm 層準からは水中・水面生活型のミズスマシ属、ヒメセマルガムシ、コガムシ属などの水生甲虫がまとまって出土したことから、ある程度水生植物などの生えた水辺があったことが推定される。地表性型のうちアカガネオサムシは周辺に低湿地があったことを示している。キンナガゴミムシは井戸周辺が裸地または草が生えていた地表環境であることを示している。マグソコガネ属とエンマコガネ属の出土は人も含めた動物の糞の供給があったことを示している。植物食型のホソネクイハムシはミクリ属またはガマ属の存在を示している。植物食型のマメコガネは広範な植物を食べるが、畑作が行われていた場合には畑作物の害虫となっていた可能性がある。

## 第 8 節 大沢谷内遺跡出土焼骨の肉眼観察および骨組織形態学的所見

### 1) はじめに

大沢谷内遺跡の第 19・20・21 次発掘調査において、鎌倉時代の複数の遺構から少量の焼骨が出土した。出土焼骨には魚骨や哺乳類の四肢骨片が含まれていたが、いずれも保存状態は不良であり、特に哺乳類四肢骨片は断片化が著しく肉眼形態学的検討では動物種を同定し得なかった。しかしながら遺跡や遺構の性格を明らかにするうえでこれら焼骨の種同定と人獣鑑別が重要と考えられたことから、出土焼骨の肉眼観察に加えて哺乳類四肢骨片の骨組織形態学的分析を実施し、動物種の同定を試みた。以下にその結果を報告する。

### 2) 出土焼骨の概要と肉眼観察所見

#### (1) 概要

焼骨が出土したのは井戸遺構 1 基(遺構番号 8 区 SE1643)、性格不明遺構 2 基(9 区 SX1・2140)である(第 26 表)。その他、古代の井桁井戸遺構 1 基(9 区 SE3579)から「魚の骨?」として骨様物質 1 点が採取されたが、その後の精査の結果、骨ではないとの結論に至った。

出土骨は焼骨のみからなり、非焼骨は見当たらない。通常、骨は焼成により脆くなって細片化してしまうが、遺跡から出土した焼骨は硬化していることが多く、焼けていない骨に比べて残りやすい性質を持っている。この理由ははっきりとわかっていないものの、高温で変化した骨の無機質が焼成後に水と反応することで強度を増す、焼成により有機質が消失した

第 26 表 出土焼骨の概要

遺構	時代	調査区	遺構番号	グリッド	層位/深度	出土骨の内容	出土骨重量
曲物3段の井戸側井戸遺構	鎌倉	8区	SE1643	5G-2112・13	—	最大長5mm以下の黒色および白色の焼骨片約30点(魚類の椎骨5点とコイ科右咽頭骨1点を含む)。	<0.1g
				7H-1E9	-50~60cm	最大長5mm以下の黒色および白色の焼骨片数点(魚類椎骨1点を含む)。	<0.1g
性格不明遺構	鎌倉	9区	SX2140	7H-1E9	-60~70cm	最大長10mm以下の黒色および白色の焼骨片約30点(魚類椎骨4点を含む)。	<0.1g
				7H-1E9	-70~80cm	最大長10mm以下の黒色および白色の焼骨片約20点。	<0.1g
				7H-1E9	-80cm	最大長5mm以下の黒色および白色の焼骨片数点。	<0.1g
				7H-1E9	深度記録なし	最大長5mm以下の黒色・灰白色・白色の焼骨片約100点。	0.3g
				7H-5D3	1層	最大長20mm以下の灰白色・白色の哺乳類骨片5点。	1.1g
性格不明遺構	鎌倉	9区	SX1	7H-5D4	1層	最大長20mm以下の白色の哺乳類骨片1点。	0.3g
				7H-5D4	2層	最大長50mm以下の灰白色・白色の哺乳類骨片約20点。	4.1g
				7H-5D8	1層	最大長50mm以下の灰白色・白色の哺乳類骨片約30点。	23.4g
				7H-5D8	1層	最大長20mm以下の白色の哺乳類骨片3点。	0.4g
				7H-5D8	4層	最大長30mm以下の灰白色・白色の哺乳類骨片約20点。	7.8g
				7H-5D9	1層	最大長20mm以下の灰白色・白色の哺乳類骨片約30点。	4.2g
				7H-5D9	2層	最大長30mm以下の灰白色・白色の哺乳類骨片数点。	1.6g
				方形の井桁井戸遺構	奈良・平安	9区	SE3579

ために微生物による分解作用を受けにくくなる、などの説明がなされている(Mays, 1998)。大沢谷内遺跡において、もともと焼骨のみ埋存していたのか、それとも埋存当初は非焼骨と焼骨が存在したにも関わらず非焼骨が土中の続成作用で分解され、腐食を受けにくい焼骨が結果として遺存したのか、どちらの見解が妥当かは出土状況からでは判断としないものの、焼骨しか出土しなかった背景に焼骨の上記性質が関係している可能性があることを指摘しておきたい。

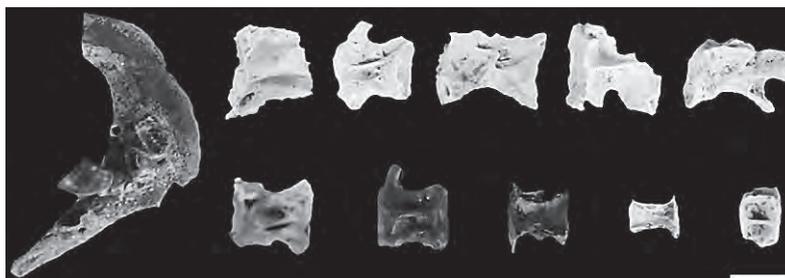
#### (2) 曲物 3 段の井戸側井戸遺構 (8 区 SE1643) 出土焼骨

最大長 5mm 以下の黒色および白色の焼骨片約 30 点。種不明の小型魚類の椎骨 5 点とコイ科の右咽頭骨 1 点を含む(第 38 図上)。右咽頭骨は体長が 20cm に満たない小型のコイ科のもので、ウグイ類ないしフナ類に似るが、

辺縁と咽頭歯が破損しており同定は科で留めた。魚類以外の動物骨は確認できない。総重量は0.1g未滿。

### (3) 性格不明遺構 (9区 SX2140) 出土焼骨

最大長10mm以下の黒色・灰白色・白色の焼骨片約150点。種不明の小型魚類の椎骨5点(第38図下)を含むほか、魚類の棘と思われる小片が散見される。魚類以外の動物骨は確認できない。総重量は0.3g。



第38図 大沢谷内遺跡8区SE1643、9区SX2140出土焼骨

### (4) 性格不明遺構 (9区 SX1) 出土焼骨

最大長50mm以下の灰白色および白色の焼骨片約100点。中・大型陸生哺乳類の四肢長骨片を含むが、断片化が著しく、肉眼形態観察では動物種の識別は困難であった。哺乳類以外の動物骨は確認できない。総重量は39g。

骨の焼成実験によれば、受熱時間が長いほど骨の損壊の程度は大きくなるという〔Stiner et al., 1995〕。焼成による骨の色調変化についても実験成績が蓄積されており、低い温度で焼成された骨は暗赤色や褐色を呈するが、高温になるにつれて黒色から青灰色となり、最終的に白色を帯びるとされる。〔Shipman et al. 1984, Nicholson 1993, Stiner et al. 1995〕。SX1出土焼骨はすべて断片的であり且つ灰白色ないし白色と化していることから、高温で長時間の焼成を受けたものと推測される。

中世の本州では火葬習俗が広まっており、多くの遺跡から火葬人骨が出土している。SX1出土焼骨についても火葬人骨の可能性が考えられたものの、肉眼観察では人獣鑑別に至らなかった。そこで、出土焼骨のうち四肢長骨片4点を試料とし、骨組織形態学的分析に基づく種同定を実施した。同分析について次項で詳述する。

## 3) 9区 SX1 出土焼骨の骨組織形態学的所見

### (1) 骨組織形態と種同定

哺乳類の四肢長骨骨幹部などを形づくる緻密質には、ごく細い血管の通る管腔(ハバース管やフォルクマン管など)が多数存在する。緻密質は、この管腔の走向と管腔の周囲を取り巻く層板構造およびそれらの形成段階により、一次オステオンと二次オステオン(ハバース管を中心として同心円状に形成される層板構造)、葉状骨(有蹄類や一部食肉類などに特徴的に発達する導管の網状構造)、環状層板(骨膜側ないし髓腔側に形成される層板構造)などに区分される。緻密質の組織形態は動物種によって異なることが知られており、オステオンとハバース管の大きさ、オステオンの直線的な配列の有無、葉状骨の有無などが、動物種を識別する特徴になり得ると指摘されている〔Harsányi 1993, Hillier and Bell 2007, 猪井ほか1994, Mulhern and Ubelaker 2012〕。特に、ハバース管の大きさ、およびハバース管のオステオンに対する面積比は、人獣鑑別の指標として有効である〔Harsányi 1993, 澤田ほか2010〕。

骨組織構造の特徴を利用した人獣鑑別および種同定の方法は、実際上の要請が強い法医学分野において高く評価されてきたが、近年では人類学・考古学分野でも、考古資料を材料とした種同定の研究論文や事例報告が増えつつある〔奈良ほか1999, Walter et al. 2004, Cuijpers 2006, 奈良・澤田2007, 澤田ほか2010, Sawada et al. 2014〕。骨組織構造の比較形態学はいまだ全ての動物群を網羅しておらず、種同定の精度にはなお制約があるものの、哺乳類の四肢長骨緻密質であれば肉眼観察では種同定の困難な資料にも適用できるため、本遺跡9区SX1出土焼骨のような小片の分析に有効である。

### (2) 出土焼骨試料と比較動物資料

9区SX1出土焼骨から、出土グリッドと層位の異なる陸生中・大型哺乳類の四肢長骨骨幹片4点(試料番号5D3-III、5D8-IIIc、5D8-4、5D9-2)を選出し、これらを骨組織形態学的分析の試料とした(第27表、第39図)。

比較動物資料には、本州完新世の哺乳動物相および古代日本の家畜動物群に含まれる中・大型陸生哺乳類を参考に、霊長類2種(ヒトの幼児・小児・成人、ニホンザル)、奇蹄類1種(ウマ)、偶蹄類4種(イノシシ、ニホンジ

第 27 表 骨組織形態学的分析に用いた 9 区 SX1 出土焼骨試料

試料番号	グリッド	層位	残存長	肉眼観察所見
5D3-III	7H-5D3	III層	16mm	四肢長骨骨幹部。焼成により白色を呈する。螺旋状の亀裂あり。
5D8-IIIc	7H-5D8	IIIc層	36mm	四肢長骨骨幹部。焼成により白色を呈する。螺旋状の亀裂あり。
5D8-4	7H-5D8	4層	10mm	四肢長骨骨幹部。焼成により灰白色を呈する。
5D9-2	7H-5D9	2層	26mm	四肢長骨骨幹部。焼成により白色を呈する。



第 39 図 大沢谷内遺跡 9 区 SX1 出土焼骨

カ、カモシカ、ウシ)、食肉類 4 種 (キツネ、タヌキ、イヌ、クマ (収蔵標本の都合によりヒグマを使用)) を選定した。比較動物資料の骨組織形態計測値は、本報告と観察・計測基準を同じくする澤田ほか [2010] と Sawada et al. [2014] のデータを利用し、一部の動物について新規に計測を実施した。

### (3) 方 法

出土焼骨試料を澤田ほか [2010] の方法に従って樹脂に包埋し、四肢長骨の長軸に対して垂直な横断面を得るように硬組織切断機 (SP1600, Leica) で薄切してプレパラートに封入した。検鏡には明視野・偏光観察の可能な光学顕微鏡 (Imager A1, Zeiss) を使用した。顕微鏡像を CMOS カメラ (Go-5, QImaging) で撮影し、ImageJ (US National Institute of Health, <http://imagej.nih.gov/ij/>) を用いて、緻密質の厚さ (Ct.Wi)、完形の二次オステオンの面積 (On.Ar)、およびハバース管の面積 (H.Ar) を計測した。また、各二次オステオンとそのハバース管について、二次オステオンの面積に対するハバース管の面積の比  $((H.Ar/On.Ar) \times 100)$  を算出した (H-On 示数)。計測基準は澤田ほか [2010] と Sawada et al. [2014] に準じた。

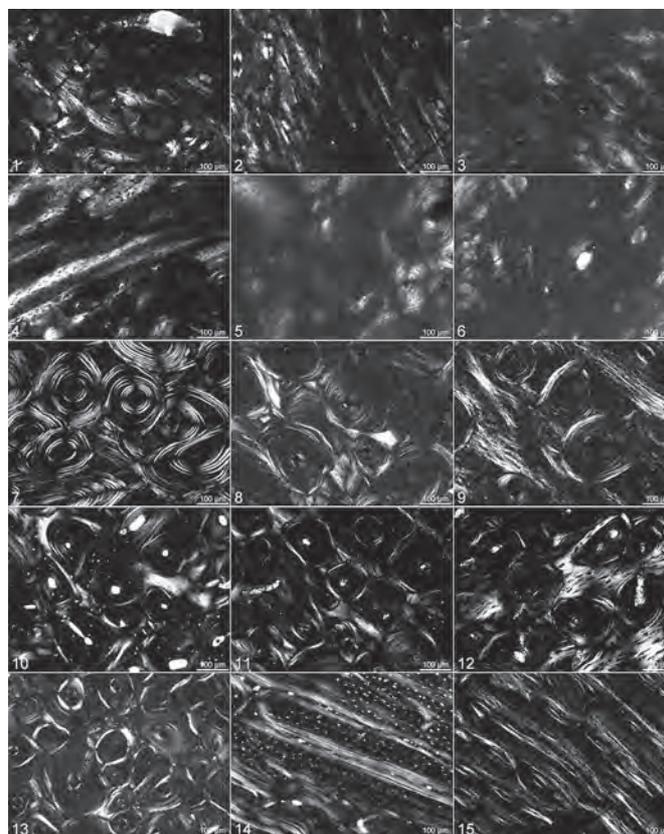
試料は焼骨であるため、焼成による骨組織形態の変化について考慮する必要がある。一般に骨は焼成により収縮することが知られており、Nelson [1992] は、焼骨のオステオンの直径が平均して 16.7% 縮小していたことを報告している。本報告では、Nelson [1992] を参考に焼骨試料の骨構造の収縮率を 17% と仮定して、焼成前の Ct.Wi、On.Ar、H.Ar の値を次の式で算出した。

【Ct.Wi】焼成前組織形態の推定値 = 試料における組織形態の実測値 / (1-0.17)

【On.Ar、H.Ar】焼成前組織形態の推定値 = 試料における組織形態の実測値 / (1-0.17)<sup>2</sup>

### (4) 結果と考察

出土焼骨試料と比較動物試料の骨組織像を第 40 図に示した。試料は焼成ないし土中での埋存過程における変成作用により骨質が劣化しており、部分的に組織形態が不明瞭な箇所があるものの、いずれの試料にも二次オステオンを主体とする構造が認められた (第 40 図の 1、3、5、6)。これは、ある程度成長した段階にある多くの陸生中・大型哺乳類 (第 40 図の 7~13) と共通する様相である。また、試料 5D3-III と 5D8-IIIc には局所的に葉状骨に類似した形態も観察された (第 40 図の 2 と 4)。葉状骨はイノシシ (第 40 図の 14) やシカなどの偶蹄類に顕著に発達するほか、タヌキ (第 40 図の 15)



第 40 図 比較動物試料の骨組織像

やイヌなど一部の食肉類にも形成されるが、ヒトにはみられない。

出土焼骨試料の骨組織形態計測値を第 28 表、比較動物資料の値を第 29 表に示した。また、第 28・29 表のデータをもとに、試料と比較動物の H.Ar (ハバース管の面積) と On.Ar (完形の二次オステオンの面積) を第 41 図にまとめた。試料間で On.Ar が大きく異なっており、複数の動物種を含んでいる可能性があるが、計測できた二次オステオンの数が少ないため、断定は控えたい。

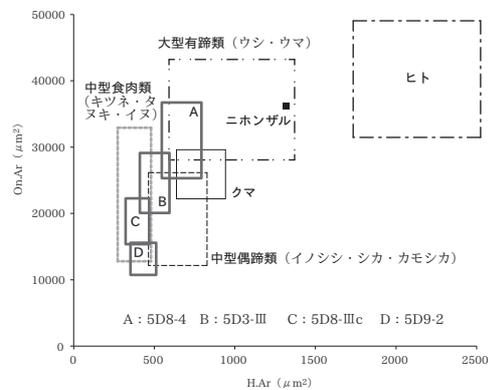
各試料の H.Ar の平均値 (実測値で約 320 ~ 550  $\mu\text{m}^2$ 、焼成前の推定値は約 470 ~ 790  $\mu\text{m}^2$ ) はヒト (幼児~成人) の H.Ar の平均値の範囲 (約 1320 ~ 2520  $\mu\text{m}^2$ ) より顕著に小さく、偶蹄類 (約 460 ~ 830  $\mu\text{m}^2$ ) や食肉類 (約 270 ~ 940  $\mu\text{m}^2$ ) に近い値を示していた。また、試料の H-On 示数 (2.1 ~ 3.2) もヒトの値 (4.4 ~ 6.9) から外れており、偶蹄類 (1.5 ~ 3.5) や食肉類 (1.9 ~ 3.7) の値の範囲に収まっていた。前述の観察所見も併せ、試料の骨組織形態は総じて幼・小児を含むヒトと相違する特徴を有するものと判断される。今回分析した 4 点は SX1 出土焼骨の一部に過ぎないものの、グリッドないし層位が異なる地点から出土した試料がいずれもヒトと異なっていたことから、SX1 焼骨にヒトが含まれている可能性は小さいと考えられる。

試料 4 点の H.Ar と On.Ar は偶蹄類および食肉類に近似していたが、Ct.Wi (緻密質の厚さ) も加味して考慮す

第 28 表 9 区 SX1 出土焼骨試料の骨組織形態計測値

試料	Ct.Wi (mm)	オステオンの個数	On.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H-On示数	
			Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
5D3-III								
焼骨組織形態の実測値	2.2	6	20063.9	5745.9	409.9	166.8	2.1	1.0
焼成前組織形態の推定値	2.7	6	29124.5	8340.7	595.0	242.2	2.1	1.0
5D8-IIIc								
焼骨組織形態の実測値	2.3	17	15354.1	7302.0	322.5	195.3	2.2	1.1
焼成前組織形態の推定値	2.8	17	22287.8	10599.5	468.1	283.4	2.2	1.1
5D8-4								
焼骨組織形態の実測値	2.6	15	25299.3	6121.4	546.0	304.4	2.2	1.1
焼成前組織形態の推定値	3.1	15	36724.1	8885.7	792.6	441.8	2.2	1.1
5D9-2								
焼骨組織形態の実測値	1.7	6	10734.6	2002.0	352.6	194.2	3.2	1.5
焼成前組織形態の推定値	2.0	6	15582.2	2906.0	511.8	281.9	3.2	1.5

Ct.Wi: 緻密質の厚さ、On.Ar: 二次オステオンの面積、H.Ar: ハバース管の面積、H-On示数: (H.Ar/On.Ar) × 100



第 41 図 9 区 SX1 出土焼骨試料と比較動物の H.Ar・On.Ar

第 29 表 比較動物資料の骨組織形態計測値

分類群	標本番号	部位	成長段階	Ct.Wi (mm)	オステオンの個数	On.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H.Ar ( $\mu\text{m}^2$ )		H-On示数		データの出典
						Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	
霊長類												
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo01Ha	上腕骨中央部前側	成人	4.4	31	31978.8	15117.9	—	—	—	—	Sawada et al. (2014)
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo03Ha	上腕骨中央部前側	成人	3.9	39	31463.8	10540.8	2040.9	894.7	6.9	3.2	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo01Fa	大腿骨中央部前側	成人	4.6	54	41846.8	15999.8	2524.5	1189.9	6.4	3.1	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo02Fa	大腿骨中央部前側	成人	5.5	55	33931.6	12228.2	1734.3	994.3	5.4	3.0	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo04Fa	大腿骨中央部前側	成人	4.1	46	35774.2	11193.3	2336.2	920.5	6.9	3.0	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo05Fa	大腿骨中央部前側	幼児	2.3	22	36560.1	12066.7	1748.7	985.1	5.4	3.5	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ヒト ( <i>Homo sapiens</i> )	Homo06Fa	大腿骨中央部前側	小児	2.3	26	49038.7	22959.9	2334.5	1327.7	5.4	3.6	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ニホンザル ( <i>Macaca fuscata</i> )	Macaca01Fa	大腿骨中央部前側	成体	2.3	12	36154.1	10694.8	1317.3	605.3	4.4	1.3	未発表データ
奇蹄類												
ウマ ( <i>Equus caballus</i> )	Eq01F	大腿骨中央部前側	成体	8.3	55	41422.9	23738.4	1371.1	692.8	3.9	2.4	澤田ほか (2010), 未発表データ
偶蹄類												
野生イノシシ ( <i>Sus scrofa</i> )	Sus01H	上腕骨中央部前側	成体	4.3	28	25294.5	11043.3	463.7	166.8	2.0	0.7	澤田ほか (2010), 未発表データ
野生イノシシ ( <i>Sus scrofa</i> )	Sus01F	大腿骨中央部前側	成体	3.0	11	24932.9	10758.4	680.7	386.8	3.0	1.7	澤田ほか (2010), 未発表データ
家畜イノシシ ( <i>Sus scrofa</i> )	Sus02H	上腕骨中央部前側	成体	4.7	87	19673.2	7155.0	646.0	287.1	3.5	1.6	澤田ほか (2010), 未発表データ
家畜イノシシ ( <i>Sus scrofa</i> )	Sus02F	大腿骨中央部前側	成体	4.7	29	25740.1	7559.2	827.7	359.7	3.2	1.0	澤田ほか (2010), 未発表データ
ニホンジカ ( <i>Cervus nippon</i> )	Cervus02Ha	上腕骨中央部前側	垂成体	3.9	51	19076.6	6231.2	469.4	139.4	2.6	0.9	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ニホンジカ ( <i>Cervus nippon</i> )	Cervus03Ha	上腕骨中央部前側	垂成体	4.2	30	20618.6	7048.2	503.5	172.9	2.6	0.8	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ニホンジカ ( <i>Cervus nippon</i> )	Cervus01Ra	橈骨中央部前側	成体	2.8	49	12144.2	4344.5	—	—	—	—	Sawada et al. (2014)
ニホンジカ ( <i>Cervus nippon</i> )	Cervus01Fp	大腿骨中央部後側	成体	3.2	39	17965.2	8821.4	506.8	220.8	3.2	1.4	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ニホンジカ ( <i>Cervus nippon</i> )	Cervus03Fp	大腿骨中央部後側	垂成体	4.1	48	22522.9	9747.8	722.2	317.6	3.4	1.4	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ニホンジカ ( <i>Cervus nippon</i> )	Cervus01Ta	脛骨中央部前側	成体	4.3	66	12920.0	4108.6	—	—	—	—	Sawada et al. (2014)
カモシカ ( <i>Capricornis crispus</i> )	Cap01F	大腿骨中央部前側	若齢	2.9	32	26140.1	8269.3	485.8	208.0	2.0	1.0	澤田ほか (2010), 未発表データ
ウシ ( <i>Bos taurus</i> )	Bos04Ha	上腕骨中央部前側	垂成体	7.3	71	43209.7	14662.3	591.4	241.9	1.5	0.7	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ウシ ( <i>Bos taurus</i> )	Bos01Ra	橈骨中央部前側	若齢	3.9	13	29406.6	7064.0	—	—	—	—	Sawada et al. (2014)
ウシ ( <i>Bos taurus</i> )	Bos02Fa	大腿骨中央部前側	成体	13.1	25	31532.4	10001.6	699.6	283.2	2.3	0.8	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
ウシ ( <i>Bos taurus</i> )	Bos03Fa	大腿骨中央部前側	垂成体	9.2	16	28061.3	10802.0	714.8	338.1	2.6	1.0	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
食肉類												
キツネ ( <i>Vulpes vulpes</i> )	Vulpes01M	下顎底	成体	1.8	21	32937.9	10748.3	294.6	142.3	1.9	0.5	Sawada et al. (2014), 未発表データ
タヌキ ( <i>Nyctereutes procyonoides</i> )	Nyctereutes01Fp	大腿骨中央部後側	成体	1.5	13	22022.3	11545.9	480.1	192.8	2.5	1.1	Sawada et al. (2014), 未発表データ
イヌ ( <i>Canis lupus</i> )	Canis01Fa	大腿骨中央部前側	成体	1.9	26	12789.2	5187.9	298.2	163.3	3.7	2.1	Sawada et al. (2014), 未発表データ
イヌ ( <i>Canis lupus</i> )	Canis01Ta	脛骨中央部前側	成体	2.7	65	15291.4	4916.0	273.3	131.0	2.8	0.8	Sawada et al. (2014), 未発表データ
クマ ( <i>Ursus arctos</i> )	Ursus01Ha	上腕骨中央部前側	成体	5.4	114	26356.1	11206.4	719.5	296.4	3.1	1.6	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
クマ ( <i>Ursus arctos</i> )	Ursus01Ra	橈骨中央部前側	成体	5.8	109	29614.9	11581.4	942.1	400.1	3.4	1.2	Sawada et al. (2014), 未発表データ
クマ ( <i>Ursus arctos</i> )	Ursus01Fa	大腿骨中央部前側	成体	5.6	131	22203.2	8273.8	637.3	318.1	3.0	1.4	澤田ほか (2010), Sawada et al. (2014)
クマ ( <i>Ursus arctos</i> )	Ursus01Ta	脛骨中央部前側	成体	6.8	138	22496.6	8158.6	715.9	356.1	3.3	1.3	Sawada et al. (2014), 未発表データ

Ct.Wi: 緻密質の厚さ、On.Ar: 二次オステオンの面積、H.Ar: ハバース管の面積、H-On示数: (H.Ar/On.Ar) × 100

るならば、ウシやクマなどの大型哺乳類は除外してよさそうである。したがって、試料はイノシシ・シカなどの中型偶蹄類ないしキツネ・イヌなどの中型食肉類に比定される可能性が高いと結論づけられよう。試料 4 点のうち、H.Ar が大きい 5D3-III と 5D8-4 は中型偶蹄類、H.Ar が小さい 5D8-IIIc と 5D9-2 は中型食肉類に近いといえそうであるが、焼成による骨組織形態の変化を踏まえ、ある程度の幅を持った推定に留めておくのが穏当であると思われる。

#### 4) ま と め

大沢谷内遺跡の発掘調査において、鎌倉時代の井戸遺構（8区 SE1643）と性格不明遺構（9区 SX2140）から出土した焼骨を肉眼形態学的に検討した結果、コイ科を含む魚骨が含まれていることを明らかにした。また、鎌倉時代の落ち込み遺構（9区 SX1）から出土した中・大型哺乳類四肢長骨の小片群について骨組織形態学的分析を実施した結果、これらがヒトである可能性は小さく、中型偶蹄類ないし中型食肉類に比定される可能性が高いとの結論を得た。

#### 謝 辞

魚骨の同定に際して吉永亜紀子氏からご教示を頂いた。また、写真図版の作成に際して佐伯史子氏の手を煩わせた。記して深謝の意を表したい。

## 第Ⅶ章 総 括

### 第1節 遺 構

#### A 掘立柱建物

これまでの大沢谷内遺跡の調査において確認されている建物はいずれも掘立柱建物である。8・9区の掘立柱建物は、8区で9棟、9区で19棟の計28棟が確認された。柱穴出土遺物や覆土から推測される時代別の数は、古代14棟、中世14棟である（別表1）。

遺物が出土している掘立柱建物は8区のSB4001・4006、9区のSB3・8である。遺物が定量出土しているSB4001は古代3期か古代4期（以下、本章第2節Aの時期区分による）、SB8は古代6期の建物と推測される。

SB4001は3辺に雨落ち溝をもち、柱の掘り方が方形の2間3間の掘立柱建物である。大沢谷内遺跡において柱の掘り方が方形の建物はこの1例のみである。他と異なる性格の建物の可能性が推測される。また、調査区外へのびるため面積が不明な掘立柱建物があるものの、古代で最大の建物はSB8であり、身舎面積67.8m<sup>2</sup>を測る。なお、中世で最大のものはSB13の2間4間の掘立柱建物で、身舎面積43.4m<sup>2</sup>を測る。中世の掘立柱建物は古代よりも相対的に小さいものが多い傾向にある。

8・9区の掘立柱建物は古代・中世ともに類似した分布を示し、8区では遺構確認面の標高3.10～3.35mの北西側で、9区では同標高3.20～3.30mの北側（第20次調査）で確認される。遺構確認面の標高や遺構の分布などから、古代・中世において、8区北西側から9区北側にかけて蛇行しながら大局的には北西－南東方向に延びる微高地が存在したものと考えられる（第48図）。なお、飛鳥・奈良時代の遺物・遺構が出土した1～4区の掘立柱建物が位置する遺構確認面の標高は、3.25m～3.30m前後を測り、8・9区とほぼ同じ標高を示す。

また、9区では遺構確認面の標高2.60～3.10mの9区南側（第19次調査）において、古代・中世ともに耕作に関連すると考えられる遺構が存在する。なお正式な報告書は未刊行であるが、7区においても耕作に関連すると考えられる遺構が存在し〔潮田2012〕、微高地南北のやや低い土地が耕作地として広く利用されていた状況が推測される。

#### B 耕作関連遺構

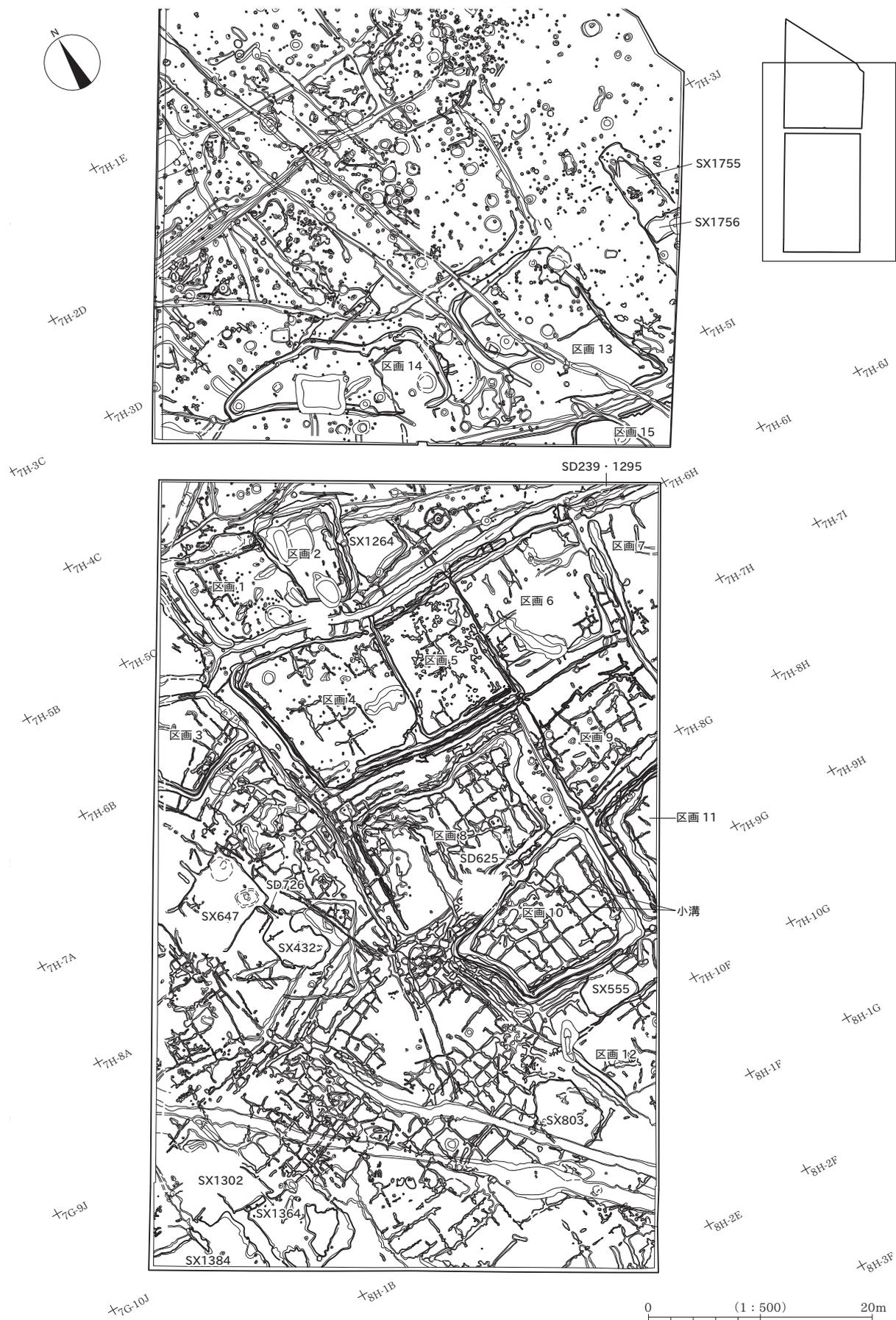
大沢谷内遺跡9区では、南側（第19次調査）を中心に平面形態や断面形状、土層の特徴などから耕作に関連すると考えられる遺構が複数確認されている。耕作関連遺構は大きく分けて①小溝状遺構群、②凹地遺構、③畦畔をもつ耕作土層があり（第Ⅳ章第3節A）、②の凹地遺構については平面形や溝の有無、深度などによりさらに細分が可能である（第42図、第30表）。

以下では耕作関連遺構について、上記分類に従いその性格や変遷等を記す。

##### 1) 各耕作関連遺構の性格・時期

##### ① 小溝状遺構群

9区南部（第19次調査）において幅0.27m・深さ0.07mほどの溝が多数検出された。溝の方向などから少なくとも4群に細分できる（第Ⅳ章第3節C）。直交する溝については切り合いが明確でないものが多いが、一部で切り合いが認められるものもある（図版68の52-52'、図版69の63-63'、図版73の10-10'・19-19'等）。溝の覆土は青灰色の色調を基調とする識別が難しい土であり、大半は切り合いが存在したものと推測する。なお、軸方向の相違から時期幅がある可能性が高い。



第42図 耕作関連遺構（凹地遺構）

小溝状遺構群の性格については、細長い形状で、同方向に等間隔で数条並走する特徴から、畑の耕作痕の可能性が高い（〔佐藤 2000〕や斎野裕彦氏・平間亮輔氏のご教示による）。この小溝状遺構群に伴う畝・畝間については削平のため検出されなかったが、耕作土（⑥層）については一部で確認されている。

本遺構から遺物は出土していないが、溝の覆土や一部残存する小溝状遺構群に伴う耕作土（⑥層）はいずれも覆土 C に類似する。ちなみに、平成 26 年度の農道関連確認調査（第 22 次調査）（第 6 図）でも同様の小溝状遺構が確認されているが、その溝内の土は覆土 A に類似する。また、凹地遺構 B 類の耕作土に切られていることから、凹地遺構 B 類よりも古いと判断される。凹地遺構 B 類に伴う溝の覆土は A・B であり、中世を中心とする時期に形成された遺構と推測される。なお、細池・寺道上遺跡では、凹地遺構 B 類と同様の特徴をもつ遺構から渡来銭と青磁が出土しており中世の可能性が指摘されている〔小池 1994〕ほか、同様の遺構とつながる用・排水路と考えられる溝から珠洲焼が出土している。

以上のことから、小溝状遺構群は古代から中世の間に形成・削平されたといえ、覆土の特徴を合わせると古代を中心とした時期の遺構である可能性が高いと考える。

## ② 凹地遺構

**凹地遺構 A 類** SX647・1264・1302・1364・1384 が該当し、SX432 もその可能性がある。いずれも方位が類似しており、面積は 24.5 ～ 59.0m<sup>2</sup> である。遺構底面は凹凸をもつ。分布をみると、SX1264 を除いて 9 区南西域に存在する。本類については、規模や形状から水田の可能性が推測される。なお、SX432 と SX647、SX1302 と SX1364 はそれぞれ溝(SD726 など)でつながっており、これらの溝は水口としての機能が推定される。底面標高からは、SX647 から SX432、SX1302 から SX1364 への水の流れが推測される。凹地遺構 A 類から遺物の出土は無いが、覆土が C に類似することから古代に属すと考える。

**凹地遺構 B 類** 区画 1 ～ 12 が該当し、区画 15 もその可能性がある。9 区南側（第 19 次調査）を中心に分布が認められる。9 区南側の区画 1 ～ 12 は南北方位を中心に軸をもつものが多く、整然とした配列をなす。区画は大きいもので 210m<sup>2</sup>、小さいもので 80m<sup>2</sup> を測る。縁辺部には幅約 0.5 ～ 1.0m、深さ約 0.1 ～ 0.2m の溝がめぐる。凹地内に掘られていることから排水溝としての機能が推定される。

遺構外側の平坦域では東西・南北方向で区画に沿う形で大小の溝がのびており、さらに枝線として直交して分岐する溝によって各区画と連結する。また、区画 8 と区画 10 を結ぶ SD625 のように、区画同士を直接つなぐ溝も存在する。これらの溝は用排水としての機能が考えられ、凹地遺構 B 類が水の管理と密接な性格を有していたことがうかがえる。なお、区画 1・2 の南側、区画 4 ～ 7 の北側を走る SD239・SD1295 は幅 1.0m 前後と他に比べて規模の大きな溝で、用排水の幹線としての機能が推測される。溝底面の標高から推測される水の経路については、大局的には北から南、東から西へとといった経路であったと考えられる（第 43 図、第 30 表）。

凹地遺構 B 類の性格については、遺構の平面形態や上記のような用排水溝を伴うこと、大沢谷内遺跡における当調査区の環境などから畑または水田と推測される。先述したように、本類と同様の遺構が検出されている細池・寺道上遺跡では、この種の遺構を水田と考え、溝については「出穂の頃から春の耕期まで特に導水をしなない」時期の排水溝、または壁面の補修の際に壁ぎわの土が使われた際の痕跡の可能性が推測された〔小池 1994〕。また、溝を排水溝として捉え、灌水しやすい晩秋から冬季に「裏作」が行われた可能性も指摘されている〔前山 2013〕。一方、水田例で凹地内に方形に溝で囲む例は確認されていない（斎野裕彦氏・平間亮輔氏のご教示による）。本類の性格について、今後様々な角度から検討していく必要があるが、いずれにせよ耕作に関連した遺構であることは間違いなであろう。

凹地遺構 B 類の時期については、前記の通り古代と推測する小溝状遺構群よりも新しく、また溝の覆土がいずれも B または A であることから中世の可能性が推測される。

**凹地遺構 C 類** SX555・803 の 2 基が該当する。覆土は A、B であり、中世の遺構と判断される。遺構の性格については不明であるが、SX555 は区画 10・12 と接しており、SX803 は区画 12 に近接することから、区

面に伴う用排水に関係する可能性もある。

**凹地遺構 D 類** 区画 13・14 が該当する。区画 14 は東西方向で長く、西端が突き出た歪な平面形態をなす。区画 13 は南東方向が突き出た歪な平面形態と推測される。底面はいずれも凹凸をもち、平面形態以外は B 類と類似する。溝の覆土が A または B であること、区画 13 を構成する溝 SD3384 出土の遺物などから、中世の遺構と考えられる。B 類同様に水田または畑に関連する遺構と推測する。

**凹地遺構 E 類** SX1755 の 1 基が該当する。底面は凹凸をもち、凹地遺構 F 類とした SX1756 に切られる。9 区北側（第 20 次調査）の東端に位置し、南東方向は遺構外へとのびる。遺構分布の中心よりやや東側の遺構が希薄な場所に位置する。覆土が B であることから中世の遺構と考えられる。

本類の性格については不明であるが、形態などから水田や畑などの耕作に関連する可能性が推測される。なお、耕作土について植物珪酸体分析を行った結果、イネ 1,300 個 /g が検出されている（第 VI 章第 1 章 C）。

**凹地遺構 F 類** SX1756 の 1 基が該当する。SX1755 に比べて深い断面形状をなす。東側は調査区外へのびるため全体の形状は不明である。覆土 A であることから中世の遺構と考えられる。覆土 3 地点において植物珪酸体分析を行った結果、比較的高い密度でイネが検出されている（第 VI 章第 1 節 C）。

### ③ 畦畔をもつ耕作土層

9 区南側（第 19 次調査）では、基本層序の古代・中世の遺物包含層である III 層直下で、耕作土層（①・②層）が確認されており、一部畦畔に伴うと考えられる高まりも存在する（図版 55）。これらの層は凹地遺構 B 類の耕作土（③～⑤層）を切って形成されているため中世以降と判断される。植物珪酸体分析でも高い密度でイネが認められる（第 VI 章第 1 節 B）ことから水田耕作土と考えられる。

#### 2) 各耕作関連遺構の変遷と分布

前項の記述にもとづき、9 区で確認された耕作関連もしくはその可能性のある遺構について変遷をまとめると、下記のように整理できる。

- 小溝状遺構群・凹地遺構 A 類（古代） 畑・水田
- 凹地遺構 B～F 類（中世） 水田 or 畑または水田・畑
- 畦畔をもつ耕作土層（中世か） 水田

なお、小溝状遺構群や凹地遺構類 A 類と凹地遺構 B 類とでは、時期は異なるが軸は類似しており、耕作の方向や区画が地形の傾斜に合わせて設定されたことを示唆する。居住域と耕作地との関係をみると、古代・中世とも掘立柱建物や井戸が主体をなす 9 区北側（第 20 次調査、標高 3.3m 前後の微高地）より南側（標高 2.6～3.1m）に分布の中心をなす点で一致しており、居住域に近接したやや低い土地を耕作地として利用したものと考えられる。ただし、耕作関連遺構は古代より中世の方がより居住域近くに分布する。

## C 井 戸

本書で報告する 8・9 区で検出された井戸の総数は 114 基である。出土遺物や覆土をもとに井戸を古代・中世に分けると、古代 15 基・中世 95 基となる（第 31 表）。これに大沢谷内遺跡でこれまで本調査・報告が行われた 1～4 区〔細野・伊比ほか 2012〕、市道調査分〔前山 2012〕を合わせると、総数 159 基（古代 34 基・中世 125 基）である（第 32 表、1～4 区 SX1378 は、報告書中で井戸の可能性の他にトイレ状遺構の可能性も指摘されている〔細野・伊比 2012〕がここでは井戸に含めた）。なお、古代については出土遺物から 1～4 区が飛鳥～奈良時代、市道調査区

第 30 表 凹地遺構一覧

調査回数	調査区	区画・遺構番号	類型	方位	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	確認面からの深さ (-m)	底面標高 (m)	時期
第19次	9区	区画1	B	N-5°-E	10.8	10.0	110	0.06	2.98	中世
第19次	9区	区画2	B	N-11°-E	10.0	8.0	80	0.26	2.74	中世
第19次	9区	区画3	B	N-20°-W	—	—	—	0.06	2.80	中世
第19次	9区	区画4	B	N-1°-E	14.4	14.2	210	0.10	2.87	中世
第19次	9区	区画5	B	N-1°-E	13.2	9.6	130	0.14	2.86	中世
第19次	9区	区画6	B	N-1°-E	12.6	12.2	160	0.10	2.95	中世
第19次	9区	区画7	B	N-10°-E	—	—	—	0.05	2.95	中世
第19次	9区	区画8	B	N-0°-E	17.0	11.0	190	0.06	2.86	中世
第19次	9区	区画9	B	N-5°-W	10.8	8.2	90	0.06	2.90	中世
第19次	9区	区画10	B	N-4°-W	16.0	12.0	200	—	—	中世
第19次	9区	区画11	B	N-4°-W	—	—	—	0.05	2.88	中世
第19次	9区	区画12	B	N-7°-W	—	—	—	—	—	中世
第20次	9区	区画13	D	N-10°-W	16.0	10.5	170	0.20	3.20	中世
第20次	9区	区画14	D	—	20.0	6.5	130	0.36	2.90	中世
第20次	9区	区画15	B or D	N-20°-E	—	—	—	0.36	3.04	中世
第19次	9区	SX432	A or C	N-20°-W	5.8	3.9	20.0	0.14	2.58	古代
第19次	9区	SX555	C	—	—	5.6	—	0.11	2.80	中世
第19次	9区	SX647	A	N-29°-E	8.7	6.8	59.0	0.07	2.88	古代
第19次	9区	SX803	C	—	—	0.2	—	0.24	2.80	中世
第19次	9区	SX1264	A	N-87°-E	5.0	4.9	24.5	0.14	2.93	古代
第19次	9区	SX1302	A	—	—	3.8	—	0.09	2.50	古代
第19次	9区	SX1364	A	N-7°-W	7.5	7.2	54.0	0.20	2.44	古代
第19次	9区	SX1384	A	—	—	—	—	0.07	2.79	古代
第20次	9区	SX1755	E	N-10°-W	—	3.6	—	0.22	3.00	中世
第20次	9区	SX1756	F	N-88°-E	—	2.0	—	0.36	2.86	中世

※ 長軸・短軸は小数第1位未満四捨五入 面積は10㎡未満四捨五入

第31表 8・9区井戸一覧

分類：〔北陸中世考古学研究会2012〕による。

調査回数	調査区	遺構	分類				曲物有無	井戸底出土遺物	備考
			A	B1Va	B2I	B2IV			
古代									
21次	8区	SE 201	1						
21次	8区	SE 865	1						
21次	8区	SE 1211	1				土師器碗・須恵器無台杯		
21次	8区	SE 1431	1				土師器無台碗		
21次	8区	SE 2127	1						
21次	8区	SE 2372	1						
21次	8区	SE 2373	1						
21次	8区	SE 2383			1		須恵器無台杯・有台杯		
19次	9区	SE 36	1						
19次	9区	SE 208	1						
20次	9区	SE 1791	1			○			
20次	9区	SE 1996	1						
20次	9区	SE 2811	1						
20次	9区	SE 3172	1						
20次	9区	SE 3329	1						
20次	9区	SE 3372	1						
20次	9区	SE 3416			1		土師器無台碗・黒色土器無台碗	砂利敷	
20次	9区	SE 3571	1						
20次	9区	SE 3579		1			須恵器無台杯		
20次	9区	SE 3589	1						
計(古代)			17	1	0	2			
中世									
19次	8区	SE 84	1						
21次	8区	SE 107	1						
21次	8区	SE 112	1						
21次	8区	SE 119	1						
21次	8区	SE 120	1						
21次	8区	SE 131	1						
21次	8区	SE 134	1						
21次	8区	SE 155	1						
21次	8区	SE 411	1						
21次	8区	SE 768	1				漆器碗		
21次	8区	SE 780	1						
21次	8区	SE 783	1						
21次	8区	SE 834	1						
21次	8区	SE 845	1						
21次	8区	SE 920	1						
21次	8区	SE 929	1						
21次	8区	SE 945	1						
21次	8区	SE 951	1						
21次	8区	SE 994	1						
21次	8区	SE 1020	1						
21次	8区	SE 1045	1						
21次	8区	SE 1068	1				櫛・弁		
21次	8区	SE 1070	1						
21次	8区	SE 1080	1						
21次	8区	SE 1140	1						
21次	8区	SE 1145	1						
21次	8区	SE 1179	1						
21次	8区	SE 1216	1						
21次	8区	SE 1320	1						
21次	8区	SE 1400	1						
21次	8区	SE 1421	1						
21次	8区	SE 1563	1						
21次	8区	SE 1586	1						
21次	8区	SE 1590	1						
21次	8区	SE 1600	1						
21次	8区	SE 1643			1				
21次	8区	SE 1871	1						
21次	8区	SE 1886	1						
21次	8区	SE 2313	1						
21次	8区	SE 2326	1				漆器碗2		
21次	8区	SE 2375	1						
21次	8区	SE 2477	1						
21次	8区	SE 2529	1						

調査回数	調査区	遺構	分類				曲物有無	井戸底出土遺物	備考
			A	B1Va	B2I	B2IV			
21次	8区	SE 2681	1						
21次	8区	SE 2686	1						
19次	9区	SE 17	1						
19次	9区	SE 31	1						
19次	9区	SE 32	1					中世土師器小皿1	
19次	9区	SE 66	1						
19次	9区	SE 69	1						
19次	9区	SE 251	1						
19次	9区	SE 304	1						
19次	9区	SE 460	1						
19次	9区	SE 468	1						
19次	9区	SE 513	1						
19次	9区	SE 289	1						
19次	9区	SE 382	1						
19次	9区	SE 1031	1						
20次	9区	SE 1433	1						
20次	9区	SE 1514	1						
20次	9区	SE 1556	1						
20次	9区	SE 1590	1						
20次	9区	SE 1601	1						
20次	9区	SE 1639	1						
20次	9区	SE 1652	1						
20次	9区	SE 1676	1						
20次	9区	SE 1692	1						
20次	9区	SE 1769	1						
20次	9区	SE 1792	1						
20次	9区	SE 1826	1						
20次	9区	SE 1838	1						
20次	9区	SE 1890	1						
20次	9区	SE 1891	1						
20次	9区	SE 1911	1						
20次	9区	SE 2027	1						
20次	9区	SE 2153	1				○		
20次	9区	SE 2220	1						
20次	9区	SE 2226	1						
20次	9区	SE 2251	1						
20次	9区	SE 2274	1						
20次	9区	SE 2277	1						
20次	9区	SE 2331	1						
20次	9区	SE 2355	1						
20次	9区	SE 2398	1						
20次	9区	SE 2831	1						
20次	9区	SE 2836	1						
20次	9区	SE 2853	1						
20次	9区	SE 2868	1						
20次	9区	SE 2903	1				○		
20次	9区	SE 2936	1						
20次	9区	SE 2953	1						
20次	9区	SE 2967	1						
20次	9区	SE 2977	1						
20次	9区	SE 2978	1						
20次	9区	SE 3025	1						
20次	9区	SE 3185	1						
20次	9区	SE 3188	1						
20次	9区	SE 3241	1				○	柄杓	
20次	9区	SE 3315	1						
20次	9区	SE 3320	1						
20次	9区	SE 3339	1						
20次	9区	SE 3433	1						
20次	9区	SE 3530	1						
20次	9区	SE 3557	1						
20次	9区	SE 3587	1						
20次	9区	SE 3600	1						
20次	9区	SE 3616	1				○		
20次	9区	SE 3617	1					栗形	
20次	9区	SE 3705	1						
計(中世)			108	0	1	0			
古代・中世合計			125	1	1	2			

第32表 大沢谷内遺跡1～4・8・9区・市道関連調査における井戸一覧

調査区	時代	井戸・井戸側分類〔北陸中世考古学研究会2001〕				計	水溜の曲物	井戸底完形土器	備考
		素掘り	木側						
		A	B1Va	B2I	B2IV				
1～4区〔細野・伊比ほか2012〕	古代(飛鳥・奈良)	11	—	1	2	曲物積(2段・SE183)、剝舟転用2(SE1363クリ・SX1378)			
	中世	27	—	—	—	27	—	—	SE1363(櫛)
小計		38	—	1	2	41	—	—	
市道関連(前山ほか2012)	古代(平安)	2	—	—	—	2	—	—	
	中世	1	—	1	—	2	—	—	曲物積(4段・SE418)
小計		3	—	1	—	4	—	—	
8区(本書)	古代(奈良・平安)	7	—	—	1	剝舟転用(8区SE2383スギ)			
	中世	44	—	1	—	45	—	—	SE845・1643(銭貨) SE1363(櫛・弁)
小計		51	—	1	1	53	—	4	
9区(本書)	古代(奈良・平安)	10	1	—	1	木製品・自然木転用(9区SE3579ケヤキ・ヤナギ属)、剝舟転用(9区SE3416・井戸底砂利敷)			
	中世	64	—	—	—	64	4	—	SE3617(栗形)
小計		74	1	—	1	76	5	1	
8・9区合計	古代	17	1	—	2	20	1	5	
	中世	108	—	1	—	109	4	—	
		125	1	1	2	129	5	5	
大沢谷内遺跡既調査分合計	古代	30	1	1	4	36	1	5	
	中世	136	0	2	0	138	4	0	
		166	1	3	4	174	5	5	

が平安時代、8・9区が奈良・平安時代を中心とする時期と推測される（本章第2節A）。中世は、1～4区が13・14世紀、市道関連調査（第16・18次調査）区が13世紀、8・9区が12～14世紀を中心とする時期と推測される。

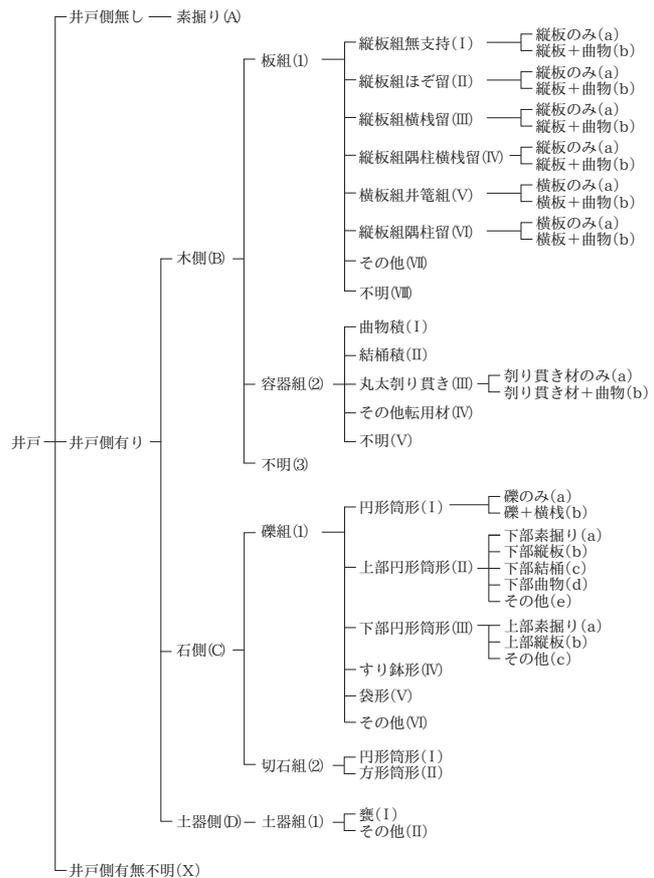
1) 井戸の形態について

以下では、大沢谷内遺跡における井戸の形態について概観する。井戸・井戸側の分類については、北陸中世考古学研究会の分類〔北陸中世考古学研究会 2001〕を使用する（第43図）。

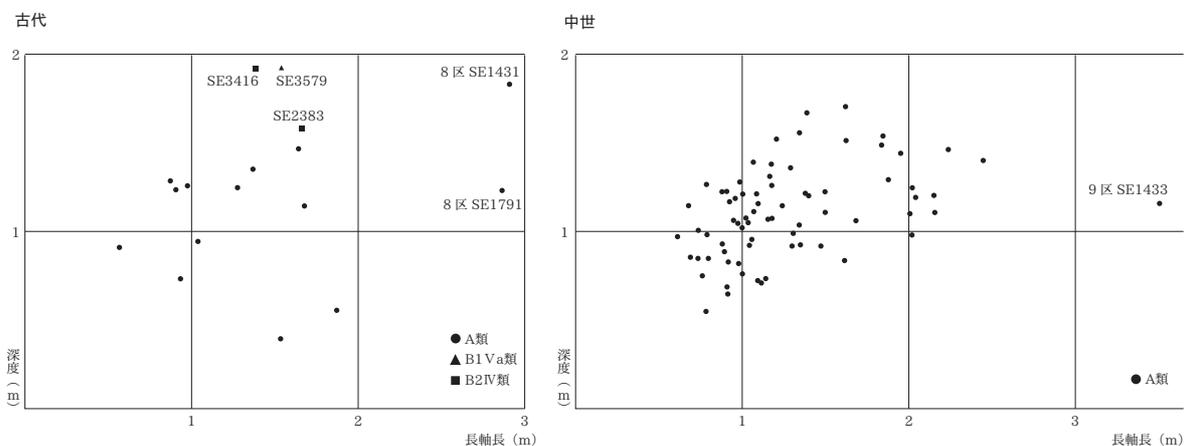
大沢谷内遺跡では井戸側をもたないA類（素掘りの井戸）が174基中166基と大半を占める（第32表）。時期別にみると、古代では36基中30基、中世では138基中136基である。A類以外の8基の井戸はいずれも井戸側をもつ井戸で、B1 Va類（板組・横板組井籠組・横板のみ）1基（9区SE3579）、B2 I類（容器組・曲物積）3基（8区SE1643など）、B2 IV類（容器組・その他転用材）4基（8区SE2383・9区SE3416など）である。出土遺物や覆土の特徴から、B1 Va類は古代、B2 I類は古代1基・中世2基、B2 IV類は古代4基と考える。

本遺跡では古代・中世を通じて素掘りの井戸が基本であり、井戸側は限られた井戸に採用されたと考えられる。また、水溜の曲物については確認できないものが多い。第31表では、井戸底から曲物が出土した井戸について○で示したが、その中には廃棄された曲物が含まれている可能性もある。

8・9区の古代の井戸について分類別に平面長軸長と深度をみると、井戸側をもつB1 Va類・B2 IV類が深い構造の傾向にある（第44図）。B1 Va類（9区SE3579）は、槽（631・632）などの木製品を転用したものに加え、大小の自然木を使用して方形に井桁状に組まれていた。槽はケヤキ、自然木の中から任意に抽出して分析した材はヤナギ属である（第VI章第4節B）。井戸側の設置に際し約1.5m四方の方形の掘方が掘られており、多くの労力が必要とされたことがうかがえる。



第43図 井戸側系図（北陸中世考古学研究会 2001）



第44図 大沢谷内遺跡 8・9区における井戸の長軸長・深度

B2 IV類の4基はいずれも刳舟を転用したものである。1～4区のSE1363の材はクリ、8区SE2383の材はスギである。大沢谷内遺跡のこれまでの調査で、舟を転用した井戸側は古代（飛鳥時代～平安時代）に限られ、中世のものは確認されていない。いずれも刳舟を短軸方向で裁断し、結合することで井戸側として利用する点で共通するが、8区SE2383と9区SE3416では結合部2か所において結合部外側に板状木製品を据えて固定する点で共通するのに対し、1～4区のSE1363・SX1378では固定に伴う板状木製品は確認されない。時期差による結合方法の違いの可能性もある。なお、9区SE3416の井戸底には砂利が敷き詰められていた。この種の井戸はこれまでの調査ではこの1例のみである。

曲物を井戸側として利用したB2 I類は古代・中世ともに確認される（古代とした1～4区SE183は、報告書中で、覆土から古代から中世、規模や形態から古代と推察された井戸であり、中世の可能性も残す）。大沢谷内遺跡で井戸側として利用された曲物は、いずれも底板固定痕が確認されず、井戸側としての使用を意識して製作されたものと推測される〔前山2012〕。また、いずれも内面または外面に斜位や格子目状のケビキが観察され、また削り痕を残すものもみられるなど、周辺遺跡とは様相を異にしており、井戸側用として自家消費を意図して本遺跡内で製作された可能性がある〔前山2012〕。

市道関連調査（第18次調査）のSE418は、井戸下部の曲物内でアスファルト塊の堆積が認められたこと、さらに曲物上面周囲を取り巻くように確認されたテラス面上の木羽板層（アスファルト塊堆積）などから、「油井」として機能していた可能性が指摘された〔前山2012〕。8区のSE1643は遺構上部が削平されていたため木羽板層の有無については不明であるが、井戸側として利用された曲物内の堆積土中からは細かいアスファルト塊745点、総重量81.5gが出土した。このようにアスファルト塊の細片が多く出土したのは、8・9区では8区SE1643に限られる。また、井戸側最下部の曲物（274）には一部でアスファルトの付着も認められる。以上の点から、SE1643が「油井」として機能していた可能性も想定し得る。

## 2) 井戸底出土の遺物について

大沢谷内遺跡8・9区では、多くの井戸から土器や木製品、種子などが出土した。このうち井戸底から完形の土器が出土した井戸は5基確認されている。出土遺物・覆土からはいずれも平安時代と考えられる。なお中世には漆器碗などが出土している（第31表）。8・9区において、刳舟転用の井戸側をもつ8区SE2383・9区SE3416と、木製品や自然木を使い井桁状に組まれた井戸側をもつ9区SE3579で、いずれも井戸底から完形の須恵器杯・土師器碗が出土した（40・41・358）。以上のことから、本遺跡において井戸底に完形土器を入れる祭祀は古代を中心に行われ、中世には漆器に変化した可能性が推測される。また、井戸側をもつ井戸が他の井戸に比べて重視されていたことが示唆される。なお、中世の素掘りの井戸である8区のSE1068では、底面付近から櫛（266）と筭（326）が完形の状態で出土しており、他に枝の先端が裁断されたイヌガヤの枝（324）が出土している。これらは、廃棄時の井戸祭祀に伴うものと推測される。

## D 8区SX1306

8区のSX1306は、西側が調査区外へ広がるため全体の形状については不明であるが、調査区内の形状から、一辺約7mの方形または長方形に近い形と推測される。遺構周囲には遺構確認面より一段低いテラスが囲む。SX1306からは多くの土器や陶磁器類、銭貨などの他、各種木製品が出土した。出土遺物や覆土から中世の遺構と判断されるが、遺構覆土の下部は古代の覆土に類似しており、古代・中世ともに利用された可能性も残す。

注目されるのは完形で出土した木製の鍬（306）である。一木作りの鍬は管見の限り確認できず、鍬の大きさとしては小振りである。また、刃先を装着した痕跡も無いことなどから、当初より祭祀具としての目的で製作された可能性が高く（第V章第6節）、耕作に関連する祭祀が行われていた可能性を示唆する。なお、当遺構からは他に銭貨や動物形木製品など祭祀具として位置づけられる遺物が出土している。

## E 道路状遺構

道路状遺構は9区北側（第20次調査）において可能性があるものも含めて2条確認されている。該当する側溝は①SD1661とSD2092、②SD1661とSD2224である。

SD1661-SD2092は、側溝を含む最大幅4.0m、路面最大幅2.7m（側溝最大幅1.21m・側溝最大深度0.38m）である。方位はN-20°-Wを測り、両端とも調査区外へと伸びる。同遺構は8区では確認されていない。

SD1661-SD2224は、側溝を含む最大幅5.0m、路面最大幅3.9m（側溝最大幅1.21m・側溝最大深度0.38m）である。方位はN-20°-Wである。SD1661-SD2092と並走する。

出土遺物や遺構の切り合い関係などから、両者とも中世と考えられる。これまでの調査区も含め、大沢谷内遺跡で最も新しい時期の遺構といえる。なお、掘立柱建物との関係では、8区SB4008、9区SB10と軸の方位に近い。



第45図 道路状遺構

## 第2節 遺物

## A 土器

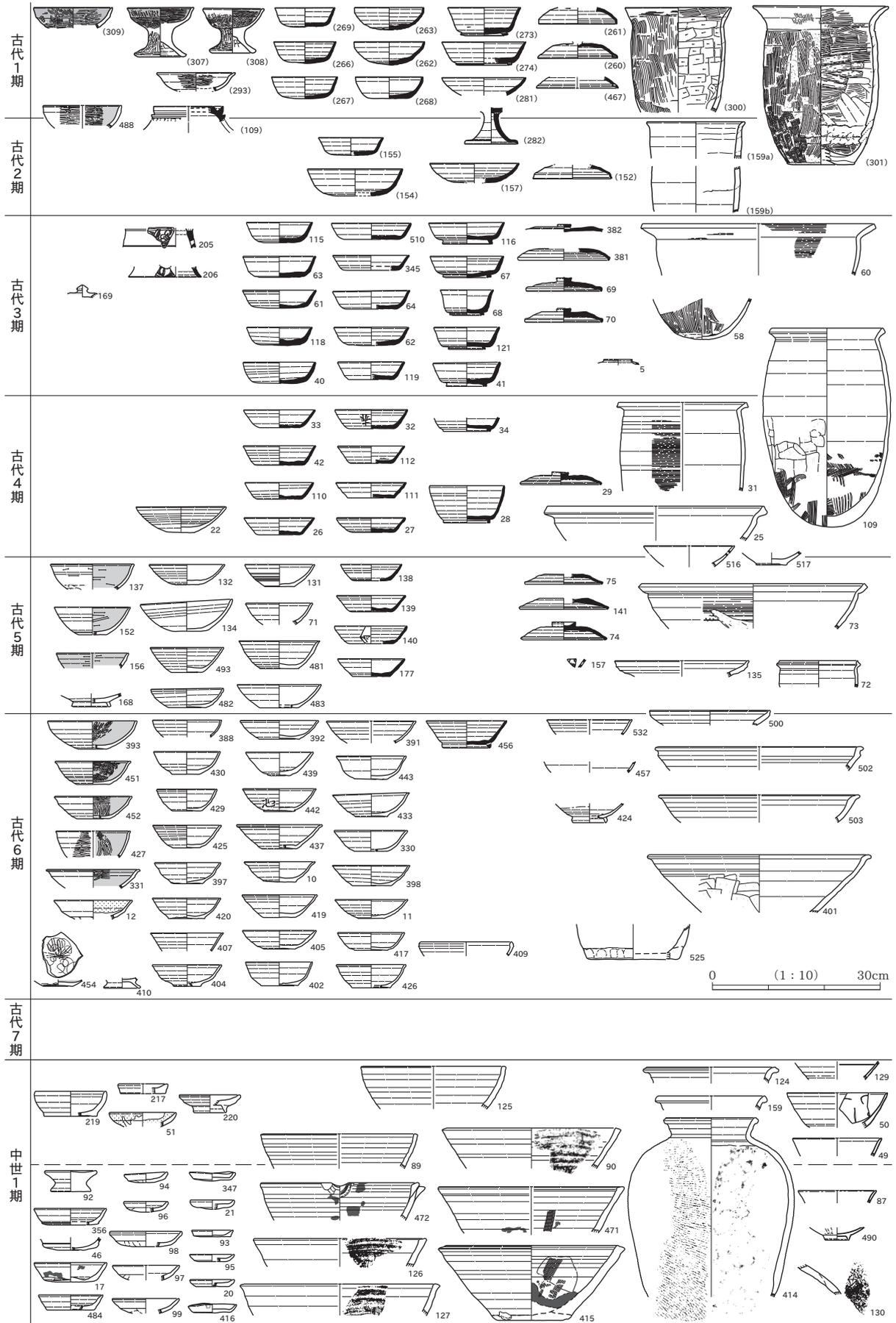
大沢谷内遺跡では、これまでの調査で縄文時代から中世の遺物が出土している。本書掲載の8・9区に限ると、古代（飛鳥時代またはその可能性が高い土器3点含む）・中世が大半で、他の時代は縄文時代の土器13点と石鏃1点、古墳時代の可能性のある勾玉1点が出土したのみである。このように、8・9区で主体となる時期は古代・中世といえ、以下では古代・中世の土器について古代を中心に過去の8・9区以外の調査区も含めてその年代的位置づけを行うとともに、大沢谷内遺跡における該期の動向を記す。また、大沢谷内遺跡における古墳時代以前の動向についても概観する。

## 1) 古代・中世土器の年代的位置づけ

大沢谷内遺跡出土の古代・中世の土器については、形態や法量、器種の多寡などから古代は古代1～6期に、中世は中世1期に区分可能で、各期の主な土器について遺構出土の食膳具を中心に掲載した（第46図）。なお、中世については概ね12世紀から14世紀の時期幅があると考えられ、細分も可能であろうが、良好な遺構出土資料が少ないことから本書では1期として一括し、13世紀後半頃を目安として破線で区分した。第46図の変遷案について、既存編年との対応関係については第33表のとおりと考える。以下、各期の土器様相について記す。

**古代1期** 1～4区（第48図）で主体をなす時期である。土器の他、木製品などの律令祭祀遺物も多く出土している。8・9区ではこの時期の遺物はほとんど確認できないが、9区の須恵器杯蓋（467）が該期に位置づけられる他、9区400・488も古代1期もしくは古代2期の可能性がある。

**古代2期** 1～4区が主体をなすが、古代1期に比べ遺物量は少ない。1～4区の出土土器は当期まで確認できるが、次の古代3期に位置づけられる確実な遺物は認められない。8・9区ではこの時期の遺物はほとんど確



第46図 大沢谷内遺跡における主な土器変遷図 ( )は1~4区出土土器(細野・伊比ほか2012)

第33表 大沢谷内遺跡出土の古代・中世土器の編年対応表

春日編年 〔1999〕	本書	第46図掲載土器
Ⅱ期	古代1期	1~4区 SX945:260~263・266~269・273・274・281・282・293・300・301・307~309 9区 SD669:467
Ⅲ期	古代2期	1~4区 SK666:152・154・155・157・159a・b、SD800:109 9区 SD3296:488
Ⅳ期	古代3期	8区 SE112:5、SE2383:40・41、SX923:58・60~64・67~70、SX2339:115・116、SX2378:119・121、遺構外:169・205・206 9区 SE17:345、SK3197:381・382、耕作土:510
Ⅴ期	古代4期	8区 SE1211:22・25~29、SE1421:31~34、SK467:42、SX1622:109~112
Ⅵ期	古代5期	8区 SX1089:71~75、SD151:131・132・134・135・137~141、SD1196:152、SD1380:156・157、遺構外:168・177 9区 SD2205:481~483、P2464:493、耕作土:516・517
Ⅶ期	古代6期	8区 SE201:10、SE411:11・12 9区 SB8-P2221:330・331、SK3225:388・391~393、SX146:397・398・401、SX172:402・404・405・407・409・410、SX2253:417・419・420・424、 SX2348:425~427、SX3349:429・433・437・439・442・443・451・452・454・456、遺構外:500・502・503・525・532
Ⅷ期	古代7期	8区 SK1570:49~51、SD121:124・125・129、SD2291:159、遺構外:217・219・220
	中世1期	8区 SE929:17、SE1145:20、SE1216:21、SK1103:46、SX1306:87・89・90・92~99、SD121:126・127・130 9区 SE32:347、SE3188:356、SX2140:414~416、SD1661:471・472、SD3012:484、SD3384:490

認できないが、9区488は当期の可能性もある。

古代3期 8・9区で定量確認できるようになる一方、それまで主体を占めていた1~4区で明確な資料が確認できなくなる。当期に、大沢谷内遺跡において空間利用のあり方に大きな変化のあったことを指摘し得る。なお、8・9区においては、古代3~5期は8区出土資料が主体を占める。当期の須恵器の産地は新津丘陵窯跡群産が大半を占め、他に阿賀北産が少量確認できる。甕は古代1・2期に認められた底部平底の非ロクロ甕が認められなくなり、底部丸底のロクロ甕(58)が確認できるようになる。また、古代1・2期に認められた外面をヘラミガキ調整する壺(甕)も確認できなくなる。なお、ヘラにより脚部に花卉文様が線刻された円面硯(205・206)、奈良三彩(5)は当期の可能性はある。脚部に線刻を有する円面硯は東北・関東で多く〔関根2014、田中2007〕、新潟県でも定量確認される〔関2014〕が、花卉文様の線刻は管見の限り類例が認められない。胎土からは新津丘陵窯跡群産と考えられ、花卉文様が同窯跡群に特徴的な意匠であった可能性も示唆する。

古代4期 古代3期同様8区で資料が多く出土している。なお、市道関連調査(第16・18次調査)でもこの時期の遺物が多く出土している。須恵器の産地は佐渡小泊窯跡群産のものが大半を占めるようになる。新津丘陵窯跡群産が大半を占めていた古代3期とは様相が大きく異なる。また、古代5・6期で食膳具の主体を占める土師器碗が確認できるようになる。

古代5期 古代3・4期同様、8区で資料が多い。なお、市道関連調査(第16・18次調査)でもこの時期の遺物が多く出土している。須恵器の産地は佐渡小泊窯跡群産が大半を占める。また、土師器碗が須恵器杯に替わり食膳具の主体を占めるようになる(第34表)。黒色土器も定量確認できるようになる。緑釉陶器(157)も認められる他、越州窯系青磁(516・517)も当期の可能性はある。なお、越州窯系青磁を出土した遺跡としては県内3例目となる(第47図)。他の2遺跡が海岸近くに位置するのに対し当遺跡は内陸部に立地する。破片で5点出土しており、少なくとも2個体存在すると考えられる(第V章第1節D)。当遺跡に広域なネットワークをもつ有力者層が存在したことを示唆する。

古代6期 古代3~5期まで8区出土資料が主体を占めていたのに対し、古代6期では9区出土資料が主体を占めるようになる。古代5期で認められた土師器碗の増加や黒色土器は当期でより顕著となり、食膳具はほぼ土師器碗、黒色土器で占められるようになる。黒色土器では内面に渦巻き状の暗文を描いた碗(454)も認められる。灰釉陶器(424・460・532)も定量出土している。他では、鍋の口縁部に有段状にするもの(502、鍋Ae類)や製塩土器(525)も確認できる。

古代7期 これまでの調査において当期の明確な土器は確認されていない。

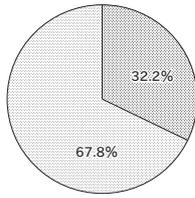
中世1期 8・9区、市道関連調査(第16・18次調査)で定量確認できる。また、1~4区でも再び資料が確認できるようになる。中世土師器、珠洲焼が大半を占めるほか、青磁・白磁・瓷器系陶器も確認できる。

## 2) 小 結

以上の変遷をまとめると、古代から中世において空間利用のあり方が計3回変化していることが分かる。ひとつは古代2期から3期にかけての時期である。主体となる活動域が1~4区から8・9区、とりわけ8区側

第34表 器種構成比率

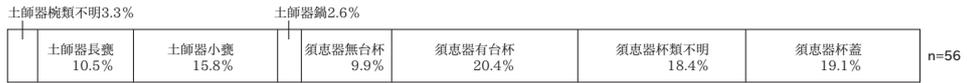
8区 SX923 (古代3期)



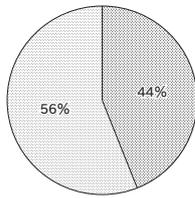
凡例：□ 須恵器 □ 土師器 □ 黒色土器

種別	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	49.0	26.0	32.2	46.4
黒色土器	0.0	0.0	0.0	0.0
須恵器	103.0	30.0	67.8	53.6
総計	152.0	56.0	100.0	100.0

種類	器種	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	碗類不明	5.0	5.0	3.3	9.0
須恵器	無台杯	15.0	4.0	9.9	7.1
須恵器	有台杯	31.0	11.0	20.4	19.6
須恵器	杯類不明	28.0	9.0	18.4	16.1
須恵器	杯蓋	29.0	6.0	19.1	10.7
食膳具計		108.0	35.0	71.1	62.5
土師器	長甕	16.0	8.0	10.5	14.3
土師器	小甕	24.0	12.0	15.8	21.4
土師器	鍋	4.0	1.0	2.6	1.8
炊炊具計		44.0	21.0	28.9	37.5
総計		152.0	56.0	100.0	100.0



8区 SX1622 (古代4期)

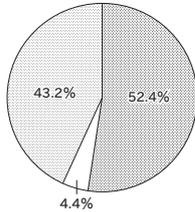


種別	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	70.0	22.0	44.0	59.5
黒色土器	0.0	0.0	0.0	0.0
須恵器	89.0	15.0	56.0	40.5
総計	159.0	37.0	100.0	100.0

種類	器種	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	碗類不明	6.0	4.0	3.8	10.8
須恵器	無台杯	47.0	6.0	29.5	16.2
須恵器	杯類不明	36.0	8.0	22.6	21.6
食膳具計		89.0	18.0	55.9	48.6
土師器	長甕	54.0	17.0	34.0	46.0
土師器	小甕	10.0	1.0	6.3	2.7
炊炊具計		64.0	18.0	40.3	48.7
須恵器	甕	6.0	1.0	3.8	2.7
貯蔵具計		6.0	1.0	3.8	2.7
総計		159.0	37.0	100.0	100.0

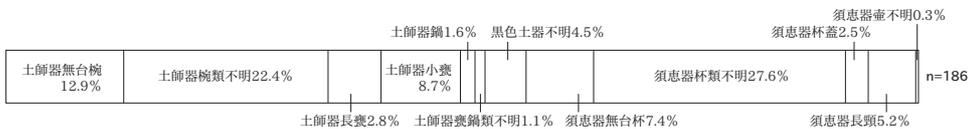


8区 SD151 (古代5期)

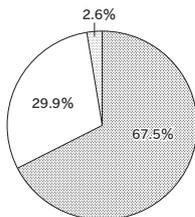


種別	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	199.0	113.0	52.4	60.8
黒色土器	17.0	8.0	4.4	4.3
須恵器	164.0	65.0	43.2	34.9
総計	380.0	186.0	100.0	100.0

種類	器種	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	無台碗	49.0	14.0	12.9	7.5
土師器	碗類不明	85.0	54.0	22.4	29.0
黒色土器	不明	17.0	8.0	4.5	4.3
須恵器	無台杯	28.0	5.0	7.4	2.7
須恵器	杯類不明	105.0	53.0	27.6	28.5
須恵器	杯蓋	10.0	3.0	2.5	1.6
食膳具計		294.0	137.0	77.3	73.6
土師器	長甕	22.0	18.0	5.8	9.7
土師器	小甕	33.0	18.0	8.7	9.7
土師器	鍋	6.0	3.0	1.6	1.6
土師器	甕類不明	4.0	6.0	1.1	3.2
炊炊具計		65.0	45.0	17.2	24.2
須恵器	長頸壺	20.0	3.0	5.2	1.6
須恵器	壺不明	1.0	1.0	0.3	0.6
貯蔵具計		21.0	4.0	5.5	2.2
総計		380.0	186.0	100.0	100.0

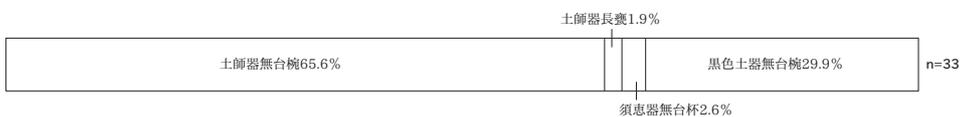


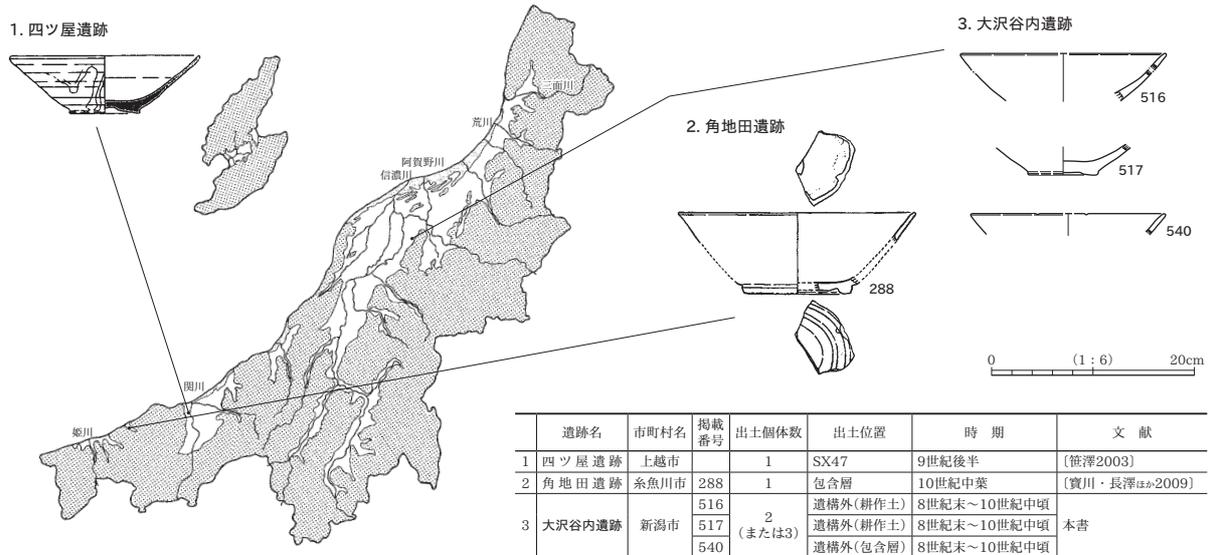
9区 SX3349 (古代6期)



種別	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	52.0	27.0	67.5	81.8
黒色土器	23.0	5.0	29.9	15.2
須恵器	2.0	1.0	2.6	3.0
総計	77.0	33.0	100.0	100.0

種類	器種	口縁部 残存率/36	計測 破片数	比率 (口縁部残存率)	比率 (破片数)
土師器	無台碗	50.5	26.0	65.6	78.8
黒色土器	無台碗	23.0	5.0	29.9	15.2
須恵器	無台杯	2.0	1.0	2.6	3.0
食膳具計		75.5	32.0	98.1	97.0
土師器	長甕	1.5	1.0	1.9	3.0
炊炊具計		1.5	1.0	1.9	3.0
総計		77.0	33.0	100.0	100.0





第47図 県内出土の越州窯系青磁

に変化したことがうかがえる(第48図)。調査区域が限られているため判然としないが、この時期に1～4区から、4区南端で確認された埋没谷を隔てた南側へ活動域の中心が移動した可能性が考えられる。また、市道関連調査(第16・18次調査)でも古代4・5期を中心とする遺物が主体を占めており、古代3期から古代5期にかけては遺跡の北西側がひとつの活動の中心域であった可能性もある。

もうひとつは古代5期から古代6期にかけての時期である。8・9区出土資料が主体を占めるのは古代3～5期と同様であるが、当期には8区から9区へと出土資料の主体が変化する。

古代7期については明確な遺物が確認されていない。活動空間が変化した可能性も残すが、これまで見た古代から中世に至る土器の変遷からは、この時期に活動域が大きく変化した可能性は低いと考える。古代7期における遺跡・資料の減少は県内はもとより東日本で共通した動向といえ、鉄製品や木製品の普及も含め、今後検討していく必要がある。

もうひとつの変化は中世1期で認められる。8・9区、市道関連調査(第16・18次調査)で定量確認できるほか、古代3期以降明確な資料が確認できなくなる1～4区で再び一定量確認できるようになるなど、この時期に活動域が広がった可能性が推測される。

上記の大沢谷内遺跡における古代から中世にかけての空間利用の変化の背景は不明であり、今後の検討課題である。

### 3) 古墳時代以前の大沢谷内遺跡出土土器の概要

縄文時代は1～4区下層で縄文時代晩期の土器・遺構が定量確認でき〔細野・伊比ほか2012〕、未報告ではあるが5・6区下層でも縄文時代晩期の遺物・遺構が検出されている〔潮田2010・2012〕。本書掲載の8・9区では古代・中世の遺物包含層や遺構から縄文時代晩期の土器(469・474・518)や石鎌(240)が出土しているがその数は計14点と僅かで、下層の存在も確認されていない。また、市道関連調査(第16・18次調査)でも、縄文時代晩期の土器が3点出土したのみで、下層は認められなかった。縄文時代の主な活動域として8・9区や遺跡の北西側が含まれないことを示唆する。

弥生・古墳時代では、1～4区で古墳時代前期の土器が僅かに出土している〔細野・伊比ほか2012〕ほか、未報告ではあるが5・6区でも古墳時代の土器が少量出土している〔潮田2010〕。また、確認調査(第4次調査)で弥生時代後期と古墳時代の土器が少量出土している〔川上1989〕。本書掲載の8・9区では弥生・古墳時代の土器の出土は無いが、8区出土の勾玉(235)は形態から古墳時代の可能性が高い。なお、市道関連調査(第16・18次調査)での出土は無い。

以上、これまでの調査において出土した弥生・古墳時代の遺物の数はいずれも僅かで、明確な遺構も確認されていない。弥生・古墳時代における大沢谷内遺跡の動向については明らかではないが、これまでの出土域や他遺跡の立地などから、弥生・古墳時代に主体となる活動域は新津丘陵のある遺跡東側に存在する可能性が推測される。なお、ヒスイ製の勾玉(235)からは、古墳時代における有力者の存在が示唆される。1～4区の調査成果(細野・伊比ほか2012)では、飛鳥時代から奈良時代に官的性格を有する有力な集落であったと考えられ、その前史としての古墳時代の動向は当遺跡を考える上で重要であり今後の検討課題といえる。

## B 木製品

大沢谷内遺跡では木製品が多量に出土している。8・9区出土木製品の器種だけでも細分を含めると55にも分けることができる。このように出土量も多く器種も多様であることから、木製品は大沢谷内遺跡の性格を考える上で大変重要な製品であると考え、ここでは8・9区の木製品について述べる。

### 1) 木製品の時期について

8・9区はこれまで述べられているように大きく古代と中世にわけることができる。そこで共存遺物や出土した遺構から木製品も古代と中世の2時期にわける(一部近世の木製品も存在する)。木製品

は腐朽しやすい遺物のため、一般的な道具としては古代で使われていたものが中世まで残る可能性は低いと考える。そのため、木製品の時期は遺構の時期と一致する可能性が高い。古代の木製品は図示した遺物173点中28点、細別器種中15種である。このことから、古代よりも中世の方が数量・種類ともに膨大となることがわかる。この要因としては、多量に見つかる服飾具履物下駄差歯(歯)や容器の挽物・曲物のほとんどが中世であることがあげられる。このことから、大沢谷内遺跡では中世に木製品が多量に消費される日用品として用いられていたと考える。一方、古代では少数ではあるが中世で確認できなかった工具刀子鞘や運搬具櫓、調度机脚、祭祀具呪符などがある。中世ほど多量ではないが多様な木製品を利用した生活が想定できる。

### 2) 木製品使用樹種について

本報告中の図示した木製品のうち86点について樹種同定(第VI章第4節)を行っている。そのうち、67点が中世のため、中世の木製品に対する樹種傾向を中心に述べる。第35表が中世の分類群別の一覧である。大沢谷内遺跡の8・9区の中世では、67点中スギが42点と大部分を占めていることがわかる。この傾向は北陸がスギ文化圏といわれるように周辺地域一帯と同様のものである[久田2012]。この要因の一つとして北陸の平野部低地では周辺に自生するスギ資源が多いことが指摘されており、大沢谷内遺跡においても花粉分析等(第VI章第2節)からスギの自生が確認できることから同様の要因と考える。また、容器については曲物関係がスギに対して、挽物はケヤキを中心とした環孔材である。この挽物の用材傾向は、本州全域的に確認できるようであり、挽物にあわせた用材選択であることが窺える。

### 3) 木製品の製作について

木製品の個別の記載でも述べているが、本報告遺物のなかには未成品の可能性が高い遺物が存在している。特に容器に関していえば皿挽物の298は樹種がケヤキであることから、轆轤挽きの前工程の未成品と考えられる。また、609は白木であるが時期は中世と考えられ、11～12世紀は漆器が普及しており[西柳2006]、本遺跡出土もほぼ漆器であることを考慮すれば漆を塗布する前の未成品の可能性がかなり高い。さらに、結合補助具樹皮

第35表 大沢谷内遺跡8・9区分群別の樹種(中世)

		工 具	農 耕 土 木 具	漁 具 ・ 紡 績 具	服 飾 具	容 器		調 理 加 工 具	食 事 具	祭 祀 具	遊 戯 具 ・ 日 用 品	施 設 材 ・ 器 具 材	土 木 材	そ の 他	計		
						挽 物	そ の 他										
針葉樹林	スギ		2	1		1	7	8	4	5	1	3	8	2	42		
	ヒノキ								1			1			2		
	マツ属複雑管束亜属		1											1	2		
広葉樹林	散孔材	サワグルミ		1											1		
		ハンノキ属ハンノキ節						1							1		
		カツラ		1											1		
		イスノキ				1									1		
		不明			1										1		
		クリ						2							2		
	環孔材	ケヤキ			1			7							8		
		キハダ属						1							1		
		ハリギリ						1							1		
		環孔材						1							1		
放射孔材	コナラ属アカガシ亜属			1										1			
	不明						1							1			
計			3	3	3	1	8	10	12	5	5	1	4	8	3	1	67

の268は、樹皮を樹木から剥いで、実際に製品に使用する前の状態である。以上のことから、大沢谷内遺跡では中世では確実に木製品の製作を行っていたと考える。一方、古代については未成品の可能性のある遺物もあるが確実とはいえない。また、未成品に使用された樹種は全て周辺域で自生していた可能性が高いものである。

以上のことから、大沢谷内遺跡8・9区の中世では周辺域に自生している樹木から木材を獲得し、多種多様な木製品を日用品として多量に生産して生活に用いていたある程度規模のある集落が営まれていたことが伺える。

### 第3節 古代・中世の古環境

8・9区では遺構を中心とした土壌水洗作業を通じて多量の種実が得られており、それらの一部については種実同定を行った(第VI章第3節)。また、植物珪酸体分析・花粉分析・昆虫類分析なども行っており、古代・中世における遺跡周辺の古環境を推察し得るデータも得られた(第VI章)。当遺跡ではこれまでも古代・中世の古環境について分析・検討がなされており〔細野・伊比2012、前山2012〕、本節ではそれらも与して大沢谷内遺跡の古代・中世の古環境について概観する。

8・9区で行った花粉分析からは、古代(8～10世紀)・中世(12～14世紀)ともに遺跡周辺においてハンノキなどの湿性樹木やコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹、スギ林が分布していたと考えられる。第18次調査における古代(9世紀前半)・中世(13世紀代)の花粉分析結果〔前山ほか2012〕と一致する結果といえる。また、大沢谷内遺跡1～4区の花分析結果〔細野・伊比ほか2012〕によれば、縄文時代晩期にスギが相対的に低いことを除けば、縄文時代晩期と飛鳥・奈良時代(7世紀後半～8世紀)においても、8・9区の古代・中世とおおむね類似した環境にあったことが類推される。なお、大沢谷内遺跡のこれまでの調査で出土した飛鳥時代から中世の木製品の材はスギが圧倒的に多く(本章第2節B)、遺跡周辺もしくは近隣にスギが多く分布していた状況が推測される。

9区では水田と考える遺構や耕作土が古代・中世ともに確認された。また、畑に関わると考えられる古代・中世の遺構も存在する(本章第1節B)。8・9区の植物珪酸体分析では、古代・中世ともにイネが定量確認され、花粉分析でもイネ科・イネ族型が高い出現率を占める。また、種実同定でも古代・中世の遺構ともに炭化米が定量出土している。

花粉分析ではイネの他にムギ類(中世)やソバ属(古代・中世)も確認されている。8・9区の遺構覆土出土の種実同定では、前述の炭化米の他に、古代の遺構からはウリ、ヒョウタン、ナス、エゴマなどの栽培植物も多く検出された。中世ではイヌビエ属(栽培)やアワが多く、他に古代同様ウリ、ヒョウタン、ナス、エゴマも定量確認されている。なお、古代・中世ともにモモも多数確認されている(第VI章第2節)。

以上、自然科学分析の結果からは、古代・中世において調査区周辺に水田ないし畑地が広がっていたことが示唆され、遺構の状況と整合した内容といえる。また、中世の遺構からは樹木の種実がほとんど検出されないことから、中世に農耕地がより拡大したと推定された(第VI章第3節)。不明な点が多いものの、出土土器の変遷からは、中世に活動域が拡大したと考えられ(本章第2節A)、8・9区の耕作関連遺構で中世のものが多い(本章第1節B)ことなどから、中世に農耕地が拡大した可能性が高いと考える。

なお大沢谷内遺跡1～4区において、飛鳥時代の耕作に関連する遺構は検出されていないが、植物珪酸体・花粉分析から周辺で水田耕作が行われていた可能性が指摘されている〔細野・伊比ほか2012〕。大沢谷内遺跡において飛鳥時代以降、中世に至るまで農耕地が拡大していった状況が推測される。

### 第4節 遺跡の位置づけ

大沢谷内遺跡は、信濃川と新津丘陵に挟まれた沖積地内の微高地に立地し、標高約2.6～3.3mを測る。本書

報告の8・9区は出土遺物から8世紀後半から10世紀、12世紀から14世紀を主体とする時期と考えられる。

8・9区において古代・中世の掘立柱建物が確認された遺構確認面の標高をみると、8区北西側で3.10～3.35m、9区北側で3.20～3.30mを測る。いずれも調査区内で最も標高の高い場所に位置しており、古代・中世において8区北西側と9区北側にかけて蛇行しながら、大局的には北西－南東方向にのびる微高地が存在したものと考えられる（本章第1節A）。

また、遺構確認面の標高が2.60～3.10mの9区南側では、古代・中世ともに水田・畑に関連すると考えられる遺構が複数確認された。また、7区においても耕作に関連すると考えられる遺構が存在しており〔潮田2011〕、微高地南北の低い土地を耕作地として利用した状況が推測される。自然科学分析でも、畑・水田が存在した可能性が示されており（第VI章）、遺構におけるあり方と一致する。なお、古代・中世の耕作関連遺構が確認されている市道関連調査（第16・18次調査）の遺構確認面の標高をみると、最も低い調査区北西端（1区北西端）で2.30m、最も高い調査区南東端（4区南東端）で3.05mを測り、8区北西側より低い土地であったと考えられる。また、1～4区上層で建物が確認された範囲における遺構確認面の標高は3.25m～3.30mである。周辺域を含め考えると、8・9区に比べやや標高の高い場所であった可能性があり、古代・中世において最初に最も標高の高い場所に集落が形成されたことを示唆する。

古代1期には溝で区画された掘立柱建物や「九九」木簡、斎串や刀形・舟形・鏃形・弓形木製品など多くの木製祭祀具が出土しており、律令祭祀を執り行った官的性格を有する集落であったと考えられる。製作途中の木製品や羽口の出土など、丘陵に近い地理的条件を背景とした手工業生産が行われていた可能性が推測される。また、アスファルトも出土しており、石油資源を利用していた可能性が高い。日本書紀によれば天智7（668）年に「越国」から「燃水・燃土」が献上されたとされる。その供給地の特定については今後の検討課題であるが、油田地帯に近接する地理的環境が、大沢谷内遺跡が当期において有力な集落として展開した背景のひとつとして考えられる。また、井戸側に利用された丸木舟や櫂からは、この時期の活発な内水面交通がうかがえるとともに、豊富な木材資源を有していたことを示唆する。古代2期においても円面硯などの出土から古代1期同様、官的要素が継続したと考えられる〔坂井2008、前山2009・2012、細野・伊比2012ほか〕。

遺物・遺構の分布などからは、古代3期以降1～4区での活動はほぼ認められなくなり、変わって8・9区や市道関連調査（第16・18次調査）部分の遺跡北西側が活動の中心域となる。1～4区から8・9区側へ集落の中心が移ったと考えられ、この時期に空間利用のあり方に大きな変化があったことを示唆する（本章第2節A）。1～4区南端域において東西方向にのびる深さ約3mの大きな埋没谷が確認されており〔細野・伊比ほか2012〕、確認調査の土層柱状図からは、古代・中世において谷幅が100m前後であった可能性がある（第IV章第2節B）。古代3期以降はこの谷を隔てた南側が活動の中心的な空間として利用されたことが推測される（第48図）。

古代3～6期には、出土遺跡に限られる奈良三彩や県内3遺跡目となる越州窯系青磁、円面硯、袋状鉄斧（市道関連調査でも1点出土）、内面に渦巻き状の暗文を描いた黒色土器、一定量の灰釉・緑釉陶器、石帯など、一般集落とは明らかに異なる遺物の様相が認められる。2基の井戸（8区SE2383・9区SE3416）で確認された井戸側に転用された丸木舟は、この時期に活発な内水面の利用を行っていたことを示すとともに、豊富な木材資源を有していたことを示唆する。製作途中の可能性のある田下駄（628）も出土しており、古代に遺跡内で木製品の製作を行っていた可能性も考えられる。また、市道関連調査（第18次調査）では漆要具も出土しており、森林資源の活発な利用を示す〔前山2012〕。他には土錐も出土しており（市道関連の第18次調査でも出土）、漁撈も行っていたことが推測される。古代3～6期は9区を中心に水田や畑に関連する遺構が複数確認されており、主要な生業の一つであったと考えられる（本章第1節B）。また、多量のアスファルト塊の出土からは、油田地帯に隣接した地理的条件を背景として石油資源が集落の生業の一つとして利用されていた可能性が高い（第V章第8節）。羽口や炉壁・鉄滓（市道関連の第18次調査でも出土）からは、集落内で鍛冶が行われていた可能性が推測される。

以上、古代3～6期の沢谷内遺跡は、古代1・2期に続いて有力者層が居住する集落であったと判断し得る

とともに、丘陵に近く、河川にも通じた地理的条件を背景として、様々な手工業生産や農耕・漁撈活動を行っていたと考えられる。出土遺物からは官的性格を帯びた集落であった可能性が推測される。

続く古代7期の大沢谷内遺跡の動向は不明であるが、中世1期になると1～4区、市道関連調査(第16・18次調査)でも遺構・遺物が確認されるようになり、中世に活動域が広がる状況が推測される。蓋状鉄製品(574)、骨角製の筭や栗形(326・679)、木製の刀子鞘(584)、一定量の漆器の椀や盤、青磁や白磁などからは、中世においても有力な集落であったと考えられる。また、木製未成品(1～4区・市道関連調査でも出土)や使用前の結合用樹皮の存在は、中世に本遺跡において木器製作が活発に行われていたものと判断し得る(本章第2節B、前山2012)。

水田や畑などの農耕は、古代以上に活発化したものと考えられる(本章第1節B)。また、アスファルト塊も古代同様多量に出土しており、中世においても石油資源を利用していたものと考えられる(第V章第8節)。なお、8区及び市道調査では油井の可能性のある井戸が1基ずつ存在する(本章第1節C)。漁撈関係では鉄製の釣針(242)がある。

以上、中世における大沢谷内遺跡は一般集落とは考え難く、古代から継続する有力者層の集落であったと考えられるとともに、古代同様、その地理的条件を背景として木製品の製作や石油資源の利用など、様々な手工業生産や農耕・漁撈活動を展開していたものと判断される。

これまでの調査で出土した遺物からは、大沢谷内遺跡の下限は14世紀代と推測され、これ以降の集落の動向については明らかではない。市道関連調査(第16・18次調査)では、調査区北西側の遺構確認面の標高が2.5～2.7mと低い場所(市道関連調査〔前山2012〕の1・2区)において古代・中世の遺物包含層の上に未分解有機物層の堆積がみられた〔前山2012〕。同層は1～4区においても、土地改良により大部分が削平を受けているものの低地部において基本層序(報告書中のⅢ層)として把握されている〔細野・伊比2012ほか〕。8・9区の調査では、この未分解有機物層は基本層序として確認されていないが、中世に属する遺構の大半において覆土としてこの未分解有機物層が確認されており、1～4区、市道関連調査区においても同様の状況であった〔細野・伊比2012ほか、前山2012〕。

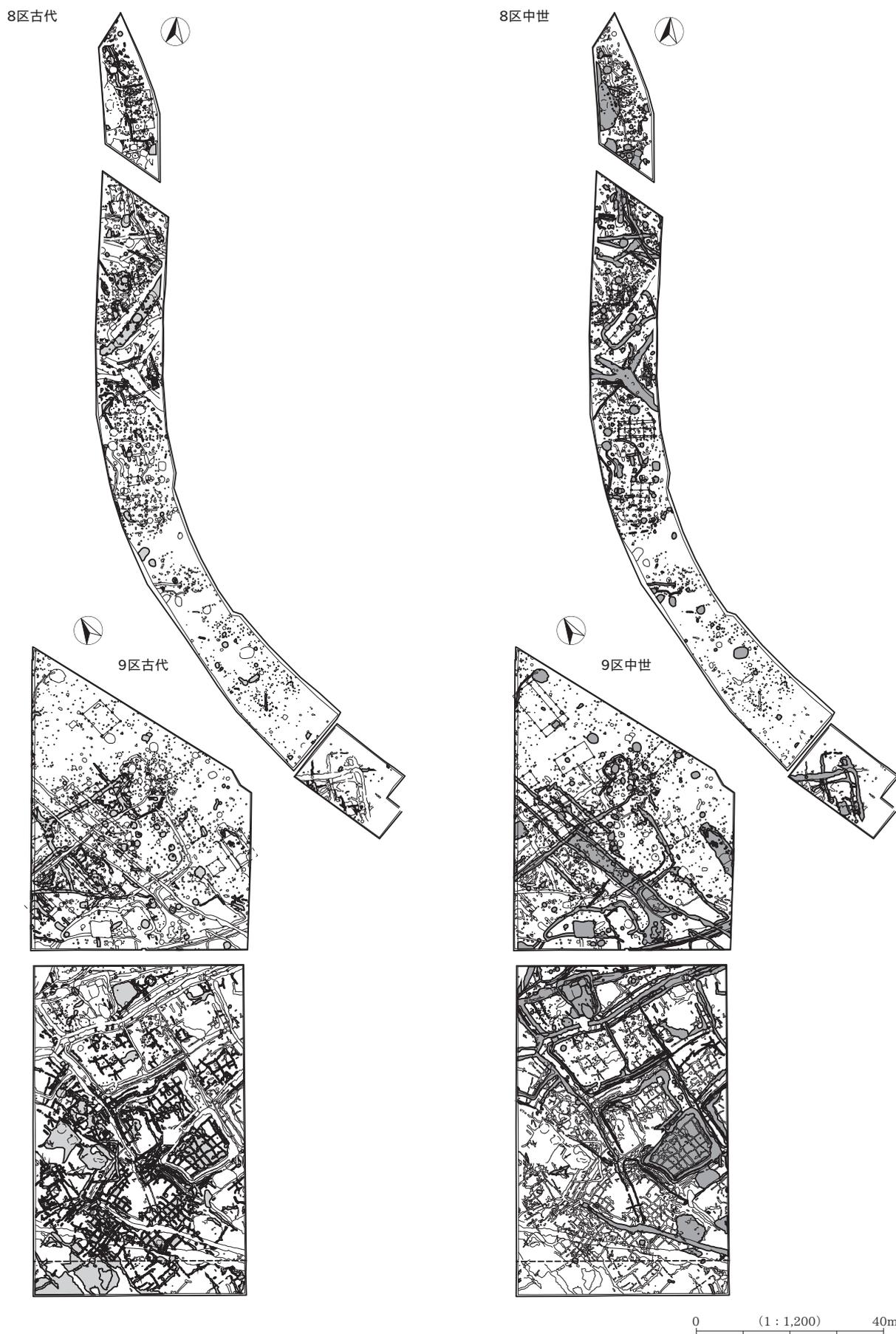
このような状況からは、当遺跡周辺が中世以降に低湿な環境へと変化したことがうかがえる。「鎌倉潟」など近世まで存在した周辺の潟はこの未分解有機物層が堆積した時期に形成された可能性も推測される〔細野・伊比ほか2012〕。上記環境変化は大沢谷内遺跡の出土遺物の下限から15世紀前後に生じたものと推定される。不明な点が多いものの、この急激な環境変化を受けて大沢谷内遺跡の集落が廃絶した可能性がある〔前山2012〕。

以上、大沢谷内遺跡は飛鳥・奈良時代には官的性格を有する集落、平安時代も非常に有力な集落であったと考えられる。中世においても古代に続き有力者層の存在が推測される。さて、遺跡に近い新津丘陵は県内有数の油田地帯である。石油の採掘は、文字資料としては江戸期である慶長18(1613)年まで遡り、平成8年まで行われていた。また、遺跡の西約1kmを流れる信濃川は江戸時代にも舟運が盛んな河川であり、明治に入ると蒸気船が登場し、小須戸町には船着き場が設置され賑わった。その後、鉄道の発達や自動車の普及などによって昭和初期に舟運は衰退した。さらに、遺跡周辺にはかつて鎌倉潟や大日潟といった潟が存在しており、江戸期の元禄年間に描かれた「新津組・小須戸組絵図」にも示されている(第3図)が、昭和の耕地整理で完全に姿を消した〔溝口・山名1983〕。大沢谷内遺跡で認められた石油や内水面交通(船運)、潟の利用など、原始・古代から昭和期まで、時代背景によって利用形態は異なるものの、遺跡周辺では地理的条件を背景に自然環境を利用しながら様々な生産・交易活動が行われていた。

古代における石油資源の利用状況や交易形態、弥生・古墳時代の集落の様相など、大沢谷内遺跡の実態については不明な点を多く残す。今後、周辺域の調査や関連諸科学も含めた多方面からの検証・検討を行い、遺跡や周辺環境の実像に迫る必要がある。



第48図 大沢谷内遺跡1～4・8・9区平面図



第49図 8・9区における古代・中世の遺構平面図

## 引用・参考文献

- ア 相澤 央 2012a 「第三編 古代・中世 第一章 古代の東蒲原郡 第三節 越後国と陸奥国の成立」『東蒲原郡史 通史編 1 自然・原始・古代・中世・近世』 東蒲原郡史編さん委員会
- 相澤 央 2012b 「第三編 古代・中世 第一章 古代の東蒲原郡 第四節 律令制下の東蒲原」『東蒲原郡史 通史編 1 自然・原始・古代・中世・近世』 東蒲原郡史編さん委員会
- 相田泰臣・渡邊朋和ほか 2014 『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書—第 15・16・17・18・19 次調査—』 新潟市教育委員会
- 阿部洋輔 1983 「第一編 古代・中世の郷土 第二章 越後国の成立と進展 第二節 荘園制の成立」『小須戸町史』 小須戸町教育委員会
- 阿部洋輔・山名正平 1983 「第一編 古代・中世の郷土 第三章 武士社会の展開 第三節 戦国期の動乱」『小須戸町史』 小須戸町教育委員会
- 荒川隆史 2004 「第IV章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- イ 飯田素州 1989 「第二編 中世 第一章 中世の白根郷 第一節 荘園と保」『白根市史 第七巻 通史』 白根市教育委員会
- 石田明夫 1994 『会津大戸窯 会津古窯跡群発掘調査報告書（遺物編）』 福島県会津若松市教育委員会
- 石山精哉・春日真実ほか 1996 『江内遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊東隆夫・山田昌久ほか 2012 『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社
- 伊藤秀和 1996 『川船河遺跡』 田上町教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡』 加茂市教育委員会
- 伊比博和 2012 「第V章 第1節 C アスファルト」『大沢谷内遺跡Ⅱ 第 7・9・11・12・14 次調査』 新潟市教育委員会
- 岩井宏實 1994 『曲物（まげもの）』 ものと人間の文化史 75 法政大学出版局
- ウ 潮田憲幸 2010 「大沢谷内遺跡 5 区・6 区」『平成 21 年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
- 潮田憲幸 2011 「大沢谷内遺跡 7 区」『平成 22 年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
- 潮田憲幸 2012 「大沢谷内遺跡」『平成 23 年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市文化財センター
- 潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡Ⅱ 第 25 次調査』 新潟市教育委員会
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』 第 40 集 国立歴史民俗博物館
- 宇野隆夫・前川 要ほか 1993 『珠洲大島窯』 富山大学人文学部考古学研究室・石川考古学研究会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2014 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第 18・19 次調査』 新潟市教育委員会
- オ 岡村道雄 2014a 「縄文時代以来のアスファルト採取、精製、流通と利用」『新潟考古』 第 25 号 新潟県考古学会
- 岡村道雄 2014b 『縄文人からの伝言』 集英社新書
- カ 春日真実 1999 「第 4 章 古代 第 2 節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
- 春日真実 2000 「考古編 第 5 章 まとめ」『吉田町史 資料編 1 考古・古代・中世』 吉田町
- 春日真実 2003 『沖ノ羽遺跡Ⅲ（C 地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2014 「概説③ 新潟県の古墳時代中期～後期」『平成 25 年度越後国域確定 1300 年記念事業 記録集』 新潟県教育委員会
- 春日真実・伊藤秀和 2014 「【第 1 回研究発表会参加記】 田上町行屋崎遺跡について」『新潟県考古学会連絡紙』 第 102 号 新潟県考古学会
- 春日真実ほか 2001 『梯子谷遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
- 加藤 学 1999 「第 5 章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉 A 遺跡』 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川上貞雄 1989 『大沢谷内遺跡発掘調査報告書』 小須戸町教育委員会

- 川上貞雄 1994 「第一編 原始・古代・中世の田上郷 第一章 原始時代の田上 第四節 古墳の出現とエゾ塚古墳」『田上町史 通史編』 田上町
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村 B・D 地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・青木達雄 1987 『九ツ塚 緊急発掘調査報告書』 小須戸町教育委員会
- 川上貞雄・遠藤孝司<sup>ほか</sup> 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・遠藤孝司<sup>ほか</sup> 1984 『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』 白根市教育委員会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第 8 号 北陸古代土器研究会
- 木村宗文 1993 「第一編 原始・古代・中世の新津 第二章 古代越後国と大和政権 第三節 越後国の成立と人々の生活 二 越後国の成立」『新津市史 通史編・上巻』 新津市
- 木村宗文・田村 裕<sup>ほか</sup> 1989 「第三編 文献」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市
- コ 小池義人 1994 「第 IX 章 まとめ 1. 中世の凹地遺構と溝について」『細池遺跡・寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人・須藤高志<sup>ほか</sup> 1994 『細池遺跡・寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 2007 『信濃川・越後平野の地形と地質』 社団法人 北陸建設弘済会
- 小須戸町教育委員会 1993 『小須戸町の文化財（国・町指定文化財）』
- 古代の土器研究会 1994 『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東 3－』 古代の土器研究会
- 古代の土器研究会 2003 『古代の土器研究－平安時代の緑釉陶器・生産地の様相を中心に－』 古代の土器研究会
- 小林昌二 1995 「原始古代中世 第三章 村と港と古代国家 第一節 国群の形成」『新潟市史 通史編 1 原始古代中世近世（上）』 新潟市
- 小松 彰 1995 「第 II 章 街道の確定と現状 第五節 加茂から田上」『新潟県歴史の道調査報告書 第八集 三国街道中通り』 新潟県教育委員会
- サ 齊藤寿一郎 1983a 「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第三章 小須戸の町立て 第二節 信濃川水運と廻米」『小須戸町史』 小須戸町役場
- 齊藤寿一郎 1983b 「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第三章 小須戸の町立て 第三節 街道と宿駅」『小須戸町史』 小須戸町役場
- 齊藤孝正 1994 「東海地方の施釉陶器生産－猿投窯を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東 3－』 古代の土器研究会
- 齊藤義信 1990 「第二部 ふるさと探訪 / わが町・わが村 下越地域 新潟市とその周辺地域 小須戸町」『新潟県風土記』 株式会社 旺文社
- 齊藤義信・山名正平 1983 「序章 小須戸の自然」『小須戸町史』 小須戸町役場
- 坂井秀弥 2008 「第 I 編 越後における律令社会の成立と展開 第 4 章 越後平野の環境・交通・産業と官衙遺跡」『古代地域社会の考古学』（株）同成社
- 坂井秀弥<sup>ほか</sup> 1989 『山三賀 II 遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 笹澤（諫山）えりか 2009 『中田遺跡 第 2 次調査』 新潟市教育委員会
- 笹澤正史 2003 「四ツ屋遺跡 二次調査」『上越市史 資料編 2 考古』 上越市
- 佐藤堅次 1983 「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第二章 近世農村の展開 第四節 天ヶ沢草水の開発」『小須戸町史』 小須戸町役場
- 佐藤甲二 2000 「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題－仙台市域の調査事例をととして－」『日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会資料集 第 1 集 はたけの考古学』 日本考古学協会 2000 年度鹿児島大会実行委員会
- ス 鈴木郁夫 1989 「第一編 自然」『新津市史 資料編第一巻 原始・古代・中世』 新津市
- 鈴木浩平 1993 「第一編 原始・古代・中世の新津 序章 郷土の自然 第一節 地形の概観」『新津市史 通史編・上巻』 新津市
- 鈴木俊成・春日真実<sup>ほか</sup> 『一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成・佐藤友子<sup>ほか</sup> 2012 『小坂居付遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之 2014 「新潟県出土の古代陶硯について－特に陶硯の形態分類と編年試案－」『新潟考古』第 25 号 新潟県考古学会
- 関根章義 2014 「古代陸奥国における陶硯の受容と展開－城柵官衙遺跡を中心として－」『古代文化』第 66 巻第 3 号 公益財団法人古代学協会

- タ 高橋照彦 1995a 「平安期緑釉陶器生産の展開と終焉」『国立歴史民俗博物館研究報告』第60集 国立歴史民俗博物館
- 高橋照彦 1995b 「Ⅲ 土器・陶磁器 3. 緑釉陶器」『概説 中世の土器・陶磁器』 有限会社真陽社
- 田上町教育委員会 2013 『田上町 行屋崎遺跡 現地説明会資料』
- 武田一夫 1994 「一 自然」『田上町史 別編 文化財』 田上町
- 田中広明 2007 「古代の官衙や集落と陶硯」『研究紀要』第22号 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 田畑 弘 1993 『保明浦遺跡』 田上町教育委員会
- 田畑 弘 1996 『保明浦遺跡Ⅱ』 田上町教育委員会
- 田畑 弘 2003 『保明浦遺跡Ⅲ』 田上町教育委員会
- 田畑 弘 2004 『保明浦遺跡Ⅳ』 田上町教育委員会
- 田村 裕 1993 「第一編 原始・古代・中世の新津 第三章 荘・保と武士の世 第一節 新津市周辺の保と荘園」『新津市史 通史編・上巻』 新津市
- 立木宏明・相澤（高野）裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- ツ 土田孝雄 1995 「第Ⅱ章 街道の確定と現状 第六節 矢代田から新津」『新潟県歴史の道調査報告書 第八集 三国街道中通り』 新潟県教育委員会
- 續伸一郎 1995 「Ⅲ 土器・陶磁器 11. 貿易陶磁器〔3〕 中世後期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』 有限会社真陽社
- ト 土橋理子 1995 「Ⅲ 土器・陶磁器 11. 貿易陶磁器〔1〕 初期貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』 有限会社真陽社
- ナ 永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図版』 高志書院
- 中島栄一 1983 「第一編 古代・中世の郷土 第一章 郷土のあけぼの」『小須戸町史』 小須戸町役場
- 中島栄一ほか 1976a 『中店遺跡』 田上町教育委員会
- 中島栄一ほか 1976b 『古屋敷遺跡』 田上町教育委員会
- 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代篇』 奈良国立文化財研究所
- 檜崎彰一 1998 「日本における施釉陶器の成立と展開」『特別展 日本の三彩と緑釉—天平に咲いた華—図録』 財団法人五島美術館
- ニ 新潟県立歴史博物館 2004 『越後佐渡の古代ロマン—行き交う人々の姿を求めて—』
- 新潟市 2007 『新 新潟歴史双書2 新潟市の遺跡』
- 新潟市 2008 『新 新潟歴史双書3 石油王国・新潟』
- 新潟市教育委員会（新潟市文化・スポーツ部歴史文化課） 2014 「I 平成25年度文化財調査概要 3 埋蔵文化財（2）本発掘調査の概要 ③下新田遺跡」『平成25年度 新潟市文化財調査概要』
- 新潟市歴史博物館 2006 『図録「新潟の舟運」～川がつなぐ越後平野の町・村～』
- ノ 農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 1967 『新版 標準土色帖』 日本色研事業株式会社
- ヒ 久田正弘 2012 「17章 中部日本海側—福井県・石川県・富山県・新潟県—」『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社
- 平尾政幸 2001 「平安京の石製銚具とその生産」『研究紀要』第7号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
- フ 藤澤良祐 1995 「Ⅲ 土器・陶磁器 9. 中世陶器〔1〕 古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』 有限会社真陽社
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- ホ 北陸中世考古学研究会 2001 『第14回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の井戸』 北陸中世考古学研究会
- 星野信明・石川智紀ほか 1996 『沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細井佳浩 2012 「新潟県における木製農具「ナンバ」について—小考—」『新潟考古』第23号 新潟県考古学会
- 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査』 新潟市教育委員会
- マ 前山精明 2009 「大沢谷内遺跡」『平成20年度新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
- 前山精明 2012 「第Ⅷ章 総括」『大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査』 新潟市教育委員会
- 前山精明 2013 「大沢谷内遺跡出土のアスファルト関連遺物について」『アスファルト研究会（第2回）』

- 前山精明 2014 「Ⅱ 開発事前審査 2 平成 23 年度・24 年度の事前審査に係る試掘確認調査の概要 (3) 秋葉遺跡第 9・10 次調査」『新潟市文化財センター年報 第 1 号—平成 23 (2011) 年度・平成 24 (2012) 年度版—』新潟市文化財センター
- 前山精明ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第 18 次調査』新潟市教育委員会
- 前山精明・伊比博和ほか 2010 『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』新潟市教育委員会
- ミ 實川順一・長澤展生ほか 2009 『角地田遺跡 平遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 水澤幸一 2001 『下町・坊城遺跡Ⅴ』中条町教育委員会
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会
- 溝口敏磨・山名正平 1983 「第三編 幕藩社会の崩壊と郷土 第二章 信仰と文化 第一節 寺院と神社」『小須戸町史』小須戸町役場
- モ 本井晴信 1983 「第二編 幕藩社会の成立と郷土 第三章 小須戸の町立て 第一節 町のなりたち」『小須戸町史』小須戸町役場
- ヤ 山上卓夫 1994 「第一編 原始・古代・中世の田上郷 第三章 戦乱の時代と護摩堂山 第二節 越後の内乱と護摩堂山」『田上町史 通史編』田上町
- 山口正紀 2014 「中世都市鎌倉の木の利用と役割」『第 12 回考古学と中世史シンポジウム 木の中世—資源・技術・製品—資料集』考古学と中世史研究会
- 山下峰司 1995 「Ⅲ 土器・陶磁器 4. 灰釉陶器・山茶碗」『概説 中世の土器・陶磁器』有限会社真陽社
- 山本信夫 1995 「Ⅲ 土器・陶磁器 11. 貿易陶磁器〔2〕中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』有限会社真陽社
- 山本信夫 2000 『大宰府条坊跡ⅩⅤ—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会
- ヨ 吉井雅勇 1999 『元山窯跡群 平成 9・10 年度町内遺跡試掘確認調査報告書』新潟県荒川町教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 四柳嘉章 2006 『漆(うるし)Ⅰ』ものと人間の文化史 131-Ⅰ 法政大学出版局
- ワ 若林知美 2004 「新潟県出土の古代施釉陶器」『新潟考古学談話会会報』第 28 号 新潟考古学談話会
- 渡邊朋和・穴澤義功ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 分析・考察編』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・小田由美子ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡 E・A・C 地点、大入遺跡 A 地点』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書—第 11・12・13・14 次調査—』新津市教育委員会
- 渡邊ますみほか 2009 『駒首湯遺跡 第 3・4 次調査』新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・奈良貴史ほか 2012 『四十石遺跡 第 2 次調査』新潟市教育委員会

## 第Ⅵ章 自然科学分析

- イ 伊東隆夫・山田昌久ほか 2012 『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社
- 猪井 剛・吉野峰生・瀬田季茂 1994 「ヒトと各種動物の長骨組織像の顕微 X 線学的研究とその法科学的応用」『科学警察研究所報告 法科学編』47 (3) 科学警察研究所 pp.92-101.
- カ 笠原安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂
- 笠原安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究 第 2 巻 生業』雄山閣出版 pp.131-139.
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本 第 10 巻 古代資料研究の方法』角川書店 pp.248-262.
- 金原正明 1996 「古代モモの形態と品種」『考古学ジャーナル』no.409 ニューサイエンス社 pp.15-19.
- 金原正明 1999 「寄生虫」『考古学と動物学』考古学と自然科学 2 同成社 pp.151-158.
- 金原正明 2004 「寄生虫卵分析」『環境考古学ハンドブック』朝倉書店 pp.419-429.
- サ 澤田純明・奈良貴史・中嶋友文・斉藤慶史・百々幸雄・平田和明 2010 「骨組織形態学的方法による骨小片の人獣鑑別：東北部の平安時代遺跡から出土した焼骨の分析」『Anthropological Science (Japanese Ser)』118 pp.23-36.
- シ 島倉巳三郎 1973 『日本植物の花粉形態』大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 5 集 大阪市立自然科学博物館
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
- 島地 謙・佐伯 浩ほか 1985 『木材の構造』文永堂出版

- ス 菅原和夫 2001 「全炭素：乾式燃焼法」『土壤機能モニタリング調査のための土壌、水質及び植物体分析法』 日本土壌協会 pp.39-43.
- 杉山真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』 考古学と自然科学 3 同成社 pp.189-213.
- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学』第 19 号 日本文化財科学会 pp.69-84.
- 鈴木貞雄 1996 「タケ科植物の概説」『日本タケ科植物図鑑』 聚海書林 pp.8-27.
- ナ 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院 pp.82-110.
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』 13 (4) 日本第四紀学会 pp.187-193.
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第 10 号 日本文化財科学会 pp.21-30.
- 中村 純 1980 『日本産花粉の標徴』 大阪市立自然史博物館収蔵目録第 13 集 大阪市立自然史博物館
- 中村秀樹・金内孝宏ほか 1999 「卓上型エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 Rayny EDX-700/800 による分析」『島津評論』 56 島津製作所 pp.181-189.
- 奈良貴史・澤田純明・百々幸雄 1999 「柏台 1 遺跡出土骨片の骨組織構造の検討（予察）」『千歳市柏台 1 遺跡』 北海道埋蔵文化財センター pp.241-248.
- 奈良貴史・澤田純明 2007 「微小骨片の古組織学的検討による動物種類の同定—岩手県中神遺跡出土骨片の分析—」『考古学談叢』 六一書房 pp.467-476.
- ニ 西埜 誠 2005 「6 章 定量分析」『蛍光 X 線分析の実際』 朝倉書店 pp.78-105.
- 日本産環境指標ゴミムシ類データベース作成グループ 「WEB 図鑑里山のゴミムシ」 <http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gomimushi/> (2014.11.8 閲覧)
- ノ 野尻湖昆虫グループ 1985 『アトラス日本のネクイハムシ』 野尻湖昆虫グループ.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 1985 『原色日本甲虫図鑑Ⅱ』 保育社
- バリノ・サーヴェイ 1994 「高崎城三ノ丸出土の木製品にみる近世木器の用材選択」『高崎城 VII-IX 高崎城三ノ丸遺跡—高崎市役所新庁舎建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査—』 高崎市教育委員会 pp.361-364.
- フ 藤下典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について」『考古学ジャーナル』 no.354 pp.7-13.
- 藤下典之 1982 「菜畑遺跡から出土したメロン仲間 *Cucumis melo* L. とヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Standl. の種子について」『菜畑遺跡』 唐津市教育委員会 pp.455-463.
- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』第 9 号 日本文化財科学会 pp.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—」『考古学と自然科学』第 17 号 日本文化財科学会 pp.73-85.
- マ 松谷暁子 1988 「電子顕微鏡でみる縄文時代の栽培植物」『畑作文化の誕生』 日本放送出版協会 pp.91-120.
- 松谷暁子 2004 「灰像と考古学」『環境考古学ハンドブック』 朝倉書店 pp.285-294.
- ミ 南木睦彦 1993 「葉・果実・種子」『第四紀試料分析法』 東京大学出版会 pp.276-283.
- ム 室井 緯 1960 「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』 5 号 日本竹笹の会 pp.103-121.
- ヤ 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』 特別 1 号 植生史研究会 p.242.
- 山田 裕 1997 「炭素：乾式燃焼法」『土壌環境分析法』 博友社 pp.222-231.
- ヨ 吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」『考古学ジャーナル』 no.355 pp.2-14.
- Cuijpers A.G.F.M. 2006 Histological identification of bone fragments in archaeology : telling humans apart from horses and cattle. Int J Osteoarchaeol, 16,pp.465-480.
- Harsányi L. 1993 Differential diagnosis of human and animal bone. In : Grupe G. and Garland A.N. (eds.), Histology of Ancient Human Bone : Methods and Diagnosis, Springer-Verlag, Berlin, pp.79-94.
- Hillier M. and Bell L.S. 2007 Differentiating human bone from animal bone : a review of histological method. J Forensic Sci, 52,pp.249-263.
- Mays S. 1998 The Archaeology of Human Bones. Routledge, London.

- Mulhern D.M. and Ubelaker D.H. 2012 Differentiating human from nonhuman bone microstructure. In : Crowder C.M. and Stout SD. (eds.), *Bone Histology*, CRC Press, Boca Raton, pp.109-134.
- Nelson R. 1992 A microscopic comparison of fresh and burned bone. *J Forensic Sci*, 37,pp.1055-1060.
- Nicholson R.A. 1993 A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. *J Archaeol Sci*, 20,pp.411-428.
- Sawada J., Nara T., Fukui J., Dodo Y., Hirata K. 2014 Histomorphological species identification of tiny bone fragments from a Paleolithic site in the Northern Japanese Archipelago. *J Archaeol Sci*, 46,pp.270-280.
- Shipman P., Foster G., Schoeninger M. 1984 Burnt bones and teeth : an experimental study of colour, morphology, crystal structure and shrinkage. *J Archaeol Sci*, 11,pp.307-325.
- Stiner M.C., Kuhn S.L., Weiner S., Bar-Yosef O. 1995 Differential burning, recrystallization, and fragmentation of archaeological bone. *J Archaeol Sci*, 22 : 223-237.
- Walter T.L., Paine R.R., Horni H. 2004 Histological examination of bone-tempered pottery from mission Espiritu Santo (41VT11), Victoria County, Texas. *J Archaeol Sci*, 31,pp.393-398.

別表1 遺構計測表

- 凡例 1.確認面の覆土 第IV章第3節A4) に記した。  
 2.形態 第IV章第3節A1) に記した。  
 3.堆積形状 第IV章第3節A2) に記した。

掘立柱建物  
8区

図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位		建物形式		時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-27°-W	梁間2間 (律令) 型	古代	37.9		3間×2間	6.4				6.0	遺物の有無		遺物の種類
				遺構		グリッド		確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
20	21次	8区	SB4001	P 284	5G-6I18・19・23	IV層	楕円形	台形状	(1.01)	0.36	2.88	×	×	土師器			
20	21次	8区		P 418	5G-6I22	IV層	方形	台形状	0.68	0.53	2.66	×	×				
20	21次	8区		P 315	5G-6I21、5G-7I1	IV層	方形	U字状	(0.49)	0.34	2.60	×	×				
20・21	21次	8区		P 535	5G-7I9・10	IV層	長方形	台形状	0.92	0.33	2.90	×	×				
20	21次	8区		P 295	5G-7I9・13・14	IV層	長方形	階段状	(0.56)	0.37	2.57	×	×				
20・21	21次	8区		P 554	5G-7I12・13	IV層	長方形	台形状	1.05	0.43	2.77	×	×				
20	21次	8区		P 412	5G-6I24	IV層	楕円形	台形状	0.70	0.41	2.82	○	土師器、須恵器	1			
20・21	21次	8区		P 531	5G-7I4	IV層	方形	台形状	0.67	0.57	2.69	○	須恵器	2			
20	21次	8区		P 222	5G-7I1・6	IV層	楕円形	台形状	(0.68)	0.44	2.71	×	×				
20・21	21次	8区		P 550	5G-7I6・7	IV層	方形	台形状	0.80	0.43	2.74	×	×				
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位		建物形式		時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-83°-E	梁間2間 (律令) 型	中世	16.1		2間×2間	5.2				3.1	遺物の有無		遺物の種類
				遺構		グリッド		確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
24	21次	8区	SB4002	P 552	5G-8J1	IV層	円形	弧状	0.32	0.21	2.94	×	×				
	21次	8区		P 2075	5G-8I4	IV層	方形	U字状	0.23	0.21	2.92	×	×				
	21次	8区		P 1964	5G-8I3	IV層	楕円形	台形状	0.23	0.27	2.82	×	×				
21	21次	8区		P 2082	5G-8I2	IV層	楕円形	漏斗状	0.30	0.34	2.76	×	×				
24	21次	8区		P 852	5G-8J1	IV層	楕円形	U字状	0.30	0.23	2.86	×	×				
	21次	8区		P 2074	5G-8I8	IV層	楕円形	U字状	0.28	0.24	2.86	○	土師器				
21	21次	8区		P 1219	5G-8I7	IV層	円形	弧状	0.25	0.16	2.96	×	×				
21	21次	8区		P 959	5G-8J6	IV層	円形	U字状	0.33	0.30	2.83	×	×				
21	21次	8区		P 1963	5G-8I10	IV層	方形	U字状	0.28	0.25	2.92	×	×				
21	21次	8区		P 2064	5G-8I8・13	IV層	楕円形	半円状	0.25	0.35	2.82	×	×				
21	21次	8区	P 854	5G-8I12	IV層	楕円形	漏斗状	0.36	0.36	2.72	×	×					
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位		建物形式		時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-85°-E	総柱型	中世	12.5		2間×2間	4.0				3.2	遺物の有無		遺物の種類
				遺構		グリッド		確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
22	21次	8区	SB4003	P 917	5G-9J6	IV層		漏斗状	0.25	0.35	2.71	○	土師器				
22	21次	8区		P 1001	5G-9I10	IV層	方形	U字状	0.25	0.22	2.85	×	×				
22	21次	8区		P 997	5G-9I9	IV層	方形	弧状	0.27	0.19	2.90	×	×				
22	21次	8区		P 990	5G-9J11	IV層	方形	弧状	0.32	0.13	3.00	×	×				
22	21次	8区		P 988	5G-9I15	IV層	方形	台形状	0.27	0.16	2.96	×	×				
22	21次	8区		P 986	5G-9I14	IV層	方形	台形状	0.33	0.28	2.78	×	×				
22	21次	8区		P 993	5G-9J16	IV層	円形	U字状	0.21	0.30	2.87	×	×				
22	21次	8区		P 992	5G-9I20	IV層			台形状	0.30	0.30	2.80	×	×			
22	21次	8区		P 1005	5G-9I19	IV層	楕円形	台形状	(0.55)	0.37	2.68	○	土師器				
	21次	8区		P 917	5G-9J6	IV層			漏斗状	0.25	0.35	2.71	○	土師器			
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位		建物形式		時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-89°-E	総柱型	中世	19.9		3間×3間	4.5				4.4	遺物の有無		遺物の種類
				遺構		グリッド		確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
23	21次	8区	SB4004	P 218	5G-5I2	IV層		U字状	0.25	0.25	3.00	×	×				
22	21次	8区		P 460	5G-5I1	IV層	楕円形	U字状	0.38	0.44	2.82	○	須恵器				
	21次	8区		P 502	5G-5H5	IV層	円形	U字状	0.25			×	×				
22	21次	8区		P 233	5G-5I6	IV層	楕円形	弧状	0.47	0.34	2.90	○	土師器				
	21次	8区		P 356	5G-5H10、5G-5I6	IV層	円形	半円状	0.31	0.18	3.06	×	×				
	21次	8区		P 345	5G-5H10	IV層	楕円形	台形状	0.44	0.33	2.94	○	須恵器				
22	21次	8区		P 501	5G-5I12	IV層	円形	弧状	(0.27)	0.32	2.88	×	×				
22	21次	8区		P 288	5G-5I11	IV層	楕円形	U字状	0.45	0.45	2.77	○	土師器				
22	21次	8区		P 234	5G-5H15、5G-5I11	IV層	方形	台形状	0.32	0.24	3.05	○	土師器				
22	21次	8区		P 199	5G-5H15	IV層	円形	半円状	0.32	0.25	3.05	×	×				
23	21次	8区	P 334	5G-5I11・16	IV層	円形	U字状	0.39	0.33	2.86	×	×					
23	21次	8区	P 273	5G-5H15、5G-5I11	IV層	楕円形	弧状	0.33	0.19	3.07	×	×					
22	21次	8区	P 307	5G-5H15・20	IV層	円形	弧状	0.49	0.23	2.99	○	土師器					
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位		建物形式		時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-11°-W	梁間2間 (律令) 型	古代	28.9		3間×2間	6.3				4.6	遺物の有無		遺物の種類
				遺構		グリッド		確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
23	21次	8区	SB4005	P 1525	5G-1I2	IV層	楕円形	漏斗状	0.37	0.31	2.90	○	土師器、須恵器、木製品				
	21次	8区		P 2976	5G-1I12	IV層	円形	半円状	0.21	0.14	2.98	×	×				
24	21次	8区		P 1177	4G-10H25、5G-1H5	IV層	不整形	階段状	1.11	0.44	2.94	○	土師器、黒色土器				
23・24・49	21次	8区		P 1673	5G-1H5、5G-1I1	IV層	不整形	漏斗状	0.52	0.57	2.64	○	土師器				
23	21次	8区		P 1867	5G-1I16	IV層	楕円形	台形状	(0.22)	0.14	3.10	×	×				
23	21次	8区		P 1754	5G-1H9	IV層	円形	半円状	0.22	0.18	3.18	×	×				
23	21次	8区		P 1327	5G-1H15	IV層	円形	漏斗状	0.29	0.27	3.05	○	須恵器				
23	21次	8区		P 1652	5G-1H20	IV層	楕円形	漏斗状	0.33	0.54	2.76	×	×				
23	21次	8区		P 1864	5G-1H25	IV層			U字状	0.33	0.33	2.91	×	×			
	21次	8区		P 1525	5G-1I2	IV層	楕円形	漏斗状	0.37	0.31	2.90	○	土師器、須恵器、木製品				
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位		建物形式		時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-84°-E	総柱型	中世	24.5		3間×2間	7.6				3.2	遺物の有無		遺物の種類
				遺構		グリッド		確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
24	21次	8区	SB4006	P 530	5G-7I25、5G-7J21、5G-8I5、5G-8J1	IV層	円形	漏斗状	0.46	0.26	2.90	×	×				
24	21次	8区		P 844	5G-8I4	IV層	円形	台形状	0.24	0.11	2.95	○	須恵器	4			
21・24	21次	8区		P 848	5G-8I2	IV層	円形	U字状	0.26	0.32	2.83	×	×				
24	21次	8区		P 859	5G-8J1	IV層			U字状	0.18	0.18	2.91	○	土師器			
	21次	8区		P 851	5G-8I4・5	IV層	楕円形	弧状	0.34	0.13	3.04	○	土師器				
24	21次	8区		P 850	5G-8I8	IV層	円形	U字状	0.27	0.42	2.66	○	土師器				
21・24	21次	8区		P 849	5G-8I7	IV層	楕円形	U字状	0.32	0.22	2.91	○	土製品				
24	21次	8区		P 958	5G-8J6	IV層	円形	U字状	0.25	0.22	2.92	×	×				
24	21次	8区		P 1970	5G-8I10	IV層	不整形	台形状	0.35	0.23	2.92	×	×				
24	21次	8区		P 2063	5G-8I8	IV層	円形	弧状	0.29	0.30	2.84	×	×				
21・24	21次	8区	P 842	5G8I7・12	IV層	楕円形	U字状	0.51	0.39	2.69	×	×					

別 表

図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
				N-7°-E	竪穴構造型	古代	4.3	1間×1間	2.4	1.8	遺物の有無	遺物の種類	
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)			
24	21次	8区	SB4007	P 926	5G-9I9	IV層	楕円形 U字状	0.32	0.33	2.77	○	木製品	
24	21次	8区		P 2220	5G-9I8	IV層	楕円形 半円状	0.30	0.25	2.82	×		
24	21次	8区		P 2044	5G-9I9・14	IV層	楕円形 弧状	0.21	0.11	2.98	×		
24	21次	8区		P 2037	5G-9I13	IV層	楕円形 U字状	0.32	0.38	2.69	×		
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
				N-20°-W	総柱型	古代	7.8	2間×2間	2.8	2.8	遺物の有無	遺物の種類	
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)			
25	21次	8区	SB4008	P 130	5G-4I17	IV層	楕円形 U字状	0.51	0.40	2.86	○	土師器	
25	21次	8区		P 507	5G-4I17・22	IV層	楕円形 弧状	0.52	0.17	3.09	○	土師器、須恵器	
25	21次	8区		P 503	5G-4I21	IV層	円形 U字状	0.31	0.28	3.03	○	土師器	
25	21次	8区		P 346	5G-4I23	IV層	円形 台形状	0.31	0.38	2.88	○	木製品	
25	21次	8区		P 383	5G-4I22	IV層	楕円形 漏斗状	0.50	0.39	2.87	○	木製品	
25	21次	8区		P 629	5G-4I21、5G-5I1	IV層	弧状		0.14	3.12	×		
25	21次	8区		P 396	5G-5I3	IV層	楕円形 漏斗状	0.53	0.29	2.98	○	土師器	
25	21次	8区		P 405	5G-5I2	IV層	楕円形 U字状	0.37	0.42	2.84	○	木製品	253
25	21次	8区		P 479	5G-5I2	IV層	楕円形 U字状	0.20	0.16	3.09	×		
25	21次	8区		P 1124	5G-3H8・9	IV層	円形 U字状	0.40	0.56	2.73	○	土師器、須恵器、木製品	
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
				N-12°-W	竪穴構造型	古代	7.6	1間×1間	3.4	2.24	遺物の有無	遺物の種類	
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)			
25	21次	8区	SB4009	P 1824	5G-2H24、5G-3H4	IV層	U字状		0.30	2.94	○	須恵器	
25	21次	8区		P 1094	5G-3H3	IV層	円形 半円状	(0.34)	0.37	2.86	○	木製品	
25	21次	8区		P 1683	5G-3H9・10	IV層	円形		0.42	2.58	×		
25	21次	8区		P 1114	5G-3H8・9	IV層	円形 U字状	0.40	0.56	2.73	○	土師器、須恵器、木製品	

9区

図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-12°-W	梁間2間型	古代	31.2	3間×2間	6.30	4.90	遺物の有無	遺物の種類		
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
76	20次	9区	SB1	P 1466	6H-9G14	IV層	円形 U字状	0.37	0.23	3.08	×			
76	20次	9区		P 1470	6H-9H12	IV層	円形 漏斗状	0.27	0.22	3.04	×			
76	20次	9区		P 1477	6H-9H22	IV層	不整形 漏斗状	0.43	0.36	2.95	×			
76	20次	9区		P 1495	6H-10H2	IV層	円形 半円状	0.30	0.29	3.04	×			
76	20次	9区		P 1507	6H-10H1	IV層	不整形 半円状	0.29	0.12	3.16	×			
76	20次	9区		P 1517	6H-10G5・10	IV層	円形 U字状	0.29	0.36	2.92	×			
76	20次	9区		P 1524	6H-9G19・20	IV層	円形 U字状	(0.30)				×		
76	20次	9区		P 2538	6H-9H17	IV層	楕円形 漏斗状	0.37	0.26	3.00	×			
					方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		
					N-87°-E	梁間1間型	中世		2間以上×1間		3.16	遺物の有無	遺物の種類	掲載遺物番号
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
76	20次	9区	SB2	P 1573	6H-10F8	IV層	不整形 漏斗状	0.47	0.22	3.08	×			
76	20次	9区		P 1662	6H-10F11・16	IV層	楕円形 U字状	0.40			○	土師器		
76	20次	9区		P 1650	6H-10F13	IV層	円形 U字状	0.29	0.26	3.08	×			
76	20次	9区		P 1659	6H-10F12	IV層	円形 U字状	0.32	0.26	3.08	×			
76	20次	9区		P 2749	6H-10F7	IV層	円形 台形状	0.33	0.36	2.96	×			
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-8°-E	梁間1間型	中世		2間以上×1間		4.00	遺物の有無	遺物の種類		
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
77	20次	9区	SB3	P 2100	6H-10F21・22	IV層	円形 U字状	0.68	0.68	2.58	○	土師器		
77	20次	9区		P 2106	7H-1F7	IV層	楕円形 U字状	0.49	0.42	2.79	○	土師器		
77	20次	9区		P 2129	6H-10E25、10F21	IV層	楕円形 漏斗状	0.63	0.54	2.73	○	土師器、須恵器	327	
77	20次	9区		P 2139	7H-1E10、1F6	IV層	楕円形 漏斗状	0.54	0.53	2.60	○	土師器		
77	20次	9区		P 3739	7H-1E9	IV層	楕円形	0.68	0.40	2.58	×			
77	20次	9区		P 3881	6H-10E24	IV層	楕円形	(0.82)	0.40	2.70	×			
					方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		
				N-90°-	梁間1間型	古代	20.7	3間×1間	6.20	3.34	遺物の有無	遺物の種類	掲載遺物番号	
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
78	20次	9区	SB4	P 1412	7H-1F9	IV層	円形 U字状	0.27	0.64	2.60	×			
78	20次	9区		P 1637	7H-1G2	IV層	円形 漏斗状	0.46	0.47	2.86	×			
78	20次	9区		P 1666	7H-1F5	IV層	楕円形 U字状	0.49	0.58	2.75	×			
78	20次	9区		P 1675	7H-1G1	IV層	楕円形 U字状	0.50	0.49	2.85	×			
78	20次	9区		P 2124	6H-10F24、7H-1F4	IV層	円形 U字状	0.47	0.55	2.76	○	土師器		
78	20次	9区		P 2155	7H-1F10	IV層	円形 U字状	0.28	0.60	2.64	○	土師器		
78	20次	9区		P 2228	7H-1G6・11	IV層	楕円形 漏斗状	0.80	0.40	2.90	○	土師器		
78	20次	9区		P 2856	7H-1G7	IV層	円形 U字状	(0.27)	0.35	2.82	×			
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
					N-87°-E	梁間1間型	古代	23.6	3間×1間	6.20	3.34	遺物の有無	遺物の種類	
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
79	20次	9区	SB5	P 1628	7H-1G4	IV層	円形 U字状	0.48	0.52	2.76	×			
79	20次	9区		P 1629	7H-1G3	IV層	楕円形 漏斗状	0.40	0.40	2.88	×			
79	20次	9区		P 1631	7H-1G2	IV層	円形 U字状	0.35	0.44	2.88	×			
79	20次	9区		P 2064	7H-1G14	IV層	楕円形 U字状	—	0.25	3.00	×			
79	20次	9区		P 2082	7H-1G13・14	IV層	円形 U字状	0.31	0.43	2.84	×			
79	20次	9区		P 2237	7H-1G11	IV層	円形 U字状	0.36	0.46	2.82	×			
79	20次	9区		P 2258	7H-1G12・13	IV層	楕円形 漏斗状	0.45	0.48	2.80	×			
79	20次	9区		P 2854	7H-1G1	IV層	楕円形 半円状	0.48	0.46	2.88	×			
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)	間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
					N-3°-W	梁間2間型	古代	10.5	4間×2間	6.26	3.34	遺物の有無	遺物の種類	
				遺構	グリッド	確認面	平面形 断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
80	20次	9区	SB6	P 1704	7H-2H24	IV層	円形 U字状	0.19	0.32	2.91	×			
80	20次	9区		P 1719	7H-3H3	IV層	円形 半円状	0.26	0.15	3.06	×			
80	20次	9区		P 1721	7H-3H4	IV層	楕円形 U字状	0.40	0.25	2.98	×			
80	20次	9区		P 1809	7H-2H14	IV層	不整形 弧状	0.44	0.16	3.07	×			
80	20次	9区		P 1812	7H-2H13	IV層	円形 U字状	0.28	0.34	2.90	○	木製品		
80	20次	9区		P 1817	7H-2H18・23	IV層	円形 半円状	0.30	0.18	×				
80	20次	9区		P 1847	7H-2H23	IV層	楕円形 U字状	0.34	0.33	2.91	○	土師器		
80	20次	9区		P 1849	7H-3H2	IV層	円形 U字状	0.33	0.52	2.71	○	木製品		
80	20次	9区		P 1884	7H-2H22	IV層	円形 U字状	0.22	0.39	2.86	×			
80	20次	9区		P 2991	7H-2H19	IV層	円形 U字状	0.29	0.35	2.91	×			
80	20次	9区		P 3021	7H-2H12	IV層	円形 弧状	0.27	0.11	3.07	×			
80	20次	9区		P 3041	7H-2H24	IV層	円形 U字状	0.20	0.20	3.04	×			

図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-10° - W	総柱型	古代	25.6	2間×2間	5.68	4.50	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
79	20次	9区	SB7	P 1643	7H-1F23	IV層	円形	半円状	0.30	0.24	3.00	×			
	20次	9区		P 2213	7H-2F6	IV層	楕円形	半円状	0.41	0.23		×			
79	20次	9区		P 2321	7H-2F9	IV層	円形	U字状	0.31	0.24	3.06	○	土師器		
79	20次	9区		P 3106	7H-1F22	IV層	円形	U字状	0.39	0.50	2.74	×			
79	20次	9区		P 3120	7H-2F2・7	IV層	円形	半円状	0.33	0.24	3.05	×			
79	20次	9区		P 3143	7H-2F4	IV層	円形	U字状	0.43	0.22	3.08	×			
	20次	9区		P 3148	7H-2F11	IV層	円形	U字状	0.41	0.18		○	土師器		
63・79	20次	9区	P 3170	7H-2F1	IV層	円形	V字状	0.23	0.36	2.95	○	土師器			
	20次	9区	P 3751	7H-2F12	IV層	円形		0.17			×				
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-15° - W	梁間2間型 (1面庇)	古代	67.8	5間×2間	11.90	5.70	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
81	20次	9区	SB8	P 1696	7H-3E5、3F1	IV層	円形	漏斗状	0.49	0.42	2.79	○	土師器、木製品		
81	20次	9区		P 2117	7H-2E15	IV層	円形	U字状	0.49	0.53	2.75	○	土師器		
81	20次	9区		P 2221	7H-2E15	IV層	円形	半円状	0.43	0.25	3.01	○	土師器、黒色土器、須恵器		
81	20次	9区		P 2222	7H-2E12	IV層	円形	漏斗状	0.53	0.34	2.91	○	黒色土器、木製品		
81	20次	9区		P 2250	7H-2E17	IV層	円形	U字状	0.49	0.76	2.40	○	土師器、木製品		
81	20次	9区		P 2275	7H-2F16	IV層	円形	漏斗状	0.45	0.72	2.54	○	土師器		
81	20次	9区		P 2285	7H-2E22	IV層	円形	半円状	0.53	0.30	2.81	×			
81	20次	9区		P 2318	7H-3E8	IV層	円形	漏斗状	0.45	0.41	2.73	×			
81	20次	9区		P 2320	7H-2E20	IV層	不整形	V字状	0.73	0.50	2.78	○	土師器		
81	20次	9区		P 2386	7H-2E3	IV層	楕円形	漏斗状	0.88	0.46	2.79	○	土師器、須恵器		
81	20次	9区		P 2427	7H-2E25	IV層	円形	漏斗状	0.40	0.38	2.90	×			
81	20次	9区		P 3094	7H-2E4	IV層	楕円形	U字状	0.45	0.38	2.90	○	土師器		
81	20次	9区		P 3100	7H-2E9・10	IV層	楕円形	漏斗状	0.63	0.55	2.72	○	土師器、黒色土器、木製品		
81	20次	9区		P 3110	7H-2E10	IV層	楕円形	U字状	0.53	0.43	2.85	○	土師器、黒色土器、木製品		
81	20次	9区		P 3174	7H-2E5	IV層	楕円形	半円状	0.60	0.31	2.92	○	土師器		
81	20次	9区		P 3278	7H-3E9	IV層	不整形		(0.63)	0.16	3.02	○	土師器、須恵器		
81	20次	9区		P 3299	7H-2E6	IV層	円形	U字状	0.51	0.57	2.70	○	土師器		
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
					N-14° - W	梁間2間型	古代		2間以上×2間		4.84	遺物の有無	遺物の種類		
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
83	20次	9区		SB9	P 2159	7H-2E16	IV層	円形	漏斗状	0.37	0.34	2.79	○	土師器	
83	20次	9区	P 3297		7H-2E6・11	IV層	円形	U字状	0.40	0.58	2.58	○	土師器		
	20次	9区	P 3460		7H-3D4	IV層	円形	弧状	0.30			×			
	20次	9区	P 3476		7H-2D25、3D5	IV層	円形	U字状	(0.43)	0.09	2.89	×			
83	20次	9区	P 3522		7H-2E21・22	IV層	楕円形	U字状	0.55	0.54	2.51	○	土師器、黒色土器		
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-72° - E	梁間2間型	中世		4間以上×2間		3.60	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
84	20次	9区	SB10	P 1871	7H-1I2	IV層	円形	U字状	—	0.38	2.85	×			
84	20次	9区		P 1878	7H-1I12	IV層	円形	U字状	0.36	0.40	2.83	×			
84	20次	9区		P 1904	7H-1H8	IV層	円形	半円状	0.33	0.16	3.07	×			
84	20次	8区		P 1915	7H-1I11	IV層	方形	U字状	0.33	0.33	2.90	×			
84	20次	9区		P 1925	7H-1H15・20	IV層	円形	U字状	0.34	0.31	2.93	×			
84	20次	9区		P 1939	7H-1H19	IV層	円形	弧状	0.43	0.17	3.06	×			
84	20次	9区		P 1995	7H-1I1・6	IV層	円形	半円状	—	0.21	2.95	×			
84	20次	9区		P 2587	7H-1H10	IV層	円形	U字状	0.40	0.48	2.77	×			
84	20次	9区		P 2647	7H-1H9	IV層	楕円形	半円状	0.35	0.24	2.97	○	須恵器		
84	20次	9区		P 2680	7H-1H13	IV層	楕円形	U字状	0.45	0.44	2.73	×			
84	20次	9区		P 2681	7H-1H18・19	IV層	不整形		0.44	0.41	2.75	×			
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
					N-3° - W	梁間1間型	中世	12.4	2間×1間	4.20	2.96	遺物の有無	遺物の種類		
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
85	20次	9区	SB11	P 1703	7H-2H24	IV層	円形	U字状	0.36	0.32	2.86	×			
85	20次	9区		P 1814	7H-2H19	IV層	円形	U字状	0.29	0.32	2.93	×			
85	20次	9区		P 1819	7H-2H17	IV層	円形	V字状	0.41	0.39	2.88	×			
85	20次	9区		P 1845	7H-2H22・23	IV層	円形	U字状	0.39	0.54	2.72	×			
85	20次	9区		P 1852	7H-3H2	IV層	楕円形	U字状	0.37	0.29	2.95	×			
85	20次	9区		P 3914	7H-3H4	IV層	円形	U字状	0.29	0.26	2.84	×			
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
			N-5° - W		竪穴構造型	古代	8.2	1間×1間	3.08	2.66	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
86	20次	9区	SB12	P 1783	7H-3H24	IV層	円形	U字状	0.18	0.31	2.93	×			
86	20次	9区		P 1794	7H-3H17	IV層	円形	U字状	0.15	0.28	2.95	×			
86	20次	9区		P 2721	7H-4H2	IV層	円形	U字状	0.23	0.40	2.84	×			
86	20次	9区		P 2842	7H-3H19	IV層	楕円形	半円状	0.32	0.28	2.99	×			
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-10° - W	梁間2間型 (2面庇)	中世	43.4	4間×2間	9.60	4.52	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
86	20次	9区	SB13	P 1426	6H-8G18	IV層	円形	U字状	0.32	0.58	2.71	×			
86	20次	9区		P 1443	6H-8G24	IV層	円形	U字状	0.24	0.36	2.94	○	土師器		
86	20次	9区		P 1444	6H-8G23	IV層	楕円形	U字状	0.30	0.35	2.94	○	土師器、木製品		
	20次	9区		P 1459	6H-9G8	IV層	円形	半円状	0.31			○	土師器		
86	20次	9区		P 1461	6H-9G9	IV層	円形	U字状	0.31	0.47	2.84	×			
86	20次	9区		P 1525	6H-9G19	IV層	円形	U字状	0.33	0.36	2.80	×			
	20次	9区		P 1531	6H-9G11	IV層	円形	U字状	0.27			○	木製品		
86	20次	9区		P 1535	6H-9G16	IV層	円形	U字状	0.31	0.42	2.82	×			
86	20次	9区		P 1538	6H-9G12・17	IV層	円形	半円状	0.29	0.20	3.10	×			
86	20次	9区		P 1540	6H-9G17	IV層	円形	弧状	0.21	0.16	3.10	×			
86	20次	9区		P 1542	6H-9G16	IV層	円形	U字状	0.25	0.30	3.00	×			
86	20次	9区		P 2467	6H-9G14	IV層	楕円形	U字状	0.38	0.45	2.85	×			
86	20次	9区		P 2481	6H-8G13・18	IV層	楕円形	U字状	(0.24)	0.43	2.88	○	木製品		
	20次	9区		P 2500	6H-8G17	IV層	円形	U字状	0.33			×			
86	20次	9区		P 2556	6H-9G18・19	IV層	円形	U字状	0.24	0.34	2.96	×			

別 表

図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-88° - E	梁間1間型	中世	29.8	間数	7.68	3.88	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
87	20次	9区	SB14	P 1555	6H-10G7	IV層	円形	U字状	0.50	0.49	2.85	×			
87	20次	9区		P 1559	6H-10G6	IV層	円形	U字状	0.31	0.42	2.84	×			
87	20次	9区		P 1589	6H-10G20	IV層	円形	U字状	0.32	0.41	2.88	×			
87	20次	9区		P 1596	6H-10G18	IV層	円形	U字状	0.35	0.62	2.80	×			
87	20次	9区		P 1625	6H-10G17	IV層	楕円形	U字状	0.38	0.62	2.74	×			
87	20次	9区		P 1642	6H-10G16	IV層	楕円形	漏斗状	0.56	0.58	2.75	×			
87	20次	9区		P 2757	6H-10G8	IV層	円形	半円状	0.31	0.26	3.05	○	木製品		
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-85° - E	梁間2間型 (2面庇)	中世	35.6	間数	9.28	3.84	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
	20次	9区	SB15	P 1407	7H-1F23	IV層	円形	U字状	0.27			○	土師器		
88	20次	9区		P 1668	7H-1F5	IV層	楕円形	U字状	0.40	0.34	2.94	×			
88	20次	9区		P 1678	7H-1F17	IV層	円形	U字状	(0.25)	0.35	2.92	×			
88	20次	9区		P 2103	7H-1F2	IV層	円形	U字状	0.31	0.28	3.00	○	土師器		
88	20次	9区		P 2128	7H-1F4	IV層	円形	U字状	0.23	0.22	3.08	×			
88	20次	9区		P 2147	7H-1E10	IV層	楕円形		0.21	0.48	2.70	×			
88	20次	9区		P 2163	7H-1F18	IV層	円形		0.33	0.40	2.90	×			
88	20次	9区		P 2181	7H-1F16	IV層	円形	U字状	0.30	0.40	2.90	○	土師器		
88	20次	9区		P 2190	7H-1F21	IV層	円形	U字状	0.27	0.52	2.78	×			
	20次	9区		P 2486	7H-1F19	IV層	楕円形	U字状	0.33			×			
88	20次	9区		P 2874	7H-1F19	IV層	円形	U字状	0.27	0.30	3.00	×			
88	20次	9区		P 2876	7H-1F10	IV層	円形	U字状	0.23	0.27	2.92	×			
	20次	9区		P 2877	7H-1F9	IV層	楕円形	U字状	0.26			×			
77	20次	9区		P 2879	7H-1F7	IV層	円形	U字状	-	0.30	2.98	×			
88	20次	9区		P 2930	7H-1F3	IV層	円形	U字状	0.28	0.20	3.02	○	土師器		
88	20次	9区		P 2941	7H-1F20	IV層	円形	U字状	0.28	0.36	2.92	×			
88	20次	9区		P 2944	7H-1F15	IV層	円形		0.36	0.38	2.84	×			
63・88	20次	9区		P 2955	7H-1F8	IV層	円形	U字状	-	0.32	3.02	×			
88	20次	9区		P 3913	7H-1E5	IV層	楕円形		0.33	0.30	3.00	×			
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
			N-5° - W		梁間1間型 (1面庇)	古代	33.0	間数	7.20	4.58	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
89	20次	9区	SB16	P 1685	7H-3I12	IV層	円形	U字状	0.23	0.32	2.92	×			
89	20次	9区		P 1735	7H-3H15	IV層	楕円形	U字状	0.28	0.64	2.61	×			
89	20次	9区		P 1737	7H-3H15	IV層	円形	U字状	0.21	0.44	2.84	×			
89	20次	9区		P 1780	7H-3H25	IV層	楕円形	半円状	-	0.20	3.03	×			
89	20次	9区		P 1781	7H-4H5	IV層	円形	U字状	0.28	0.38	2.87	×			
89	20次	9区		P 2892	7H-3H25	IV層	楕円形	U字状	0.23	0.59	2.62	○	土師器		
89	20次	9区		P 2962	7H-3I18	IV層	円形	U字状	0.26	0.50	2.75	×			
89	20次	9区		P 2973	7H-4H5・4I1	IV層	円形	U字状	0.28	0.64	2.59	○	木製品		
図面図版番号	調査回数	調査区		建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号
					N-3° - E	梁間1間型	中世	19.4	間数	4.84	4.00	遺物の有無	遺物の種類		
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
90	20次	9区	SB17	P 2374	7H-3F1	IV層	楕円形	V字状	0.50	0.46	2.75	○	土師器		
	20次	9区		P 2389	7H-2F23	IV層	円形	U字状	0.31			○	土師器		
90	20次	9区		P 2447	7H-3F3	IV層	楕円形	弧状	0.57	0.34	2.96	○	土師器		
	20次	9区		P 3371	7H-3F13	IV層	円形	U字状	0.29			×			
	20次	9区		P 3421	7H-2F21	IV層	楕円形	U字状	0.28			○	土師器、須恵器		
90	20次	9区		P 3486	7H-3F6・11	IV層	円形	半円状	0.32	0.28	2.73	×			
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-89° - E	梁間1間型	中世	20.7	間数	6.48	3.20	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
	20次	9区	SB18	P 1598	6H-10G24	IV層	楕円形	U字状	0.32			×			
90	20次	9区		P 1603	6H-10H21、7H-1H1	IV層	円形	U字状	0.41	0.30	3.00	○	須恵器		
90	20次	9区		P 2074	7H-1G9	IV層	円形	U字状	0.33	0.45	2.86	×			
	20次	9区		P 2761	6H-10H22	IV層	円形	U字状	0.31			×			
	20次	9区		P 2766	6H-10G25、7H-1G5	IV層	楕円形	U字状	0.28	0.34	2.95	×			
	20次	9区		P 2776	7H-1G10	IV層	楕円形	漏斗状	0.37			×			
	20次	9区		P 2799	7H-1H6	IV層	楕円形	U字状	0.24			○	土師器		
	20次	9区		P 3053	7H-1H7	IV層	円形	弧状	0.27	0.12	3.12	×			
図面図版番号	調査回数	調査区	建物番号	方位	建物形式	時代	身舎面積 (㎡)		間数	桁行 (m)	梁行 (m)	遺物		掲載遺物番号	
				N-77° - W	竪穴構造	中世	2.49	間数	1.64	1.52	遺物の有無	遺物の種類			
				遺構	グリッド	確認面	平面形	断面形	上端長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)				
84	20次	9区	SB19	P 1879	7H-1I12	IV層	楕円形	U字状	0.29	0.45	2.78	×			
90	20次	9区		P 2000	7H-1I18	IV層	円形	U字状	0.41	0.33	2.88	×			
90	20次	9区		P 2652	7H-1I17	IV層	楕円形	半円状	0.53	0.30	2.94	○	須恵器		

井戸  
8区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認 面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物の 種類	掲載遺物番号	備考	
							上端		深度		平面	断面							
							長軸	短軸											
25	19次	8区	SE 84	6H-5D24	中世	IV層	A	(0.61)	(0.60)	0.97	2.32	円形	台形状	レンズ状	SX85を切る。SX46に切られる。	×			
26・46	21次	8区	SE 107	5G-4H25、4I21、5H5、5I1	中世	IV層	A	1.61	1.45	1.70	1.60	円形	U字状	レンズ状	SX505を切る。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、瓷器系陶器、土製品、鍛冶関連遺物、木製品		
26	21次	8区	SE 112	5G-5H19	中世	IV層	A	1.31	1.29			楕円形		レンズ状	SD118を切る。	○	土師器、須恵器、奈良三彩、珠洲焼、木製品	5・6	底面未検出。
26	21次	8区	SE 119	5G-5I23、6I3	中世	IV層	A	1.51	1.48	1.10	2.03	円形	台形状	レンズ状	SD137・164を切る。	○	土師器、須恵器、木製品	254	
26	21次	8区	SE 120	5G-5I17・18・22・23	中世	IV層	B	2.14	1.76	1.21	1.95	楕円形	階段状	レンズ状	SD151・237を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、青磁、珠洲焼、石器・石製品、木製品	7	
27	21次	8区	SE 131	5G-4I18	中世	IV層	B	0.74	0.71	1.05	2.15	円形	U字状	レンズ状	SD1043に切られる。	○	土師器、須恵器、木製品		
27・35	21次	8区	SE 134	5G-5I7	中世	IV層	A	1.48	1.20			円形		レンズ状	SK194、SX1874を切る。SK843に切られる。	○	土師器、須恵器、中世土師器、木製品	8	底面未検出。
27	21次	8区	SE 155	5G-6H19	中世	IV層	B	0.93	0.82	1.16	1.89	円形	台形状	水平	SD121・151を切る。	○	土師器、須恵器、木製品	9・255・256	
27	21次	8区	SE 201	5G-4H13・14	古代	IV層	C	0.91	0.77	1.23	1.82	円形	台形状	レンズ状	SD1890に切られる。	○	土師器、須恵器、木製品	10	
27	21次	8区	SE 411	5G-7I18・19・23・24	中世	IV層	A	(2.09)	1.81	1.24	1.85	楕円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、中世土師器、石器・石製品、木製品	11・12	
28	21次	8区	SE 768	5G-8J21・22、9J1・2	中世	IV層	A	2.09	1.17	0.98	2.16	方形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、土製品、金属製品、木製品	13・14・15・257	
28	21次	8区	SE 780	5G-8I14・15	中世	IV層	A		0.90	0.68	2.48	円形	U字状	レンズ状		○	須恵器		
28	21次	8区	SE 783	5G-8H15・20、8I11・16	中世	IV層	A	2.06	1.84			円形		ブロック状	SD774・2198を切る。	○	縄文土器、土師器、須恵器、白磁、土製品、鍛冶関連遺物、木製品		底面未検出。
28	21次	8区	SE 834	5G-9J1・6・7	中世	IV層	A	1.39	1.29	1.20	1.95	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、石器・石製品、金属製品、木製品	241	
22・28	21次	8区	SE 845	5G-9I9	中世	IV層	A	1.16	1.05	1.31	1.78	円形	台形状	レンズ状	SD774に切られる。	○	土師器、須恵器、金属製品、銭貨、木製品	243	
28	21次	8区	SE 865	5G-9J21・22、10J1・2	古代	IV層	C	0.88	(0.77)	1.28	2.08	楕円形	箱状	レンズ状		○	土師器、木製品	258	
28	21次	8区	SE 920	5G-10I5・10、10J1・6	中世	IV層	A	1.23	(1.18)	1.14	1.99	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、木製品	259	
29	21次	8区	SE 929	5G-10J2・3	中世	IV層	A	0.97	0.93	1.19	1.96	円形	U字状	レンズ状		○	土師器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、木製品	16・17・260	
29	21次	8区	SE 945	5G-4H24・25	中世	IV層	A	1.18	0.99	1.26	2.05	円形	U字状	レンズ状	SX505を切る。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、木製品	18	
29	21次	8区	SE 951	5G-8H10、8I6・11	中世	IV層	B	1.79	(1.60)			円形		レンズ状	SD2275を切る。	○			底面未検出。
29	21次	8区	SE 994	5G-5H24・25	中世	IV層	B	1.01	0.97	0.75	2.45	円形	箱状	レンズ状		○	土師器、須恵器		
29	21次	8区	SE 1020	5G-4H8・13	中世	IV層	A			1.15	2.03	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、木製品	261	
29	21次	8区	SE 1045	5G-4I16・17	中世	IV層	A	0.88	0.86	1.23	1.95	円形	台形状	レンズ状	SX600を切る。	○	土師器、木製品	20・262~264	
30	21次	8区	SE 1068	4G-10H12・13・17・18	中世	IV層	A	1.83	1.76	1.48	1.86	円形	箱状	レンズ状	SK1071、SD1092・1193・1196・1200・1609を切る。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、土製品、鍛冶関連遺物、木製品、骨角製品	265・266・324・326	
30	21次	8区	SE 1070	4G-10H14・19	中世	IV層	A	1.16	1.15	1.08	2.27	円形	台形状	レンズ状	SD1930を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物	19	
30	21次	8区	SE 1080	4G-10H1・2・6・7	中世	IV層	A	1.61	1.09	0.84	2.52	楕円形	箱状	レンズ状	SX1089・1540、SD1084・1196・1511を切る。	○	土師器、須恵器		
30	21次	8区	SE 1140	5G-3I23	中世	IV層	A		0.93	0.92	2.41	円形	台形状	レンズ状	SD1724を切る。SE1145に切られる。	○	土師器、須恵器、白磁、木製品	267	
30	21次	8区	SE 1145	5G-3I18・23	中世	IV層	A	1.34	1.22	1.55	1.78	方形	U字状	レンズ状	SE1140を切る。	○	土師器、須恵器、中世土師器、木製品	268	
30	21次	8区	SE 1179	4G-10H14・15	中世	IV層	A	0.73	0.65	0.85	2.50	円形	箱状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、鍛冶関連遺物		
31	21次	8区	SE 1211	5G-4I3・4	古代	IV層	C	(1.68)	(1.46)	1.13	2.09	円形	台形状	レンズ状	SK1213、SD1422に切られる。	○	土師器、須恵器、木製品	22~29	
5	21次	8区	SE 1216	5G-4I9・10	中世	IV層	A		0.83	0.99	2.40	円形	台形状	レンズ状	SE1563を切る。	○	土師器、須恵器、中世土師器、木製品	21・269	
31	21次	8区	SE 1320	5G-1I7	中世	IV層	A		(1.86)	0.88	2.47		台形状	レンズ状	SX1321を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、土製品、木製品	222270	
30	21次	8区	SE 1400	5G-2I7・12	中世	IV層	A			0.71	2.58	不整形	階段状	レンズ状	SE1643を切る。	○	土師器、須恵器		
31	21次	8区	SE 1421	5G-4H5・10、4I1・6	中世	IV層	A	1.94	1.82	1.44	1.78	円形	階段状	レンズ状	SD1422を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品	30~36	
23・32・40	21次	8区	SE 1431	4G-10H24・25、5G-1H4・5	古代	IV層	C	2.91	2.45	1.82	1.52	不整形	漏斗状	レンズ状	SD1951を切る。SK1177・1287、SX1306、SD1305に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品	37・38	
5	21次	8区	SE 1563	5G-4I4・9・10	中世	IV層	A			1.19	2.17		U字状	レンズ状	SE1216に切られる。	○	土師器、須恵器		
5	21次	8区	SE 1586	5G-2I11	中世	IV層	A		(0.98)	0.59	2.31		台形状	レンズ状	SD1178に切られる。	○	木製品	271	
31	21次	8区	SE 1590	5G-3I19・24	中世	IV層	A			0.88	2.47		U字状	レンズ状	SD1591を切る。	○	土師器、須恵器		
25	21次	8区	SE 1600	5G-3H9・10・14・15	中世	IV層	A	(1.09)	(0.83)	0.72	2.46	楕円形	箱状	斜位	P1683を切る。SX1101、SD1535に切られる。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物、石器・石製品、木製品		
31	21次	8区	SE 1643	5G-2I12・13	中世	IV層	B								SE1400に切られる。	○	土師器、須恵器、金属製品、銭貨、木製品	242・244・272~275	井戸側(曲物)。攪乱のため、井戸側のみ検出。
32	21次	8区	SE 1871	5G-5H24・25、6H4・5	中世	IV層	A	1.76	(1.46)			円形		レンズ状	SD164に切られる。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、木製品	276~284、第20図2	底面未検出。
32	21次	8区	SE 1886	5G-3I6	中世	IV層	A		0.90	0.74	2.58		V字状	レンズ状		×			
32	21次	8区	SE 2127	5G-7H8・9	古代	IV層	C		0.97	1.10	2.15		U字状	レンズ状		○	土師器、須恵器		
33	21次	8区	SE 2313	6H-1A22・23、2A2・3	中世	IV層	A	1.84	(1.63)	1.54	1.66	円形	漏斗状	レンズ状		○	土師器、須恵器、珠洲焼、石器・石製品、木製品	39・228・285	
33	21次	8区	SE 2326	6H-2A9・10	中世	IV層	A	0.75	0.64	0.74	2.49	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、石器・石製品、木製品	286	
33	21次	8区	SE 2372	6H-2A19・20	古代	IV層	C	1.28	1.20	1.25	1.92	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、石器・石製品、木製品		
33	21次	8区	SE 2373	6H-2A14・15	古代	IV層	C	0.97	0.74	1.25	1.95	楕円形	箱状	レンズ状		○	須恵器、石器・石製品、木製品	229・287・288	

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
33	21次	8区	SE 2375	6G-1J17・18・23	中世	IV層	A		1.50	1.43	1.76		階段状	レンズ状	○	土師器、須恵器、土製品、金属製品、木製品	289～293			
34	21次	8区	SE 2383	5G-10J21、6G-1J1	古代	IV層	C	(1.66)	1.36	1.58	1.47	楕円形	漏斗状	レンズ状	○	土師器、須恵器、木製品	40・41・294～297	井戸側(舟転用)。		
33	21次	8区	SE 2477	6H-3B4・9	中世	IV層	A	0.90	0.85	1.23	1.98	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品	298			
34	21次	8区	SE 2529	6H-4C1・2	中世	IV層	A	1.14	1.04	0.72	2.45	方形	U字状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器				
34	21次	8区	SE 2681	6H-2B18・19	中世	IV層	A		0.50	0.69	2.47			レンズ状	○	土師器				
34	21次	8区	SE 2686	6H-4C19	中世	IV層	A							レンズ状	○	土師器		底面未検出。		

## 9区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		遺物掲載番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
91	19次	9区	SE 17	7H-5F13	中世	IV層	A	0.96	0.80	0.78	2.29	円形	台形状	レンズ状	○	土師器、須恵器	345			
71・91	19次	9区	SE 31	7H-5F6・7	中世	IV層	A	0.95	0.64	0.82	2.28	楕円形	漏斗状	レンズ状	○	土師器、石器・石製品、木製品	553・577			
71・91	19次	9区	SE 32	7H-5F6	中世	IV層	A	1.05	0.94	1.51	1.57	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、須恵器、中世土師器、木製品	346・347・578			
91	19次	9区	SE 36	7H-5G17・22	中世	IV層	B	1.12	0.99	0.38	2.55	方形	台形状	レンズ状	×	SD451に切られる。				
91	19次	9区	SE 66	7H-4D4・9	中世	IV層	A	0.77	0.64	0.40	2.68	円形	台形状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器				
91	19次	9区	SE 69	7H-4D4・5・9・10	中世	IV層	A	0.91	0.87	0.55	2.55	円形	箱状	レンズ状	○	土師器				
92	19次	9区	SE 208	7H-3D21・22、4D1・2	中世	IV層	B	1.32	1.04	0.79	2.28	長方形	箱状	レンズ状	○	土師器、黒色土器				
92	19次	9区	SE 251	7H-7E24	中世	IV層	B	1.04	0.96	1.02	1.90	円形	箱状	レンズ状	○	土製品、金属製品、木製品	570・579			
92	19次	9区	SE 289	7H-7E14・19	中世	IV層	B	0.74	0.72	0.52	2.43	円形	U字状	レンズ状	×					
92	19次	9区	SE 304	7H-4E16・17・21	中世	IV層	A	1.91	1.86	0.38	2.56	方形	箱状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品				
92	19次	9区	SE 382	7H-6C24	中世	IV層	B	1.28	1.04	0.48	2.37	円形	U字状	ブロック状	○	SD521・1043・1079を切る。				
93	19次	9区	SE 460	7H-8F7	中世	IV層	B	1.10	1.04	0.20	2.67	方形	弧状	レンズ状	×	SD501・502を切る。				
93	19次	9区	SE 468	7H-7E15、7F11	中世	IV層	A	0.92	0.90	1.26	1.64	円形	袋状	レンズ状	○	SD1170を切る。				
93	19次	9区	SE 513	7H-10C2・3・7・8	中世	IV層	B	1.26	1.20	0.42	2.35	円形	台形状	レンズ状	○	土師器				
93	19次	9区	SE 1031	7H-10E3・8	中世	IV層	B	0.96		1.30	1.60	円形	U字状	単層	×					
94	20次	9区	SE 1433	6H-8G13～15、18～20	中世	IV層	A	3.50	2.87	1.16	2.08	不整形	漏斗状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、石器・石製品、木製品	554・581			
93	20次	9区	SE 1514	6H-10G10・15、10H6・11	中世	IV層	A	2.43	2.01	1.40	1.88	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、青磁、珠洲焼、石器・石製品、木製品	348・555			
94	20次	9区	SE 1556	6H-10G12	中世	IV層	A	1.03	0.85	1.08	2.23	楕円形	台形状	レンズ状	○	土師器、木製品	582			
95	20次	9区	SE 1590	6H-10G20、10H16	中世	IV層	A	0.98	0.89	0.81	2.49	円形	台形状	斜位	○	P2807を切る。				
95	20次	9区	SE 1601	7H-1G5、1H1・6	中世	IV層	A	2.00	1.55	1.10	2.21	楕円形	台形状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、土製品、石器・石製品、木製品	556・557・583			
95	20次	9区	SE 1639	6H-10G21	中世	IV層	A	1.05	(0.97)	0.92	2.41	円形	U字状	斜位	○	土師器、白磁、土製品、木製品				
95	20次	9区	SE 1652	6H-10F18・19	中世	IV層	B	0.91	(0.77)	0.83	2.51	円形	U字状	レンズ状	○	SD1653に切られる。				
96	20次	9区	SE 1676	7H-2G6・7・11・12	中世	IV層	A	2.03	1.53	1.19	2.12	不整形	箱状	斜位	○	P2493に切られる。				
96	20次	9区	SE 1692	7H-2I21・22	中世	IV層	A	1.20	1.07	1.52	1.17	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、木製品	349・584～586			
96	20次	9区	SE 1769	7H-1H12・13	中世	IV層	A	1.37	0.83	1.21	2.02	楕円形	台形状	レンズ状	○	SX1770を切る。SE2967に切られる。				
97	20次	9区	SE 1791	7H-3H16・17・21・22	古代	IV層	C	2.85	2.20	1.22	2.02	不整形	箱状	レンズ状	○	SD3381・3594を切る。				
97	20次	9区	SE 1792	7H-1G18・19	中世	IV層	A	0.79	0.71	0.85	2.47	円形	U字状	レンズ状	○	SD2071・2270・P3105を切る。				
97	20次	9区	SE 1826	7H-2H7・8	中世	IV層	B	0.78	0.75	1.27	1.98	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、須恵器				
97	20次	9区	SE 1838	7H-2G19・24	中世	IV層	A	0.79	0.75	0.99	2.26	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、木製品				
98	20次	9区	SE 1890	6H-10H24、7H-1H4	中世	IV層	B	2.15	1.85	1.11	2.13	円形	V字状	レンズ状	○	土師器、須恵器、銭貨、木製品	592～596			
98	20次	9区	SE 1891	7H-1I12・13・17・18	中世	IV層	B	1.38	1.35	1.67	1.57	円形	U字状	レンズ状	○	土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、木製品				
98	20次	9区	SE 1911	7H-1H8・9・13・14	中世	IV層	A	1.30	1.15	0.99	2.26	楕円形	U字状	斜位	○	土師器、黒色土器、須恵器				
99・114	20次	9区	SE 1996	6H-10H18・19	古代	IV層	C	1.64	1.45	1.46	1.78	長方形	U字状	レンズ状	○	SK1868に切られる。				
99	20次	9区	SE 2027	7H-2I2・3・8	中世	IV層	A	1.86	1.45	1.29	1.93	楕円形	台形状	レンズ状	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物、石器・石製品、木製品	558・597			
99	20次	9区	SE 2153	7H-1F8・9・13・14	中世	IV層	A	2.23	1.74	1.46	1.85	楕円形	台形状	レンズ状	○	土師器、須恵器、珠洲焼、石器・石製品、木製品	559・598・599			
100	20次	9区	SE 2220	7H-3E2・3	中世	IV層	A	1.17	0.89	1.39	1.83	楕円形	U字状	ブロック状	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、石器・石製品、木製品	560・600～603			
100	20次	9区	SE 2226	7H-2E13	中世	IV層	B	1.48	1.22	1.23	2.05	円形	U字状	レンズ状	○	SK2232、SD2460を切る。				
100	20次	9区	SE 2251	7H-1G16	中世	IV層	A	0.95	0.85	1.06	2.25	円形	U字状	レンズ状	○	SD2224、P2935を切る。				
100	20次	9区	SE 2274	7H-1G23、2G3・4	中世	IV層	A	1.68	1.08	1.06	2.27	楕円形	U字状	レンズ状	○	SD1622を切る。				
100	20次	9区	SE 2277	7H-2G2・3	中世	IV層	A	1.18	1.03	1.07	2.26	楕円形	U字状	レンズ状	○	P3085を切る。				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	短軸	深度		平面	断面				遺物の種類	掲載遺物番号		
101	20次	9区	SE 2331	7H-2E22	中世	IV層	B	1.00	0.92	1.28	2.01	円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、金属製品、木製品	573		
101	20次	9区	SE 2355	7H-3E5	中世	IV層	A	0.90	0.73	0.89	2.38	円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品			
101	20次	9区	SE 2398	7H-3F2・3	中世	IV層	A	1.01	0.87	1.22	2.08	楕円形	U字状	レンズ状	SD2205、P2397を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、木製品	351・607		
101	20次	9区	SE 2811	7H-2I17	古代	IV層	C	0.57	0.56	0.92	2.30	円形	U字状	レンズ状		○	土師器			
101	20次	9区	SE 2831	7H-4H5・10、4I1・6	中世	IV層	A	0.78	0.73	0.56	2.62	円形	U字状	レンズ状	SX1755を切る。	○	土師器、石器・石製品			
101	20次	9区	SE 2836	7H-3G20	中世	IV層	A	0.69	0.62	0.85	2.33	円形	U字状	レンズ状	SD3594を切る。	○	土師器、黒色土器			
102	20次	9区	SE 2853	7H-1H6・11	中世	IV層	A	1.34	(0.97)	0.92	2.34	楕円形	台形状	レンズ状	P2865・2939に切られる。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、石器・石製品、木製品	561・608~614		
102	20次	9区	SE 2868	6H-10F22 7H-1F2	中世	IV層	B	0.98	(0.67)	1.05	2.20	楕円形	U字状	ブロック状	SD1661に切られる。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、木製品			
102	20次	9区	SE 2903	7H-1H2・3・7・8	中世	IV層	A		(1.26)	1.08	2.19	方形or長方形	台形状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品	615		
102	20次	9区	SE 2936	7H-1F18・19	中世	IV層	B	0.88	0.81	0.93	2.37	円形	U字状	レンズ状	SD1661に切られる。	○	土師器			
103	20次	9区	SE 2953	7H-1G24	中世	IV層	A	1.04	0.93	1.06	2.24	円形	U字状	レンズ状	SD2192を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品			
96	20次	9区	SE 2967	7H-1H12	中世	IV層	B	(1.47)	1.11	0.92	2.32	楕円形	台形状	レンズ状	SE1769、SX1770を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品	616・617		
103	20次	9区	SE 2977	7H-1H11・16	中世	IV層	B	1.33	(1.33)	1.05	2.20	方形	台形状	レンズ状	SE2978に切られる。	○	木製品	618		
103	20次	9区	SE 2978	7H-1H16・17	中世	IV層	A	0.76	0.70	0.75	2.49	楕円形	箱状	レンズ状	SE2977、SD2192を切る。	○	土師器、須恵器、木製品			
103	20次	9区	SE 3025	7H-3I22、4I1・2	中世	IV層	A		1.40	1.10	2.13	方形or長方形	V字状	ブロック状	SX1755・1756、P3903を切る。	×				
104	20次	9区	SE 3172	7H-2F8・9・13・14	古代	IV層	C	1.03	0.93	0.95	2.35	円形	箱状	ブロック状	SD2092に切られる。	○	土師器、須恵器、木製品	352		
104	20次	9区	SE 3185	7H-2G11・12・16・17	中世	IV層	A	1.30	1.15	0.92	2.36	長方形	U字状	レンズ状	SK3189を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器	353~355		
104	20次	9区	SE 3188	7H-2G11・12	中世	IV層	A	1.05	1.03	1.39	1.90	円形	U字状	レンズ状	SK3197、SD2526・3191、P3892を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、中世土師器、鍛冶関連遺物、木製品	356・619		
105	20次	9区	SE 3241	7H-3H1・2・6・7	中世	IV層	A	1.06	0.84	0.95	2.29	楕円形	U字状	レンズ状	SD3005を切る。	×				
63・105	20次	9区	SE 3315	7H-3G18	中世	IV層	A	0.92	0.68	0.65	2.59	楕円形	U字状	レンズ状	SD2591を切る。	○	土師器、石器・石製品、木製品	562・620・621		
105	20次	9区	SE 3320	7H-4G4	中世	IV層	A	0.68	0.66	1.16	1.90	円形	U字状	ブロック状		○	土師器、黒色土器、木製品	622・623		
105	20次	9区	SE 3329	7H-4G2・3・7・8	古代	IV層	C	1.36	1.23	1.35	1.87	楕円形	U字状	レンズ状	SD1661に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、木製品	624	木葉あり。	
106	20次	9区	SE 3339	7H-4G13	中世	IV層	A	1.14	1.02	0.73	2.47	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、須恵器、木製品			
106	20次	9区	SE 3372	7H-2F15、2G11	古代	IV層	C	0.93	0.72	0.73	2.41	楕円形	U字状	レンズ状	SK3197を切る。SD1661に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	357		
106	20次	9区	SE 3416	7H-4G9・10	古代	IV層	C	1.38	1.21	1.92	1.19	円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、木製品	358~363・625・626	井戸側 (舟転用)。	
106	20次	9区	SE 3433	7H-3G1・6	中世	IV層	A	(1.10)	(1.02)	1.16	2.13	円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品			
106	20次	9区	SE 3530	7H-4F1・2	中世	IV層	A	1.09	0.97	1.21	1.83	楕円形	U字状	レンズ状		○	土師器、須恵器、木製品	627		
107	20次	9区	SE 3557	7H-4E5、4F1	中世	IV層	A	1.01	0.78	1.02	2.18	楕円形	U字状	レンズ状	SD2313を切る。	○	土師器			
107	20次	9区	SE 3571	7H-5G10・15	古代	IV層	C	1.53	1.44	0.39	2.73	楕円形	U字状	レンズ状	SD3569に切られる。	○	土師器、須恵器、木製品	628		
107	20次	9区	SE 3579	7H-4G1・2・7	古代	IV層	C	1.53	1.25	1.91	1.11	楕円形	U字状	ブロック状	SD2092・3384に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品	629~632	井戸側 (方形井桁)。	
107	20次	9区	SE 3587	7H-4G11・12・16・17	中世	IV層	B	0.91	0.79	0.69	2.44	楕円形	箱状	ブロック状	SD3594に切られる。	○	土師器、須恵器、木製品			
108	20次	9区	SE 3589	7H-4F3・4・8・9	古代	IV層	C	(1.85)	(1.71)	0.55	2.61	円形	台形状	ブロック状		○	土師器、黒色土器			
108	20次	9区	SE 3600	7H-4F19	中世	IV層	A	1.08	1.02	1.12	2.08	円形	U字状	ブロック状	SD3594を切る。	○	土師器、須恵器、木製品	633		
108	20次	9区	SE 3616	7H-4E4・5・9	中世	IV層	A	1.29	1.02	1.37	1.75	楕円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品、木製品	563・634~637		
108	20次	9区	SE 3617	7H-4E5・10	中世	IV層	B	1.62	1.25	1.52	1.60	楕円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、骨角製品、木製品	364・679		
108	20次	9区	SE 3705	7H-4I1・6	中世	IV層	A		0.71	0.78	2.48	楕円形	U字状	レンズ状	SX1755を切る。	×				

土坑  
8区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	短軸	深度		平面	断面				遺物の種類	掲載遺物番号		
35	19次	8区	SK 21	6H-5D18・23	中世	IV層	A	0.92	0.70	0.14	3.15	長方形	弧状	レンズ状	SD25・39を切る。	×				
35	19次	8区	SK 40	6H-5D23		IV層	A	0.43	0.34	0.04	3.23	不整形	弧状		SD26を切る。	×				
35	19次	8区	SK 45	6H-5D19	中世	IV層	B	0.48	0.36	0.16	3.11	不整形	弧状	単層		○	土師器			
35	19次	8区	SK 50	6H-5E21	古代	IV層	C	0.66	0.37	0.13	3.14	長方形	弧状	単層		○	土師器			
7	19次	8区	SK 54	6H-6D4・5	中世	IV層	A			0.26	3.02	円形	弧状	レンズ状	SX46に切られる。	×				
35	19次	8区	SK 55	6H-6E1・6	中世	IV層	A	0.65	(0.58)	0.16	3.05	円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
35	19次	8区	SK 71	6H-5C10		IV層	B	0.54	0.49	0.19	2.80	円形	弧状		SD22に切られる。	×				
25	19次	8区	SK 83	6H-6D5	古代	IV層	C	0.41	0.40	0.16	3.08	円形	弧状	単層	SD96を切る。SX46に切られる。	×				
35	21次	8区	SK 115	5G-3I11	古代	IV層	C		0.60	0.18	3.11		弧状	レンズ状	SK1103に切られる。	×				
35	21次	8区	SK 122	5G-5H10	中世	IV層	A	0.53	0.49	0.36	2.96	円形	箱状	レンズ状		○	土師器			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
35	21次	8区	SK 144	5G-6I19・20・24・25	中世	IV層	A	0.71		0.09	3.16	円形	弧状	レンズ状	SK210、SD161を切る。	○	土師器			
36	21次	8区	SK 147	5G-6I24・25、7I4・5	中世	IV層	A	0.96	0.75	0.24	3.01	楕円形	箱状	レンズ状	SK276を切る。SK166に切られる。	○				
36	21次	8区	SK 166	5G-7I4・5	中世	IV層	A	0.82	0.61	0.19	3.08	長方形	弧状	レンズ状	SK147・276を切る。	○	土師器			
36	21次	8区	SK 168	5G-7I5	中世	IV層	A	(1.15)	0.82	0.27	3.01	長方形	弧状	レンズ状	SD161・798を切る。	×				
35	21次	8区	SK 189	5G-6I24	中世	IV層	A	0.80	0.42	0.10	3.15	楕円形	弧状	レンズ状	SD230を切る。	×				
35	21次	8区	SK 194	5G-5I1・2・6・7	中世	IV層	B		0.87	0.19	3.07		弧状	レンズ状	SE134に切られる。	○	土師器、須恵器			
35	21次	8区	SK 210	5G-6I24・25	中世	IV層	A	0.81	0.52	0.23	3.02	楕円形	半円状	レンズ状	SD161を切る。SK144に切られる。	×				
35	21次	8区	SK 215	5G-4I18・19・23・24	中世	IV層	B	0.82	0.42	0.16	3.09	楕円形	台形状	レンズ状	SX225を切る。	○	土師器、須恵器			
35	21次	8区	SK 223	5G-5I18・19・23・24	中世	IV層	A		0.51	0.10	3.03		弧状	レンズ状	SD164に切られる。	○	須恵器			
35	21次	8区	SK 224	5G-4H15、4I11	古代	IV層	C	0.73	0.68	0.20	2.68	円形	弧状	レンズ状	SD1023に切られる。	○	土師器、須恵器			
7・36	21次	8区	SK 242	5G-5H13・14・18・19	中世	IV層	A		0.93	0.33	2.83		弧状	ブロック状	SK243・754、SX745、SD593を切る。	○	土師器、須恵器			
10・36	21次	8区	SK 243	5G-5H14・19	中世	IV層	A	(0.58)	0.40	0.19	3.11	楕円形	弧状	レンズ状	SK242に切られる。	○	土師器			
20・36	21次	8区	SK 246	5G-7I13	中世	IV層	A	1.17	0.62	0.30	2.96	楕円形	弧状	レンズ状	SK818を切る。	○	土師器			
36	21次	8区	SK 270	5G-6I24・25	中世	IV層	A		0.80	0.13	3.11		弧状	レンズ状	SD161を切る。P146に切られる。	×				
37	21次	8区	SK 275	5G-6I17・18・22・23	中世	IV層	B	(0.96)	(0.91)	0.16	3.05	円形	弧状		SD121に切られる。	○	土師器			
20・36	21次	8区	SK 276	5G-7I4	中世	IV層	B		0.69	0.24	3.03	楕円形	台形状	レンズ状	P531を切る。SK147・166に切られる。	○	須恵器			
37	21次	8区	SK 321	5G-7I9	古代	IV層	C	(0.83)	(0.49)	0.26	3.00	楕円形	弧状	レンズ状	SD121に切られる。	○	土師器			
37	21次	8区	SK 327	5G-7H4・9・10	古代	IV層	C	(0.76)	0.52	0.23	2.90	楕円形	弧状	レンズ状	SD121に切られる。	×				
37	21次	8区	SK 351	5G-6I4・9	中世	IV層	B		0.19	0.19	2.97		弧状	レンズ状	SD121に切られる。	×				
37	21次	8区	SK 361	5G-6I4・9	古代	IV層	C	0.93	0.47	0.15	3.01	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
22・37	21次	8区	SK 395	5G-5I12	中世	IV層	A	(0.57)	(0.40)	0.35	2.63	楕円形	半円状	レンズ状	SX1874に切られる。	○	土師器、須恵器			
37	21次	8区	SK 413	5G-6I15	中世	IV層	A	0.89	(0.57)	0.11	3.05	楕円形	弧状	レンズ状		×				
37	21次	8区	SK 419	5G-7I17	中世	IV層	A		0.87	0.13	3.11		弧状	レンズ状		×				
10・37	21次	8区	SK 467	5G-5H3	古代	IV層	C	(0.51)		0.39	2.93		U字状	レンズ状	SD458・459に切られる。	○	土師器、須恵器	42		
37	21次	8区	SK 578	5G-5H4	古代	IV層	C	1.03		0.08	3.20	楕円形	弧状	単層		×				
37	21次	8区	SK 623	5G-5I12・13	中世	IV層	B	(0.54)	(0.50)	0.49	2.61	円形	台形状	ブロック状		○	須恵器			
37	21次	8区	SK 630	5G-4I17	古代	IV層	C	0.75	0.40	0.10	3.06	楕円形	弧状	単層		○	土師器、須恵器	43		
37	21次	8区	SK 648	5G-4I6・7・11・12	古代	IV層	C	(0.45)	(0.35)	0.15	2.86	円形	弧状	単層	SD1023・1043に切られる。	○	土師器			
37	21次	8区	SK 649	5G-4I12・13	古代	IV層	C	(0.57)	(0.26)	0.10	2.95	楕円形	弧状	単層	SD211に切られる。	×				
38	21次	8区	SK 652	5G-6H10・15	中世	IV層	A	(0.58)	(0.48)	0.37	2.53	円形	台形状	ブロック状	SD151を切る。SD164に切られる。	×				
37	21次	8区	SK 670	5G-6H8・13	中世	IV層	A		0.56	0.22	2.98		弧状	レンズ状		×				
38	21次	8区	SK 676	5G-7I14・19	古代	IV層	C	(0.57)	(0.42)	0.17	2.98	楕円形	台形状	レンズ状	SD121に切られる。	×				
7	21次	8区	SK 754	5G-5H13	古代	IV層	C			0.30	2.88		弧状	レンズ状	SK242に切られる。	○	鍛冶関連遺物	227		
38	21次	8区	SK 767	5G-8H10	中世	IV層	A	0.66	0.37	0.15	3.05	楕円形	弧状	単層		×				
38	21次	8区	SK 772	5G-8I25	中世	IV層	A	1.35	0.87	0.31	2.88	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器、木製品			
38	21次	8区	SK 775	5G-8I1	中世	IV層	A	0.68	0.66	0.36	2.84	円形	V字状	レンズ状		○	土師器、木製品			
38	21次	8区	SK 781	5G-7I22・23	中世	IV層	A	0.73	0.55	0.43	2.74	楕円形	階段状	レンズ状		○	土師器			
38	21次	8区	SK 785	5G-9I4	中世	IV層	A		0.72	0.15	2.95	円形	弧状	単層	SK786に切られる。	×				
38	21次	8区	SK 786	5G-9I4	中世	IV層	A		0.77	0.31	2.79		弧状	レンズ状	SK785を切る。	×				
38	21次	8区	SK 789	5G-8I1	中世	IV層	A	0.55	0.51	0.14	3.03	円形	弧状	単層		×				
36	21次	8区	SK 813	5G-7I12・13	古代	IV層	C		0.31	0.12	3.00		弧状	単層	SK818を切る。P554に切られる。	×				
36	21次	8区	SK 818	5G-7I12・13	古代	IV層	C		0.54	0.06	3.07		弧状	単層	SK246・813、P554に切られる。	×				
38	21次	8区	SK 833	5G-8I25、9I5	中世	IV層	A		0.93	0.22	2.90		弧状	斜位	SD774に切られる。	×				
38	21次	8区	SK 839	5G-8I23	中世	IV層	A	0.56	0.53	0.14	2.96	円形	弧状	水平		○	土師器			
38	21次	8区	SK 843	5G-5I7	中世	IV層	A	0.72	0.61	0.73	2.50	円形	U字状	レンズ状	SE134、SX305・1874を切る。	○	土師器			
38	21次	8区	SK 858	5G-9I11・16	中世	IV層	A	0.95	0.93	0.32	2.87	円形	弧状	レンズ状	SD928を切る。	○	土師器			
38	21次	8区	SK 863	5G-9I12・13・17・18	中世	IV層	A	1.17	0.79	0.27	2.82	楕円形	弧状	レンズ状	SK921を切る。	○	土師器、須恵器			
38	21次	8区	SK 864	5G-8I24	古代	IV層	C	0.49	0.38	0.12	2.95	楕円形	弧状	単層	SD853に切られる。	×				
39	21次	8区	SK 891	5G-8I16・17・21・22	中世	IV層	B	0.73	0.43	0.28	2.77	楕円形	箱状	レンズ状		○	土師器			
39	21次	8区	SK 905	5G-9J7	中世	IV層	A	0.70	0.45	0.14	3.00	楕円形	弧状	レンズ状		×				
5	21次	8区	SK 918	5G-9J23	中世	IV層	A		0.80	0.40	3.00		箱状	レンズ状	SK919に切られる。	×				
5	21次	8区	SK 919	5G-9J23	中世	IV層	A			0.39	3.05		弧状	レンズ状	SK918を切る。	×				
38	21次	8区	SK 921	5G-9I13	中世	IV層	A	0.78		0.12	2.97		弧状	レンズ状	SK863に切られる。	○	土師器			
39	21次	8区	SK 922	5G-9I12・17	中世	IV層	A	1.02	0.64	0.23	2.88	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
39	21次	8区	SK 931	5G-10J9・14	中世	IV層	A	1.48	0.96	0.18	2.95	楕円形	弧状	レンズ状		×				
39	21次	8区	SK 933	5G-5H9	中世	IV層	A	0.77	0.63	0.13	3.19	円形	弧状	単層		○	須恵器			
39	21次	8区	SK 981	5G-9I10	中世	IV層	A		(0.50)	0.16	2.95		弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
39	21次	8区	SK 989	5G-5H14・19	中世	IV層	A	0.67	0.66	0.16	3.14	円形	弧状	レンズ状	SX609を切る。	×				
39	21次	8区	SK 996	5G-9I18・23	中世	IV層	A	0.83	0.67	0.25	2.87	円形	弧状	レンズ状	SK2290を切る。	○	土師器、須恵器	44		
22	21次	8区	SK 1004	5G-9I19	中世	IV層	A		0.51	0.27	2.76		弧状	レンズ状	P1005に切られる。	○	土師器、須恵器			
22	21次	8区	SK 1006	5G-9I19	中世	IV層	A	0.49	0.39	0.25	2.80	円形	台形状	水平	SK2041を切る。P1005を切る。	○	土師器			
7	21次	8区	SK 1026	5G-9I11	中世	IV層	A	1.36		0.47	2.68		弧状	レンズ状		○	土師器			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
39	21次	8区	SK 1042	5G9116・17	中世	IV層	A	1.03	(0.74)	0.22	2.86	楕円形	弧状	レンズ状	SK1052、SX1048を切る。	○	土師器			
39	21次	8区	SK 1052	5G-9116・17	中世	IV層	A			0.35	2.83	弧状	レンズ状		SD1013を切る。SK1042に切られる。	×				
39	21次	8区	SK 1067	4G-9H17・18・23	古代	IV層	C	1.01	0.99	0.09	3.28	円形	弧状	斜位		○	土師器、黒色土器、須恵器			
39	21次	8区	SK 1071	4G-10H12・13	古代	IV層	C			0.86	0.23	円形	階段状	水平	SD1196・1953を切る。SE1068に切られる。	○	土師器、須恵器			
39	21次	8区	SK 1072	4G-10H8・13	古代	IV層	C	0.75	0.62	0.90	3.23	円形	弧状	単層	SD1930・1953を切る。	×				
40	21次	8区	SK 1073	5G-2H5・10、211・6	中世	IV層	A	1.56	1.20	0.25	2.94	楕円形	弧状	レンズ状	SK1074を切る。	○	土師器、須恵器			
40	21次	8区	SK 1074	5G-211・6	中世	IV層	A			0.57	0.19	3.18	楕円形	弧状	レンズ状	SK1073に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	45	
39	21次	8区	SK 1075	4G-10H3・8	古代	IV層	C	1.04		0.90	3.25	楕円形	弧状	ブロック状		×				
35・40	21次	8区	SK 1103	5G-316・7・11・12	中世	IV層	A		(1.76)	0.18	3.19	弧状	レンズ状		SK115、SD1160を切る。	○	土師器、須恵器、中世土師器	46		
40	21次	8区	SK 1161	5G-3117・22	中世	IV層	A			0.12	3.18	弧状	レンズ状		SD1160に切られる。	○	土師器			
40	21次	8区	SK 1180	5G-1111	中世	IV層	A	0.52	0.44	0.30	3.06	円形	V字状	単層		○	土師器			
40	21次	8区	SK 1210	5G-413	中世	IV層	B	0.72	0.70	0.53	2.73	円形	台形状	レンズ状		○	土師器			
31・40	21次	8区	SK 1213	5G-414・9	中世	IV層	A	0.70	0.65	0.25	3.06	円形	弧状	レンズ状	SE1211を切る。	×				
40	21次	8区	SK 1230	5G-3121・22、412	中世	IV層	B	0.71	0.50	0.10	3.15	楕円形	弧状	レンズ状	SD1241を切る。SD1126に切られる。	○	土師器、須恵器、珠洲焼			
40	21次	8区	SK 1287	5G-1H4	中世	IV層	A	0.60	0.53	0.36	2.97	円形	箱状	レンズ状	SE1431を切る。	○	土師器、須恵器			
40	21次	8区	SK 1344	5G-1H25、1121	中世	IV層	A	0.71	0.68	0.14	3.13	円形	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
8・40	21次	8区	SK 1353	5G-2H10・15、216・11	中世	IV層	A	1.44	1.20	0.23	3.15	楕円形	弧状	レンズ状	SD1380を切る。	○	土師器、須恵器、珠洲焼、瀬戸・美濃焼	47		
41	21次	8区	SK 1411	5G-3H24	中世	IV層	A	0.83	0.65	0.29	2.96	円形	台形状	レンズ状	SK1516を切る。	○	土師器、須恵器、珠洲焼			
40	21次	8区	SK 1440	5G-116	中世	IV層	A	0.67	0.57	0.48	2.84	円形	台形状	レンズ状		×				
41	21次	8区	SK 1445	5G-1116・21	中世	IV層	A	0.55	0.49	0.16	3.15	楕円形	弧状	単層		×				
41	21次	8区	SK 1483	5G-216・7	中世	IV層	A	1.65	1.37	0.31	3.05	方形	弧状	単層	SD1178・1380・1948を切る。	○	土師器、須恵器			
41	21次	8区	SK 1498	5G-3H17・18・22・23	中世	IV層	B		0.93	0.90	3.11	円形	弧状	単層	SD1522を切る。SX1402に切られる。	○	土師器、須恵器			
41	21次	8区	SK 1500	5G-2H9・10・15	中世	IV層	B	(0.96)	0.90	0.41	2.98	円形	箱状	レンズ状	SK1501、SD1380に切られる。	○	土師器、須恵器			
41	21次	8区	SK 1501	5G-2H9・10	中世	IV層	B		0.65	0.34	2.98	円形	台形状	レンズ状	SK1500、SD1380を切る。	○	土師器、須恵器			
41	21次	8区	SK 1516	5G-3H24	中世	IV層	A		0.73	0.53	2.66	円形	台形状	レンズ状	SK1411に切られる。	○	土師器、中世土師器、鍛冶関連遺物			
41	21次	8区	SK 1551	5G-2H15	中世	IV層	B		1.00	0.48	2.84	円形	台形状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器			
41	21次	8区	SK 1564	4G-10H3	古代	IV層	C	0.50	0.46	0.06	3.09	円形	弧状	単層		×				
42	21次	8区	SK 1570	5G-1H7・8・12・13	中世	IV層	A	(2.31)	(1.70)	1.13	1.67	楕円形	箱状	レンズ状	SX1306を切る。	○	土師器、須恵器、青磁、白磁、珠洲焼、中世土師器、土製品、鍛冶関連遺物、石器、石製品、木製品	48~51・223・230・299~301・325		
41	21次	8区	SK 1717	5G-3121	古代	IV層	C	0.55	0.49	0.16	3.07	円形	弧状	レンズ状		×				
41	21次	8区	SK 1722	5G-3112・13・17・18	中世	IV層	A			0.21	3.08	円形	台形状	水平		○	土師器	52		
43	21次	8区	SK 1735	5G-3123・24	古代	IV層	C			0.21	3.03	楕円形	弧状	レンズ状	SD1422・1724に切られる。	○	土師器			
43	21次	8区	SK 1837	5G-1116・21	古代	IV層	C		0.38	0.10	3.15	楕円形	弧状	水平	SD1326に切られる。	○	土師器	53		
42	21次	8区	SK 1841	5G-1H17・22	古代	IV層	C		(0.91)	0.33	2.76	楕円形	台形状	レンズ状	SX1306に切られる。	×				
43	21次	8区	SK 1900	5G-1H15・20	古代	IV層	C	0.43		0.13	3.15	円形	弧状	単層		×				
43	21次	8区	SK 1914	5G-1H9	古代	IV層	C	0.42	0.30	0.17	3.08	円形	半円状	単層		○	須恵器			
43	21次	8区	SK 1923	4G-10H13・14	古代	IV層	C	0.70	0.49	0.51	2.78	楕円形	U字状	レンズ状		×				
43	21次	8区	SK 1999	5G-8I21、911	中世	IV層	A	0.84	0.59	0.20	2.89	楕円形	弧状	斜位		○	土師器			
43	21次	8区	SK 2005	5G-911	中世	IV層	A	(0.86)	0.65	0.34	2.75	楕円形	台形状	レンズ状	SD915に切られる。	×				
43	21次	8区	SK 2006	5G-9I2・3	中世	IV層	A	0.80	0.68	0.17	2.90	円形	弧状	レンズ状	SD2175を切る。	×				
43	21次	8区	SK 2017	5G-9I24	中世	IV層	B	0.74	0.50	0.10	2.96	不整形	弧状	レンズ状		×				
43	21次	8区	SK 2035	5G-10J2・7	中世	IV層	B	0.72	0.35	0.15	2.97	楕円形	弧状	レンズ状		×				
43	21次	8区	SK 2041	5G-9I18・19	中世	IV層	A	1.02	0.65	0.17	2.87	楕円形	弧状	レンズ状	SK1006に切られる。	○	土師器、須恵器			
43	21次	8区	SK 2051	5G-10J7・12	中世	IV層	A	0.58	0.49	0.08	3.01	円形	弧状	単層		○	土師器			
43	21次	8区	SK 2197	5G-7H14・15	古代	IV層	C	0.53	0.37	0.11	3.02	楕円形	弧状	単層	SD2196を切る。	×				
6	21次	8区	SK 2256	5G-8J6・7	古代	IV層	C		0.83	0.25	2.92	楕円形	弧状	レンズ状		×				
43	21次	8区	SK 2290	5G-9I18	古代	IV層	C		0.56	0.18	2.90	楕円形	弧状	レンズ状	SK996、SX1048に切られる。	×				
6・44	21次	8区	SK 2344	6G-1J17	中世	IV層	A		(1.22)	0.20	2.98	楕円形	弧状	レンズ状	SD2343に切られる。	×				
44	21次	8区	SK 2371	6H-2A9	中世	IV層	B	0.79	0.55	0.22	3.04	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
44	21次	8区	SK 2382	6H-2A19・24	中世	IV層	B	0.52	0.50	0.09	3.05	円形	弧状	水平		×				
6	21次	8区	SK 2390	5G-10I25	中世	IV層	B			0.12	3.10	円形	弧状	単層	SX2378を切る。	×			断面上でのみ確認。	
43	21次	8区	SK 2442	6H-2B11・16	古代	IV層	C	0.51	0.46	0.16	3.01	円形	弧状	単層		○	土師器			
44	21次	8区	SK 2455	6H-2B18	古代	IV層	C	0.68	0.62	0.19	2.99	円形	弧状	レンズ状		×				
44	21次	8区	SK 2462	6H-3B3	古代	IV層	C	0.77	0.73	0.28	2.93	円形	弧状	レンズ状		○	須恵器			
44	21次	8区	SK 2509	6H-3B19	中世	IV層	B	0.54	0.38	0.08	3.11	楕円形	弧状	単層		×				
44	21次	8区	SK 2582	6H-1A11・16	中世	IV層	A	(0.93)	(0.58)	0.13	2.86	楕円形	弧状	レンズ状		○	須恵器			
44	21次	8区	SK 2611	6G-1J8・9・13・14	古代	IV層	C		0.92	0.28	2.85	楕円形	弧状	レンズ状	SD2291に切られる。	×				
44	21次	8区	SK 2645	6H-3B8・9・13	古代	IV層	C	0.65	0.36	0.15	3.03	楕円形	弧状		SX2644を切る。	×				
44	21次	8区	SK 2848	6H-3A4・5・9・10	古代	IV層	C	0.69	0.48	0.24	2.94	楕円形	弧状	レンズ状		×				
44	21次	8区	SK 2858	6H-3A4・9	古代	IV層	C	1.20	(0.86)	0.16	2.99	楕円形	弧状	単層		×				
44	21次	8区	SK 2865	6H-2A16	中世	IV層	A	(0.58)	(0.49)	0.14	3.09	円形	弧状	レンズ状		×				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
6	21次	8区	SK 2928	6H-4B14	中世	IV層	A			0.20	3.07	弧状	レンズ状			×			
6	21次	8区	SK 2952	6H-4C15	中世	IV層	A		0.63	0.30	3.07	弧状	レンズ状			×			
45	21次	8区	SK 2964	6H-4C22・23、5C2・3	古代	IV層	C		0.88	0.17	2.96	弧状	レンズ状			×			
6	21次	8区	SK 2965	6H-4D11	古代	IV層	C			0.19	3.20	弧状	単層			×			断面上でのみ確認。
45	21次	8区	SK 2990	5G-8I22・23	古代	IV層	C	(0.97)	0.50	0.11	2.98	楕円形	弧状	単層	SX2113に切られる。	×			
45	21次	8区	SK 2999	5G-9I6	古代	IV層	C	0.97		0.26	3.02	弧状	レンズ状			×			
5	21次	8区	SK 3007	5G-5I15	古代	IV層	C			0.14	3.16	弧状	単層			×			断面上でのみ確認。

## 9区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
109	19次	9区	SK 22	7H-5E15	中世	IV層	A	0.60	0.34	0.08	3.00	楕円形	弧状	レンズ状	SD15・1242を切る。	×			
109	19次	9区	SK 83	7H-4D6・11	中世	IV層	A	0.49	0.30	0.15	2.90	長方形	箱状	レンズ状		×			
109	19次	9区	SK 99	7H-4C20	中世	IV層	A	0.74	0.70	0.25	2.77	円形	箱状	レンズ状		○	土師器		
109	19次	9区	SK 158	7H-4C20・25、4D16・21	中世	IV層	A	0.73	0.45	0.06	2.96	楕円形	弧状	レンズ状	SD209を切る。	○	土師器		
109	19次	9区	SK 167	7H-5E7・8・12・13	古代	IV層	C	0.86	0.64	0.14	3.02	楕円形	弧状	レンズ状	SX1264を切る。	×			
109	19次	9区	SK 173	7H-4E11	古代	IV層	C	0.55	0.54	0.20	2.84	方形	弧状	レンズ状		×			
109	19次	9区	SK 187	7H-4E18・23	古代	IV層	C	0.57	0.54	0.10	2.88	円形	弧状	レンズ状	SD201に切られる。	×			
109	19次	9区	SK 202	7H-5E4・5	古代	IV層	C	(0.87)	0.85	0.36	2.72	不整形	半円状	レンズ状	SD1242を切る。SD136に切られる。	×			
	19次	9区	SK 299	7H-7E19		IV層		0.54	0.44			楕円形				×			
	19次	9区	SK 325	7H-4D11		IV層		0.69	0.30	0.14	2.80	楕円形	弧状			×			
109	19次	9区	SK 326	7H-4D11		IV層		0.61	0.38	0.35	2.56	長方形	U字状		SD3908を切る。SD210に切られる。	×			
109	19次	9区	SK 327	7H-4C15		IV層		0.83	0.41	0.36	2.65	楕円形	弧状		SD1261・3908を切る。SD210に切られる。	×			
110	19次	9区	SK 407	7H-5E2	中世	IV層	A	0.63	0.60	0.38	2.64	円形	半円状	レンズ状	SD301を切る。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物		
110	19次	9区	SK 449	7H-7F3	中世	IV層	B	0.66	0.64	0.08	2.88	方形	弧状	単層		×			
110	19次	9区	SK 450	7H-5G16	中世	IV層	A	(0.60)	(0.55)	0.37	2.76	円形	台形状	レンズ状	SD1233を切る。SD239に切られる。	○	土師器		
110	19次	9区	SK 514	7H-7E19	中世	IV層	B	0.54	0.32	0.06	2.89	楕円形	弧状	単層		×			
110	19次	9区	SK 539	7H-5D18・19	中世	IV層	A	0.72	0.56	0.18	2.68	楕円形	台形状	レンズ状	SD1223を切る。	○	土師器		
110	19次	9区	SK 542	7H-9E13・14	中世	IV層	A	0.54	0.46	0.15	2.82	円形	弧状	レンズ状	SD716を切る。	×			
110	19次	9区	SK 544	7H-5C20、5D16・21	中世	IV層	A	1.32	1.18	0.16	2.80	円形	弧状	レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器	365・366	
110	19次	9区	SK 564	7H-5C15・19・20	中世	IV層	A	1.06	0.58	0.17	2.78	楕円形	弧状	レンズ状	SD543・538を切る。SD508・534・537に切られる。	×			
110	19次	9区	SK 616	7H-6E20	中世	IV層	B	0.54	0.46	0.03	2.69	円形	弧状	単層	SD959を切る。	×			攪乱の可能性あり。
110	19次	9区	SK 632	7H-8C13	古代	IV層	C	0.56	0.28	0.18	2.62	楕円形	U字状	単層	SD884を切る。	×			
111	19次	9区	SK 640	7H-7C8・9	古代	IV層	C	1.02	0.76	0.06	2.70	楕円形	弧状	単層	SD906・980を切る。	○	土師器		
111	19次	9区	SK 724	7H-7E1・6	古代	IV層	C	0.66	0.32	0.12	2.80	楕円形	弧状	単層		×			
111	19次	9区	SK 753	7H-8A5、8B1・6	中世	IV層	A	1.12	(0.72)	0.26	3.32	長方形	弧状	ブロック状		×			
111	19次	9区	SK 789	7H-8B10、8C6	古代	IV層	C	0.78	0.66	0.15	2.56	楕円形	弧状	レンズ状	SD763を切る。	×			
111	19次	9区	SK 798	7H-8B11	古代	IV層	C	0.76	0.44	0.18	2.50	楕円形	弧状	レンズ状	SD807を切る。	×			
111	19次	9区	SK 805	7H-8B25、9B5	中世	IV層	B	1.06	0.42	0.05	2.73	楕円形	弧状	レンズ状	SD806・825を切る。	×			
111	19次	9区	SK 823	7H-8B12	古代	IV層	C	0.64	0.28	0.11	2.58	楕円形	弧状	単層	SD795・824を切る。	×			
111	19次	9区	SK 917	7H-9B8	古代	IV層	C	0.66	0.50	0.14	2.52	円形	弧状	レンズ状	SD931を切る。	×			
111	19次	9区	SK 964	7H-10D16	古代	IV層	C	0.52	0.46	0.05	2.73	不整形	弧状	単層		×			
111	19次	9区	SK 1011	7H-6C24	古代	IV層	C	0.66	0.40	0.17	2.64	楕円形	弧状	レンズ状	SD521に切られる。	×			
112	19次	9区	SK 1032	7H-10D1・2	古代	IV層	C	0.70	0.34	0.22	2.53	楕円形	台形状	レンズ状	SD1064を切る。	×			
112	19次	9区	SK 1109	7H-10E12	古代	IV層	C	0.66		0.18	2.64	弧状	レンズ状		×				
112	19次	9区	SK 1135	7H-9C10・15、9D6・11	古代	IV層	C	0.78	0.70	0.14	2.66	円形	弧状	レンズ状		×			
112	19次	9区	SK 1160	7H-9D13	古代	IV層	C	1.50	0.80	0.19	2.66	楕円形	弧状	水平	SD946を切る。	×			
112	19次	9区	SK 1166	7H-9E19	古代	IV層	C	1.00	0.64	0.06	2.90	長方形	弧状	単層	SD1165を切る。SD531に切られる。	×			
112	19次	9区	SK 1172	7H-10D11・12	古代	IV層	C	0.70	0.64	0.37	2.26	不整形	U字状	レンズ状	SX803、SD1029を切る。	×			
112	19次	9区	SK 1186	7H-9E10・15	古代	IV層	C	0.66	0.34	0.12	2.82	円形	弧状	単層	SD3948に切られる。	×			
112	19次	9区	SK 1230	7H-5D23、6D3	古代	IV層	C	0.92	0.70	0.08	2.84	不整形	弧状	単層	SD1238を切る。	×			
112	19次	9区	SK 1239	7H-6D10、6E6	古代	IV層	C	0.44	0.42	0.04	2.88	円形	弧状	単層		×			
112	19次	9区	SK 1288	7H-7F4・5	古代	IV層	C	0.94	0.52	0.06	2.83	楕円形	弧状	単層	SD429に切られる。	×			
112	19次	9区	SK 1289	7H-6F24・25、7F4・5	古代	IV層	C	0.83	0.45	0.08	2.82	楕円形	弧状	単層	SD464に切られる。	×			
113	19次	9区	SK 1300	7H-6G12・17	古代	IV層	C	0.77	0.53	0.08	2.83	楕円形	弧状	単層		×			
113	19次	9区	SK 1301	7H-9A20・25	中世	IV層	B	1.42	1.24	0.30	2.31	方形	箱状		SX1364を切る。	×			
113	19次	9区	SK 1381	8H-1D2・7	中世	IV層	B	1.08	0.78	0.20	2.40	楕円形	弧状	レンズ状	SD455に切られる。	×			
113	19次	9区	SK 1394	7G-9J10、7H-9A6	古代	IV層	C	0.54	0.52	0.09	2.47	円形	弧状	単層	SK3925、SD1390に切られる。	×			
113	20次	9区	SK 1429	7H-1F17	中世	IV層	B	0.56	0.47	0.33	2.97	楕円形	弧状	レンズ状		○	石器・石製品	564	
86	20次	9区	SK 1464	6H-9G14	中世	IV層	B	0.76	0.68	0.13	3.18	不整形	弧状	レンズ状	P2467を切る。	○	土師器		
113	20次	9区	SK 1478	7H-2G8・13	古代	IV層	C	1.42	1.12	0.20	3.12	不整形	弧状	レンズ状		○	土師器		

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
113	20次	9区	SK 1522	7H-1E14	中世	IV層	A	0.52	0.32	0.10	2.94	楕円形	弧状	レンズ状	SD2141を切る。	×				
113	20次	9区	SK 1608	7H-1H2	中世	IV層	B	0.79	0.54	0.10	3.20	楕円形	弧状	レンズ状	P2808を切る。P2805に切られる。	○	土師器			
113	20次	9区	SK 1651	6H-10F19	古代	IV層	C	0.81	0.73	0.10	3.24	円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
113	20次	9区	SK 1654	6H-10F19・20・24・25	中世	IV層	A	1.06	0.78	0.33	3.01	楕円形	弧状	レンズ状	SD1653・2224を切る。	○	土師器			
85	20次	9区	SK 1846	7H-2H22・23、3H2・3	中世	IV層	A	0.45	0.41	0.05	3.21	円形	弧状	単層	P1845を切る。	○	黒色土器			
114	20次	9区	SK 1868	6H-10H19・20	古代	IV層	C	1.24	0.93	0.25	2.97	楕円形	弧状	斜位	SE1996を切る。	○	須恵器			
	20次	9区	SK 1886	7H-1H3・4	中世	IV層	B	0.58	0.54			円形	弧状	単層		×				
114	20次	9区	SK 1912	7H-1H14・15	中世	IV層	B	0.50	0.48	0.18	3.07	円形	半円状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
114	20次	9区	SK 1937	7H-1H19	中世	IV層	B	1.20	1.06	0.17	4.28	不整形	弧状			○	土師器、黒色土器、須恵器			
114	20次	9区	SK 1965	7H-1H22	中世	IV層	A	1.27	0.74	0.20	3.05	楕円形	弧状	レンズ状	SD1748・1969、P1740を切る。	○	土師器、須恵器			
114	20次	9区	SK 1968	7H-1H17・18・22・23	中世	IV層	A	0.70	0.51	0.21	3.04	楕円形	弧状	レンズ状	SD3047・P1970を切る。	○	土師器			
114	20次	9区	SK 1974	7H-1H23、2H3	中世	IV層	B	0.50	0.44	0.06	3.18	楕円形	弧状	単層		○	土師器			
	20次	9区	SK 2014	7H-2114	古代	IV層	C	0.55	0.50			円形	半円状	単層		×				
	20次	9区	SK 2023	7H-211	中世	IV層	A	0.45	0.42			円形	弧状	単層		×				
114	20次	9区	SK 2024	7H-211	中世	IV層	B	0.52	0.46	0.19	3.07	円形	弧状	ブロック状		×				
114	20次	9区	SK 2025	7H-211・6	古代	IV層	C	0.49	0.35	0.18	3.06	楕円形	弧状	ブロック状		×				
	20次	9区	SK 2031	7H-2113	古代	IV層	C	0.73	0.59			楕円形	弧状	単層		×				
114	20次	9区	SK 2044	7H-2G20	古代	IV層	C	1.37	1.14	0.07	3.17	不整形	弧状	単層		×				
114	20次	9区	SK 2188	7H-1F21	中世	IV層	A	0.79	0.53	0.21	3.11	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器、石器・石製品			
114	20次	9区	SK 2202	7H-2E3・4	古代	IV層	C	0.51	0.45	0.14	3.14	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
100	20次	9区	SK 2232	7H-2E13	古代	IV層	C		0.77	0.16	3.12	楕円形	弧状	レンズ状	SE2226、SD2460に切られる。	×				
100	20次	9区	SK 2254	7H-1G16・17	中世	IV層	B	0.70	0.65	0.12	3.21	円形	弧状	単層	SX2253を切る。	×				
115	20次	9区	SK 2279	7H-2E14	古代	IV層	C	0.68	0.49	0.42	2.85	楕円形	半円状	レンズ状	SD2141に切られる。	○	土師器、黒色土器、製塩土器	367~372		
115	20次	9区	SK 2286	7H-2G16・17・21	古代	IV層	C	1.03	0.62	0.18	3.05	楕円形	弧状	ブロック状	SD3191、P3223に切られる。	×				
115	20次	9区	SK 2290	7H-1F25、1G21	古代	IV層	C	1.74	1.23	0.23	3.07	円形	弧状	レンズ状	SD2123・2192に切られる。	○	土師器	373~375		
	20次	9区	SK 2306	7H-2F5	古代	IV層	C					楕円形	弧状	レンズ状		×				
115	20次	9区	SK 2335	7H-2F16	中世	IV層	B	0.91	0.62	0.23	3.05	楕円形	弧状	レンズ状	SX2348、SD2205を切る。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物			
115	20次	9区	SK 2352	7H-2E2	古代	IV層	C	0.62	0.43	0.06	3.12	楕円形	弧状	単層		○	土師器			
115	20次	9区	SK 2365	7H-2E6	中世	IV層	B	0.73	0.63	0.22	3.06	円形	弧状	レンズ状	SD2167・2172を切る。	○	土師器			
115	20次	9区	SK 2367	7H-2E6・7・11・12	中世	IV層	B	1.00	0.87	0.32	2.96	円形	弧状	レンズ状	SD2172を切る。SD3296に切られる。	○	土師器、須恵器			
115	20次	9区	SK 2375	7H-2F7・12	中世	IV層	A	0.68	0.51	0.18	3.12	円形	弧状	レンズ状	P3751に切られる。	○	土師器			
116	20次	9区	SK 2499	6H-8G16	古代	IV層	C	0.77	0.49	0.38	2.95	楕円形	弧状	レンズ状	SD1423に切られる。	×				
116	20次	9区	SK 2502	6H-8F25、9F5	中世	IV層	A	0.47	0.37	0.33	3.01	円形	半円状	レンズ状	SX3878を切る。	○	土師器			
116	20次	9区	SK 2545	6H-9H11・16	中世	IV層	A	1.41	0.62	0.20	3.11	楕円形	弧状	レンズ状	P2544・2547に切られる。	○	土師器			
116	20次	9区	SK 2607	7H-4H6・7	中世	IV層	A	0.52	0.36	0.06	3.16	楕円形	弧状	レンズ状	SD3381に切られる。	×				
116	20次	9区	SK 2664	7H-1H18	古代	IV層	C	1.03	0.53	0.13	3.05	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
116	20次	9区	SK 2667	6H-10H14・15	中世	IV層	B	(0.51)	(0.45)	0.05	3.13	円形	弧状	単層		×				
116	20次	9区	SK 2683	7H-1H23	中世	IV層	A		0.36	0.12	3.07	楕円形	弧状	レンズ状		×				
116	20次	9区	SK 2796	6H-10G25、10H21、7H-1G5、1H1	古代	IV層	C	0.67	0.39	0.17	3.16	楕円形	弧状	レンズ状		×				
116	20次	9区	SK 2837	7H-316	古代	IV層	C	0.58	0.48	0.17	3.08	楕円形	弧状	レンズ状	SX1755に切られる。	×				
117	20次	9区	SK 2897	6H-10H23	中世	IV層	B	0.84	0.54	0.13	3.13	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
117	20次	9区	SK 3007	7H-2G10	古代	IV層	C	0.70	0.65	0.11	3.12	円形	弧状	レンズ状		×				
117	20次	9区	SK 3173	7H-2E10	中世	IV層	A	0.60	0.43	0.17	3.13	楕円形	弧状	レンズ状	SD2194に切られる。	○	土師器	376		
117	20次	9区	SK 3177	7H-2F4	古代	IV層	C	1.32	1.24	0.37	2.91	楕円形	弧状	レンズ状	SD1661に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	377~379		
104	20次	9区	SK 3189	7H-2G12	古代	IV層	C	0.43	0.40	0.30	2.99	円形	半円状	レンズ状	SE3185、SD2526に切られる。	○	土師器、黒色土器			
104	20次	9区	SK 3197	7H-2F15、2G11	古代	IV層	C	1.60	1.58	0.35	2.99	楕円形	弧状	レンズ状	P3892を切る。SE3188・3372、SD1661・3191に切られる。	○	土師器、須恵器	380~387		
117	20次	9区	SK 3203	7H-2F25、2G21	中世	IV層	A	1.05	(0.63)	0.40	2.90	楕円形	弧状	ブロック状	SK3281に切られる。	○	土師器、黒色土器			
117	20次	9区	SK 3205	7H-2E10	古代	IV層	C	0.48	0.40	0.10	3.17	円形	弧状	単層		○	土師器、須恵器			
118	20次	9区	SK 3206	7H-2F7・8	古代	IV層	C	(0.53)	0.25	0.20	2.75	楕円形	弧状	レンズ状	P3137・3282に切られる。	○	土師器、須恵器			
118	20次	9区	SK 3225	7H-1F22	古代	IV層	C	0.67	0.51	0.14	3.15	楕円形	弧状	レンズ状	SD2092に切られる。	○	土師器、黒色土器	388~393		
118	20次	9区	SK 3227	7H-3G4・5・9・10	古代	IV層	C	1.60	1.46	0.15	3.05	円形	弧状	レンズ状		○	土師器	394・395		
118	20次	9区	SK 3264	7H-2G25、3G5	古代	IV層	C	1.24	1.20	0.10	3.11	楕円形	弧状	単層		×				
118	20次	9区	SK 3280	7H-2G16・17	中世	IV層	A	0.71	0.51	0.08	3.15	楕円形	弧状	レンズ状	SD3191に切られる。	○	土師器、須恵器			
117	20次	9区	SK 3281	7H-2G21	中世	IV層	A	0.85	0.56	0.32	2.96	楕円形	半円状	レンズ状	SK3203を切る。SD1661に切られる。	×				
118	20次	9区	SK 3435	7H-3F7	中世	IV層	A	0.54	0.42	0.11	3.19	楕円形	弧状	レンズ状	SD2452に切られる。	○	土師器、須恵器			
118	20次	9区	SK 3437	7H-3F5	中世	IV層	A	(0.65)	0.09	3.22	楕円形	弧状	レンズ状	SD2092に切られる。	×					
119	20次	9区	SK 3441	7H-3F2・7	古代	IV層	C	(0.90)	0.46	0.08	3.21	楕円形	弧状	レンズ状	SD2400、P3440に切られる。	○	土師器			
119	20次	9区	SK 3449	7H-3D14・15	中世	IV層	B	0.98	0.70	0.31	2.85	楕円形	半円状	レンズ状	SD3448・3454を切る。	×				
56	20次	9区	SK 3505	7H-3E11、3D15	古代	IV層	C	1.05	1.00	0.33	2.73	楕円形	半円状	ブロック状		○	土師器			
119	20次	9区	SK 3537	7H-4F3・8	中世	IV層	A	0.71	0.65	0.40	2.70	円形	半円状	レンズ状		○	土師器、須恵器			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度			平面	断面				遺物の種類			
									長軸	短軸								遺物の種類		
56	20次	9区	SK 3549	7H-3E12・13	中世	IV層	A	0.88	0.72	0.32	2.98	楕円形	半円状	レンズ状		○	土師器			
54	20次	9区	SK 3711	7H-4F25	古代	IV層	C		0.72	0.13	2.86	楕円形	弧状	レンズ状	SD3708に切られる。	○	土師器			
54	20次	9区	SK 3860	7H-2D23、3D3	古代	IV層	C	0.91	0.87	0.36	2.88	楕円形	半円状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
	20次	9区	SK 3882	6H-10E15・20	古代	IV層	C		(0.94)	0.17	3.11	楕円形	弧状	レンズ状		×				
119	19次	9区	SK 3921	7H-6E16	中世	IV層	A	0.86	0.58	0.05	2.88	楕円形	弧状	単層	SD356を切る。	×				
119	19次	9区	SK 3924	7H-7C21、7H-8C1・2	古代	IV層	C	2.88	0.95	0.24	2.41	楕円形	U字状	レンズ状	SX432に切られる。	×				
113	19次	9区	SK 3925	7G-9J10・15	古代	IV層	C	0.86	0.48	0.27	2.34	楕円形	弧状	単層	SK1394を切る。SD1390に切られる。	×				

性格不明遺構  
8区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度			平面	断面				遺物の種類			
									長軸	短軸								遺物の種類		
7・25	19次	8区	SX 46	6H-5D24・25、6D4・5	中世	IV層	B	2.97	2.00	0.15	3.10	不整形	弧状	レンズ状	SE84、SK54・83、SD39・96を切る。	○	土師器、須恵器			
45	19次	8区	SX 94	6H-5D3	古代	IV層	C	(1.11)	(0.67)	0.12	3.14	不整形	弧状	レンズ状		×				
23	21次	8区	SX 217	5G-5I2	中世	IV層	A	0.78	0.54	0.27	2.98	楕円形	弧状	レンズ状	P218を切る。	○	土師器、須恵器			
45	21次	8区	SX 225	5G-4I13・14・18・19・23・24	古代	IV層	C			0.31	2.94	楕円形	弧状	水平	SK215、SD1043・1478に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	54	上層に中世の覆土あり。	
45	21次	8区	SX 247	5G-5H15	古代	IV層	C	0.48	0.38	0.10	3.19	円形	弧状	単層	SX391を切る。	○	須恵器			
45	21次	8区	SX 260	5G-5H10・15	中世	IV層	A	0.78	0.56	0.07	3.24	楕円形	弧状	単層		○	土師器			
23	21次	8区	SX 289	5G-5I11・16	中世	IV層	B		1.31	0.05	3.15	不整形	弧状	単層	SD280、P288・334に切られる。	○	土師器、須恵器			
45	21次	8区	SX 291	5G-5I14	中世	IV層	A	0.63	0.38	0.14	2.98	楕円形	弧状	レンズ状	SD164を切る。	×				
45	21次	8区	SX 305	5G-5I7	中世	IV層	B		0.28	0.10	3.15	弧状	単層	SK843に切られる。	×					
45	21次	8区	SX 322	5G-5H15・20	中世	IV層	B		0.41	0.16	3.08	弧状	レンズ状		○	土師器				
45	21次	8区	SX 354	5G-5H20、5I16	古代	IV層	C		0.37	0.10	3.10	弧状	単層		○	土師器、須恵器				
45	21次	8区	SX 373	5G-5I11・12	中世	IV層	B			0.12	3.08	弧状	単層		×					
46	21次	8区	SX 391	5G-5H15・20	古代	IV層	C		1.03	0.07	3.16	弧状	単層	SK247、SX322に切られる。	×					
46	21次	8区	SX 468	5G-4I17	古代	IV層	C		0.38	0.10	3.00	不整形	弧状	水平		×				
46	21次	8区	SX 505	5G-4H24・25、4I21、5H4・5・10、5I1・6	古代	IV層	C		3.60	0.14	3.14	不整形	弧状	単層	SE107・945、P356・460・502に切られる。	○	土師器、須恵器			
46	21次	8区	SX 540	5G-7I20	古代	IV層	C	0.72	0.46	0.07	3.08	楕円形	弧状	単層		×				
46	21次	8区	SX 600	5G-4I11・16	古代	IV層	C		0.70	0.10	2.95	弧状	単層	SE1045に切られる。	○	須恵器				
46	21次	8区	SX 609	5G-5H14・15・19・20・25	古代	IV層	C		1.29	0.08	3.11	不整形	弧状	単層	SX640を切る。SK989、SX391、P307に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物			
46	21次	8区	SX 612	5G-5H25	古代	IV層	C	0.63	0.34	0.09	3.03	楕円形	弧状	単層		○	土師器			
46	21次	8区	SX 621	5G-4I13・14	古代	IV層	C	(0.92)	(0.73)	0.10	2.94	方形	弧状	単層	SD211・1478に切られる。	×				
46	21次	8区	SX 637	5G-5H18・23	中世	IV層	B		0.78	0.12	3.11	弧状	レンズ状		○	土師器				
46	21次	8区	SX 640	5G-5H19・20	古代	IV層	C		(0.39)	0.08	3.06	楕円形	弧状	単層	SX609に切られる。	○	土師器、須恵器			
47	21次	8区	SX 711	5G-7I6・11	古代	IV層	C	1.74	(1.07)	0.23	2.95	楕円形	弧状	レンズ状	SD221・366・436・437に切られる。	×				
7	21次	8区	SX 745	5G-5H18	中世	IV層	A			0.30	2.86	弧状	レンズ状	SK242に切られる。	○	土師器				
47	21次	8区	SX 784	5G-8I13・14・18・19	古代	IV層	C	1.05	0.91	0.15	2.97	円形	弧状	単層	SD774に切られる。	×				
47	21次	8区	SX 874	5G-6H15・20、6I11・16	中世	IV層	A		1.02	0.11	2.97	弧状	ブロック状		×					
47	21次	8区	SX 876	5G-6I11・12	中世	IV層	B		0.75	0.16	2.98	不整形	弧状	レンズ状		○	土師器			
47	21次	8区	SX 890	5G-7H14	古代	IV層	C		0.51	0.21	2.94	弧状	単層		○	須恵器				
47	21次	8区	SX 904	5G-9I10	中世	IV層	A	1.07		0.12	2.99	楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器			
47	21次	8区	SX 913	5G-7H14・15	古代	IV層	C		0.87	0.21	2.94	弧状	単層		×					
47	21次	8区	SX 923	5G-10I3	古代	IV層	C	2.08	1.17	0.40	2.75	楕円形	弧状	レンズ状	SD924を切る。	○	土師器、須恵器	55~70		
47	21次	8区	SX 930	5G-9J22・23、10J3	中世	IV層	A		0.55	0.14	2.99	弧状	レンズ状	SE929に切られる。	×					
47	21次	8区	SX 955	5G-7H20	古代	IV層	C	0.47		0.04	3.12	楕円形	弧状	単層		×				
48	21次	8区	SX 971	5G-8I5	古代	IV層	C		0.59	0.13	2.97	弧状	レンズ状		×					
48	21次	8区	SX 1008	5G-6H9・14	中世	IV層	B	1.01	0.82	0.20	2.92	楕円形	弧状	レンズ状	SX1855・SX1856を切る。	○	土師器			
48	21次	8区	SX 1025	5G-10J1・2	中世	IV層	A		0.86	0.25	2.87	弧状	レンズ状		○	土師器				
48	21次	8区	SX 1048	5G-9I17・18	中世	IV層	A		0.75	0.25	2.84	弧状	レンズ状	SK2290を切る。SK1042に切られる。	○	土師器、須恵器				
48	21次	8区	SX 1089	4G-10H7・12	古代	IV層	C		1.57	0.15	3.19	弧状	単層	SD1196に切られる。	○	土師器、須恵器	71~75			
25・48	21次	8区	SX 1099	5G-3H3・4	中世	IV層	B	1.53	0.78	0.15	3.09	不整形	弧状	単層	P1094を切る。	○	土師器、須恵器			
48	21次	8区	SX 1101	5G-3H4・5・9・10・14・15	中世	IV層	A			0.14	3.12	弧状	単層	SE1600、SD1535、P1683を切る。SD1126に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
49	21次	8区	SX 1111	5G-3H4・9	中世	IV層	B	2.22	(0.76)	0.14	3.18	不整形	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
49	21次	8区	SX 1195	4G-10H17・22	中世	IV層	A		0.82	0.20	3.15	弧状	レンズ状	SX1306に切られる。	○	土師器				
42	21次	8区	SX 1306	4G-10H22・23、5G-1H2・3・4・7・8・9・12~14・17~19・22・23	中世	IV層	A			0.95	2.44	弧状	レンズ状	SX1763・1195・1752、SD1196・1688・1771・1911を切る。SK1570・1841、SX1624、SD1305・1307に切られる。	○	縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、青磁、白磁、珠洲焼、中世土師器、土製品、鍛冶関連遺物、石器・石製品、金属製品、銭貨、木製品	76~101・231~233・245・306~318、第20図4			
49	21次	8区	SX 1321	5G-1I6・7・12	中世	IV層	A		0.74	0.26	3.05	弧状	レンズ状	SE1320に切られる。	○	土師器				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度	平面		断面	遺物の種類							
													長軸				短軸	種類		
5	21次	8区	SX 1368	5G-2H3・4・8・9	中世	IV層	A	2.56	0.64	2.76		弧状	レンズ状	SX1861を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、白磁、土製品、石器・石製品、金属製品、銭貨	102・246			
41	21次	8区	SX 1402	5G-3H18・23	中世	IV層	A		0.40	2.86		弧状	レンズ状	SK1498を切る。	○	土師器、中世土師器	103			
5・49	21次	8区	SX 1506	4G-9H21・22	古代	IV層	C	0.85	0.10	3.21		弧状	単層	SD1765に切られる。	○	土師器				
49	21次	8区	SX 1507	4G-9H22	古代	IV層	C		0.10	3.20		弧状	単層	SX1510に切られる。	○	土師器				
49	21次	8区	SX 1510	4G-9H21・22	古代	IV層	C		0.27	3.07		台形状		SX1507を切る。	○	土師器				
49	21次	8区	SX 1540	4G-10H1・6	古代	IV層	C	0.58	0.09	3.22		不整形	弧状	単層	SE1080に切られる。	○	土師器、須恵器			
49	21次	8区	SX 1542	4G-10H1・2	古代	IV層	C		0.18	3.12		弧状	レンズ状	SD1196に切られる。	○	土師器				
49	21次	8区	SX 1561	4G-10H20	古代	IV層	C		0.51	0.20	3.18		半円状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
49	21次	8区	SX 1568	4G-10H9・10・14・15	中世	IV層	A		0.79	0.21	3.20		弧状	レンズ状		○	土師器			
49	21次	8区	SX 1577	4G-10H14	古代	IV層	C	0.88	0.35	0.24	3.12		不整形	箱状	斜位		×			
49	21次	8区	SX 1588	4G-10H14	古代	IV層	C	0.65	0.32	0.11	3.22		楕円形	弧状	単層	SD1930を切る。	×			
49	21次	8区	SX 1592	5G-1H20、1116	中世	IV層	A	0.84	0.77	0.10	3.19		円形	弧状	単層		○	土師器		
23・49	21次	8区	SX 1599	5G-1H5・10、111・6	古代	IV層	C	1.25	0.89	0.12	3.25		楕円形	弧状	単層	P1673に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	104	
50	21次	8区	SX 1605	5G-1112	中世	IV層	A		0.69	0.46	2.75		半円状	レンズ状		○	土師器、須恵器			
50	21次	8区	SX 1622	5G-3H20・25、3I16・21	古代	IV層	C	(2.82)	1.83	1.12	2.07		楕円形	U字状	レンズ状	SD2980を切る。SD1535に切られる。	○	土師器、須恵器、土製品、石器・石製品、木製品	105~113	
50	21次	8区	SX 1624	5G-1H3	中世	IV層	A	(0.72)	(0.30)	0.19	2.91		不整形	弧状	水平	SX1306に切られる。	○	土師器		
50	21次	8区	SX 1690	5G-1H10・15、116・11	古代	IV層	C	0.77	0.68	0.11	3.19		不整形	弧状	単層		○	土師器、須恵器		
50	21次	8区	SX 1746	5G-3H23・24、4H3・4	古代	IV層	C		1.09	0.09	3.00		弧状	レンズ状	SD1422に切られる。	○	土師器、須恵器	114		
50	21次	8区	SX 1752	5G-1H14	中世	IV層	A	(0.88)	(0.64)	0.09	3.07		不整形	弧状	レンズ状	SD1911を切る。SX1306に切られる。	○	土師器		
50	21次	8区	SX 1763	5G-1H12	古代	IV層	C		(0.22)	0.04	2.44		弧状	単層	SX1306に切られる。	×				
5	21次	8区	SX 1772	4G-9H12	古代	IV層	C			0.20	3.18		弧状	レンズ状		×				
48	21次	8区	SX 1855	5G-6H9・14	中世	IV層	A		0.92	0.16	2.97		弧状	レンズ状	SX1856、SD149を切る。SX1008に切られる。	○	土師器、須恵器			
48	21次	8区	SX 1856	5G-6H8・9・14	古代	IV層	C		0.44	0.05	3.04		弧状	単層	SX1008・1885に切られる。	○	土師器			
50	21次	8区	SX 1861	5G-2H4	古代	IV層	C	0.87	(0.43)	0.19	3.07		楕円形	弧状	レンズ状	SX1368に切られる。	×			
50	21次	8区	SX 1873	5G-1I22、212	古代	IV層	C		(1.08)	0.08	3.21		弧状	単層	SD1771を切る。	○	土師器			
27	21次	8区	SX 1874	5G-5I7・8・12	中世	IV層	A			0.33	2.88		弧状	単層	SK395、P501を切る。SE134に切られる。	○	土師器、須恵器			
23・43	21次	8区	SX 1877	5G-1H15・20	古代	IV層	C	1.03	0.49	0.11	3.15		不整形	弧状	単層		×			
51	21次	8区	SX 1893	5G-4H10	古代	IV層	C	0.64		0.05	3.00		弧状	単層	SD1420に切られる。	×				
51	21次	8区	SX 1929	5G-2I2・7	古代	IV層	C			0.79	2.55		弧状	レンズ状	SD1946を切る。	○	土師器			
51	21次	8区	SX 2001	5G-7H25	古代	IV層	C	0.52	0.43	0.08	3.10		円形	弧状	単層	SD2191を切る。	×			
51	21次	8区	SX 2113	5G-8I17・18・22・23	古代	IV層	C	2.25	1.10	0.09	3.10		不整形	弧状	単層	SK2990を切る。	○	土師器、須恵器		
51	21次	8区	SX 2173	5G-8I8・9	古代	IV層	C	1.32	0.92	0.16	2.97		長方形	弧状	単層	P2074に切られる。	○	土師器、須恵器		
51	21次	8区	SX 2191	5G-7H15・19・20・24・25、8H4・5	古代	IV層	C		2.34	0.09	3.11		弧状	単層	SD2275を切る。SX955・2001、SD366に切られる。	○	土師器			
51	21次	8区	SX 2273	5G-7H19	古代	IV層	C		0.51	0.14	3.01		弧状	単層		×				
51	21次	8区	SX 2300	6G-1J19・20・24・25	中世	IV層	A	2.19	1.38	0.29	2.66		楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器		
52	21次	8区	SX 2339	5G-10I2	古代	IV層	C	1.33		0.30	2.92		弧状	レンズ状	SX2354を切る。	○	土師器、須恵器	115・116		
52	21次	8区	SX 2354	5G-9I22、10I2	古代	IV層	C			0.34	2.87		弧状	レンズ状	SX2339に切られる。	×				
6	21次	8区	SX 2378	5G-10I20・25、10J16・21、6G-1I5	古代	IV層	C		1.85	0.40	2.81		弧状	レンズ状	SK2390に切られる。	○	土師器、須恵器	117~121		
52	21次	8区	SX 2457	6H-2B16・17・18・21・22・23	中世	IV層	A	3.26	2.56	0.68	2.49		楕円形	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器、珠洲焼、石器・石製品、木製品	319	
52	21次	8区	SX 2476	6H-3B6・7・11・12	古代	IV層	C	2.27	1.12	0.16	3.06		不整形	弧状	単層		×			
44	21次	8区	SX 2644	6H-3B7・8・9・12・13	古代	IV層	C	2.64	0.98	0.25	2.84		楕円形	弧状	レンズ状	SK2645に切られる。	○	土師器		
52	21次	8区	SX 2768	6H-4C14・15	古代	IV層	C		(1.32)	0.15	3.00		不整形	弧状	単層		×			
6	21次	8区	SX 2958	6H-4C15・20	古代	IV層	C		(0.48)	0.14	3.07		弧状	レンズ状		×				

## 9区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度	平面		断面	遺物の種類							
													長軸				短軸	種類		
120	19次	9区	SX 1	7H-5D3・4・8・9	中世	IV層	A	2.68	1.74	0.27	2.95		不整形	弧状	レンズ状	SD332・339を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器		
120	19次	9区	SX 2	7H-5G17	中世	IV層	A	0.55	0.43	0.13	2.99		不整形	弧状	単層	SD239を切る。	×			
55	19次	9区	SX 3	7H-5F15、5G11	中世	IV層	B			0.22	2.94		弧状	レンズ状	SX4に切られる。	○	土師器、須恵器			
55	19次	9区	SX 4	7H-5F10・15	中世	IV層	B			0.84	0.22	2.97		台形状	レンズ状	SX3を切る。	×			
	19次	9区	SX 11	7H-5F8・9	中世	IV層	A	0.50	0.28	0.09	2.97		不整形	弧状	単層		○	土師器		
120	19次	9区	SX 29	7H-4E25、4F21、5F1	中世	IV層	B	1.94	0.28	0.16	2.95		楕円形	弧状	レンズ状	SD130を切る。SD30に切られる。	○	土師器、須恵器		倒木あり。
120	19次	9区	SX 134	7H-4E25	中世	IV層	B	1.02	0.76	0.14	2.97		不整形	弧状	単層	SD201を切る。P135に切られる。	○	土師器		
120	19次	9区	SX 146	7H-5D1・2	古代	IV層	C	1.80	0.80	0.18	2.83		不整形	弧状	レンズ状	SX247、SD1294を切る。	○	土師器、黒色土器	396~401	
120	19次	9区	SX 172	7H-5D7・8・12・13	中世	IV層	A	2.43	2.08	0.18	2.86		円形	弧状	レンズ状	SD239に切られる。	○	土師器、黒色土器	402~410	
120	19次	9区	SX 213	7H-5D6	中世	IV層	B	1.07	0.80	0.12	2.87		楕円形	弧状	レンズ状		×			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考	
								上端	深度	長軸		短軸	平面				断面	遺物の種類			
																		土器			須恵器
120	19次	9区	SX 247	7H-5D1・2	古代	IV層	C	(1.82)	(0.68)	0.34	2.68	楕円形	箱状	単層	SX146に切られる。	○	土師器、須恵器				
121	19次	9区	SX 248	7H-4D7・11~13・17・18	中世	IV層	B	3.18	2.11	0.44	2.62	長方形	箱状	レンズ状	SD334・3908・3909を切る。SD210に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品				
58	19次	9区	SX 305	7H-4D20・25、4E16・21	中世	IV層	B		2.62	0.58	2.36	長方形	箱状	レンズ状	SE304を切る。SX409に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品	411・412			
121	19次	9区	SX 337	7H-5D5・10・15、5E6・11	中世	IV層	A	3.66	1.95	0.35	2.62	楕円形	弧状	レンズ状	SD302・339・1291を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
121	19次	9区	SX 345	7H-4D13・14・18・19	古代	IV層	C	1.87	1.38	0.17	2.80	楕円形	弧状	単層	SD210・332・333・334に切られる。	○	黒色土器、鍛冶関連遺物				
122	19次	9区	SX 354	7H-6C17・18・22・23、7C2・3	古代	IV層	C	3.14	2.24	0.26	2.50	不整形	弧状	レンズ状	SD973・978・1043・1103・1175・1182・1188・1193を切る。	○	土師器、須恵器				
58	19次	9区	SX 409	7H-4D14・19・20・24・25	古代	IV層	B	3.81	1.94	0.60	2.35	長方形	弧状	レンズ状	SX305、SD287・332・339を切る。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物				
122	19次	9区	SX 413	7H-5C15、5D11	中世	IV層	A	1.52	1.16	0.32	2.67	長方形	弧状	レンズ状	SD543・1202を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
122	19次	9区	SX 418	7H-5F18~20・25、5G16・21	中世	IV層	A			0.14	2.92	弧状	レンズ状	SD239・423に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼					
123	19次	9区	SX 431	7H-7C16・17・22・23、8C2・3	古代	IV層	C	4.46	1.34	0.28	2.44	不整形	弧状	レンズ状	SX432を切る。SD430に切られる。	×					
119・123	19次	9区	SX 432	7H-7B20・25、7C16・21・22、8B5、8C1・2・6	古代	IV層	C	5.76	3.88	0.14	2.58	不整形	弧状	レンズ状	SK3924を切る。SD438・726と切り合いなし。SX431、SD3928に切られる。	○	土師器				
122	19次	9区	SX 433	7H-9B21~23、10B1~3・7・8	古代	IV層	C	4.24	2.76	0.11	2.56	長方形	弧状	単層	SD438・726と切り合いなし。SD985・990・999に切られる。	×					
124	19次	9区	SX 454	7H-6F6・7・11・12・16~18・22・23	中世	IV層	A	7.02	2.24	0.22	2.66	不整形	弧状	レンズ状	SD458・464・1169・3938を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
	19次	9区	SX 465	7H-5F23・24、6F3・4	古代	IV層	C	1.90	1.00			不整形			SD457に切られる。	○	土師器、鍛冶関連遺物				
124	19次	9区	SX 522	7H-6C6・7・11・12	古代	IV層	C	2.28	2.23	0.29	2.54	不整形	弧状	レンズ状	SD973を切る。SD524・525に切られる。	×			上層に中世の覆土あり。		
125	19次	9区	SX 555	7H-9E11~13・16~18・21~23	中世	IV層	B		5.06	0.11	2.80	方形	弧状	レンズ状	SD716・1165を切る。SD529・743に切られる。	×					
124	19次	9区	SX 615	7H-6H15~20、6C11・16	中世	IV層	B		0.45	0.02	2.77	不整形	弧状	単層	SD524・959・961を切る。	○	土師器				
124	19次	9区	SX 631	7H-6C16・17・21・22、7C1・2	古代	IV層	C	2.94	1.32	0.16	2.56	不整形	弧状	レンズ状	SD963・970・992・1102を切る。	×					
126	19次	9区	SX 647	7H-6B24・25、7B2~5・7~10・12~15・18・19、7C6・11	古代	IV層	C	8.66	6.76	0.07	2.88	方形	弧状	単層	SX750・751、SD737・921・928・929・934・970を切る。SD726・731・736と切り合いなし。SD626に切られる。	×					
	19次	9区	SX 746	7H-10D20・25、10E16・17・21	中世	IV層									SD743を切る。SD1110に切られる。	○	土師器				
126	19次	9区	SX 750	7H-7B10・15	古代	IV層	C	2.14	1.58	0.20	2.44	長方形	弧状	水平	SX647に切られる。	×					
126	19次	9区	SX 751	7H-6B24・25、7B4・5	古代	IV層	C	2.12	1.96	0.18	2.40	円形	弧状	単層	SX647に切られる。	×					
125	19次	9区	SX 755	7H-9D19・20・24・25、10D4	古代	IV層	C	3.86	1.66	0.32	2.56	楕円形	弧状	レンズ状	SX761、SD702・743を切る。	○	土師器		上層に中世の覆土あり。		
125	19次	9区	SX 761	7H-9D23・24	中世	IV層	A			0.04	2.82	不整形	弧状	レンズ状	SX755、SD702に切られる。	×					
127	19次	9区	SX 803	7H-10D2・3・7・8・11~14・17~19・23	中世	IV層	A			0.24	2.80	弧状	レンズ状	SD907・1029・1030・1113を切る。SK1172、SX1158、SD744・1157に切られる。	×						
126	19次	9区	SX 925	7H-10D16・21・22、8H-1D1・2	中世	IV層	A			0.10	2.77	弧状	レンズ状	SD926・927・1142を切る。SD445に切られる。	×						
125	19次	9区	SX 982	7H-7C4・5・9・10	古代	IV層	C	1.58	0.58	0.04	2.78	楕円形	弧状	単層	P1025に切られる。	×					
127	19次	9区	SX 1097	7H-6C7・8	古代	IV層	C	1.12	(1.02)	0.46	2.38	不整形	弧状	レンズ状	SD525・1081・3937に切られる。	×					
127	19次	9区	SX 1104	7H-6C1・2	古代	IV層	C	0.80	(0.66)	0.22	2.63	不整形	弧状	ブロック状	SD1093に切られる。	×					
	19次	9区	SX 1133	7H-8A10	古代	IV層	C		0.36			不整形			SD810に切られる。	×					
127	19次	9区	SX 1137	7H-5C17	古代	IV層	C	1.06	0.44	0.17	2.68	不整形	弧状	単層		×					
128	19次	9区	SX 1146	7H-5C23・24	古代	IV層	C	1.06	0.86	0.24	2.50	円形	弧状	レンズ状	SD521に切られる。	×					
128	19次	9区	SX 1147	7H-5C23・24	古代	IV層	C	1.16	0.86	0.28	2.47	不整形	弧状	レンズ状	SD1093・1094を切る。SD521に切られる。	×					
128	19次	9区	SX 1153	7H-6D9・10・14・15、6E6・11	古代	IV層	C	3.92	2.14	0.38	2.50	不整形	弧状	レンズ状		×					
	19次	9区	SX 1158	7H-10D7・8	IV層			1.00	0.90			不整形			SX803を切る。	×					
128	19次	9区	SX 1201	7H-5C9	古代	IV層	C		0.46	0.23	2.60	不整形	弧状	単層	SD237・238に切られる。	×					
128	19次	9区	SX 1218	7H-5D22・23	古代	IV層	C	1.46	0.92	0.18	2.72	不整形	弧状	レンズ状	SD1194を切る。	×					
129	19次	9区	SX 1264	7H-4E22・23、5E2~4、7~9、12・13	古代	IV層	C	5.04	4.90	0.14	2.93	方形	弧状	レンズ状	SK167、SD136・301・1244に切られる。	○	土師器				
128	19次	9区	SX 1266	7H-4D22~24	古代	IV層	C	2.26	0.78	0.24	2.72	楕円形	弧状	水平		×					
128	19次	9区	SX 1270	7H-4D22、5D2・3	古代	IV層	C	1.56	0.78	0.28	2.67	楕円形	U字状	ブロック状		×					
	19次	9区	SX 1302	7H-9A12~14・17~19	古代	IV層	C		3.76	0.69	2.50	方形	弧状	レンズ状	SX4・1364と切り合いなし。	×					
130	19次	9区	SX 1364	7H9A23~25、10A3~5・8~10・13~15、10B1・6・7・11・12	古代	IV層	C	7.46	7.22	0.20	2.44	方形	弧状	レンズ状	SX433・1302と切り合いなし。SK1301に切られる。	○	土師器				
	19次	9区	SX 1380	7H-10C11・12・16・17	古代	IV層	C	2.08	1.14	0.10	2.60	方形			SD1070・1371と切り合いなし。	×					
131	19次	9区	SX 1384	7C-9J18~20・24・25、7H-9A16・17・21・22、10A1・2・6~8	古代	IV層	C			0.07	2.79	弧状	レンズ状	SD1390と切り合いなし。SD1385に切られる。	×						
132	20次	9区	SX 1457	6H-9G7・8	中世	IV層	B	0.85	0.47	0.08	3.22	楕円形	弧状	単層		×					
132	20次	9区	SX 1539	6H-9G17・18	中世	IV層	A	1.73	1.35	0.32	2.98	長方形	台形状	レンズ状		○	金属製品	574、第20図3			
132	20次	9区	SX 1755	7H-3H5・10・15・20・25、3I1・6・7・11・12・16・17・21・22、4H5・10、4I1・2・6	中世	IV層	B		3.61	0.22	3.00	長方形	弧状	レンズ状	SD1727・2830・2838・2907・2964を切る。SE2831・3025・3705、SK2837、SX1756に切られる。	○	鍛冶関連遺物				
103・132	20次	9区	SX 1756	7H-3I21・22、4H1・2	中世	IV層	A		2.03	0.36	2.86	長方形	弧状	斜位	SX1755を切る。SE3025、P3903に切られる。	×					
	20次	9区	SX 1770	7H-1H7・12	古代	IV層	C			0.22	2.98	不整形	レンズ状		×						

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
132	20次	9区	SX 2066	7H-1G14・15	中世	IV層	B	1.38	1.10	0.20	3.11	楕円形	弧状	レンズ状	SD1600、P2789・2804を切る。P2064・2068に切られる。	×			
133	20次	9区	SX 2140	7H-1E3・4・8・9・14	中世	IV層	A		3.40	1.04	2.29	方形 or長方形	台形状	斜位	SD1600・2141、P1475・3739を切る。	○	縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、土製品、鍛冶関連遺物、石器・石製品、木製品	413～416・565・638～665・680・681	
133	20次	9区	SX 2253	7H-1G16・17・21・22	古代	IV層	C	1.61	1.42	0.25	3.08	円形	弧状	ブロック状	SK2254、SD2192に切られる。	○	土師器、黒色土器、灰釉陶器、金属製品	417～424・575	
134	20次	9区	SX 2348	7H-2F12・16・17・21・22、3F2	古代	IV層	C	4.90	2.00	0.22	3.10	不整形	弧状	レンズ状	SK2335、SD2205、P2444・3341・3356に切られる。	○	土師器、黒色土器、鍛冶関連遺物	425～427	
134	20次	9区	SX 2512	7H-3E4・9	古代	IV層	C	1.90	1.47	0.10	3.09	長方形	弧状	レンズ状	P3278に切られる。	×			
80	20次	9区	SX 2894	7H-2H24、3H4	古代	IV層	C	2.15	1.18	0.28	2.90	不整形	弧状	レンズ状	P1703・1704・1721・3914に切られる。	×			
134	20次	9区	SX 3054	7H-1H21・22	古代	IV層	C			0.27	2.98	楕円形か?	弧状	レンズ状	P2635・2641に切られる。	×			
134	20次	9区	SX 3102	7H-2G3・8	古代	IV層	C	1.49	1.34	0.17	3.16	円形	弧状	レンズ状	P3085に切られる。	×			
135	20次	9区	SX 3200	7H-2G12・13・17・18	古代	IV層	C	1.38	1.30	0.24	3.08	円形	弧状	レンズ状	SD2526、P3211を切る。	×			
135	20次	9区	SX 3333	7H-3F25、3G21	古代	IV層	C	(1.60)	1.26	0.10	3.09	不整形	弧状	レンズ状	SD3792を切る。SX3574、SD3594に切られる。	○	土師器、黒色土器		
135	20次	9区	SX 3349	7H-2F21・22、3F1・2	古代	IV層	C	2.60	1.46	0.10	3.22	楕円形	弧状	レンズ状	P3425を切る。SD2194、P3421に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、鍛冶関連遺物	428～457	
136	20次	9区	SX 3521	7H-3E13・14・18～20・23～25、3F16、4E4・5	中世	IV層	A	5.03	4.77	0.82	2.40	方形	台形状	レンズ状	SD2313・3540・3548・3565を切る。P3554に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、白磁、土製品、木製品、銭貨	458～460・545・666・667	
135	20次	9区	SX 3574	7H-3F20・25、3G16・21	古代	IV層	C		0.86	0.12	3.10	不整形	弧状	ブロック状	SX3333を切る。SD3384に切られる。	×			
135	20次	9区	SX 3584	7H-4G24、5G4	中世	IV層	A	1.48	0.63	0.19	2.99	楕円形	弧状	レンズ状	SD3401を切る。	×			
135	20次	9区	SX 3604	7H-4G21・22	古代	IV層	C	1.17	0.89			楕円形	弧状	レンズ状		×			
135	20次	9区	SX 3789	7H-2G15	古代	IV層	C	1.37	1.06	0.31	2.86	円形	弧状	レンズ状	SD3006、P3037に切られる。	○	須恵器		
136	20次	9区	SX 3803	7H-2F15・20	古代	IV層	C	1.78	1.02	0.28	2.87	楕円形	弧状	単層	SD1661に切られる。	×			
135	20次	9区	SX 3827	6H-9F17・18・23	古代	IV層	C		0.71	0.30	3.02	不整形	弧状	ブロック状		×			
116・136	20次	9区	SX 3878	6H-9F4・5	古代	IV層	C		1.60	0.35	2.94	不整形	弧状	レンズ状	SK2502に切られる。	×			
136	20次	9区	SX 3879	7H-2D9・10・14・15	古代	IV層	C	1.32	(0.62)	0.28	2.95	楕円形	弧状	レンズ状	SD3296に切られる。	×			
	19次	9区	SX 3922	7H-6F16	中世	IV層	B	1.46	0.36			楕円形	弧状	単層		×			
	19次	9区	SX 3952	7H-9A2・3	IV層			2.04	1.00			楕円形			SD1005を切る。	×			
131	19次	9区	SX 3953	7G-9J15・18～20	古代	IV層	C			0.06	2.82	弧状	水平	SD1385に切られる。	×				

溝  
8区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
18	19次	8区	SD 2	6H-4D17・22	中世	IV層	A		0.28	0.04	3.15		弧状	単層	SD25を切る。	×			
18	19次	8区	SD 4	6H-5C5・10・15・20、5D11・16	古代	IV層	C		0.96	0.15	3.03		弧状	単層	SD22に切られる。	○	黒色土器、須恵器		小溝状遺構群か?
18	19次	8区	SD 5	6H-5D5	IV層			0.50	0.24	0.01	3.22	楕円形			○	土師器			
18	19次	8区	SD 6	6H-5D5、5E1・2	古代	IV層	C		0.51	0.04	3.24		弧状	単層	SD22・91に切られる。	×			
18・19	19次	8区	SD 22	6H-5C8～10・14・15、5D3～11・15、5E6・11・16・21・22、6E1・2・6	中世	IV層	A		1.40	0.32	2.95		U字状	レンズ状	SD6・47・75・82・91を切る。SK71、SD4に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼	122	区画。
19	19次	8区	SD 25	6H-4D17～19・21～23、5D1・2・7・12・13・17・18・23	中世	IV層	A		0.78	0.36	2.92		U字状	レンズ状	SD26を切る。SK21、SD2・22・47に切られる。	○	土師器、須恵器	123	
19	19次	8区	SD 26	6H-5D12・13・16～18	IV層			1.22	0.16	2.99					SK40、SD25・27・47に切られる。	○	土師器、須恵器		小溝状遺構群か?
19	19次	8区	SD 27	6H-5D11・12・16・17・22	中世	IV層	B		0.70	0.11	3.17		弧状	レンズ状	SD26・47を切る。	○	土師器		
19	19次	8区	SD 39	6H-5D18・19・24、6D4	古代	IV層	C		0.20	0.07	3.20		U字状	単層	SD104を切る。SX85に切られる。	×			小溝状遺構群か?
19	19次	8区	SD 47	6H-5C15、5D4～15・19・20・25、5E11・16・21、6D5、6E1	中世	IV層	B		0.92	0.20	2.98		弧状	レンズ状	SD25・26・96を切る。SD22・27に切られる。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物		小溝状遺構群か?
19	19次	8区	SD 52	6H-6D5	IV層			0.19	0.10	3.18						×			
7	19次	8区	SD 57	6H-4E23、5E3	古代	IV層	C		0.45	0.14	3.09		弧状	単層		×			
19	19次	8区	SD 72	6H-5D17・22	IV層			0.41	0.09	3.21						○	土師器		
18	19次	8区	SD 75	6H-5C14	中世	IV層	B			0.08	3.20				SD22に切られる。	○	土師器		
18	19次	8区	SD 82	6H-5E21・22	IV層				0.80	0.08	3.18				SD22に切られる。	×			
19	19次	8区	SD 85	6H-5D23・24・25	古代	IV層	C		(0.22)	0.14	3.15		弧状	レンズ状	SD39を切る。SE84、SX46に切られる。	×			上層に中世の覆土あり。小溝状遺構群か?
19	19次	8区	SD 91	6H-4D24・25、5D3・4・5	中世	IV層	B		0.97	0.08	3.22		弧状	単層	SD6を切る。SD22に切られる。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物		小溝状遺構群か?
19	19次	8区	SD 96	6H-5D25、6D5	古代	IV層	C		0.34	0.18	3.09		弧状	単層	SK83に切られる。SX46、SD47に切られる。	×			小溝状遺構群か?
19	19次	8区	SD 104	6H-5D24	古代	IV層	C		0.15	0.12	3.15		箱状	単層	SD25・39に切られる。	×			
9	21次	8区	SD 110	5G-3I22、4I2	古代	IV層	C	0.64	0.18	0.07	3.16		弧状	レンズ状	SD1160に切られる。	×			
9	21次	8区	SD 113	5G-3I22・23	古代	IV層	C	0.91	0.15	0.09	3.14		半円状	単層	SD1725に切られる。	×			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物 の種類	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面						
								長軸	短軸										
9・26	21次	8区	SD 118	5G-5H18・19・23・24	中世	IV層	A		0.53	0.12	3.09	弧状	単層	SD593を切る。SE112に切られる。	○	土師器			
13・20・37	21次	8区	SD 121	5G-6H19・20・24・25、6I4・5・9・10・13・14・17~18・19・21~23、7I1~4・6~10・13~15・19・20、7H3~5・8~10、7J16	中世	IV層	A		1.78	0.72	2.54	階段状	レンズ状	SK275・321・327・351・676、SD151・161・220・221・314・340・422・431・432・438・439・440・447・801、P222・295を切る。SE155、SD209に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、白磁、珠洲焼、瓷器系陶器、鍛冶関連遺物、石器・石製品、金属製品、木製品	124~130・234・302~305		
9	21次	8区	SD 137	5G-6I3	中世	IV層	A		0.69	0.15	2.97	弧状	レンズ状	SE119に切られる。	×				
13	21次	8区	SD 143	5G-6I7・12・13・17・18	中世	IV層	A	3.30	0.81	0.12	3.10	弧状	レンズ状	SD422を切る。	○	土師器、須恵器			
9	21次	8区	SD 149	5G-6H14	古代	IV層	C		0.29	0.09	2.97	弧状	単層	SX1855に切られる。	○	土師器			
10	21次	8区	SD 151	5G-4I24、5I4・8・9・12~14・17~19・21~23、6H10・13~15・19・20、6I1・2・6・7・11	古代	IV層	C		2.41	0.80	2.32	弧状	レンズ状	SE120・155、SK652、SD121・164・182・237・279・388に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、中世土師器、土製品、石器・石製品	131~145・224	上層に中世の覆土あり。	
20・21・35・36	21次	8区	SD 161	5G-6I14・19・24・25、5G-7I5・10	古代	IV層	C		0.39	0.21	3.04	弧状	ブロック状	P173・2984を切る。SK144・168・210・270、SD121、P145・167・232・303・304に切られる。	×			SB4001の雨落ち溝。	
5・10・35・45	21次	8区	SD 164	5G-5H25、5I8・9・14~16・19~21・23・24、6H4・5・9・10・15、6I2・3・6・7・11・12	中世	IV層	A		1.10	0.43	2.98	弧状	レンズ状	SE1871、SK223・652、SD151を切る。SE119、SX291に切られる。	○	土師器、須恵器、珠洲焼	146・147		
9	21次	8区	SD 172	5G-5H23・24、6H3・4	中世	IV層	B		0.62	0.08	3.10	弧状	単層		○	土師器、須恵器			
9	21次	8区	SD 182	5G-5I13・18	中世	IV層	A	1.19	0.40	0.24	2.86	台形状	レンズ状	SD151を切る。	○	土師器			
12	21次	8区	SD 207	5G-6I13	古代	IV層	C	1.47	0.30	0.09	3.15	弧状	単層		×				
13・20	21次	8区	SD 209	5G-7I7・8・13・14	中世	IV層	A	4.66	0.26	0.06	3.14	弧状	レンズ状	SD121を切る。	○	土師器			
9	21次	8区	SD 211	5G-4I12~15	中世	IV層	A		1.00	0.12	3.05	弧状	単層	SX649を切る。SX621、SD1478に切られる。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物			
12・13	21次	8区	SD 220	5G-7H9・10、7I6・7	中世	IV層	A		0.27	0.13	3.02	弧状	レンズ状	SD221・433を切る。SD121に切られる。	×				
13・20・21・47	21次	8区	SD 221	5G-7H5、5G-7I6・11・12・17	古代	IV層	C		0.36	0.34	2.86	U字状	レンズ状	SX771、SD1972、P677を切る。SD121・220・366・431・434に切られる。	×			SB4001の雨落ち溝。	
12	21次	8区	SD 230	5G-6I19・24	中世	IV層	A	1.84	0.29	0.09	3.16	弧状	レンズ状	SK189に切られる。	×				
9	21次	8区	SD 237	5G-5I23	中世	IV層	B		0.27	0.15	2.92	半円状	単層	SD151を切る。SE120に切られる。	○	土師器、須恵器			
10	21次	8区	SD 279	5G-5I21・22	中世	IV層	B		0.17	0.06	3.05	弧状	単層	SD151を切る。	×				
23	21次	8区	SD 280	5G-5H15、5I11	中世	IV層	A	0.81	0.47	0.10	3.16	楕円形	レンズ状	SX289を切る。P273に切られる。	○	須恵器			
13	21次	8区	SD 314	5G-6H23・24、7H3~5	中世	IV層	A		(0.97)	0.18	2.99	弧状	レンズ状	SD121に切られる。	○	土師器、須恵器			
10	21次	8区	SD 340	5G-6I9・14	中世	IV層	B	(0.96)	(0.26)	0.13	2.95	弧状	単層	SD121に切られる。	×				
12・51	21次	8区	SD 366	5G-7I6・7・11、7H15・20・24・25、8H4	中世	IV層	A		0.39	0.08	3.14	U字状	レンズ状	SX771・2191、SD221・2205を切る。	○	土師器、須恵器、白磁			
10	21次	8区	SD 388	5G-5I12・13・17・18	中世	IV層	A		2.03	0.08	2.99	弧状	レンズ状	SD151を切る。SD182に切られる。	○	土師器、須恵器			
10	21次	8区	SD 397	5G-5H20、5I16	古代	IV層	C		0.50	0.07	3.14	弧状	水平		○	土師器、須恵器			
12	21次	8区	SD 414	5G-6I24、7I4	古代	IV層	C		0.24	0.08	3.06	弧状	レンズ状	SD799を切る。P412・531に切られる。	×				
12・20・21	21次	8区	SD 415	5G-7I12・17	中世	IV層	A		0.53	0.11	3.10	弧状	レンズ状	P554を切る。	○	土師器			
12	21次	8区	SD 420	5G-6I22	中世	IV層	A	0.62	0.21	0.12	3.05	半円状	単層		×				
21	21次	8区	SD 422	5G-6H25、5G-6I16~18・21・22	古代	IV層	C	(5.24)	0.38	0.16	3.04	弧状	レンズ状	SD121・143・444、P526・527に切られる。	×			SB4001の雨落ち溝。	
13	21次	8区	SD 426	5G-7H10	古代	IV層		0.63	0.15	0.04	3.08	弧状			×				
13	21次	8区	SD 427	5G-7H10	古代	IV層		0.65	0.15	0.04	3.07	弧状			×				
13	21次	8区	SD 429	5G-7H9・10	古代	IV層		0.59	0.08	0.02	3.09	弧状			×				
13	21次	8区	SD 430	5G-7H9・10	古代	IV層		0.62	0.11	0.05	3.07	弧状			×				
13	21次	8区	SD 431	5G-7H10、7I6	中世	IV層				0.09	3.06	弧状		SD121・221に切られる。	×				
13	21次	8区	SD 432	5G-7I7	古代	IV層		(0.51)	(0.15)	0.04	3.11	弧状		SD121に切られる。	×				
13	21次	8区	SD 433	5G-7H10	中世	IV層	B		0.27	0.07	3.07	弧状		SD220に切られる。	×				
12	21次	8区	SD 434	5G-7I6	古代	IV層		0.49	0.12	0.08	3.11	弧状		SD221を切る。	×				
12	21次	8区	SD 435	5G-7I6	古代	IV層		(0.41)	0.11	0.06	3.14	弧状			○	土師器			
13	21次	8区	SD 436	5G-7I6	古代	IV層		0.89	0.22	0.05	3.13	弧状		SX771を切る。	×				
13	21次	8区	SD 437	5G-7I6	中世	IV層		0.44	0.19	0.07	3.14	弧状		SX771を切る。	×				
13・20	21次	8区	SD 438	5G-7I2・6・7	古代	IV層	C		0.12	0.04	3.10	弧状		SD121に切られる。	×				
13・20	21次	8区	SD 439	5G-7I6・7	中世	IV層	B		0.19	0.04	3.10	弧状		SD121に切られる。	×				
13	21次	8区	SD 440	5G-7I3・4	古代	IV層	C	1.05		0.13	3.12	弧状	単層	SD121に切られる。	×				
12	21次	8区	SD 441	5G-7I6・7	古代	IV層		0.59	0.11	0.04	3.13	弧状			×				
12	21次	8区	SD 443	5G-7I6・7	古代	IV層		0.30	0.12	0.05	3.11	弧状			×				
13	21次	8区	SD 444	5G-6I17・22	中世	IV層	A		0.23	0.08	3.11	弧状	レンズ状	SD422を切る。	×				
10	21次	8区	SD 458	5G-5H3・4・8・9	古代	IV層	C		0.47	0.13	3.21	弧状	単層	SK467を切る。	×				
10	21次	8区	SD 459	5G-5H3・8・9・14	古代	IV層	C		0.66	0.12	3.10	弧状	単層	SK467を切る。	×				
10	21次	8区	SD 470	5G-4H18・23	古代	IV層	C		0.28	0.09	3.18	弧状	レンズ状		○	土師器			
10	21次	8区	SD 487	5G-4H23・24	古代	IV層	C	1.09	0.26	0.11	3.17	弧状	単層		○	土師器			
13	21次	8区	SD 528	5G-7I25	中世	IV層	B	0.89	0.25	0.05	3.12	弧状	レンズ状		×				
13	21次	8区	SD 529	5G-7I25	古代	IV層	C		0.24	0.07	3.09	弧状	単層	P530に切られる。	×				
13	21次	8区	SD 546	5G-6H24	古代	IV層	C	1.08	0.17	0.07	2.95	半円状	単層		×				
13	21次	8区	SD 547	5G-6H25	古代	IV層	C	0.99	0.10	0.04	2.98	半円状	単層		×				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	短軸	深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
13	21次	8区	SD 548	5G-6H24・25	古代	IV層	C	0.79	0.17	0.07	2.98		半円状	単層		×				
10	21次	8区	SD 593	5G-5H18・19	古代	IV層	C		0.44	0.17	3.05		弧状	単層	SK242、SD118に切られる。	×				
10	21次	8区	SD 657	5G-4I7・8	古代	IV層	C			0.08	3.08		弧状	単層	SD1023・1478に切られる。	○	須恵器			
37	21次	8区	SD 671	5G-6H8	中世	IV層	A		0.27	0.16	3.04		弧状	単層		×				
13	21次	8区	SD 712	5G-7H10	古代	IV層	C		0.16	0.11	3.01		半円状	単層		×				
13	21次	8区	SD 713	5G-7H10	古代	IV層	C		0.18	0.13	3.01		U字状	単層		×				
14・21・28・47	21次	8区	SD 774	5G-8I12~14・19・20~22・24・25・9I2・4・5・7・9・10	中世	IV層	A		0.73	0.17	2.95		弧状	レンズ状	SE845、SK833、SX784、SD2175を切る。SE783に切られる。	○	土師器、木製品			
14	21次	8区	SD 778	5G-8I19・20	中世	IV層	A		0.49	0.29	2.92		U字状	レンズ状	SD774・838を切る。	○	土師器、須恵器			
14	21次	8区	SD 790	5G-7H10・15	古代	IV層	C	0.91	0.18	0.16	2.98		U字状	レンズ状		×				
13・14・20	21次	8区	SD 798	5G-7I5・10	古代	IV層	C		0.21	0.09	3.14		弧状	単層	SK168、SD799・800、P535に切られる。	×				
13・14・20	21次	8区	SD 799	5G-7I4・5・10	古代	IV層	C	3.42	0.24	0.12	3.10		弧状	単層	SD798・801・802を切る。SD414に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 800	5G-7I4・5・10	古代	IV層	C		0.26	0.13	3.10		弧状	レンズ状	SD798を切る。SK166、SD801・802に切られる。	×				
14・20	21次	8区	SD 801	5G-7I4・9・10	古代	IV層	C		0.25	0.17	3.13		弧状	単層	SD800を切る。SK166・276、SD799、P531・535に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 802	5G-7I5・10	古代	IV層	C		0.22	0.06	3.19		弧状	単層	SD800を切る。SD799、P535に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 803	5G-7I5	古代	IV層	C		0.23	0.10	3.13		半円状	レンズ状	SK166に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 808	5G-7I14・19	古代	IV層	C	0.54	0.13	0.06	3.07		弧状	単層		×				
14	21次	8区	SD 835	5G-7I23、8I3	中世	IV層	A	0.80	0.31	0.27	2.85		U字状	レンズ状		×				
14	21次	8区	SD 838	5G-8I18・19・23・24	中世	IV層	A	(1.97)	0.57	0.16	2.95		弧状	レンズ状	SD853を切る。SD778に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 853	5G-8I23・24、9I4	中世	IV層	B		0.82	0.06	3.02		弧状	単層	SK864を切る。SD838に切られる。	×				
10・35	21次	8区	SD 898	5G-5H10・15、5I6・11	中世	IV層	A	1.35	0.45	0.08	3.20		弧状	単層		○	土師器			
14・43	21次	8区	SD 915	5G-8H25、8I21、9I1・2・6・7	中世	IV層	A		0.43	0.14	2.95		弧状	レンズ状	SK2005を切る。SD1013に切られる。	○	土師器			
16	21次	8区	SD 924	5G-10I3・4・8・9	古代	IV層	B		0.46	0.09	3.02		弧状	単層	SX923に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 928	5G-9J11	中世	IV層	A		0.55	0.31	3.05		弧状	レンズ状	SK858に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 934	5G-9I6・11	中世	IV層	A		0.25	0.13	3.00		弧状	レンズ状	SD913・1013に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 946	5G-7H15	古代	IV層	C	0.86	0.24	0.09	3.07		弧状	レンズ状	SD2196に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 980	5G-9I25、9J21	中世	IV層	B	2.87	0.32	0.10	3.06		弧状	レンズ状		○	土師器			
14	21次	8区	SD 985	5G-9I24	中世	IV層	A	0.84	0.25	0.13	2.95		弧状	斜位		×				
16	21次	8区	SD 1010	5G-9I22・23	中世	IV層	A		0.19	0.09	3.05		弧状	レンズ状		×				
14・39	21次	8区	SD 1013	5G-9I11・12・16	中世	IV層	A		0.35	0.47	2.62		U字状	レンズ状	SD915・934を切る。SK1052に切られる。	○	縄文土器、土師器、珠洲焼			
10	21次	8区	SD 1023	5G-4H15・20、4I2・3・6・7・8・11・12	中世	IV層	A		1.80	0.23	2.90	不整形	弧状	レンズ状	SK224・648、SD211・657・1043・1788・1890・3006を切る。SD1160・1478に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	148・149		
16	21次	8区	SD 1029	5G-10I9・10	中世	IV層	A	1.68	0.26	0.13	2.95		弧状	レンズ状		×				
16	21次	8区	SD 1031	5G-10I10・15、10J6・11	中世	IV層	A		0.33	0.13	2.96		弧状	レンズ状		○	須恵器			
16	21次	8区	SD 1034	5G-10I14・15	中世	IV層	A	1.57	0.27	0.08	3.00		弧状	レンズ状		○	土師器			
	21次	8区	SD 1043	5G-4I11・12・13・18・19	中世	IV層	A		0.30	0.10	3.07		弧状	レンズ状	SK648、SX225、SD211・3006を切る。SD1023に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器			
8	21次	8区	SD 1078	4G-10H8・9	古代	IV層	C		0.33	0.80	3.26		台形状	単層		×				
8	21次	8区	SD 1084	4G-10H1・6~8	中世	IV層	A		0.57	0.13	3.23		台形状	単層	SD1092・1196・1567を切る。SE1080に切られる。	○	土師器、須恵器、白磁			
8	21次	8区	SD 1092	4G-10H2・7・8・13	古代	IV層	C		0.89	0.28	3.08		U字状	レンズ状	SD1567・1953を切る。SE1068、SD1084に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	150・151		
10	21次	8区	SD 1109	5G-3H8・9	中世	IV層	B	0.73	0.40	0.36	2.94	精円形	U字状	レンズ状		○	土師器、黒色土器			
10	21次	8区	SD 1118	5G-3H13	古代	IV層	C		0.25	0.08	3.26		弧状	単層		×				
7・10	21次	8区	SD 1119	5G-3H12・13	中世	IV層	B		0.59	0.25	3.13		半円状	斜位		○	土師器			
10	21次	8区	SD 1121	5G-3H8・13・14・18・19	古代	IV層	C	2.67	0.43	0.11	3.23		台形状	レンズ状		○	土師器			
10	21次	8区	SD 1126	5G-3H10・15・20、3I11・16・21・22	中世	IV層	A		0.40	0.12	3.18		弧状	レンズ状	SK1230、SX1101、SD1535・2980を切る。	○	土師器、青磁			
10・40	21次	8区	SD 1160	5G-3H5・10、3I6・11・16・17・21・22、4I2・3・8・9・10・14・15	中世	IV層	A		0.81	0.17	3.08		弧状	レンズ状	SK1161、SD110・211・1023・1725・2980を切る。SK1103、SD1422に切られる。	○	土師器、須恵器、瀬戸・美濃焼			
41	21次	8区	SD 1178	5G-2I6・7・11・12・16・17	中世	IV層	B		2.02	0.69	2.31		弧状	レンズ状	SE1586、SD1380を切る。SK1483に切られる。	○	土師器、須恵器、青磁、鍛冶関連遺物			
8	21次	8区	SD 1193	4G-10H17	古代	IV層	C		0.36	0.11	3.22		弧状	レンズ状		×				
48	21次	8区	SD 1196	4G-10H1・2・7・12・17・18・23、5G-1H3	古代	IV層	C		0.73	0.29	3.03		弧状	レンズ状	SX1089、SD1953を切る。SE1068・1080、SK1071、SD1084・1305に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	152・153		
8	21次	8区	SD 1200	4G-10H13・18・19	古代	IV層	C		0.31	0.10	3.23		弧状	レンズ状	SE1068に切られる。	○	土師器、須恵器			
11	21次	8区	SD 1222	5G-3I16・21	中世	IV層	B	0.89	0.23	0.06	3.13		弧状	レンズ状		×				
11	21次	8区	SD 1224	5G-3I21	中世	IV層	B	0.49	0.12	0.03	3.27		弧状	単層		×				
11	21次	8区	SD 1240	5G-3I21	中世	IV層	B	0.54	0.13	0.04	3.14		弧状	単層		×				
11	21次	8区	SD 1241	5G-3I21・22	中世	IV層	B		0.24	0.07	3.18		弧状	単層	SK1230に切られる。	×				
32・40	21次	8区	SD 1305	4G-10H23~25、5G-1H4・5	中世	IV層	A	5.10	0.86	0.27	3.08		半円状	単層	SE1431を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器	154		

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考	
								上端	短軸	深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類			
																					長軸
42	21次	8区	SD 1307	4G-10H11・12・16・17・21・22	中世	IV層	A			0.66	2.73			レンズ状	SD1609を切る。SX1306を切る。	○	縄文土器、土師器、須恵器、中世土師器、鍛冶関連遺物	155			
11	21次	8区	SD 1326	5G-11I11・16・17・21・22	中世	IV層	B			1.22	0.80	3.22		弧状	単層	SK1837、P1867を切る。	○	土師器、須恵器			
8・40	21次	8区	SD 1380	5G-2H9・10、216	中世	IV層	A			1.34	0.16	3.20		弧状	レンズ状	SK1501を切る。SK1353・1483・1500、SD1178に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、瀬戸・美濃焼	156・157		
11	21次	8区	SD 1405	5G-3H23・24	中世	IV層	A	1.57	0.35	0.11	3.12			弧状	レンズ状		○	土師器			
11・51	21次	8区	SD 1420	5G-4H8・9・10	中世	IV層	A			0.83	0.22	2.86		漏斗状	レンズ状	SD1422に切られる。SX1893を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、白磁			
10・31	21次	8区	SD 1422	5G-3I24、4H3~5・8・9、4I1~4	中世	IV層	A			0.86	0.19	3.02		弧状	レンズ状	SE1211、SK1735、SD1160・1420・1478・1725・1724を切る。SE1421に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、土製品			
11	21次	8区	SD 1478	5G-4I2・7・8・13・14・19	中世	IV層	A			0.45	0.12	3.07		弧状	レンズ状	SX225・621、SD211・657・1023を切る。SD1422に切られる。	○	土師器、須恵器			
8	21次	8区	SD 1485	4G-9H23、10H3	古代	IV層	C	0.83	0.27	0.10	3.27			半円状	単層		○	土師器			
8	21次	8区	SD 1511	4G-10H6	中世	IV層	A			0.35	0.04	3.34		弧状	単層	SE1080に切られる。	×				
11	21次	8区	SD 1517	5G-3H18・19	中世	IV層	B			0.33	0.11	3.06		弧状	レンズ状		○	土師器、黒色土器			
11	21次	8区	SD 1518	5G-3H18・19	中世	IV層	B			0.27	0.07	3.13		弧状	単層		○	土師器			
11	21次	8区	SD 1519	5G-3H19	中世	IV層	B	1.04	0.25	0.05	3.07			弧状	単層		○	土師器			
11	21次	8区	SD 1522	5G-3H18・19・20	中世	IV層	B			0.44	0.08	3.12		弧状	単層	SK1498に切られる。	○	土師器			
10・50	21次	8区	SD 1535	5G-3H10・15・20、316	中世	IV層	A	5.68	(1.71)	0.14	3.12			弧状	レンズ状	SX1622・SD2980を切る。SX1110、SD1126に切られる。	○	土師器、須恵器			
8	21次	8区	SD 1567	4G-10H2・3・7・8	古代	IV層	C			0.30	0.09	3.26		台形状	単層	SD1084・1092に切られる。	×				
11	21次	8区	SD 1591	5G-3I14・19・20	中世	IV層	A			0.51	0.24	3.16		弧状	レンズ状	SE1590に切られる。	○	土師器、須恵器			
8	21次	8区	SD 1609	4G-10H12・17	古代	IV層	C			0.36	0.14	3.21		半円状	単層	SE1608・SD1307に切られる。	×				
8	21次	8区	SD 1688	5G-1H14	古代	IV層	C			0.61	0.16	3.14		弧状	単層	SD1771を切る。	○	土師器、黒色土器			
11	21次	8区	SD 1718	5G-3I12・17	古代	IV層	C			0.31	0.10	3.21		弧状	単層		×				
11・43	21次	8区	SD 1724	5G-3I23	古代	IV層	C			0.25	0.11	3.13		半円状	レンズ状	SK1735を切る。SE1140、SD1422に切られる。	○	土師器			
11	21次	8区	SD 1725	5G-3I22・23、4I3	中世	IV層	A				0.08	3.19		弧状	レンズ状	SD113を切る。SD1160・1422に切られる。	×				
11	21次	8区	SD 1732	5G-4I1	古代	IV層	C	1.46	0.22	0.06	3.16			弧状	単層		×				
	21次	8区	SD 1741	5G-4I1	古代	IV層	C			0.13	0.07	3.15		半円状	単層		×				
	21次	8区	SD 1742	5G-4I1	中世	IV層	A			0.18	0.05	3.17		弧状	斜位	SD1422に切られる。	○	土師器			
8	21次	8区	SD 1750	5G-1H4・9	古代	IV層	C			0.32	0.06	3.28		弧状	単層	SX1306に切られる。	○	土師器			
5	21次	8区	SD 1765	4G-9H21	古代	IV層	C			0.73	0.32	3.08		弧状	単層	SX1506を切る。	○	土師器、須恵器			
23・24・43	21次	8区	SD 1771	5G-1H14・15・19・20・25、5G-1I22、5G-2H5、5G-2I1・2	古代	IV層	C			0.28	0.16	3.11		弧状	水平	SD1902・1911・1946、P1927を切る。SX1306・1873、SD1688、P1337・1338・1350・1387・1434・1442・1552・1649・1650に切られる。	○	土師器、須恵器	3	SB4005の雨落ち溝。	
11	21次	8区	SD 1788	5G-4I7	中世	IV層	B			0.18	0.12	3.08		弧状	単層	SD1023に切られる。	×				
11	21次	8区	SD 1796	5G-3I16・17	古代	IV層	C			0.26	0.09	3.20		弧状	レンズ状		×				
11	21次	8区	SD 1817	5G-4H4	古代	IV層	C	1.04	0.49	0.07	3.03			楕円形	単層		○	土師器、須恵器	158		
11	21次	8区	SD 1818	5G-4H4・5	古代	IV層	C	1.32	0.43	0.07	2.99			弧状	レンズ状	SD1422に切られる。	○	土師器、須恵器			
8	21次	8区	SD 1834	5G-1I6	古代	IV層	C	0.50	0.15	0.09	3.16			弧状	斜位		×				
10	21次	8区	SD 1890	5G-4H13・14・15・18・19・20、4I16	中世	IV層	B			1.35	0.14	3.06		弧状	レンズ状	SE201を切る。SD1023に切られる。	○	土師器、須恵器			
8	21次	8区	SD 1897	5G-1H25	古代	IV層	C			0.13	0.05	3.19		台形状	単層		×				
8	21次	8区	SD 1898	5G-1H18・19	中世	IV層	A	0.50	0.12	0.06	3.14			半円状	単層		×				
43	21次	8区	SD 1902	5G-1H14・15・19・20	古代	IV層	C			0.55	0.14	3.12		階段状	単層	SD1771に切られる。	×				
8	21次	8区	SD 1907	5G-1H14・19	古代	IV層	C	1.34	0.21	0.14	3.14			弧状	水平		×				
8	21次	8区	SD 1930	4G-10H8・9・13・14	古代	IV層	C			0.31	0.19	2.91		台形状	レンズ状	SD1953を切る。SK1072、SX1588に切られる。	×				
8	21次	8区	SD 1946	5G-2I1・2	古代	IV層	C			0.32	0.05	3.20		弧状	単層	SD1948を切る。SX1929、SD1771に切られる。	○	土師器			
8	21次	8区	SD 1948	5G-2I2・7	古代	IV層	C			0.28	0.11	3.14		弧状	レンズ状	SK1483、SD1946に切られる。	×				
23・24	21次	8区	SD 1951	4G-10H24・25、4G-10I16・21	古代	IV層	C			0.30	0.05	3.18		弧状	単層	P1954を切る。SE1431、SD1305、P1265・1266・1608に切られる。	×			SB4005の雨落ち溝。	
8	21次	8区	SD 1953	4G-10H7~9・12・13	古代	IV層	C			0.68	0.20	3.10		弧状	レンズ状	SK1071・1072、SD1092・1196・1930に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 1972	5G-7I17	古代	IV層	C			0.32	0.20	3.00		U字状	単層	SD221に切られる。	×				
16	21次	8区	SD 2029	5G-10I4・9	中世	IV層	A	0.64	0.23	0.10	2.97			楕円形	弧状	レンズ状		×			
14	21次	8区	SD 2104	5G-8I17・22	古代	IV層	C			0.43	0.14	2.94		弧状	単層		○	土師器			
14	21次	8区	SD 2172	5G-8I4・5	古代	IV層	C	0.90	0.35	0.06	3.08			弧状	単層	P2075に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 2175	5G-8I22、9I2・3・7・8	中世	IV層	B			1.27	0.11	2.94		弧状	単層	SK2006、SD774に切られる。	○	土師器			
14・24	21次	8区	SD 2190	5G-8I8・13	古代	IV層	C			0.22	0.10	3.02		弧状	単層		×				
43	21次	8区	SD 2196	5G-7H14・15・19	古代	IV層	C			0.26	0.07	3.07		弧状	単層	SK2197、SD946に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 2198	5G-8H20	古代	IV層	C			0.45	0.19	2.97		U字状	レンズ状	SD2270を切る。SE783に切られる。	×				
14	21次	8区	SD 2205	5G-7I11・16	古代	IV層	C			0.38	0.18	3.01		U字状	レンズ状	SD366に切られる。	×				
14・21	21次	8区	SD 2206	5G-8I12・13	古代	IV層	C			0.42	0.14	3.02		弧状	単層	SD774に切られる。	×				
14・21・24	21次	8区	SD 2252	5G-8I9・14	古代	IV層	C	1.45	0.24	0.07	3.06			弧状	単層		×				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物の種類	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面						
								長軸	短軸										
14	21次	8区	SD 2269	5G-8J16・17	古代	IV層	C	0.91	0.15	0.07	3.04		U字状	単層		×			
14	21次	8区	SD 2270	5G-8H20・25	古代	IV層	C		0.45	0.10	3.04		弧状	レンズ状	SD2198に切られる。	×			
14	21次	8区	SD 2275	5G-7H25、8H5・10、8I6	古代	IV層	C		0.38	0.12	2.97		弧状	単層	SE951、SD2191に切られる。	○	土師器		
6	21次	8区	SD 2291	6G-1J11~14	中世	IV層	A		0.48	0.47	2.83		U字状	レンズ状	SK2611、SD2610を切る。	○	土師器、須恵器、珠洲焼	159~161	
16	21次	8区	SD 2318	6G-1J2	中世	IV層	A	0.68	0.31	0.20	2.90	楕円形	U字状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2325	6G-1J15・20	中世	IV層	B		0.27	0.19	2.90		弧状	レンズ状	SD2364に切られる。	×			
44	21次	8区	SD 2343	6G-1J17・18	中世	IV層	A		0.25	0.04	3.09		弧状	単層	SK2344を切る。	×			
16	21次	8区	SD 2364	6G-1J19・20	中世	IV層	A	2.50	0.28	0.17	2.91		U字状	レンズ状	SD2325・2365を切る。	×			
16	21次	8区	SD 2365	6G-1J18・19	中世	IV層	A		0.23	0.10	3.03		弧状	水平	SD2364に切られる。	×			
16	21次	8区	SD 2366	6H-2A1	中世	IV層	A	1.29	0.23	0.14	3.05		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2368	6G-1J8	中世	IV層	A	(0.55)	0.27	0.17	2.97	楕円形	弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2370	6H-2A2・7	中世	IV層	A	0.80	0.36	0.23	2.96		U字状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2377	6H-2A12・17	古代	IV層	C	1.33	0.28	0.13	3.09		半円状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2453	5G-10I13	中世	IV層	A		0.25	0.14	3.02		弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器		
17	21次	8区	SD 2501	6H-3B19・20・24・25、4B5	古代	IV層	C	3.61	0.43	0.08	3.14		弧状	単層		○	土師器		
16	21次	8区	SD 2585	6G-1J13	古代	IV層	C	0.21	0.07	0.04	3.08		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2586	6G-1J13・18	古代	IV層	C	0.30	0.12	0.06	3.06		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2587	6G-1J18	古代	IV層	C	0.16	0.08	0.04	3.08		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2588	6G-1J12	古代	IV層	C	0.17	0.07	0.06	2.76		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2589	6G-1J12・17	古代	IV層	C	0.49	0.10	0.06	3.06		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2590	6G-1J12・17	古代	IV層	C	0.51	0.08	0.05	3.08		弧状	レンズ状		×			
16	21次	8区	SD 2610	6G-1J14	中世	IV層	B		0.19	0.08	3.04		弧状	レンズ状	SD2291に切られる。	×			
17	21次	8区	SD 2869	6H-3B11・16	古代	IV層	C	1.00	0.07	0.03	3.20		弧状	レンズ状		×			
11	21次	8区	SD 2980	5G-3H20、3I11・16	古代	IV層	C		0.30	0.17	3.12		弧状	単層	SX1622、SD1126・1160・1535に切られる。	○	土師器		
11	21次	8区	SD 3006	5G-4I11・12・13	古代	IV層	C		(0.48)	0.10	2.90		弧状	水平	SD1023・1043に切られる。	○	土師器、須恵器		

9区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物の種類	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面						
								長軸	短軸										
55・66・70・109	19次	9区	SD 10	7H-4E22~25、5E4・5、5F1~3・8・9	中世	IV層	A		0.53	0.09	2.98		弧状	レンズ状	SD30・136を切る。SD201・301に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物		
70・109	19次	9区	SD 15	7H-5E11~16、5F11~15	中世	IV層	B		0.54	0.08	3.00		弧状	レンズ状	SD46・87・1241・1242・1258・1263・1287・3944を切る。SE17、SK22に切られる。	○	土師器、須恵器		
	19次	9区	SD 18	7H-6G13・14	中世	IV層	B		0.66				弧状	単層	SD19と切り合いなし。	×			
70	19次	9区	SD 19	7H-6G8・9・13	中世	IV層	B		0.55	0.03	3.08		弧状	単層	SD18と切り合いなし。	○	土師器		
70	19次	9区	SD 30	7H-4F21、5F1	中世	IV層	A		0.42	0.06	3.02		弧状	レンズ状	SX29を切る。SD10に切られる。	○	土師器、須恵器		
70	19次	9区	SD 46	7H-5F7・8・12	古代	IV層	C		0.22	0.03	3.04		弧状	単層	SD1232を切る。SE17、SK22に切られる。	×			
66	19次	9区	SD 74	7H-4D2・3	中世	IV層	A		0.21	0.02	3.04		弧状	単層		○	土師器		
92	19次	9区	SD 75	7H-3D21~23、4C5・10、4D1・2・6	中世	IV層	A		1.52	0.32	2.75		弧状	レンズ状	SE208・SD190・1268・1276を切る。	○	土師器、須恵器		
	19次	9区	SD 87	7H-5E4・5・9・10・15	古代	IV層	C		0.41	0.04	3.06		弧状	単層	SD1232を切る。SD15・1244・1265に切られる。	×			
66	19次	9区	SD 98	7H-4C14・15・19・20・24・25、5C4・5・9・10	中世	IV層	A		0.97	0.17	2.83		弧状	レンズ状	SD237・239・1209を切る。SD210と切り合いなし。	○	土師器、須恵器	区画1。	
70	19次	9区	SD 105	7H-5G22、6G1・2・6・7・11・12・16・17・21、7G1・6・11	中世	IV層	A		1.07	0.14	2.82		弧状	レンズ状	SD503・1207・1283・3936を切る。	○	土師器	区画7。	
	19次	9区	SD 130	7H-4F21	中世	IV層	A		0.18	0.18	2.93		弧状	レンズ状	SX29に切られる。	×			
	19次	9区	SD 131	7H-4E25、4F21	中世	IV層	B		0.24	0.12	3.02		弧状	レンズ状		×			
66・109	19次	9区	SD 136	7H-4E22~24、5E3~5、5F1	中世	IV層	A		0.75	0.10	2.98		弧状	レンズ状	SK202、SX1264を切る。SD10・301に切られる。	○	須恵器		
66	19次	9区	SD 166	7H-4D16・21、5D1	中世	IV層	A		0.27	0.09	2.96		半円状	レンズ状	SD1297を切る。SD190に切られる。	○	土師器		
66	19次	9区	SD 170	7H-4E11・12・17・18	中世	IV層	B	4.83	0.26	0.04	3.02		弧状	単層	SD188・301に切られる。	×			
66	19次	9区	SD 186	7H-4D14・15、4E6・11	中世	IV層	B		0.55	0.06	2.98		弧状	レンズ状	SD190を切る。SD191と切り合いなし。SD188に切られる。	○	土師器、須恵器		
	19次	9区	SD 188	7H-4D14・15、4E11・12・16・17	中世	IV層	A		1.28	0.17	2.88		弧状	レンズ状	SD186を切る。SD301・332と切り合いなし。SD170に切られる。	○	土師器、須恵器	区画2。	
66	19次	9区	SD 190	7H-4C9・10、4D6~10、4E6	中世	IV層	A		0.42	0.15	2.92		弧状	レンズ状	SD191・195・1268・1286を切る。SD75・186に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		
66	19次	9区	SD 191	7H-4D8~10、13~15	中世	IV層	B		0.40	0.06	2.98		弧状	レンズ状	SD196を切る。SD186と切り合いなし。SD190に切られる。	○	土師器		
66	19次	9区	SD 195	7H-3D23、4D3・7・8	中世	IV層	A		0.93	0.16	2.92		弧状	レンズ状	SD190に切られる。	○	土師器		
66	19次	9区	SD 196	7H-4D7・8・12・13	古代	IV層	C		0.23	0.03	3.00		弧状	単層	SD191に切られる。	×			
66・109	19次	9区	SD 201	7H-4E17・18・22~25、5E5	中世	IV層	A		0.92	0.06	3.00		弧状	レンズ状	SK187、SD10を切る。SX134、SD301に切られる。	×			
109	19次	9区	SD 209	7H-4C15・20・25、5C5、5D1	中世	IV層	A		0.40	0.08	2.96		弧状	レンズ状	SD210・P115を切る。SK158に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
66・121	19次	9区	SD 210	7H-4C9・10・14・15、4D11～13・16～18	中世	IV層	A		1.65	0.14	2.92		弧状	レンズ状	SK326・327、SX248・345、SD166・333・334・1261・3908を切る。SD98と切り合いなし。SD209に切られる。	○	土師器、黒色土器		区画1。	
66	19次	9区	SD 237	7H-4C14・18・19・23・24、5C4・9・10	中世	IV層	B		0.68	0.10	2.78		弧状	レンズ状	SX1201、SD240・1199・1200を切る。SD238・239と切り合いなし。	○	土師器、須恵器			
66	19次	9区	SD 238	7H-5C9・13・14	中世	IV層	A		1.08	0.32	2.64		弧状	レンズ状	SX1204、SD241・521・1240を切る。SD237・239と切り合いなし。	○	土師器、黒色土器			
66・110・120・122	19次	9区	SD 239	7H-5C10・15、5D6・7・11～15・20、5E16～20、5F11～20、5G16～19・23・24	中世	IV層	A		1.12	0.20	2.92		弧状	レンズ状	SK450、SX418、SD46・346・356・417・421・427・1202・1213・1233・1241・1242・1261・1263・1267・1285・1287・1295・3944を切る。SD237・238・338・420・423・545と切り合いなし。SX2・172、SD98に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画1。	
66	19次	9区	SD 240	7H-4C14・19・24、5C4・9	中世	IV層	B		0.40	0.05	2.85		弧状	水平	SD1209を切る。SD237に切られる。	○	土師器、須恵器			
66	19次	9区	SD 241	7H-5C6・7・8・13	中世	IV層	A		0.88	0.15	2.84		弧状	単層	SD238を切る。	○	土師器			
66	19次	9区	SD 263	7H-5D3・8	中世	IV層	A	1.15	0.28	0.06	3.00		弧状	単層		○	土師器			
55・70	19次	9区	SD 275	7H-8E5・10・15・20・25、9E5・10	中世	IV層	B		0.30	0.06	2.88		弧状	レンズ状	SD3955・3956を切る。SD461に切られる。	×				
70	19次	9区	SD 285	7H-7E4・5・9・10・14・15・19・20・24・25、8E4・5・9・10	中世	IV層	A		0.52	0.08	2.84		弧状	レンズ状	SD509・802・861・1167・1173を切る。SD532、P621に切られる。	○	土師器、須恵器			
	19次	9区	SD 287	7H-4D20、4E16・17	中世	IV層	B		0.38				弧状	単層	SE304、SX409に切られる。	○	土師器、須恵器			
70	19次	9区	SD 297	7H-8E3・8	中世	IV層	A		0.22	0.06	2.86		弧状	レンズ状	SD532・670に切られる。	×				
58・66	19次	9区	SD 301	7H-4E17・21・22、5E1・2・6・7・11	中世	IV層	A		0.85	0.10	2.88		弧状	単層	SX1264、SD10・136・201・1258を切る。SD188と切り合いなし。SK407、SD302に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物		区画2。	
58	19次	9区	SD 302	7H-4E16・17・21・22、5D15、5E1・6・11	中世	IV層	B		0.90	0.17	2.80		弧状	ブロック状	SD301・1293を切る。SD339と切り合いなし。SE304、SX337に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物		区画2。	
66	19次	9区	SD 312	7H-7D12・13・18・23、8D3・8・13	古代	IV層	C		0.64	0.09	2.76		弧状	単層	SD768・912・3942を切る。SD885と切り合いなし。SD712に切られる。	×			小溝状遺構群。	
67	19次	9区	SD 317	7H-4D6・11	古代	IV層	C	0.67	0.16	0.03	2.99		楕円形	弧状	単層		×			
58	19次	9区	SD 332	7H-4D13・14・18・19・23・24、5D4・9	中世	IV層	B		0.60	0.14	2.85		弧状	レンズ状	SX345、SD333・334を切る。SD188・339と切り合いなし。SX1・409に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画1・2。	
67	19次	9区	SD 333	7H-4D18	中世	IV層	A		0.37	0.02	2.93		弧状	単層	SX345、SD334を切る。SD210・332に切られる。	○	土師器			
67・121	19次	9区	SD 334	7H-4D18	中世	IV層	A		0.20	0.02	2.94		弧状	単層	SX345を切る。SX248、SD210・332・333に切られる。	×				
	19次	9区	SD 338	7H-5D15	中世	IV層	A		0.29	0.13	2.93		弧状	単層	SD239と切り合いなし。	○	土師器			
121	19次	9区	SD 339	7H-5D9・10	中世	IV層	B		0.50	0.11	2.87		弧状	単層	SD332と切り合いなし。SX1・337に切られる。	○	土師器		区画2。	
67	19次	9区	SD 346	7H-5D15	中世	IV層	A		0.27	0.06	2.94		弧状	単層	SD239に切られる。	×				
67・119	19次	9区	SD 356	7H-5E16・21、6D20・25、6E1・6・11・16・21	中世	IV層	A		0.47	0.04	2.87		弧状	レンズ状	SD1219・1224を切る。SD511と切り合いなし。SK3921、SD417・498・562に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画4・5。	
66・70	19次	9区	SD 417	7H-5E16～24、5F16～18	中世	IV層	A		0.62	0.16	2.88		弧状	レンズ状	SD1263、P1397を切る。SD239・356・420・427・498に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	461・462	区画5。	
	19次	9区	SD 420	7H-5F17	中世	IV層	A		0.15	0.07	2.89		弧状	単層	SD417を切る。SD423と切り合いなし。	×				
70	19次	9区	SD 421	7H-5E20・25、6E5・10・15・20・25、7E5	中世	IV層	B		0.42	0.07	2.90		弧状	単層	SD471・1161を切る。SD458と切り合いなし。SD239・423・508・509に切られる。	○	土師器		区画5・6。	
122	19次	9区	SD 423	7H-5E20・25、5F16～25、5G16・21	中世	IV層	A		0.80	0.14	2.87		U字状	レンズ状	SX418、SD421・441・457・1211・1233を切る。SD239・420と切り合いなし。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画6。	
	19次	9区	SD 427	7H-5F17	中世	IV層	A		0.16	0.04	3.03		弧状	単層	SD417を切る。SD239に切られる。	×				
70	19次	9区	SD 429	7H-7E5、7F1～5	中世	IV層	B		0.38	0.09	2.87		弧状	単層	SK1288を切る。SD509に切られる。	○	土師器		区画6。	
	19次	9区	SD 430	7H-7C17・22・23、8C3・8・9・14	中世	IV層	B		0.32	0.15	2.67		弧状	単層	SX431、SD725・882を切る。SD439に切られる。	×				
73	19次	9区	SD 438	7H-8B5・8・9・10・13・14、8C1・6	古代	IV層	C		0.85	0.08	2.61		弧状	レンズ状	SD725・796・916を切る。SX432、SD791・792・794・795と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 439	7H-8C8・9	中世	IV層	B	1.86	0.36	0.03	2.69		弧状	レンズ状	SD430を切る。	○	土師器			
	19次	9区	SD 441	7H-5F22・23、6F2・3	中世	IV層	B		0.43	0.04	2.91		弧状	レンズ状	SD423に切られる。	×				
70	19次	9区	SD 443	7H-6F3・4・5・10、6G1・6	古代	IV層	C		0.53	0.10	2.82		弧状	レンズ状	SD457と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 445	7H-6G1・6・11・16	中世	IV層	A	5.82	0.83	0.12	2.95		弧状	レンズ状	SD1278・1281を切る。	○	土師器、木製品		区画7。	
	19次	9区	SD 446	7H-5F22、6F2	IV層			1.74	0.43	0.07	2.90					×				
70	19次	9区	SD 447	7H5F21・22、6F1	中世	IV層	B	2.00	0.37	0.08	2.90		弧状	レンズ状		×				
71	19次	9区	SD 448	7H-6F10・15・20・25	中世	IV層	B		1.02	0.15	2.91		弧状	単層	SD1278・1279・1280・1281を切る。SD464と切り合いなし。	○	土師器、須恵器、石器・石製品		区画6。	
71・110	19次	9区	SD 451	7H-5G16・17・21～25	中世	IV層	A		0.68	0.08	3.00		弧状	レンズ状	SE36、SD1233を切る。SD239に切られる。	○	土師器			
70	19次	9区	SD 452	7H-5G22～25、6G4・5	中世	IV層	A		1.00	0.12	2.93		弧状	レンズ状	SD456・1220を切る。	○	土師器		区画7。	

図版番号	調査回数	調査区	遺構		グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
			種別	番号					上端		深度		平面	断面			遺物の有無	遺物の種類		
									長軸	短軸										
75	19次	9区	SD	455	7H-8A12・17・18・23~25、9A4・5・10、9B1・6・7・11~13・17~19・23~25、10B4・5、10C1・6~8・12~14・18~20・23~25、10D16・21、8H-1C4・5、8H-1D1・2・6~9・12~14・18・19	近世	IV層	A		2.10	0.10	2.70	弧状	レンズ状	SK1381、SX925、SD821・898・905・930・976・985・987・989・990・1001・1004・1041・1052・1053・1055・1070・1071・1084・1087・1089・1091・1092・1132・1196・1320・1346・1345・1346・1347・1354・1367・1343・3927・3935・3951を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器、白磁、近世陶磁器、石器・石製品、金属製品、木製品	463・668~671		
	19次	9区	SD	456	7H-5G21・22	中世	IV層	A		0.34	0.10	3.24	弧状	単層	SD452に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器			
	19次	9区	SD	457	7H-5G21、6F4・5、6G1	古代	IV層			0.54					SK465、SD1211を切る。SD443と切り合いなし。SD423に切られる。	○	土師器、須恵器			
71	19次	9区	SD	458	7H-6E10、6F6・7	中世	IV層	B		0.90	0.03	2.92	弧状	単層	SX454に切られる。SD421と切り合いなし。	×				
71	19次	9区	SD	461	7H-7E5・10・15・20・25、8E5	中世	IV層	B		0.52	0.04	2.86	弧状	レンズ状	SD275・477・1167を切る。SD503と切り合いなし。SD509に切られる。	×				
70	19次	9区	SD	464	7H-6F23~25	中世	IV層	B		0.96	0.06	2.90	弧状	単層	SK1289を切る。SD448と切り合いなし。SX454に切られる。	×			区画6。	
	19次	9区	SD	471	7H-6E20、6F16・17	古代	IV層	C		0.32	0.03	2.92	弧状	単層	SX454、SD1161に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	477	7H-7E25、7F21	古代	IV層	C		0.42	0.08	2.82	弧状	単層	SD1170を切る。SD461、P472に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	495	7H-8E10、8F6・7	中世	IV層	B		0.46	0.09	2.86	弧状	レンズ状	SD3923を切る。	×			区画11。	
66	19次	9区	SD	498	7H-5E21~25	中世	IV層	B	7.68	0.56	0.12	2.92	弧状	レンズ状	SD356・417・1226を切る。	○	土師器、黒色土器、石器・石製品	464~466	区画5。	
70・93	19次	9区	SD	501	7H-8F6~9・11・12・16・21、9F1・6	中世	IV層	B		1.28	0.12	2.92	弧状	ブロック状	SD3956を切る。	×			区画11。	
71	19次	9区	SD	502	7H-8E10・15・20、8F3・4~9・11・16・21、9E10、9F1・6	中世	IV層	B		0.60	0.02	2.90	弧状	単層	SD3954・3956を切る。SE460に切られる。	×			区画11。	
	19次	9区	SD	503	7H-7E10、7F4~10・14・15・20、7G6	中世	IV層	B		0.32	0.06	2.90	弧状	レンズ状	SD1170を切る。SD461と切り合いなし。SD105に切られる。	○	土師器		区画9。	
71	19次	9区	SD	504	7H-7F23~25、8E1~4	中世	IV層	B		0.96	0.08	2.86	弧状	単層	SD3954・3955を切る。	×			区画9。	
	19次	9区	SD	506	7H-6E22~24	中世	IV層	B		0.36	0.06	2.87	弧状	レンズ状	SD511と切り合いなし。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画5。	
	19次	9区	SD	507	7H-6E10・15・20・25	中世	IV層	B		0.68	0.04	2.92	弧状	単層	SD1161を切る。	○	須恵器		区画5。	
58・67・70	19次	9区	SD	508	7H-6D22~25、6E21~25、7E1~5	中世	IV層	A		0.64	0.15	2.73	台形状	レンズ状	SD421・512・562・563を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画4・5。	
67・70	19次	9区	SD	509	7H-7D5、7E1~5	中世	IV層	B		0.56	0.09	2.82	弧状	レンズ状	SD421・429・461・512・1174・1246を切る。SD285に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画4・5。	
67・70	19次	9区	SD	511	7H-6E21~25	中世	IV層	B		0.52	0.04	2.91	弧状	レンズ状	SD1189・1190を切る。SD356・506切り合いなし。	×			区画5。	
67・70	19次	9区	SD	512	7H-6D23~25、6E21~25、7D4・5、7E1~5	中世	IV層	B		0.36	0.02	2.87	弧状	レンズ状	SD508・509・561に切られる。	○	土師器		区画4・5。	
	19次	9区	SD	518	7H-5B24、6B4・5・10	中世	IV層	A		0.48	0.02	2.83	弧状	単層	SD956を切る。SD523と切り合いなし。SD519に切られる。	○	土師器		区画3。	
	19次	9区	SD	519	7H-6B4・5・9・10	中世	IV層	A		0.66	0.07	2.76	弧状	レンズ状	SD518・956・1075を切る。SD525と切り合いなし。	×			区画3。	
66	19次	9区	SD	520	7H-5C11~13・18	中世	IV層	B		0.86	0.07	2.78	弧状	単層	SD521に切られる。	○	土師器、黒色土器		区画3。	
66・67・91	19次	9区	SD	521	7H-5C12・13・18・19・23・24、6C3・4・9・14・19・20・24・25、7C4・5・10・14・15・19・20・24・25、8C4・5・9・10・14・15	中世	IV層	A		1.20	0.23	2.62	弧状	レンズ状	SK1011、SX1146・1147、SD520・523・524・752・763・912・944・979・983・994・995・997・1008・1009・1010・1026・1072・1076・1077・1081・1088・1093・1299・1127・3919・3942を切る。SD525・3930と切り合いなし。SE382、SD238に切られる。	○	土師器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品		区画3。	
	19次	9区	SD	523	7H-6C2~4・6・7	中世	IV層	A			0.11	2.73	弧状	レンズ状	SD1078・1095・1100を切る。SD518と切り合いなし。SD521・525に切られる。	○	土師器		区画3。	
67・124	19次	9区	SD	524	7H-6C7~9・11・12	中世	IV層	A		0.84	0.03	2.77	弧状	レンズ状	SX522、SD961・1077・3937を切る。SX615、SD521に切られる。	○	土師器			
67	19次	9区	SD	525	7H-6C2~4・6・7	中世	IV層	A		0.82	0.16	2.72	弧状	レンズ状	SX522・1097、SD523・1077・1078を切る。SD519・521と切り合いなし。	○	土師器		区画3。	
57・75	19次	9区	SD	526	7H-9D9・10、9E6~8・12・13	中世	IV層	A		0.18	0.14	2.78	弧状	水平	SD356・528・634・637・649・654・663を切る。SD536と切り合いなし。SD528に切られる。	○	土師器、銭貨		区画10。	
57	19次	9区	SD	527	7H-8E19・20・24・25、9E5	中世	IV層	A		0.56	0.14	2.78	U字状	レンズ状	SD530に切られる。	○	土師器、木製品		区画10。	
57・75	19次	9区	SD	528	7H-9D9・10・14・15、9E6~9・11~14	中世	IV層	A		0.72	0.22	2.68	弧状	レンズ状	SD526・531・637・716・1144・1185を切る。SD530・536と切り合いなし。SD529に切られる。	○	須恵器		区画10。	
57・75	19次	9区	SD	529	7H-9D14・15、9E11~13	中世	IV層	A		0.56	0.12	2.78	弧状	レンズ状	SX555、SD528を切る。	×			区画10。	
57・70	19次	9区	SD	530	7H-8E9・10・14・15・19・20・24、9E4・5・9・10	中世	IV層	A		1.28	0.18	2.74	弧状	レンズ状	SD527・636・639・648・651・658・659・3948を切る。SD528・532と切り合いなし。	×			区画10。	
75	19次	9区	SD	531	7H-9E14・19	中世	IV層	A		0.52	0.14	2.83	弧状	水平	SK1166、SD1164・1165を切る。SD1144と切り合いなし。SD528に切られる。	×				
57	19次	9区	SD	532	7H-8D14・15・17~19、8E6~9・11・12	中世	IV層	A		1.24	0.09	2.80	弧状	レンズ状	SD285・297・634・636・650・709・711を切る。SD530・536・625・754と切り合いなし。	○	土師器、須恵器、木製品		区画10。	
57	19次	9区	SD	533	7H-8D13・14・17・18・22・23、9D3・8・9・13・14	中世	IV層	A		0.56	0.04	2.80	弧状	単層	SD532・748・775・855・862・869・873を切る。	○	土師器、木製品		区画10。	
58・67	19次	9区	SD	534	7H-5C15・19・20、5D11・12・16~20・25、5E21	中世	IV層	B		0.61	0.04	2.88	弧状	単層	SK564、SD1151・1206を切る。SD550と切り合いなし。SD543に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、木製品		区画4。	

図版番号	調査回数	調査区	遺構		グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
			種別	番号					上端		平面		断面	遺物の種類							
									長軸	短軸				深度				遺物の種類			
57	19次	9区	SD	536	7H-8D17・18・22・23、9D3・4・8・9・14	中世	IV層	B		0.86	0.14	2.74	弧状	ブロック状	SD639・648・651を切る。SD528・532と切り合いなし。	×				区画10。	
67・110	19次	9区	SD	537	7H-5C19・20・25、6C5・10・15・20・25、6D16・21	中世	IV層	B		0.56	0.14	2.77	弧状	単層	SK564、SD554・1299を切る。SD534と切り合いなし。SD538に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器			区画4。	
67・110	19次	9区	SD	538	7H-5C19・20・24・25、6C5・10・15・20・25、6D21	中世	IV層	A		0.52	0.18	2.77	弧状	レンズ状	SD537・563・1018・1127を切る。SD543・561と切り合いなし。SK564に切られる。	○	土師器			区画4。	
122	19次	9区	SD	543	7H-5C14・15・19、5D11	中世	IV層	A		0.54	0.22	2.76	弧状	レンズ状	SK564、SD1127を切る。SD538と切り合いなし。SX413に切られる。	○	土師器			区画4。	
67	19次	9区	SD	545	7H-5D20、5E16	中世	IV層	A		0.40	0.03	2.98	弧状	単層	SD239と切り合いなし。	○	土師器、須恵器				
	19次	9区	SD	550	7H-5D17・22	中世	IV層	A		0.36	0.11	2.82	弧状	単層	SD534と切り合いなし。SD1194を切る。	×					
67	19次	9区	SD	554	7H-6D16・17・21・22	中世	IV層	B		1.04	0.04	2.83	弧状	レンズ状	SD537に切られる。	○	土師器			区画4。	
58・67	19次	9区	SD	561	7H-6D21~24、7D4・5	中世	IV層	A		0.44	0.10	2.82	弧状	レンズ状	SD512・563・752を切る。SD538と切り合いなし。	○	土師器			区画4。	
58・67	19次	9区	SD	562	7H-6D22~25	中世	IV層	A	5.72	0.52	0.06	2.86	弧状	レンズ状	SD508に切られる。	○	土師器			区画4。	
	19次	9区	SD	563	7H-6D21~23	中世	IV層	A		0.54			弧状	レンズ状	SD508・538・561に切られる。	×				区画4。	
	19次	9区	SD	617	7H-6B9・14	中世	IV層	B		0.46	0.02	2.73	弧状	単層	SD618・956・1075を切る。	×				擾乱の影響を受けている可能性あり。	
	19次	9区	SD	618	7H-6B9・14・15	中世	IV層	B		0.16	0.03	2.72	弧状	単層	SD957を切る。SD617に切られる。	×				擾乱の影響を受けている可能性あり。	
	19次	9区	SD	625	7H-8D10、8E6・11	中世	IV層			0.48					SD532・670と切り合いなし。	×					
67	19次	9区	SD	626	7H-6B20・25、6C21、7C1	古代	IV層	C		0.28	0.05	2.67	弧状	レンズ状	SX647、SD970を切る。	×				上層に中世の覆土あり。	
	19次	9区	SD	629	7H-8C8・13	古代	IV層			0.23	0.04	2.77			SD725に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	634	7H-8E11・12・16・21、9E1・6・7	古代	IV層	C		0.40	0.05	2.83	弧状	単層	SD636・639・648・649・663と切り合いなし。SD526に切られる。	×				小溝状遺構群。	
57	19次	9区	SD	636	7H-8D15・18~20、8E12~14・16	古代	IV層	C		0.74	0.05	2.84	弧状	単層	SD634・637・638・648・650・653・654・663・709・711と切り合いなし。SD530・532に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	637	7H-8E12・13・17・18・23、9E3・8	古代	IV層	C		0.48	0.08	2.91	弧状	単層	SD636・639・648・651・659と切り合いなし。SD526・528に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	638	7H-8E16・17	古代	IV層	C		0.32	0.07	2.82	弧状	単層	SD636・651と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	639	7H-9D4・5、9E1~4	古代	IV層	C		0.40			弧状	単層	SD634・637・648・652・653・654・658・663と切り合いなし。SD530・536に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	646	7H-6B25、6C21、7C1	古代	IV層	C		0.36	0.03	2.72	弧状	単層	SD970を切る。SD986と切り合いなし。SD961に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	648	7H-8D23~25、8E14・19・21~24	古代	IV層	C		0.38			弧状	単層	SD634・636・637・639・651・652・653・654・658・659・663と切り合いなし。SD530・536に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	649	7H-9D9・10、9E6~8	古代	IV層	C		0.36					SD652・653を切る。SD634・637・654と切り合いなし。SD526・528・536に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	650	7H-8D18・19・24	古代	IV層	C		0.34			弧状	単層	SD636・651と切り合いなし。SD532に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	651	7H-8D18・19、8E14・16・17・19	古代	IV層	C		0.44			弧状	単層	SD637・638・648・650・652・653・654・658・663と切り合いなし。SD530・536に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	652	7H-8D19・24、9D4・5・10	古代	IV層	C		0.34			弧状	単層	SD639・648・651・653と切り合いなし。SD649に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	653	7H-8D19・20・24・25、9D5・10	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層	SD636・639・648・651・652と切り合いなし。SD649に切られる。	×				小溝状遺構群。	
57	19次	9区	SD	654	7H-8D20・25、8E16・21、9D5、9E1・6	古代	IV層	C		0.38	0.14	2.76	弧状	単層	SD636・639・648・649・651と切り合いなし。SD526に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	656	7H-7C15・20・25、7D6・11・16・21、8C5・10、8D1・6	中世	IV層	B		0.50	0.05	2.81	弧状	単層	SD1008・1026を切る。SD714と切り合いなし。SD740に切られる。	×				区画8。	
57	19次	9区	SD	658	7H-8E14・19・24、9E4	古代	IV層	C		0.40	0.60	2.85	弧状	単層	SD639・648・651・659と切り合いなし。SD530に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	659	7H-9E3・4・7・8	古代	IV層			0.46					SD637・648・658・663と切り合いなし。SD530に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	660	7H-7A25	古代	IV層			0.24					SD3939と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	663	7H-8E12・17・22、9E2・7	古代	IV層			0.38					SD634・636・639・648・651・659と切り合いなし。SD526に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	664	7H-7B17・22、8B2・7	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層	SD859・860を切る。SD871と切り合いなし。SD3940に切られる。	○	土師器			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	669	7H-7E8・9・13・14・18・23、8E3	中世	IV層	B		1.34	0.15	2.77	弧状	単層	SD782・788・804・839・861を切る。SD670・714と切り合いなし。	○	土師器、須恵器	467		区画8。	
57・71	19次	9区	SD	670	7H-8D10、8E1・6、8E2・3・6~8	中世	IV層	B		1.06	0.08	2.81	弧状	レンズ状	SD625・636・669・754と切り合いなし。SD297・801・843・3946を切る。	○	土師器			区画8。	
	19次	9区	SD	671	7H-7D7・8	中世	IV層	B		0.22			弧状	単層	SD714に切られる。	○	土師器、須恵器				
71	19次	9区	SD	672	7H-8D4	古代	IV層	C		0.24	0.07	2.81	弧状	単層		×					
	19次	9区	SD	701	7H-8D21・22	古代	IV層			0.46	0.09	2.76			SD776・862・3941と切り合いなし。SD702・867に切られる。	×				小溝状遺構群。	

図版番号	調査回数	調査区	遺構		グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
			種別	番号					上端		平面		断面	遺物の種類				遺物の種類			
									長軸	短軸									深度		
73・75	19次	9区	SD	702	7H-8C15、8D11・16・21・22、9D2・7・8・12・13・18・23・24	中世	IV層	B		0.44	0.09	2.76		弧状	単層	SX761、SD701・702・703・748・766・767・768・855・947・948・1122を切る。SD722・867と切り合いなし。SX755に切られる。	○	土師器、須恵器			
73	19次	9区	SD	703	7H-8D16	古代	IV層	C		0.20	0.02	2.82		弧状	単層	SD767と切り合いなし。SD702に切られる。	×			小溝状遺構群。	
67	19次	9区	SD	706	7H-7D7・12・13・18・19・23・24、8D3・4	古代	IV層	C		0.72	0.03	2.85		弧状	単層	SD728・747を切る。SD885と切り合いなし。SD707に切られる。	○	土師器		小溝状遺構群。	
67	19次	9区	SD	707	7H-7D6～8・12～14	中世	IV層	B		1.04	0.06	2.84		弧状	単層	SD706・747を切る。SD742・1033に切られる。	×				
57	19次	9区	SD	709	7H-8D15、8E16	古代	IV層	C		0.36	0.09	2.80		弧状	単層	SD636と切り合いなし。SD532に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	710	7H-7D8～10、7E6	古代	IV層	C		0.28				弧状	単層	SD713・802と切り合いなし。SD714に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	711	7H-8D13・14・19	古代	IV層	C			0.12	2.77		弧状	単層	SD636と切り合いなし。SD532・712に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	712	7H-8D12・13	中世	IV層	B		0.52	0.07	2.80		弧状	単層	SD312・711・858を切る。	×				
	19次	9区	SD	713	7H-7D10	古代	IV層	C		0.26	0.06	2.84		弧状	単層	SD710・802と切り合いなし。SD714に切られる。	×			小溝状遺構群。	
57	19次	9区	SD	714	7H-7D6～10、15・7E6～9	中世	IV層	A		1.20	0.15	2.78		弧状	レンズ状	SD671・710・713・758・769・780・781・784・802・835・836・837・838・839・843・861・1039を切る。SD656・669と切り合いなし。SD742に切られる。	×			区画8。	
	19次	9区	SD	715	7H-9D13・14・19・24	古代	IV層			0.88						SD716・862・946・948・950・951と切り合いなし。SD529に切られる。	×			小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD	716	7H-9D14・15、9E11～14	古代	IV層	C		0.36	0.09	2.78		弧状	単層	SD1185を切る。SD715と切り合いなし。SK542、SX555、SD528・531に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	720	7H-8C19・24	古代	IV層			0.30						SD748・766・911と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD	721	7H-8C14・19・24、9C4・9・13・14・18	中世	IV層	A	6.14	0.82	0.03	2.78		弧状	単層	SD748・851・855・1059・1082・3931を切る。	×				
	19次	9区	SD	722	7H-8C15・20・24・25、9C4・5・9・14・19・24	中世	IV層			0.40	0.10	2.68				SD723・748・766・851・855・911・1059・1060・1061・3931を切る。SD702と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD	723	7H-8C15・20・25、8D21	古代	IV層	C		0.28	0.04	2.79		弧状	単層	SD3949・3950を切る。SD748・768・855・911・3931と切り合いなし。SD722に切られる。	×			小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD	725	7H-7C17・19・23・24、8B9・10・15、8C3・4・7・8・11～13・17	古代	IV層	C		0.72	0.19	2.56		弧状	レンズ状	SD629・760・763・790・884・894・899・900・901・1303を切る。SD430・438に切られる。	○	土師器			
73	19次	9区	SD	726	7H-7B15・20、7C11・16	古代	IV層	C		0.58	0.03	2.63		弧状	単層	SD918・921を切る。SX432・647と切り合いなし。	×				
71	19次	9区	SD	728	7H-7D19・24、8D3・4・9	古代	IV層	C		0.42	0.08	2.80		弧状		SD733・738・834と切り合いなし。SD706に切られる。	×				
67	19次	9区	SD	731	7H-6B13・14・19・24・25	古代	IV層	C		0.36	0.04	2.66		弧状	単層	SX647と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD	733	7H-7D24・25、8D5	古代	IV層	C		0.36	0.05	2.80		弧状	単層	SD728・734・787と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	734	7H-7D19・24・25、8D4	古代	IV層	C		0.26	0.05	2.80		弧状	単層	SD733・738・787と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
68	19次	9区	SD	736	7H-6B18・23・24	古代	IV層	C		0.40	0.03	2.60		弧状	単層	SX647と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD	737	7H-7B2・3	古代	IV層	C		0.34	0.03	2.62		弧状	単層	SD928と切り合いなし。SX647に切られる。	×				
	19次	9区	SD	738	7H-7D24、8D4	古代	IV層	C		0.34						SD728・734と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	740	7H-7D6・11・16・21	中世	IV層	B		0.30	0.04	2.83		弧状	単層	SD656・1021・1022を切る。	×			区画8。	
	19次	9区	SD	741	7H-7D11・16	古代	IV層	C		0.24	0.03	2.83		弧状	単層	SD1021・1022・1068を切る。SD944と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD	742	7H-7D6・7	中世	IV層	A	1.14	0.34	0.11	2.74		U字状	単層	SD707・714を切る。	×				
75	19次	9区	SD	743	7H-9D25、9E21～24、10D4・9・10・15・20	中世	IV層	B		0.80	0.14	2.74		弧状	レンズ状	SX555・746・755に切られる。SD829を切る。	○	木製品		区画12。	
55・73・75・127	19次	9区	SD	744	7H-8B24・25、9B4・5・10・15、9C11・16・17・22～24、10C3～5・9・10・15、10D6・11・16・17・22・23、8H-1D3・4・9・10・14・15	中世	IV層	A		1.70	0.18	2.62		弧状	レンズ状	SD930・938・940・943・967・968・1003・1017・1028・1029・1030・1059・1061・1062・1063・1084・1087・1089・1091・1120・1140・3934を切る。	○	土師器、木製品	468・672		
	19次	9区	SD	745	7H-9D22、10D2		IV層		0.66	0.24							×				
	19次	9区	SD	747	7H-7D6・11・12	古代	IV層	C		0.38				弧状	単層	SD1020・1034と切り合いなし。SD706・1033に切られる。	×				
	19次	9区	SD	748	7H-8C24・25、8D16・17・21	古代	IV層	C		0.34	0.09	2.75		弧状	単層	SD3949を切る。SD720・723・767・776・3941と切り合いなし。SD533・702・721・722に切られる。	×			小溝状遺構群。	
68	19次	9区	SD	752	7H-6D21、7C5、7D1～4	古代	IV層	C		0.28	0.05	2.85		弧状	単層	SD995・1038を切る。SD521・561に切られる。	×				
57	19次	9区	SD	754	7H-8E6	中世	IV層	B		0.22	0.08	2.82		弧状	単層	SD833を切る。SD532・670と切り合いなし。	×				
68	19次	9区	SD	757	7H-7C10、7D1～3、6～9	古代	IV層	C		0.30	0.03	2.87		弧状	単層	SD996・1038・1039・1058と切り合いなし。SD758に切られる。	×				
68	19次	9区	SD	758	7H-7D1・6	古代	IV層	C		0.96	0.05	2.84		弧状	単層	SD757を切る。SD714に切られる。	×				
73	19次	9区	SD	760	7H-8B15・19・20、8C6・7・8・11・12	古代	IV層	C		1.00	0.14	2.61		弧状	レンズ状	SD806・913・1035・1036と切り合いなし。SD725に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD	762	7H-8D10、8E1・6	中世	IV層	B		0.48	0.07	2.88		弧状	レンズ状	SD781と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD	763	7H-8B10・14・15、8C2・3・4		IV層			0.48						SK789、SD521・725に切られる。	×				
	19次	9区	SD	764	7H-7B18・19・23・24、8B3・4	古代	IV層	C		0.55	0.04	2.64		弧状	単層	SD922と切り合いなし。SD765・796に切られる。	×				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	短軸	深度		平面	断面			遺物の 有無	遺物の種類		
73	19次	9区	SD 765	7H-7B23・24・25、8B3・4・5	中世	IV層	B	4.26	0.64	0.12	2.57		弧状	レンズ状	SD764・796を切る。SD797と切り合いなし。	×			
73	19次	9区	SD 766	7H-8C24・25、8D21、9C4	古代	IV層	C		0.46	0.05	2.78		弧状	単層	SD3949・3950を切る。SD720・748・777・776と切り合いなし。SD702・722に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 767	7H-8D11・16・21	古代	IV層	C		0.40	0.05	2.78		弧状	単層	SD703・748・768・855・911・912・3942と切り合いなし。SD702に切られる。	×		小溝状遺構群。	
70	19次	9区	SD 768	7H-8C15・20、8D11~13	古代	IV層	C		0.38	0.05	2.83		弧状	単層	SD723・767・772・776・3942と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 769	7H-7E7・12・17・22、8E2	古代	IV層			0.32						SD782・788・834と切り合いなし。SD714に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 772	7H-8D11・12	古代	IV層			0.32						SD768・912・3942と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 775	7H-8D12・13	古代	IV層			0.36						SD856・858・869と切り合いなし。SD533に切られる。	×		小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 776	7H-8C20、8D16・21、9C5、9D1・2・7・12	古代	IV層	C		0.40	0.08	2.74		弧状	単層	SD3950を切る。SD701・748・766・768・777・855・911と切り合いなし。SD778・1098に切られる。	×		小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 777	7H-8D21、9D1・2・7・12	古代	IV層	C		0.40	0.06	2.76		弧状	単層	SD766・776と切り合いなし。SD778・1098に切られる。	×		小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 778	7H-9C10、9D6・7	古代	IV層	C		0.32	0.10	2.73		弧状	単層	SD776・777を切る。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 780	7H-7D15・20・25、8D5	古代	IV層			0.34						SD785・788・834・842と切り合いなし。SD714に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 781	7H-7E6・11・16・21、8E1	古代	IV層			0.32						SD762・782・788・834・842と切り合いなし。SD714に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 782	7H-7E11~13	古代	IV層			0.26						SD769・781・839と切り合いなし。SD669に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 784	7H-7D9・14・15	古代	IV層			0.24						SD780・785と切り合いなし。SD714に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 785	7H-7D13・14・15	古代	IV層			0.54						SD780・784・786と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 786	7H-7D14	古代	IV層			0.26						SD785と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 787	7H-7D20・25	古代	IV層			0.36						SD733・788・834・842と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 788	7H-7D20、7E16・17・18	古代	IV層			0.34						SD769・780・781・787・839と切り合いなし。SD669に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 790	7H-8B20、8C12・13・14・16・17・18	古代	IV層	C		0.50	0.03	2.75		弧状	単層	SD883・886・889・1036と切り合いなし。SD725に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 791	7H-8B13・18・19	古代	IV層			0.27	0.02	2.66				SD438・913・915・1035・1090切り合いなし。SD1044に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 792	7H-8B7・8・12・13・18	古代	IV層			0.40	0.05	2.65				SD438・913・965・794・795・915・1090と切り合いなし。SD1044に切られる。	×		小溝状遺構群。	
111	19次	9区	SD 794	7H-8B11・12・13・16・17	古代	IV層	C		0.47	0.02	2.68		弧状	単層	SD807・915を切る。SD438・792・795と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
111	19次	9区	SD 795	7H-8B11・12・13	古代	IV層	C		0.44	0.03	2.66		弧状	単層	SD438・792・794・799と切り合いなし。SK823、SD809・824に切られる。	×		小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 796	7H-7B23、8B3・4・5・10	古代	IV層	C		0.30	0.09	2.60		弧状	単層	SD764・922を切る。SD438・765・797に切られる。	×			
	19次	9区	SD 797	7H-8B4	中世	IV層			0.26	0.03	2.64				SD796を切る。SD765と切り合いなし。	×			
	19次	9区	SD 799	7H-8B6	古代	IV層			0.44	0.02	2.65				SD795と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 801	7H-8E7・8	古代	IV層	C		0.18						SD833と切り合いなし。SD670に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 802	7H-7D9・10、7E1~7・9	古代	IV層	C		0.54	0.10	2.85		弧状	レンズ状	SD1174を切る。SD710・713・835・836・837・838・861と切り合いなし。SD285・714に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 804	7H-7E18・23、8E3	古代	IV層			0.30						SD834と切り合いなし。SD669に切られる。	×		小溝状遺構群。	
73・111	19次	9区	SD 806	7H-8B19・24・25、9B5、9C1・6・11・12・17	古代	IV層	C		0.38	0.07	2.70		弧状	単層	SD760・825・888・1017・1035・1036と切り合いなし。SK805に切られる。	○	須恵器	小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 807	7H-8A13~15・20、8B11・12・17	古代	IV層	C		0.84	0.02	2.66		弧状	レンズ状	SK798・SD794・1046に切られる。SD808・821と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 808	7H-8A5・10・15	古代	IV層	C		0.28	0.12	2.58		弧状	単層	SD807・814・805・816と切り合いなし。SD809に切られる。	×		小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 809	7H-8A15、8B11	古代	IV層	C		0.24	0.06	2.60		弧状	単層	SD808・795を切る。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 810	7H-8A9・10	古代	IV層	C	1.32	0.24	0.08	2.63		弧状	単層	SX1133、SD812を切る。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 811	7H-8A9・10	古代	IV層	C		0.36	0.04	2.60		弧状	単層	SD813を切る。SD812・819と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 812	7H-8A4・9・14	古代	IV層	C		0.30	0.06	2.60		弧状	単層	SD811・816・817・819と切り合いなし。SD810に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 813	7H-8A9	古代	IV層	C		0.28	0.06	2.59		弧状	単層	SD811に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 814	7H-7A25、7B21・22	古代	IV層	C		0.48	0.04	2.61		弧状	単層	SD3939を切る。SD815・808と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 815	7H-8A5、8B1	古代	IV層			0.86	0.05	2.60				SD808・814と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 816	7H-8A4・9・10、8B6	古代	IV層	C		(0.20)	0.07	2.64		弧状	単層	SD808・812・817・818と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 817	7H-8A4・5	古代	IV層	C		(0.24)	0.02	2.62		弧状	単層	SD812・816・818と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 818	7H-8A4・9	古代	IV層	C		(0.20)	0.07	2.58		弧状	単層	SD816・817・819と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 819	7H-8A7~9・12~15	古代	IV層	C		0.40	0.02	2.58		弧状	単層	SD811・812・818と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。	

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	備考		
								長軸	短軸											
73	19次	9区	SD 820	7H-7A19・20・24・25、7B16	古代	IV層	C		0.32	0.06	2.59	弧状	単層	SD3939と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 821	7H-8A13・14・18・19・23・24	古代	IV層	C		(0.36)	0.09	2.53	弧状	レンズ状	SD822・3951を切る。SD807と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 822	7H-8A18・19	古代	IV層	C			0.34				SD821に切られる。	×				小溝状遺構群。	
111	19次	9区	SD 824	7H-7B21・22、8B7・11・12	古代	IV層	C		0.30	0.03	2.66	弧状	単層	SD795・859・860を切る。SD823に切られる。	×				小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 825	7H-8B25、9B5・10、9C6.11	古代	IV層	C		0.71	0.04	2.73	弧状	レンズ状	SD806と切り合いなし。SK805に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 826	7H-8B25、9B5、9C1・6	古代	IV層	C		0.24	0.02	2.77	弧状	単層	SD887・1016と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 827	7H-9E22・23・24、10E2	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD828・829と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 828	7H-9E22・23、10E2・3	古代	IV層	C		0.24	0.04	2.79	弧状	単層	SD827・832と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 829	7H-9E23、10E3	古代	IV層	C		0.16			弧状	単層	SD827と切り合いなし。SD743に切られる。	×				小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 830	7H-10E2・7・12	古代	IV層	C		0.38	0.11	2.67	弧状	単層	P844を切る。	×					
	19次	9区	SD 831	7H-10D10、10E6・7・11・12	古代	IV層	C		0.56			弧状	単層		×					
	19次	9区	SD 832	7H-10E2・3	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD828と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
71	19次	9区	SD 833	7H-8E6~8	古代	IV層	C	3.40	0.48	0.04	2.85	弧状	単層	SD801と切り合いなし。SD754に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 834	7H-7D19・20・24・25、7E21~23	古代	IV層	C		0.26					SD728・769・780・781・787・804・843と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 835	7H-7E6・7	古代	IV層	C		0.22			弧状	単層	SD802と切り合いなし。SD714に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 836	7H-7E7	古代	IV層	C		0.18			弧状	単層	SD802と切り合いなし。SD714に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 837	7H-7E3・8	古代	IV層	C		0.22	0.10	2.85	弧状	単層	SD802と切り合いなし。SD714に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 838	7H-7E3・8	古代	IV層	C		0.40			弧状	単層	SD802と切り合いなし。SD714に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 839	7H-7E7・8・12・13・18・22・23	古代	IV層	C		0.24					SD782・788と切り合いなし。SD669・714に切られる。	○	土師器			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 842	7H-7D25、7E21・22	古代	IV層	C		0.42					SD780・781・787・843と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 843	7H-7E6・7・11・12・21・22、8E1・2・6・7	古代	IV層	C		0.52					SD834・842と切り合いなし。SD670・714・3946に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 845	7H-10D10・15	中世	IV層	B	0.80	0.36							×				
	19次	9区	SD 846	7H-9D25、10D5	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層			×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 847	7H-10E11		IV層		1.40	0.26							×				
	19次	9区	SD 848	7H-10E11		IV層		0.60	0.20							×				
	19次	9区	SD 850	7H-10E11・16		IV層		0.72	0.24							×				
	19次	9区	SD 851	7H-9C13・14・19・24、10C4・5	古代	IV層	C		0.52					SD1059・1061・1062と切り合いなし。SD721・722・852・943に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 852	7H-9C19・24	中世	IV層	B	0.92	0.16	0.02	2.78	弧状	単層	SD851・1061を切る。	×					
	19次	9区	SD 854	7H-8D12・17	古代	IV層	C		0.16	0.02	2.81	弧状	単層	SD855に切られる。	×					
	19次	9区	SD 855	7H-8C19・20、8D12・16・17	古代	IV層	C		0.40	0.04	2.81	弧状	単層	SD854を切る。SD723・767・776・869・911・3931と切り合いなし。SD533・702・721・722に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 856	7H8D13・18	古代	IV層	C		0.20					SD775と切り合いなし。SD532に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 858	7H-8D12・13	古代	IV層	C		0.24					SD775と切り合いなし。SD533に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 859	7H-7B21・22、8B1	古代	IV層	C		0.22	0.03	2.65	弧状	単層	SD664・824に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 860	7H-8B2	古代	IV層	C		0.16	0.03	2.65	弧状	単層	SD824に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 861	7H-7E9	古代	IV層	C		0.38	0.05	2.86	弧状	単層	SD1174を切る。SD802と切り合いなし。SD285・669・714に切られる。	×					
75	19次	9区	SD 862	7H-8D22・23、9D2・3・8・13	古代	IV層	C		0.40	0.14	2.72	弧状	レンズ状	SD701・748・3941と切り合いなし。SD533・873に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 863	7H-9D8・13		IV層		0.68	0.16							×				
	19次	9区	SD 865	7H-7B22	古代	IV層	C		0.18	0.03	2.65	弧状	単層	SD871・872と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 866	7H-7B17・18・22・23	古代	IV層	C		0.18	0.03	2.67	弧状	単層	SD871・872と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 867	7H-8D21・22、9D2・7・8	中世	IV層	B		0.30	0.05	2.78	弧状	単層	SD701・3941を切る。SD702と切り合いなし。	×					
75	19次	9区	SD 868	7H-9D2・3・7・8	古代	IV層	C	3.64	0.26	0.08	2.77	弧状	単層			×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 869	7H-8D12・17	古代	IV層	C		0.24					SD755・855と切り合いなし。SD533に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 871	7H-7B17・18・22	古代	IV層	C		0.32	0.03	2.66	弧状	単層	SD865・866と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 872	7H7B22・23	古代	IV層	C		0.34	0.07	2.63	弧状	単層	SD865・866と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 873	7H-9D3	古代	IV層	C		0.24	0.07	2.80	弧状	単層	SD862・3941を切る。SD533に切られる。	×					
73	19次	9区	SD 874	7H-7B1・6・11・16・21・22	古代	IV層	C		0.32	0.02	2.66	弧状	単層	SD3940を切る。SD876・879・892と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 876	7H-7A20、7B11・12・16・17	古代	IV層	C		0.28	0.03	2.62	弧状	単層	SD3940を切る。SD874・877・879と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 877	7H-7A15・20	古代	IV層	C		0.28	0.03	2.63	弧状	単層	SD876・892と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 879	7H-7B11・16・21	古代	IV層	C		0.20	0.05	2.61	弧状	単層	SD3940を切る。SD876・892・874と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 880	7H-7B6・11	古代	IV層	C		0.20	0.12	2.54	U字状	レンズ状	SD892と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 882	7H-8C8・9・14	中世	IV層	B		0.36	0.05	2.75	弧状	単層	SD884を切る。430に切られる。	×					
	19次	9区	SD 883	7H-8C13・18	古代	IV層	C		0.32	0.03	2.76	弧状	単層	SD790・884と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 884	7H-8C11~14	古代	IV層	C		0.20	0.05	2.75	弧状	単層	SD883・891と切り合いなし。SK632、SD725・882に切られる。	×				小溝状遺構群。	
68	19次	9区	SD 885	7H-7D13・18・23	古代	IV層	C		0.26	0.05	2.79	弧状	単層	SD312・706と切り合いなし。	×					

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度	平面		断面	遺物の種類							
													長軸				短軸	遺物の種類		
	19次	9区	SD 886	7H-8C13・18・23	古代	IV層	C		0.30	0.04	2.74	弧状	単層	SD790・887・888と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 887	7H-8B25、8C17・18・21・22	古代	IV層	C		0.25	0.04	2.74	弧状	単層	SD826・886・889・890・1012と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 888	7H-8B20・25、8C16~19・21	古代	IV層	C		0.30	0.03	2.76	弧状	レンズ状	SD806・886・889・890・1012と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 889	7H-8C17・22	古代	IV層	C		0.20	0.02	2.73	弧状	単層	SD790・887・888・905と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 890	7H-8C17・22・23	古代	IV層	C		0.30	0.02	2.76	弧状	レンズ状	SD887・888と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 891	7H-8C12	古代	IV層	C		0.23	0.05	2.70	弧状	単層	SD884と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 892	7H-7B11	古代	IV層	C		0.18	0.13	2.55	弧状	単層	SD874・879・880と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 893	7H-7C2・3・7・8・12	古代	IV層	C		0.20	0.04	2.68	弧状	単層	SD893・895・896・906・979・993・1102・1103と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
68	19次	9区	SD 894	7H-7C8・13・18	古代	IV層	C		0.24	0.02	2.72	弧状	単層	SD893・895・896と切り合いなし。SD725に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 895	7H-7C7・12・13	古代	IV層	C		0.24	0.01	2.69	弧状	単層	SD893・894と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 896	7H-7C12・13	古代	IV層	C		0.19	0.04	2.68	弧状	単層	SD893・894と切り合いなし。SD1303に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 898	7H-9A20、9B13~18	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層	SD905・931・939・987・990・999・1056・1057・3933と切り合いなし。SD455に切られる。	○	黒色土器			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 899	7H-7C18・23・24、8C3・4	古代	IV層	C		0.20	0.04	2.73	弧状	単層	SD902・903と切り合いなし。SD725に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 900	7H-7C18・19	古代	IV層	C		0.23	0.04	2.73	弧状	単層	SD899・SD906・1304と切り合いなし。SD725に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 901	7H-7C23	古代	IV層	C		0.31	0.03	2.73	弧状	単層	SD902と切り合いなし。SD725・1303に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 902	7H-7C23・24	古代	IV層	C		0.20	0.03	2.73	弧状	単層	SD899・901・903と切り合いなし。SD1303に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 903	7H-7C23・24、8C3	古代	IV層	C		0.25	0.02	2.73	弧状	単層	SD899・902と切り合いなし。SD1303に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 904	7H-8C9・14	古代	IV層	C		0.42	0.02	2.80	弧状	単層	SD3943に切られる。	×					
	19次	9区	SD 905	7H-8B23・24、9B4・9・10・15・20、9C16・21、10C1	古代	IV層	C		0.40			弧状	単層	SD898・930・938・939・940・966・967・968・985・1003・1057・1061・1089・3935と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。	
68	19次	9区	SD 906	7H-7C3・4・8・9・14・18・19	古代	IV層	C		0.64	0.05	2.72	弧状	単層	SD1079を切る。SD893・900・979・1304と切り合いなし。SK640に切られる。	×				小溝状遺構群。	
127	19次	9区	SD 907	7H-10D8・9・13・14	古代	IV層	C	(3.28)	0.68	0.14	2.88	弧状	レンズ状	SX803に切られる。	×					
	19次	9区	SD 911	7H-8C19・20、8D16	古代	IV層	C		0.36			弧状	単層	SD720・723・767・776・855と切り合いなし。SD722に切られる。	×				小溝状遺構群。	
71	19次	9区	SD 912	7H-8C10・15、8D6~9・11・12	古代	IV層	C		0.34	0.05	2.83	弧状	斜位	SD767・772・1007・3942と切り合いなし。SD312・521に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 913	7H-8B14・15・18・19・20・23	古代	IV層	C		0.29	0.07	2.66	弧状	単層	SD760・791・792・966・1035と切り合いなし。SD1044に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 915	7H-8B9・10・13・14・17・18	古代	IV層	C		0.24	0.02	2.68	弧状	単層	SD791・792・916と切り合いなし。SD794に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 916	7H-8B9・14	古代	IV層	C		0.18	0.02	2.69	弧状	単層	SD915と切り合いなし。SD438に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 918	7H-7B20、7C11	古代	IV層	C		0.27	0.02	2.61	弧状	単層	SD726に切られる。	○	土師器				
	19次	9区	SD 919	7H-8C6	古代	IV層	C	1.10	0.25	0.02	2.70	弧状	単層		×					
	19次	9区	SD 921	7H-7B15	古代	IV層	C		0.31	0.02	2.62	弧状	単層	SX647、SD726に切られる。	×					
	19次	9区	SD 922	7H-8B3	古代	IV層	C		0.14	0.03	2.65	弧状	単層	SD764と切り合いなし。SD796に切られる。	×					
	19次	9区	SD 924	7H-7C24・8C4	古代	IV層	C	1.13	0.30	0.02	2.78	弧状	単層		×					
126	19次	9区	SD 926	7H-10D21・22、8H-1D2	古代	IV層	C		0.24	0.04	2.76	弧状	単層	SD927と切り合いなし。SX925に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 927	7H-10D21	古代	IV層	C		0.22	0.04	2.74	弧状	単層	SD926と切り合いなし。SX925に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 928	7H-7B2・3・8	古代	IV層	C		0.24	0.05	2.61	弧状	単層	SD737と切り合いなし。SX647、SD929に切られる。	×					
	19次	9区	SD 929	7H-7B3・8	古代	IV層	C		0.28	0.07	2.59	弧状	単層	SD928を切る。SD737と切り合いなし。SX647に切られる。	×					
	19次	9区	SD 930	7H-9B13~18	古代	IV層			0.36					SD905・931・987・999・1000・1057・3933・3934と切り合いなし。SD455・744に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 931	7H-8B16・17・22・23、9B3・8・13・14・19	古代	IV層			0.68					SD898・930・968・1001・1003・1046・1047・1054・1057・3935と切り合いなし。SK917、SD965・1044に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 932	7H-6B23	古代	IV層	C	1.30	0.24	0.01	2.64	弧状	単層		×					
	19次	9区	SD 933	7H-7B6・7・11・12	中世	IV層	A		0.38	0.10	2.59	弧状	レンズ状		×					
	19次	9区	SD 934	7H-7C6	古代	IV層	C		0.16	0.04	2.70	弧状	単層	SD935と切り合いなし。SX432、SD3929に切られる。	×					
	19次	9区	SD 935	7H-7C1・6	古代	IV層	C		0.19	0.04	2.70	弧状	単層	SD934と切り合いなし。	×					
	19次	9区	SD 936	7H-9B9・14	古代	IV層			0.40					SD1001・1057と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 937	7H-9B9	古代	IV層		1.57	0.28					SD939・1001を切る。	×					
	19次	9区	SD 938	7H-9B9・10	古代	IV層			0.25					SD905と切り合いなし。SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 939	7H-9B9・10・14	古代	IV層			0.12					SD898・905・1001と切り合いなし。SD937に切られる。	×				小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 940	7H-9B4・5・9	古代	IV層			0.34					SD905と切り合いなし。SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。	

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 複し	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	備考		
								長軸	短軸											
	19次	9区	SD 943	7H-10C5	中世	IV層	B		0.30	0.03	2.87		弧状	単層	SD851・1063を切る。SD744に切られる。	×				
73	19次	9区	SD 944	7H-7C25、7D16・21	古代	IV層	C		0.30	0.10	2.71		弧状	単層	SX803を切る。SD741・1007と切り合いなし。SD521に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 946	7H-9D13・14	古代	IV層	C		0.24	0.03	2.82		弧状	単層	SD715・947と切り合いなし。SK1160に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 947	7H-9D8・13	古代	IV層	C		0.20	0.06	2.78		弧状	単層	SD946と切り合いなし。SD702に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 948	7H-9D18・19・23	古代	IV層	C		0.22	0.04	2.80		弧状	単層	SD702に切られる。	×				小溝状遺構群。
75	19次	9区	SD 950	7H-9D14・15・19・20、9E11	古代	IV層	C		0.50	0.04	2.80		弧状	単層	SD715と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
75	19次	9区	SD 951	7H-9D19・20、9F16	古代	IV層	C		0.40	0.05	2.80		弧状	単層	SD715・952・953と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 952	7H-9D20	古代	IV層	C		0.22	0.06	2.80		弧状	単層	SD951と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 953	7H-9D20、9E16	古代	IV層	C		0.44	0.05	2.84		弧状	単層	SD951と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 955	7H-9D21・22、10D2・3	古代	IV層	C		(0.56)	0.06	2.79		弧状	単層		×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 956	7H-5C21、6B5・10、6C1	古代	IV層	C		0.24				弧状	単層	SD518・519・617に切られる。	×				小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 957	7H-6B15・19・24、6C11	古代	IV層	C		0.34	0.02	2.72		弧状	単層	SD618に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 959	7H-6B20、6C16・17	古代	IV層	C		0.28				弧状	単層	SD960と切り合いなし。SK616、SX615、SD1002に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 960	7H-6B15・20	古代	IV層	C		0.16				弧状	単層	SD959と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 961	7H-6C11・16・21	古代	IV層	C		0.56	0.06	2.70		弧状	斜位	SD646を切る。SD962と切り合いなし。SX615、SD524に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 962	7H-6C16~19	古代	IV層	C		0.32				弧状	単層	SD1193を切る。SD961・963・974・978と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 963	7H-6C16・21	古代	IV層	C		0.22				弧状	単層	SD962と切り合いなし。SX631に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 965	7H-8B16・17・18	古代	IV層	C		0.25	0.03	2.66		弧状	単層	SD931を切る。SD792と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 966	7H-8B23・24	古代	IV層	C		0.28						SD905・913と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 967	7H-8B24	古代	IV層			0.27						SD905と切り合いなし。SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 968	7H-8B23・24、9B2・3	古代	IV層			0.28						SD905・931・987・1057と切り合いなし。SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 970	7H-6B25、6C21、7C1	古代	IV層	C		0.38				弧状	単層	SX631・647、SD626・646に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 973	7H-6C12・13・18・19・23・24	古代	IV層	C		0.44	0.03	2.80		弧状	単層	SD1072・3937を切る。SD962・973・974と切り合いなし。SX354・522に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 974	7H-6C12・13・17・18	古代	IV層	C		0.28				弧状	単層	SD973・978・1002と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 975	7H-6B19・24	古代	IV層	C	1.58	0.20				弧状	単層		×				
	19次	9区	SD 976	7H-10C9・10・15・20	古代	IV層	C		0.56	0.04	2.76		弧状	単層	SD1028を切る。SD455・1042に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 977	7H-10D1・6	古代	IV層	C	2.08	0.28				弧状	単層	SD1138に切られる。	×				
	19次	9区	SD 978	7H-6C12・13・17・18	古代	IV層	C		0.48	0.07	2.75		弧状	単層	SD973・974・962と切り合いなし。SX354に切られる。	×				小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 979	7H-7C1~5	古代	IV層	C		0.40	0.06	2.74		弧状	単層	SD893・906・980・983・992と切り合いなし。SD521に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 980	7H-6C23・24、7C4・9・14	古代	IV層	C		0.26				弧状	単層	SD979・1010・1043・1079と切り合いなし。SK640に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 983	7H-7C4・9・14	古代	IV層	C		0.28				弧状	単層	SD979・1010と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 985	7H-9B19・20・22~25、10B2・3	古代	IV層			0.86						SX433を切る。SD905・987・989・1092と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 986	7H-7C1・2	古代	IV層	C		0.30				弧状	単層	SD646・992と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 987	7H-9B2・7・8・13・18・23・24、10B3・4	古代	IV層	C		0.44	0.14	2.49		弧状	単層	SD898・930・968・985・989・1001・1055・1056・3935と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 989	7H-9B24	古代	IV層			0.28						SD985・987と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 990	7H-9B1・6・11・12・17・22	古代	IV層			(0.36)						SX433を切る。SD898・1001・1052・1053・1132と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 992	7H-7C1・6・7	古代	IV層	C		0.24				弧状	単層	SD986・979と切り合いなし。SX631に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 993	7H-7C7	古代	IV層	C		0.16				弧状	単層	SD893と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 994	7H-8A25、8B21	古代	IV層			0.24						SD1048・1049と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
67	19次	9区	SD 995	7H-6C14・15・19・20・25、7C5・10・15・20	古代	IV層	C		0.26	0.07	2.76		弧状	レンズ状	SD996・1018・1024・1026・1099・1299と切り合いなし。SD521・752・997に切られる。	×				小溝状遺構群。
67	19次	9区	SD 996	7H-7C5・10・15・20	古代	IV層	C		0.30	0.04	2.80		弧状	単層	SD757・995・1026と切り合いなし。SD997に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 997	7H-7C15・20	古代	IV層	C		0.36	0.04	2.79		弧状	単層	SD995・996を切る。SD521に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 999	7H-9B16・17・21・22	古代	IV層			0.20						SX433を切る。SD930・898と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1000	7H-9B11・16・21	古代	IV層			0.40						SD930・1001・1132と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1001	7H-9A20、9B8・9・11~14・16	古代	IV層			0.64						SD931・936・939・987・990・1000・1055・1056・1057・3933と切り合いなし。SD455・937・1320に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1002	7H-6C12・17	古代	IV層	C		0.18				弧状	単層	SD959を切る。SD974と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1003	7H-9B3・4・5	古代	IV層			0.35						SD905・931・1057と切り合いなし。SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。
73	19次	9区	SD 1004	7H-8A23、9A3・4	古代	IV層	C		0.92	0.28	2.32		弧状	レンズ状	SD3933を切る。SD455に切られる。	×				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	備考		
								長軸	短軸											
73	19次	9区	SD 1005	7H-8A22・23、9A2・3・8	古代	IV層	C		2.12	0.05	2.56		弧状	単層	SX3952に切られる。	×				
68	19次	9区	SD 1007	7H-7C25、8C5・10・15	古代	IV層	C		0.25	0.07	2.71		弧状	単層	SD912・944・1008と切り合いなし。SD1009に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1008	7H-8C5、8D1	古代	IV層	C		0.30				弧状	単層	SD1007・1068と切り合いなし。SD656に切られる。	×				小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 1009	7H-7C25	古代	IV層	C		0.20	0.06	2.73		弧状	単層	SD1007を切る。SD521に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1010	7H-7C9・10	古代	IV層	C		0.40				弧状	単層	SD980・983と切り合いなし。SD521に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1012	7H-8C21、9C1・2・6・7	古代	IV層	C		0.28						SD887・888・1013・1015・1016と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1013	7H-8C21・22、9C1	古代	IV層	C		0.33						SD1012・1019と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1015	7H-9C6・7	古代	IV層	C		0.18						SD1012と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1016	7H-9C1・2・6	古代	IV層	C		0.33						SD826・1012・1019と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1017	7H-8B24・25	古代	IV層	C		0.33						SD806と切り合いなし。SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1018	7H-6C25、6D21	古代	IV層	C		0.40				弧状	単層	SD995と切り合いなし。SD538に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1019	7H-8C22・9C2	古代	IV層	C		0.37						SD1013・1016と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1020	7H-7D11・12・16	古代	IV層	C		0.28				弧状	単層	SD1001・1052・1053・1132を切る。SD747・1021・1034と切り合いなし。SD455・1033に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1021	7H-7D11・16・17	古代	IV層	C		0.32				弧状	単層	SD1020と切り合いなし。SD740・741に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1022	7H-7D11・16	古代	IV層	C		0.20				弧状	単層	SD740・741に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1024	7H-6C25、7C5	古代	IV層	C		0.14				弧状	単層	SD995と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1026	7H-7C10、7D6	古代	IV層	C		0.36	0.07	2.90		弧状	単層	SD995・996と切り合いなし。SD521・656に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1028	7H-10C15		IV層			0.30						SD744・976・1042に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1029	7H-10D11・12	古代	IV層	C		0.28	0.09	2.66		弧状	単層	SD1030と切り合いなし。SK1172、SX803、SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1030	7H-10D6・11・16	古代	IV層	C		0.44	0.04	2.68		弧状	単層	SD1129と切り合いなし。SX803、SD744に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1033	7H-7D6・11・12	古代	IV層	C		0.36				弧状	単層	SD707・747・1020を切る。	×				
	19次	9区	SD 1034	7H-7D11・12・17	古代	IV層	C		0.40				弧状	単層	SD747・1020・1068と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1035	7H-8B19・24	古代	IV層	C		0.26						SD760・791・806・913と切り合いなし。SD1044に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1036	7H-8B19・20	古代	IV層	C		0.36						SD760・790・806と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1037	7H-7D1・2	古代	IV層	C		0.22				弧状	単層	SD1038・1039と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1038	7H-7D1・6	古代	IV層	C		0.24				弧状	単層	SD757・1037と切り合いなし。SD752に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1039	7H-7D2・7	古代	IV層	C		0.32				弧状	単層	SD757・1037と切り合いなし。SD714に切られる。	×				小溝状遺構群。
75	19次	9区	SD 1041	7H-10C9・10・13~15	古代	IV層	C		0.32	0.07	2.72		弧状	単層	SD1042・1084と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1042	7H-10C9・10・15	古代	IV層	C		0.30	0.03	2.77		弧状	単層	SD976・1028を切る。SD1041・1087と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 1043	7H-6C22・23・24	古代	IV層	C		0.52	0.06	2.74		弧状	単層	SD980と切り合いなし。SE382、SK354に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1044	7H-8B16~19・21・22		IV層			0.42						SD791・792・913・931・1090・1035を切る。	×				
	19次	9区	SD 1045	7H-8A19・20、8B16	古代	IV層	C		0.30						SD1046・1048と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1046	7H-8A20、8B16・17	古代	IV層	C		0.36						SD807を切る。SD931・1045・1047・1048と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1047	7H-8A19・20	古代	IV層	C		0.32						SD931・1046・1048・1049と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1048	7H-8A20・25	古代	IV層	C		0.38	0.05	2.61		弧状	単層	SD994・1045・1046・1047と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1049	7H-8B16	古代	IV層	C		0.20						SD994・1047と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1050	7H-8A25、8B21、9A5、9B1	古代	IV層	C		0.25	0.04	2.58		弧状	単層	SD1051・1196と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1051	7H-9B1	古代	IV層	C		0.21				弧状	単層	SD1050と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1052	7H-9B6	古代	IV層	C		(0.40)						SD990・1132と切り合いなし。SD455・1320に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1053	7H-9B1・2・6	古代	IV層	C		0.32						SD990と切り合いなし。SD455・1320に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1054	7H-9B2・3・7・8	古代	IV層	C		0.32						SD931・1055と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1055	7H-9B8	古代	IV層	C		0.36						SD987・1001・1054・1132と切り合いなし。SD455に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1056	7H-9B13	古代	IV層	C		0.20						SD987・898・1001と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1057	7H-8B23、9B3・4・9・14	古代	IV層	C		0.40						SD898・905・930・931・936・968・1001・1003・3935と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1058	7H-7D2~4	古代	IV層	C		0.36				弧状	単層	SD757と切り合いなし。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1059	7H-9C15・17~22、9D11	古代	IV層	C		0.32	0.07	2.72		弧状	単層	SD851・1064・1084・1091・1138・1178・3945と切り合いなし。SD721・722・744に切られる。	×				小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1061	7H-9C19・20・23~25、9D16・17	古代	IV層	C		0.50	0.06	2.74		弧状	単層	SD851・1064・1065・1066・1091・1092・1138・1178・3945と切り合いなし。SD722・744・852に切られる。	×				小溝状遺構群。

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の 有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
	19次	9区	SD 1062	7H-9C24・25、9D17・21・22	古代	IV層			0.44						SD851・1064・1065・1066・1138・1178・3945と切り合いなし。SD744に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1063	7H-10C4・5、10D1	古代	IV層			0.64						SD1064・1064・1138と切り合いなし。SD744・943に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1064	7H-9C10・15・20、9D11・16・21、10D1・2	古代	IV層			0.36	0.07	2.64				SD1059・1061・1062・1063・1065と切り合いなし。SK1032に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1065	7H-9D16・21	古代	IV層			0.20						SD1061・1062・1064と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1066	7H-9D16・21・22	古代	IV層			0.24						SD1061・1062・1065・3945と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1068	7H-7D16・17・21・22、8D1	古代	IV層			1.28						SD1008・1034と切り合いなし。SD741に切られる。	×	324		小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1070	7H-10C1・6・11	古代	IV層	C		0.32	0.03	2.63	弧状	単層		SX1380、SD1071・1371・1372と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1071	7H-10B10、10C1・6・7・12	古代	IV層	C		(0.24)	0.03	2.63	弧状	単層		SD1070・1089・1091・1370と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1072	7H-6C12~14	古代	IV層	C		0.26			弧状	単層		SD521・973に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1075	7H-6B10・14・15	古代	IV層	C		0.26	0.08	2.72	弧状	単層		SD519・617に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1076	7H-6C8・9・13・14	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層		SD1077と切り合いなし。SD521に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1077	7H-6C3・8・9・13・14	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層		SD1076・1081と切り合いなし。SD521・524・525に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1078	7H-6B10、6C1・2・6・7	古代	IV層	C		0.26	0.05	2.89	弧状	単層		SD1093・1100と切り合いなし。SD523に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1079	7H-6C24、7C3・4	古代	IV層	C		0.26			弧状	単層		SD980と切り合いなし。SE382、SD906に切られる。	×			小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 1080	7H-6C15・20	古代	IV層	C	1.30	0.28	0.03	2.80	弧状	単層			×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1081	7H-6C8・9	古代	IV層	C		0.28			弧状	単層		SX1097を切る。SD1077・3937と切り合いなし。SD521に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1082	7H-9C12・13	古代	IV層			0.72						SD1083・1084と切り合いなし。SD721に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1083	7H-9C12・17	古代	IV層			0.22						SD1082と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1084	7H-9C12・13・17・18・22・23、10C3・8・13	古代	IV層			0.36						SD1041・1059・1082・1085・1086・1087・1089と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1085	7H-10C8・9	古代	IV層			0.24						SD1084・1086と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1086	7H-10C8・9	古代	IV層	C		0.24	0.10	2.70	弧状	単層		SD1084・1085と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
75	19次	9区	SD 1087	7H-10C8・9・12・13	古代	IV層	C		0.36	0.09	2.70	弧状	単層		SD1042・1084・1091と切り合いなし。SD455・744に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1089	7H-9C23、10C1~3	古代	IV層			0.32						SD905・1071・1084・1091と切り合いなし。SD455・744に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1090	7H-8B14・15・17・18・19		IV層			0.30						SD791・792と切り合いなし。SD1044に切られる。	×			
	19次	9区	SD 1091	7H-9C22、10C2・7・8・12・13	古代	IV層	C		0.36						SD1059・1061・1071・1087・1089と切り合いなし。SD455・744・1354に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1092	7H-9B24・25、10B5、10C1	古代	IV層			0.24						SD1061を切る。SD985と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。
127	19次	9区	SD 1093	7H-5C22・23、6C1・2・3	古代	IV層	C		0.35	0.21	2.64	弧状	単層		SX1104を切る。SD1078・1095・1096・1100と切り合いなし。SX1147、SD521に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1094	7H-5C23、6C3	古代	IV層	C		0.26			弧状	単層		SD1095と切り合いなし。SX1147に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1095	7H-5C12・17・18・23、6C3	古代	IV層	C		0.22	0.03	2.84	弧状	単層		SD1093・1094と切り合いなし。SD523に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1096	7H-5C17・22、6C2	古代	IV層	C		0.24	0.06	2.78	弧状	単層		SD1093と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
75	19次	9区	SD 1098	7H-9D12	古代	IV層	C	1.00	0.28	0.06	2.74	弧状	単層		SD776・777・3945を切る。	×			
	19次	9区	SD 1099	7H-6C14・15・20	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層		SD995と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1100	7H-5B20、5C16・21・22、6C2	古代	IV層	C		0.54	0.10	2.74	弧状	単層		SD1001・1078・1093と切り合いなし。SD523に切られる。	×			
	19次	9区	SD 1102	7H-7C1・2・3	古代	IV層	C		0.48			弧状	単層		SD893・1103と切り合いなし。SX631に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1103	7H-6C22、7C2・3	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層		SD893・1102・1182と切り合いなし。SK354に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1105	7H-10E7・8		IV層			0.24	0.05	2.76	弧状	単層			×			
	19次	9区	SD 1106	7H-10E12		IV層			0.54	0.20						×			
	19次	9区	SD 1108	7H-10E12		IV層			0.38	0.22						×			
	19次	9区	SD 1110	7H-10E16・21	古代	IV層	C		0.24	0.04	2.73	弧状	単層		SX746を切る。	×			
	19次	9区	SD 1112	7H-10D20	古代	IV層	C	0.56	0.16	0.04	2.78	弧状	単層			×			
75	19次	9区	SD 1113	7H-10D18・19・22・23	古代	IV層	C		0.40	0.06	2.70	弧状	単層		SX803、SD744に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1119	8H-1D9	中世	IV層	B		0.24	0.04	2.76	弧状	単層		SD1120と切り合いなし。	×			
	19次	9区	SD 1120	8H-1D9	中世	IV層	B		0.32			弧状	単層		SD1119と切り合いなし。SD744に切られる。	×			
	19次	9区	SD 1121	7H-9D22・23	古代	IV層	C		0.20	0.04	2.75	弧状	単層		SD1122と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1122	7H-9D17・18・22・23	古代	IV層	C		0.40	0.04	2.75	弧状	単層		SD1121・1123と切り合いなし。SD702に切られる。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1123	7H-9D17・18・23	古代	IV層	C		0.32	0.04	2.75	弧状	単層		SD1122・3945と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1124	7H-6D12・13・17・18	古代	IV層	C		0.28			弧状	単層		SD1125と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
	19次	9区	SD 1125	7H-6D13・17・18	古代	IV層	C		0.20			弧状	単層		SD1124と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。
68	19次	9区	SD 1126	7H-5D22、6D2・7・8・13・14・18	古代	IV層	C		0.24	0.03	2.88	弧状	単層		SD1194・1136・1143と切り合いなし。P607に切られる。	×			小溝状遺構群。

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考	
								上端		深度		平面	断面		堆積形状	遺物の 有無			遺物の種類
								長軸	短軸										
	19次	9区	SD 1127	7H-5C14・18・19	古代	IV層	C		0.18	0.03	2.89	弧状	単層	SD521・543に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1129	7H-5C20・25、6C5	古代	IV層	C		0.28	0.03	2.86	弧状	単層	SD1130と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1130	7H-5C25	古代	IV層	C		0.26			弧状	単層	SD1129と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
73	19次	9区	SD 1132	7H-9A14・15、9B6・7・8・11	古代	IV層	C		0.32	0.04	2.58	弧状	単層	SD990・1000・1052・1055・3933と切り合いなし。SD455・1320に切られる。	○	土師器	小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1134	7H-6D1・2・6・7・11	古代	IV層	C		0.32			弧状	単層	SD1136・1143と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1136	7H-6・7・8・13	古代	IV層	C		0.48			弧状	単層	SD1126・1134と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1138	7H-9C15・20・25、9D21、10C5・10、10D1・6	古代	IV層	C		0.32	1.50	2.66	弧状	単層	SD977を切る。SD1059・1061・1062・1063と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1139	7H-10D16	古代	IV層	C		0.14	0.05	2.75			SD1140と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 1140	7H-10D16・17・21	古代	IV層	C		0.20	0.05	2.75	弧状	単層	SD1139と切り合いなし。SD744に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1141	7H-10D22	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD1142と切り合いなし。SD744に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1142	7H-10D22	古代	IV層	C		0.20	0.03	2.78	弧状	単層	SD1141と切り合いなし。SD744、SX925に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1143	7H-6D1～5、6E1	古代	IV層	C		0.32			弧状	単層	SD1126・1134・1221・1222と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1144	7H-9E14・19・15・19・20	中世	IV層	B		(0.70)	0.03	2.93	弧状	単層	SD531と切り合いなし。SD528・3948に切られる。	×				
68	19次	9区	SD 1151	7H-5D18・23、6D3・8・9・14	古代	IV層	C		0.28	0.03	2.90	弧状	単層	SD1238と切り合いなし。SD534に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1157	7H-10D13		IV層	C	0.92	0.24					SX803を切る。	×				
	19次	9区	SD 1161	7H-6E15・20	古代	IV層	C		0.48	0.05	2.91	弧状	単層	SD1163と切り合いなし。SD421・507に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1162	7H-6E20、6F16	古代	IV層	C		0.20	0.06	2.82	弧状	単層	SD1163と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1163	7H-6E15・20、6F11	古代	IV層	C		0.18	0.05	2.89	弧状	単層	SD1161・1162と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1164	7H-9E14・19	古代	IV層	C		0.20	0.05	2.91	弧状	単層	SD531に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1165	7H-9E18・19	古代	IV層	C		0.26			弧状	単層	SK1166、SX555、SD531に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1167	7H-7E15	古代	IV層	C		0.34	0.12	2.81	弧状	レンズ状	SD285・461に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1168	7H-6F11・16	古代	IV層	C		0.21	0.04	2.86	弧状	単層	SD1169と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1169	7H-6F16	古代	IV層	C		0.41	0.04	2.86	弧状	単層	SD1168と切り合いなし。SX454に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1170	7H-7E10・15・20、7F6・8・9・11～24	古代	IV層	C			0.04	2.89	弧状	単層	SD504を切る。SE468、SD477・503に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1171	7H-6F1・6	古代	IV層	C	1.76	0.34	0.09	2.80	弧状	単層		×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1173	7H-7E4・5	古代	IV層	C		0.30	0.02	2.86	弧状	単層	SD1174と切り合いなし。SD285に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1174	7H-7E4・9	古代	IV層	C		0.22	0.02	2.86	弧状	単層	SD1173と切り合いなし。SD509・802・861に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1175	7H-6C23、7C3	古代	IV層	C		0.20			弧状	単層	SX354に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1178	7H-9C14・19・20・25、10C5	古代	IV層	C		0.60			弧状	単層	SD1059・1061・1162と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1180	7H-6E3・8・12・13・18・19	古代	IV層	C		0.28	0.06	2.86	弧状	単層	SD1181と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1181	7H-6E3・4・7・8・9	古代	IV層	C		0.44	0.06	2.86	弧状	単層	SD1180と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1182	7H-6C22	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層	SD1103と切り合いなし。SK354に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1185	7H-9E13・14	古代	IV層	C		0.18			弧状	単層	SD528・716に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1187	7H-7E1・2	古代	IV層	C		0.22			弧状	単層		×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1188	7H-6E16・17・21・22	古代	IV層	C		0.18			半円状	単層	SD1189・1190と切り合いなし。SK354に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1189	7H-6E16・21	古代	IV層	C		0.36			半円状	単層	SD1188と切り合いなし。SD511に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1190	7H-6E17・22	古代	IV層	C		0.16			半円状	単層	SD1188と切り合いなし。SD511に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1193	7H-6C17・22	古代	IV層	C		0.30			弧状	レンズ状	SK354、SD962に切られる。	×		小溝状遺構群。		
68	19次	9区	SD 1194	7H-5D18・22・23	古代	IV層	C		0.32	0.03	2.90	弧状	単層	SD1126・1203と切り合いなし。SX1218、SD550に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1196	7H-8A25、8B21、9A5・9・10、9B1	古代	IV層	C		0.29	0.70	2.60	弧状	単層	SD3933と切り合いなし。SD455に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1197	7H-5C3	古代	IV層	C	0.76	0.14			弧状	単層		×				
	19次	9区	SD 1198	7H-5C3	古代	IV層	C	0.92	0.20			弧状	単層		×				
	19次	9区	SD 1199	7H-5C3・4	古代	IV層	C		0.22			弧状	単層	SD1200と切り合いなし。SD237に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1200	7H-5C3・4・9	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD1199と切り合いなし。SD237に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1202	7H-5C10、5D6・11	古代	IV層	C		0.18			弧状	単層	SX431、SD239に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1203	7H-5D17・18・23	古代	IV層	C		0.26			弧状	単層	SD1194と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 1206	7H-5D17・18	古代	IV層	C		0.19			弧状	単層	SD534に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1207	7H-6G2	古代	IV層	C		0.30	0.07	2.90	弧状	単層	SD1208を切る。SD105に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1208	7H-6G2・3・7	古代	IV層	C		0.20	0.06	2.83	弧状	単層	SD1207に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1209	7H-5C4	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD98・240に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1211	7H-5F25、5G21、6F5、6G1	古代	IV層	C		0.54			弧状	単層	SD423・457に切られる。	○	土師器			
68	19次	9区	SD 1213	7H-5D19	古代	IV層	C		0.40	0.08	2.89	弧状	レンズ状	SD239に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1219	7H-5D25、5E21	古代	IV層	C		0.25	0.06	2.87	弧状	単層	SD1221・1222・1252と切り合いなし。SD356に切られる。	×		小溝状遺構群。		
	19次	9区	SD 1220	7H-6G4・9	古代	IV層	C		0.25	0.04	2.96	弧状	単層	SD452に切られる。	×		小溝状遺構群。		
68	19次	9区	SD 1221	7H-5D25、6D5・10	古代	IV層	C		0.36	0.04	2.88	弧状	単層	SD1143・1219・1238と切り合いなし。	×		小溝状遺構群。		

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
68	19次	9区	SD 1222	7H-5E21、6E1・6	古代	IV層	C		0.24	0.02	2.90	弧状	単層	SD1143・1219・1224・1225と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
68	19次	9区	SD 1223	7H-5D19・24、6D4	古代	IV層	C		0.22	0.08	2.84	弧状	単層	SK539に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1224	7H-5E21、6E1	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD1222と切り合いなし。SD356に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1225	7H-5D25、6D5、6E1	古代	IV層	C		0.20					SD1219・1222と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1226	7H-5E21・22	古代	IV層	C		0.18			弧状	単層	SD498に切られる。	×			小溝状遺構群。	
71	19次	9区	SD 1231	7H-5E5・10、5F1・6	古代	IV層	C		0.34	0.08	2.98	弧状	単層	SD1232を切る。SE31に切られる。	×				
71	19次	9区	SD 1232	7H-5E10、5F6~8	古代	IV層	C		0.42	0.04	3.02	弧状	単層	SE31・32、SD46・87・1231に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1233	7H-5G16・17・21		IV層			0.24					SK450、SD239・423・451に切られる。	○	土師器			
	19次	9区	SD 1238	7H-5D23・25、6D5	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層	SD1151・1221と切り合いなし。SK1230に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1240	7H-5C9・14	古代	IV層	C	0.14	0.20	0.05	2.76	弧状	単層	SD238に切られる。	×				
68	19次	9区	SD 1241	7H-5E14・15・19・20	古代	IV層	C		0.74	0.09	2.98	弧状	単層	SD15・239に切られる。	○	土師器			
68	19次	9区	SD 1242	7H-5E4・9・10・14・15・20	古代	IV層	C		0.39	0.04	3.00	弧状	単層	SD1265と切り合いなし。SK22・202、SD15・239・1244に切られる。	×				
68・129	19次	9区	SD 1244	7H-5E9・10・12~14	古代	IV層	C		0.40	0.13	2.92	弧状	単層	SX1264、SD87・1242を切る。SD1263と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 1246	7H-7D5		IV層			0.20					SD1147と切り合いなし。SD509に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1247	7H-7D5		IV層			0.14					SD1146と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 1258	7H-5E11・12	古代	IV層	C		0.44	0.21	2.83	弧状	レンズ状	SD15・301に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1261	7H-4C10・15	古代	IV層	C		0.37			弧状	単層	SD210に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1263	7H-5E12・17	古代	IV層			0.26					SD1244と切り合いなし。SD15・239・417に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1265	7H-5E4・5	古代	IV層			0.30					SD87を切る。SD1242と切り合いなし。	×				
68	19次	9区	SD 1267	7H-5D20	古代	IV層	C		0.33	0.12	2.90	弧状	レンズ状	SD239に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1268	7H-4C10、4D1・6	古代	IV層	C		0.56			弧状	単層	SD75・190に切られる。	×			小溝状遺構群?	
	19次	9区	SD 1275	7H-4D7	古代	IV層	C		0.28			弧状	斜位	SD1286と切り合いなし。	×			小溝状遺構群?	
	19次	9区	SD 1276	7H-4D2・7	古代	IV層	C		0.28			弧状	単層	SD75に切られる。	×			小溝状遺構群?	
	19次	9区	SD 1278	7H-6F20、6G16	古代	IV層	C		0.20	0.03	2.90	弧状	単層	SD445・448に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1279	7H-6F20	古代	IV層	C		0.18			弧状	単層	SD448に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1280	7H-6F15・20	古代	IV層	C	0.98	0.15	0.03	2.85	弧状	単層	SD448に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1281	7H-6F15、6G11・16	古代	IV層	C		0.23	0.03	2.93	弧状	単層	SD445・448に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1283	7H-7F5、7G1	中世	IV層	B		0.19	0.02	2.90	弧状	水平	SD105・3936に切られる。	×				
68	19次	9区	SD 1284	7H-4E19・24	中世	IV層	A		0.37	0.14	3.08	弧状	レンズ状		×				
68	19次	9区	SD 1285	7H-5D13	古代	IV層	C		0.25	0.05	2.91	弧状	単層	SD239に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1286	7H-4D1・6・7	古代	IV層	C		0.44			弧状	単層	SD1275と切り合いなし。SD190に切られる。	×			小溝状遺構群?	
68	19次	9区	SD 1287	7H-5E11・16	古代	IV層	C		0.23	0.06	2.96	弧状	単層	SD15・239に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1290	7H-5D5・10、5E1	古代	IV層	C		0.18			弧状	単層		×				
	19次	9区	SD 1291	7H-5E6	古代	IV層	C		0.22			弧状	単層	SD1293と切り合いなし。SX337、SD302に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1293	7H-5E6	古代	IV層	C		0.40			弧状	単層	SD1291と切り合いなし。SD302に切られる。	×			小溝状遺構群。	
120	19次	9区	SD 1294	7H-5D1・6	古代	IV層			0.12	0.04	2.91			SX146に切られる。	×				
68	19次	9区	SD 1295	7H-5D15・20	古代	IV層	C		0.25	0.15	2.87	U字状	レンズ状	SD239に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1297	7H-4C25・4D21	古代	IV層	C		0.20			弧状	単層	SD166に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1299	7H-6C20・25、6D21	古代	IV層	C		0.24			弧状	単層	SD995と切り合いなし。SD537に切られる。	×			小溝状遺構群。	
68・123	19次	9区	SD 1303	7H-7C11・12・17・23、8C3	古代	IV層	C		0.34	0.02	2.70	弧状	単層	SD896・901・902・903を切る。SD725に切られる。	×				
68	19次	9区	SD 1304	7H-7C13・18・19	古代	IV層	C		0.27	0.03	2.73	弧状	単層	SD900・906・1305・1306と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1305	7H-7C13	古代	IV層			0.56					SD1304と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1306	7H-7C13	古代	IV層			0.20					SD1304・1307と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1307	7H-7C13・18	古代	IV層			0.22					SD1306と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1320	7H-9B1・6・7・12	古代	IV層	C		(0.36)	0.05	2.59	弧状	単層	SD1001・1052・1053・1132を切る。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1321	7H-9B2・7		IV層		1.46	0.28						×				
75	19次	9区	SD 1332	8H-1D12・13・17・18・22・23、2D2	古代	IV層	C		0.42	0.04	2.80	弧状	単層	SD1333・1347・3927と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1333	8H-1D17・18	古代	IV層			0.40					SD1332・1334と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1334	8H-1D17・22、2D2	古代	IV層			0.50					SD1333と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
75	19次	9区	SD 1335	8H-1C3・8	中世	IV層	B	1.40	0.48	0.09	2.56	弧状	単層		×				
	19次	9区	SD 1336	8H-1C6・7・8		IV層			0.34	0.10	2.57				×				
	19次	9区	SD 1337	7H-10B24・25、10C21・22・23、8H-1B4・5、1C1	古代	IV層	C		0.58	0.10	2.65	弧状	単層	SD1340を切る。SD1350・1353・1354と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1338	7H-10B23・24	古代	IV層	C		0.28	0.04	2.59	弧状	単層	SD1342と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 1339	7H-10B24・25	古代	IV層			0.32					SD1342と切り合いなし。	×				

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物 の種類	掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面						
								長軸	短軸										
	19次	9区	SD 1340	7H-10B20・25、8H-1B5	古代	IV層	C		0.36	0.03	2.58	弧状	単層	SD1337に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1341	7H-10B18・19・20	古代	IV層	C		0.52	0.12	2.52	弧状	レンズ状	SD1342と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 1342	7H-10B2・3・7・8・12・13・17・18・23・24、8H-1B3・4	古代	IV層	C		0.98	0.12	2.52	弧状	レンズ状	SD1361を切る。SD433・1338・1339・1341と切り合いなし。	×				
	19次	9区	SD 1343	8H-1D18		IV層			0.28			弧状		SD455に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1345	8H-1D16・21	中世	IV層	B		0.50			弧状	レンズ状		×				
75	19次	9区	SD 1346	8H-1C3~5・10・15・20・25、1D1	古代	IV層	C		0.86	0.07	2.70	弧状	単層	SD1369を切る。SD1354と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1347	8H-1C15、1D6・11・12・13	古代	IV層	C		(0.32)					SD1332・1348と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1350	7H-10B25、10C17・21・22、8H-1C1	古代	IV層	C		(0.48)			弧状	単層	SD1337と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1353	7H-10C17・22、8H-1C2	古代	IV層	C		0.30			弧状	単層	SD1337・1367と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1354	7H-10C12・13・17・18・23、8H-1C3	古代	IV層			(0.32)					SD1091を切る。SD1337・1346・1367と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。	
73	19次	9区	SD 1356	7H-10B13・18・19	古代	IV層	C		0.28	0.02	2.62	弧状	単層	SD1374を切る。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1361	7H-10B13	古代	IV層	C	(0.66)	0.24	0.08	2.52	弧状	単層	SD1342に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1367	7H-10C16・17・18	古代	IV層	C		0.52			弧状	単層	SD1353・1354と切り合いなし。SD455に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1368	8H-1D6		IV層			0.52	0.18					×				
	19次	9区	SD 1369	8H-1C19・20、1D12・13・16・17		IV層			0.28					SD1346に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1370	7H-10B10・15、10C6・11	古代	IV層	C		0.34	0.03	2.60	弧状	単層	SD1071・1372・1373と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1371	7H-10C11・16・17	古代	IV層			0.14					SX1380、SD1372・1373と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1372	7H-10C11	古代	IV層	C		0.32			弧状	単層	SD1070・1370・1371と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1373	7H-10B15、10C11	古代	IV層	C		0.40	0.04	2.61	弧状	単層	SD1370・1371と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1374	7H-10B3・4・8・9・13・14	古代	IV層	C		0.56	0.04	2.60	弧状	単層	SD1393と切り合いなし。SD1356に切られる。	×			小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 1376	7H-10B9・14		IV層			0.20						×				
	19次	9区	SD 1377	7H-10B14・15		IV層			0.32	0.12					×				
73	19次	9区	SD 1385	7G-9J20・25	古代	IV層	C	1.26	0.32	0.11	2.50	弧状	単層	SX1384・3953、SD1390を切る。	×				
	19次	9区	SD 1387	7H-10B17・22	古代	IV層	C		0.24	0.08	2.54	弧状	単層		×				
	19次	9区	SD 1389	7H-9A16	古代	IV層	C		0.20	0.03	2.53	弧状	単層	SD1390と切り合いなし。	×				
73	19次	9区	SD 1390	7G-9J5・10・15、7H-9A6・11・16・21	古代	IV層	C		1.40	0.06	2.52	弧状	斜位	SK1394・3925を切る。SX1384、SD1389と切り合いなし。SD1385に切られる。	×				
	19次	9区	SD 1393	7H-10B8・9	古代	IV層			0.26	0.06	2.57			SD1374と切り合いなし。	×			小溝状遺構群。	
59・94・116	20次	9区	SD 1423	6H-8F20・25、8G11~14・16・17・21	中世	IV層	A		0.60	0.32	2.96	弧状		SE1433、SK2499、P3817を切る。	○	土師器			
59・90	20次	9区	SD 1599	6H-10G25、10H21・22、7H-1G5・10、1H2	中世	IV層	A		0.57	0.12	3.22	弧状	レンズ状	SD1600を切る。P2761・2766に切られる。	○	土師器、須恵器			
59・63・79・88	20次	9区	SD 1600	6H-10E24、7H-1E4・5・9・10、1F1・2・6~10、1G1~10・14・15	古代	IV層	C		0.88	0.13	3.18	弧状	レンズ状	SD2235・3633を切る。SX2066・2140、SD1599・1661・2072・2092・2123・2224、P1628・2077・2139・2147・2777・2789・2801・2854・2955・2957に切られる。	○	縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器	469		
63・97・100・104・105・117	20次	9区	SD 1622	6H-10G18・23、7H-1G3・8・9・13・14・18・22・23、1H22・23、2G3~5、2H1・2	古代	IV層	C		1.50	0.16	3.15	弧状	レンズ状	SD2270・3010を切る。SE2274、SD2072・2192・3005・3008、P1754・2082に切られる。	○	土師器、須恵器			
59	20次	9区	SD 1623	6H-10G22・23、7H-1G3	古代	IV層	C	1.57	0.28	0.04	3.29	弧状	単層		×				
63・95・113	20次	9区	SD 1653	6H-10F18~20・23・24	中世	IV層	A	2.61	0.53	0.14	3.20	弧状	レンズ状	SE1652を切る。SK1654に切られる。	○	土師器、須恵器			
63	20次	9区	SD 1655	6H-10F17~19	中世	IV層	A	2.54	0.71	0.20	3.12		レンズ状		○	土師器、黒色土器、須恵器			
63・64・88・99・102・104・105・117	20次	9区	SD 1661	6H-10F6・7・11・12・17・22、7H-1F2・3・8・13・14・18・19・24、2F4・5・9・10・15・20、2G11・16・21、3G1・2・6・7・12・17・18・22・23、4G3・8・9・14・19・20・25、4H21、5G5、5H1・2・6・7・12	中世	IV層	A		1.21	0.38	2.91	弧状	レンズ状	SE2153・2868・2936・3329・3372、SK3177・3197・3281、SD1600・2123・2192・2705・3308・3331・3360・3381・3384・3401・3402、SX2576・3803、P2955・2957・3086・3343・3654を切る。SD3087、P2930・3294に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、瓷器系、石器・石製品	470~473・566		
	20次	9区	SD 1665	6H-10F14・19		IV層			1.78	0.59					○	土師器			
59	20次	9区	SD 1682	6H-10F24、7H-1F4	古代	IV層	C	1.74	0.44	0.19	3.03	半円状	レンズ状		×				
	20次	9区	SD 1727	7H-3I17・22	古代	IV層	C	0.71	0.23			半円状	単層	SX1755に切られる。	×				
63	20次	9区	SD 1734	7H-3H9・10・14・15	中世	IV層	B	1.01	0.15	0.02	3.25	弧状	単層		×				
60	20次	9区	SD 1748	7H-1H16・17・21・22	古代	IV層	C		0.36	0.22	3.02	弧状	ブロック状	SK1965、SD2192に切られる。	○	土師器			
63	20次	9区	SD 1825	7H-1H23、2H2・3・7・8	中世	IV層	B		0.60	0.32	2.93	半円状	レンズ状	SE1826に切られる。	○	土師器			
	20次	9区	SD 1855	7H-3H12	中世	IV層		1.10	0.42			弧状			×				
	20次	9区	SD 1969	7H-1H22		IV層			(0.29)					SK1965に切られる。	×				
60	20次	9区	SD 1976	7H-2H3・4	中世	IV層	A		0.31	0.07	3.17	弧状	レンズ状	SD3046を切る。	×				
	20次	9区	SD 2058	7H-2D19	古代	IV層	C		0.20			弧状		SD2245に切られる。	○	土師器			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	短軸	深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
	20次	9区	SD 2071	7H-1G14・19	古代	IV層	C		1.00				弧状		SE1792、P3105に切られる。	×				
59・63	20次	9区	SD 2072	7H-1G8～10・13・14	中世	IV層	B		0.70	0.18	3.15		半円状	レンズ状	SD1600・1622、P2077・2777を切る。P2776に切られる。	○	土師器			
63・88・104・118	20次	9区	SD 2092	6H-10E15・20・25、10F16・21、7H-1F1・6・7・11・12・17・22、2F2・3・8・13・14・18・19・24・25、3F4・5・10・15・20、3G11・16・21、4G1・6・7・12・13・17・18	中世	IV層	A		1.10	0.22	3.12		半円状	レンズ状	SE3172・3579、SK3225・3437、SD1600・2192・2359・2705・3296・3347・3384・3594・3893、P1678・3572を切る。	○	縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、古瀬戸	474・475		
	20次	9区	SD 2123	6H-10F23・24、7H-1F3・4・9・10・14・15・19・20・25、2F5	中世	IV層			1.80				弧状か?		SK2290、SD1600を切る。SD1661・2192・2560、P2124・2155・2877に切られる。	×				
82・115・133	20次	9区	SD 2141	6H-10E24・25、7H-1E4・5・9・10・14・15・19・24・25、2E4・9・14・19	古代	IV層	C			0.20	3.10		弧状	レンズ状	SK2279・P3094を切る。SK1522、SX2140、SD1600・2192・2194・2195・3296、P3100・3161に切られる。	○	縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、鍛冶関連遺物、木製品	476・673		
	20次	9区	SD 2143	7H-1F6・11				1.73	0.40							○	須恵器			
	20次	9区	SD 2162	7H-2D14・15・19・20・25	古代	IV層	C		1.80	0.17	3.01		弧状		SD2245・3477を切る。	○	土師器、須恵器			
83・115	20次	9区	SD 2167	7H-2E1～3・6～8	古代	IV層	C		1.20	0.10	2.70		弧状	レンズ状	SK2365、SD2172、P2386・3299に切られる。	○	土師器、須恵器			
	20次	9区	SD 2171	7H-2D10・15・20、2E16	古代	IV層	C		0.45	0.10	3.14		弧状	レンズ状	SD3296に切られる。	○	土師器	477		
	20次	9区	SD 2172	7H-2E6～8・12	古代	IV層	C		0.55	0.10	3.18		弧状	レンズ状	SD2167を切る。SK2365、2367に切られる。	○	土師器			
63・82・103・115・118・133	20次	9区	SD 2192	7H-1E22～25、1F21～25、1G16・21～25、1H12・16・17・21、2E1～5、2D5、2F1	中世	IV層	A		1.40	0.37	2.92		弧状	レンズ状	SK2290、SX2253、SD1622・1748・2123・2141・2195・2205・2224・2270・3915を切る。SE2953・2978、SD1661・2092・2194、P1643・3161に切られる。	○	縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、石器・石製品	478～480・567、第20図1		
81・83・117・135	20次	9区	SD 2194	7H-2E4・5・10・15・20・25、2F16・21、3F1	中世	IV層	A		0.80	0.17	3.15		弧状	レンズ状	SK3173、SX3349、SD2141・2192、P2221を切る。P2275・3110・3174・3421に切られる。	○	土師器、須恵器			
63	20次	9区	SD 2195	7H-1E20～25、1F21	古代	IV層	C		1.00	0.16	3.16		弧状	レンズ状	SD2141を切る。SD2192・3288、P3097に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器			
63・134	20次	9区	SD 2205	7H-2E5、2F1・6・11・16・17・22、3F2・3・8	古代	IV層	C		0.90	0.12	3.18		弧状	レンズ状	SX2348、SD2208を切る。SE2398、SK2335、SD2192・2400に切られる。	○	土師器、須恵器	481～483		
63	20次	9区	SD 2208	7H-2F1・2・6・7	古代	IV層	C		0.34	0.06	3.22		弧状	単層	SD2205に切られる。	×				
	20次	9区	SD 2214	7H-2F6	古代	IV層	C	0.82	0.16				弧状			×				
	20次	9区	SD 2224	6H-10F24・25 7H-1F5・10・15、1G11・16・21、2G1・2・7	中世	IV層	B		0.98				半円状		SD1600を切る。SE2251、SK1654、SD2192、P1666・1668・2747、2876、2935に切られる。	○	土師器			
	20次	9区	SD 2235	7H-1G6・11	古代	IV層	C	1.85	0.35				弧状	単層	SD1600、P2228に切られる。	×				
	20次	9区	SD 2236	7H-1G11	古代	IV層	C	0.64	0.21				弧状			×				
	20次	9区	SD 2245	7H-2D19・20・24	古代	IV層	C		0.40	0.19	3.10		弧状	単層	SD2058を切る。SD2162に切られる。	×				
97	20次	9区	SD 2270	7H-1G18・19・23・24、2G4	古代	IV層	C		1.20	0.18	3.14		弧状	レンズ状	SE1792、SD1622・2192に切られる。	×				
	20次	9区	SD 2307	7H-2D15・20、2E11・16	古代	IV層	C		0.48	0.09	3.13		弧状	単層		○	土師器、黒色土器、須恵器			
56・63・107・136	20次	9区	SD 2313	7H-3D10・15・20、3E6～11・16～18・25、3F6・11～13・17～20・24・25、4E5、4F1・4～7・9	中世	IV層	A		1.30	0.26	2.90		弧状	レンズ状	SD2452・3448・3469・3472・3540・3792・3794・3890・3917・3918、P2373を切る。SE3557、SX3521、SD3599・3891、P2318・2339・3486・3547に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器		区画14。	
63	20次	9区	SD 2342	7H-2F25、2G21、3F5、3G1	古代	IV層	C			0.08	3.22		弧状	単層		×				
	20次	9区	SD 2359	7H-2F13・18・23	古代	IV層	C			0.64			弧状		SD2092に切られる。	×				
63	20次	9区	SD 2363	7H-2F12・13・17・18	古代	IV層	C	1.99	1.20	0.12	3.18		弧状	レンズ状	P3190に切られる。	○	土師器、須恵器			
	20次	9区	SD 2378	7H-2F11		IV層		1.10	0.21						P3148に切られる。	×				
63・118・119	20次	9区	SD 2400	7H-3F3・4・7～9	中世	IV層	A	5.05	0.62	0.04	3.27		弧状	ブロック状	SK3441、SD2205・3347を切る。SD2452、P3368に切られる。	×				
118	20次	9区	SD 2452	7H-3F6・7・8・11	中世	IV層	A		0.36	0.14	3.15		弧状	レンズ状	SK3435、SD2400・3296を切る。SD2313に切られる。	×				
63・100	20次	9区	SD 2460	7H-2E12・13	古代	IV層	C		0.60	0.12	3.15		弧状	単層	SK2232を切る。SE2226、SD3296に切られる。	×				
104	20次	9区	SD 2526	7H-2G12	古代	IV層	C		0.70	0.11	3.18		弧状	単層	SK3189を切る。SE3188、SX3200に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器			
	20次	9区	SD 2560	7H-2F5	古代	IV層	C		0.30	0.17	3.15		弧状	単層	SD2123を切る。	×				
63	20次	9区	SD 2584	7H-3G10・14・15、3H1・6	中世	IV層	B		0.27	0.07	3.17		弧状	レンズ状		×				
63	20次	9区	SD 2591	7H-3G18・19・23・24	古代	IV層	C		0.64	0.19	3.05		弧状	レンズ状	SE3315、SD3308に切られる。	×				
63	20次	9区	SD 2604	7H-4H13・18・19・23・24	古代	IV層	C			0.05	3.24		弧状	単層	SD3381に切られる。	×				
	20次	9区	SD 2699	7H-3H22、4H2					0.56							×				
63	20次	9区	SD 2705	7H-3F13～15、3G11～13	中世	IV層	B		0.90	0.13	3.11		弧状	レンズ状	SD3296を切る。SD1661・2092、P2377に切られる。	○	土師器、須恵器			
64	20次	9区	SD 2815	7H-2I16・17・21	古代	IV層	C	2.35	0.60	0.23	2.97		半円状	レンズ状		×				
132	20次	9区	SD 2830	7H-3I6・7・11・12	古代	IV層	C		0.52	0.17	2.94		U字状	単層	SX1755に切られる。	×				
116	20次	9区	SD 2838	7H-3H10・15、3I6	古代	IV層	C		0.30	0.15	3.10		弧状	レンズ状	SX1755に切られる。	×				
64	20次	9区	SD 2891	7H-3G7	中世	IV層	A	0.66	0.22	0.04	3.18		楕円形	弧状	単層		×			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考	
								上端	短軸	深度		平面	断面			堆積形状	遺物の種類			
																				長軸
64	20次	9区	SD 2907	7H-3I16・17	古代	IV層	C		0.18	0.03	3.11	弧状	単層	SX1755に切られる。	×					
64	20次	9区	SD 2964	7H-3I11.16	古代	IV層	C			0.07	3.06	弧状	単層	SX1755に切られる。	×					
64・80	20次	9区	SD 2993	7H-2H12・13・17・18	古代	IV層	C		0.50	0.16	3.08	弧状	レンズ状		×					
64	20次	9区	SD 2999	7H-4H12・13	中世	IV層	B			0.06	3.18	弧状	単層		×					
64・105	20次	9区	SD 3005	7H-2H1・6・7・11・12・16・17・21・22, 3H1・2・6・11	中世	IV層	A		1.30	0.20	3.04	弧状	レンズ状	SD1622・3006・3250を切る。SE3241、P3240に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、青磁				
64	20次	9区	SD 3006	7H-2G15、2H6・11	中世	IV層	B		0.83	0.05	3.00	弧状	ブロック状	SX3789、P3037を切る。SD3005に切られる。	○	土師器				
64	20次	9区	SD 3008	7H-2G5・10	中世	IV層	B		0.23	0.04	3.21	弧状	単層	SD1622を切る。SD3012に切られる。	×					
64	20次	9区	SD 3010	7H-2G5、2H1	古代	IV層	C		0.12	0.10	3.14	U字状	レンズ状	SD1622に切られる。	×					
64	20次	9区	SD 3012	7H-2G10	中世	IV層	A	0.67	0.25	0.07	3.15	弧状	レンズ状	SD3008・P1832を切る。	○	中世土師器	484			
60	20次	9区	SD 3046	7H-1H23、2H3	中世	IV層	A		0.27	0.07	3.16	弧状	レンズ状	SD1976に切られる。	×					
60	20次	9区	SD 3047	7H-1H22	古代	IV層	C		0.23	0.04	3.20	弧状	単層	SK1968に切られる。	×					
	20次	9区	SD 3083	7H-2G4・8・9		IV層			0.73	0.36		弧状			×					
	20次	9区	SD 3087	7H-1F19・24	中世	IV層	A		1.16	0.23	0.08	3.18	弧状	単層	SD1661、P3086を切る。	×				
104・117	20次	9区	SD 3191	7H-2G11・16・17・21・22	中世	IV層	A		1.20	0.15	3.14	弧状	レンズ状	SK2286・3197・3280、P3892を切る。SE3188に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
64・105	20次	9区	SD 3250	7H-2H21、3H1・6	中世	IV層	B			0.14	3.11	弧状	レンズ状	SD3005に切られる。	○	土師器				
64	20次	9区	SD 3288	7H-1E17・18・21~23	中世	IV層	A		0.70	0.36	2.92	半円状	レンズ状	SD2195を切る。	○	土師器、須恵器、灰軸陶器、珠洲焼	485・486			
82・115・118・136	20次	9区	SD 3296	7H-2D10・15、2E6・11・12・13・17~19・24・25、3E5、3F1・6~8・13~15・20、3G16	古代	IV層	C		0.80	0.16	3.13	弧状	レンズ状	SK2367、SX3879、SD2171・2141・2460・3890を切る。SD2092・2452・2705・3594、P2458・3297・3371に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器	487・488			
63	20次	9区	SD 3303	7H-3G12~14	中世	IV層	B	3.96	0.26	0.08	3.15	弧状	単層		○	土師器、須恵器				
63	20次	9区	SD 3308	7H-3G15・18~20、3H11、4G11	中世	IV層	A		0.46	0.18	3.04	弧状	レンズ状	SD2591・3594を切る。SD1661に切られる。	○	須恵器				
	20次	9区	SD 3309	7H-4H12・17	古代	IV層	C		0.33	0.02	3.19	レンズ状		SD3381に切られる。	×					
	20次	9区	SD 3311	7H-4G15、4H11・12	古代	IV層	C	4.53	0.40	0.05	3.19	弧状	レンズ状	SD3381に切られる。	○	土師器、黒色土器				
	20次	9区	SD 3323	7H-3H22、4H2	中世	IV層	A		0.31					SD3381を切る。	×					
64	20次	9区	SD 3331	7H-4G8・9・13・14	中世	IV層	A		0.55	0.19	3.01	弧状	レンズ状	SD3384を切る。SD1661に切られる。	○	土師器、須恵器				
118	20次	9区	SD 3347	7H-2F24、3F4・5・9・10・15	古代	IV層	C	4.75	0.10	0.32	3.24	弧状	ブロック状	SD2092・2400に切られる。	○	土師器				
	20次	9区	SD 3360	7H-5G10、5H6~8・13	中世	IV層	A		0.78	0.15	3.02	弧状		SD1661・3569に切られる。	×				区画15。	
64	20次	9区	SD 3381	7H-3H21・22、4H1・2・7・12・17・18・22・23、5H1~3	中世	IV層	A		1.08	0.15	3.06	弧状	レンズ状	SK2607、SD2604・3309・3311・3594を切る。SE1791、SD1661・3323に切られる。	○	土師器			区画13。	
	20次	9区	SD 3384	7H-3G16・17・21、4G1・2・6~8・12・13	中世	IV層	A		2.60			弧状	レンズ状	SE3579、SD3594を切る。SD1661・2092・3331に切られる。	○	土師器、須恵器、青磁	489・490		区画13。	
64	20次	9区	SD 3397	7H-4G19	古代	IV層	C		0.14	0.02	3.22	弧状	単層	SD3399に切られる。	×					
64	20次	9区	SD 3399	7H-4G19	中世	IV層	A	0.40	0.13	0.03	3.21	弧状	単層	SD3397を切る。	×					
64	20次	9区	SD 3401	7H-4F17~19・24・25、4G21~23、5G2~5、5H1~3、6~8	中世	IV層	A		1.00	0.18	3.04	弧状	レンズ状	P3655を切る。SD1661・3569、SX3584に切られる。	×					
64	20次	9区	SD 3402	7H-5G5・10、5H6~8	中世	IV層	A		0.81	0.14	3.08	弧状	レンズ状	SD1661・3569に切られる。	○	土師器、須恵器				
	20次	9区	SD 3447	7H-2D20・25、2E16・21	古代	IV層	C	(1.74)	0.68			弧状			○	土師器、黒色土器、須恵器、土製品	546			
	20次	9区	SD 3448	7H-3D3・8・9・14・15	古代	IV層	C		0.48	0.10	3.12	弧状	レンズ状	SD3741を切る。SK3449、SD2313・3454に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
119	20次	9区	SD 3454	7H-3D14	中世	IV層	B		0.48	0.10	3.06	弧状	単層	SD3448を切る。SD3743、SK3449に切られる。	×					
63・64	20次	9区	SD 3469	7H-3D5・10、3E1・6	古代	IV層	C		1.15	0.18	2.99	弧状	レンズ状	SD2313に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器				
64	20次	9区	SD 3470	7H-3D5	古代	IV層	C	0.82	0.57	0.18	2.96	弧状	レンズ状	P3476を切る。SD3477に切られる。	○	土師器、黒色土器				
64	20次	9区	SD 3472	7H-3E1・6・7	古代	IV層	C		0.60	0.13	3.05	弧状	単層	SD2313に切られる。	○	土師器、黒色土器、須恵器、石器・石製品	491・568			
64	20次	9区	SD 3474	7H-3D3	古代	IV層	C	1.64	0.28	0.18	3.14	弧状	単層		×					
64	20次	9区	SD 3477	7H-2D25、3D5	古代	IV層	C		0.45	0.11	3.03	弧状	レンズ状	SD3470、P3476を切る。SD2162に切られる。	×					
	20次	9区	SD 3540	7H-4E5、4F1・6・7・12	中世	IV層	A		0.15	0.30		弧状	レンズ状	SX3521、SD2313に切られる。	○	土師器				
56	20次	9区	SD 3548	7H-3E25、3F21	古代	IV層	C		1.00	0.22	2.86	弧状	レンズ状	SX3521に切られる。	×					
	20次	9区	SD 3550	7H-4F7・12・13	中世	IV層	A		0.43	0.09	3.11	弧状	レンズ状		○	土師器、須恵器				
	20次	9区	SD 3565	7H-3E23・24、4E3	古代	IV層	C		0.60	0.08	3.07	弧状	レンズ状	SX3521に切られる。	○	土師器				
	20次	9区	SD 3569	7H-4G24、5G4・5・10・15、5H11・16	中世	IV層	A		0.47	0.20	2.70	弧状	単層	SE3571、SD3360・3401・3402・3719を切る。	○	土師器、須恵器、木製品				
64	20次	9区	SD 3594	7H-3G14~21・25、3H11・16・21、4F9・10・14・15・19・20・25、4G1・6・11・12・16・17・21、4H1	中世	IV層	A		4.60	0.19	3.00	弧状	レンズ状	SE3587、SX3333・3574、SD3296を切る。SE1791・2836・3600、SD2092・3308・3381・3384・3599、P3572・3586に切られる。	○	土師器				
136	20次	9区	SD 3599	7H-3F18・19・24、4F4・8・9	中世	IV層	A		0.95	0.16	3.00	弧状	レンズ状	SD2313・3594・3792・3794・3917・3918を切る。	○	土師器、黒色土器、須恵器			区画14。	
	20次	9区	SD 3608	7H-3E15	古代	IV層	C	1.00	0.33			弧状			×					
	20次	9区	SD 3633	7H-1F6	古代	IV層	C		0.25			半円状	レンズ状	SD1600に切られる。	×					
	20次	9区	SD 3640	7H-1G11・12	古代	IV層	C	1.30	0.23			弧状	レンズ状		×					
	20次	9区	SD 3641	7H-1G12・16・17	古代	IV層	C					弧状			×					

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面			遺物の 有無	遺物の種類		
								長軸	短軸										
	20次	9区	SD 3643	7H-1G17・18	古代	IV層	C	1.74	0.23				弧状			×			
	20次	9区	SD 3680	7H-4H19・24	古代	IV層	C	1.20	0.22				弧状	レンズ状		×			
64	20次	9区	SD 3682	7H-4F14	古代	IV層	C	0.82	0.20	0.03	3.09		弧状	単層		×			
	20次	9区	SD 3683	7H-4F8・13	古代	IV層	C	0.89	0.18				弧状	単層		×			
	20次	9区	SD 3684	7H-4F13	古代	IV層	C	0.49	0.14				弧状	単層		×			
54	20次	9区	SD 3708	7H-4F24・25、4G21、5G1・2・3	中世	IV層	A		0.38	0.14	2.88		弧状	レンズ状	SD3711を切る。SD3719に切られる。	×			
54	20次	9区	SD 3712	7H-5F5、5G1	古代	IV層	C			0.16	2.84		弧状	レンズ状		×			
135	20次	9区	SD 3719	7H-5G3・4・8~10	中世	IV層	B		0.47	0.11	2.97		弧状	レンズ状	SD3708を切る。SD3569に切られる。	×		区画15。	
	20次	9区	SD 3722	7H-1G12	古代	IV層	C	0.79	0.23				弧状			×			
	20次	9区	SD 3741	7H-3D14・15・19・20	中世	IV層	A		0.44				弧状	単層	SD3448に切られる。	×			
	20次	9区	SD 3743	7H-3D7・8・12~14	中世	IV層	A			0.38	2.94		弧状	レンズ状	SD3454を切る。	○	須恵器		
64	20次	9区	SD 3792	7H-3F25	古代	IV層	C			0.08	3.08		弧状	単層	SX3333、SD2313・3599に切られる。	×			
	20次	9区	SD 3794	7H-4F4・5	古代	IV層	C		(0.40)				弧状		SD2313・3599に切られる。	×			
59	20次	9区	SD 3834	6H-9F22	古代	IV層	C	0.40	0.08	3.26			弧状	単層		×			
	20次	9区	SD 3890	7H-3E5・10、3F1・6	古代	IV層	C	0.53	0.19	3.12			弧状		SD2313・3296、P2373に切られる。	×			
	20次	9区	SD 3891	7H-3F17・18・22、4F2・7	中世	IV層	A	0.56					弧状	単層	SD2313を切る。	×			
63	20次	9区	SD 3893	6H-10E20		IV層		0.37	0.12	3.12			弧状	単層	SD2092に切られる。	×			
66	19次	9区	SD 3908	7H-4C15、4D11・12	中世	IV層	A	0.26	0.04	2.94			弧状	単層	SK326・327、SX248、SD210に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3909	7H-4D11・12	中世	IV層	A	0.18					弧状		SX248に切られる。	×			
	20次	9区	SD 3915	7H-1F20、1G16		IV層		1.74	0.42				弧状		SD2192、P2941に切られる。	×			
	20次	9区	SD 3917	7H-3F25、4F5		IV層		(0.32)							SD2313・3599に切られる。	×			
	20次	9区	SD 3918	7H-4F4・5・10	古代	IV層	B	0.25						単層	SD2313・3599に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3919	7H-5C24、6C4・9・14	中世	IV層	C	0.36					弧状	単層	SD521に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3920	7H-6C5・10	中世	IV層	A	0.38					弧状	単層		×			
	19次	9区	SD 3923	7H-8F2~4・7・8	古代	IV層	C	0.42	0.02	2.91			弧状	単層	SD3954を切る。SD495に切られる。	×		区画11。	
75	19次	9区	SD 3926	7H-10D4・9・14・15・20・25	古代	IV層	C	7.38	0.52	0.14	2.72		弧状	単層		×			
	19次	9区	SD 3927	8H-1D12・13	古代	IV層		0.24							SD1332と切り合いなし。SD455に切られる。	×		小溝状遺構群。	
123	19次	9区	SD 3928	7H-8B5	古代	IV層	C	0.98	0.40	0.16	2.54		弧状	単層	SX432を切る。	×			
68	19次	9区	SD 3929	7H-7C1・6・11・12・17	古代	IV層	C	0.29	0.09	2.62			弧状	単層	SD934を切る。	×			
	19次	9区	SD 3930	7H-8C4・9	中世	IV層	A	0.31	0.05	2.80			弧状	単層	SD521と切り合いなし。	×			
	19次	9区	SD 3931	7H-8C14・15・19・20	古代	IV層	C	0.72	0.07	2.76			弧状	単層	SD723・855と切り合いなし。SD721・722に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3933	7H-9A3・4・8~10・14・15、9B16	古代	IV層		0.32							SD898・930・1001・1132・1196と切り合いなし。SD1004に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3934	7H-9B15・20、9C11・16	古代	IV層		0.36							SD930・3935と切り合いなし。SD744に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 3935	7H-9B18・19・20、9C16	古代	IV層		0.35							SD905・931・987・1057・3934と切り合いなし。SD455に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 3936	7H-7F5、7G1・2		IV層		0.32							SD1283を切る。SD105に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3937	7H-6C7・8、12・13	古代	IV層		0.28					弧状		SD524・973に切られる。SD1081と切り合いなし。SX1097を切る。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 3938	7H-6F21・22		IV層		0.24							SX454に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3939	7H-7A20・25	古代	IV層	C	0.28	0.07	2.60			弧状	単層	SD660・820と切り合いなし。SD814に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3940	7H-7A20、7B12・16・17	古代	IV層	C	0.46	0.13	2.56			弧状	単層	SD664・874・876・879に切られる。	×			
75	19次	9区	SD 3941	7H-8D21・22、9D2・3・8・13	古代	IV層	C	0.20	0.04	2.80			弧状	単層	SD701・748・862と切り合いなし。SD867・873に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 3942	7H-8C14・15、8D11~13	古代	IV層	C	0.34	0.06	2.80			弧状	単層	SD767・768・772・912と切り合いなし。SD312・521に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 3943	7H-8C9・14		IV層		0.96	0.28				楕円形		SD904に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3944	7H-5E11・16	古代	IV層	C	0.46					弧状	単層	SD15・239に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3945	7H-9D11・12・16~18	古代	IV層		0.72							SD1059・1061・1062・1123と切り合いなし。SD1098に切られる。	×		小溝状遺構群。	
	19次	9区	SD 3946	7H-8E2・3		IV層		0.26							SD843を切る。SD670に切られる。	×			
55	19次	9区	SD 3948	7H-9E10・15	中世	IV層	B	0.24	0.08	2.90			弧状	単層	SK1186、SD1144を切る。SD530に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3949	7H-8C25	古代	IV層	C	0.30							SD723・748・766に切られる。	×		小溝状遺構群?	
	19次	9区	SD 3950	7H-8C25、8D21、9C5、9D1	古代	IV層		0.22							SD723・766・776に切られる。	×		小溝状遺構群?	
	19次	9区	SD 3951	7H-8A17~19・21~23、9A1		IV層		0.46							SD455・821に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3954	7H-8F3・8	古代	IV層		0.28							SD502・504・3923に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3955	7H-8E5・10、8F1・2・6		IV層		0.34							SD275・504に切られる。	×			
	19次	9区	SD 3956	7H-8E20、8F7・8・11~13・16・17・21・22		IV層		0.30							SD275・501・502に切られる。	×		小溝状遺構群?	

小土坑  
8区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認 面の 覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物		掲載遺物番号	備考	
							上端	深度	長軸		短軸	平面			断面	遺物の 有無			遺物の種類
9	21次	8区	P 116	5G-3I22・23	古代	IV層	C	0.28	0.24	0.13	3.10	楕円形	弧状	レンズ状	SD113に切られる。	×			
35	21次	8区	P 125	5G-5H10	中世	IV層	B		0.32	0.34	2.98		台形状	レンズ状	SK122に切られる。	○	土師器		
27	21次	8区	P 136	5G-4I18	中世	IV層	B			0.60	2.60		V字状	レンズ状	SX225を切る。SE131に切られる。SD1043に切られる。	○	土師器、須恵器		
9	21次	8区	P 138	5G-6I3	中世	IV層	A	0.23	0.20	0.18	2.96	楕円形	半円状	レンズ状	SD137を切る。	×			
35	21次	8区	P 145	5G-6I25	中世	IV層	A	0.52	0.42	0.07	3.19	楕円形	弧状	レンズ状	SK144を切る。SD161を切る。	×			
36	21次	8区	P 146	5G-6I24・25	中世	IV層	A	0.57	(0.49)	0.08	3.17	楕円形	弧状	レンズ状	SK270を切る。P193を切る。SK147に切られる。	×			
36	21次	8区	P 167	5G-7I5	中世	IV層	B	0.32	0.24	0.37	2.89	楕円形	U字状	レンズ状	SD161を切る。	○	木製品		
20・21	21次	8区	P 173	5G-6I19	古代	IV層	C	(0.59)	0.51	0.38	2.85	楕円形	台形状	レンズ状	SD161に切られる。	○	土師器、須恵器	162	
35	21次	8区	P 193	5G-6I24	中世	IV層	A	(0.41)	(0.32)	0.28	2.97	楕円形	U字状	レンズ状	SK189に切られる。P146に切られる。	×			
13	21次	8区	P 219	5G-6I21、5G-7I1	中世	IV層	A	0.37	0.35	0.26	2.90	円形	U字状	レンズ状	SD121を切る。	×			
45	21次	8区	P 259	5G-5H10	中世	IV層	A	(0.40)	0.38	0.47	2.85	円形	台形状	レンズ状	SX260に切られる。	○	土師器		
36	21次	8区	P 262	5G-7I13	中世	IV層	A	0.38	0.27	0.51	2.75	楕円形	U字状	柱痕	SK246を切る。SK818を切る。	×			
	21次	8区	P 271	5G-5I16	中世	IV層	A		0.28				U字状	柱痕	SD397を切る。P264に切られる。	○	土師器、土製品	225	
45	21次	8区	P 292	5G-5I14	中世	IV層	B	0.25	0.20	0.25	2.86	不整形	U字状	単層		○	土師器		
45	21次	8区	P 293	5G-5I14	中世	IV層	B	0.14	0.13	0.03	3.09	円形	弧状	レンズ状		×			
45	21次	8区	P 302	5G-5I2・7	中世	IV層	A	0.21	0.18	0.08	3.17	円形	弧状	単層	SX305を切る。	×			
36	21次	8区	P 303	5G-7I5	中世	IV層	B	(0.53)	(0.51)	0.31	2.97	楕円形	U字状	レンズ状	SD161を切る。P304を切る。	×			
36	21次	8区	P 304	5G-7I5・10	中世	IV層	A	0.27	(0.27)	0.23	3.05	円形	漏斗状	レンズ状	SD161を切る。P303に切られる。	×			
	21次	8区	P 329	5G-5I6	中世	IV層	A		0.57				楕円形	単層	P312に切られる。	○	土師器、須恵器、奈良三彩	163	
	21次	8区	P 342	5G-4I13	中世	IV層	A	0.23	0.09			楕円形	弧状	レンズ状	SD3006を切る。	○	土師器、灰釉陶器	164	
45	21次	8区	P 353	5G-5H15・20、5G-5I11・16	中世	IV層	A	0.36	0.32	0.37	2.86	楕円形	U字状	レンズ状	SX354を切る。	×			
45	21次	8区	P 407	5G-4I19・24	中世	IV層	A	0.27	0.15			楕円形	V字状	単層	SX225を切る。	×			
12	21次	8区	P 421	5G-6I22	中世	IV層	A	(0.46)	(0.29)	0.20	2.97	楕円形	U字状	柱痕	SD420を切る。P681を切る。SD121に切られる。	×			
13	21次	8区	P 445	56I17	中世	IV層	A	(0.27)	(0.21)	0.12	3.06	楕円形	半円状	レンズ状	SD444に切られる。	×			
10	21次	8区	P 472	5G-5I17	古代	IV層	C	(0.14)	(0.14)			円形	U字状	レンズ状	SD151を切る。SD388に切られる。	×			
46	21次	8区	P 539	5G-7I20	中世	IV層	A	0.17	0.15	0.07	3.10	円形	弧状	単層	SX540を切る。	×			
21	21次	8区	P 545	5G-7I10	中世	IV層	A	0.17	0.16	0.12	3.12	円形	弧状	レンズ状	SD798・802を切る。P535を切る。	×			
10	21次	8区	P 592	5G-5H19	古代	IV層	C	0.40	(0.34)	0.22	3.00	楕円形	弧状	単層	SK243に切られる。	×			
	21次	8区	P 603	5G-5I12・13	中世	IV層	B	(0.31)	(0.30)			方形	台形状	斜位	SD151・182・388に切られる。	○	珠洲焼	165	
38	21次	8区	P 651	5G-6H10	中世	IV層	A	(0.24)	(0.20)	0.33	2.75	楕円形	U字状	レンズ状	SD151を切る。SD164に切られる。	×			
14	21次	8区	P 705	5G-7I5	古代	IV層	C	0.31	0.22	0.05	3.18	楕円形	弧状	単層	SD803を切る。	×			
	21次	8区	P 724	5G-4H10	古代	IV層	C	0.29	0.22	0.05	2.99	楕円形	弧状	単層		○	石製品	235	
10	21次	8区	P 769	5G-5I13	中世	IV層	A	0.35	0.26			楕円形	半円状	レンズ状	SD151を切る。	○	土師器、木製品		
10	21次	8区	P 770	5G-5I13・14	中世	IV層	A	0.22	0.20			円形	弧状	単層	SD151を切る。	○	土師器、木製品		
10	21次	8区	P 771	5G-5I14	古代	IV層	C	(0.25)	(0.20)			円形	半円状	レンズ状	SD151を切る。	○	土師器、木製品		
28	21次	8区	P 779	5G-8I14	中世	IV層	B	0.61	0.51	0.54	2.66	円形	漏斗状	柱痕	SE780を切る。	×			
36	21次	8区	P 814	5G-7I13	古代	IV層	C		0.41	0.10	3.04		弧状	単層	SK818を切る。SK813に切られる。	×			
38	21次	8区	P 832	5G-8I1	中世	IV層	A		0.25	0.25	2.82		U字状	単層	SK789に切られる。	○	木製品		
21	21次	8区	P 857	5G-8J6	中世	IV層	A	0.24	0.22	0.17	2.98	円形	U字状	レンズ状		×			
	21次	8区	P 862	5G-9J6	中世	IV層	A	0.45	0.36			楕円形	U字状	レンズ状	SE834を切る。	○	中世土師器	166	
47	21次	8区	P 873	5G-6H20	中世	IV層	B	0.47	0.43	0.24	2.78	楕円形	漏斗状	水平	SX874を切る。	×			
47	21次	8区	P 875	5G-6I12・17	中世	IV層	A	(0.19)	0.14	0.10	3.02	楕円形	U字状	レンズ状	P878を切る。	×			
47	21次	8区	P 877	5G-6I12	中世	IV層	A	0.28	0.23	0.17	2.97	楕円形	U字状	レンズ状	SX876を切る。	×			
47	21次	8区	P 878	5G-6I12・17	古代	IV層	C	(0.22)	(0.20)	0.09	3.04	楕円形	弧状	単層	SX876に切られる。P875に切られる。	×			
47	21次	8区	P 906	5G-9I10	中世	IV層	A	0.60		0.32	2.92		階段状	レンズ状	SX904を切る。P907・932を切る。P925に切られる。	○	土師器		
39・47	21次	8区	P 907	5G-9I10	中世	IV層	B		0.67	0.27	2.86		階段状	レンズ状	SK981を切る。P906・925に切られる。	×			
21次	8区	P 942	5G-8I12・17	古代	IV層	C	(0.58)	(0.52)	0.48	2.40	方形	U字状	柱痕		○	木製品	320		
47	21次	8区	P 954	5G-7H20	中世	IV層	A	0.20	0.16	0.07	3.09	楕円形	弧状	単層	SX955を切る。	×			
14	21次	8区	P 984	5G-9I25	中世	IV層	A	0.22	0.21	0.30	2.80	円形	U字状	レンズ状	SD980を切る。P1053を切る。	×			
22	21次	8区	P 987	5G-9I15	中世	IV層	A		0.20	0.20	2.92		台形状	レンズ状	P988を切る。	×			
22	21次	8区	P 991	5G-9I20	中世	IV層	A	0.54	0.36	0.28	2.83	楕円形	U字状	レンズ状	P992・2218を切る。	○	土師器、木製品		
43	21次	8区	P 1009	5G-9I24	中世	IV層	B	0.33	0.22	0.32	2.72	円形	台形状	レンズ状	P1022を切る。SK2017に切られる。	○	土師器		
47	21次	8区	P 1014	5G-9J23	中世	IV層	A		0.54	0.19	3.15		弧状	レンズ状	P22987を切る。SK918に切られる。SX930に切られる。	○	須恵器		
47	21次	8区	P 1041	5G-9I20、9J16	中世	IV層	A	0.24	0.15			楕円形	U字状	レンズ状	P1040を切る。	×			
39	21次	8区	P 1044	5G-9I17・22	中世	IV層	A		0.62	0.51	2.66		U字状	レンズ状	SK1052を切る。SX2354を切る。	○	土師器、須恵器	167	
29	21次	8区	P 1046	5G-4I17	中世	IV層	A		0.35				弧状	レンズ状	SX468を切る。SE1045に切られる。	×			
43・48	21次	8区	P 1049	5G-9I18	中世	IV層	A	0.40	0.32	0.33	2.75	楕円形	U字状	レンズ状	SK2290を切る。SX1048を切る。	○	須恵器		

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度	平面		断面	遺物の種類							
																	長軸	短軸		
14	21次	8区	P 1053	5G-9I25	古代	IV層	C			0.08	3.02	楕円形	漏斗状	レンズ状	P983を切る。SD980に切られる。P984・1000に切られる。	×				
	21次	8区	P 1434	5G-1H19・20	古代	IV層	A	0.48	0.44	0.66	2.70	楕円形	漏斗状	単層	SD1771を切る。SD1902を切る。	○	土師器、須恵器、木製品	321		
40	21次	8区	P 1479	5G-3I6	中世	IV層	A	(0.39)	(0.26)	0.26	2.90	楕円形	U字状	単層	SK1103に切られる。	○	土師器			
40	21次	8区	P 1480	5G-3I7・12	古代	IV層	C	(0.24)	(0.20)	0.31	3.05	楕円形	U字状	柱痕	SK1103に切られる。	×				
49	21次	8区	P 1509	4G-9H22	古代	IV層	C	0.33	0.31	0.20	3.11	円形	半円状	単層	SX1507を切る。	×				
8	21次	8区	P 1512	4G-10H6	中世	IV層	B	(0.25)	(0.22)	0.20	3.15	円形	V字状	水平	SD1511に切られる。	○	土師器、須恵器			
48	21次	8区	P 1528	5G-3H5・10	中世	IV層	A	0.48	0.37	0.43	2.82	円形	台形状	柱痕	SX1101を切る。	○	土師器、須恵器、木製品			
8	21次	8区	P 1536	5G-1I16	中世	IV層	B	0.32	0.23	0.21	3.08	楕円形	箱状	単層	SD1326を切る。	×				
49	21次	8区	P 1596	5G-1H10	古代	IV層	C	(0.19)	(0.15)	0.05	3.25	円形	弧状	単層	SX1599に切られる。	×				
49	21次	8区	P 1597	5G-1H10	古代	IV層	C	(0.17)	(0.13)	0.10	3.23	楕円形	半円状	単層	SX1599に切られる。	×				
49	21次	8区	P 1598	5G-1H5・10	古代	IV層	C	(0.51)	(0.46)	0.52	2.74	円形	漏斗状	レンズ状	SX1599に切られる。	○	土師器			
50	21次	8区	P 1619	5G-1I12	古代	IV層	C	0.34	(0.26)	0.23	2.97	楕円形	半円状	単層	SX1605に切られる。	○	土師器			
49	21次	8区	P 1635	5G-1H10	古代	IV層	C	0.18	0.12	0.15	3.23	楕円形	U字状	単層	SX1599を切る。	×				
	21次	8区	P 1636	5G-1H25	中世	IV層	B	0.41	0.27			楕円形	漏斗状	柱痕	P1864を切る。	○	金属製品、銭貨	247		
8	21次	8区	P 1646	5G-1H4・9	古代	IV層	C	0.40	0.38	0.31	3.05	円形	台形状	単層		○	土師器			
11	21次	8区	P 1719	5G-3I17	古代	IV層	C	0.28	0.27	0.15	3.17	円形	弧状	柱痕		×				
8	21次	8区	P 1833	5G-1I6	古代	IV層	C	0.30	0.18	0.11	3.13	楕円形	半円状	レンズ状	P1905を切る。	×				
48	21次	8区	P 1854	5G-6H14	中世	IV層	B	(0.75)	(0.23)	0.24	3.08	円形	U字状	柱痕	SX1855を切る。	○	土師器			
43	21次	8区	P 1939	5G-1H20	古代	IV層	C	(0.34)	0.22	0.12	3.15	楕円形	半円状	単層		×				
51	21次	8区	P 2002	5G-7H25	中世	IV層	A	0.17	0.13	0.18	3.02	楕円形	V字状	単層	SX2001を切る。	×				
	21次	8区	P 2019	5G-9I20	中世	IV層	A	0.17	0.13	0.27	2.82	楕円形	U字状	レンズ状	P2020を切る。	○	金属製品、銭貨	248		
51	21次	8区	P 2272	5G-7H19	中世	IV層	A	0.10	0.10	0.14	3.00	円形	V字状	単層	SX2273を切る。	×				
52	21次	8区	P 2310	5G-9I22	中世	IV層	A	0.17	0.16	0.10	3.07	円形	U字状	レンズ状	SX2354を切る。	○	土師器			
16	21次	8区	P 2324	6G-1J15・20	中世	IV層	B	0.61	0.37	0.22	2.86	楕円形	弧状	レンズ状	SD2325を切る。	×				
16	21次	8区	P 2367	6G-1J8	中世	IV層	A	0.30	0.18	0.09	3.02	楕円形	弧状	レンズ状	SD2368を切る。	×				
6	21次	8区	P 2384	6G-1J11・12	古代	IV層	C			0.13	3.18	円形	U字状	単層	SD2291に切られる。	×			断面上でのみ確認。	
	21次	8区	P 2480	6H-3B18・19	中世	IV層	B	0.38	0.33	0.52	2.68	円形	U字状	柱痕		○	木製品	322		
44	21次	8区	P 2581	6H-1A11	中世	IV層	A	(0.36)	(0.29)	0.09	2.90	楕円形	弧状	レンズ状	SK2582を切る。	○	須恵器			
44	21次	8区	P 2583	6H-1A11・16	中世	IV層	A		(0.52)	0.19	2.88	楕円形	弧状	レンズ状	SK2582に切られる。	○	須恵器			
6	21次	8区	P 2657	6H-3C12	中世	IV層	A	0.26	0.23			方形	U字状	レンズ状		×				
6	21次	8区	P 2720	6H-2A5	中世	IV層	B		0.16	0.24	2.97	円形	U字状	柱痕		×				
44	21次	8区	P 2849	6H-3A9	古代	IV層	C	0.15	0.13	0.11	3.06	円形	半円状	柱痕	SK2848を切る。	×				
44	21次	8区	P 2850	6H-3A9	中世	IV層	A	0.43	0.33	0.14	3.04	楕円形	弧状	レンズ状	SK2848を切る。	×				
6	21次	8区	P 2851	6H-3C7・8	古代	IV層	C		0.32	0.18	3.15	円形	U字状	レンズ状		○	土師器			
6	21次	8区	P 2921	6H-4B8	古代	IV層	C		0.31	0.26	3.04	円形	U字状	柱痕		×				
6	21次	8区	P 2966	6H-4C15・20	古代	IV層	C		0.15	0.06	3.12	円形	弧状	単層		×				
5	21次	8区	P 3008	5G-5I20	中世	IV層	A			0.25	3.04	円形	U字状	レンズ状	SD164を切る。	×			断面上でのみ確認。	
52	21次	8区	P 3009	5G-10I2	中世	IV層	A			0.10	3.07	円形	半円状	単層		×			断面上でのみ確認。	

## 9区

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端	深度	平面		断面	遺物の種類							
																	長軸	短軸		
66	19次	9区	P 115	7H-4D16	中世	IV層	A	(0.24)	0.22	0.10	2.94	楕円形	弧状	レンズ状	SD209に切られる。	×				
66	19次	9区	P 116	7H-4D16	古代	IV層	C	0.32	0.24	0.09	2.96	楕円形	弧状	レンズ状		×				
120	19次	9区	P 135	7H-4E25	中世	IV層	A	(0.17)	(0.14)	0.02	3.05	円形	弧状	単層	SX134を切る。	×				
71	19次	9区	P 472	7H-7F21・22	中世	IV層	B	0.76	0.54	0.43	2.48	楕円形	漏斗状	レンズ状	SD477を切る。	×				
58	19次	9区	P 607	7H-6D13	中世	IV層	A	0.20	0.14	0.07	2.85	円形	弧状	単層	SD1126を切る。	×				
70	19次	9区	P 621	7H-8E9	中世	IV層	B	0.21	0.18	0.05	2.86	円形	弧状	単層	SD285を切る。	×				
75	19次	9区	P 844	7H-10E7	古代	IV層	C	(0.24)	(0.18)	0.14	2.55	円形	弧状	単層	SD830に切られる。	×				
125	19次	9区	P 1025	7H-7C9・10	古代	IV層	C	0.66	0.40	0.26	2.56	楕円形	U字状	レンズ状	SX982を切る。	×				
70	19次	9区	P 1397	7H-5F16	中世	IV層	B		0.19	0.08	2.96	円形	弧状	レンズ状	SD417に切られる。	×				
133	20次	9区	P 1475	7H-1E8	IV層			0.50	0.36	0.52	2.82	楕円形	U字状	柱痕	SX2140に切られる。	○	須恵器			
87	20次	9区	P 1626	6H-10G17	中世	IV層	A	0.28	0.19	0.56	2.78	楕円形	U字状	柱痕		×				
	20次	9区	P 1771	7H-3H13・14	中世	IV層	A	0.56	0.48			楕円形				×		492		
64	20次	9区	P 1832	7H-2G10	古代	IV層	C		0.28	0.08	3.15	円形	U字状	柱痕	SD3012に切られる。	×				
85	20次	9区	P 1895	7H-1H10	中世	IV層	B	0.40	0.31	0.23	3.03	楕円形	階段状	柱痕	P2587を切る。	×				
	20次	9区	P 1913	7H-1I6	中世	IV層	A	0.41	0.26	0.28	2.95	楕円形				○	土師器・須恵器、木製品	674		
114	20次	9区	P 1970	7H-1H17・18・22・23	中世	IV層	A	(0.23)	(0.19)	0.44	2.80	円形	U字状	レンズ状	SK1968に切られる。	×				
132	20次	9区	P 2068	7H-1G14	中世	IV層	A	0.31	0.28	0.27	3.05	楕円形	U字状	レンズ状	SX2066を切る。	○	土師器			
56	20次	9区	P 2339	7H-3E8	中世	IV層	A	0.63	0.35	0.32	2.88	楕円形	弧状	柱痕	SD2313を切る。	×				
56	20次	9区	P 2373	7H-3E9・10	中世	IV層	A	(0.92)		0.26	3.01	楕円形	弧状		SD3890を切る。SD2313に切られる。	○	土師器			

図版番号	調査回数	調査区	遺構 種別 番号	グリッド	時代	確認面	確認面の覆土	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		堆積形状	重複関係	遺物の 有無	遺物		掲載遺物番号	備考
								上端		深度		平面	断面				遺物の種類	遺物の種類		
								長軸	短軸											
101	20次	9区	P 2397	7H-2F22、7H-3F2		IV層		0.36		0.50	2.80	楕円形	U字状	柱痕	SE2398に切られる。	○	土師器			
	20次	9区	P 2464	7H-2E3	古代	IV層	C		0.40	0.29	2.97		弧状			○	土師器	493・494		
96	20次	9区	P 2493	7H-2G7	中世	IV層	A	0.21	0.20	0.27	3.04	円形	U字状	レンズ状	SE1676を切る。	×				
116	20次	9区	P 2544	6H-9H11・16	中世	IV層	A	0.35	0.32	0.15	3.12	円形	弧状	柱痕	SK2545を切る。	×				
134	20次	9区	P 2635	7H-1H21	中世	IV層	A	0.27	0.25	0.51	2.73		U字状	柱痕	SX3054を切る。	○	木製品			
134	20次	9区	P 2641	7H-1H21	中世	IV層	A	0.28	0.27	0.25	2.98	円形	U字状	ブロック状	SX3054を切る。	×				
132	20次	9区	P 2789	7H-1G14・15	中世	IV層	A	0.34	(0.31)	0.17	3.16	円形	弧状	レンズ状	SD1600を切る。SX2066に切られる。	○	土師器、須恵器			
79	20次	9区	P 2801	7H-1G4・9	中世	IV層	A	0.19	0.13	0.12	3.20	楕円形	台形状	単層	SD1600を切る。	×				
79	20次	9区	P 2802	7H-1G14	古代	IV層	C	0.27	0.22	0.23	3.06	円形	漏斗状	柱痕	P2064を切る。	×				
95	20次	9区	P 2807	6H-10G20		IV層			0.30	0.19	3.10		半円状	柱痕	SE1590に切られる。	×				
95	20次	9区	P 2875	7H-1H1	中世	IV層	A	0.52	0.38	0.44	2.88	楕円形	漏斗状	柱痕		×				
100	20次	9区	P 2935	7H-1G16	古代	IV層	C	0.38	0.32	0.15	3.14	円形	弧状	柱痕	SD2224を切る。SE2251に切られる。	○	土師器、須恵器			
63・88	20次	9区	P 2957	7H-1F8	中世	IV層	A	(0.32)	(0.24)	0.33	3.00	円形	U字状	柱痕	SD1600を切る。SD1661に切られる。	×				
80	20次	9区	P 3022	7H-2H12	中世	IV層	B	0.21	0.14	0.17	3.02	楕円形	漏斗状	柱痕		×				
64	20次	9区	P 3037	7H-2G15	中世	IV層	A	(0.25)	0.21	0.25	3.00	円形	U字状	柱痕	SX3789を切る。SD3006に切られる。	×				
64	20次	9区	P 3086	7H-1F19・24	古代	IV層	C	(0.51)	(0.35)	0.16	3.08	不整形	弧状	柱痕	SD1661、3087に切られる。	×				
63	20次	9区	P 3097	7H-1E25	中世	IV層	A	0.34	0.32	0.28	3.04	円形	階段状	柱痕	SD2195を切る。	×				
97	20次	9区	P 3105	7H-1G19	中世	IV層	A	(0.33)	(0.32)	0.19	3.03	円形	V字状	単層	SD2071を切る。SE1792に切られる。	×				
115	20次	9区	P 3125	7H-2F7・12	古代	IV層	C	0.25	0.22	0.15	3.14	円形	U字状			×				
118	20次	9区	P 3137	7H-2F8	中世	IV層	A	0.30	0.22	0.54	2.75	楕円形	U字状	レンズ状	SK3206を切る。	○	土師器			
63	20次	9区	P 3190	7H-2F12・13・17・18	古代	IV層	C	0.82	0.61	0.53	2.77	楕円形	漏斗状	レンズ状	SD2363を切る。	×				
135	20次	9区	P 3211	7H-2G12・13	古代	IV層	C	0.64	(0.45)	0.08	3.22	楕円形	弧状	単層	SX3200に切られる。	×				
117	20次	9区	P 3217	7H-2F4	古代	IV層	C	0.26	0.24	0.24	3.05	円形	U字状	単層		×				
117	20次	9区	P 3223	7H-2G16・21	古代	IV層	C	0.36	0.32	0.12	3.17	円形	弧状	単層	SK2286を切る。	○	土師器、須恵器			
118	20次	9区	P 3282	7H-2F7	古代	IV層	C	0.31	0.16	0.13	3.17	楕円形	弧状	単層	SK3206を切る。	×				
63	20次	9区	P 3294	7H-2G21	中世	IV層	A	0.28	0.25	0.22	3.10	円形	U字状	レンズ状	SD1661を切る。	×				
104	20次	9区	P 3343	7H-2F15・20	古代	IV層	C	0.29	0.28	0.23	2.90	円形	弧状	柱痕	SD1661に切られる。	○	土師器			
	20次	9区	P 3356	7H-2F21	古代	IV層	C	0.33	0.32			円形	U字状	柱痕	SX2348、P3425を切る。	○	土師器、須恵器	495		
118	20次	9区	P 3368	7H-3F7	中世	IV層	A	0.19	0.17	0.13	3.16	楕円形	U字状		SD2400を切る。	×				
135	20次	9区	P 3425	7H-2F21	古代	IV層	C	(0.62)	(0.31)	0.10	3.14	楕円形	弧状	レンズ状	SX3349・P3356に切られる。	○	土師器、黒色土器			
119	20次	9区	P 3440	7H-3F2・7	古代	IV層	C	0.52	0.32	0.06	3.23	楕円形	弧状	レンズ状	SK3441を切る。	×				
136	20次	9区	P 3497	7H-3F17	中世	IV層	A	0.27	0.22	0.18	3.14	円形	U字状	柱痕		×				
136	20次	9区	P 3499	7H-3F18	中世	IV層	A	0.37	0.30	0.28	3.05	円形	U字状	柱痕		×				
	20次	9区	P 3508	7H-3D3	古代	IV層	C	0.20	0.19	0.60	2.50	円形		柱痕		○	木製品	675		
83	20次	9区	P 3523	7H-2E21・22	中世	IV層	A	0.24	0.18	0.28	4.77	楕円形	V字状	単層		×				
56	20次	9区	P 3547	7H-3E7	中世	IV層	A	0.37	0.34	0.37	2.92	楕円形	U字状	柱痕	SD2313を切る。	×				
136	20次	9区	P 3554	7H-3E20、3F16	中世	IV層	A	0.56	(0.43)	0.75	2.47	楕円形	U字状	レンズ状	SX3521を切る。	×				
59	20次	9区	P 3817	6H-8F20・25、8G16・21	中世	IV層	A		1.00					レンズ状		×				
135	20次	9区	P 3826	6H-9F18	中世	IV層	A		0.30	0.07	3.16	楕円形	弧状	ブロック状		×				
103	20次	9区	P 3903	7H-3I22	中世	IV層	A			0.62	2.54	楕円形	U字状	柱痕	SX1756を切る SE3025に切られる。	×				
68	19次	9区	P 3947	7H-7C17	古代	IV層	C	0.34	0.17	0.05	2.68	楕円形	弧状	単層		×				

別表 2 土器観察表

- 凡例 1. 器種 第V章第1節Aに記した。  
 2. 胎土 胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色凝灰石、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。  
 3. 色調 外面の色調を記した。『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局1967）の記号を記した。  
 4. 産地 A：佐渡小泊 B：信濃川左岸 C：阿賀北 D：新津丘陵 E：不明を示す。詳細は第V章第1節A参照。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			径口指数	底径指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考		
				遺構名	グリッド				口径	底径	器高			外面	内面	底部							
																						口径	底径
137	1	21次	8区	P412 (SB4001)	5G-6I24	1	土師器	長甕	24.4					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・雲・白・角		外面：スス付着。		
137	2	21次	8区	P531 (SB4001)	5G-7I14	1	須恵器	無台杯		8.0				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y6/1)	還元	石・白・海	B			
137	3	21次	8区	SD1771 (SB4005)	5G-2H5	1	土師器	無台碗		5.5				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長・白				
137	4	21次	8区	P844 (SB4006)	5G-8I4	1	須恵器	短頸壺	7.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元		D	外面：自然釉。		
137	5	21次	8区	SE112	5G-5H19	1	奈良三彩	小壺	4.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/2) 明オリープ灰 (2.5GY7/1)	酸化				緑白二彩。163と同一個体か?	
137	6	21次	8区	SE112	5G-5H19	7	珠洲焼	壺						ロクロナデ・櫛目波状文	ロクロナデ		灰 (N4/)	還元	石・長・海				
137	7	21次	8区	SE120	5G-5I22	13	珠洲焼	片口鉢		12.3				ロクロナデ・タタキメ	ロクロナデ	静止糸切り	灰 (N4/)	還元	白・海				
137	8	21次	8区	SE134	5G-5I7	7	中世土師器	皿		9.0				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	石・雲・海			内外面・断面：アスファルト付着。	
137	9	21次	8区	SE155	5G-6H19 5G-8I14	1 III	須恵器	長頸壺(瓶)						ロクロナデ	ロクロナデ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	角・白	A	外面：自然釉。		
137	10	21次	8区	SE201	5G-4H13	4	土師器	無台碗	12.6	5.9	3.7	29.4	46.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	石・雲				
137	11	21次	8区	SE411	5G-7I19	5	土師器	無台碗	12.8	4.7	3.4	26.6	36.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰黄 (2.5YR7/2)	酸化	石・白			底部外面：ヘラ記号 内面：スス付着。 底部外面：指頭圧痕。	
137	12	21次	8区	SE411	5G-7I19	9	土師器	無台碗	13.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	石・角				
137	13	21次	8区	SE768	5G-8J21	5	須恵器	甕	36.4					ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰 (N3/)	還元	石・長				
137	14	21次	8区	SE768	5G-8J21	3	中世土師器	皿		6.1				ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・海				
137	15	21次	8区	SE768	5G-8J21	6	珠洲焼	片口鉢	27.5					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・長・白				
137	16	21次	8区	SE929	5G-10J2	4	須恵器	円面碗	11.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y6/1)	還元		D	内外面・断面：アスファルト付着。		
137	17	21次	8区	SE929 遺構外	5G-10J2・3 5G-10J2	4 III	中世土師器	皿	12.7	9.6	3.5	27.6	75.6	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (7.5Y8/1)	酸化	石・雲			内外面：スス付着。	
137	18	21次	8区	SE945 遺構外 遺構外 遺構外	5G-4H24 5G-6I9 5G-1H23 5G-7I2	2 II・III II III	珠洲焼	片口鉢		11.7				ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目8目	静止糸切り	灰 (N6/)	還元	白				
137	19	21次	8区	SE1070 SX1306 SX1368 SX1368 P1434 遺構外	4G-10H19 5G-1H23 5G-2H3 5G-2H4 5G-1H20 5G-1H19	1 3 1 1 3 III	須恵器	甕	32.5					ロクロナデ・タタキメ	ロクロナデ・当て具痕		灰 (N5/)	還元	石・白	A			
137	20	21次	8区	SE1145	5G-3I23	1	中世土師器	皿	7.8	5.9	1.3	16.7	75.6	ナデ	ナデ		にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	石・長・角				
137	21	21次	8区	SE1216	5G-4I9	1	中世土師器	皿	7.6	5.5	1.7	21.7	72.4	ナデ	ナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	白			内面：スス付着。	
138	22	21次	8区	SE1211	5G-4I4	8	土師器	無台碗	15.9	5.2	4.7	29.6	32.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	石			内面：コゲ付着。外面：スス付着。	
138	23	21次	8区	SE1211	5G-4I4	6・8	土師器	小甕	13.9					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・角			内面：コゲ付着。外面：スス付着。	
138	24	21次	8区	SE1211	5G-4I4	3	土師器	小甕		6.8				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	石・角			内面：コゲ付着。外面：スス付着。	
138	25	21次	8区	SE1211	5G-4I4	3	土師器	鍋	38.4					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (7.5YR7/6)	酸化	石				
138	26	21次	8区	SE1211	5G-4I4	8	須恵器	無台杯	12.4	7.4	3.1	25.0	57.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	石・白			A	
138	27	21次	8区	SE1211	5G-4I4	8	須恵器	無台杯	12.1	7.8	2.7	22.3	64.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	白			A	
138	28	21次	8区	SE1211	5G-4I4	8	須恵器	有台杯	13.3	8.3	6.7	50.3	62.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	白			A	墨書土器「田」。内面：漆膜?
138	29	21次	8区	SE1211	5G-4I4	8	須恵器	杯蓋	14.6		2.2	15.1		ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	白			A	
138	30	21次	8区	SE1421	5G-4H10	8	土師器	小甕	13.4					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (7.5YR7/6)	酸化	石・長・角				
138	31	21次	8区	SE1421 SD1420	5G-4H10 5G-4H10	8	土師器	長甕	22.8					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ		橙 (7.5YR7/6)	酸化	石・白			内面：コゲ付着。外面：スス付着。	
138	32	21次	8区	SE1421	5G-4I6	8	須恵器	無台杯	12.8	8.5	3.5	27.0	66.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (N7/)	還元	石・白	A		墨書土器「赤」。	
138	33	21次	8区	SE1421	5G-4I6	8	須恵器	無台杯	12.6	7.5	3.2	25.4	59.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y6/1)	還元	白	A		墨書土器「土」。	
138	34	21次	8区	SE1421	5G-4H10	8	須恵器	有台杯		8.7				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y5/1)	還元	白	A			
138	35	21次	8区	SE1421 SE1421 SD1023 遺構外	5G-4H10 5G-4I6 5G-4H5 5G-4I6	1 5 1 III	須恵器	長頸壺(瓶)	11.0					ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰 (N3/)	還元	長・白			B	
138	36	21次	8区	SE1421 遺構外 遺構外	5G-4I6 5G-4I6・11 5G-3I6	8 III III	須恵器	広口壺	16.8					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ		灰白 (N7/)	還元	長・白			B	内外面：自然釉。
138	37	21次	8区	SE1431	5G-1H4	11	土師器	無台碗	12.7	4.6	4.0	31.5	36.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・長・白				
138	38	21次	8区	SE1431	5G-1H4	6	土師器	無台碗	15.8					ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ		橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・長・海				

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	調査区	遺構名	出土位置 グリッド	層位	種別	器種	法量 (cm)			径口 指数	底径 指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考
										口径	底径	器高			外面	内面	底部					
138	39	21	8	SE2313	6H-2A3	6	珠洲焼	片口鉢							ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目9目	静止糸切り	灰白 (7.5Y7/1)	還元	石・白		内外面：アスファルト付着。
138	40	21	8	SE2383	6G-1J1	6	須恵器	無台杯	12.8	9.8	3.8	29.7	76.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰黄 (2.5Y6/2)	還元	石	D		
138	41	21	8	SE2383	6G1J1	6	須恵器	有台杯	11.7	7.2	4.3	36.8	61.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	石・角	D	外面：自然釉。墨書土器「口」。	
139	42	21	8	SK467	5G-5H3	1	須恵器	無台杯	12.8	9.0	3.5	27.3	70.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	石・白	A		
139	43	21	8	SK630	5G-4I7	1	須恵器	無台杯		6.9				ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	白	A		
139	44	21	8	SK996	5G-9I18	1	須恵器	無台杯		9.0				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	石・長・白	C		
139	45	21	8	SK1074	5G-2I6	1	黒色土器	無台碗	14.2	5.7	4.7	33.1	40.1	ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	切り離し後 ロクロナズリ	灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長・白			
139	46	21	8	SK1103	5G-3I6	1	中世土師器	皿		9.3				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	石・長		意図的に削り欠く。	
139	47	21	8	SK1353	5G-2H10	1	瀬戸・美濃焼	折縁中皿	19.7					ロクロナデ	ロクロナデ		オリープ黄 (7.5Y6/3)	還元				
139	48	21	8	SK1570	5G-1H8	8	須恵器	無台杯	12.0	6.8	3.2	26.7	56.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	石・白	A		
139	49	21	8	SK1570	5G-1H7	1	龍泉窯系青磁	碗	15.9					ロクロナデ	ロクロナデ		オリープ灰 (10Y6/2)	還元				
139	50	21	8	SK1570	5G-1H7	8	白磁	碗	17.8					ロクロナデ	ロクロナデ・篋描き文		灰白 (5Y7/2)	還元				
139	51	21	8	SK1570	5G-1H13	7	中世土師器	皿	11.8					ナデ	ナデ		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	石		内外面：スス付着。	
139	52	21	8	SK1722	5G-3I18	2	土師器	無台碗	13.2	4.8	3.7	28.0	36.4	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・長・焼			
139	53	21	8	SK1837	5G-1I21	1	土師器	無台碗	14.2	5.8	4.7	33.1	40.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・焼・角		外面：スス付着。	
139	54	21	8	SX225	5G-4I13	1	須恵器	無台杯		7.4				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y6/1)	還元	石・白・角	B	墨書土器「中カ」。	
139	55	21	8	SX923	5G-1O13	1	土師器	小甕	13.8					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・焼・角		口縁部内面・外面：スス付着。	
139	56	21	8	SX923	5G-1O13	3	土師器	小甕	15.3					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長・焼		口縁部内面・外面：スス付着。	
139	57	21	8	SX923	5G-1O13	3	土師器	小甕	15.6					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・焼		口縁部内面：スス付着。	
139	58	21	8	SX923 遺構外	5G-1O13 5G-9I22	1 Ⅲ	土師器	長甕						ハケメ・ケズリ	ハケメ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	長・雲・焼・角		外面：スス付着。	
139	59	21	8	SX923	5G-1O13	1	土師器	長甕		6.6							にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・長・焼			
139	60	21	8	SX923	5G-1O13	1	土師器	鍋	41.4					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・焼・白			
139	61	21	8	SX923 遺構外	5G-1O13 5G-9I22	1 Ⅲ	須恵器	無台杯	13.0	10.0	3.2	24.6	76.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元		D	火だすき。	
139	62	21	8	SX923	5G-1O13	1	須恵器	無台杯	13.2	8.6	3.3	25.0	65.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y6/1)	還元	石・白	D		
139	63	21	8	SX923 遺構外	5G-1O13 5G-1O12・3	1 Ⅲ	須恵器	無台杯	12.9	8.9	3.8	29.5	69.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	石	D		
139	64	21	8	SX923 遺構外	5G-1O13 5G-1O13・8	1 Ⅲ	須恵器	無台杯	13.6	9.8	3.3	24.3	72.1	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (5Y7/1)	還元	長	D		
139	65	21	8	SX923	5G-1O13	3	須恵器	有台杯	11.8	7.4				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	長	D		
139	66	21	8	SX923	5G-1O13	3	須恵器	有台杯	11.8	6.8	3.9	33.1	57.6	ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (10Y4/1)	還元	石	D		
139	67	21	8	SX923	5G-1O13	3	須恵器	有台杯	13.0	8.5	3.8	29.2	65.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (7.5Y7/1)	還元	石・海	D		
139	68	21	8	SX923 遺構外	5G-1O13 5G-1O13	1 Ⅲ	須恵器	有台杯	9.3	6.0	4.7	50.5	64.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (10Y6/1)	還元	石	D		
139	69	21	8	SX923	5G-1O13	1	須恵器	杯蓋	13.4	2.5	18.7			ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・長	D		
139	70	21	8	SX923	5G-1O13	1	須恵器	杯蓋	13.8	2.5				ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ		灰 (7.5Y6/1)	還元	石	D		
139	71	21	8	SX1089	4G-10H7	1	土師器	無台碗	11.8	3.9				ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	石・角		外面：スス付着。	
139	72	21	8	SX1089	4G-10H12	1	土師器	小甕	14.0					ロクロナデ	ロクロナデ		黄褐 (2.5Y5/3)	酸化	石・角		内外面：スス付着。	
140	73	21	8	SX1089	4G-10H7	1	土師器	鍋	40.0					ロクロナデ・カキメ・ケズリ	ロクロナデ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	石・長・焼		外面：スス付着。	
140	74	21	8	SX1089	4G-10H7	1	須恵器	杯蓋	15.4	3.2				ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・白	A	内面：磨面。転用硯。	
140	75	21	8	SX1089	4G-10H7	1	須恵器	杯蓋	13.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・白	A		
140	76	21	8	SX1306	5G-1H9	1	土師器	無台碗	13.8					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・長・海			
140	77	21	8	SX1306	5G1H18	2	土師器	長甕						ロクロナデ・沈線2条	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	石・長・雲・焼・角			
140	78	21	8	SX1306 遺構外	5G-1H13 5G-1H14	5 Ⅲ	土師器	長甕	19.4					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	石・長・焼・角			
140	79	21	8	SX1306	5G-1H23	1	黒色土器	有台碗		6.5				ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	石・焼			
140	80	21	8	SX1306	5G-1H13	5	須恵器	無台杯		7.2				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y6/1)	還元	石・白	A	墨書土器「寺」。内面：磨面。転用硯。	
140	81	21	8	SX1306	5G-1H13 5G-1H18	2 5	須恵器	無台杯	12.8	7.4	3.1	24.2	57.8	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・白	A	内面：漆膜?。	
140	82	21	8	SX1306	5G-1H3	1	須恵器	有台杯		7.4				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y6/1)	還元	石・白	A		
140	83	21	8	SX1306	4G-10H22	5	須恵器	壺蓋	12.3					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・白	D		
140	84	21	8	SX1306	5G-1H13	5	緑釉陶器	碗	11.6					ロクロナデ	ロクロナデ・陰刻(花文)		オリープ灰 (10Y6/2)	還元	石			
140	85	21	8	SX1306	5G-1H7	5	龍泉窯系青磁	碗						ロクロナデ・縞蓮弁文	ロクロナデ		灰オリープ (7.5Y5/3)	還元				
140	86	21	8	SX1306	5G-1H13	5	龍泉窯系青磁	碗		5.7				ロクロナデ・片形蓮弁文	ロクロナデ		オリープ黄 (5Y6/3)	還元			底部外面：無釉。	
140	87	21	8	SX1306	4G-10H22	5	白磁	碗	13.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (7.5Y7/1)	還元			口禿げ。	
140	88	21	8	SX1306	5G-1H12	8	白磁	碗		7.9				ロクロナデ	ロクロナデ・欄目文		灰白 (7.5Y7/2)	還元			底部外面：無釉。	
140	89	21	8	SX1306	5G-1H13	5	珠洲焼	片口鉢	27.2					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・白・海			
140	90	21	8	SX1306	5G-1H18 5G-1H23	1 1	珠洲焼	片口鉢	30.0					ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目6目以上	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	白			
140	91	21	8	SX1306	4G-10H22 5G-1H8 5G-1H12	5 6 8	珠洲焼	甕	50.5					ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ・沈線1条	灰 (N5/)	還元	石・白			

図版 番号	遺物 回数	調査 回数	調査 区	遺構名	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			径口 指数	底径 指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考
					グリッド					口径	底径	器高			外面	内面	底部					
140	92	21次	8区	SX1306	5G-1H8		5	中世土師器	柱状高台皿	9.0	6.8	3.8	42.2	75.6	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・焼・海		
140	93	21次	8区	SX1306	5G-1H8		5	中世土師器	皿	7.2	6.7	1.2	16.7	93.1	ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ	糸切り	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	石・角		底部外面：板状圧痕。
140	94	21次	8区	SX1306	5G-1H7		5	中世土師器	皿	7.6		1.7			ナデ	ナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	石・雲・焼		底部外面：指頭圧痕。
140	95	21次	8区	SX1306	5G-1H18		1	中世土師器	皿	7.8	6.3	1.3	16.7	80.8	ナデ	ナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	焼		
140	96	21次	8区	SX1306	5G-1H8		5	中世土師器	皿	7.7	5.4	1.9	24.7	70.1	ナデ	ナデ		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	石		底部外面：指頭圧痕。
140	97	21次	8区	SX1306	5G-1H7		5	中世土師器	皿	11.7					ナデ	ナデ		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	石		底部外面：指頭圧痕。外面：スス付着。
140	98	21次	8区	SX1306	5G-1H17		1	中世土師器	皿	12.6	8.4	2.8	22.2	66.7	ナデ	ナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石		底部外面：指頭圧痕。
140	99	21次	8区	SX1306	5G-1H8		5	中世土師器	皿	11.8					ナデ	ナデ		灰白 (10YR8/2)	酸化	石・焼		底部外面：指頭圧痕。外面：スス付着。
140	100	21次	8区	SX1306	5G-1H7		5	中世土師器	皿	13.8	11.0	3.6	26.1	79.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	石		
140	101	21次	8区	SX1306	5G-1H18		2	縄文土器	深鉢						沈線1条			灰白 (7.5YR8/2)	酸化	石・長・焼		アスファルトによる補修。
141	102	21次	8区	SX1368	5G-2H4		1	白磁	碗	16.3					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (5Y8/2)	還元			
141	103	21次	8区	SX1402	5G-3H23		1	中世土師器	皿	12.8					ナデ	ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	長・焼・海		底部外面：指頭圧痕。
141	104	21次	8区	SX1599 遺構外	5G-1H10 5G-1H10		1 III	黒色土器	碗	13.3					ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・焼・海		
141	105	21次	8区	SX1622	5G-3H20 5G-3H25		4 15	土師器	小甕	12.1					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・焼・角		内面：コゲ付着。外面：スス付着。 106と同一固体か?
141	106	21次	8区	SX1622	5G-3H25		15・16	土師器	小甕		7.3				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・焼・角		内面：コゲ付着。外面：スス付着。 105と同一固体か?
141	107	21次	8区	SX1622	5G-3H20 5G-3H25		4・12・16 15・16・17	土師器	長甕						タタキメ・ハケメ	ハケメ		浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	長・焼		外面：スス付着。
141	108	21次	8区	SX1622	5G-3H20 5G-3H25		4・12 4・15・17	土師器	長甕	20.6					ロクロナデ・カキメ・ケズリ・タタキメ	ロクロナデ・当て具痕		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	石・長・焼・角		
141	109	21次	8区	SX1622	5G-3H20 5G-3H25		4・12 4・12・15	土師器	長甕	19.8		35.9	181.3		ロクロナデ・ハケメ・ケズリ・タタキメ	ロクロナデ・ハケメ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・長・焼		
141	110	21次	8区	SX1622	5G-3H25		8	須恵器	無台杯	12.2	7.8	3.0	24.6	63.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・白	A	内外面：スス付着。
141	111	21次	8区	SX1622	5G-3H25		6	須恵器	無台杯	12.4	8.4	2.8	22.2	67.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (5Y7/1)	還元	石・白・焼	A	墨書土器「□」。
141	112	21次	8区	SX1622	5G-3H25		16	須恵器	無台杯	11.7	7.4	3.1	26.5	63.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	石・白	A	内外面・断面：アスファルト付着。
141	113	21次	8区	SX1622	5G-3H20 5G-3H25		12 4・8・17	須恵器	甕						タタキメ	当て具痕		灰白 (10YR7/1)	還元	石	B	外面：自然釉。
141	114	21次	8区	SX1746	5G-4H3		1	須恵器	無台碗		7.0				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰 (10Y6/1)	還元	石・白	D	
141	115	21次	8区	SX2339	5G-10I2		2	須恵器	無台杯	11.6	6.0	3.6	31.0	51.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	石	D	
141	116	21次	8区	SX2339	5G-10I2		1	須恵器	有台杯	13.4	8.8	3.9	28.7	65.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y5/1)	還元	石・白	D	
142	117	21次	8区	SX2378	5G-10I25		1	土師器	小甕		7.3				ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	石・長・雲・焼		外面：スス付着。
142	118	21次	8区	SX2378	5G-10I25		1	須恵器	無台杯	11.7	8.1	3.3	28.2	69.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y5/1)	還元	石・白・焼	C	
142	119	21次	8区	SX2378	5G-10I25		1	須恵器	無台杯	11.8	8.2	3.2	27.1	69.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	長	D	
142	120	21次	8区	SX2378	5G-10I25		1	須恵器	無台杯	13.4	9.4	4.0	29.9	70.1	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	石・長・白	C	
142	121	21次	8区	SX2378	5G-10I25		1	須恵器	有台杯	11.6	6.4	4.0	34.5	55.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	暗オリーブ灰 (2.5GY3/1)	還元	石・白	D	内外面：自然釉。
142	122	19次	8区	SD22	6H-5D7		1	珠洲焼	壺		11.4	5.5			ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り	灰 (5Y6/1)	還元	白		
142	123	19次	8区	SD25 遺構外	6H-5D12 6H-5D17		1 III	須恵器	横瓶	11.4					タタキメ	当て具痕		灰 (5Y5/1)	還元	石・白	B	
142	124	21次	8区	SD121	5G-7H5		1	珠洲焼	甕	22.9					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・長・海		内面一部：砥面。研磨具転用。
142	125	21次	8区	SD121	5G-6I14		2	珠洲焼	片口鉢	25.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	白・海		内面：砥面。砥面範囲に赤色物。
142	126	21次	8区	SD121	5G-6I14		2	珠洲焼	片口鉢	30.6					ロクロナデ	ロクロナデ・押し目4目以上		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・海		内外面：スス付着。
142	127	21次	8区	SD121	5G-6I9		8	珠洲焼	片口鉢	33.8					ロクロナデ	ロクロナデ・押し目13目		灰 (N5/)	還元	石・海		外面一部：砥面。研磨具転用。
142	128	21次	8区	SD121	5G-7H8		1	白磁	碗	15.6						凸線1条		灰白 (7.5Y7/1)	還元			
142	129	21次	8区	SD121	5G-6I9		1	白磁	碗							沈線1条		灰 (7.5Y6/1)	還元			外面下部：無釉。
142	130	21次	8区	SD121	5G-7I8		1	瓷器系陶器	甕						押印	ナデ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・長・白		
142	131	21次	8区	SD151 SD151 遺構外	5G-5I3 5G-5I18 5G-5I18		1 4 III	土師器	無台碗	12.3	5.3	4.0	32.5	43.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	焼		内外面：スス付着。
142	132	21次	8区	SD151	5G-5I4		10	土師器	無台碗	13.3	4.9	3.7	27.4	36.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	石		
142	133	21次	8区	SD151	5G-5I17		1・8	土師器	無台碗		5.6				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR6/8)	酸化	石・白		
142	134	21次	8区	SD151	5G-5I13		7・10	土師器	無台碗	16.8	5.9	5.3	31.5	35.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	石・焼・白		
142	135	21次	8区	SD151	5G-6H15		1	土師器	長甕	23.8					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長		
142	136	21次	8区	SD151	5G-5I18		2	土師器	鍋	59.2					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・焼		外面：スス付着。
142	137	21次	8区	SD151	5G-6I6		1	黒色土器	鉢	14.6					ロクロナデ・ケズリ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	石・海		
142	138	21次	8区	SD151	5G-5I14		2	須恵器	無台杯	10.8	6.8	3.0	27.3	63.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y6/1)	還元	石・白	A	
142	139	21次	8区	SD151	5G-5I8		10	須恵器	無台杯	12.2	7.2	2.9	23.8	59.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	石・白	A	
142	140	21次	8区	SD151	5G-5I18		4	須恵器	無台杯	12.8	8.2	3.2	25.0	64.1	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y6/1)	還元	白	A	墨書土器「有」。
142	141	21次	8区	SD151	5G-5I4		1	須恵器	杯蓋	15.5					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/1)	還元	石・白	A	
142	142	21次	8区	SD151	5G-5I17		1	須恵器	長頸壺(瓶)	5.7					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y6/1)	還元	石	A	
142	143	21次	8区	SD151	5G-5I22 5G-6I2		1 1	須恵器	長頸壺(瓶)		9.3				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N4/)	還元	石・白	A	高台：付着物。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			径口指数	底径指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考
				遺構名	グリッド				口径	底径	器高			外面	内面	底部					
142	144	21次	8区	SD151 遺構外	5G-5113 5G-5113・18	2 Ⅲ	須恵器	長胴瓶	12.1					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (10Y6/1)	還元	石・白	A	
143	145	21次	8区	SD151 SD151 SD151 SD151 SD164 遺構外 遺構外 遺構外	5G-513 5G-5113 5G-5114 5G-6113 5G-5114 5G-5113 5G-5118 5G-6111	1・2 1・2・3 1・3・6 2 1 Ⅲ Ⅲ Ⅲ	須恵器	甕						タタキメ・ロクロナデ	当て具痕		灰 (5Y6/1)	還元	白	A	
143	146	21次	8区	SD164	5G-5114	1	須恵器	横瓶						カキメ	ナデ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石	D	外面：自然釉。重ね焼き痕。
143	147	21次	8区	SD164	5G-6H15	1	須恵器	甕	22.4					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・白	D	
143	148	21次	8区	SD1023	5G-4H15	1	土師器	無台碗	13.8					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (5YR7/6)	酸化	石・白		
143	149	21次	8区	SD1023	5G-4111・12	1	須恵器	無台杯	12.6	8.3	3.2	25.4	65.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (10Y6/1)	還元	石・白	A	
143	150	21次	8区	SD1092	4G-10H7	1	土師器	無台碗	13.2					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・長・焼		外面：スス付着。
143	151	21次	8区	SD1092	4G-10H7・8	1	須恵器	無台杯	12.2	6.8	2.9	23.8	55.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (10YR8/2)	還元	石	D	
143	152	21次	8区	SD1196	4G-10H18	1	黒色土器	無台碗	13.4	5.3	5.0	37.3	39.6	ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		灰白 (10YR8/2)	酸化	石		
143	153	21次	8区	SD1196	4G-10H18	1	須恵器	甕						タタキメ	当て具痕		灰 (5Y6/1)	還元	石・白	A	内外面：アスファルト付着。
143	154	21次	8区	SD1305	4G-10H24	1	須恵器	無台杯		7.8				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y6/1)	還元	石・白	B	底部外面：ヘラ記号「-」か?
143	155	21次	8区	SD1307	4G-10H11	5	縄文土器	深鉢						結節回転文			にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	石・長・焼		
143	156	21次	8区	SD1380	5G-2H10	1	黒色土器	碗	12.8					ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ			酸化	石		
143	157	21次	8区	SD1380	5G-2H10	1	緑釉陶器	碗						ロクロナデ	ロクロナデ・除刻 (三弁脈花文)		灰白 (10Y7/2)	還元			
143	158	21次	8区	SD1817	5G-4H4	1	須恵器	有台杯	14.4	7.8			54.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y5/1)	還元	石・白	D	会津若松市大戸窯跡群類似。
143	159	21次	8区	SD2291	6G-1J12	1	珠洲焼	壺	19.1					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y5/1)	還元	石		
143	160	21次	8区	SD2291	6G-1J12	1	珠洲焼	壺	16.8					タタキメ・ロクロナデ	当て具痕・ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・海		内外面・外面：アスファルト付着。
143	161	21次	8区	SD2291	5G-1J13	1	珠洲焼	片口鉢		12.0				ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り	灰 (N5/)	還元	石・海		
143	162	21次	8区	P173	5G-6I19	1	土師器	無台碗	17.2	6.4	5.6	32.6	37.2	ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ	糸切り	橙 (2.5YR6/8)	酸化	石・長・白・角・海		
143	163	21次	8区	P329	5G-5I6	1	奈良三彩	小壺		4.0				ロクロナデ	ロクロナデ		明オリブ灰 (2.5GY7/1)	酸化			緑色釉のみ残存。5と同一個体か?
143	164	21次	8区	P342	5G-4I3	1	灰釉陶器	長頸壺(瓶)	6.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (7.5Y7/2)	還元			
143	165	21次	8区	P603	5G-5I13	2	珠洲焼	片口鉢	24.2					ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目3目以上		灰 (5Y6/1)	還元	石・海		
143	166	21次	8区	P862	5G-9J6	1	中世土師器	有台皿	6.1					ナデ			浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・海		
143	167	21次	8区	P1044	5G-9J22	1	須恵器	無台杯	12.8	7.5	3.0	23.4	58.6	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/1)	還元	石	D	
144	168	21次	8区	遺構外	5G-4I17	Ⅲ	土師器	有台皿		6.6				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・長・焼		
144	169	21次	8区	遺構外	5G-10I5	Ⅲ	土師器	蓋						ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	石・焼・角		外面：赤彩。
144	170	21次	8区	遺構外	5G-7I18	Ⅲ	土師器	小甕	11.9					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (5YR7/6)	酸化	石・長・焼		口縁部内外面：スス付着。
144	171	21次	8区	遺構外	4G-9H17	Ⅲ	土師器	長甕	14.4					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	石		
144	172	21次	8区	遺構外	5G-6H19	Ⅲ	土師器	長甕	19.0					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・焼		
144	173	21次	8区	遺構外	5G-9I22	Ⅲ	土師器	鍋	34.4					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・焼・角		外面：スス付着。
144	174	21次	8区	遺構外	5G-5H5	Ⅲ	土師器	鍋	37.8					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ・ヘラケズリ		灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長・焼・角		外面：スス付着。
144	175	21次	8区	遺構外	5G-6H9	Ⅲ	土師器	把手						ナデ			にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・焼		
144	176	21次	8区	遺構外	5G-1I24	Ⅲ	土師器	長甕	38.4					ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・焼		
144	177	21次	8区	遺構外	5G-7I17	Ⅲ	須恵器	無台杯	11.9	6.8	3.2	26.9	57.1	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	褐灰 (10YR6/1)	還元	石・白	A	
144	178	21次	8区	遺構外	5G-9I17	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.6	8.3	3.5	27.4	65.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	石・白	D	
144	179	21次	8区	遺構外	5G-10J16	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.3	8.6	3.3	26.4	69.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・白	D	
144	180	21次	8区	遺構外	5G-9I17	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.4	7.2	3.5	27.9	58.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	石	D	
144	181	21次	8区	遺構外	5G-10I20	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.0	7.9	3.3	27.5	65.8	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・白	D	底部外面：ヘラ記号「+」。
144	182	21次	8区	遺構外	5G-10I15	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.5	8.0	3.7	29.6	64.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	石・白	D	
144	183	21次	8区	遺構外	5G-10I20	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.3	7.3	3.7	30.1	59.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	白	D	
144	184	21次	8区	遺構外	5G-9I22	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.4	6.6	4.2	33.9	53.2	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (2.5Y8/1)	還元	石	D	
144	185	21次	8区	遺構外	5G-9I22	Ⅲ	須恵器	無台杯		6.6				ロクロナデ・沈線2条	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y8/1)	還元	石	D	
144	186	21次	8区	遺構外	6G-1J1	Ⅲ	須恵器	無台杯	13.4	8.1	3.3	24.6	60.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	石・白	A	
144	187	21次	8区	遺構外	5G-4I8	Ⅲ	須恵器	無台杯	12.8					ロクロナデ	ロクロナデ・沈線1条		灰白 (2.5Y7/1)	還元	白	A	
144	188	21次	8区	遺構外	5G-8J6	Ⅲ	須恵器	有台杯	10.9	7.0	3.7	33.9	64.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N4/)	還元	石	D	
144	189	21次	8区	遺構外	5G-8I8	Ⅲ	須恵器	有台杯	11.7	7.3	3.3	28.2	62.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	石・白	B	
144	190	21次	8区	遺構外	5G-10I20	Ⅲ	須恵器	有台杯	11.6	6.7	3.9	33.6	57.8	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (5Y6/1)	還元	石・長・白	D	
144	191	21次	8区	遺構外	5G-9I22・23	Ⅲ	須恵器	有台杯	12.8	8.7	4.1	32.0	68.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	白	D	
144	192	21次	8区	遺構外	5H-9I12・17	Ⅲ	須恵器	有台杯	11.7	6.6	4.5	38.0	56.4	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (2.5Y7/1)	還元	白・海	D	
144	193	21次	8区	遺構外	5G-10I13	Ⅲ	須恵器	有台杯	12.0	6.4	5.2	43.3	53.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・白	A	
145	194	21次	8区	遺構外	5G-10I2	Ⅲ	須恵器	有台杯		8.8				ロクロナデ・沈線2条	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y5/1)	還元	石・白・角・海	D	
145	195	21次	8区	遺構外	5G-4I12	Ⅲ	須恵器	有台蓋		9.8				ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/1)	還元	石・白	D	
145	196	21次	8区	遺構外	5G-9I17	Ⅲ	須恵器	杯蓋	14.4		2.7	18.8		ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y5/1)	還元	石	D	天井部内面：ヘラ記号「-」。
145	197	21次	8区	遺構外	5G-9I22	Ⅲ	須恵器	杯蓋	13.0		3.0	23.1		ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・長・白	D	

図版 番号	遺物 番号	調査 回数	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			径口 指数	底径 指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考
				遺構名	グリッド				口径	底径	器高			外面	内面	底部					
145 198	21次	8区	遺構外	5G-9I23	Ⅲ	須恵器	杯蓋	15.0		4.0	26.7			ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (7.5Y5/1)	還元	石・長・白	D	
145 199	21次	8区	遺構外	5G-6I11	Ⅲ	須恵器	短頸壺	9.6						ロクロナデ	ロクロナデ・カキメ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	白	D	外面：自然釉。重ね焼き痕。
145 200	21次	8区	遺構外	5G-4H8	Ⅲ	須恵器	長頸壺(瓶)	7.4						ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石	A	
145 201	21次	8区	遺構外	5G-8I13・19	Ⅲ	須恵器	長頸壺(瓶)		5.9					ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・角	A	
145 202	21次	8区	遺構外	5G-5H18	Ⅲ	須恵器	長頸瓶							ロクロナデ・突帯1条	ロクロナデ・カキメ		黄灰 (2.5Y5/1)	還元	石	D	
145 203	21次	8区	遺構外	5G-9I9	Ⅲ	須恵器	壺蓋	12.8						ロクロナデ	ロクロナデ		黄灰 (2.5Y5/1)	還元	石	A	
145 204	21次	8区	遺構外	5G-4I8	Ⅲ	須恵器	壺・瓶類		13.4					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・長	A	
145 205	21次	8区	遺構外	5G-10I14	Ⅲ	須恵器	円面碗	12.2		3.7				ロクロナデ・へら描花文	ロクロナデ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石	D	円形窓。
145 206	21次	8区	遺構外	5G-6I13	Ⅱ	須恵器	円面碗		12.8					ロクロナデ・へら描花文	ロクロナデ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石	D	円形窓。
145 207	21次	8区	遺構外	5G-4H9・10	Ⅲ	灰釉陶器	皿		7.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (2.5Y7/1)	還元	石		底部内面：無釉。
145 208	21次	8区	遺構外	5G-8I9	Ⅲ	白磁	皿		3.0					ロクロナデ	ロクロナデ		オリーブ黄 (5Y6/3)	還元	石		体部外面下半：無釉。
145 209	21次	8区	遺構外	5G-7I2	Ⅲ	珠洲焼	壺	14.7						ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・白・海		
145 210	21次	8区	遺構外	5G-3H9	Ⅲ	珠洲焼	甕		5G-3H9					ロクロナデ・タタキメ	ロクロナデ		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石		
145 211	21次	8区	遺構外	5G-7H5	Ⅲ	珠洲焼	甕							タタキメ	当て具痕		灰 (N5/)	還元	石・海		珠洲市大島2号窯跡類似。210と同一個体か？
145 212	21次	8区	遺構外	6G-2J15	Ⅲ	珠洲焼	甕							タタキメ	当て具痕		灰 (5Y6/1)	還元	石・海		珠洲市大島2号窯跡類似。209と同一個体か？
145 213	21次	8区	遺構外	5G-3H10	Ⅲ	珠洲焼	片口鉢	25.7						ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目9目		黄灰 (2.5Y6/1)	還元	石・海		
145 214	21次	8区	遺構外	5G-9I11	Ⅲ	珠洲焼	片口鉢	27.8						ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (2.5Y8/1)	還元	石		
145 215	21次	8区	遺構外	5G-1I21	Ⅲ	瓷器系陶器	甕							タタキメ・ロクロナデ	当て具痕・ロクロナデ		暗黄 (2.5Y5/2)	還元	石・白		内面：自然釉。外面・破面：砥面。研磨具転用。
145 216	21次	8区	遺構外	5G-8I15	Ⅲ	中世土師器	皿		6.7					ロクロナデ	ロクロナデ・ハケメ	へら切り	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	石・海		
145 217	21次	8区	遺構外	5G-5I9	Ⅲ	中世土師器	皿	8.6	8.0	1.75	20.3	93.0		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	石		
145 218	21次	8区	遺構外	5G-1H24	Ⅱ	中世土師器	皿	7.6	7.5	1.6	21.1	98.7		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・海		
145 219	21次	8区	遺構外	5G-3I21	Ⅲ	中世土師器	皿	12.6	9.6	4.5	35.7	76.2		ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・焼・海		
145 220	21次	8区	遺構外	5G-4I13	Ⅲ	中世土師器	有台皿	10.6	7.1	3.2	30.2	67.0		ナデ・ロクロナデ	ナデ・ロクロナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・海		
145 221	21次	8区	遺構外	5G-3H24	Ⅲ	中世土師器	有台皿		5.6					ナデ	ナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・海		
154 327	20次	9区	P2129 (SB3)	6H-10E25	1	須恵器	長頸壺(瓶)							ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	石・白	E	双耳。外面：自然釉
154 328	20次	9区	P2117 (SB8)	7H-2E15	1	土師器	無台碗	12.6						ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	長・雲・白		
154 329	20次	9区	P2221 (SB8)	7H-2E15	1	土師器	無台碗	13.0						ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	石・雲・白		
154 330	20次	9区	P2221 (SB8)	7H-2E15	1	土師器	無台碗	13.0	6.0	3.8	28.9	46.2		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・白・海		
154 331	20次	9区	P2221 (SB8)	7H-2E15	—	黒色土器	無台碗	16.4						ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	石・長・海		
154 332	20次	9区	P2222 (SB8)	7H-2E12	1	黒色土器	無台碗		6.5					ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後 ロクロナズリ	灰白 (10YR8/2)	酸化	石・雲・白		
154 333	20次	9区	P2275 (SB8)	7H-2F16	1	土師器	無台碗	14.2						ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・雲・白		口縁端部内面：タール状の付着物。
154 334	20次	9区	P2275 (SB8)	7H-2E20	1	土師器	無台碗		6.6					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・白・海		
154 335	20次	9区	P2275 (SB8)	7H-2F16	1	土師器	無台碗		6.5					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (5YR7/6)	酸化	石・長・雲・白・海		
154 336	20次	9区	P2275 (SB8)	7H-2E20	1	土師器	無台碗		6.0					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR6/8)	酸化	石・雲・白・海		
154 337	20次	9区	P2320 (SB8)	7H-2E20	2	土師器	無台碗		6.4					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・雲		
154 338	20次	9区	P3100 (SB8)	7H-2E9	1	黒色土器	無台碗	15.0						ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・白・海		
154 339	20次	9区	P3100 (SB8)	7H-2E9	1	黒色土器	無台碗		5.5					ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後 ロクロナズリ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・白・海		
154 340	20次	9区	P3110 (SB8)	7H-2E10	2	土師器	無台碗	12.8	4.7	4.1	31.6	36.7		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・海		
154 341	20次	9区	P3110 (SB8)	7H-2E10	2	土師器	無台碗	13.0						ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・白・海		
154 342	20次	9区	P3110 (SB8)	7H-2E10	2	土師器	無台碗	12.6	4.6	3.9	31.0	36.5		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白		
154 343	20次	9区	P3110 (SB8)	7H-2E10	2	土師器	無台碗	15.8						ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長・雲		
154 344	20次	9区	P3522 (SB9)	7H-2E21・22	3	土師器	無台碗	14.0						ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	石・長・海		
154 345	19次	9区	SE17	7H-5F13	1	須恵器	無台杯	13.6	10.0	2.7	19.9	73.5		ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	灰 (N5/)	還元	石・長・白	D	口縁端部内面：自然釉。
154 346	19次	9区	SE32	7H-5F6	9	土師器	無台碗		6.1					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	石・長・雲・白		
154 347	19次	9区	SE32	7H-5F6	9	中世土師器	皿	8.1	6.8	1.7	21.0	84.0		ナデ	ナデ		浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	石・長・雲・白・海		底部外面：指頭圧痕。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			径口指数	底径指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考
				遺構名	グリッド				口径	底径	器高			外面	内面	底部					
154	348	20次	9区	SE1514			龍泉窯系青磁	碗	14.1					ロクロナデ	ロクロナデ		地：(10Y-7/1) 灰白 釉：(10Y-5/2) オリーブ灰	還元			
154	349	20次	9区	SE1676	7H-2G7	16	珠洲焼	片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		黄灰 (2.5Y4/1)	還元	石・長・白・海		卸し目の有無不明。
154	350	20次	9区	SE1692	7H-2I22	16	白磁	碗		5.8				ロクロナデ	ロクロナデ・櫛目文		灰白 (5Y7/2)	還元			高台外面下半・高台内側：無釉。
154	351	20次	9区	SE2398	7H-2F2	3	土師器	無台碗	12.4	5.5	3.6	29.0	44.4	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・長・雲・海		
154	352	20次	9区	SE3172 SE3172 P3341 P2382	7H-2F13 7H-2F14 7H-2F21 7H-2F22	2 1 11	須恵器	有台杯	10.8	7.2	4.6	42.6	66.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (7.5Y5/1)	還元	長・白・海	D	
154	353	20次	9区	SE3185	7H-2G12	11	土師器	無台碗	14.0					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・長・白・海		
154	354	20次	9区	SE3185	7H-2G11	2	土師器	有台碗		5.9				ロクロナデ	ロクロナデ	不明	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	石・長		
154	355	20次	9区	SE3185	7H-2G11	2	土師器	小甕		5.8				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	石・長・白・海		
154	356	20次	9区	SE3188	7H-2G12	2	中世土師器	皿	12.6	10.2	3.0	23.8	81.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長		
154	357	20次	9区	SE3372	7H-2F15	9	黒色土器	無台碗	15.7					ロクロナデ・ミガキ・沈線	ロクロナデ・ミガキ		灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	白・海		
155	358	20次	9区	SE3416	7H-4G9	38	土師器	無台碗	11.9	5.3	3.7	31.1	44.5	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	石・長・雲・白		
155	359	20次	9区	SE3416	7H-4G9	29	土師器	無台碗	14.0					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	白		
155	360	20次	9区	SE3416	7H-4G9	13	土師器	無台碗		5.2				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	石・雲		
155	361	20次	9区	SE3416	7H-4G9	38	土師器	小甕		5.8				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰白 (5Y7/2)	酸化	石・長・白		
155	362	20次	9区	SE3416	7H-4G9	38	黒色土器	無台碗	14.9	7.0	5.2	34.9	47.0	ロクロナデ・ミガキ・ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後 ロクロナデ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	石・長・海		
155	363	20次	9区	SE3416	7H-4G9	37	黒色土器	無台碗		5.4				ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後 ロクロナデ	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	石・長・白・海		底部外面：スス付着。
155	364	20次	9区	SE3617	7H-4E10	8	灰軸陶器	碗		8.4				ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (7.5Y7/1)	還元	白・石		高台外面・高台内側：無釉。
155	365	19次	9区	SK544	7H-5D16	1	土師器	無台碗	11.7					ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	長・海		
155	366	19次	9区	SK544	7H-5D16	1	黒色土器	無台碗	15.1					ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	長・雲・白		
155	367	20次	9区	SK2279	7H-2E14	2	土師器	無台碗	12.5					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白・海		
155	368	20次	9区	SK2279	7H-2E14	3	土師器	無台碗	13.4					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白・海		
155	369	20次	9区	SK2279	7H-2E14	2	土師器	無台碗	16.0					ロクロナデ	ロクロナデ		赤橙 (10R6/6)	酸化	石・長・海		
155	370	20次	9区	SK2279	7H-2E14	1	土師器	無台碗	14.6					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	石・長・雲・白・海		
155	371	20次	9区	SK2279	7H-2E14	2	土師器	無台碗	14.9					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・長・雲・白・海		
155	372	20次	9区	SK2279	7H-2E14	2	土師器	無台碗		6.0				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	石・長・雲・白・海		
155	373	20次	9区	SK2290	7H-1F25	1	土師器	無台碗	12.8	6.6	3.8	29.7	51.6	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・長・雲・白・海		
155	374	20次	9区	SK2290	7H-1F25	4	土師器	無台碗	13.0	5.5	4.3	33.1	42.3	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR7/6)	酸化	石・長・白・海		
155	375	20次	9区	SK2290	7H-1F25	1	土師器	無台碗	15.3	6.9	4.7	30.7	45.1	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・白・海		墨書土器「□」。
155	376	20次	9区	SK3173	7H-2E10	1	土師器	無台碗	14.7	5.6	3.9	26.5	38.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・長・白・海		
155	377	20次	9区	SK3177	7H-2F4	1	土師器	無台碗	13.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	石・長・白		
155	378	20次	9区	SK3177	7H-2F4	2	土師器	無台碗	11.9					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・雲・白		
155	379	20次	9区	SK3177	7H-2F4	9	須恵器	無台杯		8.8				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N5/)	還元	石・長・白	D	
155	380	20次	9区	SK3197	7H-2G11	1	土師器	無台碗	13.2	6.3	4.0	30.3	47.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・白		
155	381	20次	9区	SK3197	7H-2G11	1	須恵器	杯蓋		16.0				ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (10Y5/1)	還元	石・長・白	D	外面：自然釉。
155	382	20次	9区	SK3197	7H-2G11	1	須恵器	杯蓋						ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ		灰 (N4/)	還元	石・長・白	D	外面：自然釉。
155	383	20次	9区	SK3197	7H-2G11	3	須恵器	短頸壺	6.9					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	白	B	
155	384	20次	9区	SK3197 SE3372	7H-2G11 7H-2G11	2・3・5 4	須恵器	短頸壺	9.8					ロクロナデ・沈線2条	ロクロナデ		灰 (N5/)	還元	石・長・白	D	外面：自然釉。壺蓋の重ね焼き痕。
155	385	20次	9区	SK3197	7H-2G11	5	須恵器	壺・瓶類	7.3					ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	暗灰 (N3/)	還元	白	D	底部内面：工具痕。
155	386	20次	9区	SK3197	7H-2G11	1	須恵器	壺・瓶類	6.2					ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (N6/)	還元	白	D	底部内面：自然釉。 破面：アスファルト付着。
155	387	20次	9区	SK3197	7H-2G11	1	須恵器	壺・瓶類	10.7					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (N6/)	還元	白	D	高台外面：自然釉。
156	388	20次	9区	SK3325	7H-1F22	1	土師器	無台碗	12.1					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白		
156	389	20次	9区	SK3325	7H-1F22	1	土師器	無台碗	13.4					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白		
156	390	20次	9区	SK3325	7H-1F22	1	土師器	無台碗	15.4					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・海		
156	391	20次	9区	SK3325	7H-1F22	1	土師器	無台碗	15.8					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (2.5YR6/6)	酸化	雲・海		
156	392	20次	9区	SK3325	7H-1F22	1	土師器	無台碗	13.8	7.2	3.4	24.3	52.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	石・長・雲・白		
156	393	20次	9区	SK3325	7H-1F22	2	黒色土器	無台碗	15.8	5.1	5.1	32.3	32.3	ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後 ロクロナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白		外面：スス付着。
156	394	20次	9区	SK3227	7H-3G10	5	土師器	無台碗	12.6	6.6	3.8	30.2	52.4	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・長・雲・海		
156	395	20次	9区	SK3227	7H-3G9	3	土師器	無台碗	15.0	7.2	4.5	30.0	48.0	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白		
156	396	19次	9区	SX146	7H-5D1	1	土師器	無台碗	11.8	5.2	3.8	32.2	44.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	石・長・白・海		
156	397	19次	9区	SX146 遺構外	7H-5D1 7H-5D1	3 Ⅲ	土師器	無台碗	12.0	5.3	3.8	31.7	44.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	長・雲・白		内外面：スス付着。
156	398	19次	9区	SX146 遺構外	7H-5D1 7H-5D1	1・3 Ⅲ	土師器	無台碗	13.7	6.9	3.7	27.0	50.4	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	雲・石・長		内面：スス付着。
156	399	19次	9区	SX146	7H-5D1	1・3	黒色土器	無台碗	14.9					ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	雲		

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			径口指数	底径指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考				
				遺構名	グリッド				口径	底径	器高			外面	内面	底部									
156	400	19	9	SX146 遺構外	7H-5D1 7H-4D22 7H-5D1	1 Ⅲ Ⅲ	土師器	長襖	37.8												外面：指頭圧痕。				
156	401	19	9	SX146 遺構外	7H-5D1 7H-5D7 7H-7C5 7H-5D1・6	1 1 Ⅲ Ⅲ	土師器	鍋	39.0					ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ・ナデ							外面：スス付着。			
156	402	19	9	SX172	7H-5D7	2	土師器	無台碗	11.7	6.6	4.3	36.8	56.4	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
156	403	19	9	SX172	7H-5D7	1	土師器	無台碗	12.7	6.1	4.0	31.5	48.0	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
156	404	19	9	SX172	7H-5D7	1・2	土師器	無台碗	12.1	5.0	3.9	32.2	41.3	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
156	405	19	9	SX172 遺構外	7H-5D7 7H-5D7	1・2 Ⅲ	土師器	無台碗	13.1	5.6	3.4			ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
156	406	19	9	SX172	7H-5D7	1	土師器	無台碗		6.0				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
156	407	19	9	SX172	7H-5D7	1・2	土師器	無台碗	12.8					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
157	408	19	9	SX172	7H-5D7	1	土師器	無台碗		6.1				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
157	409	19	9	SX172	7H-5D8	1	土師器	鉢	16.2					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
157	410	19	9	SX172	7H-5D8	1	黒色土器	有台碗		5.1				ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り									
157	411	19	9	SX305	7H-4E16	1	土師器	無台碗		5.5				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
157	412	19	9	SX305	7H-4D25	1	須恵器	無台碗		6.0				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り							B		
157	413	20	9	SX2140 SD2092	7H-1E9 7H-3F5	11・13・24 1	須恵器	短頸壺						ロクロナデ・ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ・ナデ								D		
157	414	20	9	SX2140	7H-1E4 7H-1E9	3・4・6・8~12 4・11	珠洲焼	壺	16.0					タタキメ	当て具痕										
157	415	20	9	SX2140	7H-1E4 7H-1E9	21 24・29	珠洲焼	片口鉢	30.6	13.0				ロクロナデ	ロクロナデ・押し目14目	静止糸切り								口縁・体部内面：アスファルト付着。	
157	416	20	9	SX2140	7H-1E4	29	中世土師器	皿	8.6	6.9	1.7	19.8	80.2	ナデ	ナデ									指頭圧痕。内外面：タール付着。灯明皿。	
157	417	20	9	SX2253	7H-1G17	2	土師器	無台碗	11.8	6.0	3.2	27.1	50.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								底部外面：工具痕。	
157	418	20	9	SX2253	7H-1G16・17	6	土師器	無台碗	11.9	5.8	4.0	33.6	48.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
157	419	20	9	SX2253	7H-1G17	1	土師器	無台碗	13.4	6.0	4.1	30.6	44.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								外面：スス?付着。	
158	420	20	9	SX2253	7H-1G17	6	土師器	無台碗	12.0	6.5	3.7	30.8	54.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								内面：スス?付着。	
158	421	20	9	SX2253	7H-1G17	6	土師器	無台碗	12.1	5.8	3.9	32.2	47.9	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								口縁部外面：スス付着。	
158	422	20	9	SX2253	7H-1G16・17	1	土師器	無台碗	13.6					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	423	20	9	SX2253	7H-1G17	2	黒色土器	無台碗		5.0				ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	不明									
158	424	20	9	SX2253	7H-1G17	1	灰釉陶器	碗		5.1				ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	425	20	9	SX2348	7H-2F17・22	1	土師器	無台碗	12.1	5.0	4.1	33.9	41.3	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								口縁部内面：タール付着。	
158	426	20	9	SX2348	7H-2F17・22	1	土師器	無台碗	12.2	6.9	4.2	34.4	56.6	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								体部外面下半・底部内面・高台内側：無軸。	
158	427	20	9	SX2348	7H-2F17・22	1	黒色土器	無台碗	13.1					ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ									口縁部内面・破面：タール付着。	
158	428	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.8	4.8	3.6	28.1	37.5	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	429	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	10.5	5.3	3.9	37.1	50.5	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	430	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	10.8	5.1	4.1	38.0	47.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	431	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	13.1	5.6	4.9	37.4	42.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	432	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	11.9	5.5	4.5	37.8	46.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	433	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	13.6	5.7	4.2	30.9	41.9	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	434	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	13.9	6.4	4.4	31.7	46.0	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	435	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.8	6.7	4.5	35.2	52.3	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								外面：スス付着。	
158	436	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.6	6.2	4.4	34.9	49.2	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	437	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	15.2	6.1	4.4	28.9	40.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	438	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.9	4.6	4.0	31.0	35.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	439	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	11.9	4.2	4.3	36.1	35.3	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	440	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	13.6	4.2	3.7	27.2	30.9	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	441	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	15.9	7.4	4.7	29.6	46.5	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
158	442	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	13.0	5.6	4.1	31.5	43.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り								墨書土器「池」。底部内面：タール状の付着物。	
158	443	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.3	6.0	4.2	34.1	48.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
159	444	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	14.2	7.0	4.2	29.6	49.3	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
159	445	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.1	5.8	3.7	30.2	47.9	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
159	446	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	13.9	6.4	4.5	32.4	46.0	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
159	447	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗	12.0	5.8	4.0	33.3	48.3	ロクロナデ	ロクロナデ	不明									
159	448	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	無台碗		5.5				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
159	449	20	9	SX3349	7H-2F21	1	土師器	小壺	15.3					ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
159	450	20	9	SX3349	7H-2F21	1	黒色土器	無台碗	12.5	5.4	4.2	33.6	43.2	ロクロナデ ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後 ロクロナデ									
159	451	20	9	SX3349	7H-2F21		黒色土器	無台碗	13.3	6.0	4.2	31.6	45.1	ロクロナデ・ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	切り離し後ロク ロナデ									

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	調査区	遺構名	出土位置	層位	種別	器種	法量 (cm)			口径	底径	底径指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考
										口径	底径	器高				外面	内面	底部					
159	452	20	9	9区	SX3349	7H-2F21	1	黒色土器	無台碗	13.6	6.1	4.1	30.1	44.9	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ・ミガキ	不明	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・雲・白			
159	453	20	9	9区	SX3349	7H-2F21	1	黒色土器	無台碗	13.2	5.6	4.4	33.3	42.4	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ・ミガキ	切り離し後ロクロナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・白・海			
159	454	20	9	9区	SX3349	7H-2F21	1	黒色土器	無台碗		5.3				ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り後ミガキ	灰黄褐 (10YR6/2)	還元	石・長・海		内面：暗文。	
159	455	20	9	9区	SX3349	7H-2F21	1	須恵器	無台杯	12.3	8.8	2.9	23.6	71.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	石・長・白	D	火だすき。	
159	456	20	9	9区	SX3349	7H-2F21	1	須恵器	有台杯	14.3	8.7	4.9	34.3	60.8	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	青灰 (5B5/1)	還元	白	A		
159	457	20	9	9区	SX3349	7H-2F21	1	灰釉陶器	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄 (2.5Y7/2)	還元			体部外面下半：無釉。	
159	458	20	9	9区	SX3521	7H-3E20	36	須恵器	甕						タタキメ	当て具痕		灰 (7.5Y4/1)	還元	石・長・白	D	内外面・破面：タール付着。	
159	459	20	9	9区	SX3521	7H-3E19		緑釉陶器	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (7.5Y5/3)	還元				
159	460	20	9	9区	SX3521	7H-3E20	25	白磁	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (7.5Y7/1)	還元			体部外面下半：無釉。内面：目跡 (砂目跡)。	
159	461	19	9	9区	SD417	7H-5F18	1	土師器	鍋	29.3					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・雲・白・海			
159	462	19	9	9区	SD417	7H-5F17	1	黒色土器	無台碗	15.8					ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	雲			
159	463	19	9	9区	SD455	7H-10C19	1	白磁	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (2.5GY8/1)	還元			髹付：無釉。	
159	464	19	9	9区	SD498	7H-5E23	1	土師器	無台碗		3.7				ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰白 (10YR8/2)	酸化	雲			
159	465	19	9	9区	SD498	7H-6E2	1	黒色土器	無台碗	12.8					ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長			
159	466	19	9	9区	SD498	7H-6E11	1	土師器	鍋	35.0					ロクロナデ	ロクロナデ・ハケメ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・白			
159	467	19	9	9区	SD669	7H-7E14	1	須恵器	杯蓋	14.4					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (10Y5/1)	還元	石・長・白	B		
159	468	19	9	9区	SD744	7H-9C16	1	珠洲焼	片口鉢	32.3					ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目		灰黄 (2.5Y7/2)	還元	長・白・海		破面：アスファルト付着。	
160	469	20	9	9区	SD1600	7H-1F6	1	縄文土器	甕						ハケメ・浮線文	ナデ		灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	石・長・雲		炭化物付着。	
160	470	20	9	9区	SD1661	7H-3G23	1	珠洲焼	片口鉢	30.6					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (7.5Y5/1)	還元	石・長・海			
160	471	20	9	9区	SD1661	7H-3G1	1	珠洲焼	片口鉢	32.9					ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目		灰 (N5/)	還元	白		内外面：アスファルト付着。	
160	472	20	9	9区	SD1661	7H-3G18	1	珠洲焼	片口鉢	28.0					ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目9目・ナデ		灰 (N4/)	還元	白		アスファルト付着。	
160	473	20	9	9区	SD1661	7H-2F5	5	珠洲焼	壺		10.2				ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り	灰 (N5/)	還元	石・白			
160	474	20	9	9区	SD2092	7H-1F7	1	縄文土器	甕						浮線文	ナデ・沈線		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	石・長・白・海			
160	475	20	9	9区	SD2092	7H-2F14	1	緑釉陶器	碗	14.8					ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (7.5Y6/2)	還元			口縁端部：無釉。	
160	476	20	9	9区	SD2141 遺構外	7H-2E14 7H-2E14	1 III	須恵器	鉢	24.2					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y6/1)	還元	白・海	A		
160	477	20	9	9区	SD2171	7H-2E16	2	土師器	無台碗	12.5	5.2	4.0	32.0	41.6	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	石・長・雲・白			
160	478	20	9	9区	SD2192	7H-1E21	3	珠洲焼	片口鉢		11.4				ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目	静止糸切り	灰 (N4/)	還元	白		内外面・破面：アスファルト付着。	
160	479	20	9	9区	SD2192	7H-2E4		珠洲焼	片口鉢	33.3					ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目9目		灰 (7.5Y6/1)	還元	白・海		口縁部外面：工具痕。	
160	480	20	9	9区	SD2192	7H-1F21 7H-1F22	3 1	中世土師器	皿	8.0	6.0	1.2	15.0	75.0	ナデ	ナデ		灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	白			
160	481	20	9	9区	SD2205	7H-2F11	1	土師器	無台碗	14.3	6.8	5.0	35.0	47.6	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR7/6)	酸化	石・長・白・海			
160	482	20	9	9区	SD2205 SD2195	7H-1E25 7H-1E25	1 1	土師器	無台碗	12.8	7.0	3.4	26.6	54.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白			
160	483	20	9	9区	SD2205 SD2195 P2109	7H-1E25 7H-1E25 7H-1E25	1 1 1	土師器	無台碗	15.0	7.0	4.2	28.0	46.7	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	雲・白・海			
160	484	20	9	9区	SD3012	7H-2G10	1	中世土師器	皿	11.4	8.4	2.7	23.7	73.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白 (10YR8/2)	酸化	石・長・雲			
161	485	20	9	9区	SD3288	7H-1E18	1	須恵器	長頸壺(瓶) or広口瓶 or広口壺						ロクロナデ ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ		灰白 (2.5Y7/1)	還元	石・長・白	C	外面：自然釉。	
161	486	20	9	9区	SD3288	7H-1E18	1	珠洲焼	片口鉢		12.0				ロクロナデ	ロクロナデ・卸し目15目	静止糸切り	灰 (10Y6/1)	還元	白		外面：タール状の付着物。	
161	487	20	9	9区	SD3296	7H-3E5	1	土師器	無台碗	13.0	6.9	4.2	32.3	53.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	石・長・雲・白			
161	488	20	9	9区	SD3296	7H-3F14	1	黒色土器	杯	13.8					ミガキ	ミガキ		灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	石・長・雲・海		内面：アスファルト付着。	
161	489	20	9	9区	SD3384	7H-3G17		須恵器	有台杯		8.5				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰 (10Y6/1)	還元	白	A	外面底部：墨痕。転用靨。	
161	490	20	9	9区	SD3384	7H-3G21		龍泉窯系青磁	碗		5.0				ロクロナデ	ロクロナデ・蓮弁文		緑灰 (7.5GY6/1)	還元			髹付：無釉。	
161	491	20	9	9区	SD3472	7H-3E6	1	黒色土器	無台碗	15.3					ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	石・長・白		外面：アスファルト付着。	
161	492	20	9	9区	P1771	7H-3H13・14		白磁	碗						ロクロナデ・型押文	ロクロナデ・沈線		灰白 (7.5Y7/1)	還元			体部外面下半：無釉。	
161	493	20	9	9区	P2464	7H-2E3	3	土師器	無台碗	12.8	5.6	4.5	35.2	43.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (5YR7/8)	酸化	石・長・白・海			
161	494	20	9	9区	P2464	7H-2E3	3	土師器	無台碗	12.9	5.8	3.8	29.5	45.0	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	橙 (7.5YR6/6)	酸化	石・長・雲・白・海			
161	495	20	9	9区	P3356	7H-2F21		土師器	無台碗	13.1	6.0	4.3	32.8	45.8	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	石・長・雲・白			
161	496	19	9	9区	耕作土	7H-5D2	②	土師器	無台碗	15.8					ロクロナデ	ロクロナデ		橙 (5YR6/8)	酸化	石・長・海			
161	497	19	9	9区	耕作土	7H-5C20	③	土師器	無台碗	12.9					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	雲・白			
161	498	19	9	9区	耕作土	7H-9B23	⑤	土師器	無台碗	15.0					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	石・長・雲・白			
161	499	19	9	9区	耕作土 耕作土 遺構外 遺構外	7H-5D16 7H-5D22 7H-5D23 7H-5D24	③ ③ III III	土師器	小甕	18.0					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	石・長・海			
161	500	19	9	9区	耕作土 遺構外	7H-5D12 7H-5D7	③ III	土師器	長甕	21.4					ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	雲・白			
161	501	19	9	9区	耕作土	7H-4D23	②	土師器	鍋	30.6					ロクロナデ・沈線	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	石・長・雲			
161	502	19	9	9区	耕作土	7H-6E8	③	土師器	鍋	36.2					ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	石・長・雲・白			

図版 番号	遺物 番号	調査 回数	調査 区	遺構名	出土位置 グリッド	層位	種別	器種	法量 (cm)			径口 指数	底径 指数	調整			色調	焼成	胎土	産地	備考	
									口径	底径	器高			外面	内面	底部						
161	503	19次	9区	耕作土 遺構外	7H-4D25	①	土師器	鍋	35.4					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	石・長・雲			
162	504	19次	9区	耕作土 遺構外	7H-9B11・16 7H-9A15	⑤ III	黒色土器	無台碗	11.3	5.0	4.1	36.3	44.2	ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	石・長・雲・白		内外面：タール状の付着物。	
162	505	19次	9区	耕作土	7H-9B23	⑤	黒色土器	無台碗	12.0					ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ		黒 (5Y2/1)	酸化	石・長・白			
162	506	19次	9区	耕作土 遺構外	7H-9B9 7H-9B8	⑤ III	黒色土器	無台碗	13.1					ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・ミガキ		黒 (7.5Y2/1)	酸化	石・長・雲・白			
162	507	19次	9区	耕作土	7H-5D17	③	黒色土器	無台碗	13.4					ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	雲			
162	508	19次	9区	耕作土	7H-9B14	⑤	黒色土器	無台碗		5.0				ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	不明	浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	石・長・雲・白・海			
162	509	19次	9区	耕作土	7H-5D22	③	黒色土器	有台碗		6.7				ロクロナデ	ロクロナデ	不明	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	石・長・雲・白			
162	510	19次	9区	耕作土 遺構外 遺構外	7H-5D4・5・10・25 7H-5E1・6 7H-4D12 7H-5E3	① III III	須恵器	無台杯	14.0	10.2	3.0	21.1	72.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	石・長	D		
162	511	19次	9区	耕作土	7H-6E3	③	須恵器	有台杯		7.5				ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り?	灰白 (5Y7/1)	還元	石・長・白	D		
162	512	19次	9区	耕作土	7H-5D5	①	須恵器	有台杯						ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	オリーブ灰 (5GY5/1)	還元	石・長	D		
162	513	19次	9区	耕作土 耕作土 耕作土 遺構外 遺構外 遺構外	7H-5C25 7H-6E1 7H-9B8 7H-6E2 7H-8C24 7H-4C15	③ ③ ⑤ III III III	須恵器	長頸壺(瓶)						ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y6/1)	還元	白	A	頸部外面：自然釉。	
162	514	19次	9区	耕作土	7H-5D22	③	須恵器	長頸壺(瓶)	16.3					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (7.5Y6/1)	還元	白	A	内面：自然釉。	
162	515	19次	9区	耕作土 遺構外	7H-5F23 7H-5G22	③ III	須恵器	甕	25.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (7.5Y6/1)	還元	白	A	内面：自然釉。	
162	516	19次	9区	耕作土	7H-5F20 7H-6F4	③ ⑤	越州窯系青磁	碗	16.1					ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (7.5Y6/2)	還元				
162	517	19次	9区	耕作土	7H-7A20	⑤	越州窯系青磁	碗		5.4				ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (7.5Y6/2)	還元				
162	518	19次	9区	遺構外	7H-5F8	III	縄文土器	深鉢						網目状撫系文	ミガキ		にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	石・長			
162	519	20次	9区	遺構外	7H-5E8 7H-3F2	III III	土師器	有台碗		4.8				ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	石・長・雲			
162	520	19次	9区	遺構外	7H-5D8	III	土師器	小甕	11.2					ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	雲・白		内面：炭化物付着。外面：スス付着。	
162	521	20次	9区	遺構外	7H-2E21	III	黒色土器	有台碗		7.0				ロクロナデ	ロクロナデ・ミガキ	糸切り	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	石・長・海			
162	522	20次	9区	遺構外	7H-2D22	I・II	須恵器	提瓶	9.4					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (5Y6/1)	還元	石・長・雲・白	B	内面：自然釉。粘土の付着物。	
162	523	19次	9区	遺構外	7H-5E11 7H-6D7	III III	須恵器	鉢	21.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰 (10Y5/1)	還元	石・長・雲・白	A		
162	524	19次	9区	遺構外	7H-5E8	III	製塩土器	バケツ型									にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	酸化	白			
162	525	20次	9区	遺構外	7H-2F22	III	製塩土器	バケツ型	16.4								明褐 (7.5YR5/6)	酸化	白		外面：指頭圧痕。	
162	526	20次	9区	遺構外	不明	排土	緑釉陶器	碗	12.4					ロクロナデ	ロクロナデ		オリーブ灰 (10Y6/2)	還元				
162	527	20次	9区	遺構外	7H-4F3	III	緑釉陶器	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		暗オリーブ (7.5Y4/3)	還元				
162	528	20次	9区	遺構外	7H-4F14	III	緑釉陶器	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (7.5Y5/3)	還元			529と同一個体か?	
162	529	20次	9区	遺構外	7H-3H6	カクラン	緑釉陶器	碗		6.9				ロクロナデ	ロクロナデ		オリーブ黄 (7.5Y6/3)	還元			内面：無釉。528と同一個体か?	
162	530	20次	9区	遺構外	7H-3F11	III	灰釉陶器	碗	13.9					ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (7.5Y7/1)	還元				
162	531	20次	9区	遺構外	7H-3F12	III	灰釉陶器	碗	13.8					ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (7.5Y7/1)	還元			外面下半：無釉。	
162	532	19次	9区	遺構外	7H-5F15	III	灰釉陶器	碗	15.1					ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/2)	還元				
162	533	20次	9区	遺構外	7H-4F8	III	灰釉陶器	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰 (7.5Y6/1)	還元			外面下半：無釉。	
162	534	19次	9区	遺構外	7H-5E1	III	灰釉陶器	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/1)	還元			外面下半：無釉。539と同一個体か?	
162	535	20次	9区	遺構外	7H-4F9	III	灰釉陶器	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (N7/)	還元			外面下半：無釉。	
162	536	19次	9区	遺構外	7H-6C1	III	灰釉陶器	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/2)	還元			外面下半：無釉。539と同一個体か?	
162	537	19次	9区	遺構外	7H-5E2	III	灰釉陶器	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (5Y7/1)	還元			外面下半：無釉。	
162	538	20次	9区	遺構外	7H-4G1	III	灰釉陶器	碗						ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ		灰白 (N7/)	還元			外面下半：無釉。	
162	539	20次	9区	遺構外	7H-4F6	III	灰釉陶器	碗		6.8				ロクロナデ	ロクロナデ		灰白 (2.5Y7/1)	還元			外面下半：高台内側：無釉。534と同一個体か?	
162	540	19次	9区	遺構外	7H-5E12	III	越州窯系青磁	碗	15.0					ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (5Y5/3)	還元				
162	541	20次	9区	遺構外	7H-4F13	III	越州窯系青磁	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (5Y6/2)	還元			他の越州窯系青磁碗と同一個体か?	
162	542	19次	9区	遺構外	7H-5E3	III	越州窯系青磁	碗						ロクロナデ	ロクロナデ		灰オリーブ (5Y5/3)	還元			他の越州窯系青磁碗と同一個体か?	
162	543	19次	9区	遺構外	7H-5E20	III	龍泉窯系青磁	碗	15.0					ロクロナデ・篩蓮弁文	ロクロナデ		オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元				
162	544	20次	9区	遺構外	7H-4G7	III	龍泉窯系青磁	碗						ロクロナデ・蓮弁文	ロクロナデ		緑灰 (10GY-6/1)	還元				篩蓮弁文?

## 別表 3 土製品観察表

凡例 1. 法量 欠損部については残存長を示す。  
2. 色調 『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局1967）の記号を記した。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	器種	遺存状態	法量 (cm)			重量 (g)	色調	焼成	備考
				遺構名	グリッド				長さ	径・幅	孔径				
146	222	21次	8区	SE1320	5G-117	1	土鉢	片端欠損	4.4	1.2	0.4	5.7	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	
146	223	21次	8区	SK1570	5G-1H7	1	粘土塊	大部分欠損	6.1	4.9		56.5	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	
146	224	21次	8区	SD151	5G-6I2	1	土鉢	両端欠損	4.1	1.0	0.4	2.5	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	
146	225	21次	8区	P271	5G-5I16	1	研磨具	完形か?	8.4	3.9	1.7	56.9	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	砥面:3面。土師器鏝転用。
146	226	21次	8区	遺構外	5G-3H13	Ⅲ	土鉢	完形	2.9	1.6	0.4	6.7	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	
163	545	20次	9区	SX3521	7H-3E24	32	土鉢	ほぼ完形	4.9	1.5	0.3	7.2	灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	
163	546	20次	9区	SD3447	7H-2E21	1	土鉢	完形	4.9	2.8	0.9	29.4	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	
163	547	20次	9区	遺構外	7H-2G21	Ⅲ	土鉢	片端欠損	4.3	1.3	0.4	6.0	黒褐 (10YR3/1)	酸化	
163	548	20次	9区	遺構外	7H-2G21	Ⅲ	土鉢	両端欠損	3.6	1.4	0.5	5.1	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	
163	549	19次	9区	遺構外	7H-5E5	Ⅲ	器種不明	大部分欠損	3.0	3.0	1.7	25.3	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	輪状ないしは筒状か?

## 別表 5 石器・石製品観察表

凡例 1. 法量 欠損部については残存長を示す。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	器種	遺存状態	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
				遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ			
146	228	21次	8区	SE2313	6H-1A22	4	砥石	上・下部欠損	10.1	4.4	4.3	179.9	凝灰岩	砥面:4面。
146	229	21次	8区	SE2373	6H-2A14	2	砥石	上部欠損	6.1	4.3	3.5	102.4	凝灰岩	砥面:4面。
146	230	21次	8区	SK1570	5G-1H13	1	砥石	完形か?	12.4	6.1	6.9	548.7	砂岩	砥面:2面。
146	231	21次	8区	SX1306	5G-1H13	1	石帯	右・下部欠損	2.3	1.3	1.1	2.9	蛇紋石	丸磨。
146	232	21次	8区	SX1306	5G-1H13	9	砥石	完形	6.0	3.7	1.6	25.7	凝灰岩	砥面:6面。
146	233	21次	8区	SX1306	5G-1H18	1	砥石	上部欠損	10.2	5.8	2.5	107.6	凝灰岩	砥面:4面。
146	234	21次	8区	SD121	5G-7I3	4	砥石	完形	10.2	7.1	4.4	437.5	凝灰岩	砥面:6面。
146	235	21次	8区	P724	5G-4H10	1	勾玉	完形	2.7	1.7	1.1	7.4	翡翠輝石	
147	236	21次	8区	遺構外	4G-10H14	Ⅲ	砥石	上・下部欠損	7.1	2.3	1.7	43.3	安山岩	砥面:3面。
147	237	21次	8区	遺構外	5G-4I4	Ⅲ	砥石	上部欠損	3.5	2.4	2.2	22.4	凝灰岩	砥面:5面。
147	238	21次	8区	遺構外	5G-9J11	Ⅲ	砥石	上部欠損	7.1	2.7	2.4	50.9	凝灰岩	砥面:5面。
147	239	21次	8区	遺構外	5G-7I3	Ⅲ	砥石	左下部欠損	7.1	5.3	2.0	76.3	安山岩	砥面:1面。正面:被熱。
163	553	19次	9区	SE31	7H-5F7	1	磨石類	下部欠損	16.4	13.0	4.4	1390.0	安山岩	タール付着。
163	554	20次	9区	SE1433	6H-8G19	1	小玉	完形	1.7	1.6	0.9	4.0	チャート	
163	555	20次	9区	SE1514	6H-10G10	9	砥石	上・下部欠損	5.7	2.2	1.8	32.5	凝灰岩	砥面:4面。
163	556	20次	9区	SE1601	7H-1H1	1	砥石	下部欠損	9.1	4.8	4.6	163.0	凝灰岩	砥面:4面。
163	557	20次	9区	SE1601	7H-1H1	1	砥石	下部欠損	10.9	3.9	3.0	123.0	凝灰岩	砥面:4面。
164	558	20次	9区	SE2027	7H-2I3	2	磨石類	下部欠損	13.4	9.5	5.1	741.0	砂岩	
164	559	20次	9区	SE2153	7H-1F13・14	14	砥石	下部欠損	6.8	3.4	1.0	29.0	凝灰岩	砥面:5面。
164	560	20次	9区	SE2220	7H-3E3	13	浮子	完形か?	11.0	8.6	5.1	148.0	軽石	縄の痕跡あり。
164	561	20次	9区	SE2853	7H-1H6	17	砥石	完形か?	10.5	3.7	3.0	180.0	砂岩	砥面:4面。
164	562	20次	9区	SE3315	7H-3G18	1	砥石	上・下部欠損	3.0	2.6	2.0	21.0	凝灰岩	砥面:4面。
164	563	20次	9区	SE3616	7H-4E4	10	台石	完形	18.6	16.0	4.7	1700.0	不明	タール付着。
164	564	20次	9区	SK1429	7H-1F17	1	砥石	下部欠損	6.3	5.0	3.8	208.0	凝灰岩	砥面:4面。スヌ付着。
164	565	20次	9区	SX2140	7H-1E9	30	砥石	下部欠損	11.0	6.8	5.7	509.5	凝灰岩	砥面:4面。
165	566	20次	9区	SD1661	7H-4G14	1	磨石類	完形か?	16.6	12.4	7.3	2090.0	砂岩	タール付着。台石として使用か?
165	567	20次	9区	SD2192	7H-2E2	1	浮子	一部欠損	10.0	7.2	5.1	101.0	軽石	縄の痕跡あり。
165	568	20次	9区	SD3472	7H-3E6	1	砥石	下部欠損	8.9	6.2	2.7	125.0	凝灰岩	砥面:5面。
165	569	20次	9区	遺構外	7H-3G19	Ⅲ	砥石	完形	5.6	3.5	1.1	32.5	凝灰岩	砥面:6面。

## 別表 4 鍛冶関連遺物観察表

凡例 1. 法量 欠損部については残存長を示す。  
2. 色調 『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局1967）の記号を記した。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	器種	遺存状態	法量 (cm)			重量 (g)	色調	備考
				遺構名	グリッド				長さ	外径	内径			
146	227	21次	8区	SK754	7H-8D10	1	羽口	先端部のみ	7.3	6.1	2.8	154	浅黄 (2.5Y7/3)	梲形鍛冶滓付着。
163	550	20次	9区	遺構外	7H-3E13	Ⅲ	羽口	体部のみ	3.6	4.9	2.3	17.1	灰白 (5Y7/1)	
163	551	19次	9区	遺構外	7H-5D13	Ⅲ	羽口	先端部のみ	4.3	5.7	1.4	45.7	灰 (5Y5/1)	
163	552	20次	9区	遺構外	7H-1G24	Ⅲ	羽口	体部のみ	4.3	3.6	1.3	20.5	にぶい黄橙 (10YR7/3)	

## 別表 6 銭貨観察表

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	銭貨名	法量 (cm)			重量 (g)	初鋳年	備考	
				遺構名	グリッド			外径	内径	厚さ				
147	243	21次	8区	SE843	5G-9I9	5	皇口口貨	2.5	0.6	0.1	1.8		真書。	
147	244	21次	8区	SE1643	5G-2I12・13	1	井戸側曲物(274)中 祥符元貨	2.5	0.6	0.1	3.8	1008		篆書。
147	245	21次	8区	SX1306	4G-1H8	1	紹聖元貨	2.1	0.6	0.1	1.9	1094		篆書。
147	246	21次	8区	SX1368	5G-2H9	3	至和元貨	2.3	0.7	0.1	1.7	1054		篆書。
147	247	21次	8区	P1636	5G-1H25	1	元豊通寶	2.5	0.6	0.2	4.6	1078		篆書。磨耗。
147	248	21次	8区	P2019	5G-9I20	1	開禧通寶	2.3	0.7	0.1	1.8	1201		真書。裏文字:三。
147	249	21次	8区	遺構外	5G-8I2	Ⅲ	開元通寶	2.5	0.6	0.1	1.6	960		隸書。
147	250	21次	8区	遺構外	5G-9I20	Ⅲ	景德元貨	2.4	0.8	0.3	6.3	1004		錆びにより2枚付着。出土時251も付着。
147	251	21次	8区	遺構外	5G-9I20	Ⅲ	皇祐通寶	2.3	0.7	0.2	2.9			出土時250と付着。
147	252	21次	8区	表塚			元祐通寶	2.5	0.7	0.1	2.5	1086		行書。

## 別表 7 金属製品観察表

凡例 1. 法量 欠損部については残存長を示す。

図版番号	遺物番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	器種	遺存状態	法量 (cm)			重量 (g)	素材	備考
				遺構名	グリッド				長さ・口径	幅・器高	厚さ			
147	240	21次	8区	SE834	5G-10J6	7	方形鉄製品	完形	3.4	3.3	0.8	8.5	鉄	固定具か?
147	241	21次	8区	SE1643	5G-2I12・13	1	井戸側曲物(272)中 釣針	一部欠損	2.3	1.5	0.5	1.5	鉄	根元:有段。
165	570	19次	9区	SE251	7H-7E24	18	刀子	両端欠損	11.6	1.8	0.2	18.0	鉄	目釘孔残存。
165	571	20次	9区	SE2226	7H-2E13	11	鉄鎌	両端欠損	11.5	0.5	0.5	7.5	鉄	中央部:膨らむ。
165	572	20次	9区	SE2226	7H-2E13	11	釘	完形	13.4	0.6	0.6	20.5	鉄	先端部:尖る。
165	573	20次	9区	SE2331	7H-2E22	10	釘	両端欠損	9.1	0.5	0.4	9.0	鉄	
165	574	20次	9区	SX1539	6H-9G18	9	蓋状鉄製品	一部欠損	12.8	5.5		149.5	鉄	天井部:突起。外面:沈線12条。
165	575	20次	9区	SX2253	7H-1G17	2	鉄斧	完形か?	9.5	3.6	1.0	88.5	鉄	有袋鉄斧。袋部:柄残存か?
165	576	19次	9区	遺構外	7H-6D17	Ⅲ	円環状鉄製品	完形	3.3	0.7	0.5	11.0	鉄	刀装具か?

別表 8 木製品観察表

凡例 1. 分類名 第V章第6節に記した。  
 2. 法量 欠損部については残存長を示す。  
 3. 樹種 樹種は自然科学分析を行ったものを記した(第VI章第4節A参照)。  
 4. 時代 時代は出土した遺構の時代から判断した。

図版番号	調査回数	調査区	出土位置		層位	分類群				遺存状態	法量 (cm)			木取り	加工・装飾	樹種	時代	備考	
			遺構	グリッド		分類群	器種名	器種細分名1	器種細分名2		長さ・口径	幅・器高	厚さ・底径						
																			器種名
148	253	21次	8区	SB4008 (P405)	5G-5I2		建築部材	柱	掘立柱建物		上部欠損	51.7	10.6	10.0	丸木取り	下部部: 鋭利	クリ	古代	
148	254	21次	8区	SE119	5G-6I3	20	容器	底板(蓋板)	曲物	把手	完形	30.0	3.0	0.6	榫目	線状痕、孔2か所(木釘1か所)	スギ	中世	
148	255	21次	8区	SE155	5G-6H19	8	容器	皿	挽物		半分欠損	10.0	1.1	8.0	横木取り	外面底部一部: 削り、内外面: 黒漆	ケヤキ	中世	
148	256	21次	8区	SE155	5G-6H19	8	服飾具	履物	下駄	差歯(歯)	半分欠損	9.8	6.7	2.0	榫目	柄1か所	スギ	中世	底部: 砂利付着。
148	257	21次	8区	SE768	5G-8J21	6	容器	碗	挽物		半分欠損	14.0	4.2	8.0	横木取り	内外面: 黒漆	環杣材	中世	
148	258	21次	8区	SE865	5G-9J22	5	祭祀具	呪符			完形	26.6	4.8	0.4	榫目	線状痕	スギ	古代	「符籙」□☆。
148	259	21次	8区	SE920	5G-10J1	2	容器	皿	挽物		2/3欠損	8.0	0.8	6.7	横木取り	内外面: 黒漆	キハダ属	中世	
148	260	21次	8区	SE929	5G-10J3	3	施設材・器具材	板	孔段無し		大部分欠損	15.3	1.7	0.3	榫目		スギ	中世	黒痕。
148	261	21次	8区	SE1020	5G-4H13	3	服飾具	履物	下駄	差歯(歯)	半分欠損	9.2	8.9	1.6	榫目		スギ	中世	
148	262	21次	8区	SE1045	5G-4I17	6	食事具	箸			下端欠損	15.0	0.6	0.4	板目			中世	
148	263	21次	8区	SE1045	5G-4I17	6	食事具	箸			下端欠損	19.3	0.7	0.3	榫目			中世	
148	264	21次	8区	SE1045	5G-4I17	6	その他	炭化材(その他)			下端欠損	17.1	0.9	0.8	丸木取り	樹皮残存	広葉樹	中世	炭化。
148	265	21次	8区	SE1068	4G-10H13	7	服飾具	履物	下駄	差歯(歯)	柄・半分欠損	11.3	9.6	2.0	榫目		スギ	中世	底部: 砂利付着。
148	266	21次	8区	SE1068	4G-10H12	7	服飾具	櫛	横櫛	その他・不明	半分欠損	3.7	5.1	0.9	不明	櫛歯: 35本以上	イスノキ	中世	
148	267	21次	8区	SE1140	5G-3I23	7	服飾具	履物	下駄	差歯(歯)	右側柄欠損	9.9	14.4	1.8	榫目		スギ	中世	
148	268	21次	8区	SE1145	5G-3I23	8	容器	その他・不明	結合補助具	樹皮	完形	3.1	3.1	2.5	樹皮		広葉樹	中世	
148	269	21次	8区	SE1216	5G-4I9	5	容器	底板(蓋板)	曲物	蓋板	半分欠損	23.4	10.9	0.4	榫目	直線的に孔5か所	スギ	中世	炭化。
148	270	21次	8区	SE1320	5G-1I7	1	服飾具	履物	下駄	差歯(歯)	半分欠損	9.2	8.7	2.0	榫目		スギ	中世	劣化が激しい。
148	271	21次	8区	SE1586	5G-2I11	2	工具	発火具	火きり杵		完形	23.8	11.5	0.6	榫目		スギ	中世	先端部: 炭化。
148	272	21次	8区	SE1643	5G-2I12・13		施設材・器具材	井戸	井戸側	曲物	上部欠損	59.3	27.0	0.7	板目			中世	
149	273	21次	8区	SE1643	5G-2I12・13		施設材・器具材	井戸	井戸側	曲物	上部欠損	56.4	54.7	0.9	板目	ケビキ		中世	
149	274	21次	8区	SE1643	5G-2I12・13		施設材・器具材	井戸	井戸側	曲物	完形	45.5	46.4	0.9	板目	ケビキ		中世	
149	275	21次	8区	SE1643	5G-2I13		食事具	箸			完形	19.6	0.6	0.5	榫目		スギ	中世	
149	276	21次	8区	SE1871	5G-6H5	12	農耕土木具	田下駄	板田下駄		大部分欠損	11.2	4.8	3.2	榫目	側面: 孔2か所		中世	
149	277	21次	8区	SE1871	5G-6H4	16	編み具・紡績具	紡錘車	紡輪		完形	3.9	4.1	1.5	板目	孔: 未貫通	ケヤキ	中世	未成品。
149	278	21次	8区	SE1871	5G-6H4	16	調理加工具	柄杓	底板		完形	6.2	5.4	0.7	板目	側面: 窪み	スギ	中世	
149	279	21次	8区	SE1871	5G-6H5	11	食事具	箸			下端欠損	16.0	0.5	0.5	板目			中世	
149	280	21次	8区	SE1871	5G-6H5	11	食事具	箸			完形	18.8	0.6	0.5	板目			中世	
149	281	21次	8区	SE1871	5G-6H5	11	食事具	箸			下端欠損	18.8	0.7	0.5	榫目			中世	
149	282	21次	8区	SE1871	5G-6H5	11	食事具	箸			完形	20.0	0.6	0.5	板目			中世	
149	283	21次	8区	SE1871	5G-6H5	11	食事具	箸			完形	21.1	0.7	0.4	榫目			中世	
149	284	21次	8区	SE1871	5G-6H5	11	食事具	折敷	底板		完形	14.5	13.1	0.6	榫目	線状痕、孔3か所	スギ	中世	
150	285	21次	8区	SE2313	6H-2A3	6	容器	碗	挽物		1/4欠損	13.5	5.3	6.7	横木取り	高台、内外面: 黒漆、赤漆給付	ハリギリ	中世	
150	286	21次	8区	SE2326	6H-2A9	6	容器	皿	挽物		2/3欠損	11.0	1.2	8.4	横木取り	内外面: 黒漆	クリ	中世	
150	287	21次	8区	SE2373	6H-2A14	5	食事具	折敷	底板		半分欠損	18.0	6.1	0.7	榫目	線状痕、孔5か所(木釘4か所)	スギ	古代	
150	288	21次	8区	SE2373	6H-2A14	5	施設材・器具材	板	孔段無し		完形	27.7	3.6	0.5	榫目	線状痕	スギ	古代	
150	289	21次	8区	SE2375	6G-1J18	10	容器	碗	挽物		1/3欠損		3.0	7.6	横木取り	内外面: 黒漆	クリ	中世	
150	290	21次	8区	SE2375	6G-1J18	10	容器	底板(蓋板)	曲物	底板	大部分欠損	33.0	6.5	1.1	榫目	線状痕	スギ	中世	
150	291	21次	8区	SE2375	6G-1J18	10	食事具	箸			完形	21.2	0.7	0.6	榫目			中世	
150	292	21次	8区	SE2375	6G-1J18	10	食事具	箸			完形	20.8	0.7	0.5	榫目			中世	
150	293	21次	8区	SE2375	6G-1J18	6	遊戯具・日用品	栓			半分欠損	6.9	2.2	1.3	板目	先端部柄	スギ	中世	
150	294	21次	8区	SE2383	6G-1J1		施設材・器具材	井戸	井戸側	縦板	上部欠損	74.3	5.5	2.3	板目			古代	
150	295	21次	8区	SE2383	6G-1J1		施設材・器具材	井戸	井戸側	縦板	上部欠損	85.7	10.4	2.3	板目	樹皮一部残存		古代	
150	296	21次	8区	SE2383	6G-1J1		施設材・器具材	井戸	井戸側	その他・不明	上部欠損	120.4	70.0	6.8	半割削り出し	ホゾ孔2か所、内面: 不明設置痕	スギ	古代	丸木舟転用。
151	297	21次	8区	SE2383	6G-1J1		施設材・器具材	井戸	井戸側	その他・不明	上部欠損	138.3	69.0	7.6	半割削り出し		スギ	古代	丸木舟転用。
151	298	21次	8区	SE2477	6H-3B9	4	容器	皿	挽物		完形	9.7	9.0	4.6	横木取り		ケヤキ	中世	未成品。
151	299	21次	8区	SK1570	5G-1H7	8	調理加工具	筥杓子			下端欠損	14.8	4.7	0.5	榫目		スギ	中世	
151	300	21次	8区	SK1570	5G-1H7	8	調理加工具	筥杓子			下部欠損	14.0	6.9	0.5	榫目		スギ	中世	
151	301	21次	8区	SK1570	5G-1H7	8	漁労具	浮子			完形	18.2	2.4	0.8	板目	上部両脇: 挟り	スギ	中世	
151	302	21次	8区	SD121	5G-7I1	5	服飾具	履物	下駄		完形	8.3	10.0	1.4	榫目	柄2か所	スギ	中世	
151	303	21次	8区	SD121	5G-7I1	5	服飾具	履物	下駄		柄欠損	11.7	16.6	1.9	榫目		スギ	中世	
151	304	21次	8区	SD121	5G-7I3	2	遊戯具・日用品	栓			完形	7.5	5.7	5.4	丸木取り		スギ	中世	
151	305	21次	8区	SD121	5G-7I14	7	工具	発火具	火きり杵		完形	14.1	0.7	0.6	榫目			中世	マツ属複雑管束亜属
152	306	21次	8区	SX1306	5G-1H2	8	農耕土木具	鎌	一本鎌		完形	82.5	20.1	12.2	幹: 心去分割枝: 丸木取り		サワグルミ	中世	
152	307	21次	8区	SX1306	5G-1H2	8	編み具・紡績具	紡錘車	紡輪		一部欠損	5.2	4.9	0.8	板目		コナラ属アカガシ亜属	中世	炭化。
152	308	21次	8区	SX1306	5G-1H12	8	容器	碗	挽物		2/3欠損		1.9	6.4	横木取り	高台、内外面: 黒漆	ケヤキ	中世	内面: 付着物。
152	309	21次	8区	SX1306	5G-1H2	8	容器	碗	挽物		2/3欠損		5.5	7.4	横木取り	高台、内部: 削り、外・内面: 黒漆	ケヤキ	中世	
152	310	21次	8区	SX1306	5G-1H2	7	容器	碗	挽物		2/3欠損		2.4	6.7	横木取り	高台、内面底部: 有段 外面底部: 記号、外・内面: 黒漆	ケヤキ	中世	

図版 番号	調査 回数	調査 区	出土位置		層位	分類名				法量 (cm)			木取り	加工・装飾	樹種	時代	備考	
			遺構	グリッド		分類群	器種名	器種細分名1	器種細分名2	遺存状態	長さ・口径	幅・器高						厚さ・底径
152 311	21次	8区	SX1306	5G-1H7	5	容器	盤	挽物		半分欠損	28.0	0.6	22.0	横木取り	内外面：黒漆	ケヤキ	中世	
152 312	21次	8区	SX1306	5G-1H2	5	容器	盤	挽物		半分欠損	28.0	0.7	22.0	横木取り	外面底部：円形の文様、内外面：黒漆	ケヤキ	中世	
152 313	21次	8区	SX1306	4G-10H22	7	容器	槽	刳物		完形か?	16.7	8.7	1.2	横木取り		ハンノキ属ハンノキ箇	中世	未成品。
152 314	21次	8区	SX1306	5G-1H12	8	服飾具	履物	下駄	連歯(一木)	完形か?	7.4	16.7	7.4	横木取り			中世	未成品。
152 315	21次	8区	SX1306	5G-1H12	8	調理加工具	俎	脚無し		一部欠損か?	33.6	13.0	1.2	榎目	線状痕		中世	表面：炭化。
152 316	21次	8区	SX1306	4G-10H22	5	祭祀具	形代	動物形		完形	12.8	2.2	0.5	板目	線状痕		中世	
152 317	21次	8区	SX1306	5G-1H2	8	遊戯具・日用品	羽子板			完形	31.6	7.8	0.3	榎目	線状痕		中世	
152 318	21次	8区	SX1306	5G-1H2	8	施設材・器具材	板	孔有り		完形	21.9	4.3	0.3	榎目	線状痕、孔1か所		中世	
153 319	21次	8区	SX2457	6H-2B18	10	調理加工具	俎	脚無し		半分欠損	27.0	9.5	1.3	榎目	線状痕		中世	
153 320	21次	8区	P942	5G-8H17		建築部材	柱	掘立柱建物		上部欠損	55.5	18.5	17.0	丸木取り	下部部：平坦		古代	
153 321	21次	8区	P1434	5G-1H20		建築部材	柱	掘立柱建物		上部欠損	65.0	12.8	11.6	丸木取り	下部部：鋭利		古代	
153 322	21次	8区	P2480	6H-3B14		建築部材	柱	掘立柱建物		上部欠損	71.2	12.2	8.5	丸木取り	下部部：平坦		古代	
153 323	21次	8区	P2009	5G-8I5	1	農耕土木具	田下駄	円枠型田下駄	踏み板	一部欠損	25.3	14.1	1.7	榎目	歯2残存?		中世	意図的に分割?
166 577	19次	9区	SE31	7H-5F7	13	食事具	匙			把手部欠損	9.8	5.9	1.0	板目	削り		中世	
166 578	19次	9区	SE32	7H-5F6	9	農耕土木具	田下駄	板田下駄		2/3欠損	22.0	22.4	4.7	横木取り			中世	
166 579	19次	9区	SE251	7H-7E24	15	食事具	箸			完形	21.9	0.9	0.6	榎目			中世	
166 580	19次	9区	SE468	7H-7E15	14	食事具	膳	底板		大部分欠損	26.0	7.5	0.7	榎目	線状痕、底部：脚設置痕		中世	
166 581	20次	9区	SE1433	6H-8G14・15	40	容器	皿	挽物		1/4欠損	9.8	2.3	7.0	横木取り	内外面：黒漆		中世	欠損部：炭化。
166 582	20次	9区	SE1556	6H-10G12	8	容器	底板(蓋板)	曲物	底板	大部分欠損	32.9	4.5	1.0	榎目	孔7か所		中世	歪みあり。
166 583	20次	9区	SE1601	7H-1H1	11	編み具・紡績具	編台			半分欠損	10.7	3.6	2.7	四方榎	横方向に溝		中世	
166 584	20次	9区	SE1676	7H-2G7	21	工具	刀子	錐		完形	19.6	2.8	0.9	榎目			古代	
166 585	20次	9区	SE1676	7H-2G7	20	容器	底板(蓋板)	曲物	底板	完形	14.7	14.9	0.7	榎目			古代	
166 586	20次	9区	SE1676	7H-2G6・7	16	施設材・器具材	板	孔有り		大部分欠損	26.5	3.6	0.4	榎目	孔2か所、抉り1か所		古代	
166 587	20次	9区	SE1692	7H-2I21・22	15	調理加工具	搦杓子			把手部欠損	13.3	4.5	0.8	板目			中世	
166 588	20次	9区	SE1692	7H-2I21	16	容器	底板(蓋板)	曲物	底板	半分欠損	32.8	12.5	1.5	榎目	線状痕、孔1か所、孔補修痕		古代	盆を転用?
166 589	20次	9区	SE1791	7H-3H21・22	23	服飾具	履物	下駄	連歯(一木)	2/3欠損	9.6	7.3	5.0	横木取り	鼻緒孔1か所		中世	
167 590	20次	9区	SE1791	7H-1I12・13・17	23	施設材・器具材	井戸	水溜(井筒)	曲物	一部欠損	19.8	10.8	0.4	榎目	ケビキ		古代	側板のみ。転用?
167 591	20次	9区	SE1792	7H-1G19	6	食事具	折敷	底板		大部分欠損	28.7	7.0	0.6	榎目			中世	
167 592	20次	9区	SE1890	6H-10H24	27	編み具・紡績具	糸巻具	糸巻		一部欠損	17.7	4.3	2.1	四方榎		散孔材	中世	
167 593	20次	9区	SE1890	6H-10H24	40	服飾具	履物	板厚履		一部欠損	24.0	10.5	0.3	板目	薬痕跡		中世	
167 594	20次	9区	SE1890	6H-10H24		施設材・器具材	板	孔段無し		完形か?	25.5	7.1	0.4	榎目			中世	
167 595	20次	9区	SE1890	6H-10H24	31	土木材	杭			上部欠損か?	15.9	1.9	1.3	榎目			中世	上部部：炭化。
167 596	20次	9区	SE1890			施設材・器具材	棒	孔段無し		下部欠損	20.9	1.7	1.2	板目			中世	
167 597	20次	9区	SE2027	7H-2I3	14	工具	発火具	火きり白		完形	12.7	2.1	1.5	榎目			中世	
167 598	20次	9区	SE2153	7H-1F13	17	調理加工具	柄杓			把手部欠損	16.8	13.3	0.5	側板：榎目 底板：榎目	側面：孔2か所(1か所把手痕跡)		中世	
167 599	20次	9区	SE2153	7H-1F13	14	施設材・器具材	棒	孔段無し		完形か?	38.2	1.6	1.6	榎目	両端窄まる		中世	
167 600	20次	9区	SE2220	7H-3E3	13	容器	椀	挽物		半分欠損	12.8	7.2	4.6	横木取り	内外面：黒漆		中世	
167 601	20次	9区	SE2220	7H-3E3	13	容器	底板(蓋板)	曲物	把手	ほぼ完形	22.5	2.6	0.4	榎目	孔1か所、抉り1か所		中世	
167 602	20次	9区	SE2220	7H-3E3	13	食事具	折敷	底板		3/4欠損	14.4	11.3	0.5	榎目	線状痕		中世	
167 603	20次	9区	SE2220	7H-3E3	13	施設材・器具材	棒	孔有り		下部欠損か?	21.1	2.1	1.2	板目	孔1か所、両端窄まる		中世	
168 604	20次	9区	SE2226	7H-2E13	8	農耕土木具	田下駄	板田下駄		半分欠損	41.8	21.6	4.7	横木取り			中世	
168 605	20次	9区	SE2226	7H-2E13	11	編み具・紡績具	紡錘車	紡錘		半分欠損	6.9	4.9	1.0	板目			中世	
168 606	20次	9区	SE2226	7H-2E13	8	遊戯具・日用品	袴			完形	8.6	2.1	1.6	榎目			中世	
168 607	20次	9区	SE2398	7H-3F2・3	11	食事具	箸			上部欠損	19.4	0.6	0.4	榎目			古代	
168 608	20次	9区	SE2853	7H-1H1	15	容器	椀	挽物		半分欠損	12.1	4.2	7.0	横木取り	高台、内外面：黒漆		中世	
168 609	20次	9区	SE2853	7H-1H11	17	容器	皿	挽物		1/4欠損	9.2	1.0	7.8	横木取り	外面底部中央：未貫通の穴、内外面底部：削り		中世	未成品。
168 610	20次	9区	SE2853	7H-1H11	17	食事具	箸			完形	21.6	0.6	0.6	榎目			中世	
168 611	20次	9区	SE2853	7H-1H6・11	16	食事具	箸			ほぼ完形	22.2	0.5	0.4	榎目			中世	
168 612	20次	9区	SE2853	7H-1H1	17	食事具	折敷	底板		大部分欠損	28.0	5.9	0.6	榎目	孔3か所		中世	
168 613	20次	9区	SE2853	7H-1H11	16	施設材・器具材	板	孔段無し		完形か?	27.3	8.0	0.9	榎目	線状痕		中世	
168 614	20次	9区	SE2853	7H-1H11	17	施設材・器具材	棒	孔段無し		上部欠損	25.2	1.3	0.9	板目	下部に向かい窄まる		中世	
168 615	20次	9区	SE2903	7H-1H2	10	容器	釣瓶	曲物		完形				側板：榎目 底板：榎目	側面：ケビキ、上部孔5か所 底板：ケズリ		中世	
168 616	20次	9区	SE2967	7H-1H12	9	服飾具	履物	下駄		大部分欠損	4.6	9.4	1.5	榎目	ホゾ2か所		中世	劣化激しい。
168 617	20次	9区	SE2967	7H-1H12	15	容器	底板(蓋板)	曲物	底板	完形	22.7	20.8	0.7	榎目	孔19か所		中世	
168 618	20次	9区	SE2977	7H-1H16	13	食事具	箸			完形	21.7	0.6	0.5	榎目			中世	
168 619	20次	9区	SE3188	7H-2G12	9	食事具	箸			完形	21.4	0.7	0.5	榎目			中世	
168 620	20次	9区	SE3315	7H-3G18	20	容器	側板	挽物		2/3欠損	5.9	--	--	榎目	下部孔5か所		中世	炭化。下部：付着物(紙状)。
169 621	20次	9区	SE3315	7H-3G18	20	容器	その他・不明	曲物		側板半分欠損	24.4	9.8	0.2	側板：榎目 底板：榎目	側板：下部孔3か所		中世	側・底板内面：炭化。
169 622	20次	9区	SE3320	7H-4G4	19	農耕土木具	田下駄	円枠型田下駄	踏み板	上・下部欠損	25.6	12.3	0.3	榎目	鼻緒孔3か所		中世	
169 623	20次	9区	SE3320	7H-4G4	20	食事具	折敷	底板		半分欠損	28.0	8.4	0.6	榎目	孔3か所		中世	
169 624	20次	9区	SE3329	7H-4G8	21	調度	机	脚		ほぼ完形	34.9	2.2	1.3	榎目	面取り、上端凹み状加工 中央方形孔1か所(内部残存)		古代	
169 625	20次	9区	SE3416	7H-4G9		施設材・器具材	井戸	井戸側	その他・不明	上部欠損	181.2	97.0	8.0	半削削り出し			古代	丸木舟転用。

図版 番号	調査 回数	調査 区	出土位置		層位	分類名				遺存状態	法量 (cm)			木取り	加工・装飾	樹種	時代	備考		
			遺構	グリッド		分類群	器種名	器種細分名1	器種細分名2		長さ	幅	器高						厚さ	底径
170 626	20次	9区	SE3416	7H-4C9		施設材・器具材	井戸	井戸側	その他・不明	上部欠損	189.0	92.5	9.5	半割削り出し		古代	丸木舟転用。			
170 627	20次	9区	SE3530	7H-4F2	8	調度	その他・不明	結合補助具	木釘	完形	8.5	1.7	1.0	榫目		中世				
170 628	20次	9区	SE3571	7H-5G15	6	農耕土木具	田下駄	板田下駄		完形か?	32.9	29.0	10.8	横木取り		古代	未成品。			
170 629	20次	9区	SE3579	7H-4G7	23	運搬具	櫓			上・下部欠損	42.0	38.0	3.2	榫目	ヤナギ属	古代	未成品?			
170 630	20次	9区	SE3579	7H-4G2	21	祭祀具	斎串			上部欠損	21.1	2.0	0.2	板目		古代				
170 631	20次	9区	SE3579	7H-2G2・7		施設材・器具材	井戸	井戸側	その他・不明	完形か?	101.8	29.5	11.0	横木取り	ケヤキ	古代	槽転用			
171 632	20次	9区	SE3579	7H-2G2・7		施設材・器具材	井戸	井戸側	その他・不明	一部欠損	119.7	30.5	30.5	心持ち削り出し	ケヤキ	古代	槽転用			
171 633	20次	9区	SE3600	7H-4F19	10	調度	その他・不明	結合補助具	木釘	完形	9.2	1.9	1.0	榫目		中世				
171 634	20次	9区	SE3616	7H-4E5	7	容器	皿	挽物		2/3欠損	8.8	0.8	7.8	横木取り	内外面：黒漆	中世				
171 635	20次	9区	SE3616	7H-4E5	10	容器	底板 (蓋板)	曲物	蓋板	2/3欠損	21.7	7.4	0.7	榫目	孔4か所	スギ				
171 636	20次	9区	SE3616	7H-4E4	3	食事具	箸			完形	22.0	0.8	0.5	榫目	屈曲	中世				
171 637	20次	9区	SE3616	7H-4E4	10	施設材・器具材	井戸	井戸側	曲物	上部欠損	22.7	6.3	0.4	榫目		中世	側板のみ。			
171 638	20次	9区	SX2140	7H-1E9	26	工具	杓子形・籠状品			上・下部欠損	15.0	2.3	0.4	板目	上・中央部：平坦	スギ				
171 639	20次	9区	SX2140	7H-1E9	33	服飾具	絵扇			完形か?	16.9	1.7	0.4	榫目	下部：孔1か所	中世				
171 640	20次	9区	SX2140	7H-1E4	29	容器	椀	挽物		大部分欠損				横木取り		中世				
171 641	20次	9区	SX2140	7H-1E4	32	容器	椀	挽物		3/4欠損	11.9	3.4	6.8	横木取り	内外面：黒漆	中世				
171 642	20次	9区	SX2140			容器	盤	挽物		一部欠損	25.8	0.7	25.8	横木取り	内面：黒漆	中世				
171 643	20次	9区	SX2140	7H-1E3・4・8・9	16	容器	盤	刳物		1/3欠損	19.5	13.6	0.6	榫目	縁有り、内外面：線状痕	中世	内面：炭化。歪み有り。			
171 644	20次	9区	SX2140	7H-1E4	6	容器	底板 (蓋板)	曲物	蓋板	一部欠損	14.3	11.4	0.8	榫目	方形の抉り1か所		炭化。			
172 645	20次	9区	SX2140	7H-1E4		容器	底板 (蓋板)	曲物	蓋板	半分欠損	16.5	7.2	1.0	榫目	中央：孔1か所	中世				
172 646	20次	9区	SX2140	7H-1E4	11	容器	底板 (蓋板)	その他・不明	把手	ほぼ完形	15.1	3.0	1.0	板目	孔2か所 (木釘1か所)、裏面：溝1か所	スギ	中世			
172 647	20次	9区	SX2140	7H-1E9	26	容器	底板 (蓋板)	その他・不明	把手	ほぼ完形	16.5	1.5	1.0	榫目	孔2か所 (木釘2か所)	スギ	下部：炭化。			
172 648	20次	9区	SX2140	7H-1E8	33	容器	底板 (蓋板)	その他・不明	把手	完形	19.7	2.8	0.6	榫目	孔4か所、赤漆	中世				
172 649	20次	9区	SX2140	7H-1E4	16	容器	付属品			完形か?	24.4	7.8	1.1	板目	切り込み1か所	スギ				
172 650	20次	9区	SX2140	7H-1E9	26	調理加工具	籠杓子			完形	25.5	6.6	0.5	榫目	線状痕	中世				
172 651	20次	9区	SX2140	7H-1E4	10	調理加工具	鬼卸			ほぼ完形	24.7	6.6	0.8	榫目	卸し面：孔57か所、持ち手：孔1か所	中世				
172 652	20次	9区	SX2140	7H-1E8	33	食事具	箸			上端欠損	18.6	0.8	0.5	榫目		中世				
172 653	20次	9区	SX2140	7H-1E8	26	食事具	箸			完形	21.8	0.7	0.5	榫目		中世				
172 654	20次	9区	SX2140	7H-1E8	29	食事具	箸			完形	20.4	0.6	0.4	榫目		中世				
172 655	20次	9区	SX2140	7H-1E8	33	食事具	箸			完形	21.2	0.6	0.3	榫目		中世				
172 656	20次	9区	SX2140	7H-1E8	33	食事具	箸			完形	21.1	0.6	0.4	榫目		中世				
172 657	20次	9区	SX2140	7H-1E4	21	食事具	折敷	底板		一部欠損	22.0	25.6	0.8	榫目	孔5か所	中世	上端：炭化。			
172 658	20次	9区	SX2140	7H-1E4	26	遊戯具・日用品	羽子板			完形	28.4	7.3	0.8	榫目	上端部：三角形状	中世				
172 659	20次	9区	SX2140	7H-1E9	11	遊戯具・日用品	絵			完形	8.6	2.2	1.9	板目		スギ				
172 660	20次	9区	SX2140	7H-1E4	28	施設材・器具材	板	板	孔有り	完形か?	5.3	1.9	0.4	榫目		中世				
172 661	20次	9区	SX2140	7H-1E9	29	施設材・器具材	板	板	孔有り	半分欠損か?	13.1	2.6	0.5	榫目	孔1か所 (木釘1か所)	スギ				
172 662	20次	9区	SX2140	7H-1E4	26	施設材・器具材	棒		孔段無し	完形か?	30.9	1.8	1.0	榫目		スギ				
172 663	20次	9区	SX2140	7H-1E8	26	土木材	杭			上部欠損	23.6	1.4	0.5	榫目		スギ				
172 664	20次	9区	SX2140	7H-1E4	11	土木材	杭			完形か?	35.7	1.6	0.7	榫目		中世	一部炭化。			
172 665	20次	9区	SX2140	7H-1E9	21	土木材	杭			上部欠損か?	35.6	1.2	1.1	榫目		中世				
173 666	20次	9区	SX3521	7H-3E24	36	施設材・器具材	板		孔有り	半分欠損	26.2	5.1	0.6	榫目		中世				
173 667	20次	9区	SX3521	7H-3E25	37	調理加工具	籠杓子			把手部欠損	9.6	6.6	0.6	榫目	線状痕	中世	欠損部：炭化。			
173 668	19次	9区	SD455	7H-1D1	1	農耕土木具	鎌	直柄鎌	平鎌	半分欠損	28.5	6.3	3.0	板目		スギ	近世 未成品。			
173 669	19次	9区	SD455	7H-1D7	1	農耕土木具	鎌	直柄鎌	平鎌	半分欠損	24.6	7.9	3.1	板目		スギ	近世 未成品。			
173 670	19次	9区	SD455	7H-10C13 7H-10C19	1 16	食事具	折敷	底板		大部分欠損	26.3	4.8	0.7	榫目	孔3か所 (一部木釘)	マツ属複雑管垂束亜属	近世			
173 671	19次	9区	SD534	7H-5D19	1	施設材・器具材	板		孔有り	ほぼ完形	13.1	4.5	0.4	榫目	上部孔1か所	スギ	中世			
173 672	19次	9区	SD744	7H-10D17	1	調理加工具	籠杓子			一部欠損	22.0	5.7	0.3	榫目		スギ	劣化激しい。			
173 673	20次	9区	SD2141	7H-1E9	2	食事具	箸			完形	19.8	0.6	0.4	榫目		古代	炭化			
173 674	20次	9区	P1913	7H-1I6		建築部材	柱	掘立柱建物		上部欠損	48.7	11.0	12.2	丸木取り	下端部：平坦	クリ	古代			
173 675	20次	9区	P3508	7H-3D4		土木材	杭			上部欠損	48.4	4.9	4.0	丸木取り	樹皮残存	マツ属複雑管垂束亜属	中世			
173 676	19次	9区	遺構外	7H-5D14	Ⅲ	祭祀具	形代	鳥型	胴部	完形か?	14.0	2.7	0.5	榫目		スギ				
173 677	19次	9区	遺構外	7H-8D24	Ⅲ	祭祀具	形代	鳥型	胴部	完形か?	10.1	3.7	0.7	榫目		スギ				
173 678	20次	9区	遺構外	7H-4F2	Ⅲ	祭祀具	形代	鳥型	胴部	完形か?	12.3	1.6	1.1	心持ち削り出し						

別表 9 自然遺物観察表

- 凡 例 1. 法 量 欠損部については残存長を示す。  
2. 樹 種 樹種は324は自然科学分析の結果 (第VI章第4節A) から、その他は肉眼観察による。

図版 番号	調査 回数	調査 区	出土位置		層位	器種	遺存状態	法量 (cm)			樹種	備考
			遺構	グリッド				長さ	幅	厚さ		
153 324	21次	8区	SE1068	4G-10H17	7	枝	完形	60.0	1.0	1.0	イヌガヤ	下端部：切断痕。
153 325	21次	8区	SK1570	5G-1H7	8	種実	下部欠損	7.0	7.1	0.6	ひょうたん	
173 680	20次	9区	SX2140	7H-1E4・8・9	33	枝	下部欠損	21.5	0.6	0.4		端部：切断痕か?樹皮残存。
173 681	20次	9区	SX2140	7H-1E9	33	枝	完形か?	23.2	0.4	0.3	ブナ科	端部：切断痕か?樹皮残存。

別表 10 大沢谷内遺跡 骨角製品観察表

図版 番号	調査 回数	調査 区	出土位置		層位	器種	遺存状態	法量 (cm)			備考
			遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ	
153 326	21次	8区	SE1068	4G-10H12	7	筭	完形	13.7	1.5	0.4	
173 679	20次	9区	SE3617	7H-4E5・10	17	栗形	完形	5.6	2.2	2.0	

# 報告書抄録

ふりがな	おおさわやちいせきよん							
書名	大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査							
副書名	— 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査 —							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	相田泰臣・金田拓也・八藤後智人・奈良貴史・澤田純明・(株)火山灰考古学研究所(早田 勉・林 成多)							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	2015年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおさわやち 大沢谷内遺跡	にいがたけん 新潟県新潟市 あきはくよこかわはま 秋葉区横川浜 16番地1号 ほか	15105	342	37° 44′ 19″	139° 04′ 39″	第19次 20110411～ 20111214	5,330	一般国道403号 小須戸田上バイ パス整備工事に 伴う本発掘調査
						第20次 20120411～ 20121018	2,612	
						第21次 20130415～ 20130919	2,130	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大沢谷内遺跡	集落遺跡	縄文時代晩期		縄文土器、石鏃				
		古墳時代		勾玉		ヒスイ製勾玉		
		飛鳥時代		須恵器				
		奈良・平安時代	掘立柱建物・ 井戸・土坑・溝・ 耕作関連遺構	土師器、製塩土器、黒色土器、須恵器、 円面硯、奈良三彩、緑釉陶器、灰釉 陶器、越州窯系青磁、土錐、羽口、石帯、 砥石、銭貨、金属製品(鉄斧)、木製 品(櫓・斎串・丸木舟転用井戸側)、 アスファルト、種実	耕作関連遺構(畑・水田) 円面硯(花卉文様の線刻を 有するものもあり)、奈良 三彩、越州窯系青磁、石帯、 アスファルト・アスファルト ト付着遺物出土			
		鎌倉・室町時代	掘立柱建物・ 井戸・土坑・溝・ 耕作関連遺構・ 道路状遺構	青磁、白磁、珠洲焼、美濃焼、瓷器系 陶器、中世土師器、砥石、金属製品(刀 子・釘・釣針、蓋状鉄製品)、骨角製 品(筭・栗形)、木製品(鍬・櫛・下 駄・刀子鞘・折敷・漆器・曲物・柄杓・ 羽子板)、アスファルト、種実、焼骨	耕作関連遺構(畑・水田) 骨角製の筭・栗形、木製の 鍬・櫛、アスファルト・ア スファルト付着遺物出土			
要約	<p>大沢谷内遺跡は、信濃川と新津丘陵に挟まれた沖積地内の微高地に立地し、標高約2.6～3.3mを測る。8・9区は出土遺物から8世紀後半から10世紀、12世紀から14世紀を主体とする時期と考えられる。</p> <p>古代では、出土例の少ない奈良三彩や越州窯系青磁、円面硯、石帯などの出土から有力な集落であったと判断される。多量のアスファルト塊やアスファルト付着遺物の存在から、石油資源を利用していたことが推測される。井戸側として転用された丸木舟は活発な内水面交通が行われていたことを示す。畑・水田の耕作関連遺構も確認された。</p> <p>中世では、出土例の少ない骨角製の筭・栗形、蓋状鉄製品の出土などから、一定の有力者層の存在が推測される。多量のアスファルト塊やアスファルト付着遺物の存在から、石油資源を利用していたことが推測される。畑・水田の耕作関連遺構も確認された。完形で出土した木製鍬は耕作に関連した祭祀で使用された可能性がある。</p>							

## 大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査

— 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査 —

2015年3月30日印刷  
2015年3月31日発行

編集 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1  
TEL 025(378)0480

発行 新潟市教育委員会  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1  
TEL 025(228)1000

印刷・製本 株式会社博進堂  
〒950-0807 新潟市東区木工新町378番地  
TEL 025(271)2600